cisco.



Cisco APIC レイヤ3ネットワーク設定ガイド、リリース 5.2(x)

初版:2021年6月7日 最終更新:2023年2月28日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー http://www.cisco.com/jp お問い合わせ先:シスココンタクトセンター 0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む) 電話受付時間:平日 10:00~12:00、13:00~17:00 http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/ © 2021–2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



Trademarks

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS REFERENCED IN THIS DOCUMENTATION ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. EXCEPT AS MAY OTHERWISE BE AGREED BY CISCO IN WRITING, ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS DOCUMENTATION ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED.

The Cisco End User License Agreement and any supplemental license terms govern your use of any Cisco software, including this product documentation, and are located at:

http://www.cisco.com/go/softwareterms.Cisco product warranty information is available at http://www.cisco.com/go/warranty. US Federal Communications Commission Notices are found here http://www.cisco.com/c/en/us/products/us-fcc-notice.html.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any products and features described herein as in development or available at a future date remain in varying stages of development and will be offered on a when-and if-available basis. Any such product or feature roadmaps are subject to change at the sole discretion of Cisco and Cisco will have no liability for delay in the delivery or failure to deliver any products or feature roadmap items that may be set forth in this document.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For the purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on RFP documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com go trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

Cisco APIC レイヤ3ネットワーク設定ガイド、リリース5.2(x)



はじめに:	Trademarks iii
第 1 章	新機能と更新情報 1
	新機能と更新情報 1
第 部:	レイヤ3の設定 5
第 2 章	Cisco ACI 転送 7
	ファブリック内での転送 7
	ACI ファブリックは現代のデータ センター トラフィック フローを最適化する 7
	ACI で VXLAN 8
	サブネット間のテナント トラフィックの転送を促進するレイヤ 3 VNID 10
第3章	ーー レイヤ 3 ネットワーク設定の前提条件 13
	レイヤ3前提条件 13
	ブリッジ ドメインの設定 14
第 4 章	 共通パーベイシブ ゲートウェイ 15
	概要 15
	GUIを使用した共通パーベイシブゲートウェイの設定 16
第5章	 IP エージング 19
	概要 19
	GUI を使用した IP エージングポリシーの設定 19

第6章 スタティック ルート ブリッジ ドメイン 21
 スタティック ルート ブリッジ ドメインについて 21
 GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する 22

- 第7章 データプレーン IP アドレス学習 23
 データプレーン IP アドレス ラーニングの概要 23
 データプレーン IP アドレス ラーニングのガイドラインと制限事項 24
 無効にするデータプレーン IP アドレス ラーニングの機能相互作用 25
 GUI を使用した VRF インスタンスごとのデータプレーン IP アドレス ラーニングの設定 26
 GUI を使用したエンドポイントごとのデータ プレーン IP アドレス ラーニングの設定 27
 GUI を使用したサブネットごとのデータ プレーン IP アドレス ラーニングの設定 28
- 第8章 IPv6 ネイバー探索 31

ネイバー探索 31

- ブリッジ ドメインでの IPv6 ネイバー探索の設定 32
- GUIを使用して、ブリッジドメイン上に IPv6 ネイバー探索対応のテナント、VRF、およ びブリッジドメインを作成する 32
- レイヤ3インターフェイス上での IPv6 ネイバー探索の設定 34
 - 注意事項と制約事項 34
 - GUIを使用して、レイヤ3インターフェイス上のRAのIPv6ネイバー探索インターフェ イスポリシーの設定 35
- IPv6 ネイバー探索重複アドレス検出の設定 36
 - ネイバー探索重複アドレス検出について 36
 - GUIを使用したネイバー探索重複アドレス検出の設定 36

第9章 Microsoft NLB 39

Microsoft NLB について 39 ユニキャスト モードについて 40 マルチキャスト モードについて 42 IGMP モードについて 42 Cisco ACI Microsoft NLB サーバの設定 43
Microsoft Network Load Balancing の注意事項と制限事項 47
GUI を使用したユニキャスト モードでの Microsoft NLB の設定 48
GUI を使用したマルチキャスト モードでの Microsoft NLB の設定 49
GUI を使用した IGMP モードでの Microsoft NLB の設定 50

第 10 章 IGMP スヌーピング 53

Cisco APIC および IGMP スヌーピングについて 53 ACI ファブリックに IGMP スヌーピングを実装するには 53 仮想化のサポート 55 APIC IGMP スヌーピング機能、IGMPv1、IGMPv2、および高速リーブ機能 55 APIC IGMP スヌーピング ファンクション キーと IGMPv3 55 Cisco APIC および IGMP スヌーピング クエリア関数 56 APIC IGMP スヌーピング機能の注意事項と制約事項 57 IGMP スヌーピング ポリシーの設定と割り当て 57 拡張 GUI のブリッジ ドメインへの IGMP スヌーピング ポリシーの設定と割り当て 57 GUI を使用した IGMP スヌーピング ポリシーの設定 57 GUI を使用した IGMP スヌーピング ポリシーのブリッジ ドメインへの割り当て 59 IGMP スヌーピングの静的ポート グループの有効化 59 静的ポート グループの IGMP スヌーピングを有効にする 59 前提条件:静的ポートに EPG を導入する 60 GUI を使用した、スタティックポートでの IGMP スヌーピングとマルチキャストの有効 化 60 IGMP スヌープ アクセス グループの有効化 61 IGMP スヌープ アクセス グループの有効化 61 GUIを使用して、IGMPスヌーピングとマルチキャストへのグループアクセスを有効にす **5** 62

第 11 章 MLD スヌーピング 65

 Cisco APIC および MLD スヌーピングについて 65

 注意事項と制約事項 67

GUI を使用した MLD スヌーピング ポリシーの設定とブリッジ ドメインへの割り当て 67 GUI を使用した MLD スヌーピング ポリシーの設定 67 GUI を使用した MLD スヌーピング ポリシーのブリッジ ドメインへの割り当て 69

第 12 章 IP Multicast: IP マルチキャスト 71

レイヤ3マルチキャスト 72

リモートリーフスイッチでのレイヤ3マルチキャストのサポート 73

ファブリックインターフェイスについて 75

IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティングの有効化 76

VRF GIPo の割り当て 76

指定フォワーダーとしての複数のボーダー リーフスイッチ 77

PIM/PIM6 指定ルータの選定 78

非境界リーフスイッチの動作 79

アクティブな境界リーフ スイッチ リスト 79

ブート時のオーバーロード動作 79

ファーストホップ機能 80

ラストホップ 80

高速コンバージェンス モード 80

ランデブー ポイントについて 81

Inter-VRF マルチキャストについて 82

Inter-VRF マルチキャストの要件 83

ACIマルチキャスト機能のリスト 83

レイヤ 3 IPv4/IPv6 マルチキャストの設定のガイドライン、制約事項、および予想される動作 91

GUIを使用したレイヤ3IPv4マルチキャストの設定 94

GUIを使用したレイヤ3IPv6マルチキャストの設定 97

BGP IPv4/IPv6 マルチキャストアドレスファミリについて 98

BGP IPv4/IPv6 マルチキャスト アドレス ファミリのガイドラインと制約事項 99

GUI を使用した BGP IPv4/IPv6 マルチキャストの設定 100

マルチキャストフィルタリングについて 103

マルチキャストフィルタリングのガイドラインと制約事項 105

GUI を使用したマルチキャスト フィルタリングの設定 107 SVI L3Out のレイヤ 3 マルチキャストについて 111 GUI を使用した SVI L3Out 上のレイヤ 3 マルチキャストの設定 116 PIM インターフェイスが作成されなかった理由の判別 118

- PIM インターフェイスが L3Out インターフェイス用に作成されていない 118
- PIM インターフェイスがマルチキャスト トンネル インターフェイス用に作成されていな い 118

第 13 章 マルチポッド 121

- マルチポッドについて 121
- マルチポッドのプロビジョニング 122
- Cisco ACI マルチポッドファブリックの設定に関するガイドライン 124
- マルチポッドファブリックの設定 127
 - IPN 接続のためのポッドの準備 127
 - マルチポッドファブリックを作成するポッドの追加 130
- Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでのマルチポッド IPN 設定の例 132
- APICを1つのポッドから別のポッドに移動する 134
- OSPF IPN アンダーレイから BGP IPN アンダーレイへの移行 135

マルチポッドスパインバックツーバックについて 137

第 14 章 リモート リーフ スイッチ 139

ACI ファブリックのリモート リーフ スイッチについて 139

リモート リーフ バックツーバック接続について 146

- リモートリーフスイッチのハードウェアの要件 148
- リモートリーフスイッチの制約事項と制限事項 149
- WAN ルータとリモート リーフ スイッチ設定の注意事項 152
- GUIを使用してリモート リーフ スイッチのポッドとファブリック メンバーシップを設定す る 155
 - ウィザードを使用してリモート リーフ スイッチのポッドとファブリック メンバーシップ を設定する 155

PIM インターフェイスがマルチキャスト対応ブリッジ ドメインに作成されない 119

- GUIを使用してリモート リーフ スイッチのポッドとファブリック メンバーシップを設定 する (ウィザードは使用しない) 163
- ダイレクトトラフィックフォワーディングについて 166
- リモート リーフ スイッチのアップグレードおよび直接トラフィック転送の有効化 168 直接トラフィック転送を無効化、およびリモート リーフ スイッチのダウングレード 172 リモート リーフ スイッチのフェールオーバー 173
- リモートリーフフェールオーバーの要件 174
- リモートリーフスイッチフェールオーバーの有効化 175
- リモートのリーフスイッチのダウングレードする前に必要な前提条件 176

第 15 章 SR-MPLS ハンドオフ 177

ACI ハンドオフについて 177

リリース 5.0(1) 以前の ACI ハンドオフ: IP ハンドオフ 177

- リリース 5.0(1) での ACI ハンドオフ: SR ハンドオフ 178
- SR-MPLS ハンドオフの ACI 実装について 183

SR-MPLS インフラ L3Out 183

SR-MPLS VRF L3Out 188

SR-MPLS カスタム QoS ポリシー 190

SR-MPLS 設定モデルについて 192

注意事項と制約事項 197

GUI を使用した SR-MPLS インフラ L3Out の設定 204

GUI を使用した SR-MPLS VRF L3Out の設定 213

GUI を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシーの作成 216

MPLS 統計情報の表示 219

インターフェイスの SR-MPLS 統計情報の表示 220

VRS 向け SR-MPLS 統計情報の表示 221

SR-MPLS グローバル ブロック (GB) の設定 222

IP ハンドオフ設定から SR ハンドオフ設定への移行 225

SR-MPLS VRF L3Out での外部 EPG の設定 226

SR-MPLS L3Out へのトラフィックのリダイレクト 227

IP ベースの L3Out の切断 232

ループ防止のための BGP ドメインパス機能について 233

GUI を使用したループ防止のための BGP ドメイン パス機能の設定 239

第 II 部: 外部ルーティング (L3Out) の設定 243

第 16 章
 WAN およびその他の外部ネットワーク フォワーディング 245
 ネットワーク ドメイン 245
 ルータ ピアリングおよびルート配布 246
 ルートのインポートとエクスポート、ルート集約、ルート コミュニティの一致 247
 ACI のルート再配布 252
 ACI ファブリック内のルート配布 252
 外部レイヤ 3 Outside 接続タイプ 253
 レイヤ 3 外部接続の設定のモードについて 256
 L3Out ネットワーク インスタンス プロファイルで設定されているサブネットで有効な制御 257
 ACI レイヤ 3 Outside ネットワークのワークフロー 259

第 17 章 外部ネットワークへのルーテッド接続 261

外部ネットワークへルートされた接続について 261
外部ネットワークへのルーテッド接続のためのレイヤ 3 Out 261
L3Out ウィザードの作成 263
L3Out の設定例 263
トポロジの例 264
前提条件 266
Create L3Out Wizard を使用した L3Out の作成例 271
ルートマップによる BD サブネットのアドバタイズの設定 272
コントラクトの確認 275
OSPF インターフェイス レベル パラメータの変更(任意) 276
アドバタイズ ホスト ルート 277
ルートリフレクタの設定 280

GUIを使用した MP-BGP ルート リフレクタの設定 280

MP-BGP ルートリフレクタ設定の確認 281

第 18 章 L3Outのノードとインターフェイス 283

L3Outのインターフェイスの変更 283

GUIを使用した L3Out のインターフェイスの変更 283

L3OutのSVIのカスタマイズ 285

SVI 外部カプセル化の範囲 285

SVI 外部カプセル化の範囲について 285

カプセル化スコープ構文 287

SVI外部カプセル化の範囲のガイドライン 288

GUIを使用して SVI 外部カプセル化の範囲の設定 288

SVI での複数の L3Out のカプセル化のサポート 289

複数の SVI を異なるアクセスのカプセル化でグループ化する 290

注意事項と制約事項 292

GUI を使用して SVI で複数の L3Out のカプセル化を設定する 293

CLIを使用して SVI で複数の L3Out のカプセル化を設定する 294

REST API を使用した複数の SVI 付き L3Out のカプセル化の設定 294

SVI 自動状態 295

SVI 自動状態について 295

SVI 自動状態の動作のガイドラインと制限事項 296

GUIを使用した SVI 自動状態の設定 296

Cisco フローティング L3Out について 297

第 19 章 ルーティング プロトコルのサポート 299

ルーティングプロトコルのサポートについて 299 BGP 外部ルーテッドネットワークと BFD のサポート 299 BGP レイヤ3 外部ネットワーク接続設定のガイドライン 299 BGP の接続タイプとループバックのガイドライン 302 外部 BGP スピーカーに対する BGP プロトコル ピアリング 302 BGP 外部ルーテッドネットワークの設定 304

目次

GUI を使用した BGP L3Out の設定 304

BGP Max Path の設定 312

GUI を使用した BGP Max Path の設定 312

AS パス プリペンドの設定 313

AS パス プリペンドの設定 313

設定の AS パス Prepend GUI を使用して 314

AS オーバーライドの BGP 外部ルーテッド ネットワーク 315

BGP 自律システムのオーバーライドについて 315

GUI を使用して、BGP 外部ルーテッド ネットワークと有効になっている自律システム オーバーライドを設定する 316

BGP ネイバー シャットダウンおよびソフト リセット 317

BGP ネイバーシャットダウンとソフト リセットについて 317

GUI を使用した BGP ネイバー シャットダウンの設定 318

GUIを使用した BGP ネイバー ソフト リセットの設定 319

VRFごと、ノード BGP ごとのタイマーの値の設定 321

ノード BGP タイマー値ごとの各 VRF 321

設定の高度な GUI を使用して BGP タイマーのノードごとの VRF あたり 321

不整合や障害のトラブルシューティング 323

BFD サポートの設定 323

双方向フォワーディング検出 323

サブインターフェイスの BFD の最適化 325

GUIを使用したセカンダリ IP アドレスでの双方向フォワーディング検出の構成 326

GUIを使用してリーフスイッチのBFDをグローバルに設定する 327

GUI を使用してスパイン スイッチで BFD のグローバル設定 328

GUIを使用した BFD インターフェイスのオーバーライドの設定 330

GUIを使用して BFD コンシューマ プロトコルを設定する 333

BFD マルチホップ 335

BFD マルチホップポリシーの設定 335

マイクロBFD 338

ポート チャネルでの マイクロBFD の設定 339 OSPF 外部ルーテッド ネットワーク 341 OSPF レイヤ 3 Outside 接続 341 GUI を使用した管理テナントの OSPF L3Out の作成 342 EIGRP 外部ルーテッド ネットワーク 344 EIGRP レイヤ 3 Outside 接続について 345 EIGRP プロトコルのサポート 345 ガイドラインと EIGRP を設定するときの制限事項 347 GUI を使用したEIGRPの設定 348

第 20 章 ルート集約 351

はじめに 351

L3Out 外部 EPG レベルでのルート集約 352

VRF レベルでのルートフィルタリングと集約 352

BGP ルート集約ポリシー 352

VRF 内インポート ルート制御ポリシー 353

VRF エクスポート ルート制御ポリシー 354

注意事項と制約事項 355

GUI を使用した L3out 外部 EPG レベルでのルート要約の設定 355

BGP ピアごとのルート制御に関するガイドラインと制約事項 363

ルート マップ/プロファイルの明示的なプレフィックス リストのサポートについて 369

GUI を使用した BGP ピアごとのルート制御の設定 365

明示的なプレフィクス リストでルート マップ/プロファイル 368

GUIを使用した VRF でのルート制御ポリシーの構成 358

第 21 章

ルート マップおよびルート プロファイルによるルート制御 361

ルートマップ/プロファイルについて 368

明示プレフィックスリストの集約サポート 374

ルート制御プロファイルポリシー 361

BGP ピアごとのルート制御について 363

注意事項と制約事項 378

一致ルール 370ルールの設定 374

GUIを使用した、明示的なプレフィックスリストでルートマップ/プロファイルの設定 378

ルート制御プロトコル 381

- インポート制御とエクスポート制御を使用するルーティング制御プロトコルの設定につい て 381
- GUIを使用した、インポート制御とエクスポート制御を使用するルート制御プロトコルの 設定 381
- MP-BGP のインターリーク再配布 384
 - MP-BGP のインターリーク再配布の概要 384
 - GUIを使用したインターリーク再配布のルートマップの設定 385
 - GUIを使用したインターリーク再配布のルートマップの適用 386
- 第 22 章 ルーティングとサブネット範囲 387
 - L3Out EPG スコープと制御パラメータ 387
 - サブネットの範囲と集約コントロール 387
 - セキュリティインポートポリシー 388
 - 静的 L3Out EPG 388
 - ダイナミック L3Out EPG 分類 389
 - DEC の注意事項と制限事項 390
 - GUI を使用したダイナミック L3Out EPG 分類の設定 390
- 第 23 章
 - トランジット ルーティング 395

中継 ACI ファブリックのルーティング 395 トランジット ルーティングの使用例 396 サポートされるトランジットの組み合わせのマトリックス 402 トランジット ルーティングの注意事項 404 中継ルーティングのガイドライン 404 トランジット ルート制御 410 サブネットの範囲と集約コントロール 412 トランジットルーティングの設定 413 トランジット ルーティングの概要 413 GUIを使用した中継ルーティングの設定 415

第 24 章 共有サービス 423
 共有レイヤ 3 Out 423
 レイヤ 3 アウトからレイヤ 3 アウト内部 VRF への漏洩 427
 拡張 GUI を使用した共有レイヤ 3 Out VRF 間リーキングの設定 428

第 25 章 L3Out の QoS 433

L3Out QoS 433

L3Out QoS ガイドラインと制約事項 433 GUI を使用して L3Out に QoS ディレクトリを設定する 435 GUI を使用した L3Outs の QoS コントラクトの設定 435

第 26 章 IP SLAs 437

- ACI IP SLA について 437
 - IP SLA モニタリングポリシー 442
 - TCP 接続動作 443
 - ICMP エコー動作 443
 - IP SLA トラック メンバー 444
 - IP SLA トラック リスト 444
 - IP SLA 設定コンポーネントの関連付けの例 445
- IP SLA のガイドラインと制約事項 447
- スタティックルートのACI IP SLAの設定および関連付け 449
 - GUIを使用した IP SLA モニタリングポリシーの設定 449
 - GUIを使用した IP SLA トラックメンバーの設定 451
 - GUI を使用した IP SLA トラック リストの設定 452
 - GUI を使用したスタティック ルートとトラック リストの関連付け 452
- GUI を使用した、トラック リストとネクスト ホップ プロファイルの関連付け 453
- ACI IP SLA モニタリング情報の確認 454
 - GUI を使用した IP SLA プローブ統計情報の確認 455

第 27 章 🛛 🖁 🖁

HSRP 457

目次

HSRP について 457 Cisco APIC と HSRP について 458 HSRP のバージョン 459 注意事項と制約事項 460 デフォルトの HSRP 設定 461 GUI を使用した HSRP の設定 462

第 28 章 Cisco ACI GOLF 465

Cisco ACI GOLF 465

Cisco ACI GOLF 465

Multi-Site サイト間の共有 GOLF 接続を使用する 469

複数のサイトで共有 APIC ゴルフ接続 469

GUI を使用した ACI GOLF の設定 470

DCIG への BGP EVPN タイプ2ホストルートの分散化 472
DCIG への BGP EVPN タイプ2のホストルートの配信 472
GUI を使用して DCIG への BGP EVPN タイプ2のホストルートを分散する 473
EVPN タイプ2ルートアドバタイズメントのトラブルシューティング 474
EVPN タイプ2ルートアドバタイズメントのトラブルシューティング 474
DCIG への EVPN タイプ2ルート配布のトラブルシューティング 474

付録 A: レイヤ3ネットワーキングの注意事項 477

レイヤ3ネットワーキングの注意事項 477

付録 B: NX-OS スタイル CLI を使用したタスクの実行 481

Part I: レイヤ3の設定 481

- NX-OS スタイルの CLI を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定 481
 NX-OS スタイルの CLI を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定 481
 NX-OS Style CLI を使用した IP エージングの設定 482
 NX-OS スタイル CLI を使用した IP エージング ポリシーの設定 482
- NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジドメイン上のスタティック ルートの設定 482
 NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジドメイン上のスタティック ルートの設定 482
 NX-OS Style CLI を使用した VRF ごとのデータプレーン IP ラーニングの設定 484

目次

NX-OS-Style CLI を使用したデータプレーン IP ラーニングの設定 484

NX-OS Style CLI を使用した IPv6 ネイバー探索の設定 484

- NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジドメイン上の IPv6 ネイバー検索によるテナント、VRF、ブリッジドメインの設定 484
- NX-OS スタイル CLIを使用したレイヤ3インターフェイス上の RA による IPv6 ネイバー 探索インターフェイス ポリシーの設定 485
- NX-OS Style CLI を使用した Microsoft NLB の設定 488
 - NX-OS Style CLI を使用したユニキャストモードでのMicrosoft NLBの設定 488

NX-OS Style CLI を使用したマルチキャストモードでのMicrosoft NLB の設定 489

- NX-OS Style CLI を使用した IGMP モードでの Microsoft NLB の設定 490
- NX-OS Style CLI を使用した IGMP スヌーピングの設定 491
 - NX-OS スタイル CLI を使用した IGMP スヌーピング ポリシーの設定とブリッジ ドメイ ンへの割り当て 491
 - NX-OS スタイル CLI によりスタティック ポートで IGMP スヌーピングおよびマルチキャ ストの有効化 494
 - NX-OS スタイル CLI を使用した IGMP スヌーピングおよびマルチ キャスト グループへのアクセスの有効化 496
- NX-OS Style CLI を使用した MLD スヌーピングの設定 498
 - NX-OS Style CLI を使用したブリッジ ドメインに対する MLD スヌーピング ポリシーの 設定と割り当て 498
- NX-OS Style CLI を使用した IP マルチキャストの設定 501
 - NX-OS スタイルの CLI を使用したレイヤ3マルチキャストの設定 501
 - NX-OS Style CLI を使用したレイヤ 3 IPv6 の設定 503
 - NX-OS スタイルの CLI を使用したマルチキャスト フィルタリングの構成 504
- NX-OS Style CLI を使用したマルチポッドの設定 506
 - NX-OS CLI を使用したマルチポッドファブリックのセットアップ 506
- NX-OS Style CLI を使用したリモート リーフ スイッチの設定 509
- NX-OS スタイル CLI を使用したリモート リーフ スイッチの設定 509
- パートII:外部ルーティング(L3Out)の設定 512

外部ネットワークへのルーテッド接続 512

- NX-OS Style CLI を使用した MP-BGP ルート リフレクタの設定 512
- L3Outのノードとインターフェイス 513

NX-OS Style CLI を使用したレイヤ 3 ルーテッド ポート チャネルとサブインターフェイ スポート チャネルの設定 513

NX-OS Style CLI を使用したスイッチ仮想インターフェイスの設定 519

NX-OS Style CLI を使用したルーティング プロトコルの設定 521

NX-OS Style CLI を使用した BFD サポート付き BGP 外部ルーテッド ネットワークの設定 521

NX-OS Style CLI を使用した OSPF 外部ルーテッド ネットワークの設定 531

NX-OS Style CLI を使用した EIGRP 外部ルーテッド ネットワークの設定 534

NX-OS スタイル CLI を使用したルート集約の設定 538

NX-OS スタイル CLI を使用した BGP、OSPF、および EIGRP のルート集約の設定 538 NX-OS スタイルの CLI を使用したルート マップとルート プロファイルによるルート制御 の構成 539

NX-OS Style CLI を使用した BGP ピアごとのルート制御の設定 539

NX-OS スタイル CLIを使用して、明示的なプレフィックスリストでルートマップ/プロファイルの設定 540

NX-OSスタイルのCLIを使用した、インポート制御とエクスポート制御を使用するルート制御プロトコルの設定 544

NX-OS Style CLI を使用したインターリーク再配布の設定 545

NX-OS スタイル CLI を使用したトランジット ルーティングの設定 546

NX-OS スタイル CLI を使用したトランジット ルーティングの設定 546

例:中継ルーティング 550

NX-OS Style CLI を使用した共有サービスの設定 552

NX-OS スタイル CLI を使用して共有 レイヤ 3 VRF 内リークを設定する - 名前が付け られた例 552

NX-OS Style CLI を使用した共有レイヤ 3 VRF 間リークの設定:名前を付けた例 554 NX-OS スタイルの CLI を使用した L3Out の QoS の設定 556

CLIを使用した L3Out での QoS の直接設定 556

CLI を使用した L3Out の QoS コントラクトの設定 556

NX-OS Style CLI を使用した ACI IP SLA の設定 558

NX-OS Style CLI を使用した IP SLA モニタリング ポリシーの設定 558

NX-OS Style CLI を使用した IP-SLA トラック メンバーの設定 559

NX-OS Style CLI を使用した IP-SLA トラック リストの設定 560

NX-OS Style CLI を使用したスタティック ルートとトラック リストの関連付け 561
 NX-OS Style CLI を使用したトラック リストとネクスト ホップ プロファイルの関連付け 562

CLIを使用したトラックリストおよびトラックメンバーステータスの表示 563 CLIを使用したトラックリストとトラックメンバーの詳細の表示 564

- NX-OS Style CLI を使用した HSRP の設定 566
 - NX-OS スタイル CLI での Cisco APIC を使用してインライン パラメータで HSRP の設定 566
 - NX-OS スタイル CLI のテンプレートとポリシーを使用した Cisco APIC の HSRP の設定 567
- NX-OS Style CLI を使用した Cisco ACI GOLF の設定 568
 - NX-OS スタイル CLI を使用した推奨される共有 GOLF 設定 568
 - NX-OS スタイル CLI を使用した Cisco ACI GOLF 設定の例: 570
 - NX-OS スタイル CLI を使用して DCIG への配布の BGP EVPN タイプ 2 のホスト ルート の有効化 572

付録 C:

REST API を使用したタスクを実行する 573

- Part I: レイヤ3の設定 573
 - REST API を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定 573
 - REST API を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定 573
 - REST API を使用した IP エージングの設定 574
 - REST API を使用した IP エージングの設定 574
 - REST API を使用したブリッジ ドメインのスタティック ルートの設定 575
 - REST API を使用してブリッジドメインでのスタティックルートの設定 575
 - REST API を使用した IPv6 ネイバー 探索の設定 575
 - REST APIを使用したブリッジドメインのIPv6ネイバー探索対応のテナント、VRF、お よびブリッジドメインの作成 575
 - **REST API**を使用したレイヤ3インターフェイス上の RA による IPv6 ネイバー探索イン ターフェイス ポリシーの設定 576
 - REST APIを使用したネイバー探索重複アドレス検出の設定 577
 - REST API を使用した Microsoft NLB の設定 578
 - REST API を使用したユニキャスト モードでの Microsoft NLB の設定 578

REST API を使用した IGMP モードでの Microsoft NLB の設定 580

REST API を使用した IGMP スヌーピングの設定 580

- REST API を使用したブリッジドメインへの IGMP スヌーピング ポリシーの設定と割り 当て 580
- REST API を使用した静的ポートでの IGMP スヌーピングとマルチキャストの有効化 581
 IGMP スヌーピングを REST API を使用するマルチ キャスト グループのアクセスを有効化 582
- REST API を使用した MLD スヌーピングの設定 582

- REST API を使用した IP マルチキャストの設定 583
 - REST API を使用したレイヤ3マルチキャストの設定 583
 - REST API を使用したレイヤ 3 IPv6 マルチキャストの設定 586
 - REST API を使用したマルチキャストフィルタリングの設定 587
- REST API を使用したマルチポッドの設定 589
 - REST API を使用したマルチポッドファブリックのセットアップ 589
- REST API を使用したリモート リーフ スイッチの設定 591
 - REST API を使用したリモート リーフ スイッチの設定 591
- REST API を使用した SR-MPLS ハンドオフの設定 594
 - REST API を使用した SR-MPLS インフラ L3Out の設定 594
 - REST API を使用した SR-MPLS VRF L3Out の設定 597
 - REST API を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシー 598
- パートII:外部ルーティング(L3Out)の設定 600
 - 外部ネットワークへのルーテッド接続 600
 - REST API を使用した MP-BGP ルート リフレクタの設定 600
 - REST API を使用したループ防止のための BGP ドメイン パス機能の設定 601
 - L3Outのノードとインターフェイス 601
 - REST APIを使用したレイヤ3ルーテッドポートチャネルとサブインターフェイスポートチャネルの設定 601
 - REST API を使用したスイッチ仮想インターフェイスの設定 604
 - REST API を使用したルーティングプロトコルの設定 606

REST API を使用した MLD スヌーピング ポリシーの設定とブリッジ ドメインへの割り 当て 582

REST API を使用した BFD サポート付き BGP 外部ルーテッド ネットワークの設定 606 **REST API** を使用した OSPF 外部ルーテッド ネットワークの設定 618

REST API を使用した EIGRP 外部ルーテッド ネットワークの設定 619

REST API を使用したルート集約の設定 622

BGP、OSPF、および REST API を使用して EIGRP のルート集約の設定 622

REST API を使用したルート マップおよびルート プロファイルによるルート制御の設定 624

REST API を使用した BGP ピアごとのルート制御の設定 624

REST API を使用して、明示的なプレフィックス リストでルート マップ/プロファイル の設定 625

REST API を使用した、インポート制御とエクスポート制御によるルーティング制御プ ロトコルの設定 626

REST API を使用したインターリーク再配布の設定 627

REST API を使用したトランジット ルーティングの設定 628

REST API を使用したトランジット ルーティングの設定 628

REST API の例: 中継ルーティング 632

共有 L3Out 634

REST API を使用した共有サービスの設定 634

共有設定の2つのレイヤ REST API を使用して2つの Vrf に3 が記録されます。 634

REST API を使用した L3Out の QoS の設定 635

REST API を使用した L3Out での QoS ディレクトリの設定 635

REST API を使用した L3Out の QoS コントラクトの設定 636

REST API を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシー 637

REST API を使用した ACI IP SLA の設定 638

REST API を使用した IP SLA モニタリング ポリシーの設定 638

REST API を使用した IP-SLA トラック メンバーの設定 639

REST API を使用した IP-SLA トラック リストの設定 639

REST API を使用したスタティック ルートとトラック リストの関連付け 640

REST API を使用して ネクスト ホップ プロファイルのトラック リストに関連付けをす る 640

REST API を使用した HSRP の設定 641

REST API を使用した APIC 内の HSRP の設定 641

REST API を使用した Cisco ACI GOLF の設定 643

REST API を使用した GOLF の設定 643

REST API を使用した DCIG への BGP EVPN タイプ2ホストルート配信の有効化 649

I



新機能と更新情報

この章は、次の内容で構成されています。

•新機能と更新情報 (1ページ)

新機能と更新情報

次の表は、現行リリースに至るまでにガイドの編成と特徴に加えられた主な変更点の概要を示 しています。ただし、今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載され ていません。

表 1: Cisco APIC リリース 5.2(4)の新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
ダイナミック L3Out EPG 分類	ダイナミック L3Out EPG 分類 (DEC) 機能が導入され、 ルーティングの変更に伴う pcTagのダイナミックな変更が 可能になりました。	外部ネットワークへのルー テッド接続 (261 ページ)
ルートのフィルタリングと集 約	Cisco APIC はファブリックで アドバタイズされるルートを 要約またはフィルタリングし て、ファブリックのスケール 要件を軽減するオプションを 提供します。	ルート集約 (351ページ)
セカンダリ IP アドレスでの双 方向転送検出のサポート	セカンダリ IP アドレスで双方 向転送検出(BFD)を構成で きるようになりました。	GUI を使用したセカンダリ IP アドレスでの双方向フォワー ディング検出の構成(326ペー ジ)

I

表 2 : Cisco APIC リリース	5.2(3)の新機能と動作変更
-----------------------	-----------------

機能または変更	説明	参照先
SVIL3Out でのレイヤ3マルチ キャストのサポート	SVI L3Out のレイヤ 3 マルチ キャストがサポートされま す。	SVI L3Out のレイヤ 3 マルチ キャストについて (111 ペー ジ)
さまざまな外部 VLAN カプセ ル化の使用のサポート。さま ざまな外部カプセル化インス タンスのすべてが単一のレイ ヤ2ドメインの一部として扱 われます。	さまざまな外部 VLAN カプセ ル化の使用のサポート。さま ざまな外部カプセル化インス タンスのすべてが単一のレイ ヤ2ドメインの一部として扱 われます。	SVI での複数の L3Out のカプ セル化のサポート (289 ペー ジ)
マルチポッドおよびリモート リーフの BGP アンダーレイ	BGP は、IPN アンダーレイの OSPFの代替として使用できま す。	マルチポッドについて (121 ページ) ACI ファブリックのリモート リーフスイッチについて (139 ページ)
マルチポッドスパインバック ツーバック	場合によっては、IPN デバイ スを使用せずに 2 つのポッド を直接(「バックツーバッ ク」)相互接続できます。	マルチポッドスパインバック ツーバックについて(137ペー ジ)
マイクロBFD	マイクロBFD ポート チャネル の各メンバー リンクで個別の BFD セッションを確立し、障 害検出を高速化し、トラブル シューティングを容易にしま す。	マイクロBFD (338 ページ)

表 3: Cisco APIC リリース 5.2(1)の新機能と動作変更

機能または変更	説明	参照先
リモート リーフのバックツー バック接続	ファブリック リンクによって リモートリーフスイッチペア を相互に直接接続し(「バッ クツーバック」)、ローカル の東西トラフィックを伝送し ます。	リモート リーフ バックツー バック接続について(146ペー ジ)

機能または変更	説明	参照先
Site-of-Origin (SoO)	SoO は、ルーティング ループ を防ぐためにルートを学習す るサイトを一意に識別する BGP 拡張コミュニティ属性で す。	GUI を使用した BGP L3Out の 設定 (304 ページ)
特定のエンドポイントまたは サブネットのデータプレーン IP アドレス学習の無効化	より詳細な制御を行うため に、特定のエンドポイントま たはサブネットのデータプ レーン IP アドレス学習を無効 にできるようになりました。	データプレーン IP アドレス ラーニングの概要 (23 ペー ジ)

I



第 部

レイヤ3の設定

- Cisco ACI 転送 (7 ページ)
- ・レイヤ3ネットワーク設定の前提条件(13ページ)
- ・共通パーベイシブゲートウェイ (15ページ)
- IP エージング (19 ページ)
- •スタティックルートブリッジドメイン (21ページ)
- データプレーン IP アドレス学習 (23 ページ)
- IPv6 ネイバー探索 (31 ページ)
- Microsoft NLB $(39 \sim \checkmark)$
- IGMP スヌーピング (53 ページ)
- MLD スヌーピング (65 ページ)
- IP Multicast : IP マルチキャスト (71 ページ)
- •マルチポッド (121ページ)
- ・リモートリーフスイッチ (139ページ)
- SR-MPLS ハンドオフ (177 ページ)



Cisco ACI 転送

•ファブリック内での転送(7ページ)

ファブリック内での転送

ACI ファブリックは現代のデータ センター トラフィック フローを最適 化する

Cisco ACIアーキテクチャは、従来のデータセンター設計から来る制限を解放して、最新のデー タセンターで増大する East-West トラフィックの需要に対応します。

今日のアプリケーション設計は、データセンターのアクセスレイヤを通る、サーバ間のEast-West トラフィックを増大させています。このシフトを促進しているアプリケーションには、Hadoop のようなビッグデータの分散処理の設計、VMware vMotion のようなライブの仮想マシンまた はワークロードの移行、サーバのクラスタリング、および多層アプリケーションなどが含まれ ます。

North-South トラフィックは、コア、集約、およびアクセス レイヤ、またはコラプスト コアと アクセスレイヤが重要となる、従来型のデータセンター設計を推進します。クライアントデー タはWAN またはインターネットで受信され、サーバの処理を受けた後、データセンターを出 ます。このような方式のため、WAN またはインターネットの帯域幅の制限により、デーセン ターのハードウェアは過剰設備になりがちです。ただし、スパニング ツリー プロトコルが、 ループをブロックするために要求されます。これは、ブロックされたリンクにより利用可能な 帯域幅を制限し、トラフィックが準最適なパスを通るように強制する可能性があります。

従来のデータセンター設計においては、、IEEE 802.1Q VLAN がレイヤ2境界の論理セグメン テーションまたはまたはブロードキャスト ドメインを提供します。ただし、ネットワーク リ ンクの VLAN の使用は効率的ではありません。データセンター ネットワークでデバイスの配 置要件は柔軟性に欠け、VLAN の最大値である 4094 の VLAN が制限となり得ます。IT 部門と クラウドプロバイダが大規模なマルチテナントデータセンターを構築するようになるにつれ、 VLAN の制限は問題となりつつあります。 スパインリーファーキテクチャは、これらの制限に対処します。ACIファブリックは、外界 からは、ブリッジングとルーティングが可能な単一のスイッチに見えます。レイヤ3のルー ティングをアクセスレイヤに移動すると、最新のアプリケーションが必要としている、レイヤ 2の到達可能性が制限されます。仮想マシンワークロードモビリティや一部のクラスタリン グのソフトウェアのようなアプリケーションは、送信元と宛先のサーバ間がレイヤ2で隣接し ていることを必要とします。アクセスレイヤでルーティングを行えば、トランクダウンされ た同じVLANの同じアクセススイッチに接続したサーバだけが、レイヤ2で隣接します。ACI では、VXLANが、基盤となるレイヤ3ネットワークインフラストラクチャからレイヤ2のド メインを切り離すことにより、このジレンマを解決します。



図 1: ACI ファブリック

トラフィックがファブリックに入ると、ACIがカプセル化してポリシーを適用し、必要に応じ てスパインスイッチ(最大2ホップ)によってファブリックを通過させ、ファブリックを出る ときにカプセル化を解除します。ファブリック内では、ACIはエンドポイント間通信でのすべ ての転送について、Intermediate System-to-Intermediate System プロトコル(IS-IS)および Council of Oracle Protocol (COOP)を使用します。これにより、すべての ACI リンクがアクティブで、 ファブリック内での等コストマルチパス(ECMP)転送と高速再コンバージョンが可能になりま す。ファブリック内と、ファブリックの外部のルータ内でのソフトウェア定義ネットワーク間 のルーティング情報を伝播するために、ACI はマルチプロトコル Border Gateway Protocol (MP-BGP)を使用します。

ACI で VXLAN

VXLANは、レイヤ2オーバーレイの論理ネットワークを構築するレイヤ3のインフラストラ クチャ上でレイヤ2のセグメントを拡張する業界標準プロトコルです。ACIインフラストラク チャレイヤ2ドメインが隔離ブロードキャストと障害ブリッジドメインをオーバーレイ内に 存在します。このアプローチは大きすぎる、障害ドメインの作成のリスクなしで大きくなる データセンターネットワークを使用できます。 すべてのトラフィック、ACIファブリックはVXLANパケットとして正規化されます。入力で ACIVXLANパケットで外部VLAN、VXLAN、およびNVGREパケットをカプセル化します。 次の図は、ACIカプセル化の正規化を示します。

図 2: ACI カプセル化の正規化



ACIファブリックでの転送は、カプセル化のタイプまたはカプセル化のオーバーレイ ネット ワークによって制限または制約されません。ACIブリッジドメインのフォワーディングポリ シーは、必要な場合に標準の VLAN 動作を提供するために定義できます。

ファブリック内のすべてのパケットにACIポリシー属性が含まれているため、ACIは完全に分散された方法でポリシーを一貫して適用できます。ACIにより、アプリケーションポリシーの EPGIDが転送から分離されます。次の図に示すように、ACIVXLANヘッダーは、ファブリッ ク内のアプリケーションポリシーを特定します。



図 3: ACI VXLAN のパケット形式

ACIVXLAN パケットには、レイヤ2のMACアドレスとレイヤ3IPアドレスの送信元と宛先 フィールド、ファブリック内の効率的なと拡張性の転送を有効にします。ACIVXLANパケッ トヘッダーの送信元グループフィールドは、パケットが属するアプリケーションポリシーエ ンドポイントグループ(EPG)を特定します。VXLANインスタンスID(VNID)は、テナントの 仮想ルーティングおよび転送(VRF)ドメインファブリック内で、パケットの転送を有効にし ます。VXLANヘッダーで24ビットVNIDフィールドでは、同じネットワークで一意レイヤ2 のセグメントを最大16個の拡張アドレス空間を提供します。この拡張アドレス空間は、大規 模なマルチテナントデータセンターを構築する柔軟性IT部門とクラウドプロバイダーを提供 します。 VXLANを有効にACIファブリック全体にわたってスケールでの仮想ネットワークインフラス トラクチャのレイヤ3のアンダーレイレイヤ2を展開します。アプリケーションエンドポイ ントホスト柔軟に配置できます、アンダーレイインフラストラクチャのレイヤ3バウンダリ のリスクなしでデータセンターネットワーク間をオーバーレイネットワーク、VXLANでレイ ヤ2の隣接関係を維持します。

サブネット間のテナントトラフィックの転送を促進するレイヤ3VNID

ACIファブリックは、ACIファブリック VXLAN ネットワーク間のルーティングを実行するテ ナントのデフォルトゲートウェイ機能を備えています。各テナントに対して、ファブリックは テナントに割り当てられたすべてのリーフ スイッチにまたがる仮想デフォルト ゲートウェイ を提供します。これは、エンドポイントに接続された最初のリーフ スイッチの入力インター フェイスで提供されます。各入力インターフェイスはデフォルト ゲートウェイ インターフェ イスをサポートします。ファブリック全体のすべての入力インターフェイスは、特定のテナン ト サブネットに対して同一のルータの IP アドレスと MAC アドレスを共有します。

ACIファブリックは、エンドポイントのロケータまたは VXLAN トンネル エンドポイント (VTEP)アドレスで定義された場所から、テナントエンドポイントアドレスとその識別子を切 り離します。ファブリック内の転送は VTEP 間で行われます。次の図は、ACI で切り離された ID と場所を示します。

図 4: ACIによって切り離された IDと場所



VXLAN は VTEP デバイスを使用してテナントのエンド デバイスを VXLAN セグメントにマッ ピングし、VXLAN のカプセル化およびカプセル化解除を実行します。各 VTEP 機能には、次 の 2 つのインターフェイスがあります。

- ・ブリッジングを介したローカルエンドポイント通信をサポートするローカルLANセグメントのスイッチインターフェイス
- 転送 IP ネットワークへの IP インターフェイス

IPインターフェイスには一意のIPアドレスがあります。これは、インフラストラクチャVLAN として知られる、転送 IP ネットワーク上の VTEP を識別します。VTEP デバイスはこの IP ア ドレスを使用してイーサネット フレームをカプセル化し、カプセル化されたパケットを、IP インターフェイスを介して転送ネットワークへ送信します。また、VTEP デバイスはリモート VTEP で VXLAN セグメントを検出し、IP インターフェイスを介してリモートの MAC Address-to-VTEP マッピングについて学習します。 ACIのVTEPは分散マッピングデータベースを使用して、内部テナントのMACアドレスまた はIPアドレスを特定の場所にマッピングします。VTEPはルックアップの完了後に、宛先リー フスイッチ上のVTEPを宛先アドレスとして、VXLAN内でカプセル化された元のデータパ ケットを送信します。宛先リーフスイッチはパケットをカプセル化解除して受信ホストに送信 します。このモデルにより、ACIはスパニングツリープロトコルを使用することなく、フル メッシュでシングルホップのループフリートポロジを使用してループを回避します。

VXLAN セグメントは基盤となるネットワークトポロジに依存しません。逆に、VTEP 間の基盤となる IP ネットワークは、VXLAN オーバーレイに依存しません。これは送信元 IP アドレスとして開始 VTEP を持ち、宛先 IP アドレスとして終端 VTEP を持っており、外部 IP アドレス ヘッダーに基づいてパケットをカプセル化します。

次の図は、テナント内のルーティングがどのように行われるかを示します。



図 5: ACIのサブネット間のテナント トラフィックを転送するレイヤ 3 VNID

ACI はファブリックの各テナント VRF に単一の L3 VNID を割り当てます。ACI は、L3 VNID に従ってファブリック全体にトラフィックを転送します。出力リーフ スイッチでは、ACI に よって L3 VNID からのパケットが出力サブネットの VNID にルーティングされます。

ACIのファブリックデフォルトゲートウェイに送信されてファブリック入力に到達したトラ フィックは、レイヤ3 VNID にルーティングされます。これにより、テナント内でルーティン グされるトラフィックはファブリックで非常に効率的に転送されます。このモデルを使用する と、たとえば同じ物理ホスト上の同じテナントに属し、サブネットが異なる2つの VM 間で は、トラフィックが(最小パスコストを使用して)正しい宛先にルーティングされる際に経由 する必要があるは入力スイッチィンターフェイスのみです。

ACI ルート リフレクタは、ファブリック内での外部ルートの配布にマルチプロトコル BGP (MP-BGP)を使用します。ファブリック管理者は自律システム (AS) 番号を提供し、ルート リフレクタにするスパイン スイッチを指定します。



(注) Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。したがって、外部ルータへの レイヤ3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介したマルチポッド接続を 設定する場合は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設定することを推奨します。 Cisco ACI、Cisco NX-OS、および Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定可能な MTU 値はイーサネット ヘッダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネット ヘッダー サイズを除 く)を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームには、設定された MTU 値にイーサネットヘッダーが含まれています。設定された値が9000の場合、Cisco ACI、Cisco NX-OS および Cisco IOS の最大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタ グなしインターフェイスの最大 IP パケットサイズは 8986 バイトになります。

各プラットフォームの適切なMTU値については、それぞれの設定ガイドを参照してください。

CLI ベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で、コマンド、ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1 を使用 してください。


レイヤ3ネットワーク設定の前提条件

この章は、次の内容で構成されています。

レイヤ3前提条件(13ページ)

レイヤ3前提条件

このガイドのタスクを開始する前に、次のことを行ってください。

- ACIファブリックとAPICコントローラがオンラインであり、APICクラスタが形成され健 全であることを確認します— 詳細については、*Cisco APIC Getting Started Guide, Release 2.x* を参照してください。
- レイヤ3ネットワークを構成する管理者のファブリック管理者アカウントが使用可能であることを確認します—詳細については、Cisco APIC Basic Configuration GuideのUser Access, Authentication, and Accounting および Managementの章を参照してください。
- •目的のリーフスイッチとスパインスイッチ(必要なインターフェイスを使用可能)が使用 可能であることを確認します— 詳細については、*Cisco APIC Getting Started Guide, Release* 2.x を参照してください。

仮想スイッチのインストールと登録の詳細については、*Cisco ACI Virtualization Guide* を参照してください。

- レイヤ3ネットワークを消費するテナント、ブリッジドメイン、VRF、および EPG (アプ リケーションプロファイルとコントラクトを含む)を設定します—詳細については、Cisco APIC Basic Configuration Guide の Basic User Tenant Configuration の章を参照してください。
- NTP、DNS サービス、および DHCP リレー ポリシーを設定します— 詳細については、 Cisco APIC Basic Configuration Guide, Release 2.x の Provisioning Core ACI Fabric Services の 章を参照してください。

注意 ファブリックのリーフスイッチとスパインスイッチの間に1ギガビットイーサネット(GE)または10GE リンクを設置すると、帯域幅が不十分なために、パケットが転送されずにドロップされる可能性があります。これを避けるためには、リーフスイッチとスパインスイッチの間で40GE または100GE リンクを使用してください。

ブリッジ ドメインの設定

レイヤ3の設定 ブリッジドメイン()]パネルのタブには次のパラメータを設定するには、管理 者が使用できます。

- ・ユニキャストルーティング:この設定が有効になっているサブネットアドレスが設定されている場合は、ファブリックはデフォルトゲートウェイの機能を提供して、トラフィックをルーティングします。ユニキャストルーティングを有効にすると、マッピングデータベースがこのブリッジドメインのエンドポイントに付与された IP アドレスと VTEP の対応関係を学習します。IP 学習は、ブリッジドメイン内にサブネットが構成されているかどうかに左右されません。
- ・サブネットアドレス:このオプションは、ブリッジドメインのSVIIPアドレス(デフォルトゲートウェイ)を設定します。
- ・制限のサブネット IP ラーニング:このオプションは、ユニキャストリバース転送パス チェックに似ています。このオプションを選択すると、ファブリックはブリッジドメイン に設定されている1以外のサブネットから IP アドレスを学習されません。

 \triangle

注意 有効化 サブネットに制限IP ラーニング がブリッジドメイン内のトラフィックを停止します。



共通パーベイシブ ゲートウェイ

この章は、次の内容で構成されています。

- •概要(15ページ)
- GUI を使用した共通パーベイシブゲートウェイの設定(16ページ)



(注) Common Pervasive Gateway 機能は廃止されており、アクティブに維持されていません。

複数の Cisco ACI ファブリックを運用する場合は、共通パーベイシブゲートウェイ機能を使用 してリーフスイッチを介して複数の個々の ACI ファブリックを相互接続するのではなく、マ ルチサイトを導入することを強く推奨します。Common Pervasive Gateway 機能は現在サポート されていません。これは、このトポロジでは L3 マルチキャストなどの他の多くの新機能の検 証および品質保証テストが実行されないためです。したがって、Cisco ACI には Multi-Site の前 に ACI ファブリックを相互接続するための共通パーベイシブ ゲートウェイ機能がありました が、個別の APIC ドメインを相互接続する必要がある場合は、代わりに Multi-Site を使用して 新しい ACI ファブリックを設計することを強く推奨します。

この例は、Cisco APIC を使用して、IPv4 共通パーベイシブ ゲートウェイを設定する方法について示しています。

ブリッジドメインごとに IPv4 共通ゲートウェイを使用して2 つの ACI ファブリックを設定で きます。これにより、1 つ以上の仮想マシン(VM)または従来型のホストを、ホストの IP ア ドレスを保持したまま、ファブリック間で移動できます。ファブリック間のVM ホストの移動 は、VM ハイパーバイザによって自動的に行うことができます。ACI ファブリックは、同じ場 所に配置することも、複数のサイト間でプロビジョニングすることもできます。ACI ファブ リック間のレイヤ2接続は、ローカルリンクか、ブリッジ型ネットワークにわたるものになり ます。次の図は、基本的な共通パーベイシブ ゲートウェイ トポロジを示しています。





(注) 2 つの Cisco ACI ファブリックを相互接続するために用いられるトポロジによっては、相互接続するデバイスが、ゲートウェイ スイッチの仮想インターフェイス (SVI)の仮想 MAC アドレスを持つトラフィックの送信元を除外することが必要となります。

GUI を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定

始める前に

- ・テナントおよび VRF が作成されていること。
- ・ブリッジドメインの仮想 MAC アドレスとサブネットの仮想 IP アドレスは、ブリッジドメインのすべての Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックで同じにする必要があります。複数のブリッジドメインを、接続されている Cisco ACI ファブリック間で通信するように設定できます。仮想 MAC アドレスと仮想 IP アドレスは、ブリッジドメイン間で共有できます。
- ・Cisco ACI ファブリック間で通信するように設定されているブリッジドメインは、[フラッド(flood)]モードである必要があります。
- BD に複数の EPG がある場合、ブリッジ ドメインの 1 つの EPG のみを、2 つ目のファブ リックに接続されているポートの境界リーフ上に設定する必要があります。
- 2 つの Cisco ACI ファブリック間のパーベイシブ共通ゲートウェイを有効にする相互接続 されたレイヤ2ネットワークには、ホストを直接接続しないでください。

手順

- **ステップ1** メニューバーで、[テナント]をクリックします。
- ステップ2 [ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[*Tenant_name*]>[ネットワーキング(Networking)]> [ブリッジ ドメイン(Bridge Domains)] の順に展開します。
- ステップ3 [Bridge Domains] を右クリックし、[Create Bridge Domain] をクリックします。
- **ステップ4** [Create Bridge Domain] ダイアログ ボックスで、必要な操作を実行し、適切な属性を選択します。
 - a) [Main] タブで、[Name] フィールドにブリッジ ドメインの名前を入力し、残りのフィール ドに必要な値を選択します。
 - b) **[L3 configurations]** タブで **[Subnets]** を展開し、**[Create Subnets]** ダイアログボックスの **[Gateway IP]** フィールドに IP アドレスを入力します。

たとえば、192.0.2.1/24です。

- c) [Treat as virtual IP address] フィールドで、チェックボックスをオンにします。
- d) [Make this IP address primary] フィールドで、DHCP リレーにこの IP アドレスを指定する チェックボックスをオンにします。

このチェックボックスをオンにすると、DHCP リレーにのみ影響します。

- e) [OK] をクリックし、[次 (Next)]をクリックして [アドバンス/トラブルシューティング (Advanced/Troubleshooting)] タブに進み、[終了 (Finish)]をクリックします。
- ステップ5 [Work] ペインで作成したBridge Domain をダブルクリックし、次の操作を実行します。
 - a) [ポリシー (Policy)]タブをクリックして、[L3コンフィグレーション (L3 Configurations)] サブタブをクリックします。
 - b) もう一度 [サブネット (Subnets)]を展開し、仮想 IP アドレスとして設定されているもの と同じサブネットを使用して、[サブネットの作成 (Create Subnets)] ダイアログ ボック スの [ゲートウェイ IP (Gateway IP)] フィールドで物理 IP アドレスを作成します。

たとえば、仮想IPアドレスに192.0.2.1/24を使用した場合、物理IPアドレスには192.0.2.2/24 を使用できます。

- (注) 物理 IP アドレスは Cisco ACI ファブリック全体で一意である必要があります
- c) [送信(Submit)]をクリックして[サブネットの作成(Create Subnet)]ウィンドウで設定 を完了します。
- ステップ6 作成したブリッジドメインと同じブリッジドメインの [L3 コンフィグレーション (L3 Configurations)]タブで、[仮想 MAC アドレス (Virtual MAC Address)]フィールドをクリックし、[設定なし (Not Configured)]を適切な値に変更して、[送信 (Submit)]をクリックします。

(注) デフォルトブリッジドメインの MAC アドレス値はすべての Cisco ACIファブリックで同じです。この設定では、ブリッジドメイン MAC 値が各 Cisco ACIファブリックで一意である必要があります。

各ファブリックのブリッジ ドメイン MAC (pMAC) 値が一意であることを確認して ください。

- (注) この手順では、基本的に、このフィールドに入力した仮想 MAC アドレスと前の手順で入力した仮想 IP アドレスを関連付けます。将来のある時点で仮想 MAC アドレスを削除する場合は、前の手順で入力した IP アドレスの [仮想 IP アドレスとして扱う(Treat as virtual IP address)] フィールドのチェックも外す必要があります。
- ステップ7 ブリッジドメインを別のファブリックに拡張するために L2Out EPG を作成するには、[ナビゲー ション (Navigation)]ペインで [L2Outs] を右クリックし、[L2Out の作成 (Create L2Out)] をクリックして、次のアクションを実行します。
 - a) [Name] フィールドに、ブリッジされる Outside の名前を入力します。
 - b) [Bridge Domain] フィールドで、すでに作成されているブリッジドメインを選択します。
 - c) [Encap] フィールドに、その他のファブリック l2out カプセル化に一致する VLAN カプセ ル化を入力します。
 - d) [Path Type] フィールドで、[Port]、[PC]、または [VPC] を選択して EPG を導入し、[Next] をクリックします。
 - e) 外部 EPG ネットワークを作成するには、[Name] フィールドをクリックしてネットワーク の名前を入力し (QoS クラスの指定も可能)、[Finish] をクリックして共通パーベイシブ設 定を完了します。



IP エージング

この章は、次の内容で構成されています。

- •概要(19ページ)
- GUI を使用した IP エージングポリシーの設定 (19 ページ)

概要

IP エージング ポリシーは、エンドポイントの未使用の IP アドレスを追跡しエージングが行わ れます。トラッキングはブリッジドメインに設定されたエンドポイント保持ポリシーを使用し て実行され、ローカル エンドポイント エージング間隔の 75% で、ARP 要求(IPv4)やネイ バー要請(IPv6)を送信します。IP アドレスから応答を受信しなかった場合、その IP アドレ スはエージング アウトします。

このドキュメントでは、IP エージングポリシーを設定する方法について説明します。

GUI を使用した IP エージングポリシーの設定

このセクションでは、IP エージング ポリシーの有効と無効を切り替える方法について説明します。

手順

- ステップ1 メニューバーで、System タブをクリックします。
- ステップ2 サブメニューバーで、System Settings をクリックします。
- ステップ3 ナビゲーション ウィンドウで、Endpoint Controls をクリックします。
- ステップ4 作業ウィンドウで、Ip Aging をクリックします。

IP Aging Policy が、Administrative State の Disabled ボタンが選択された状態で表示されます。

- ステップ5 Administrative State で、次のオプションのいずれかをクリックします:
 - Enabled— IP エージングを有効にします。

• Disabled— IP エージングを無効にします。

次のタスク

エンドポイントの IP アドレスを追跡するために使用される間隔を指定するには、エンド ポイント保持ポリシーを作成します。Tenants > *tenant-name* > Policies > Protocol に移動し、End Point Retention を右クリックし、Create End Point Retention Policy を選択します。



スタティック ルート ブリッジ ドメイン

この章は、次の内容で構成されています。

- •スタティックルートブリッジドメインについて(21ページ)
- GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する (22 ページ)

スタティック ルート ブリッジ ドメインについて

Cisco APIC リリース 3.0(2) では、ファイアウォールの背後にある仮想サービスへのルーティン グを可能にする、パーベイシブ ブリッジ ドメイン (BD) でのスタティック ルート設定へのサ ポートが追加されました。

この機能は、通常の EPG の使用を通して、エンドポイント (EP) がパーベイシブブリッジドメインに直接には接続されていない IP アドレスへ到達することを可能にします。

スタティックルートを設定すると、APICは、それをブリッジドメインを使用しているすべて のリーフスイッチ、およびそのブリッジドメインに関連付けられた契約を有しているすべて のリーフスイッチに展開します。

エンドポイントの到達可能性は、APIC GUI、NX-OS スタイル CLI および REST API を使用して設定できます。

注意事項と制約事項

- ・サブネットマスクは、/32(IPv6の場合は/128)にしてファブリック内の1つのIPアドレスをポイントする必要があります。すでに定義されているブリッジドメインサブネット内にルートを追加しないでください。
- ネクストホップは、この EPG が関連付けられているのと同じブリッジドメイン内にある 必要があります。
- この機能は、名前の末尾が EX である Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチとそれ以降の機 種によりサポートされています (たとえば N9K-C93180LC-EX)。

GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する

- スタティック ルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。
- ・サブネットマスクが/32にする必要があります (128/for IPv6)1つの IP アドレスまたは1つのエンドポイントをポイントします。これは、パーベイシブ BD に関連付けられているEPG に含まれます。

始める前に

テナント、VRF、BD、および EPG の作成

手順

- ステップ1 メニューバーで、Tenants > tenant-name の順にクリックします。
- **ステップ2** ナビゲーション ウィンドウで Application Profiles を展開し、アプリケーション プロファイル 名をクリックします。
- ステップ3 Application EPGs をクリックして、スタティックルートの EPG を展開します。
- ステップ4 Subnets を展開して、スタティック ルートのサブネットを右クリックし、Create Endpoints Behind EPG Subnet を選択します。
- ステップ5 エンドポイントの NextHop IP Address を入力して、Update をクリックします。
- ステップ6 [送信 (Submit)] をクリックします。



データプレーン IP アドレス学習

この章は、次の内容で構成されています。

- データプレーン IP アドレス ラーニングの概要(23ページ)
- •データプレーン IP アドレス ラーニングのガイドラインと制限事項 (24ページ)
- •無効にするデータプレーン IP アドレス ラーニングの機能相互作用 (25 ページ)
- GUI を使用した VRF インスタンスごとのデータプレーン IP アドレス ラーニングの設定 (26 ページ)
- GUIを使用したエンドポイントごとのデータプレーン IP アドレス ラーニングの設定 (27 ページ)
- GUIを使用したサブネットごとのデータプレーン IP アドレスラーニングの設定(28ページ)

データプレーン IP アドレス ラーニングの概要

エンドポイントの IP アドレスと MAC アドレスは、ARP、GARP、ND などの一般的なネット ワーク方式を通じて()ファブリックによって学習されます。また、データプレーンを介して IP アドレスと MAC アドレスを学習する内部方式も使用します。Cisco Application Centric Infrastructure ACICisco ACIファブリックでは、データプレーン IP アドレスの学習がデフォルト で有効になっています。Cisco ACI

VRF インスタンスごとのデータプレーン IP アドレス ラーニングは、エンドポイント ラーニン グと同じように Cisco ACI ネットワークに固有です。エンドポイント ラーニングが IP アドレ スおよび MAC アドレスの両方として特定される一方、データプレーン IP ラーニングは VRF インスタンスのみの IP アドレッシングに固有です。Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) では、VRF インスタンス レベルでデータプレーン IP アドレス ラーニングを有効ま たは無効にできます。

リリース5.2(1) 以降では、より詳細な制御のために、特定のエンドポイントまたはサブネット のデータプレーン IP アドレス ラーニングをディセーブルにできます。Cisco APIC

データプレーンIPアドレスラーニングのガイドラインと 制限事項

VRF インスタンス、ブリッジ ドメイン サブネット、および EPG サブネットごとのデータプ レーン IP アドレス学習には、次のガイドラインと制約事項が適用されます。

- ・データプレーン IP アドレス ラーニングを無効にすると、テナント VRF 内のリモート IP アドレスのすべてのエントリが削除されます。ローカル IP エントリは エージアウトさ れ、その後、データプレーンを通じて再学習されることはありませんが、コントロールプ レーンからは引き続き学習できます。
- ・データプレーン IP アドレス ラーニングを無効にすると、すでに学習したローカル IP エンドポイントは保持され、動作を維持するにはコントロールプレーンの更新が必要になります(IP エージングも有効であると想定)。データプレーン レイヤ3トラフィックは IP エンドポイントの動作を維持しません。
- EPG-to-EPGイントラVRFインスタンスレイヤ3トラフィックの場合、入力リーフスイッ チは宛先クラスを解決できないため、ポリシーは常に出力リーフスイッチに適用されます。リモートIPアドレスは学習されません。
- EPG-to-EPG イントラ VRF インスタンス レイヤ2トラフィックでは、スイッチはリモート MAC アドレスを学習できますが、リモート IP アドレスは学習できないため、入力リーフ スイッチにポリシーを適用できます。
- ・データプレーンIPアドレスの学習がエンドポイントまたはサブネットに対して有効になっている場合、データプレーンIPアドレスは、CPUに到達しないエンドポイント間ARP要求を使用して学習されません。ただし、ブリッジドメインSVIゲートウェイへのARP要求は引き続き学習されます。
- ・データプレーン IP アドレス ラーニングが VRF インスタンスに対して有効になっている場合、ローカルおよびリモート MAC アドレスは、エンドポイント間 ARP 要求を使用して学習されます。

エンドポイントまたはサブネットごとのデータプレーンIPアドレスラーニングの無効化には、 次のガイドラインと制約事項が適用されます。

- ・同じブリッジドメイン内のエンドポイント間に通信がある場合は、ブリッジドメインで L2 unknown Unicast プロパティを Flood に設定する必要があります。ARP フラッディング も有効にする必要があります。そうしないと、ローカル MAC アドレスとリモート MAC アドレスがエンドポイント間エンドポイント ARP 要求によって学習されないため、同じ ブリッジドメイン内のエンドポイント間の ARP は機能しません。
- フラッシュする代わりに、ローカルIPアドレスはdp-Im-dis(データプレーン学習ディセー ブル)状態に変換されます。
- エンドポイントのサブネットがデータプレーン IP アドレス学習を無効に設定されている 場合、エンドポイントデータプレーン IP アドレス学習を有効にすることはできません。

たとえば、学習が無効になっているサブネット100.10.0.1/24と、学習が有効になっている 100.10.0.100/32の EPG を持つブリッジドメインはありません。

- エンドポイントまたはサブネットでデータプレーン IP アドレスの学習が無効になっている場合、スイッチは、ルーティングされたレイヤ3データトラフィックからレイヤ2MAC アドレスを学習または更新しません。レイヤ2MAC アドレスは、レイヤ2データトラフィックまたはARPパケットからのみ学習されます。
- エンドポイントまたはサブネットのデータプレーン IP アドレス学習が無効になっている 場合、GARPパケットからトリガーされた IP アドレス学習または移動は、ARP フラッド モードと GARPベースのエンドポイント移動検出が有効になっている場合にのみ可能で す。

無効にするデータプレーンIPアドレスラーニングの機能 相互作用

ここでは、無効にするデータプレーン IP アドレス ラーニングとその他の機能との相互作用についての情報を示します。

- ・エニーキャスト
 - 有効:ローカルエニーキャスト IP アドレスは、データプレーンとコントロールプレーンのどちらからでも学習できます。
 - ・無効:ローカルエニーキャストIPアドレスはエージアウトしますが、コントロール プレーンとホストトラッキングから学習することができます。
 - リモートIPアドレスは、VRFインスタンスごとのデータプレーンIPアドレスラーニングの設定方法を問わず、エニーキャストで学習されません。
- •不正なエンドポイントの検出
 - ・有効:不正な IP アドレスが生成され、移動は意図したとおりに検出されます。
 - ・無効:リモートIPアドレスがフラッシュされ、不正なIPアドレスはエージアウトされます。不正なIPアドレスはローカルの移動では検出されません。検出される唯一の移動は、コントロールトラフィックからのものです。バウンスは COOP から学習されますが、バウンスタイマーが時間切れになるとこれらはドロップされます。
- ・レイヤ4~レイヤ7サービス仮想 IP (VIP) アドレス
 - 有効:レイヤ4からレイヤ7サービス VIP アドレスは期待どおりに機能します(VIP アドレスのエンドポイント IP アドレス ラーニングはコントロール プレーン経由の み)。次の機能ストリームを考えます。
 - 1. クライアントからロードバランサへ(レイヤ3トラフィック)
 - 2. サーバへのロードバランサ(レイヤ2トラフィック)

3. サーバからクライアント (レイヤ3)

EPG の背後のクライアント(IP エンドポイント)は、データ/コントロール プレーン を通じて学習されます。VIP アドレスはロード バランサ EPG のコントロール プレー ン経由でのみ学習されます。コントロールプレーン経由であっても、VIP アドレスは 他の EPG では学習されません。

- [Disabled] :
 - クライアントからロードバランサ: VIP アドレスではリモート IP アドレスが学習されません。リモート IP アドレスはクリアされます。spine-proxy を使用します。VIPのIPアドレスが学習されると、spine-proxyルックアップは成功します。
 そうでない場合は VIP アドレスにグリーニングを生成し、コントロールプレーンを通じて学習します。
 - ・ロードバランサからサーバへ:影響なし。DSRの使用例では、ロードバランサ/ サーバー間のブリッジだけがサポートされています。
 - ・サーバからクライアント:クライアントのリモート IP アドレスはクリアされ、 spine-proxy が使用されます。クライアントエントリのリモート IP アドレスがス パインスイッチで削除された場合、グリーニングを通じて再学習されます。L3out の背後にあるクライアントの場合、レイヤ3リモート IP アドレスはありません。

GUI を使用した VRF インスタンスごとのデータプレーン IP アドレス ラーニングの設定

このセクションでは、VRF インスタンスごとのデータプレーン IP ラーニングを無効にする方 法について説明します。

次の手順では、テナントと VRF インスタンスがすでに設定されていると仮定します。

手順

- ステップ1 [テナント(Tenants)>[tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[VRFs]>[vrf_name] に移動します。
- ステップ2 [VRF vrf_name] 作業ペインで、[Policy] タブをクリックします。
- ステップ3 [Policy] 作業ペインの下にスクロールし、[IP Data-plane Learning] を探します。
- ステップ4 次のいずれかをクリックします。
 - •[無効化(Disabled)]: VRFインスタンスでのデータプレーンIPアドレスラーニングを無効にします。
 - •[有効化(Enabled)]: VRFインスタンスでのデータプレーン IP アドレス ラーニングを有効にします。

ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。

GUI を使用したエンドポイントごとのデータ プレーン IP アドレス ラーニングの設定

次の手順では、選択したエンドポイントグループのエンドポイントのデータプレーン IP アドレス学習を有効または無効にします。エンドポイントのデータプレーン IP アドレス ラーニングを設定できるのは、EPG サブネット IP アドレスのマスクが IPv4 アドレスの場合は/32、IPv6 アドレスの場合は/128 です。データプレーン IP アドレスの学習は、デフォルトで有効になっています。

手順

- **ステップ1** メニュー バーで、[テナント(Tenants)]>[すべてのテナント(ALL Tenants)]の順に選択します。>
- **ステップ2** 作業ウィンドウで、テナントの名前をダブルクリックします。
- **ステップ3** 既存のサブネットを変更する場合は、次のサブステップを実行します。
 - a) ナビゲーションペインで、[テナント (Tenant) *tenant_name*]>[アプリケーションプロ ファイル (Application Profiles)]>[*app_profile_name*]>[アプリケーションEPG (Application EPGs)]>[*app_epg_name*]>[サブネット (Subnets)]>[*subnet_address*]の順に選択しま す。

選択したサブネットは、次の要件を満たしている必要があります。

- ・[デフォルトゲートウェイ IP(Default Gateway IP)] フィールドのマスクは、IPv4 アド レスの場合は/32、IPv6 アドレスの場合は/128です。
- •[デフォルトSVIゲートウェイなし(No Default SVI Gateway)] チェックボックスをオ ンにする必要があります。
- [Behind Subnet のタイプ (Type Behind Subnet)]は[なし (None)]または[エニキャスト MAC (Anycast MAC)]である必要があります。
- b) [ワーク(Work)]ペインの[IPデータプレーンの学習(IP Data-plane Learning)]で、[有効(Enable)]または[無効(Disable)]を選択します。

これにより、エンドポイントの IP アドレス データ プレーンの学習が有効または無効になります。

- ステップ4 新しいサブネットを作成する場合は、次のサブステップを実行します。
 - a) ナビゲーションペインで、[テナント (Tenant) *tenant_name*]>[アプリケーションプロ ファイル (Application Profiles)]>[*app_profile_name*]>[アプリケーションEPG (Application EPGs)]>[*app_epg_name*]>[サブネット (Subnets)]の順に選択します。

- b) [サブネット (Subnets)]を右クリックし、[EPG サブネットの作成 (Create EPG Subnet)] を選択します。
- c) [デフォルトゲートウェイ IP (Default Gateway IP)]フィールドには、IPv4 アドレスの場合 は/32、IPv6 アドレスの場合は/128 のマスクを指定する必要があります。
- d) [デフォルト SVI ゲートウェイなし(No Default SVI Gateway)] チェック ボックスをオンに する必要があります。
- e) [Behind Subnet のタイプ(Type Behind Subnet)]ボタンで、[なし(None)]または[エニキャ スト MAC(Anycast MAC)]を選択します。
- f) [IP データプレーンの学習(IP Data-plane Learning)]トグルで、必要に応じて[有効化(Enable)]または[無効化(Disable)]を選択します。
 これにより、エンドポイントの IP アドレスデータ プレーンの学習が有効または無効になります。
- g) 必要に応じて、残りのフィールドに入力します。
- ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。

GUI を使用したサブネットごとのデータ プレーン IP アド レス ラーニングの設定

次の手順では、サブネットのデータプレーンIPアドレス学習を有効または無効にします。デー タプレーンIPアドレスの学習は、デフォルトで有効になっています。

手順

- **ステップ1** メニュー バーで、[テナント(Tenants)]>[すべてのテナント(ALL Tenants)]の順に選択します。>
- **ステップ2** 作業ウィンドウで、テナントの名前をダブルクリックします。
- **ステップ3** 既存のサブネットを変更する場合は、次のサブステップを実行します。
 - a) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenant) *tenant_name*]>[ネットワー キング (Networking)]>[ブリッジドメイン (Bridge Domains)]>[*bridgeg_domain_name*]> [サブネット (Subnets)]>[*subnet_address*] の順に選択します。

データプレーンの IP アドレス ラーニングを無効にする場合は、[デフォルト SVI ゲート ウェイなし(No Default SVI Gateway)]チェックボックスをオンにしないでください。

b) [作業(Work)]ペインの [IP データプレーンの学習(IP Data-plane Learning)] で、[有効化 (Enable)] または [無効化 (Disable)] を選択します。

これにより、サブネットのIPアドレスデータプレーンの学習が有効または無効になります。

ステップ4 新しいサブネットを作成する場合は、次のサブステップを実行します。

- a) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenant) *tenant_name*]>[ネットワー キング (Networking)]>[ブリッジドメイン (Bridge Domains)]>[*bridgeg_domain_name*]> [サブネット (Subnets)]の順に選択します。
- b) [サブネット (Subnets)]を右クリックし、[サブネットの作成 (Create Subnet)]を選択します。
- c) [デフォルトゲートウェイ IP (Default Gateway IP)]フィールドで、IP アドレスとマスクを 入力します。
- d) データプレーンの IP アドレス ラーニングを無効にする場合は、[デフォルト SVI ゲート ウェイなし(No Default SVI Gateway)] チェックボックスをオンにしないでください。
- e) [IP データプレーンの学習(IP Data-plane Learning)]トグルで、必要に応じて[有効化 (Enable)]または[無効化(Disable)]を選択します。

これにより、サブネットの IP アドレス データプレーンの学習が有効または無効になりま す。

- f) 必要に応じて、残りのフィールドに入力します。
- ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。

I



IPv6 ネイバー探索

この章は、次の内容で構成されています。

- ネイバー探索 (31ページ)
- •ブリッジドメインでの IPv6 ネイバー探索の設定 (32 ページ)
- ・レイヤ3インターフェイス上での IPv6 ネイバー探索の設定 (34ページ)
- IPv6 ネイバー探索重複アドレス検出の設定 (36 ページ)

ネイバー探索

IPv6 ネイバー探索(ND)は、ノードのアドレスの自動設定、リンク上の他のノードの探索、他のノードのリンク層アドレスの判別、重複アドレスの検出、使用可能なルータと DNS サーバの検出、アドレス プレフィックスの探索、および他のアクティブなネイバー ノードへのパスに関する到達可能性情報の維持を担当します。

ND 固有のネイバー要求/ネイバーアドバタイズメント(NS/NA)およびルータ要求/ルータア ドバタイズメント(RS/RA)パケットタイプは、物理、層3サブインターフェイス、および SVI(外部およびパーベイシブ)を含むすべてのACIファブリックのレイヤ3インターフェイ スでサポートされます。APICリリース3.1(1x)まで、RS/RAパケットはすべてのレイヤ3イン ターフェイスの自動設定のために使用されますが、拡散型SVIの設定のみ可能です。

APIC リリース3.1(2x)より、RS/RAパケットは自動設定のため使用され、ルーテッドインター フェイス、レイヤ3サブインターフェイス、SVI(外部および拡散)を含むレイヤ3インター フェイスで設定できます。

ACI のブリッジ ドメイン ND は常にフラッド モードで動作します。ユニキャスト モードはサ ポートされません。

ACI ファブリック ND サポートに含まれるもの:

- ・インターフェイス ポリシー (nd:IfPol) は、NS/NA メッセージに関する ND タイマーと 動作を制御します。
- •ND プレフィックス ポリシー (nd:PfxPol) コントロール RA メッセージ。
- ND の IPv6 サブネット (fv:Subnet) の設定。

- 外部ネットワークの ND インターフェイス ポリシー。
- 外部ネットワークの設定可能 ND サブネットおよびパーベイシブ ブリッジ ドメインの任意サブネット設定はサポートされません。

設定可能なオプションは次のとおりです。

- 隣接関係
 - ・設定可能な静的 Adjacencies: (<vrf、L3Iface < ipv6 address> --> mac address)
 - 動的 Adjacencies : NS/NA パケットの交換経由で学習
- •インターフェイス単位
 - •NDパケットの制御(NS/NA)
 - ネイバー要求間隔
 - ネイバー要求再試行回数
 - •RAパケットの制御
 - RA の抑制
 - ・RA MTU の抑制
 - •RA 間隔、RA 最小間隔、再送信時間
- プレフィックス単位(RAでアドバタイズ)の制御
 - ・ライフタイム、優先ライフタイム
 - ・プレフィックスコントロール(自動設定、リンク上)

• ネイバー検索重複アドレスの検出 (DAD)

ブリッジドメインでのIPv6ネイバー探索の設定

GUIを使用して、ブリッジドメイン上に IPv6 ネイバー探索対応のテナント、VRF、およびブリッジドメインを作成する

このタスクでは、テナント、VRF、およびブリッジドメイン(BD)を作成し、それらの中に 2つの異なるタイプのネイバー探索(ND)ポリシーを作成する方法を示します。これらはND インターフェイスポリシーとNDプレフィックスポリシーです。NDインターフェイスポリ シーはBDに導入されますが、NDプレフィックスポリシーは個々のサブネットに導入されま す。各BDに独自のNDインターフェイスポリシーを適用することができます。NDインター フェイスポリシーは、デフォルトですべてのIPv6インターフェイスに導入されます。Cisco APIC には、使用可能なデフォルトの ND インターフェイス ポリシーがすでに存在します。必要に応じて、代わりに使用するカスタム ND インターフェイス ポリシーを作成できます。ND プレフィックス ポリシーはサブネット レベルにあります。すべての BD が複数のサブネット を持つことができ、各サブネットが異なる ND プレフィックスを持つことができます。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[テナント(TENANT)]>[テナントの追加(Add Tenant)]の順にクリック します。
- **ステップ2** [Create Tenant] ダイアログボックスで、次のタスクを実行します。
 - a) [Name] フィールドに、名前を入力します。
 - b) [Security Domains +] アイコンをクリックして [Create Security Domain] ダイアログボックス を開きます。
 - c) [Name] フィールドに、セキュリティ ドメインの名前を入力します。Submit をクリックします。
 - d) [Create Tenant] ダイアログボックスで、作成したセキュリティ ドメインのチェックボック スをオンにし、[Submit] をクリックします。
- ステップ3 [Navigation] ペインで、[Tenant-name] > [Networking] の順に展開します。
- ステップ4 [Work] ペインで、[VRF] アイコンをキャンバスにドラッグして [Create VRF] ダイアログボック スを開き、次の操作を実行します。
 - a) [Name] フィールドに、名前を入力します。
 - b) [Submit] をクリックして VRF の設定を完了します。
- ステップ5 [ネットワーキング(Networking)]領域で、[ブリッジドメイン(Bridge Domain)]アイコン を[VRF]アイコンにつなげながらキャンバスにドラッグします。[Create Bridge Domain]ダイア ログボックスが表示されたら、次の操作を実行します。
 - a) [Name] フィールドに、名前を入力します。
 - b) [L3 Configurations] タブをクリックし、[Subnets] を展開して [Create Subnet] ダイアログボッ クスを開き、[Gateway IP] フィールドにサブネット マスクを入力します。
- **ステップ6** [Subnet Control] フィールドで、[ND RA Prefix] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- **ステップ7** [ND Prefix policy] フィールドのドロップダウンリストで、[Create ND RA Prefix Policy] をクリックします。
 - (注) すべての IPv6 インターフェイスに導入される使用可能なデフォルト ポリシーがすでに存在しています。または、この例で示されているように、使用する ND プレフィックス ポリシーを作成できます。デフォルトでは、IPv6 ゲートウェイのサブネットは ND RA メッセージの ND プレフィックスとしてアドバタイズされます。 ユーザは、[ND RA prefix] チェックボックスをオフにして、ND RA メッセージでサブネットをアドバタイズしないことを選択できます。
- **ステップ8** [Create ND RA Prefix Policy] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Name] フィールドにプレフィックス ポリシーの名前を入力します。
 - (注) 特定のサブネットに対して存在できるプレフィックスポリシーは1つのみで す。サブネットは共通プレフィックスポリシーを使用できますが、各サブネットに異なるプレフィックスポリシーを適用することが可能です。
- b) [Controller State] フィールドで、目的のチェックボックスをオンにします。
- c) [Valid Prefix Lifetime] フィールドで、プレフィックスを有効にする期間について目的の値 を選択します。
- d) [Preferred Prefix Lifetime] フィールドで、目的の値を選択します。[OK] をクリックします。
 - (注) ND プレフィックス ポリシーが作成され、特定のサブネットに接続されます。
- **ステップ9** [ND policy] フィールドのドロップダウンリストで、[Create ND Interface Policy] をクリックし、 次のタスクを実行します。
 - a) [Name] フィールドにポリシーの名前を入力します。
 - b) [Submit] をクリックします。`
- ステップ10 [OK] をクリックしてブリッジ ドメインの設定を完了します。

同様に、さまざまなプレフィックスポリシーが適用された追加のサブネットを必要に応じて作 成できます。

IPv6アドレスのサブネットが BD に作成され、ND プレフィックス ポリシーが関連付けられて います。

レイヤ3インターフェイス上での IPv6 ネイバー探索の設 定

注意事項と制約事項

次の注意事項と制約事項は、レイヤ3インターフェイスのネイバー探索ルータアドバタイズメント(ND RA)プレフィックスに適用されます。

•ND RA 設定は、IPv6 プレフィクスにのみ適用されます。IPv4 プレフィクスでネイバー探 索ポリシーを構成しようとしても、失敗します。

GUIを使用して、レイヤ3インターフェイス上の RA の IPv6 ネイバー探 索インターフェイス ポリシーの設定

次の手順では、レイヤ3インターフェイスで IPv6 ネイバー探索インターフェイス ポリシーを (注) 関連付ける方法を表示します。この特定の例は、非 VPC インターフェイスを使用して設定す る方法を示しています。

始める前に

- ・テナント、VRF、BD が作成されていること。
- 外部ルーテッドネットワークで、L3Out が作成されます。

手順

- ステップ1 ナビゲーション] ペインで、適切なテナントで、適切な外部ルーテッド ネットワークに移動 します。
- ステップ2 [L3Outs] で、>[論理ノードプロファイル(Logical Node Profiles)]> [Logical Node Profile_name] > [論理インターフェイス プロファイル(Logical Interface Profiles)] を展開します。
- ステップ3 適切な [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profile)] をダブルクリック し、[作業(Work)]ペインで [ポリシー (Policy)]>[ルーテッド インターフェイス (Routed Interfaces)]をクリックします。
 - (注) 作成論理インターフェイスプロファイルを持っていない場合は、ここにプロファイ ルを作成することができます。
- **ステップ4 Routed Interface** ダイアログボックスで、次の操作を実行します:
 - a) ND RA プレフィックス フィールドで、インターフェイスの ND RA プレフィックスを有 効にするチェック ボックスをチェックします。

有効にすると、ルーテッドインターフェイスは自動設定使用できます。

また、 ND RA プレフィックス ポリシー フィールドが表示されます。

- b) ND RA Prefix Policy フィールドで、ドロップダウンリストから、適切なポリシーを選択し ます。
- c) 必要に応じて、画面上の他の値を選択します。[Submit] をクリックします。`

(注) VPC インターフェイスを使用してを設定する際に、VPC の設定内のメンバは、その両方としてに、サイドAとサイドBの両方の ND RA プレフィックスが有効にする必要があります。作業()]ペインで、 論理インターフェイス プロファイル 画面で、をクリックします SVI()]タブ。プロパティ 、有効にするチェック ボックスをオン、 ND RA プレフィックス サイドAとサイドBの両方を選択、同一のND RA プレフィックス ポリシー サイドAとサイドBの

IPv6 ネイバー探索重複アドレス検出の設定

ネイバー探索重複アドレス検出について

重複アドレス検出 (DAD) は、ネットワーク内で重複アドレスを検出するためにネイバー探索 が使用するプロセスです。デフォルトでは、ACI ファブリック リーフ レイヤ3インターフェ イスで使用されているリンクローカルアドレスとグローバルサブネット IPv6 アドレスの DAD が有効になっています。オプションとして、REST API (**ipv6Dad=''disabled''** 設定を使用)また はGUI を通してノブを構成することにより、IPv6 グローバルサブネットの DAD プロセスを無 効にすることができます。外部接続されたデバイスに境界リーフ冗長性を提供するため、異な る境界リーフ スイッチ上の L3Outs にわたって同じ共有セカンダリ アドレスが必要な場合に は、このノブを構成します。このような場合、DAD プロセスを無効にすれば、DAD が複数の 境界リーフ スイッチ上の同じ共有セカンダリ アドレスを重複と見なすことを避けられます。 このような場合にはDAD プロセスを無効にしないと、共有セカンダリアドレスが DUPLICATE DAD 状態に入り、使用できなくなることがあります。

GUI を使用したネイバー探索重複アドレス検出の設定

サブネットのネイバー探索重複アドレス検出プロセスを無効にするには、このセクションの手順に従ってください。

手順

- **ステップ1** 適切なページに移動して、そのインターフェイスの DAD フィールドにアクセスします。次に 例を示します。
 - a) [テナント (Tenants)]>[テナント (Tenant)]>[ネットワーキング (Networking)]>
 [L3Outs]>[L3Out]>[論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles) >[ノード (node)]>
 [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]に移動し、設定するインターフェイスを選択します。
 - b) Routed Sub-interfaces またはSVIをクリックし、作成(+)ボタンをクリックしてインターフェ イスを設定します。

ステップ2 このインターフェイスで、DAD エントリを次のように設定します:

- ・プライマリアドレスでは、DADエントリの値を enabled に設定します。
- ・共有セカンダリアドレスでは、DADエントリの値を disabled に設定します。セカンダリアドレスが境界リーフスイッチ間で共有されていない場合には、そのアドレスのDADを 無効にする必要がないことに注意してください。

例:

たとえば、SVIインターフェイスのこの設定を構成する場合には、次のようになります:

- サイドAの IPv6 DAD を enabled に設定します。
- サイド B の IPv6 DAD を disabled に設定します。

例:

別の例として、ルーテッドサブインターフェイスの設定を構成する場合には、次のようになり ます:

- •メインの [Select Routed Sub-Interface] ページで、ルーテッド サブインターフェイスの IPv6 DAD を enabled に設定します。
- [IPv4 Secondary/IPv6 Additional Addresses] エリアで作成 (+) ボタンをクリックして [Create Secondary IP Address] ページにアクセスし、IPv6 DAD の値を disabled に設定します。[OK] ボタンをクリックして、この画面での変更点を適用します。
- ステップ3 [Submit] ボタンをクリックして、変更を適用します。
- **ステップ4** リーフスイッチでshowipv6intコマンドを入力して、設定がリーフスイッチに正しくプッシュ されたか確認してください。例:

```
swtb23-leaf5# show ipv6 int vrf icmpv6:v1
IPv6 Interface Status for VRF "icmpv6:v1"(9)
vlan2, Interface status: protocol-up/link-up/admin-up, iod: 73
if_mode: ext
IPv6 address:
2001:DB8:A::2/64 [VALID] [PREFERRED]
2001:DB8:A::11/64 [VALID] [dad-disabled]
IPv6 subnet: 2001:DB8:A::/64
IPv6 link-local address: fe80::863d:c6ff:fe9f:eb8b/10 (Default) [VALID]
```



Microsoft NLB

この章は、次の内容で構成されています。

- Microsoft NLB について (39 ページ)
- Cisco ACI Microsoft NLB サーバの設定 (43 ページ)
- Microsoft Network Load Balancing の注意事項と制限事項 (47 ページ)
- ・GUIを使用したユニキャストモードでの Microsoft NLB の設定 (48 ページ)
- ・GUIを使用したマルチキャストモードでの Microsoft NLBの設定 (49ページ)
- GUI を使用した IGMP モードでの Microsoft NLB の設定 (50 ページ)

Microsoft NLB について

Microsoft ネットワーク ロード バランシング (NLB) 機能は、クライアント トラフィックを多数のサーバに分散し、各サーバがアプリケーションの個別のコピーを実行します。ネットワーク ロードバランシングは、レイヤ2の不明なユニキャストまたはマルチキャストを使用して、 着信ネットワーク トラフィックをすべてのクラスタ ホストに同時に分散します。

Microsoft NLB ノードのグループは、NLB クラスタと総称されます。NLB クラスタは、1 つ以 上の仮想 IP(VIP)アドレスのサービスを提供します。NLB クラスタ内のノードは、ロードバ ランシング アルゴリズムを使用して、NLB VIP 宛ての特定のトラフィック フローを処理する 個々のノードを決定します。クラスタ内のすべてのノードはトラフィックのすべてのパケット を受信しますが、1 つのノードだけが要求を処理します。

次の図に、Microsoft NLBの実装方法を図で示します。Cisco APIC



この図では、サーバ1とサーバ2がMSNLBクラスタにあります。これらのサーバは、外部ク ライアントには単一ホストサーバとして表示されます。MSNLBクラスタ内のすべてのサーバ がすべての着信要求を受信すると、MSNLBはサーバ間で負荷を分散します。

3 種類の異なる動作モードでの Microsoft NLB の機能:

- ユニキャストモード:このモードでは、各NLBクラスタVIPにユニキャストMACアドレスが割り当てられます。このモードは、トラフィックをクラスタに配信するために不明なユニキャストフラッディングに依存します。
- マルチキャストモード:このモードでは、各NLBクラスタVIPが非Internet Assigned Numbers Authority (IANA) マルチキャストMACアドレス (03xx.xxxx.xxxx) に割り当て られます。
- IGMPモード: このモードでは、NLB クラスタ VIP が一意の IPv4 マルチキャスト グルー プアドレスに割り当てられます。このためのマルチキャスト MAC アドレスは、IPv4 マル チキャスト アドレスの標準 MAC 導出から導出されます。

ユニキャスト モードについて

ユニキャスト動作モードでは、ネットワーク負荷分散は、それが有効になっているネットワークアダプタ(クラスタアダプタと呼ばれる)のMACアドレスを再割り当てし、すべてのクラスタホストに同じMACアドレスが割り当てられます。このMACアドレスは、クラスタのプライマリIPアドレスから取得されます。たとえば、プライマリIPアドレスが1.2.3.4の場合、ユニキャストMACアドレスは02-BF-1-2-3-4に設定されます。

ネットワークロードバランシングのユニキャストモードでは、次の図に示すように、着信ネットワークトラフィックをすべてのクラスタホストに同時に配信します。



レイヤ2スイッチでは、すべてのスイッチポートで一意の送信元 MAC アドレスが認識される ため、共通の MAC アドレスを使用すると、通常は競合が発生します。この問題を回避するた めに、ネットワーク ロード バランシングは発信パケットの送信元 MAC アドレスを一意に変 更します。クラスタの MAC アドレスが 02-BF-1-2-3-4 の場合、各ホストの送信元 MAC アドレ スは 02-x -1-2-3-4 に設定されます。x はクラスタ内のホストの優先順位です。次の図に示しま す。



マルチキャスト モードについて

ネットワークロードバランシングは、着信ネットワークトラフィックをすべてのクラスタホ ストに分散するためのマルチキャストモードも提供します。マルチキャストモードは、アダ プタの MAC アドレスを変更する代わりに、レイヤ2マルチキャスト アドレスをクラスタア ダプタに割り当てます。たとえば、マルチキャスト MAC アドレスは、クラスタのプライマリ IP アドレス10.20.30.40 に対して 03-BF-0A-14-1E-28 に設定できます。クラスタ通信には別のア ダプタは必要ありません。



IGMP モードについて

Microsoft NLB サーバは、IGMP を使用してマルチキャスト グループに参加するように設定す ることもできます。これをスイッチのクエリアおよびIGMP スヌーピングと組み合わせること で、マルチキャスト メッセージのフラッディングの範囲を最適化できます。

Microsoft NLB サーバは、マルチキャスト グループ アドレスに IGMP Join を送信します。マル チキャスト アドレスの最後の 2 つのオクテットは、クラスタ IP の最後の 2 つのオクテットに 対応します。たとえば、Microsoft NLB サーバが 239.255.xx のマルチキャスト アドレスに IGMP Join を送信する状況では、次のようになります。

- クラスタ IP: 10.20.30.40
- IGMP が 239.255. に送信されました。30.40
- ・クライアントからサーバ方向で使用される MAC: 0100.5E7F.1E28
- ・クラスタ通信には別のアダプタは必要ありません



Cisco ACI Microsoft NLB サーバの設定

リリース 4.1 より前の Microsoft NLB 導入では、ファブリックはレイヤ 2 のみである必要があ り、エンドポイントのレイヤ3ゲートウェイとして外部ルータを使用します。Cisco ACIリリー ス 4.1 以降、ファブリックは Microsoft NLB 導入のレイヤ 3 ゲートウェイになります。Cisco ACI

次の表に、各 Microsoft NLB 導入モードの導入に関する考慮事項の概要を示します。

表 4: Cisco ACI Microsoft NLB を使用した導入モード

	ユニキャスト モード	マルチキャスト モード	IGMP モード
Cisco ACI レイヤ 2 ネット ワークとして、レイヤ3ゲー トウェイとして外部ルータを 使用	スイッチ名の末尾に -EX、 -FX、または -FX2 がある リーフ スイッチ モデルでサ ポートされます。	スイッチ名の末尾に -EX、 -FX、または -FX2 が付いた リーフ スイッチ モデル、お よびスイッチ名の末尾にサ フィックスがないリーフ ス イッチ モデルでサポートさ れます。	スイッチ名の末尾に-EX、 -FX、または-FX2 が付いた リーフ スイッチ モデル、お よびスイッチ名の末尾にサ フィックスがないリーフ ス イッチ モデルでサポートさ れます。ただし、Microsoft NLB トラフィックは IGMP によってスコープされず、代 わりにフラッディングされま す。
Cisco ACI レイヤ3ゲート ウェイとして	リリース4.1以降でサポート されます。	リリース4.1以降でサポート されます。	リリース4.1以降でサポート されます。

次の表に、Cisco ACI をレイヤ2として使用して Microsoft NLB を導入するために使用できる設 定オプションの詳細を示します。

表 5:3つの Microsoft NLB モードの外部ルータおよび ACI ブリッジ ドメインの設定

	ユニキャスト モード	マルチキャスト モード	IGMP モード リリース 3.2 で は、 Microsoft NLB マルチキャ スト モードと比較して Microsoft NLB IGMP モードを 使用しても、複数宛先トラ フィックのスコーピングに関 して利点はありません。 ¹
ACI ブリッジ ドメインの設定	 ・不明なユニキャストフ ラッディング用に設定さ れたブリッジドメイン (hw-proxy 以外) ・No IP routing 	 ・不明なユニキャストフ ラッディング用に設定されたブリッジドメイン (hw-proxy以外) ・No IP routing ・レイヤ3不明なマルチ キャスト:フラッディン グ(最適化されたマルチ キャストフラッディン グでも、Microsoft NLB トラフィックがフラッ ディングされる) ・IGMP スヌーピング設 定:該当なし 	 ・不明なユニキャストフ ラッディング用に設定されたブリッジドメイン (hw-proxy 以外) ・No IP routing ・レイヤ3不明なマルチ キャスト:オプションで すが、将来の互換性のために設定可能 ・クエリア設定:オプション ですが、将来の互換性のために記載す。ブリッジドメインの下にサブネットを設定します。IP ルーティングは不要です。 ・IGMP スヌーピング設定:オプションですが、 将来の互換性のためにイネーブルにできます。
外部ルータ ARP テーブルの 設定	 ・特別な ARP 設定なし ・外部ルータが VIP から VMAC へのマッピング を学習する 	ユニキャスト VIP からマル チキャスト MAC へのスタ ティック ARP 設定	ユニキャスト VIP からマル チキャスト MAC へのスタ ティック ARP 設定

リリース4.1以降、MicrosoftNLBサーバを接続するための設定は、次の一般的なタスクで構成 されています。Cisco ACI

1

- VRF の設定。出力または入力モードで VRF を設定できます。
- Microsoft NLB サーバのブリッジ ドメイン (BD) を設定します。ハードウェア プロキシ モードではなく、フラッディング モードでL2 ユニキャストを使用します。
- 同じ VIP を共有するすべての Microsoft NLB サーバの EPG を定義します。この EPG を以前に定義した BD に関連付ける必要があります。
- EPG でサブネットとして Microsoft NLB VIP を入力します。Microsoft NLB は、次のモード で設定できます。
 - ユニキャストモード: Microsoft NLB VIP 設定の一部としてユニキャスト MAC アドレスを入力します。このモードでは、クライアントから Microsoft NLB VIP へのトラフィックは、Microsoft NLB BD 内のすべての EPG にフラッディングされます。
 - マルチキャストモード: Microsoft NLB VIP 自体の設定時にマルチキャスト MAC アドレスを入力します。Microsoft NLB EPG の静的ポートに移動し、Microsoft NLB サーバが接続されている EPG ポートに Microsoft NLB マルチキャスト MAC を追加します。このモードでは、トラフィックはスタティック MAC バインディングを持つポートに転送されます。
 - IGMPモード: Microsoft NLB VIP 自体の設定時に Microsoft NLB グループ アドレスを 入力します。このモードでは、クライアントから Microsoft NLB VIP へのトラフィッ クは、Microsoft NLB グループ アドレスの IGMP Join を受信するポートに転送されま す。
- Microsoft NLB EPG とクライアント EPG 間のコントラクトの設定。Microsoft NLB EPG を 契約のプロバイダー側として設定し、クライアント EPG を契約のコンシューマ側として 設定する必要があります。

Microsoft NLB は、ルート プラス フラッディング ソリューションです。クライアントから Microsoft NLB VIP へのトラフィックは、まずコンシューマ ToR スイッチでルーティングされ、 次に Microsoft NLB BD でプロバイダー ToR スイッチに向けてフラッディングされます。

トラフィックがコンシューマ ToR スイッチを出ると、トラフィックはフラッディングされ、 コントラクトはフラッディングトラフィックに適用できません。したがって、契約の適用はコ ンシューマ ToR スイッチで行う必要があります。

入力モードの VRF の場合、境界リーフスイッチ(コンシューマ ToR スイッチ)にポリシーが ないため、L3Out から Microsoft NLB EPG への VRF 内トラフィックがコンシューマ ToR スイッ チでドロップされることがあります。この問題を回避するには、次のいずれかのオプションを 使用します。

- オプション1:出力モードで VRF を設定します。出力モードで VRF を設定すると、ポリシーは境界リーフスイッチにダウンロードされます。
- オプション2: Microsoft NLB EPG と L3Out の L3external を優先グループに追加します。ト ラフィックは、コンシューマ ToR スイッチのデフォルト許可ポリシーにヒットします。
- オプション3:アップ状態の未使用ポート、または境界リーフスイッチ上のMicrosoftNLB サーバに接続されているポートにMicrosoftNLBEPGを展開します。これにより、Microsoft

NLB EPG は境界リーフ スイッチのローカル エンドポイントになります。ポリシーはロー カル エンドポイント用にダウンロードされるため、境界リーフ スイッチにはポリシーが ダウンロードされます。

オプション4:共有サービスを使用します。プロバイダーの Microsoft NLB VRF とは異なる、コンシューマ VRF に L3Out を展開します。Microsoft NLB EPG の Microsoft NLB VIP の場合は、[VRF 間で共有(Shared VRFs)]ボックスをオンにします。コンシューマ VRF からの L3Out と Microsoft NLB EPG 間のコントラクトを設定します。共有サービスを使用すると、ポリシーは境界リーフスイッチにダウンロードされます。

次の表に、Microsoft NLB モードでサポートされる EPG および BD 構成の詳細を示します。

表 6: Cisco ACI Microsoft NLB モードの EPG および BD の設定

	ユニキャスト モード	マルチキャスト モード	IGMP モード
ブリッジ ドメインの設定	 IP ルーティング 不明なユニキャストフ ラッディング用に設定されたブリッジドメイン (hw-proxy 以外) ブリッジドメインの MAC アドレスは変更しないでください。 	 IP ルーティング 不明なユニキャストフ ラッディング用に設定されたブリッジドメイン (hw-proxy 以外) ブリッジドメインの MAC アドレスは変更しないでください。 	 IP ルーティング 不明なユニキャストフ ラッディング用に設定されたブリッジドメイン (hw-proxy 以外) ブリッジドメインの MAC アドレスは変更しないでください。
EPG の設定	・VIP のサブネット ・サブネットの一部として 定義されたユニキャスト MAC アドレス	 ・VIP のサブネット ・サブネットの一部として 定義されたマルチキャス ト MAC アドレス ・サーバが存在するポート へのスタティック バイ ンディング ・各パスのスタティック グループ MAC アドレス 	 VIP のサブネット MAC アドレスを入力する必要はありません ダイナミック グループまたはスタティック グループを選択できます スタティック グループオプションを選択した場合は、スタティック パスを入力し、各パスにマルチキャスト グループを入力します。
VMM ドメイン	VMM ドメインを入力できま す。	マルチキャスト モードには スタティック パスが必要で あるため、この状況では VMM ドメインを使用できま せん。	ダイナミック グループ モー ドでは、VMM ドメインを使 用できます。

Microsoft Network Load Balancing の注意事項と制限事項

次は、Microsoft Network Load Balancing (NLB)の注意事項と制限事項です。

- ・ブリッジドメインのポリシー>の詳細/トラブルシューティングプロパティで、Microsoft NLB VIP アドレスがそのブリッジドメインのいずれかの EPG で設定されている場合は、 [マルチキャスト SMAC / ブを使用して ARP をドロップする] を無効にする必要があります。
- ブリッジドメインのマルチデスティネーションフラッディングがドロップに設定されている場合、Microsoft NLB はサポートされません。
- ・レイヤ3マルチキャストはサポートされていません(Microsoft NLB BD で PIM を有効に することはできません)。
- IGMP の場合、許容されるモードグループは IPv4 です(IPv6 はサポートされません)。
- EX で終了する名前の Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ、およびそれ以降のみがサポートされています。
- Microsoft NLB では、共有サービスおよびマイクロセグメント(uSeg) EPG がサポートされています。
- ・Cisco ACI マルチサイト は現在サポートされていません。
- レイヤ2不明ユニキャストフラッディングモードでMicrosoftNLBを設定する必要があります。

代わりにブリッジドメインをハードウェアプロキシ用に設定すると、Cisco ACI はブリッジドメインの設定を修正することでクリアされる障害を発生させます。ブリッジドメインがハードウェアプロキシ用に誤って設定されたままの場合、ACI は 30 秒ごとに障害のある設定を起動しようとしますが、これはスイッチにとって不要なオーバーヘッドです。

- ・デフォルトの SVI MAC アドレスを使用して Microsoft NLB ブリッジ ドメインを設定する 必要があります。レイヤ3 設定では、ブリッジ ドメインの MAC アドレスをデフォルト設 定の 00:22:BD:F8:19:FF に設定する必要があります。Microsoft NLB ブリッジ ドメインのこ のデフォルト SVI MAC アドレスは変更しないでください。
- ・ファブリックあたり 128の Microsoft NLB VIP のハードウェア制限があります。
- Microsoft NLB用に設定された仮想サーバは、すべてのモード(ユニキャスト、マルチキャスト、および IGMP)で静的バインディングを使用してに接続できます。Cisco ACI
- Microsoft NLB 用に設定された仮想化されたサーバは、ユニキャストモードと IGMP モードの VMM 統合を介してCisco ACIに接続できます。
- Microsoft NLB ユニキャスト モードは、エンドホスト モードの Cisco UCS B シリーズ ブ レード サーバの背後にある VMM 統合ではサポートされません。

ユニキャスト モードの Microsoft NLB は、クラスタ バウンド パケットの配信について不明なユニキャストのフラッディングに依存します。ユニキャストモードは、ファブリック

インターコネクトがエンドホスト モードの場合、Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバ では機能しません。このモードでは、不明なユニキャストフレームがフラッディングされ ないためです。エンドホスト モードでの Cisco UCS B シリーズ ブレード サーバのレイヤ 2 転送動作の詳細については、以下を参照してください。

https://www.cisco.com/c/en/us/solutions/collateral/data-center-virtualization/unified-computing/whitepaper_c11-701962.html

GUIを使用したユニキャスト モードでの **Microsoft NLB**の 設定

このタスクは、ブリッジドメインのすべてのポートに Microsoft NLB がフラッドするように設 定します。

始める前に

これらの手順を進める前に次の使用可能な情報を準備してください。

- Microsoft NLB クラスタ VIP
- Microsoft NLB クラスタ MAC アドレス

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenant)]>[tenant_name]>[アプリ ケーション プロファイル (Application Profiles)]> [app_profile_name]>[アプリケーション EPG (Application EPGs)]>[application_EPG_name]>[サブネット (Subnets)]の順に選択し ます。
- ステップ2 Subnets を右クリックして、Create EPG Subnet を選択します。
- **ステップ3** Create EPG Subnet ダイアログ ボックスで、次のフィールドに入力します。
 - a) **Default Gateway IP** フィールドで Microsoft NLB cluster VIP を入力します。 たとえば、192.0.2.1/32 です。
 - b) Scope 領域で、共有サービスに Shared between VRFs のチェックをオンにします。 選択されている場合は、Private to VRF のチェックをオフにします。
 - c) Subnet Control で No Default SVI Gateway チェックボックスをオンにします。
 - d) Type Behind Subnet 領域で EpNlb をクリックします。

[モード (Mode)]フィールドが表示されます。

e) [モード (Mode)] ドロップダウン リストから、[ユニキャスト モードの NLB (NLB in unicast mode)] を選択します。
MAC Address フィールドが表示されます。

f) [MAC アドレス (MAC Address)] フィールドに Microsoft NLB クラスタ MAC アドレスを 入力します。

たとえば、00:01:02:03:04:05です。

ステップ4 [送信 (Submit)]をクリックします。

GUI を使用したマルチキャスト モードでの Microsoft NLB の設定

このタスクは、ブリッジドメインの特定のポートでのみ Microsoft NLB がフラッドするように 設定します。

始める前に

これらの手順を進める前に次の使用可能な情報を準備してください。

- Microsoft NLB クラスタ VIP
- Microsoft NLB クラスタ MAC アドレス

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenant)]>[tenant_name]>[アプリ ケーション プロファイル (Application Profiles)]> [app_profile_name]>[アプリケーション EPG (Application EPGs)]>[application_EPG_name]>[サブネット (Subnets)]の順に選択し ます。
- ステップ2 Subnets を右クリックして、Create EPG Subnet を選択します。
- **ステップ3** Create EPG Subnet ダイアログ ボックスで、次のフィールドに入力します。
 - a) **Default Gateway IP** フィールドで Microsoft NLB cluster VIP を入力します。 たとえば、192.0.2.1/32 です。
 - b) Scope 領域で、共有サービスに Shared between VRFs のチェックをオンにします。 選択されている場合は、Private to VRF のチェックをオフにします。
 - c) Subnet Control で No Default SVI Gateway チェックボックスをオンにします。
 - d) Type Behind Subnet 領域で EpNlb をクリックします。
 - [モード (Mode)]フィールドが表示されます。

 e) [モード(Mode)] ドロップダウン リストから、[スタティック マルチキャスト モードの NLB(NLB in static multicast mode)] を選択します。

MAC Address フィールドが表示されます。

f) [MAC アドレス (MAC Address)] フィールドに Microsoft NLB クラスタ MAC アドレスを 入力します。

マルチキャスト モードの Microsoft NLB クラスタ MAC アドレスの場合、クラスタ MAC アドレスは 03 で始まる必要があります。

たとえば、03:BF:01:02:03:04 です。

- g) マルチキャストモードでこのフィールドに入力した Microsoft NLB クラスタの MAC アドレスをコピーします。
- ステップ4 [送信(Submit)]をクリックします。`
- ステップ5 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenant)][*tenant_name*]>[アプリケー ション プロファイル (Application Profiles)]>[*application_profile_name*]>[アプリケーション EPG (Application EPGs)]>[*application_EPG_name*]>[スタティックポート (Static Ports)]> [*static_port*]の順に選択します。

ブリッジドメインで Microsoft NLB をフラッドに設定するスタティック ポートを選択します。

- ステップ6 このポートのスタティックパスページで、次のフィールドに入力します。
 - a) [NLB スタティック グループ (NLB Static Group)]領域で[+] (Create) をクリックし、コ ピーした MAC アドレスを [MAC アドレス (Mac Address)]フィールドに貼り付けます。
 3.g (50 ページ)
 - b) [MAC アドレス (Mac Address)] フィールドの下にある [更新 (Update)] をクリックしま す。
- ステップ7 [スタティックパス (Static Path)]ページで、[送信 (Submit)]をクリックします。

この Microsoft NLB クラスタ MAC アドレスへのトラフィックは、このスタティック ポートに送信されます。

GUIを使用した IGMP モードでの Microsoft NLB の設定

このタスクは、ブリッジドメインの特定のポートでのみ Microsoft NLB がフラッドするように 設定します。

始める前に

これらの手順を進める前に次の使用可能な情報を準備してください。

• Microsoft NLB クラスタ VIP

手順

- ステップ1 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenant)]>[tenant_name]>[アプリ ケーション プロファイル (Application Profiles)]> [app_profile_name]>[アプリケーション EPG (Application EPGs)]>[application_EPG_name]>[サブネット (Subnets)]の順に選択し ます。
- ステップ2 Subnets を右クリックして、Create EPG Subnet を選択します。
- ステップ3 Create EPG Subnet ダイアログ ボックスで、次のフィールドに入力します。
 - a) **Default Gateway IP** フィールドで Microsoft NLB cluster VIP を入力します。 たとえば、192.0.2.1/32 です。
 - b) Scope 領域で、共有サービスに Shared between VRFs のチェックをオンにします。 選択されている場合は、Private to VRF のチェックをオフにします。
 - c) Subnet Control で No Default SVI Gateway チェックボックスをオンにします。
 - d) Type Behind Subnet 領域で EpNlb をクリックします。

[モード (Mode)] フィールドが表示されます。

e) [モード (Mode)] ドロップダウン リストから、[IGMP モードの NLB (NLB in IGMP mode)]を選択します。

[グループ ID (Group Id)]フィールドが表示されます。

f) [グループ ID (Group Id)] フィールドに、Microsoft NLB マルチキャスト グループ アドレ スを入力します。

Microsoft NLB マルチキャスト グループ アドレスの場合、アドレスの最後の2オクテット は、インスタンス クラスタ IP アドレスの最後の2オクテットに対応します。たとえば、 インスタンス クラスタの IP アドレスが 10.20.30.40 の場合、このフィールドに入力する Microsoft NLB マルチキャスト グループ アドレスは 239.255.30.40 になります。

ステップ4 [送信 (Submit)] をクリックします。`

Microsoft NLB クラスタ VIP へのトラフィックは、APIC から静的に、または NLB クラスタか らの IGMP 参加に基づいて動的に設定された発信インターフェイス リストにフラッディングさ れます。

ステップ5 スタティック結合とダイナミック結合のどちらを使用するかを決定します。

スタティック結合とダイナミック結合を組み合わせて使用できます。一部のポートはスタティック結合を使用でき、他のポートはダイナミック結合を使用できます。

- Dinamic Join:ダイナミック結合では、それぞれのポートでMicrosoft NLB クラスタによって結合が送信され、スイッチはその発信インターフェイスリストを使用して動的に起動します。
- Static Join:スタティック結合では、Microsoft NLB クラスタ VIP へのトラフィックは、次の手順で設定したポートに送信されます。

スタティック結合を使用する場合:

- 1. [グループID (Group Id)]フィールドに入力した Microsoft NLB マルチキャストグルー プアドレスをコピーします。3.f (51 ページ)
- [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenant)]>[tenant_name]>
 [アプリケーション プロファイル (Application Profiles)]> [app_profile_name]>[アプリケーション EPG (Application EPGs)]> [application_EPG_name]>[スタティックポート (Static Ports)]> [static_port]の順に選択します。

ブリッジドメインで Microsoft NLB をフラッドに設定するスタティック ポートを選択 します。

- 3. このポートのスタティックパスページで、次のフィールドに入力します。
 - [IGMP スヌープスタティック グループ(IGMP Snoop Static Group)]領域で[+] (作成(Create))をクリックし、コピーしたMACアドレスを[グループアドレス (Group Address)]フィールドに貼り付けます。3.f (51ページ)
 - [グループアドレス(Group Address)]フィールドの下にある[更新(Update)]を クリックします。
- 4. スタティック パス ページで [送信 (Submit)] をクリックします。

ブリッジ ドメインではデフォルトで IGMP スヌーピングがオンになっています。これは、ブ リッジ ドメインに関連付けられた IGMP スヌーピングポリシー「デフォルト」により、ポリ シーの管理状態として [有効化(Enabled)] になるためです。詳細については、GUI を使用し た IGMP スヌーピング ポリシーの設定 (57 ページ)を参照してください。



IGMP スヌーピング

- Cisco APIC および IGMP スヌーピングについて (53 ページ)
- IGMP スヌーピング ポリシーの設定と割り当て (57 ページ)
- IGMP スヌーピングの静的ポート グループの有効化 (59 ページ)
- IGMP スヌープ アクセス グループの有効化 (61 ページ)

Cisco APIC および IGMP スヌーピングについて

ACI ファブリックに IGMP スヌーピングを実装するには

(注)

ジブリッジドメインで IGMP スヌーピングをディセーブルにしないことを推奨します。IGMP ス ヌーピングをディセーブルにすると、ブリッジドメインで不正なフラッディングが過度に発生 し、マルチキャストのパフォーマンスが低下する場合があります。

IGMP スヌーピング ソフトウェアは、ブリッジ ドメイン内の IP マルチキャスト トラフィック を調べて、該当する受信側が常駐するポートを検出します。IGMP スヌーピングではポート情 報を利用することにより、マルチアクセスブリッジドメイン環境における帯域幅消費量を削減 し、ブリッジドメイン全体へのフラッディングを回避します。デフォルトでは、IGMP スヌー ピングがブリッジ ドメインでイネーブルにされています。

この図は、ホストへの接続を持つ ACI リーフ スイッチに含まれる IGMP ルーティング機能と IGMP スヌーピング機能を示しています。IGMP スヌーピング機能は、IGMP メンバーシップ レポートをスヌーピングし、メッセージを残し、必要な場合にのみIGMPルータ機能に転送し ます。 図 6: IGMP スヌーピング機能 Spine Spine Switch2 Switch1 ACI ACI Leaf Leaf Leaf Switch1 Switch2 Switch3 ACI, IGMP Router Functionality IGMP IGMP Snooping Messages 쭉 Host Host 5011

IGMP スヌーピングは、IGMPv1、IGMPv2、およびIGMPv3 コントロールプレーンパケットの 処理に関与し、レイヤ 3 コントロール プレーン パケットを代行受信して、レイヤ 2 の転送処 理を操作します。

IGMP スヌーピングには、次の独自機能があります。

- 宛先および送信元の IP アドレスに基づいたマルチキャストパケットの転送が可能な送信
 元フィルタリング
- •MACアドレスではなく、IPアドレスに基づいたマルチキャスト転送
- ・MACアドレスに基づいた代わりのマルチキャスト転送

ACIファブリックは、RFC 4541の2.1.1 項「IGMP 転送ルール」に記載されているガイドライン に従って、プロキシ レポーティング モードでのみ IGMP スヌーピングをサポートします。

```
IGMP
```

その結果、ACI ファブリックは送信元 IP アドレス 0.0.0.0 の IGMP レポートを送信します。

(注) IGMP スヌーピングの詳細については、RFC 4541 を参照してください。

仮想化のサポート

IGMP スヌーピングに対して、複数の仮想ルーティングおよび転送(VRF)インスタンスを定 義できます。

リーフスイッチでは、showコマンドにVRF引数を指定して実行すると、表示される情報のコンテキストを確認できます。VRF引数を指定しない場合は、デフォルトVRFが使用されます。

APIC IGMP スヌーピング機能、IGMPv1、IGMPv2、および高速リーブ機能

IGMPv1とIGMPv2は両方とも、メンバーシップレポート抑制をサポートします。つまり、同 ーサブネット上の2つのホストが同一グループのマルチキャストデータを受信する場合、他方 のホストからメンバーレポートを受信するホストは、そのレポートを送信しません。メンバー シップレポート抑制は、同じポートを共有しているホスト間で発生します。

各スイッチポートに接続されているホストが1つしかない場合は、IGMPv2の高速脱退機能を 設定できます。高速脱退機能を使用すると、最終メンバーのクエリーメッセージがホストに送 信されません。APICは、IGMP脱退メッセージを受信すると、ただちに該当するポートへの マルチキャストデータ転送を停止します。

IGMPv1 では、明示的な IGMP 脱退メッセージが存在しないため、 APIC の IGMP スヌーピン グ機能は、特定のグループについてマルチキャストデータを要求するホストが存続しないこと を示すために、メンバーシップ メッセージ タイムアウトを使用する必要があります。



(注) 高速脱退機能がイネーブルになっている場合、他のホストの存在は確認されないため、IGMP スヌーピング機能は、最終メンバーのクエリーインターバル設定を無視します。

APIC IGMP スヌーピング ファンクション キーと IGMPv3

APIC での IGMPv3 スヌーピング ファンクションでは、完全な IGMPv3 スヌーピングがサポートされています。これにより、IGMPv3 レポートの(S、G) 情報に基づいて、抑制されたフラッディングが提供されます。この送信元ベースのフィルタリングにより、デバイスは対象のマルチキャスト グループにトラフィックを送信する送信元に基づいて、マルチキャストトラフィックの宛先ポートを制限できます。

デフォルトでは、IGMP スヌーピング機能は、ブリッジ ドメインでは、各 VLAN ポート上の ホストを追跡します。この明示的なトラッキング機能は、高速脱退メカニズムをサポートして います。IGMPv3ではすべてのホストがメンバーシップレポートを送信するため、レポート抑 制機能を利用すると、デバイスから他のマルチキャスト対応ルータに送信されるトラフィック 量を制限できます。レポート抑制を有効にしていても、IGMPv1またはIGMPv2ホストが同じ グループをリクエストしなかった場合、IGMPスヌーピング機能はプロキシレポートを作成し ます。プロキシ機能により、ダウンストリームホストが送信するメンバーシップレポートか らグループステートが構築され、アップストリームクエリアからのクエリーに応答するため にメンバーシップレポートが生成されます。

IGMPv3 メンバーシップ レポートには ブリッジ ドメインのグループ メンバの一覧が含まれて いますが、最終ホストが脱退すると、ソフトウェアはメンバーシップクエリーを送信します。 最終メンバーのクエリーインターバルについてパラメータを設定すると、タイムアウトまでに どのホストからも応答がなかった場合、IGMP スヌーピングはグループ ステートを削除しま す。

Cisco APIC および IGMP スヌーピング クエリア関数

マルチキャスト トラフィックをルーティングする必要がないために、Protocol-Independent Multicast (PIM) がインターフェイス上でディセーブルになっている場合は、メンバーシップ クエリーを送信するように IGMP スヌーピング クエリア機能を設定する必要があります。 APIC、IGMP スヌープ ポリシー内で定義マルチキャストのソースとレシーバが含まれている ブリッジ ドメインでクエリアがないその他のアクティブなクエリアします。

Cisco ACI はデフォルトで、IGMP スヌーピングが有効になっています。さらに、ブリッジド メイン サブネット制御は、「クエリア IP」を選択、リーフスイッチによって、クエリアとし て動作およびクエリパケット送信を開始します。セグメントは、明示的なマルチキャストルー タ (PIM が有効になっていません) があるないときに ACI Leaf スイッチでクエリアを有効にす る必要があります。ブリッジドメインで、クエリアが設定されている、使用される IP アドレ スマルチキャストのホストが設定されている同じサブネットからにする必要があります。



(注) クエリアのIPアドレスは、ブロードキャストIPアドレス、マルチキャストIPアドレス、または0 (0.0.0.0) にしないでください。

IGMP スヌーピング クエリアがイネーブルな場合は、定期的に IGMP クエリーが送信されるため、IP マルチキャスト トラフィックを要求するホストから IGMP レポート メッセージが発信 されます。IGMP スヌーピングはこれらの IGMP レポートを待ち受けて、適切な転送を確立し ます。

IGMP スヌーピング クエリアは、RFC 2236 に記述されているようにクエリア選択を実行しま す。クエリア選択は、次の構成で発生します。

- ・異なるスイッチ上の同じ VLAN に同じサブネットに複数のスイッチ クエリアが設定されている場合。
- ・設定されたスイッチクエリアが他のレイヤ3SVIクエリアと同じサブネットにある場合。

APIC IGMP スヌーピング機能の注意事項と制約事項

APIC IGMP スヌーピング機能に関する注意事項および制約事項は次のとおりです:

- ・レイヤ3IPv6マルチキャストルーティングはサポートされていません。
- レイヤ2IPv6マルチキャストパケットは、着信ブリッジドメインでフラッディングされます。
- IGMPv3 スヌーピングは、ブリッジドメインで PIM が有効になっている場合にのみ、グループと送信元エントリに基づいてマルチキャストを転送します。PIM が有効になっていない場合、転送はグループのみに基づいて行われます。

IGMP スヌーピングポリシーの設定と割り当て

拡張 GUI のブリッジ ドメインへの IGMP スヌーピング ポリシーの設定 と割り当て

IGMPスヌーピング機能を実装するには、IGMPスヌーピングポリシーを設定し、そのポリシーを1つまたは複数のブリッジドメインに割り当てます。

GUI を使用した IGMP スヌーピング ポリシーの設定

IGMP 設定を1つまたは複数のブリッジドメインに割り当てることが可能な IGMP スヌーピン グポリシーを作成します。

手順

- **ステップ1** [テナント] タブと、IGMPP スヌーピング サポートを設定することを意図したブリッジ ドメインのテナントの名前をクリックします。
- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]> [IGMP スヌープ (IGMP Snoop)]をクリックします。
- ステップ3 [IGMP スヌープ] を右クリックし、[IGMP スヌープポリシーの作成] を選択します。
- ステップ4 Create IGMP Snoop Policy ダイアログで、次のようにポリシーを設定します。
 - a) [Name] フィールドと [Description] フィールドに、ポリシーの名前と説明をそれぞれ入力 します。
 - b) [管理状態(Admin State)]フィールドで[有効化(Enables)]または[無効化(Disabled)] を選択して、この特定のポリシーの IGMP スヌーピングを有効または無効にします。
 - c) [ファストリーブ(Fast Leave)]を選択または選択解除し、このポリシーを通してクエ リが即時ドロップする IGMP V2 を有効または無効にします。

- d) [**クエリアの有効化(Enable querier**)]を選択して、このポリシーを通して IGMP クエリ ア アクティビティを有効または無効にします。
 - (注) このオプションを効果的を有効にするには、ポリシーを適用するブリッジドメインに割り当てられるサブネットで[サブネット制御: クエリア IP] 設定も有効にする必要があります。この設定のプロパティページへのナビゲーションパスは次のとおりです。[テナント(Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[ブリッジドメイン(Bridge Dmains)]>
 [bridge_domain_name]>[サブネット(Subnets)]>[subnet_subnet]
- e) [クエリア バージョン (Querier Version)]フィールドで、[バージョン2 (Version 2)]ま たは[バージョン3 (Version 3)]を選択して、この特定のポリシーの IGMP スヌーピン グ クエリア バージョンを選択します。
- f) このポリシーの [最後のメンバのクエリ間隔] 値を秒で指定します。

IGMPv2 リーブレポートを受信したら、IGMP がこの値を使用します。これは、少なく とも1 個以上のホストをグループに残すことを意味します。リーブレポートを受信した 後、インターフェイスが IGMP ファストリーブに設定されていないか確認し、されてい ない場合はout-of-sequence クエリを送信します。

g) このポリシーの [**クエリ間隔**] 値を秒で指定します。

この値は、グループ内でレポートを確認できない場合、IGMP 機能が特定の IGMP 状態 を保存する合計時間を定義するために使用されます。

h) このポリシーの [**クエリの応答間隔**] 値を秒で指定します。

ホストがクエリパケットを受信すると、最大応答所要時間以下のランダムな値でカウン トが開始されます。このタイマーの期限が切れると、ホストはレポートで応答します。

i) このポリシーの [**クエリ カウントの開始**] を指定します。

スタートアップクエリーインターバル中に送信される起動時のクエリー数。有効範囲は 1~10です。デフォルトは2です。

j) このポリシーの [**クエリ間隔の開始**] を秒で指定します。

デフォルトでは、ソフトウェアができるだけ迅速にグループステートを確立できるよう に、このインターバルはクエリーインターバルより短く設定されています。有効範囲は 1~18,000秒です。デフォルト値は31秒です。

ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。

新しい IGMP スヌープ ポリシーは、[プロトコル ポリシー - IGMP スヌープ] サマリ ページに 一覧になっています。

次のタスク

このポリシーを有効にするには、ブリッジドメインに割り当てます。

GUI を使用した IGMP スヌーピング ポリシーのブリッジ ドメインへの 割り当て

IGMP スヌーピングポリシーをブリッジドメインに割り当てると、そのブリッジドメインは、 そのポリシーで指定された IGMP スヌーピング ポリシーを使用するように設定されます。

始める前に

- テナントのブリッジドメインを設定します。
- •ブリッジ ドメインにアタッチする IGMP スヌーピング ポリシーを設定します。



 (注) 割り当てられるポリシーで Enable Querier オプションを効果的に有効にするには、ポリシーを 適用するブリッジ ドメインに割り当てられるサブネットで Subnet Control: Querier IP 設定も 有効にする必要があります。この設定があるプロパティ ページへのナビゲーション パスは、 Tenants > tenant_name > Networking > Bridge Domains > bridge_domain_name > Subnets > subnet_name です。

手順

- ステップ1 テナントのブリッジ ドメインで IGMP スヌープ ポリシーを設定するには、APIC の Tenants タ ブをクリックして、テナントの名前を選択します。
- **ステップ2** APIC のナビゲーション ウィンドウで Networking > Bridge Domains をクリックして、ポリシー 指定の IGMP スヌープ設定を適用するブリッジ ドメインを選択します。
- ステップ3 メインの Policy タブで、IGMP Snoop Policy フィールドまでスクロールして、ドロップダウン メニューから適切な IGMP ポリシーを選択します。
- ステップ4 Submit をクリックします。

ターゲットのブリッジ ドメインは、指定された IGMP スヌーピング ポリシーに関連付けられ ます。

IGMP スヌーピングの静的ポート グループの有効化

静的ポート グループの IGMP スヌーピングを有効にする

IGMP 静的ポートのグループ化により以前アプリケーション EPG に静的に割り当てられた事前 プロビジョニングを有効にして、スイッチ ポートが IGMP マルチキャスト トラフィックを受 信および処理できます。この事前プロビジョニングは、通常 IGMP スヌーピング スタックが ポートを動的に学習するときに発生する参加遅延を防止します。 静的グループ メンバーシップは、アプリケーション EPG に割り当てられている静的ポートでのみ事前プロビジョニングできます。

APIC GUI、CLI、および REST API インターフェイスを通じて、静的グループメンバーシップ を設定できます。

前提条件:静的ポートに EPG を導入する

ポートでIGMPスヌープ処理を有効にするには、前提条件として、ターゲットのポートを、関 連付けられている EPG に静的に割り当てる必要があります。

ポートの静的な導入は、APIC GUI、CLI、または REST API インターフェイスを通じて構成で きます。詳細については、『*Cisco APIC* レイヤ2ネットワーキング設定ガイド』の次のトピッ クを参照してください:

• GUI を使用して特定のノードまたはポートへ EPG を導入する

• NX-OS スタイルの CLI を使用した APIC の特定のポートへの EPG の導入

• REST API を使用した APIC の特定のポートへの EPG の導入

GUI を使用した、スタティック ポートでの IGMP スヌーピングとマル チキャストの有効化

IGMP スヌーピングとマルチキャストは、EPG に静的に割り当てられているポートで有効にで きます。その後、これらのポートで有効にされている IGMP スヌーピングとマルチキャストへ のアクセスを許可または拒否されるユーザのアクセスグループを作成し、割り当てることがで きます。

始める前に

EPG の IGMP スヌーピングおよびマルチキャストを有効にする前に、次のタスクを実行します:

・この機能を有効にし、その EPG に静的に割り当てるインターフェイスを指定します。



 (注) スタティックポートの割り当てに関する詳細は、『Cisco APIC レ イヤ2ネットワーキング設定ガイド』の「GUI を使用した特定の ノードまたはポートで EPG を展開する」を参照してください。

• IGMP スヌーピングとマルチキャスト トラフィックの受信者とする IP アドレスを指定します。

手順

ステップ1 Tenant > *tenant_name* > Application Profiles > *application_name* > Application EPGs > *epg_name* > Static Ports をクリックします。

このスポットに移動すると、ターゲット EPG に静的に割り当てたすべてのポートが表示されます。

- ステップ2 IGMP スヌーピングのグループ メンバーに静的に割り当てるポートをクリックします。 Static Path ページが表示されます。
- **ステップ3** IGMP スヌープ スタティック グループの表で、+ をクリックして、IGMP スヌープ アドレス グループにエントリを追加します。

IGMP スヌープアドレスグループにエントリを追加すると、ターゲットの静的ポートが指定されたマルチキャスト IP アドレスに関連付けられ、そのアドレスで受信した IGMP スヌープト ラフィックを処理できるようになります。

- a) **Group Address** フィールドに、このインターフェイスとこの EPG に関連付けるマルチキャ スト IP アドレスを入力します。
- b) 当てはまる場合には、Source Address フィールドに、マルチキャストストリームの送信元 となる IP アドレスを入力します。
- c) Submit をクリックします。

設定が完了したら、ターゲットインターフェイスは、それに関連付けられているマルチキャス ト IP アドレスに送信される IGMP スヌーピング プロトコル トラフィックを処理できるように なります。

(注) ターゲットのスタティック ポートにさらにマルチ キャスト アドレスを関連付ける には、この手順を繰り返します。

ステップ4 [送信 (Submit)]をクリックします。

IGMP スヌープ アクセス グループの有効化

IGMP スヌープ アクセス グループの有効化

「アクセス-グループ」ができるストリームを制御するために使用任意ポート背後に参加しま す。

実際に所属するするポートの設定を適用できることを確認するには、アプリケーション EPG に静的に割り当てられているインターフェイスでアクセス グループ設定を適用できる EPG。

ルートマップベースのアクセスグループのみが許可されます。

APIC GUI、CLI、および REST API インターフェイスを通じて、IGMP スヌープ アクセス グ ループを設定できます。

GUI を使用して、IGMP スヌーピングとマルチキャストへのグループ アクセスを有効にする

EPGに静的に割り当てられたポートでIGMPスヌーピングとマルチキャストを有効にしたら、 ユーザのアクセスグループを作成して割り当て、それらのポートで有効にされたIGMPスヌー ピングとマルチキャストトラフィックへのアクセスを許可または拒否することができます。

始める前に

EPGにIGMPスヌーピングおよびマルチキャストへのアクセスを有効にする前に、この機能を 有効にし、それらを静的に EPG に割り当てるインターフェイスを識別します。

手順

ステップ1 [テナント (Tenant)]>[tenant_name]>[アプリケーション プロファイル (Application Profiles)]>[application_name]>[アプリケーションEPG (Application EPGs)]>[epg_name]> [スタティック ポート (Static Ports)] をクリックします。

このスポットに移動すると、ターゲット EPG に静的に割り当てたすべてのポートが表示されます。

- ステップ2 マルチキャスト グループ アクセスを割り当てる予定のポートをクリックして、Static Port Configuration ページを表示します。
- ステップ3 [アクション(Actions)]>[IGMP アドレス グループの作成(Create IGMP Access Group)]を クリックして、IGMP スヌープ アクセス グループ テーブルを表示します
- **ステップ4** IGMP スヌープ アクセス グループのテーブルで + をクリックして、アクセスグループのエントリを追加します。

IGMP スヌープアクセスグループのエントリを追加すると、このポートへのアクセス権を持つ ユーザグループを作成すること、それをマルチキャスト IP アドレスと関連付け、そのアドレ スで受信された IGMP スヌープトラフィックへのグループアクセスを許可または拒否するこ とができます。

a) [マルチキャスト向けルートマップポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)] を選択して、[マルチキャスト向けルートマップポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)] ウィンドウを表示します。

⁽注) スタティックポートの割り当てに関する詳細は、『Cisco APIC レイヤ2ネットワーキング設定 ガイド』の「GUI を使用した特定のノードまたはポートで EPG を展開する」を参照してくだ さい。

- b) Name フィールドで、マルチキャストトラフィックの許可または拒否の対象となるグループの名前を割り当てます。
- c) Route Maps テーブルで、+ をクリックして、ルート マップ ダイアログを表示します:
- d) Order フィールドでは、このインターフェイスに対して複数のアクセスグループを設定している場合に、このインターフェイスでのマルチキャストトラフィックへのアクセスをどの順序で許可または拒否するかを反映する番号を選択します。番号の小さいアクセスグループの方が、番号の大きいアクセスグループよりも前の順番になります。
- e) Group IP フィールドには、このアクセス グループに対してトラフィックが許可または阻止される、マルチキャスト IP アドレスを入力します。
- f) Source IP フィールドでは、当てはまる場合に、送信元の IP アドレスを入力します。
- g) Action フィールドでは、ターゲット グループのアクセスを拒否する場合には Deny を、 ターゲット グループのアクセスを許可する場合には Permit を選択します。
- h) [OK] をクリックします。
- i) [送信(Submit)] をクリックします。

設定が完了すると、設定されている IGMP のスヌープ アクセス グループは、 ターゲットの静 的ポートと、そのアドレスで受信したマルチキャストストリームへの許可または拒否アクセス を通して、マルチキャスト IP アドレスに割り当てられます。

- ・その他のアクセスグループを設定し、ターゲットの静的ポートを通してマルチ キャスト IP アドレスに関連付けるには、この手順を繰り返します。
 - ・構成されているアクセス グループの設定を確認するには、[テナント(Tenant)]>[tenant_name]>[ポリシー(Policies)]>[プロトコル(Protocol)]>[マルチキャスト向けルート マップ(Route Maps for Multicast)]>[route_map_access_group_name]を選択します。

ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。

GUI を使用して、IGMP スヌーピングとマルチキャストへのグループ アクセスを有効にする



MLD スヌーピング

この章は、次の内容で構成されています。

- Cisco APIC および MLD スヌーピングについて (65 ページ)
- •注意事項と制約事項(67ページ)
- GUIを使用した MLD スヌーピング ポリシーの設定とブリッジドメインへの割り当て(67 ページ)

Cisco APIC および MLD スヌーピングについて

マルチキャストリスナー検出(MLD)スヌーピングにより、ホストとルータ間でIPv6マルチ キャストトラフィックを効率的に配信できます。これは、MLDクエリまたはレポートを送受 信したポートのサブセットにブリッジドメイン内のIPv6マルチキャストトラフィックを制限 するレイヤ2機能です。このように、MLDスヌーピングは、マルチキャストトラフィックの 受信に関心を示しているノードがないネットワークのセグメントでは帯域幅を節約できるとい う利点があります。これにより、ブリッジドメインでフラッディングが生じることがなく、帯 域幅の使用量が削減され、ホストとルータで不要なパケット処理を節約できます。

MLD スヌーピング機能は、IGMP スヌーピングと似ていますが、MLD スヌーピング機能は IPv6マルチキャストトラフィックをスヌーピングし、MLDv1 (RFC 2710) およびMLDv2 (RFC 3810) コントロールプレーンパケットで動作します。MLD は ICMPv6 のサブプロトコルであ るため、MLD メッセージのタイプは ICMPv6 メッセージのサブセットであり、MLD メッセー ジは IPv6パケット内で先頭の Next Header 値 58 により識別されます。MLDv1 のメッセージタ イプには、リスナークエリ、マルチキャストアドレス固有 (MAS) クエリ、リスナーレポー ト、完了メッセージが含まれます。MLDv2 は、追加のクエリタイプであるマルチキャストア ドレスおよびソース固有 (MASS) クエリを除き、MLDv1 と相互運用できるように設計されて います。MLD で使用可能なプロトコル レベル タイマーは、IGMP で使用可能なものと同様で す。

次の図に、MLD スヌーピング配置のさまざまなコンポーネントを示します。



次に、図のコンポーネントについて説明します。

- MLD 送信者(送信元): IPv6 トラフィックをファブリックに送信するホスト。
- MLD レシーバ: IPv6 マルチキャストパケットの受信に関係するホスト。セッションに参加するか、セッションから離脱するかを選択できます。
- クエリア/Mルータ:定期的にクエリを送信し、グループメンバーシップデータベースを 維持するルータまたはスイッチ。クエリアは定期的にクエリーを送信して、マルチキャストストリームへの参加に関心のあるユーザを特定します。Mルータ(マルチキャストルー タ)は、ファブリック外の世界へのゲートウェイです。ファブリック内にマルチキャスト データトラフィックがある場合、そのストリームはマルチキャストルータを介してファ ブリックの外部に出ることができます。

MLD スヌーピングがディセーブルの場合、すべてのマルチキャストトラフィックは、関係があるかどうかに関係なく、すべてのポートにフラッディングされます。MLD スヌーピングがイネーブルの場合、ファブリックは MLD インタレストに基づいて IPv6 マルチキャストトラフィックを転送します。不明な IPv6 マルチキャストトラフィックは、ブリッジドメインのIPv6 L3 不明マルチキャストフラッディング設定に基づいてフラッディングされます。

不明な IPv6 マルチキャスト パケットを転送するには、次の2つのモードがあります。

 フラッディングモード:ブリッジドメイン内のすべての EPG およびすべてのポートがフ ラッディングパケットを受信します。 •OMF(最適化済みマルチキャストフラッディング)モード:マルチキャストルータポートのみがパケットを取得します。

注意事項と制約事項

MLD スヌーピング機能には、次のガイドラインと制約事項があります。

- MLD スヌーピングは、新世代 ToR スイッチでのみサポートされます。これらのスイッチ モデルでは、スイッチ名の最後に「EX」、「FX」または「FX2」が付きます。
- ファブリック全体でスヌーピングされる最大 2000 の IPv6 マルチキャスト グループのサポートが有効になります。
- ハードウェア転送は、MLDv2の送信元固有のスヌープエントリに対しても、(*、G) ルックアップで行われます。
- ・このリリースの MLD スヌーピングでは、次の機能はサポートされていません。
 - ・ブリッジドメインまたは VRF にわたる レイヤ 3 マルチキャスト ルーティングは、 IPv6 マルチキャストトラフィックではサポートされません。
 - •スタティック MLD スヌーピング エントリ
 - •ルートマップを介した MLD スヌープ エントリのアクセス フィルタ
 - VTEP (VL) の背後にある仮想エンドポイント

GUI を使用した MLD スヌーピング ポリシーの設定とブ リッジ ドメインへの割り当て

MLDスヌーピング機能を実装するには、MLDスヌーピングポリシーを設定し、そのポリシー を1つまたは複数のブリッジドメインに割り当てます。

GUI を使用した MLD スヌーピング ポリシーの設定

MLDスヌーピング設定を1つまたは複数のブリッジドメインに割り当てることが可能なMLD スヌーピング ポリシーを作成します。

手順

ステップ1 [**テナント(Tenants)**] タブと、MLD スヌーピング サポートを設定することを意図したブリッジ ドメインのテナントの名前をクリックします。

- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]> [MLD スヌープ (MLD Snoop)]をクリックします。
- ステップ3 [MLD スヌープ (MLD Snoop)]を右クリックし、[MLD スヌープ ポリシーの作成 (Create MLD Snoop Policy)]を選択します。
- ステップ4 [MLD スヌープポリシーの作成(Create MLD Snoop Policy)] ダイアログで、次のようにポリ シーを設定します。
 - a) [Name] フィールドと [Description] フィールドに、ポリシーの名前と説明をそれぞれ入力します。
 - b) [管理状態(Admin State)]フィールドで[有効化(Enables)]または[無効化(Disabled)] を選択して、このポリシー全体を有効または無効にします。

デフォルトでは、このフィールドは[無効化(Disabled)] です。

- c) [コントロール (Control)]フィールドで[ファストリーブ (Fast Leave)]を選択または選 択解除し、このポリシーを通してクエリが即時ドロップする MLD v1 を有効または無効に します。
- d) [コントロール (Control)]フィールドで [クエリアの有効化 (Enable querier)]を選択ま たは選択解除して、このポリシーを通して MLD クエリア アクティビティを有効または無 効にします。
 - (注) このオプションを効果的を有効にするには、ポリシーを適用するブリッジドメインに割り当てられるサブネットで[サブネット制御: クエリア IP] 設定も有効にする必要があります。この設定のプロパティページへのナビゲーションパスは次のとおりです。[テナント(Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[ブリッジドメイン(Bridge Dmains)]>
 [bridge_domain_name]>[サブネット(Subnets)]>[bd_subnet]
- e) このポリシーの [**クエリ間隔**] 値を秒で指定します。

クエリ間隔は、クエリアによって送信される全般的なクエリ間の間隔です。このフィール ドのデフォルトエントリは 125 秒です。

f) このポリシーの [**クエリの応答間隔**] 値を秒で指定します。

ホストがクエリパケットを受信すると、最大応答所要時間以下のランダムな値でカウント が開始されます。このタイマーの期限が切れると、ホストはレポートを出して応答しま す。

これは、ホストが MLD クエリ メッセージに応答するまでの最大応答時間を制御するため に使用されます。値を 10 秒未満に設定すると、ルータによる、グループのプルーニング がより高速に行われるようになります。ただし、ホストの応答時間が短く制限されること になるため、ネットワークのバースト性が生じます。

g) このポリシーの [最後のメンバのクエリ間隔] 値を秒で指定します。

MLDは、MLD Leave レポートを受信すると、この値を使用します。これは、少なくとも1 個以上のホストをグループに残すことを意味します。リーブ レポートを 受信した後、イ ンターフェイスが IGMP ファストリーブに設定されていないか確認し、されていない場合 は out-of-sequence クエリを送信します。 このインターバル中に応答が受信されない場合、グループステートは解除されます。この 値を小さく設定すると、グループの最終メンバーまたは送信元が脱退したことを、より短 時間で検出できます。有効範囲は1~25秒です。デフォルト値は1秒です。

- h) このポリシーの [クエリカウントの開始(Start Query Count)]の値を指定します。
 スタートアップ クエリー インターバル中に送信される起動時のクエリー数。有効範囲は 1~10です。デフォルトは2です。
- i) このポリシーの [クエリ間隔の開始] を秒で指定します。

デフォルトでは、ソフトウェアができるだけ迅速にグループステートを確立できるよう に、このインターバルはクエリーインターバルより短く設定されています。有効範囲は1 ~ 18,000 秒です。デフォルト値は31 秒です。

ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。

新しい MLD スヌープ ポリシーは、[プロトコル ポリシー - MLD スヌープ (Protocol Policies - MLD Snoop)] サマリー ページに表示されています。

次のタスク

このポリシーを有効にするには、ブリッジドメインに割り当てます。

GUI を使用した MLD スヌーピング ポリシーのブリッジ ドメインへの 割り当て

MLDスヌーピングポリシーをブリッジドメインに割り当てると、そのブリッジドメインは、 そのポリシーで指定された MLD スヌーピング ポリシーを使用するように設定されます。

始める前に

- テナントのブリッジドメインを設定します。
- ・ブリッジ ドメインにアタッチする MLD スヌーピング ポリシーを設定します。



(注)

)割り当てられるポリシーでEnable Querier オプションを効果的に有効にするには、ポリシーを 適用するブリッジドメインに割り当てられるサブネットでSubnet Control: Querier IP 設定も 有効にする必要があります。この設定のプロパティページへのナビゲーションパスは次のと おりです。Tenants>tenant_name>Networking>Bridge Dmains>bridge_domain_name>Subnets> bd_subnet

手順

- ステップ1 テナントのブリッジドメインで MLD スヌープ ポリシーを設定するには、APIC の [テナント (Tenants)]タブをクリックして、テナントの名前を選択します。
- ステップ2 APIC のナビゲーション ウィンドウで [ネットワーキング(Networking)]>[ブリッジ ドメイン(Bridge Domains)]をクリックして、ポリシー指定の MLD スヌープ設定を適用するブリッジ ドメインを選択します。
- ステップ3 メインの[ポリシー(Policy)]タブで、[MLDスヌープポリシー(MLD Snoop Policy)]フィー ルドまでスクロールして、ドロップダウンメニューから適切な MLD ポリシーを選択します。
- ステップ4 [送信 (Submit)] をクリックします。`

ターゲットのブリッジドメインは、指定された MLD スヌーピングポリシーに関連付けられます。

- **ステップ5** ブリッジ ドメインのレイヤ3 不明 IPv6 マルチキャスト宛先のノード転送パラメータを設定するには、次の手順を実行します。
 - a) 設定したブリッジドメインを選択します。
 - b) [ポリシー (Policy)]タブをクリックし、[全般 (General)]サブタブをクリックします。
 - c) [IPv6 L3 不明なマルチキャスト (IPv6 L3 Unknown Multicast)] フィールドで、[フラッド (Flood)] または [最適化済みフラッド (Optimized Flood)] を選択します。
- **ステップ6** スイッチ クエリア機能のリンクローカル IPv6 アドレスを変更するには、次の手順を実行します。
 - a) 設定したブリッジ ドメインを選択します。
 - b) [ポリシー (Policy)]タブをクリックして、[L3コンフィグレーション (L3 Configurations)] サブタブをクリックします。
 - c) [リンクローカル IPv6 アドレス(Link-local IPv6 Address)] フィールドに、必要に応じて リンクローカル IPv6 アドレスを入力します。

ブリッジ ドメインのデフォルトのリンクローカル IPv6 アドレスは、内部的に生成されま す。必要に応じて、このフィールドにブリッジ ドメインの別のリンクローカル IPv6 アド レスを設定します。



IP Multicast: IP マルチキャスト

この章は、次の内容で構成されています。

- ・レイヤ3マルチキャスト (72ページ)
- •ファブリックインターフェイスについて (75ページ)
- IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティングの有効化 (76 ページ)
- VRF GIPo の割り当て (76 ページ)
- ・指定フォワーダーとしての複数のボーダー リーフ スイッチ (77 ページ)
- PIM/PIM6 指定ルータの選定 (78 ページ)
- 非境界リーフ スイッチの動作 (79 ページ)
- アクティブな境界リーフスイッチリスト(79ページ)
- •ブート時のオーバーロード動作(79ページ)
- •ファーストホップ機能 (80ページ)
- ラストホップ (80 ページ)
- ・高速コンバージェンスモード(80ページ)
- ランデブーポイントについて (81ページ)
- Inter-VRF マルチキャストについて (82 ページ)
- •ACI マルチキャスト機能のリスト (83 ページ)
- レイヤ3IPv4/IPv6マルチキャストの設定のガイドライン、制約事項、および予想される 動作(91ページ)
- •GUIを使用したレイヤ3IPv4マルチキャストの設定 (94ページ)
- GUI を使用したレイヤ 3 IPv6 マルチキャストの設定 (97 ページ)
- BGP IPv4/IPv6 マルチキャストアドレスファミリについて (98 ページ)
- マルチキャストフィルタリングについて(103ページ)
- SVI L3Out のレイヤ3マルチキャストについて(111ページ)
- PIM インターフェイスが作成されなかった理由の判別 (118ページ)

レイヤ3マルチキャスト

(注) Cisco APIC リリース 4.2(1) 以前は、Cisco ACI はレイヤ 3 マルチキャスト IPv4 をサポートしていました。Cisco APIC リリース 4.2(1) は、IPv6 マルチキャストを使用してマルチキャストアプリケーションを接続するためのサポートを追加します。IPv6 マルチキャストを使用すると、IPv6 マルチキャストアプリケーションは、Cisco ACI ファブリックの送信者から外部の受信者にマルチキャストを送信できます。

この章の情報は、レイヤ3IPv6マルチキャストの追加サポートを反映するように更新されました。

ACIファブリックでは、ほとんどのユニキャストと IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティングが 同じ境界リーフスイッチで稼働しており、ユニキャスト ルーティング プロトコル上でマルチ キャスト プロトコルが稼働しています。

このアーキテクチャでは、境界リーフスイッチのみが完全な Protocol Independent Multicast (PIM)または PIM6 プロトコルを実行します。非境界リーフスイッチは、インターフェイス 上でパッシブモードの PIM/PIM6 を実行します。これらは、その他の PIM/PIM6 ルータとピア リングしません。境界リーフスイッチは、L3 Out を介してそれらの接続された他の PIM/PIM6 ルータとピアリングし、またそれら相互にもピアリングします。

次の図は、IPv4/IPv6 マルチキャスト クラウド内のルータ 1 とルータ 2 に接続する境界リーフ スイッチ 1 と境界リーフ スイッチ 2 を示しています。IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティング を必要とするファブリック内の各 Virtual Routing and Forwarding (VRF) は、それぞれ別に外部 マルチキャスト ルータとピアリングします。



図 7:マルチキャスト クラウドの概要

リモート リーフ スイッチでのレイヤ3マルチキャストのサポート

リリース 5.1(3) より以前では、ローカル リーフ スイッチのシングルポッド、マルチポッド、 およびマルチサイトトポロジでのレイヤ3マルチキャストルーティングがサポートされてい ました。リリース 5.1(3) 以降では、リモートリーフスイッチのレイヤ3マルチキャストルー ティングもサポートされます。このサポートの一部として、リモートリーフスイッチは境界 リーフスイッチまたは非境界リーフスイッチとして機能できます。

新しくサポートされたリモート リーフ スイッチと以前にサポートされたローカル リーフ ス イッチには、レイヤ3マルチキャスト ルーティングまたは Cisco の実装に関して違いはありま せん。Cisco APICACI マルチサイト オーケストレータこの2つの主な違いは、トラフィックの 転送方法に基づいています。

- 単一ファブリック内のローカル リーフ スイッチ間のレイヤ3マルチキャストは、外部宛 先IPアドレスが VRF GIPoマルチキャストアドレスである VXLAN マルチキャストパケッ トとして転送されます。
- リモートリーフスイッチとの間で送受信されるレイヤ3マルチキャストパケットは、 VXLANユニキャストヘッドエンド複製パケットとしてカプセル化されます。

レイヤ3マルチキャストルーティングがVRFに対して有効になっている場合、VRF GIPoマル チキャストアドレスは、VRF が展開されているすべてのリーフスイッチでプログラムされま す。レイヤ3マルチキャストパケットは、ポッド全体またはポッド間でマルチキャストパケッ トとして転送され、VRF が導入されているすべてのリーフスイッチで受信されます。リモー トリーフスイッチの場合、レイヤ3マルチキャストパケットは、ヘッドエンド複製を使用し て、VRF が導入されているすべてのリモートリーフスイッチに転送されます。このヘッドエ ンド複製は、マルチキャストソースが接続されているポッドまたはリモートリーフで行われま す。たとえば、マルチキャスト送信元がローカルリーフスイッチに接続されている場合、こ れらのリモートリーフスイッチが他のポッドと関連付けられていても、そのポッド内のスパ インスイッチの1つが選択され、VRFが導入されているすべてのリモートリーフスイッチに これらのマルチキャストパケットが複製されます。レイヤ3マルチキャスト送信元がリモート リーフスイッチに接続されている場合、リモートリーフスイッチもヘッドエンド複製を使用 して、マルチキャストパケットのコピーをすべてのポッドのスパイン、および VRF が導入さ れているその他すべてのリモートリーフスイッチへ送信します。

ヘッドエンド複製を使用したマルチキャスト転送は、マルチキャストパケットをすべてのヘッ ドエンド複製トンネルの個別のユニキャストパケットとして複製します。リモートリーフス イッチ設計のレイヤ3マルチキャストでは、リモートリーフスイッチが接続されている IP ネットワーク(IPN)に、マルチキャストトラフィック要件をサポートするのに十分な帯域幅 があることを確認する必要があります。

リモートリーフスイッチは、PIM が有効または無効の L3Out 接続をサポートします。PIM 対応 L3Out を持つ VRF 内のすべてのリーフスイッチは、外部ソースおよびランデブーポイント に向けてファブリックから PIM Join を送信できます。ファブリックに接続されたマルチキャス トレシーバがグループの IGMP 加入を送信すると、ファブリックは PIM 対応境界リーフス イッチの1つを選択して加入を送信します(ストライプ勝者(stripe winner)として)。グループのレシーバがメイン ポッドのローカル リーフスイッチに接続されている場合でも、PIM 対応 L3Out を備えたリモートリーフスイッチをグループのストライプ勝者として選択できます。 レイヤ3マルチキャストトラフィックの準最適な転送の可能性があるため、リモートリーフス

注意事項と制約事項

- ・ポッドの冗長性は、リモートリーフスイッチによるレイヤ3マルチキャスト転送でサポートされます。リモートリーフスイッチが関連付けられているポッド内のすべてのスパインスイッチに障害が発生した場合、リモートリーフスイッチは別のポッド内のスパインスイッチへのコントロールプレーン接続を確立できます。
- リモートリーフスイッチは、ポッド内の少なくとも1つのスパインスイッチに接続できる必要があります。リモートリーフスイッチがすべてのスパインスイッチへの接続を失った場合、レイヤ3マルチキャストトラフィックは転送されません。これには、同じリーフスイッチ上の送信者と受信者間のレイヤ3マルチキャストトラフィックが含まれます。

ファブリック インターフェイスについて

ファブリックインターフェイスはソフトウェアモジュール間の仮想インターフェイスであり、 IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティングのファブリックを表します。インターフェイスは、宛 先が VRF GIPo (グループ IP 外部アドレス) であるトンネルインターフェイスの形式を取りま す。². PIM6 は、PIM4 が使用するものと同じトンネルを共有します。たとえば、境界リーフが グループのトラフィックの転送を担当する指定フォワーダの場合、ファブリックインターフェ イスはグループの発信インターフェイス (OIF) となります。ハードウェアのインターフェイス に相当するものはありません。ファブリック インターフェイスの動作状態は、intermediate system-to-intermediate system (IS-IS) によって公開される状態に従ったものとなります。



(注) マルチキャスト対応の各 VRF には、ループバック インターフェイスで構成された1つ以上の 境界リーフスイッチが必要です。PIM 対応のL3Outのすべてのノードで、一意のIPv4 ループ バックアドレスを設定する必要があります。Router-ID ループバックまたは別の一意のループ バックアドレスを使用できます。

ユニキャストルーティング用に設定された任意のループバックは再利用できます。このループ バックアドレスは、外部ネットワークからルーティングする必要があり、VRFのファブリッ ク MP-BGP (マルチプロトコル境界ゲートウェイ プロトコル) ルートに挿入されます。ファブ リックインターフェイスの送信元 IP は、このループバックに、ループバックインターフェイ スとして設定されます。次の図は、IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティング用のファブリック を示しています。





² GIPo (グループ IP 外部アドレス)とは、ファブリック内で転送されたすべてのマルチデスティネーションパケット (ブロードキャスト、未知のユニキャストおよびマルチキャスト)で、VXLAN パケットの外部 IP ヘッダーで使用される宛先マルチキャスト IP アドレスです。

IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティングの有効化

ファブリックで IPv4 または IPv6 マルチキャスト ルーティングを有効または無効にするプロセスは、次の3つのレベルで実行されます。Cisco ACI

- VRF レベル: VRF レベルでマルチキャスト ルーティングを有効にします。
- L3Out レベル: VRF で設定された1つ以上のL3Out に対して PIM/PIM6 を有効にします。
- ・ブリッジドメインレベル:マルチキャストルーティングが必要な1つ以上のブリッジド メインに対して PIM/PIM6 を有効にします。

トップレベルでは、IPv4/IPv6 マルチキャストルーティングは、任意のマルチキャストルー ティングが有効なブリッジドメインを持つVRFで有効にする必要があります。IPv4/IPv6 マル チキャストルーティングが有効なVRFでは、IPv4/IPv6 マルチキャストルーティングが有効な ブリッジドメインおよび IPv4/IPv6 マルチキャストルーティングが無効なブリッジドメイン の組み合わせにすることができます。IPv4/IPv6マルチキャストルーティングが無効になって いるブリッジドメインは、VRF IPv4/IPv6マルチキャストパネルに表示されません。IPv4/IPv6 マルチキャストルーティングが有効な L3Out はパネル上でも表示されますが、IPv4/IPv6 マル チキャストルーティングが有効なブリッジドメインは常に IPv4/IPv6 マルチキャストルーティ ングが有効な VRF の一部になります。

Cisco Nexus 93128TX、9396PX、9396TX などのリーフ スイッチでは、IPv4/IPv6 マルチキャストルーティングはサポートされていません。すべての IPv4/IPv6 マルチキャストルーティングと IPv4/IPv6 マルチキャストが有効な VRF は、製品 ID に -EX および -FX という名前を持つスイッチでのみ展開される必要があります。

- (注) レイヤ3アウトポートとサブインターフェイスはサポートされません。外部 SVI のサポート は、リリースによって異なります。
 - ・リリース 5.2(3) より前のリリースでは、外部 SVI はサポートされていません。リリース
 5.2(3) より前のリリースでは、外部 SVI がサポートされていないため、PIM/PIM6をL3-VPC で有効にできません。
 - ・リリース 5.2(3)以降では、SVIL3Outのレイヤ3マルチキャストがサポートされます。PIM は、物理ポートおよびポート チャネルの SVIL3Out でサポートされますが、vPC ではサ ポートされません。

VRF GIPo の割り当て

VRF GIPo は、構成に基づいて暗黙的に割り当てられます。VRF に対して1つの GIPoが、そしてその VRF の下の各 BD に対して1つの GIPo があります。さらに、任意の GIPo は、複数の BD または複数の VRF の間で共有される可能性がありますが、しかし、VRF と BD の組み合わ

せで共有されることはありません。APIC は、この点を確認する必要があります。すでに処理 され、VRF GIPo ツリーが構築された BD GIPo に加えて VRF GIPo を処理する場合には、IS-IS が変更されます。



PIM/PIM6 が有効な BD のすべてのマルチキャスト トラフィックは、VRF GIPo を使用して、ファブリックに転送されます。これには、レイヤ 2 およびレイヤ 3 IPv4/IPv6 マルチキャスト の両方が含まれます。マルチキャストが有効な BD 上のブロードキャストまたはユニキャスト フラッド トラフィックは、引き続き BD GIPo を使用します。非 IPv4/IPv6 マルチキャストが有 効な BD は、すべてのマルチキャスト、ブロードキャスト、およびユニキャスト フラッド トラフィックで BD GIPo を使用します。

APIC GUI は、すべての BD と VRF で GIPo マルチキャスト アドレスを表示します。表示され るアドレスは常に、/28 ネットワーク アドレスとなります(最後の4ビットは0)。VXLAN パケットがファブリックで送信されると、宛先マルチキャスト GIPo アドレスは、この/28 ブ ロック内のアドレスとなり、16FTAGツリーのいずれかを選択するために使用されます。これ により、ファブリック全体のマルチキャストトラフィックをロードバランシングします。

表 7: GIPo の使用方法

トラフィック	非 MC ルーティングが有効な BD	MC ルーティングが有効な BD
ブロードキャスト	BD GIPo	BD GIPo
不明なユニキャスト フラッ ディング	BD GIPo	BD GIPo
マルチキャスト	BD GIPo	VRF GIPo

指定フォワーダーとしての複数のボーダーリーフスイッ チ

ファブリック内に、IPv4/IPv6マルチキャストルーティングを行う複数の境界スイッチ(BL)がある場合、境界リーフのうちの1台だけが、外部 IPv4/IPv6マルチキャストネットワークからのトラフィックを集めてファブリックに転送する、指定されたフォワーダとして選択されます。これによってトラフィックの複数のコピーが発生することを防ぎ、複数のBLスイッチの間でバランスが取れるようにします。

このことは利用可能な BL スイッチにわたる、これはグループ アドレスと VRF ネットワーク ID(VNID)としてのグループの所有権を、ストライピングすることによって行われます。グルー プの責任を担う BL は、外部ネットワークへの PIM/PIM6 の参加を送信して、ファブリックの レシーバの代わりにファブリックへのトラフィックを集めます。 ファブリックの各 BL は、その VRF の他のすべてのアクティブな BL スイッチのビューを持ち ます。それでそれぞれの BL スイッチは、独立に矛盾なく、グループのストライピングを行え ます。各 BL は、アクティブな BL スイッチのリストを取得するために、ファブリック イン ターフェイス上の PIM/PIM6 ネイバーの関係をモニターします。BL スイッチが削除または検 出されたときには、その時点でのアクティブな BL スイッチ間で、グループの再ストライピン グが行われます。ストライピングは、マルチポッド環境で GIPos を外部リンクにハッシュする ために用いられる方法に似ています。それで、グループから BL へのマッピングは持続性があ り、アップ時やダウン時の変化が少なくてすみます。



図 9:指定されたフォワーダとしての複数の境界リーフのモデル

PIM/PIM6指定ルータの選定

ACI ファブリックのレイヤ 3 IPv4/IPv6 マルチキャストでは、異なるインターフェイス タイプの PIM/PIM6 DR (代表ルータ)メカニズムは次の通りです。

- PIM/PIM6 が有効なL3 Out インターフェイス:これらのインターフェイスタイプの標準の PIM/PIM6 DR メカニズムに従います。
- •[ファブリックインターフェイス]: このインターフェイスの DR 選定は、ストライピング により決定される DR 機能ほど重要ではありません。PIM/PIM6 DR の選定は、引き続きこ のインターフェイスに残ります。
- IPv4/IPv6 マルチキャストルーティングが有効なパーベイシブ BD:ファブリックのパーベイシブ BD はすべて、IPv4/IPv6 マルチキャスト ルーティングに関するスタブです。そのため、すべてのリーフスイッチで、vPCを含む普及 BDの SVI インターフェイスがセグメントの DR と見なされます。

非境界リーフ スイッチの動作

非境界リーフスイッチ上の PIM/PIM6 は、ファブリック インターフェイスとパーベイシブ BD SVI では、パッシブモードで動作します。PIM/PIM6 は新しいパッシブ プローブモードになっ ており、hellos だけを送信します。これらのパーベイシブ BD SVI では、PIM/PIM6 ネイバーは 想定されていません。PIM/PIM6 がパーベイシブ BD から hello を受信した場合には、障害が発 生するのが望ましい動作です。非境界リーフスイッチ上の PIM/PIM6 は、パーベイシブ BD上 の hellos と、ファブリック インターフェイス上のソース登録パケットを除き、PIM/PIM6 プロ トコルパケットを送信しません。

同時に、PIM/PIM6 はファブリック インターフェイス上の次の PIM/PIM6 パケットを受信して 処理します:

- PIM/PIM6 Hellos: これはファブリック インターフェイス上でアクティブな BL リストを追 跡するために使用されます。パーベイシブ BD上では、フォールトを発生するために使用 されます。
- PIM BSR、Auto-RP アドバタイズメント: PIM でのみサポートされ、PIM6 ではサポート されません。これはファブリックインターフェイスで受信され、RP からグループ範囲へ のマッピングを収集するために処理されます。

アクティブな境界リーフ スイッチ リスト

すべてのリーフスイッチで、PIM/PIM6 はストライピングとその他の目的に使用されるアク ティブな境界リーフスイッチのリストを保持しています。境界リーフスイッチ自体で、この アクティブな境界リーフリストはアクティブな PIM/PIM6のネイバー関係から導出されます。 非境界リーフスイッチで、リストファブリックインターフェイス上のモニター対象の PIM/PIM6 *Hello* メッセージを使用して PIM/PIM6 によりリストが生成されます。*Hello* メッセージの送信 元 IP は、各境界リーフスイッチに割り当てられた IPv4/IPv6 ループバック IP です。

ブート時のオーバーロード動作

境界リーフスイッチが起動後、または接続を失った後に初めてファブリックへの接続を得たとき、境界リーフスイッチが COOP リポジトリ情報を受信する機会を得るまでは、境界リーフスイッチがアクティブな境界リーフスイッチリストの一部になることは望ましくありません。 すべての IPv4/IPv6 マルチキャスト グループメンバーシップ情報は、スパイン上の COOP デー タベースに保管されます。³境界リーフスイッチがアクティブな境界リーフスイッチのリスト に加えられるのは望ましいことではありません。これは、PIM/PIM6の hello メッセージの伝送 を、設定されていない期間だけ遅らせることで実現できます。

³ 境界リーフはブート時にスパインからこの情報を取得します。

ファーストホップ機能

リーフスイッチへの直接接続は、PIM/PIM6 sparse モードに必要なファーストホップ機能を処理します。

ラストホップ

ラストホップルータは受信側に接続されるもので、PIM/PIM6の any-source マルチキャスト (ASM)が発生した場合、最短パスツリー(SPT)スイッチオーバーを実行する責任を負います。 境界リーフスイッチはこの機能を処理します。境界非リーフスイッチはこの機能には参加し ません。

高速コンバージェンス モード

ファブリックはすべての境界リーフスイッチがルートへの接続性の外部で設定可能な高速コン バージェンスモードをサポートしています(の*RP*(*、*G*)の送信元と(*S*,*G*))、外部ネット ワークからのトラフィックを停止します。重複を防ぐためには、1人だけ、BLスイッチ転送 トラフィック、ファブリックにします。ファブリックに、グループのトラフィックを転送する BL グループの代表フォワーダ(DF)と呼びます。グループのストライプ受賞は、DFを決定し ます。ストライプ受賞にルートへの到達可能性がある場合は、ストライプ受賞もDFです。ス トライプで優先されるデータが、ルートへの外部接続を持たない場合、そのBLは、ファブ リック インターフェイス経由で PIM/PIM6 join を送信することによって、DFを選択します。 外部からルートに到達可能なすべての非ストライプ優先 BL スイッチは PIM/PIM6 join を送信 してトラフィックを引きこみまずが、ルート向けの RPF インターフェイスとしてファブリッ クインターフェイスを保持します。これは、結果、トラフィックをドロップされたが、外部の リンク上で BL スイッチに到達します。

高速コンバージェンスモードの利点はプログラミング右のリバースパスフォワーディング (RPF) インターフェイスの新しいストライプ受賞 BL スイッチのみに必要なアクションにな どの損失のためのストライプ所有者変更がある場合にです。新しいストライプ優先からPIM/PIM6 ツリーに参加することによって発生する遅延はありません。これは、非ストライプ受賞の外部 リンクで追加帯域幅の使用増やしますが機能します。

(注) 追加の帯域幅のコストが保存コンバージェンス時間を上回る導入では、高速コンバージェンス モードを無効にできます。

ランデブー ポイントについて

ランデブーポイント(RP)は、IPv4/IPv6マルチキャストネットワークドメイン内にあるユー ザーが選択した IP アドレスで、IPv4/IPv6マルチキャスト共有ツリーの共有ルートとして動作 します。必要に応じて複数の RP を設定し、さまざまなグループ範囲をカバーすることができ ます。複数の RPを設定する場合は、各 RPを一意のグループ範囲に設定する必要があります。

マルチキャストルーティングが有効になっている VRF には、PIM 対応境界リーフスイッチが 必要です。PIM は、L3Out レベルで PIM を有効にすることで、境界リーフスイッチに対して 有効になります。L3Out に対して PIM を有効にすると、そのL3Out で設定されているすべての ノードとインターフェイスに対して PIM が有効になります。

ACI は、次の RP 設定をサポートしています。

- •外部 RP: RP は ACI ファブリックの外部にあります。
 - スタティック RP: IPv4/IPv6 マルチキャスト グループ範囲の RP を静的に設定できます。この場合、ドメイン内のすべてのルータに RP のアドレスを設定する必要があります。
 - Auto-RP: ACI 境界リーフが Auto-RP フォワーダ、Auto-RP リスナーとして機能し、 Auto-RP マッピング エージェント ルートマップを適用できるようにします。
 - •BSR: ACI 境界リーフを BSR フォワーダ、BSR リスナーとして機能させ、BSR メッ セージをフィルタリングするためにルートマップを適用します。
- ファブリック RP: IPv4 マルチキャストにのみ適用されます。ファブリック RP は IPv6 マルチキャストではサポートされません。VRF 内のすべての PIM 対応ボーダー リーフスイッチで、PIM エニーキャスト RP ループバック インターフェイスをイネーブルにします。ファブリック RP 設定には、PIM 対応の L3Out (ループバック インターフェイスあり)が必要です。設定すると、外部ルータはファブリック RP を使用できます。Auto-RPおよび BSR はファブリック RP ではサポートされません。外部エニーキャスト RP メンバーとのファブリック RP ピアリングはサポートされていません。

(注) ファブリック RP には、次の制限があります。

- ファブリック RP は高速コンバージェンス モードをサポート していません。
- •ファブリック IP:
 - スタティック RP とファブリック RP 内のすべてのスタ ティック RP エントリで一意でなければなりません。
 - レイヤ3 out ルータ ID のいずれかにすることはできません。

RP の設定については、次のセクションを参照してください。

- •GUIを使用したレイヤ3IPv4マルチキャストの設定(94ページ)
- •NX-OS スタイルの CLI を使用したレイヤ 3 マルチキャストの設定 (501 ページ)
- REST API を使用したレイヤ3マルチキャストの設定 (583ページ)

Inter-VRF マルチキャストについて

(注) Inter-VRF マルチキャストは、IPv6 マルチキャストではサポートされません。

マルチキャストネットワークを持つ一般的なデータセンターでは、マルチキャストのソースお よびレシーバは同じVRFにあり、すべてのマルチキャストトラフィックはそのVRF内で転送 されます。マルチキャストのソースとレシーバが異なるVRFに存在する使用例があります。

- ・監視カメラは1つのVRF内にありますが、カメラフィードは異なるVRF内のコンピュー タで閲覧します。
- マルチキャストコンテンツプロバイダーは1つのVRF内にありますが、組織のさまざま な部門は、異なるVRFでマルチキャストコンテンツを受信します。

ACI リリース 4.0 は、送信元と受信側が異なる VRF 内にあることを可能にする inter-VRF マル チキャストのサポートを追加します。これにより受信側の VRF は、送信元 VRF のマルチキャ ストルートに対して、リバース パス フォワーディング (RPF) ルックアップを実行できるよ うになります。送信元 VRF で有効な RPF インターフェイスが形成されると、受信側の VRF で 発信インターフェイス (OIF) が有効になります。すべての inter-VRF マルチキャスト トラ フィックは、送信元 VRF のファブリック内で転送されます。inter-VRF 転送と変換は、受信側 が接続されているリーフ スイッチで実行されます。

(注)

- Any-source マルチキャストでは、使用される RP は送信元と同じ VRF 内にある必要があります。
 - Inter-VRF マルチキャストは、共有サービスと共有 L3Out 構成の両方をサポートします。 ソースとレシーバは、異なる VRF の EPG または L3Out に接続できます。

ACIの場合、inter-VRFマルチキャストは受信側のVRFごとに設定されます。受信側VRFを持つすべてのNBL/BLは、同じinter-VRF設定となります。直接接続されたレシーバを持つ各NBL、および外部レシーバを持つBLでは、送信元VRFが展開されている必要があります。コントロールプレーンのシグナリングとデータプレーンの転送は、レシーバを持つNBL/BL内のVRF間で必要な変換と転送を行います。ファブリックで転送されるすべてのパケットは、送信元 VRF 内にあります。

Inter-VRF マルチキャストの要件

このセクションでは、Inter-VRF マルチキャストの要件について示します。

- ・特定のグループのすべての送信元は、同じ VRF(送信元 VRF)でなければなりません。
- ・送信元 VRF と送信元 EPG は、受信側 VRF があるすべてのリーフ上に存在している必要 があります。
- ・ASM の場合:
 - RP は送信元(送信元 VRF)と同じ VRF 内になければなりません。
 - ・リリース 4.2(4) 以前で、送信元 VRF は、ファブリック RP を使用する必要があります。この制限は、リリース 4.2(4) 以降には適用されません。
 - ・特定のグループ範囲の送信元およびすべての受信側VRFで、同じRPアドレス設定を 適用する必要があります。

ACIマルチキャスト機能のリスト

ここでは、ACI マルチキャスト機能のリストと、類似の NX-OS 機能との比較を示します。

- IGMP 機能 (83 ページ)
- IGMP スヌーピング機能 (85 ページ)
- MLD スヌーピング機能 (86 ページ)
- PIM 機能(インターフェイス レベル) (87 ページ)
- PIM 機能 (VRF レベル) (89 ページ)

IGMP 機能

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
V3 ASM を許可	ip igmp allow-v3-asm	SSM 範囲外のマルチキャスト グループの IGMP バージョン 3 送信元 固有レポートの受け入れを許可します。この機能がイネーブルの場 合、グループが設定された SSM 範囲外であっても、グループと送信 元の両方を含む IGMP バージョン 3 レポートを受信すると、スイッチ は (S,G) mroute エントリを作成します。ホストが SSM 範囲外の $(*,G)$ レポートを送信する場合、または SSM 範囲の (S,G) レポート を送信する場合、この機能は不要です。

I

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
Fast Leave	ip igmp immediate-leave	デバイスからグループ固有のクエリーが送信されないため、所定の IGMP インターフェイスで IGMPv2 グループ メンバーシップの脱退の ための待ち時間を最小限にできるオプション。即時脱退をイネーブル にすると、デバイスではグループに関する Leave メッセージの受信 後、ただちにマルチキャスト ルーティング テーブルからグループ エ ントリが削除されます。デフォルトではディセーブルになっていま す。
		注意:このコマンドは、所定のグループに対する BD/インターフェイスの背後に1つの受信者しか存在しない場合に使用します。
レポートリンクローカ ルグループ	ip igmp report-link-local-groups	224.0.0.0/24に含まれるグループに対して、レポート送信をイネーブル にします。非リンク ローカル グループには、常にレポートが送信さ れます。デフォルトでは、リンク ローカル グループにレポートは送 信されません。
グループタイムアウト (秒)	ip igmp group-timeout	IGMPv2のグループメンバーシップタイムアウトを設定します。有効 範囲は 3 ~ 65,535 秒です。デフォルト値は 260 秒です。
クエリ間隔(秒)	ip igmp query-interval	IGMPホストクエリーメッセージの送信頻度を設定します。有効範囲は1~18,000秒です。デフォルト値は125秒です。
クエリ応答間隔(秒)	ip igmp query-max-response-time	IGMP クエリーでアドバタイズされる応答時間を設定します。有効範囲は 1 ~ 25 秒です。デフォルトは 10 秒です。
最終メンバーカウント	ip igmp last-member-query-count	ホストの Leave メッセージを受信してから、IGMP クエリーが送信さ れる回数を設定します。有効範囲は1~5です。デフォルトは2で す。
最終メンバー応答時間 (秒)	ip igmp last-member-query-response-time	メンバーシップ レポートを送信してから、ソフトウェアがグループ ステートを解除するまでのクエリーインターバルを設定します。有効 範囲は1~25秒です。デフォルト値は1秒です。
スタートアップクエ リーの回数	ip igmp startup-query-count	ソフトウェアの起動時に使用されるクエリー数を設定します。有効範囲は1~10です。デフォルトは2です。
クエリアタイムアウト	ip igmp querier-timeout	クエリアとして処理を引き継ぐかどうかをソフトウェアが判断するた めの、クエリータイムアウト値を設定します。有効範囲は1~65,535 秒です。デフォルト値は255秒です。
堅牢性変数	ip igmp robustness-variable	ロバストネス変数を設定します。ネットワークのパケット損失が多い 場合は、この値を大きくします。有効値の範囲は、1~7です。デフォ ルトは2です。
バージョン	ip igmp version <2-3>	ブリッジ ドメインまたはインターフェイスでイネーブルにする IGMP のバージョン。有効な IGMP バージョンは2または3です。デフォル トは2です。
ACI 機能名	NX-0S 機能	説明
-----------------------	---	--
レポート ポリシー ルート マップ*	ip igmp report-policy <route-map></route-map>	ルートマップポリシーに基づく、IGMPレポートのアクセスポリシー。 IGMPグループレポートは、ルートマップで許可されたグループに対 してのみ選択されます
静的レポート ルート マップ*	ip igmp static-oif	マルチキャストグループを発信インターフェイスに静的にバインド し、スイッチ ハードウェアで処理します。グループ アドレスのみを 指定した場合は、(*,G) ステートが作成されます。送信元アドレス を指定した場合は、(S,G) ステートが作成されます。グループプレ フィックス、グループ範囲、および送信元プレフィックスを示すルー トマップポリシー名を指定できます。IGMPv3 をイネーブルにした場 合にのみ、(S,G) ステートに対して送信元ツリーが作成されること に注意してください。
最大マルチキャストエ ントリ	ip igmp state-limit	IGMP レポートによって作成される BD またはインターフェイスの mroute 状態を制限します。 デフォルトは無効で、制限はありません。有効な範囲は1~4294967295
		です。
予約済みマルチキャス トエントリ	ip igmp state-limit <limit> reserved <route-map></route-map></limit>	予約ポリシーにルート マップ ポリシー名を使用するように指定し、 インターフェイスで許可される (*,G) および (S,G) エントリの最 大数を設定します。
ステート制限ルート マップ*	ip igmp state-limit <limit> reserved <route-map></route-map></limit>	予約済みマルチキャストエントリ機能で使用

IGMP スヌーピング機能

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
IGMP スヌーピングの 管理状態	[no] ipigmp snooping	IGMP スヌーピング機能を有効または無効にします。PIM 対応ブリッジドメインでは無効にできません
Fast Leave	ip igmp snooping fast-leave	デバイスからグループ固有のクエリーが送信されないため、所定の IGMP インターフェイスで IGMPv2 グループ メンバーシップの脱退の ための待ち時間を最小限にできるオプション。即時脱退をイネーブル にすると、デバイスではグループに関する Leave メッセージの受信 後、ただちにマルチキャスト ルーティング テーブルからグループ エ ントリが削除されます。デフォルトではディセーブルになっていま す。 注意:このコマンドは、所定のグループに対する BD/インターフェイ スの背後に1つの受信者しか存在しない場合に使用します。

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
クエリアの有効化	ip igmp snooping querier <ip address=""></ip>	ブリッジ ドメインで IP IGMP スヌーピング クエリア機能をイネーブ ルにします。BD サブネット クエリア IP 設定とともに使用して、ブ リッジ ドメインの IGMP スヌーピング クエリアを設定します。
		注意: PIM 対応ブリッジドメインでは使用しないでください。ブリッ ジドメインで PIM が有効になっている場合、IGMP クエリア機能は自 動的に有効になります。
クエリ間隔	ip igmp snooping query-interval	IGMPホストクエリーメッセージの送信頻度を設定します。有効範囲は1~18,000秒です。デフォルト値は125秒です。
クエリ応答間隔	ip igmp snooping query-max-response-time	IGMP クエリーでアドバタイズされる応答時間を設定します。有効範囲は1~25秒です。デフォルトは10秒です。
最終メンバークエリ間 隔	ip igmp snooping last-member-query-interval	メンバーシップ レポートを送信してから、ソフトウェアがグループ ステートを解除するまでのクエリーインターバルを設定します。有効 範囲は1~25秒です。デフォルト値は1秒です。
開始クエリ数	ip igmp snooping startup-query-count	マルチキャスト トラフィックをルーティングする必要がないため、 PIM をイネーブルにしていない場合に、起動時に送信されるクエリー 数に対してスヌーピングを設定します。有効範囲は1~10です。デ フォルトは2です。
開始クエリ間隔(秒)	ip igmp snooping startup-query-interval	マルチキャスト トラフィックをルーティングする必要がないため、 PIM をイネーブルにしていない場合に、起動時のスヌーピング クエ リー インターバルを設定します。有効範囲は 1 ~ 18,000 秒です。デ フォルト値は 31 秒です。

MLD スヌーピング機能

ACI 機能名	NX-0S 機能	説明
MLD スヌーピング管 理状態	ipv6 mld snooping	IPv6 MLD スヌーピング機能。デフォルトは無効
Fast Leave	ipv6 mld snooping fast-leave	ブリッジドメインごとに高速脱退機能をオンまたはオフにできます。 これは MLDv2 ホストに適用され、1 つのホストだけがそのポートの 背後で MLD を実行することがわかっているポートで使用されます。 このコマンドはデフォルトでは無効になっています。
クエリアの有効化	ipv6 mld snooping querier	IPv6 MLD スヌーピング クエリア処理を有効または無効にします。 MLD スヌーピング クエリアは、マルチキャスト トラフィックをルー ティングする必要がないため、PIM および MLD を設定していないブ リッジ ドメイン内で MLD スヌーピングをサポートします。

ACI 機能名	NX-0S 機能	説明
クエリ間隔	ipv6 mld snooping query-interval	MLD ホスト クエリー メッセージの送信頻度を設定します。有効範囲 は 1 ~ 18,000 秒です。デフォルト値は 125 秒です。
クエリ応答間隔	ipv6 mld snooping query-interval	MLD クエリーでアドバタイズされる応答時間を設定します。有効範囲は 1 ~ 25 秒です。デフォルトは 10 秒です。
最終メンバークエリ間 隔	ipv6 mld snooping last-member-query-interval	メンバーシップレポートを送信してから、ソフトウェアがグループ ステートを解除するまでのクエリー応答時間を設定します。有効範囲 は1~25秒です。デフォルト値は1秒です。

PIM 機能(インターフェイス レベル)

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
認証	ip pim hello-authentication ah-md5	PIM IPv4 ネイバーの MD5 ハッシュ認証をイネーブルにします。
マルチキャストドメイ ン境界	ip pim border	インターフェイスを PIM ドメインの境界として設定し、対象のイン ターフェイスで、ブートストラップ、候補 RP、または Auto-RP の各 メッセージが送受信されないようにします。デフォルトではディセー ブルになっています。
パッシブ	ip pim passive	パッシブ設定がインターフェイスで設定されている場合、IP マルチ キャストのインターフェイスが有効になります。PIM は、passive モー ドのインターフェイスで動作します。これは、リーフがインターフェ イス上で PIM メッセージを送信せず、このインターフェイス全体にわ たる他のデバイスからの PIM メッセージも受け入れないことを意味し ます。リーフは、ネットワーク上の唯一の PIM デバイスであると見な し、DR として機能します。IGMP の動作は、このコマンドの影響を受 けません。
厳格な RFC 準拠	ip pim strict-rfc-compliant	設定すると、スイッチは不明なネイバーからの参加を処理せず、不明 なネイバーに PIM 参加を送信しません。

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
指定ルータの遅延 (秒)	ip pimdr-delay	PIM hello メッセージでアドバタイズされる DR プライオリティを指定 期間にわたり0に設定することで、指定ルータ(DR)の選定への参加 を遅延させます。この遅延中、DR は変更されず、現在のスイッチに はそのインターフェイスでのすべてのマルチキャストの状態を把握す る時間が与えられます。遅延期間が終了すると、DR 選出を再び開始 するために、正しいDR プライオリティが helloパケットで送信されま す。値は1~65,535 です。デフォルト値は3です。
		注意:このコマンドは、起動時にのみ、またはIPアドレスかインターフェイスの状態が変更された後にのみ、DR 選定に参加することを遅延させます。これは、マルチキャストアクセスの非 vPC レイヤ3インターフェイス専用です。
指定ルータの優先順位	ip pim dr-priority	PIM hello メッセージの一部としてアドバタイズされる指定ルータ (DR) プライオリティを設定します。有効範囲は1~4294967295 で す。デフォルトは1です。
Hello間隔(ミリ秒)	ip pim hello-interval	helloメッセージの送信インターバルを、ミリ秒単位で設定します。範囲は 1000 ~ 18724286 です。デフォルト値は 30000 です。
Join-Prune 間隔ポリ シー (秒)	ip pim jp-interval	PIM Join および Prune メッセージを送信する間隔(秒単位)。有効な 範囲は 60 ~ 65520 です。値は 60 で割り切れる必要があります。デ フォルト値は 60 です。
インターフェイスレベ ルのインバウンド Join-Prune フィルタ ポ リシー*	ip pimjp-policy	ルートマップ ポリシーに基づく、インバウンド Join/Prune メッセージ のフィルタリングをイネーブルにします。ここで、グループ、グルー プおよび送信元、および RP アドレスを指定できます。デフォルトで は、Join/Prune メッセージはフィルタリングされません。
インターフェイスレベ ルのアウトバウンド Join-Prune フィルタ ポ リシー*	ip pim jp-policy	ルートマップ ポリシーに基づく、アウトバウンド Join/Prune メッセー ジのフィルタリングをイネーブルにします。ここで、グループ、グ ループおよび送信元、および RP アドレスを指定できます。デフォル トでは、Join/Prune メッセージはフィルタリングされません。
インターフェイスレベ ルのネイバーフィルタ ポリシー*	ip pim neighbor-policy	許可される PIM ネイバーの送信元アドレス/アドレス範囲を指定する ルート マップ ポリシーに基づいて、隣接する PIM ネイバーを制御し ます。

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
スタティック RP	ippimrp-address	マルチキャスト グループ範囲に、PIM スタティック RP アドレスを設 定します。スタティック RP のマルチキャスト グループ範囲をリスト するオプションのルートマップポリシーを指定できます。ルートマッ プが設定されていない場合、スタティック RP は、設定された SSM グ ループ範囲を除くすべてのマルチキャスト グループ範囲に適用されま す。 モードは ASM です。
ファブリック RP	該当なし	ファブリック内のすべてのマルチキャスト対応境界リーフスイッチで エニーキャスト RPを設定します。エニーキャスト RPは、PIMエニー キャスト RPを使用して実装されます。スタティック RPのマルチキャ ストグループ範囲をリストするオプションのルートマップ ポリシー を指定できます。
Auto-RP Forward Auto-RP Updates	ip pim auto-rp forward	Auto-RPメッセージの転送をイネーブルにします。デフォルトではディ セーブルになっています。
Auto-RP Listen to Auto-RP Updates	ip pim auto-rp listen	Auto-RP メッセージのリッスンをイネーブルにします。デフォルトで はディセーブルになっています。
Auto-RP MA Filter *	ip pim auto-rp mapping-agent-policy	ルートマップポリシーに基づく境界リーフによってAuto-RP Discovery メッセージのフィルタリングをイネーブルにします。ここで、マッピ ングエージェント送信元アドレスを指定できます。この機能は、境界 リーフが Auto-RP メッセージをリッスンするように設定されている場 合に使用されます。デフォルトでは、Auto-RP メッセージはフィルタ リングされません。
BSR Forward BSR Updates	ippimbsr forward	BSR メッセージの転送をイネーブルにします。デフォルトではディ セーブルになっているため、リーフはBSR メッセージの転送を行いま せん。
BSR Listen to BRS Updates	ip pim bsr listen	BSR メッセージのリッスンをイネーブルにします。デフォルトでは ディセーブルになっているため、リーフはBSR メッセージのリッスン を行いません。
BSR Filter	ip pim bsr bsr-policy	ルートマップ ポリシーに基づく境界リーフによって BSR メッセージ のフィルタリングをイネーブルにします。ここで、BSR 送信元を指定 できます。このコマンドは、境界リーフが BSR メッセージをリッスン するように設定されている場合に使用できます。デフォルトでは、 BSR メッセージはフィルタリングされません。
ASM ソース、グルー プ有効期限タイマーポ リシー*	ip pim sg-expiry-timer <timer> sg-list</timer>	調整された有効期限タイマーのグループ/グループを指定するために、 ASM ソース、グループ有効期限タイマーにルートマップを適用しま す。

PIM 機能(VRF レベル)

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
ASM Source, Group Expiry Timer Expiry (sec)	ip pim sg-expiry-timer	プロトコル独立マルチキャストスパースモード(PIM-SM) (S,G) マルチキャストルートの(S,G)期限切れタイマーの間隔を調節しま す。このコマンドは、断続的な送信元に対してデフォルトの180秒を 超える SPT(送信元ベースのツリー)の永続性を作成します。指定で きる範囲は1~604801秒です。
Register Traffic Policy: Max Rate	ip pim register-rate-limit	レート制限を毎秒のパケット数で設定します。指定できる範囲は1~ 65,535 です。デフォルト設定は無制限です。
Register Traffic Policy: Source IP	ip pim register-source	登録メッセージの送信元IPアドレスを設定するために使用されます。 この機能は、RPがメッセージを送信できるネットワークで登録メッ セージの送信元アドレスがルーティングされる場合に使用できます。 これは、送信元が接続されているブリッジドメインが、ファブリック の外部にサブネットをアドバタイズするように設定されていない場合 に発生することがあります。
SSMグループ範囲ポリ シー*	ippimssm route-map	デフォルトの範囲 232.0.0.0/8 以外の異なる SSM グループ範囲を指定 するために使用できます。デフォルトのグループ範囲のみを使用する 場合は、このコマンドは不要です。デフォルト範囲を含め、SSM マル チキャストに最大4つの範囲を設定できます。
短時間でのコンバー ジェンス	該当なし	高速コンバージェンスモードが有効になっている場合、ファブリック 内のすべての境界リーフは、外部ネットワークのルート((*,G)お よび送信元(S,G)の RP)に向けて PIM Join を送信します。これに より、ファブリック内のすべての PIM 対応 BL が外部ソースからマル チキャストトラフィックを受信できますが、1 つの BL のみがトラ フィックをファブリックに転送します。マルチキャストトラフィック をファブリックに転送する BL が指定フォワーダです。グループのス トライプ優先は、DFを決定します。高速コンバージェンスモードの 利点は、BL の障害によりストライプの優先が変更された場合、新し い BL が join を送信してマルチキャスト状態を作成することで、外部 ネットワークで遅延が発生しないことです。 注意:追加の帯域幅のコストが保存コンバージェンス時間を上回る場
		合、高速コンバージェンスモードを導入時に無効にできることに注意 してください。
厳格な RFC 準拠	ip pim strict-rfc-compliant	設定すると、スイッチは不明なネイバーからの参加を処理せず、不明 なネイバーに PIM 参加を送信しません。
MTU ポート	ippimmtu	PIM コントロール プレーン トラフィックのフレーム サイズを大きくし、コンバージェンスを向上させます。範囲は 1500 〜 9216 バイトです。
リソースポリシーの上 限	ip pim state-limit	VRFごとに許可される最大 (*, G)/(S, G) エントリを設定します。範囲 は 1 ~ 4294967295 です。

ACI 機能名	NX-OS 機能	説明
リソースポリシー予約 済みルート マップ*	ip pim state-limit <limit> reserved <route-map></route-map></limit>	リソースポリシーの最大制限の予約済みエントリに適用されるマルチ キャスト グループまたはグループと送信元を照合するルートマップ ポリシーを設定します。
Resource Policy Reserved Multicast Entries	ip pim state-limit <limit> reserved <route-map> <limit></limit></route-map></limit>	この VRF で許可される最大予約済み(*,G)および(S,G) エントリ です。最大許可ステート数以下である必要があります。リソースポリ シーの予約済みルート マップ ポリシーで使用されます。

レイヤ3IPv4/IPv6マルチキャストの設定のガイドライン、 制約事項、および予想される動作

次のガイドラインと制限を確認します。

- IPv4/IPv6 マルチキャストのガイドラインと制約事項 (91 ページ)
- IPv4 マルチキャストのガイドラインと制約事項 (93 ページ)
- IPv6 マルチキャストのガイドラインと制約事項 (94 ページ)

IPv4/IPv6 マルチキャストのガイドラインと制約事項

IPv4 マルチキャストと IPv6 マルチキャストの両方に次の制限が適用されます。

- 第2世代リーフスイッチでレイヤ3IPv4/IPv6マルチキャスト機能がサポートされています。第2世代スイッチは、製品IDに-EX、-FX、-FX2、-FX3、-GX、またはそれ以降のサフィックスが付いたスイッチです。
- カスタム QoS ポリシーは、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックの外部から送信された(L3Out から受信した)レイヤ3マルチキャストトラフィックではサポートされません。
- ブリッジドメインでの PIMv4/PIM6 およびアドバタイズ ホスト ルートの有効化がサポートされています。
- レイヤ3マルチキャストはVRFレベルで有効になり、マルチキャストプロトコルはVRF インスタンス内で機能します。各VRFインスタンスでは、マルチキャストを個別に有効 化または無効化できます。
- マルチキャストでVRFインスタンスが有効になると、有効になったVRFインスタンスの 個別のブリッジドメインとL3Outを有効にしてマルチキャストを構成できます。デフォル トでは、マルチキャストはすべてのブリッジドメインとL3Outで無効になっています。
- •双方向 PIMv4/PIM6 は現在サポートされていません。
- マルチキャストルータは、パーペイシブブリッジドメインではサポートされていません。

- ・サポートされるルートスケールは 2,000 です。マルチキャスト スケール番号は、IPv4 と IPv6 の両方を含む複合スケールです。合計ルート制限は、ルート カウントとして定義さ れます。各 IPv4 ルートは1としてカウントされ、各 IPv6 ルートは4としてカウントされ ます。より多くのマルチキャストスケールをサポートするノードプロファイルでも、IPv6 ルート スケールは 2,000 のままです。
- PIMv4/PIM6は、レイヤ3ポートチャネルインターフェイスおよびSVIインターフェイス を含む、レイヤ3Outルーテッドインターフェイスおよびルーテッドサブインターフェイ スでサポートされます。
- L3Out で PIMv4/PIM6 を有効にすると、暗黙的な外部ネットワークが設定されます。この アクションの結果、L3Outが導入され、外部ネットワークを定義していない場合でもプロ トコルが発生する可能性があります。
- マルチキャスト送信元が孤立ポートとしてリーフAに接続され、リーフBにL3Outがあり、リーフAとリーフBがvPCペアにある場合、マルチキャスト送信元に関連付けられた EPGカプセル化 VLAN はリーフBに展開されます。
- ・ブリッジドメインに接続されている送信元からパケットを受信する入力リーフスイッチの動作は、レイヤ3IPv4またはIPv6マルチキャストサポートによって異なります。
 - ・レイヤ3IPv4マルチキャストサポートは、IPv4マルチキャストルーティングのために有効になっているブリッジドメインに接続された送信元からのパケットを入力リーフスイッチが受信した場合、その入力リーフスイッチは、ルーテッドVRFインスタンスのコピーのみをファブリックに送信します(ルーテッドは、TTLが1ずつ減少し、送信元 MAC がパーベイシブサブネット MAC で書き換えられることを意味します)。また、出力リーフスイッチも、関連するすべてのブリッジドメイン内の受信者へパケットをルーティングします。そのため、受信者のブリッジドメインが送信元と同じで、リーフスイッチが送信元とは異なる場合、その受信者は同じブリッジドメインが送信元と信者が同じブリッジドメインおよび同じリーフスイッチ上にあり、このブリッジドメインで PIM が有効になっている場合にも適用されます。

詳細については、次のリンク ポッドの追加 で、既存のレイヤ2設計を活用するマル チポッドをサポートする、レイヤ3マルチキャストに関する詳細情報を参照してくだ さい。

- レイヤ3IPv6マルチキャストサポートは、IPv6マルチキャストルーティングのために有効になっているブリッジドメインに接続された送信元からのパケットを入力リーフスイッチが受信した場合、その入力リーフスイッチは、ルーテッドVRFインスタンスのコピーのみをファブリックに送信します(ルーテッドは、TTLが1ずつ減少し、送信元 MAC がパーベイシブサブネット MAC で書き換えられることを意味します)。また、出力リーフスイッチも、受信者へパケットをルーティングします。出力リーフは、パケット内の TTLを1だけ減らします。これにより、TTL が2回減少します。また、ASM の場合、マルチキャストグループに有効な RP が設定されている必要があります。
- VRF 間マルチキャスト通信ではフィルタを使用できません。



(注) Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。したがって、外部ルータへの レイヤ 3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介した マルチポッド 接続 を設定する場合は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設定されていることが推 奨されます。Cisco ACI、Cisco NX-OS、Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定 可能な MTU 値はイーサネット ヘッダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネット ヘッダー サイ ズを除く)を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームには、設定された MTU 値にイーサネット ヘッダーが含まれています。設定された値が 9000の場合、Cisco ACI、 Cisco NX-OS Cisco IOS の最大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタグ なしインターフェイスの最大 IP パケットサイズは 8986 バイトになります。

各プラットフォームの適切なMTU値については、それぞれの設定ガイドを参照してください。

CLI ベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1 などの コマンドを使用します。

IPv4 マルチキャストのガイドラインと制約事項

IPv4 マルチキャストには、特に次の制限が適用されます。

- Cisco ACI ファブリックの境界リーフスイッチがマルチキャストを実行しており、L3Out でマルチキャストを無効にしているときにユニキャスト到達可能性がある場合、外部ピア がCisco Nexus 9000 スイッチの場合、トラフィック損失が発生します。これは、トラフィッ クがファブリックに送信される場合(送信元はファブリックの外部にあり、受信者はファ ブリックの内部にある場合)、またはファブリックを通過する場合(送信元と受信者が ファブリックの外部にあり、ファブリックが送信中の場合)に影響します。
- Any Source Multicast (ASM) と Source-Specific Multicast (SSM) は IPv4 向けにサポートされています。
- VRF インスタンスごとにルートマップでSSM マルチキャストの範囲を最大4つ構成できます。
- IGMP スヌーピングは、マルチキャストルーティングが有効になっているパーペイシブブ リッジドメインでは無効にできません。
- FEX ではレイヤ3マルチキャストはサポートされていません。FEX ポートに接続されているマルチキャストの送信元または受信先がサポートされています。テスト環境でFEXを追加する方法についての詳細は、次のURLの『アプリケーションセントリックインフラストラクチャとファブリックエクステンダの構成』を参照してください: https://www.cisco.com/c/en/us/support/docs/cloud-systems-management/application-policy-infrastructure-controller-apic/200529-Configure-a-Fabric-Extender-with-Applica.html。FEX ポートに接続されているマルチキャストの送信元または受信先はサポートされていません。

IPv6 マルチキャストのガイドラインと制約事項

IPv6 マルチキャストには、特に次の制限が適用されます。

- Source Specific Multicast (SSM) はサポートされていますが、RFC 3306-Unicast-Prefix-based IPv6 Multicast Addresses で固定 SSM 範囲が指定されています。したがって、SSM の範囲は IPv6 では変更できません。
- VRF インスタンスごとにルートマップで SSM マルチキャストの範囲を最大4つ構成できます。
- Any Source Multicast (ASM) は IPv6 でサポートされます。
- IPv6のOIF および VRF スケール番号は、IPv4の場合と同じです。
- •スタティック RP 設定のみの PIM6 をサポートしています。Auto-RP および BSR は PIM6 ではサポートされません。
- ファブリック内のレシーバはサポートされません。IPv6マルチキャストを有効にする場合は、MLDスヌープポリシーを無効にする必要があります。MLDスヌーピングとPIM6を同じVRFインスタンスで有効にすることはできません。
- ・現在、レイヤ3マルチキャストリスナー検出(MLD)はCiscoACIではサポートされていません。
- ファブリック ランデブー ポイント (RP) は、IPv6 マルチキャストではサポートされません。
- Cisco Multi-Site Orchestrator のサポートは利用できません。

GUIを使用したレイヤ3IPv4マルチキャストの設定

このセクションでは、Cisco APIC GUI を使用してレイヤ3マルチキャストを設定する方法について説明します。



(注) [Work]ペインおよび各ダイアログボックスの右上隅にあるヘルプアイコン(?)をクリックすると、表示されているタブまたはフィールドについての情報が表示されます。

始める前に

- •目的の VRF、ブリッジ ドメイン、IP アドレスを持つレイヤ 3 Out インターフェイス は、 PIM および IGMP が有効になるように設定する必要があります。
- ・基本的なユニキャストネットワークを設定する必要があります。

手順

- ステップ1 [テナント(Tenants)]>[Tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[VRFs]> [VRF_name]>[マルチキャスト(Multicast)]に移動します。 [Work] ペインに、PIM is not enabled on this VRF. Would you like to enable PIM? というメッセー ジが表示されます。
- ステップ2 YES, ENABLE MULTICAST をクリックします。
- **ステップ3** インターフェイスを設定します。
 - a) [Work] ペインから、[Interfaces] タブをクリックします。
 - b) [Bridge Domains] テーブルを展開して [Create Bridge Domain] ダイアログを表示し、各フィー ルドに適切な値を入力します。
 - c) **Select** をクリックします。
 - d) [Interfaces] テーブルを展開し、[Select an L3 Out] ダイアログを表示します。
 - e) [L3 Out] ドロップダウン矢印をクリックして L3 Out を選択します。
 - f) Select をクリックします。
- **ステップ4** ランデブーポイント(RP)を設定します。
 - a) [Work] ペインで [Rendezvous Points] タブをクリックし、次のランデブー ポイント (RP) オプションから選択します。
 - ・スタティック RP
 - 1. [Static RP] テーブルを展開します。
 - 2. 各フィールドに適切な値を入力します。
 - 3. [Update] をクリックします。
 - ・ファブリック RP
 - **1.** [Fabric RP] テーブルを展開します。
 - 2. 各フィールドに適切な値を入力します。
 - **3.** [Update] をクリックします。
 - Auto-RP
 - 1. 各フィールドに適切な値を入力します。
 - ・ブートストラップ ルータ (BSR)
 - 1. 各フィールドに適切な値を入力します。
- **ステップ5** パターン ポリシーを設定します。
 - a) [Work] ペインで [Pattern Policy] タブをクリックし、[Any Source Multicast (ASM)] または [Source Specific Multicast (SSM)] オプションを選択します。

- b) 各フィールドに適切な値を入力します。
- ステップ6 PIM を設定します。
 - a) [PIM Setting] タブをクリックします。
 - b) 各フィールドに適切な値を入力します。
- ステップ7 IGMP 設定を行います。
 - a) **IGMP Setting** タブをクリックします。
 - b) [IGMP Context SSM Translate Policy] テーブルを展開します。
 - c) 各フィールドに適切な値を入力します。
 - d) [Update] をクリックします。
- ステップ8 Inter-VRF マルチキャストを設定します。
 - a) [Work] ペインの [Inter-VRF Multicast] タブをクリックします。
 - b) [Inter-VRF Multicast] テーブルを展開します。
 - c) 各フィールドに適切な値を入力します。
 - d) [Update] をクリックします。
- ステップ9 完了したら、[送信 (Submit)]をクリックします。
- ステップ10 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[*Tenant_name*]>[ネットワーキング(Networking)]> [VRFs]>[VRF_name]>[マルチキャスト(Multicast)]に移動し、次の操作を実行します。
 - a) [作業(Work)]ペインの[インターフェイス(Interfaces)]タブで、適切なL3 Out を選択し、[PIM ポリシー(PIM Policy)]ドロップダウンリストから、接続する適切な PIM ポリシーを選択します。
 - b) [送信 (Submit)] をクリックします。`
- ステップ11 設定を確認するには次のアクションを実行します:
 - a) Work ウィンドウで、Interfaces をクリックして、関連付けられた Bridge Domains を表示 します。
 - b) Interfaces をクリックして、関連付けられた L3 Out インターフェイスを表示します。
 - c) Navigation ウィンドウで、BD に移動します。
 - d) Work ウィンドウに、設定された IGMP ポリシーと PIM の機能が、先ほど設定されたよう に表示されます。
 - e) Navigation ウィンドウに、L3 Out インターフェイスが表示されます。
 - f) Work ウィンドウに、PIM の機能が先ほど設定されたように表示されます。
 - g) Work ウィンドウで、Fabric > Inventory > Protocols > IGMP に移動して、設定した IGMP インターフェイスの動作状態を表示します。
 - h) [作業(Work)]ウィンドウで、[ファブリック(Fabric)]>[インベントリ(Inventory)]
 >[ポッド名(Pod name)]>[Leaf_Node]>[プロトコル(Protocols)]>[IGMP]>[IGMPドメイン(IGMP Domains)]に移動して、マルチキャストが有効化/無効化されたノードのドメイン情報を表示します。

GUIを使用したレイヤ3IPv6マルチキャストの設定

始める前に

- 目的のVRF、ブリッジドメイン、IPv6アドレスを持つレイヤ3Outインターフェイスは、 PIM6が有効になるように設定する必要があります。レイヤ3Outの場合、IPv6マルチキャ ストが機能するために、論理ノードプロファイルのノードにIPv6ループバックアドレス が設定されます。
- 基本的なユニキャストネットワークを設定する必要があります。

手順

- ステップ1 メニューバーで[テナント(Tenants)]>[*Tenant_name*]>[ネットワーキング(Networking)]> [VRFs]>[*VRF_name*]>[マルチキャスト IPv6(Multicast IPv6)]に移動します。 [作業(Work) ペインで次のメッセージが表示されます。PIM6はこの VRFで有効化されて いません。(PIM6 is not enabled on this VRF.) PIM6を有効化しますか?(Would you like to enable PIM6?)
- ステップ2 [はい、マルチキャスト IPv6を有効化します。(YES, ENABLE MULTICAST IPv6)]をクリックします。
- **ステップ3** インターフェイスを設定します。
 - a) [Work] ペインから、[Interfaces] タブをクリックします。
 - b) [ブリッジドメイン(Bridge Domains)] テーブルを展開して[ブリッジドメインの作成 (Create Bridge Domain)]ダイアログを表示し、ドロップダウンリストから適切な BD を 選択します。
 - c) [選択 (Select)]をクリックします。
 - d) [インターフェイス(Interfaces)] テーブルを展開し、[L3Outの選択(Select an L3 Out)] ダイアログ ボックスを表示します。
 - e) [L3 Out] ドロップダウン矢印をクリックして L3 Out を選択します。
 - f) Select をクリックします。
- ステップ4 ランデブーポイント(RP)を設定します。
 - a) [作業(Work)]ペインで[ランデブーポイント(Rendezvous Points)]タブをクリックし、 [スタティック RP(Static RP)]を選択します。
 - b) 各フィールドに適切な値を入力します。
 - c) [Update] をクリックします。
- ステップ5 パターンポリシーを設定します。
 - a) [作業(Work)]ペインで[パターンポリシー(Pattern Policy)]タブをクリックし、[任意 の送信元マルチキャスト(ASM) (Any Source Multicast (ASM))]を選択します。
 - b) 各フィールドに適切な値を入力します。

ステップ6 PIM を設定します。

- a) [PIM Setting] タブをクリックします。
- b) 各フィールドに適切な値を入力します。
- ステップ7 完了したら、[送信 (Submit)]をクリックします。
- ステップ8 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[Tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]> [VRFs]> [VRF_name] > [マルチキャスト IPv6(Multicast IPv6)]に移動し、次の操作を実行 します。
 - a) [作業(Work)]ペインの[インターフェイス(Interfaces)]タブで、適切な[L3 Out]を選択し、[PIM ポリシー(PIM Policy)]ドロップダウンリストから、接続する適切なPIM ポリシーを選択します。
 - b) [送信(Submit)] をクリックします。`
- ステップ9 設定を確認するには次のアクションを実行します:
 - a) Work ウィンドウで、Interfaces をクリックして、関連付けられた Bridge Domains を表示 します。
 - b) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、関連付けられている BD with IPv6 マルチキャストに移動します。

[作業(Work)]ウィンドウに、PIMの機能が先ほど設定されたように表示されます。

c) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、関連付けられている L3 Out インターフェイス に移動します。

[作業(Work)]ペインで、PIM6 チェックボックスをオンにします。

d) [作業(Work)]ペインで、[ファブリック(Fabric)]>[インベントリ(Inventory)]> [ポッド(Pod)][ノード(Node)][プロトコル(Protocols)]>[PIM6]の順に移動し、 [PIM] を展開します。 以前に作成された適切なPIM6プロトコルで、関連付けられているネイバー、PIMインター フェイス、ルート、グループ範囲、および RP に関する情報を表示できます。これらすべ てのオブジェクトが設定されていることを確認できます。

BGPIPv4/IPv6マルチキャストアドレスファミリについて

(注) BGP IPv4/IPv6 マルチキャストアドレスファミリ機能の IPv4 バージョンは、Cisco APIC リリース 4.1 の一部として使用できました。

Cisco APICリリース4.2 (1) 以降、BGPマルチキャストアドレスファミリ機能は、ボーダーリーフスイッチ上のテナントVRFのBGPピアに対するIPv6のサポートを追加します。ピアがIPv4/IPv6マルチキャストアドレスファミリでマルチキャストルートを伝送するために個別に使用されるかどうかを指定できます。

次の図に、この機能の実装方法を示します。



BGPIPv4/IPv6マルチキャストアドレスファミリのガイドラインと制約 事項

IPv6の BGP マルチキャスト アドレス ファミリ機能のガイドラインと制約事項

- ・ランデブー ポイント (RP) は、Cisco ACI ファブリックの外部にある IP アドレスです。 ファブリック RP は IPv6 マルチキャストではサポートされません。
- マルチキャスト送信元は Cisco ACI ファブリック内にあり、レシーバはファブリック外にあります。
- 中継 L3Out は BGPv4/v6 アドレス ファミリではサポートされません。

IPv4 と IPv6 の両方に対する BGP マルチキャスト アドレス ファミリ機能のガイドラインと制約 事項

- ・Cisco ACI ファブリック内の BGPv4/v6マルチキャスト アドレス ファミリはサポートされ ません。
- ユニキャストアドレスファミリが使用されている場合は、RPの到達可能性が存在する必要があります。PIM Source-Specific Multicast (SSM)の場合、RP は必要ありません。

GUI を使用した BGP IPv4/IPv6 マルチキャストの設定

次の手順では、GUIを使用して BGP IPv4/IPv6 マルチキャストアドレスファミリ機能を設定する方法について説明します。

始める前に

L3Out を設定する前に、次のような標準的な前提条件を満たします。

- ・テナント、ノード、ポート、AEP、機能プロファイル、レイヤ3ドメインを設定します。
- ファブリック内でルートを伝播させるための、BGP ルートリフレクタ ポリシーを設定します。

手順

ステップ1 L3Out で使用する VRF を特定するか、必要に応じて VRF を作成します。

[テナント(Tenants)]>[テナント(tenant)]>[ネットワーキング(Networking)]>[VRFs]

- ステップ2 VRF で PIMv4 または PIMv6 を有効にします。
 - VRFの下で PIMv4 を有効化するには、メニューバーで [テナント(Tenants)]>
 [*Tenant_name*]>[ネットワーキング(Networking)]>[VRFs]>[*VRF_name*]>[マルチキャスト(Multicast)]に移動します。
 - メッセージ が表示された場合、この VRF で PIM が有効になっていません。[PIM を 有効化しますか?(Would you like to enable PIM?)]をクリックし、[はい、マルチ キャストを有効化します(Yes, enable Multicast)]をクリックします。
 - ・メインの[マルチキャスト(Multicast)]ウィンドウが表示されている場合は、[有効化(Enable)]ボックスをオンにします(オンになっていない場合)。
 - VRFの下で PIMv6 を有効化するには、メニューバーで [テナント(Tenants)]>
 [Tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[VRFs]>[VRF_name]>[マルチキャスト IPv6(Multicast IPv6)]に移動します。
 - この VRFで「PIMv6 は有効化されていません(PIMv6 is not enabled)」というメッセージが表示される場合。[PIMv6 を有効化しますか?(Would you like to enable PIMv6?)]をクリックし、[はい、マルチキャスト IPv6 を有効化します(Yes, enable multicast IPv6)]をクリックします。
 - ・メインの[マルチキャスト IPv6 (Multicast IPv6)]ウィンドウが表示されている場合は、[有効化(Enable)]ボックスをオンにします(オンになっていない場合)。

ステップ3 L3Out を作成し、L3Out の BGP を設定します。

a) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで[テナント (Tenant)]および[ネットワーキング (Networking)]を展開します。

- b) [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。
- c) L3Out の BGP を設定するために必要な情報を入力します。

[識別 (Identity)]ページ

- ・前の手順で設定した VRF を選択します。
- L3Out 作成ウィザードの [識別(Identity)]ページで [BGP] を選択して、L3Out 向け BGP プロトコルの設定を行います。

1. Identity 2. Nodes And Interfaces 3. Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol Protocol	ate L3Out						00
Protocol				1. Identity	2. Nodes And Interface	s 3. Protocols	4. External EPG
Leaf Route Route Leaf Route Route Leaf Route Route Rout				🌸 Protocol			
Leaf Router Identity A Layer 3 Outside network configuration (L3Out) defines how traffic is forwarded outside of the fabric. Layer 3 is used to discover the addresses of other nodes, select routes, select quality of service, and forward the traffic that is entering, exiting, and transiting the fabric. Prerequisites: • Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: 130ut-demo VRF: VRF: VRF: VRF: Use for GOLF:	0 -			Route			R
Identity A Layer 3 Outside network configuration (L3Out) defines how traffic is forwarded outside of the fabric. Layer 3 is used to discover the addresses of other nodes, select routes, select quality of service, and forward the traffic that is entering, exiting, and transiting the fabric. Prerequisites: Configure the node, port, functional profile, AEP, and Layer 3 domain. Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: L3Out-demo VRF: VRF-demo VRF: VRF-demo VRF: URF-demo VRF: URF-demo VRF: I3Domain-demo VRF: I3DOmain-RF VRF: I3DOmain-R	Leaf						Router
Identity A Layer 3 Outside network configuration (L3Out) defines how traffic is forwarded outside of the fabric. Layer 3 is used to discover the addresses of other nodes, select routes, select quality of service, and forward the traffic that is entering, exiting, and transiting the fabric. Prerequisites: Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: L3Out-demo VRF: VRF-demo G Layer 3 Domain: L3Domain-demo G Layer 3 Domain-demo G La							
A Layer 3 Outside network configuration (L3Out) defines how traffic is forwarded outside of the fabric. Layer 3 is used to discover the addresses of other nodes, select routes, select quality of service, and forward the traffic that is entering, exiting, and transiting the fabric. Prerequisites: Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: L3Out-demo VRF: VRF-demo VRF: VRF-demo VRF: L3Demain-demo VRF: ISDomain-demo VRF: ISDomain-demo VRF: ISDOMARD-MENTER INFORMATION	Identity						
select routes, select quality of service, and forward the traffic that is entering, exiting, and transiting the fabric. Prerequisites: Configure the node, port, functional profile, AEP, and Layer 3 domain. Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: L3Out-demo VRF: VRF-demo VRF: USD-demo VRF: VRF-demo VRF: USD-demo VRF: USD-demo VRF: USD-demo VRF: USD-demo VRF: VRF-demo VRF: USD-demo VRF: USD-demo VRF: VRF-demo VRF: VRF-demo VRF: VRF-demo VRF: VRF-demo VRF: USD-demo VRF: VRF-demo V	A Layer	3 Outside network configu	uration (L3Out) defines he	ow traffic is forwarded outs	side of the fabric. Layer 3 is t	used to discover the add	resses of other nodes,
Prerequisites: • Configure the node, port, functional profile, AEP, and Layer 3 domain. • Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: L3Out-demo VRF: VRF-demo VRF: VRF-demo Layer 3 Domain: L3Domain-demo Use for GOLF:	select ro	utes, select quality of service	vice, and forward the traf	fic that is entering, exiting,	, and transiting the fabric.		
Configure the node, port, functional profile, AEP, and Layer 3 domain. Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: L3Out-demo VRF: VRF-demo VRF: URF-demo Cospf Layer 3 Domain: L3Domain-demo C	Prerequ	sites:					
Configure a BGP route reflector policy to propagate the routes within the fabric. Name: L3Out-demo VRF: VRF-demo VRF: USDomain-demo C GOLF: Use for GOLF:	Config	ure the node, port, function	onal profile, AEP, and Lay	er 3 domain.			
Name: L3Out-demo BBP OSPF VRF: VRF-demo CSPF Layer 3 Domain: L3Domain-demo C C Use for GOLF:	Config	jure a BGP route reflector	policy to propagate the r	routes within the fabric.			
Name: [L3Out-demo OSPF VRF: VRF-demo C C Layer 3 Domain: -demo C C Use for GOLF:					\frown		
VRF: VRF-demo V C Layer 3 Domain: L3Domain-demo V C Use for GOLF:	Name:	L3Out-demo		(BGP EIG	RP OSPF	
Layer 3 Domain- demo 🗸 🔁 Use for GOLF: 🔲	VRF:	VRF-demo	V CP		<u> </u>		
Use for GOLF:	Layer 3 Domain:	L3Domain-demo	~ 🖉				
	Use for GOLF:						
Previous						Previous	Cancel Next

- d) 残りのページを続けて行い([ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]、[プロトコル(Protocols)]、および[外部 EPG(External EPG)])、L3Outの設定を完了します。
- ステップ4 L3Outの設定が完了したら、BGP IPv4/IPv6 マルチキャストアドレスファミリ機能を設定します。
 - a) BGP ピア接続プロファイル スクリーンに移動します。

[テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]>[L3out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical-node-profile-name]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[logical-interface-profile-name]>[BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] [IP-address]

b) [アドレスタイプ制御 (Address Type Controls)]フィールドまで下にスクロールし、次のように選択します。

- [AF Mcast] を選択します。
- •[AF Ucast] が選択されている場合は、選択したままにします。

Peer Connectivity Profile - BGP P	Peer Connectivity Profile
8 👽 🛆 🕔	
Properties	
Address:	100.0.0.0
Description:	optional
BCD Controles	
BGP Controls:	
	Disable Peer AS Check
	Next-hop Self
	Send Community
	Send Extended Community
Password:	
Confirm Password:	
Allowed Self AS Count:	3
Peer Controls:	Bidirectional Forwarding Detection
	Disable Connected Check
EBGP Multihop TTL:	1
Weight for routes from this neighbor:	0
Private AS Control:	Remove all private AS
	Remove private AS
	Replice private AS with local AS
Address Type Controls:	AF Mcast
	AF Ucast
BGP Peer Prenx Policy.	select a value
	Pre-existing BGP session must be reset to apply the Prefix policy
Remote Autonomous System Number:	8
Local-AS Number Config:	

- c) [送信 (Submit)] をクリックします。`
- d) ピアの IPv4 または IPv6 マルチキャスト アドレス ファミリに再配布する必要があるサブ ネットを持つブリッジ ドメインに移動します。

[テナント (Tenants)]>[tenant]>[ネットワーキング (Networking)]>[ブリッジ ドメイン (Bridge Domains)]>[bridge_domain-name]

- e) メインペインで、[ポリシー/全般(Policy/General)] タブをクリックします。
- f) ブリッジ ドメインで PIMv4 または PIMv6 を有効にします。
 - •ブリッジドメインで PIMv4 を有効にするには、[PIM] フィールドまでスクロールし、 そのフィールドの横にあるチェックボックスをオンにして有効にします。

•ブリッジ ドメインで PIMv6 を有効にするには、[PIMv6] フィールドまでスクロール し、そのフィールドの横にあるチェックボックスをオンにして有効にします。

Bridge Domain - demoBD				
100 😢 👽 🛆 🕔				
Properties				
Advertise Host Routes:				
Enable Legacy Mode:				
Legacy Mode: No				
VLAN:				
VRF: select a value				
Resolved VRF: common/default				
L2 Unknown Unicast:	lood Har	dware Pro	ky l	
L3 Unknown Multicast Flooding:	lood Op	timized Floo	bd	
IPv6 L3 Unknown Multicast:	lood Op	timized Floo	bd	
Multi Destination Flooding:	ood in BD	Drop	Flood in Encapsulation	
PIM:				
PIMv6: 🗹				
IGMP Policy: select an option				
ARP Flooding: 🗹			8	
IP Data-plane Learning:	o yes		Į	

g) [送信 (Submit)]をクリックします。

マルチキャスト フィルタリングについて

ACIは、誰がマルチキャストフィードを受信でき、どのソースから受信できるかを制御するために使用できるコントロールプレーン構成をサポートしています。フィルタリングオプションには、IGMP レポートフィルタ、PIM Join または Prune フィルタ、PIM ネイバーフィルタ、 およびランデブーポイント (RP) フィルタがあります。これらのオプションは、コントロールプレーンプロトコル (IGMP および PIM) に依存します。

ー部の展開で、データプレーンレベルでマルチキャストストリームの送信および/または受信 を制限することが望ましい場合があります。たとえば、LAN内のマルチキャスト送信者が特 定のマルチキャストグループにのみ送信できるようにするか、受信者がすべての可能な送信元 から、または特定の送信元からの特定のマルチキャストグループを受信のみできるようにする 必要がある場合があります。 Cisco APICリリース 5.0(1) 以降では、マルチキャスト フィルタリング機能を使用できるように なりました。これにより、二方向からのマルチキャストトラフィックをフィルタリングできま す。

- マルチキャストフィルタリングの設定:ファーストホップルータでの送信元フィルタリング(104ページ)
- マルチキャストフィルタリングの設定:ラストホップルータでの送信元フィルタリング (104ページ)
- ・同じブリッジドメインでの送信元と受信者の複合フィルタリング (105ページ)

マルチキャスト フィルタリングの設定:ファースト ホップ ルータでの送信元フィルタリング

ブリッジドメインでトラフィックを送信している送信元について、そのブリッジドメインの マルチキャスト送信元フィルタを設定している場合、送信元とグループは送信元フィルタルー トマップのエントリの1つと照合されます。そのエントリに関連付けられているアクションに 応じて、アクションが実行されます。

- ・送信元およびグループが、ルートマップの許可アクションを持つエントリと一致する場合、ブリッジドメインはその送信元からそのグループへのトラフィック送信を許可します。
- ・送信元およびグループが、ルートマップの拒否アクションを持つエントリと一致する場合、ブリッジドメインはその送信元からそのグループへのトラフィック送信をブロックします。
- ルートマップ内のどのエントリとも一致しない場合、ブリッジドメインは、デフォルトオプションとして、その送信元からそのグループへのトラフィックの送信をブロックします。つまり、ルートマップが適用されると、最後に暗黙の「deny all (すべて拒否)」ステートメントが常に有効になります。

シングルルートマップに複数のエントリを設定できます。ここで一部のエントリは許可アクションで設定、その他のエントリは拒否アクションで設定が可能です。すべてが同じルートマップ内で行われます。



(注) 送信元フィルタがブリッジドメインに適用されると、送信元でマルチキャストトラフィック がフィルタリングされます。フィルタは、異なるブリッジドメイン内の受信先、同じブリッジ ドメイン内の受信先、および外部受信先がマルチキャストを受信するのを防ぎます。

マルチキャスト フィルタリングの設定:ラストホップ ルータでの送信元 フィルタリング

マルチキャスト送信元フィルタリングは、ブリッジドメイン内の受信者が特定のグループのマルチキャストを受信できる送信元を制限するために使用されます。この機能は、IGMPv3 がコントロール プレーンで提供するものと同様に、送信元またはグループのデータ プレーンフィルタリング機能を提供します。

ブリッジドメインで join を送信する受信者について、そのブリッジドメインのマルチキャス ト受信者フィルタを設定している場合、送信元とグループは受信者フィルタルートマップの エントリの1つと照合されます。ここで、そのエントリに関連付けられているアクションに応 じて、次のいずれかのアクションが実行されます。

- ・送信元およびグループが、ルートマップの許可アクションを持つエントリと一致する場合、ブリッジドメインはその送信元からそのグループへのトラフィックの受信を許可します。
- ・送信元およびグループが、ルートマップの拒否アクションを持つエントリと一致する場合、ブリッジドメインはその送信元からそのグループへのトラフィック受信をブロックします。
- ルートマップ内のどのエントリとも一致しない場合、ブリッジドメインは、デフォルトオプションとして、その送信元からそのグループへのトラフィックの受信をブロックします。つまり、ルートマップが適用されると、最後に暗黙の「deny all (すべて拒否)」ステートメントが常に有効になります。

シングルルートマップに複数のエントリを設定できます。ここで一部のエントリは許可アク ションで設定、その他のエントリは拒否アクションで設定が可能です。すべてが同じルート マップ内で行われます。

同じブリッジドメインでの送信元と受信者の複合フィルタリング

同じブリッジドメインでマルチキャスト送信元フィルタリングとマルチキャスト受信者フィル タリングの両方を有効にすることもできます。この場合、1つのブリッジドメインがブロッキ ングを実行したり、トラフィックをグループ範囲に送信する際に送信元のフィルタリングを許 可したり、送信元からグループ範囲へのトラフィックを受信する場合にフィルタリングを制限 したり、フィルタリングを制限したりできます。

マルチキャスト フィルタリングのガイドラインと制約事項

マルチキャストフィルタリング機能のガイドラインと制約事項は次のとおりです。

- ・ブリッジドメインでマルチキャスト送信元フィルタリングまたはレシーバフィルタリン グを有効にできますが、同じブリッジドメインでマルチキャスト送信元フィルタリングと レシーバフィルタリングの両方を有効にすることもできます。
- •マルチキャストフィルタ処理は、IPv4 でのみサポートされています。
- ・ブリッジドメインにマルチキャストフィルタを設定しない場合は、そのブリッジドメインで送信元フィルタまたは宛先フィルタルートマップを設定しないでください。デフォルトでは、ルートマップはブリッジドメインに関連付けられていません。これは、すべての送信元とグループが許可されることを意味します。送信元フィルタまたは宛先フィルタを持つルートマップがブリッジドメインに関連付けられている場合、そのルートマップ内の許可エントリのみが許可され、すべての拒否エントリがブロックされます(常に末尾に暗黙の「deny-all」ステートメントを含みます)。

- 空のルートマップをブリッジドメインに接続すると、ルートマップはデフォルトで deny all を想定するため、すべての送信元とグループがそのブリッジドメインでブロックされ ます。
- マルチキャストフィルタリング機能は、ブリッジドメインレベルで適用されます。ACI は、単一のブリッジドメインでの複数のEPGの設定をサポートします。この設定をブリッジドメインフィルタリング機能とともに使用すると、ブリッジドメインレベルの設定で あるため、フィルタはブリッジドメイン内のすべてのEPGに適用されます。
- マルチキャストフィルタリング機能は、任意の送信元マルチキャスト(ASM)範囲にの み使用することを目的としています。ただし、送信元固有のマルチキャスト(SSM)範囲 をサポートしている場合は、IGMPv3を使用した SSM join itself で送信元と結合をフィル タ処理することを推奨します。

マルチキャストフィルタ処理機能の SSM 範囲を設定する場合は、次の制約事項が適用されます。

- Bridge domain source filtering with SSM:送信元フィルタリングは SSM ではサポート されていません。
- Bridge domain receiver filtering with SSM: 受信者フィルタリングは SSM グループ範囲で使用できます。受信者フィルタリングの主な使用例の1つは、特定の送信元からのマルチキャストストリームをフィルタリングすることです。この機能はすでに SSM プロトコルによって提供されているため、ほとんどの場合、SSM では受信者フィルタリングは必要ありません。
- ・送信元と受信者のフィルタリングでは、ルートマップエントリの順序付きリストが使用されます。ルートマップエントリは、一致するまで最も小さい番号から実行されます。一致がある場合、リスト内で最長一致ではない場合でも、プログラムは終了し、残りのエントリは考慮されません。

たとえば、次のエントリを持つ特定の送信元(192.0.3.1/32)の次のルートマップがある とします。

表8:ルートマップ

順位	送信元 IP	アクション
1	192.0.0/16	許可
2	192.0.3.0/24	拒否

ルートマップは、オーダー番号に基づいて評価されます。したがって、2番目のエントリ (192.0.3.0/24) が送信元 IP と一致する場合でも、最初のエントリ(192.0.0.0/16) は、下 位の番号が原因で照合されます。

GUI を使用したマルチキャスト フィルタリングの設定

ブリッジ ドメイン レベルでマルチキャスト フィルタリングを設定します。このトピックの手順を使用して、ブリッジ ドメイン レベルで送信元フィルタリングまたは受信者フィルタリン グ、あるいはその両方を設定します。

始める前に

- マルチキャストフィルタリングを設定するブリッジドメインはすでに作成されています。
- •ブリッジ ドメインは PIM 対応ブリッジ ドメインです。
- ・レイヤ3マルチキャストはVRFレベルで有効になります。

手順

- **ステップ1** マルチキャスト フィルタリングを設定するブリッジ ドメインに移動します。
 - [テナント(Tenant)]>[tenant-name]>[ネットワーキング(Networking)]>[ブリッジ ドメイン(Bridge Domains)]>[bridge-domain-name]

このブリッジ ドメインの [サマリ (Summary)] ページが表示されます。

- ステップ2 [ポリシー(Policy)]タブを選択し、[全般(General)]サブタブを選択します。
- ステップ3 [全般(General)]ウィンドウで、[PIM]フィールドを見つけ、PIMが有効になっていることを 確認します([PIM]フィールドの横にあるチェックボックスがオンになっていること)。

PIM が有効になっていない場合は、[PIM] フィールドの横にあるチェックボックスをオンにし て有効にします。[送信元フィルタ(Source Filter)] フィールドと [宛先フィルタ(Destination Filter)] フィールドが使用可能になります。

- (注) マルチキャストフィルタリングはIPv4 (PIM) でのみサポートされており、現時点 では IPv6 (PIM6) ではサポートされていません。
- ステップ4 マルチキャスト [送信元] または [受信者] のフィルタリングを有効にするかどうかを決定しま す。
 - (注) 送信元フィルタリングと受信先フィルタリングの両方を同じブリッジドメインで有 効にできます。
 - ファーストホップルータでマルチキャスト[送信元]フィルタリングを有効にする場合は、
 [送信元フィルタ (Source Filter)]フィールドで、次のいずれかを選択します。
 - 既存のルートマップポリシー:送信元フィルタリングのマルチキャストの既存のルートマップポリシーを選択します。ステップ7 (110ページ)
 - 新しいルートマップポリシー:[マルチキャスト向けのルートマップポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)]を選択し、に進みます。ステップ5(108ページ)

- ラストホップルータでマルチキャスト [受信者] フィルタリングを有効にする場合は、[宛 先フィルタ(Destination Filter)] フィールドで、次のいずれかを選択します。
 - •既存のルートマップポリシー:受信者フィルタリング用のマルチキャストの既存ルートマップポリシーを選択してステップ7 (110ページ)に移動します。
 - 新しいルートマップポリシー:[マルチキャスト向けのルートマップポリシーの作成 (Create Route Map Policy for Multicast)]を選択し、に進みます。ステップ6 (109 ページ)
- ステップ5 [マルチキャストのルートマップポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)]オプションを選択して、最初のホップルータでマルチキャスト[送信元]フィルタリングを有効にした場合は、[マルチキャストのルートマップポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)]ウィンドウが表示されます。このウィンドウに次の情報を入力します。
 - a) [名前(Name)]フィールドにこのルートマップの名前を入力し、必要に応じて[説明 (Description)]フィールドに説明を入力します。
 - b) [ルートマップ (Route Maps)]領域で、[+]をクリックします。

[ロールの作成(Create a Role)] ウィンドウが表示されます。

c) Order フィールドでは、このインターフェイスに対して複数のアクセスグループを設定している場合に、このインターフェイスでのマルチキャストトラフィックへのアクセスをどの順序で許可または拒否するかを反映する番号を選択します。

小さい番号のエントリは、大きい番号のエントリの前に並べられます。範囲は0~65535 です。

- d) マルチキャスト送信元フィルタリングのためにトラフィックの送信を許可または拒否する 方法を決定します。
 - 特定の送信元から任意のグループへのマルチキャストトラフィックの送信を許可また は拒否する場合は、[送信元 IP (Source IP)]フィールドに、トラフィックの送信元と なる特定の送信元の IP アドレスを入力し、[グループ IP (Group IP)]フィールドは空 のままにします。
 - 任意の送信元から特定のグループへのマルチキャストトラフィックの送信を許可また は拒否する場合は、[グループ IP (Group IP)]フィールドに、トラフィックの送信先 のマルチキャスト IP アドレスを入力し、[送信元 IP (Source IP)]フィールドは空のま まにします。
 - 特定の送信元から特定のグループへのマルチキャストトラフィックの送信を許可また は拒否する場合は、[グループ IP (Group IP)]フィールドと[送信元 IP (Source IP)] フィールドの両方に必要な情報を入力します。
 - (注) [RPIP]フィールドは、マルチキャスト送信元フィルタリングまたはマルチキャスト受信者フィルタリングには適用されません。このフィールドのエントリはマルチキャストフィルタリングでは無視されるため、この機能のこのフィールドには値を入力しないでください。

- e) [アクション(Action)]フィールドでは、ターゲット送信元のアクセスを拒否する場合に は[拒否(Deny)]を、ターゲット送信元のアクセスを許可する場合には[許可(Permit)] を選択します。
- f) [OK] をクリックします。

[マルチキャストのルート マップ ポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)] ウィンドウが再び表示され、設定したルート マップ エントリが [ルート マップ (Route Maps)] テーブルに表示されます。

g) このルートマップに追加のルート マップ エントリを作成するかどうかを決定します。

1 つのルート マップに対して複数のルート マップ エントリを作成できます。各エントリ には、独自の IP アドレスと関連アクションがあります。たとえば、同じルート マップ内 に、[許可(Permit)] アクションが適用された IP アドレスのセットと、[拒否(Deny)] ア クションが適用された IP アドレスの別のセットが必要な場合があります。

このルートマップに追加のルートマップエントリを作成する場合は、[ルートマップ (Route Maps)]領域で[+]をもう一度クリックし、に移動して、このルートマップの追加 のルートマップエントリを[ルートマップエントリの作成(Create Route Map Entry)]ウィ ンドウで必要な情報をフィルタリングするステップを繰り返します。5.c (108 ページ)

- h) このルートマップのすべてのルートマップエントリを完了したら、[送信 (Submit)]を クリックします。ステップ7 (110ページ) に進みます。
- ステップ6 [マルチキャストのルートマップポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)]オプ ションを選択して、ラストホップルータでのマルチキャスト宛先(レシーバ)フィルタリング を有効にした場合は、[マルチキャストのルートマップポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)]ウィンドウが表示されます。このウィンドウに次の情報を入力します。
 - a) [名前(Name)]フィールドにこのルートマップの名前を入力し、必要に応じて[説明 (Description)]フィールドに説明を入力します。
 - b) [ルートマップ (Route Maps)]領域で、[+]をクリックします。

[ロールの作成(Create a Role)] ウィンドウが表示されます。

c) Order フィールドでは、このインターフェイスに対して複数のアクセスグループを設定している場合に、このインターフェイスでのマルチキャストトラフィックへのアクセスをどの順序で許可または拒否するかを反映する番号を選択します。

小さい番号のエントリは、大きい番号のエントリの前に並べられます。範囲は0~65535 です。

- d) マルチキャスト レシーバフィルタリングで受信するトラフィックを許可するか拒否する かを決定します。
 - ・任意の送信元から特定のグループへのトラフィックの送信を許可または拒否する場合は、[グループ IP (Group IP)]フィールドに、トラフィックの送信先のマルチキャスト IP アドレスを入力し、[送信元 IP (Source IP)]フィールドは空のままにします。
 - ・特定の送信元から任意のグループへのトラフィックの送信を許可または拒否する場合 は、[送信元 IP (Source IP)]フィールドに、トラフィックの送信元となる特定の送信

元の IP アドレスを入力し、[グループ IP(Group IP)] フィールドは空のままにします。

- 特定の送信元から特定のグループへのトラフィックの受信を許可または拒否する場合は、[グループ IP (Group IP)]フィールドと[送信元 IP (Source IP)]フィールドの両方に必要な情報を入力します。
- (注) [RPIP]フィールドは、マルチキャスト送信元フィルタリングまたはマルチキャスト受信者フィルタリングには適用されません。このフィールドのエントリはマルチキャストフィルタリングでは無視されるため、この機能のこのフィールドには値を入力しないでください。
- e) [アクション(Action)]フィールドでは、ターゲットグループのアクセスを拒否する場合には[拒否(Deny)]を、ターゲットグループのアクセスを許可する場合には[許可(Permit)]を選択します。
- f) [OK] をクリックします。

[マルチキャストのルート マップ ポリシーの作成(Create Route Map Policy for Multicast)] ウィンドウが再び表示され、設定したルート マップ エントリが [ルート マップ (Route Maps)] テーブルに表示されます。

g) このルートマップに追加のルートマップエントリを作成するかどうかを決定します。

1 つのルート マップに対して複数のルート マップ エントリを作成できます。各エントリ には、独自の IP アドレスと関連アクションがあります。たとえば、同じルート マップ内 に、[許可(Permit)] アクションが適用された IP アドレスのセットと、[拒否(Deny)] ア クションが適用された IP アドレスの別のセットが必要な場合があります。

このルートマップに追加のルートマップエントリを作成する場合は、[ルートマップ (Route Maps)]領域で[+]をもう一度クリックし、に移動して、このルートマップの追加 のルートマップエントリを[ルートマップエントリの作成(Create Route Map Entry)]ウィ ンドウで必要な情報をフィルタリングするステップを繰り返します。6.c (109ページ)

- h) このルートマップのすべてのルートマップエントリを完了したら、[送信 (Submit)]を クリックします。ステップ7 (110ページ) に進みます。
- **ステップ7** [ポリシー/全般(Policy/General)]ページの右下隅にある[送信(Submit)]をクリックします。 [ポリシー使用の警告(Policy Usage Warning)]ウィンドウが表示されます。
- ステップ8 [ポリシー使用の警告(Policy Usage Warning)]ウィンドウのテーブルに表示されているノード とポリシーがこのポリシーの変更の影響を受けることを確認し、マルチキャストの送信元や宛 先のフィルタリングを有効にし、[変更の送信(Submit Changes)]をクリックします。

SVI L3Out のレイヤ3マルチキャストについて

L3Out SVI でのレイヤ3マルチキャストにより、L3Out SVI で PIM を有効にするためのサポートが追加されます。これにより、L3Out SVI で構成された ACI 境界リーフスイッチは、外部マルチキャスト ルータまたはファイアウォールとの PIM 隣接関係を確立できます。

ファイアウォールは通常、アクティブ/スタンバイペアで展開されます。ここでは、両方のファ イアウォールが同じ VLAN とサブネット上のファブリックに接続されます。





これは LAN に似たトポロジであるため、ファブリック側に SVI L3Out が必要です。リリース 5.2(3) 以降では、SVI L3Out のレイヤ 3 マルチキャストがサポートされます。

L3Out SVI は、SVI が展開されているすべての境界リーフスイッチでレイヤ3 SVI インターフェ イスが構成されているインターフェイス タイプです。SVI が設定されている L3Out で PIM が 有効になっている場合、SVI の一部である境界リーフ スイッチで PIM プロトコルが有効にな ります。すべての SVI は、相互に、および外部の PIM 対応デバイスと PIM 隣接関係を形成し ます。

L30ut からファイアウォールへのトポロジ例

次の図は、ファイアウォールへの L3Out のトポロジ例を示しています。



この例では、BL1、BL2 は、ファブリック上の境界リーフスイッチです。両方の境界リーフ スイッチは、外部ファイアウォールに接続するのと同じ SVI L3Out 上にあります。各ファイア ウォールは、ポート チャネル (非 vPC) を介して 2 つの境界リーフ スイッチのいずれかに接続 されます。

- 各境界リーフスイッチは、アクティブファイアウォールへの PIM ネイバー隣接関係を形成します。
- この例のBL2は、L3Out外部ブリッジドメインのファブリックトンネルを介してアクティブなファイアウォールにピアリングします。
- アクティブなファイアウォールは、BL1 と BL2 の両方に PIM 参加/プルーニングを送信できます。
- 2つの境界リーフスイッチの1つが PIM 加入をファイアウォールに送信します。ファイアウォールに向けて PIM Join を送信する境界リーフスイッチは、マルチキャスト グループ(SSM のグループとソース)のストライプ勝者選択によって決定されます。
- BL2は、マルチキャストグループのストライプ勝者として選択できます。トポロジ例の BL2は、アクティブなファイアウォールに直接接続されていません。BL1はBL2に、ソー スに直接接続されたリバースパスフォワーディング(RPF)であることを通知します。
 BL2はBL1経由でPIMを送信できます。BL2は、ファイアウォールのIPアドレスの再帰 ルックアップを実行できる必要があります。この機能は、接続されたホストの再配布機能 によって提供されます。ファイアウォールサブネットに一致するルートマップは、L3Out での接続ホストの再配布用に構成する必要があります。



L30ut SVI から外部スイッチ/ルータへのトポロジ例

次の図は、外部スイッチまたはルータへのL3Out SVIのトポロジ例を示しています。

レイヤ3マルチキャストステートおよびマルチキャストデータトラフィックに関して、上記の図のコンポーネントは次のように影響を受けます。

- •BL1、BL2、BL3、およびBL4は、ファブリック上の境界リーフスイッチです。これらの 境界リーフスイッチはすべて、外部ボックスに接続する同じSVIL3Out上にあります。外 部ボックスは、任意の外部スイッチまたはルータである可能性があります。
- ・論理的には、レイヤ3リンクは境界リーフスイッチと外部ルータの間でアップ状態です。
 したがって、SVIL3Outの境界リーフスイッチおよび外部ルータをまたがるユニキャスト
 ルーティングプロトコルまたは PIM に関して、フルメッシュ隣接関係が存在します。
- SVIL3Outはブリッジドメインであるため、境界リーフスイッチから外部ルータへの複数の物理接続がある場合でも、それらの間の1つのリンクだけがレイヤ2レベルで各外部ルータにアップします。他のすべてのリンクはSTPによってブロックされます。

たとえば、上の図では、レイヤ2レベルの次のリンクだけがアップしています。

- •BL1と外部ルータ1間のリンク
- BL3 と外部ルータ2間のリンク

したがって、他のすべての境界リーフスイッチでは、IPアドレス10.1.1.10はBL1を介してのみ到達可能であり、10.1.1.20はBL3を介してのみ到達可能です。

注意事項と制約事項

- PIM 対応の SVIL3Outには、接続されたホストルートマップを設定する必要があります。
 このルートマップは、直接接続されたすべての外部 PIM ネイバーと一致する必要があります。
 0.0.0.0/0 サブネットを使用できます。
- SVI L3Out 機能のレイヤ3マルチキャストでは、次の領域がサポートされます。
 - ・サポート対象:
 - Protocol Independent Multicast (PIM) Any Source Multicast (ASM) および Source-Specific Multicast (SSM)
 - ・物理インターフェイスを使用した SVI
 - ・ダイレクトポートチャネルを使用した SVI (非 vPC)
 - すべてのトポロジの組み合わせ:
 - Source Inside Receiver Inside (SIRI)
 - Source Inside Receiver Outside (SIRO)
 - Source Outside Outside Receiver Inside (SORI)
 - Source Outside Outside Receiver Outside (SORO)

サポート対象外:

- ・SVI L3Out を介した VPC によるレイヤ 3 マルチキャスト
- SVI サブネットに直接接続された送信元または受信者ホスト(送信元または受信 者ホストは SVI L3Out 上のルータの背後に接続されている必要があります)
- ローカル リーフ スイッチ(ACIメイン データ センター スイッチ)とリモート リーフ スイッチ間のストレッチ SVI L3out はサポートされていません。
- ・複数のサイト(Cisco ACI マルチサイト)にまたがるストレッチ SVI L3Out
- PIMv6 の SVI L3Out
- ・セカンダリ IP アドレス境界リーフスイッチのセカンダリ IP アドレスに送信された場合、PIMの参加/プルーニングは処理されません。セカンダリ IP アドレスは、通常、静的ルーティング用の境界リーフスイッチ間で共有(仮想) IP アドレスを構成するために使用されます。PIM over SVI を設定するときはダイナミックルーティングを使用するか、各境界リーフスイッチのプライマリアドレスへのスタティックルートを作成することをお勧めします。

GUIを使用した SVI L3Out 上のレイヤ3マルチキャストの設定

手順

- ステップ1 レイヤ3インターフェイスタイプとして[SVI]を設定した[L3Outの作成(Create L3Out)]ウィ ザードを使用して、標準L3Outを設定します。
 - a) GUIの[ナビゲーション (Navigation)]ペインの、[テナント例 (Tenant Example)]で[ネットワーキング (Networking)][L3Out]の順に移動します。 >
 - b) [L3Out の作成(Create L3Out)]を右クリックして選択します。
 - c) [L3Outの作成(Create L3Out)] 画面の[識別(Identity)] ウィンドウで、L3Outの名前を入 力し、このL3Out に関連付ける VRF およびL3 ドメインを選択します。
 - d) [識別(Identity)] ウィンドウに必要な情報を入力したら、[次へ(Next)]をクリックします。
 - [ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)] ウィンドウが表示されます。
 - e) [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ウィンドウの[インターフェイスタイプ:レイヤ3 (Interface Types: Layer 3)]フィールドで、レイヤ3インターフェイスタイプとして [SVI] を選択します。
 - f) L3Outの設定が完了するまで、[L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードを使用して個々のフィールドの設定を続けます。
- ステップ2 設定された L3Out に移動します。

[テナント (Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]> [L3Out_name]

設定された L3Out の [サマリー (Summary)] ページが表示されます。

- **ステップ3** [ポリシー (Policy)]タブをクリックし、次に[メイン (Main)]サブタブをクリックします。 設定された L3Out の [プロパティ (Properties)]ページが表示されます。
- ステップ4 [再配布用のルートプロファイル(Route Profile for Redistribution)] フィールドで、[+] をクリッ クして再配布用のルートプロファイルを設定します。
- ステップ5 [送信元 (Source)] フィールドで、[attached-host] を選択します。
- ステップ6 [ルートマップ (Route Map)]フィールドで、すべてを許可するルートマップを設定します。
 - a) [ルート制御のルートマップの作成 (Create Route Maps for Route Control)]をクリックしま す。

[ルート制御のルートマップの作成(Create Route Maps for Route Control)] ウィンドウが表示されます。

b) このルートマップの名前と説明を入力し、[コンテキスト(Contexts)]領域で[+]をクリッ クします。

[ルート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)] ウィンドウが表示されます。

- c) [ルート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)] ウィンドウで必要なパラ メータを設定し、[アクション(Action)] フィールドの値を[許可(Permit)] に設定しま す。
- d) [関連付けられた一致ルール (Associated Match Rules)]領域で[+] をクリックし、[ルート マップの一致ルールの作成 (Create Match Rule for a Route Map)]を選択して、このルート 制御コンテキストの一致ルールを設定します。

[一致ルールの作成(Create Match Rule)] ウィンドウが開きます。

e) [一致 プレフィックス(Match Prefix)] 領域で [+] をクリックします。

[一致ルート宛先ルールの作成 (Create Match Route Destination Rule)] ウィンドウが表示されます。

- f) [一致ルート宛先ルールの作成(Create Match Route Destination Rule)] ウィンドウで、こ れらのフィールドに次の値を入力して、サブネットまたは 0.0.0/0 ルートおよび集約設定 で一致する集約ルートをもつルールを設定します。
 - IP : 0.0.0/0
 - ・集約(Aggregate):このフィールドのボックスをオンにします。[マスクより大きい (Greater Than Mask)]フィールドと[マスク未満(Less Than Mask)]フィールドが表示されます。
 - マスクより大きい:0
 - マスク未満:0
- g) [送信 (Submit)]をクリックして、この一致ルート宛先ルールを設定します。
- **ステップ7** すべてを許可するルートマップを設定したら、集約ルートまたは0.0.0.0/0ルートの集約エク スポートを行うエクスポートルート制御サブネットで外部EPGを設定します。
 - a) 設定済みの外部 EPG に移動します。

[テナント(Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[L3Outs]> [L3Out_name]>[外部 EPG(External EPGs)]>[external_EPG_name]

設定されたL3Outの[プロパティ (Properties)]ページが表示されます。デフォルトでは、 [ポリシー/全般 (Policy / General)]ページが表示されます。

- b) [サブネット (Subnets)]領域で、設定した 0.0.0.0/0 エントリをダブルクリックします。 設定されたサブネットの [プロパティ (Properties)]ウィンドウが表示されます。
- c) [ルート制御 (Route Control)]領域で、次の項目を選択します。
 - [ルート制御サブネットのエクスポート(Export Route Control Subnet)]の隣のチェックボックスをオンにします。
 - •[集約(Aggregate)]領域で、[エクスポートの集約(Aggregate Export)] フィールドの 横にあるボックスをオンにします。

d) [送信 (Submit)]をクリックします。

PIM インターフェイスが作成されなかった理由の判別

PIM インターフェイスが L30ut インターフェイス用に作成されていない

L3Out インターフェース用に PIM インターフェース (pim:If) が作成されていない場合は、以下を確認してください。

- 1. PIM が L3Out で有効になっています。PIM が無効になっている場合は、有効にします。
- コンテナL3OutでPIMが有効になっている場合は、マルチキャストl3ext:InstPがプレフィックス名として「__int_」で作成されていることを確認します。このマルチキャストl3ext:InstPは、L3Out PIMポリシーをスイッチに展開するために使用されます。L3Out ごとに1つのマルチキャストl3ext:InstPが必要です。



```
(注)
```

マルチキャスト l3ext:InstP が IFC に存在する場合、対応する fv:RtdEpP が作成され、そのL3Out にインターフェイスがある各スイッチに展開されているかどうかを確認できます。
 PIM の L3Out SVI インターフェイスはサポートしていません。

PIMインターフェイスがマルチキャストトンネルインターフェイス用 に作成されていない

マルチキャストトンネルインターフェイス (tunnel:If) に対してPIMインターフェース (pim:if) が作成されていない場合は、以下を確認してください。

1. 対応するトンネル:If が作成されました。

(注) tunnel:If のタイプは「underlay-mcast」である必要があります。

- 2. 各 mcast 対応 VRF は、mcast トンネルを作成しています。
- 3. tunnel:If の宛先 IP フィールドには、有効な GIPO アドレスが入力されています。
- **4.** tunnel:If に有効な GIPO アドレスが入力されていない場合は、IFC の pim:CtxP とスイッチ の pim:CtxDef をチェックして、GIPO が正しく割り当てられていることを確認します。
- 5. トンネルの送信元 IP:If には、BL の場合は L3Out のループバック アドレス、NBL の場合 は「127.0.0.100」があります。

PIMインターフェイスがマルチキャスト対応ブリッジドメインに作成 されない

マルチキャスト対応のブリッジドメイン (BD) に対して PIM インターフェイス (pim:if) が 作成されていない場合は、次のことを確認します。

- 1. 対応する BD または対応する Ctx で PIM が有効になっています。
- 2. 対応する BD が普及しています。
- 3. 普及している BD ベースの pim:If は、デフォルトのパラメータを受け取ります。



(注)

igmp snooping との相互作用については、普及 BD で PIM が有効になっている場合、対応する igmpsnoop:Ifに対してルーティングビットが自動的に有効になっている必要があります。


マルチポッド

この章は、次の項で構成されています。

- マルチポッドについて (121ページ)
- •マルチポッドのプロビジョニング (122ページ)
- ・Cisco ACI マルチポッドファブリックの設定に関するガイドライン (124ページ)
- マルチポッドファブリックの設定(127ページ)
- Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでのマルチポッド IPN 設定の例 (132 ページ)
- APIC を1つのポッドから別のポッドに移動する (134 ページ)
- OSPF IPN アンダーレイから BGP IPN アンダーレイへの移行 (135 ページ)
- マルチポッドスパインバックツーバックについて(137ページ)

マルチポッドについて

マルチポッドは、隔離されたコントロール プレーン プロトコルを持つ複数のポッドで構成さ れた、障害耐性の高いファブリックのプロビジョニングを可能にします。また、マルチポッド では、さらに柔軟にリーフとスパインスイッチ間のフルメッシュ配線を行うことができます。 たとえば、リーフスイッチが異なるフロアや異なる建物にまたがって分散している場合、マル チポッドでは、フロアごと、または建物ごとに複数のポッドをプロビジョニングし、スパイン スイッチを通じてポッド間を接続することができます。

マルチポッドは、異なるポッドの ACI スパイン間のコントロール プレーン通信プロトコルとして MP-BGP EVPN を使用します。

Cisco APIC リリース 5.2(3) よりも前のリリースでは、物理スパインと IPN の間をピアリングす るためにアンダーレイで OSPF が使用されます。Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、アンダーレ イプロトコルは OSPF または BGP (eBGP のみ) または混合で、OSPF を使用するポッドと BGP を使用するポッドがあります。

WAN ルータは、ポッド間ネットワーク(IPN)でプロビジョニング可能で、スパインスイッ チに直接接続されるか、境界リーフスイッチに接続されます。IPN に接続されるスパインス イッチは、ポッド内ので少なくとも1個のリーフスイッチに接続されます。 マルチポッドはすべてのポッドに単一の APIC クラスタを使用します。そのため、すべての ポッドが単一のファブリックとして機能します。ポッド全体にわたって個々の APIC コント ローラが配置されますが、それらはすべて単一の APIC クラスタの一部です。

図 10:マルチポッドの概要



(注) Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、2 つのポッドのみで構成されるファブリックは、IPN なしで 直接接続できます。このマルチポッドスパインバックツーバックトポロジについては、マルチ ポッドスパインバックツーバック について (137 ページ) を参照してください。

マルチポッドのプロビジョニング

IPN は APIC では管理されません。これは、次の情報が事前する必要があります。

・すべてのポッドの背表紙に接続されているインターフェイスを設定します。VLAN-4でトラフィックをタグ付けするレイヤ3サブインターフェイスを使用し、MTUをサイト間コントロールプレーンおよびデータプレーントラフィックに必要な最大 MTUより50バイト以上増やします。

リモートリーフスイッチがいずれかのポッドに含まれている場合は、『Cisco ACI Remote Leaf Architecture White Paper』を参照してください。リモート リーフスイッチ (139ペー

ジ) https://www.cisco.com/c/en/us/solutions/collateral/data-center-virtualization/ application-centric-infrastructure/white-paper-c11-740861.html

- IPN アンダーレイプロトコルが OSPF の場合は、正しいエリア ID を持つサブインターフェ イスで OSPF を有効にします。Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、IPN アンダーレイ プロト コルは OSPF または BGP (eBGP のみ) になることが可能です。
- ・すべての背表紙に接続されている IPN インターフェイスで DHCP リレーを有効にします。
- PIM をイネーブルにします。
- PIM 双方向としてブリッジ ドメイン GIPO 範囲の追加(bidir)の範囲をグループ化(デ フォルトでは 225.0.0.0/15)。

グループを bidir モードが機能の転送を共有ツリーのみ。

- PIM として 239.255.255.240/28 を追加 bidir 範囲をグループ化します。
- PIM およびすべての背表紙に接続されたインターフェイスで IGMP を有効にします。

 (注) PIM bidir を展開する際には、どの時点であっても、特定のマルチキャストグループ範囲に対して、1つのアクティブな RP(ランデブーポイント)を設定することだけが可能です。RPの 冗長性が活用することで実現そのため、ファントム RP 設定します。希薄モードの冗長性を 提供するために使用するエニーキャストまたは MSDP メカニズムはのオプションではありま せんマルチキャスト ソースの情報は、Bidir で利用可能なは不要であるため bidir。 図 11:マルチポッドのプロビジョニング



Cisco ACI マルチポッドファブリックの設定に関するガイ ドライン

Cisco ACI マルチポッドファブリックを設定するには、次のガイドラインに従います。

- Cisco ACI マルチポッド は次でサポートされます。
 - ・すべての ACI モード スパイン スイッチ
 - ・すべての Cisco Nexus 9000 シリーズ ACI モード リーフ スイッチ
 - すべての Cisco Nexus 9500 プラットフォーム ACI モード スイッチ ライン カードおよびファブリック モジュール
- ・関連付けられたノードグループおよびレイヤ3外部(L3Out)ポリシーを作成します。
- スパインスイッチを変更する前に、Cisco ACI マルチポッドトポロジに参加している運用 「アップ」外部リンクが少なくとも1個あることを確認します。失敗すると、Cisco ACI マルチポッド接続がダウンする可能性があります。

- Cisco ACI マルチポッドのセットアップを単一のポッド(ポッド1のみを含む)に変換す る必要がある場合は、デコミッションされたポッドに接続されている Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC)を再初期化し、ポッド1のリーフスイッチに接続す る必要があります。これにより、初期セットアップスクリプトの実行後にクラスタに再参 加できるようになります。手順については、APICを1つのポッドから別のポッドに移動 する(134ページ)を参照してください。TEP プール設定を削除する必要があります。
- (ファブリック WAN のレイヤ 3 EVPN サービスとも呼ばれます)。Cisco ACI GOLFCisco ACI マルチポッドCisco ACI マルチポッド

GOLFの詳細については、Cisco ACI GOLF (465 ページ)を参照してください。

- Cisco ACI マルチポッドファブリックでは、Cisco APIC ノードは常にPod 1 TEPプールから アドレス指定されるため、Pod1設定(関連付けられているTEPプールを含む)は常にCisco APIC 上に存在する必要があります。これは、元の Pod 1 TEP プールがファブリックに追 加される可能性のある他の Pod に再割り当てされないように、Pod 1 が物理的にデコミッ ションされるシナリオでも有効です。
- Cisco ACI マルチポッドファブリック セットアップで、新しいスパインスイッチがポッド に追加される場合、最初にポッド内の少なくとも1個のリーフスイッチに接続する必要が あります。これにより、Cisco APIC がスパインスイッチを検出し、ファブリックに参加 できるようにします。
- ポッドが作成されポッドにノードが追加された後、ポッドを削除するとファブリック内で アクティブなポッドから古いエントリになります。これは、Cisco APIC がオープンソー スDHCPを使用しており、ポッドが削除されるとCisco APIC が削除できない一部のリソー スを作成するため発生します。
- ・個別のポッドに属するスパインスイッチを直接バックツーバックリンクで接続すると、2 つのスパインスイッチ間のピアインターフェイスで OSPF ネイバーシップが確立される 場合があります。ピアインターフェイス間で不一致が発生し、いずれかのピアで Cisco ACI マルチポッドダイレクトフラグが無効になっている場合、セッションは起動せず、 転送は行われません。この状況ではシステムが障害をスローしますが、これは予期された 動作です。
- Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降では、IPN アンダーレイ プロトコルを外部 BGP (eBGP) にすることができます。内部 BGP (iBGP) は、アンダーレイ プロトコルとしてサポート されていません。

OSPF と BGP の間で IPN アンダーレイとして Cisco ACI マルチポッド ファブリックを移行 する準備をする場合は、次のガイドラインに従ってください。

- Cisco ACI ファブリックがクラウド サイトまたは GOLF ルータに接続されている場合、BGP アンダーレイはサポートされません。
- •BGP アンダーレイは、IPv6 アドレスファミリではなく、IPv4 アドレスファミリのみ をサポートします。
- ・Cisco APIC リリース 5.2(1) で導入された、レイヤ 3 ネットワークを介したファブリックへの Cisco APIC クラスタ接続を展開する場合、IPN ネットワークは OSPF をアンダーレイ

プロトコルとして使用できます。または、Cisco APIC が Cisco ACI マルチポッド またはリ モートリーフ接続を提供しているのと同じネットワークを使用してファブリックに接続す る場合、BGP アンダーレイを使用できます。

・ポリシーの名前を変更するなど、Cisco ACIマルチポッドL3Outを削除し再作成する場合、ファブリックのスパインスイッチの一部でクリーンリロードを実行する必要があります。Cisco ACIマルチポッドL3Outを削除すると、ファブリック内の1台以上のスパインスイッチが Cisco APIC への接続を失う可能性があり、そのためこれらのスパインスイッチ は Cisco APIC から更新されたポリシーをダウンロードできなくなります。どのスパイン スイッチがそのような状態になるかは、展開されているトポロジによって異なります。この状態から回復するには、これらスパインスイッチでクリーン リロードを実行する必要 があります。スパインスイッチでコマンドをリロードしたら、setup-clean-config.sh コマンドを使用してリロードを実行します。



(注) Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。したがって、外部ルータへの レイヤ 3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介した マルチポッド 接続 を設定する場合は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設定されていることが推 奨されます。Cisco ACI、Cisco NX-OS、Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定 可能な MTU 値はイーサネット ヘッダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネット ヘッダー サイ ズを除く)を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームには、設定された MTU 値にイーサネット ヘッダーが含まれています。設定された値が 9000の場合、Cisco ACI、 Cisco NX-OS Cisco IOS の最大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタグ なしインターフェイスの最大 IP パケットサイズは 8986 バイトになります。

各プラットフォームの適切なMTU値については、それぞれの設定ガイドを参照してください。

CLI ベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1 などの コマンドを使用します。



- (注) Cisco APIC は、CP-MTU 設定に関係なく、常に 1496 バイト (TCP MSS 1456)の MTU でファ ブリックスイッチへの TCP 接続を確立します。リモートポッドおよびリモートリーフスイッ チの IPN ネットワークは、ファブリックディスカバリのために少なくとも 1500 バイトの MTU をサポートする必要があります。
 - 「システム (System)]>[システム設定 (System Settings)]>[コントロール プレーン MTU (Control Plane MTU)]のファブリックのノード (Cisco APIC およびスイッチ) により送 信される、コントロール プレーン (CP) パケットのグローバル MTU を設定できます。
 - Cisco ACI マルチポッドトポロジでは、ファブリック外部ポートの MTU 設定は CP MTU 値セット以上にする必要があります。そうしないと、ファブリックの外部ポートが CP MTU パケットをドロップする可能性があります。

- IPN または CP MTUを変更する場合、CP MTU 値を変更し、次にリモートポッドのスパイン上の MTU 値を変更することをお勧めします。これで、MTUの不一致によりポッド間の 接続が失われるリスクが減少します。これは、ポッド間の IPN デバイスのすべてのインターフェイスの MTU が、常にコントロールプレーンと VXLAN データプレーンの両方のトラフィックに十分な大きさであることを保証するためです。データトラフィックの場合、VXLAN による余分な 50 バイトに注意してください。
- ポッドをデコミッションするには、ポッドのすべてのノードをデコミッションします。詳細については、「Cisco APICトラブルシューティングガイド」の「ポッドのデコミッションと再コミッション」を参照してください。

マルチポッド ファブリックの設定

Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) 4.0(1) 以降、GUI にウィザードが追加され、マルチポッド設定がシンプルになりました。GUI を使用してマルチポッドを設定するには、このセクションの手順に従います。

2 つの物理ポッドの間にマルチポッドを設定する手順には、既存の物理ポッドが新しいポッド とインターポッドネットワーク(IPN)経由で通信するための準備が含まれます。その後物理 ポッドを追加したら、シスコ Cisco APIC がマルチポッドファブリックを作成します。

NX-OS スタイルの CLI と REST API を使用してマルチポッドを設定することもできます。手順 については、このガイドの「NX-OS CLI を使用したマルチポッド ファブリックのセットアッ プ(506ページ)」および「REST API を使用したマルチポッド ファブリックのセットアップ (589ページ)」のセクションを参照してください。

IPN 接続のためのポッドの準備

新しいポッドを作成する前に、最初に、既存の物理ポッドから新しいポッドに通信できること を確認する必要があります。

手順

- ステップ1 Cisco APICにログインします。
- ステップ2 [ファブリック(Fabric)]>[インベントリ(Inventory)]に移動します。
- ステップ3 [Quick Start] を展開し、[Add Pod] をクリックします。
- ステップ4 作業ペインで、[Add Pod] をクリックします。
- **ステップ5** [Configure Interpod Connectivity STEP 1 > Overview] パネルで、ポッド間ネットワーク(IPN) 接続の設定に必要なタスクを確認し、[Get Started] をクリックします。
- **ステップ6** [Configure Interpod Connectivity STEP 2 > IP Connectivity] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [L3 Outside 設定(L3 Outside Configuration)]領域の[名前(Name)]フィールドがある場合、[名前(Name)]ドロップダウンリストから既存のファブリック外部ルーティングプロファイルを選択します。
- b) [Spine ID] セレクタを使用して、スパインを選択します。

さらにスパインの ID を追加するには [+] (プラス記号)をクリックします。

c) [Interfaces] 領域の [Interface] フィールドで、IPN への接続に使用されるスパイン スイッチ インターフェイス (スロットおよびポート)を入力します。

さらにインターフェイスを追加するには[+](プラス記号)をクリックします。

- d) [IPV4 Address] フィールドに、インターフェイスの IPv4 ゲートウェイ アドレスとネット ワーク マスクを入力します。
- e) [MTU (bytes)]ドロップダウンリストで、外部ネットワークの最大伝送ユニットの値を選 択します。

範囲は1500~9216です。

- f) [次へ] をクリックします。
- ステップ7 ポッド間接続の設定 STEP 3> ルーティング プロトコル ダイアログ ボックスで、物理スパイン と IPN の間でピアリングするアンダーレイ プロトコルを設定します。Cisco APIC リリース 5.2(3) よりも前のリリースでは、Open Shortest Path First (OSPF) が唯一サポートされているア ンダーレイです。これらの以前のリリース、または[アンダーレイ (Underlay)]として[OSPF] を選択した場合の以降のリリースでは、[OSPF] エリアで次のサブステップを実行します。
 - a) [Use Defaults] をオンのままにするか、オフにします。

[デフォルトの使用(Use Defaults)] チェックボックスをオンにすると、GUIはOSPFを設定するためのオプションフィールドを非表示にします。オフにした場合は、すべてのフィールドが表示されます。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

- b) [Area ID] フィールドに OSPF エリア ID を入力します。
- c) [Area Type] 領域で、OSPF エリア タイプを選択します。

[NSSA エリア (NSSA area)]または[通常のエリア (Regular area)]から選択できます。 スタブエリアはサポートされていません。

- d) (オプション) [Area Cost] セレクタで、適切な OSPF エリア コスト値を選択します。この フィールドは、[デフォルトの使用(Use Defaults)] チェックボックスがオフの場合にのみ 表示されます。
- e) [Interface Policy] ドロップダウンリストで、OSPF インターフェイスポリシーを選択するか 設定します。

既存のポリシーを選択するか、[Create OSPF Interface Policy]ダイアログボックスでポリシー を作成できます。

ステップ8 Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、アンダーレイ プロトコルは OSPF または BGP になることが 可能です。Cisco APIC リリース 5.2(3) より前のリリースの場合、または前の手順で[アンダー レイ (Underlay)]として[OSPF]を選択した場合は、この手順をスキップします。[ポッド間接 続の設定 STEP3>ルーティングプロトコル]ダイアログボックスで[アンダーレイ (Underlay)] として [**BGP**] を選択した場合、[**BGP**] エリアで、次の手順を実行して BGP アンダーレイを構成します。

MP-BGPエリアで、[デフォルトを使用]チェックボックスをオンのままにします。Multiprotocol Border Gateway Protocol (MP-BGP)を構成するためのGUIのフィールドが非表示になります。

- a) [スパインID (Spine ID)]、[インターフェイス (Interface)]、および[IPv4アドレス (IPv4 Address)]フィールドでは値は設定不可であることに注意してください。
- b) [ピアアドレス(Peer Address) フィールドで、BGP ネイバーの IP アドレスを入力しま す。
- c) [リモートAS (Remote AS) フィールドで、BGP ネイバーの自動システム (AS) 番号を入 力します。
- d) [次へ]をクリックします。
- **ステップ9** [Configure Interpod Connectivity STEP 4 > External TEP] ダイアログボックスで、次の手順を実行 します。
 - a) [Use Defaults] をオンのままにするか、オフにします。

[Use Defaults] チェックボックスをオンにすると、外部 TEP プールを設定するための GUI のオプションフィールドが非表示になります。オフにした場合は、すべてのフィールドが 表示されます。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

- b) [Pod] および [Internal TEP Pool] フィールドの設定できない値に注意してください。
- c) [External TEP Pool] フィールドに、物理ポッドの外部 TEP プールを入力します。 外部 TEP プールは、内部 TEP プール、または他のポッドに属する外部 TEP プールと重複 しないようにする必要があります。
- d) [データ プレーン TEP IP (Data Plane TEP IP)]フィールドに、ポッド間のトラフィック のルーティングに使用されるアドレスを入力します。このアドレスには、/32 サブネット マスクが必要です。

[外部 TEP プール(External TEP Pool)]を設定するときに生成されるデフォルトアドレスを受け入れることができます。別のアドレスを入力することもできますが、外部 TEP プールの外部にある必要があります。

- e) [ルータ ID (Router ID)] フィールドに、IPN ルータ IP アドレスを入力します。
- f) (オプション) [Loopback Address] フィールドに、IPN ルータ ループバック IP アドレスを 入力します。

[Use Defaults] をオフにすると、Cisco APIC によって、[Unicast TEP IP] フィールドと [Spine ID] フィールドが設定できない状態で表示されます。

g) [Finish] をクリックします。
 [Summary]パネルが表示され、IPN 設定の詳細が表示されます。[View JSON] をクリックすると、REST API の設定を表示することもできます。REST API を保存して後で使用することができます。

次のタスク

次のいずれかを実行します。

- このまま直接ポッドの追加に進み、このガイドの「マルチポッドファブリックを作成する ポッドの追加(130ページ)」の手順を続けることができます。
- [Configure Interpod Connectivity]ダイアログボックスを閉じてポットを後で追加し、このガイドの「マルチポッドファブリックを作成するポッドの追加(130ページ)」の手順に戻ります。

マルチポッド ファブリックを作成するポッドの追加

[物理ポッドの追加(Add Physical Pod)]ダイアログを使用すると、マルチポッド環境を設定できます。新しい物理ポッドIDとトンネルエンドポイント(TEP)プールを定義します。また、新しいポッドネットワーク設定を行い、物理スパインのサブインターフェイスを設定します。

始める前に

- ここまで次のタスクを実行しました。
 - ・ノードグループおよびL3Outポリシーが作成されました。
 - ポッド間ネットワーク(IPN)を設定しました。設定の例については、このガイドの「Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチでのマルチポッド IPN 設定の例(132ページ)」を参照して ください。
 - •新しいポッドとIPN経由で通信できるように既存のポッドを準備しました。このガイドの 手順IPN 接続のためのポッドの準備 (127ページ)を参照してください。
 - IPN に接続するスパイン スイッチが、ポッド内にある少なくとも1個のリーフ スイッチ にも接続することを確認しました。
 - トンネルエンドポイント(TEP)プールを作成しました。このガイドの手順IPN 接続のためのポッドの準備(127ページ)を参照してください。

手順

ステップ1 Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) にログインします。

ステップ2 次のいずれかを実行します。

- ・手順「IPN接続のためのポッドの準備(127ページ)」を完了して、まだ[Configure Interpod Connectivity] ダイアログボックスを閉じていない場合は、ステップ3~5を省略し、この 手順のステップ6から再開します。
- ・手順「IPN 接続のためのポッドの準備 (127ページ)」を完了して、すでに [Configure Interpod Connectivity] ダイアログボックスを閉じた場合は、この手順のステップ3に進み ます。

- ステップ3 [Fabric] > [Inventory] を選択します。
- ステップ4 [Quick Start] をクリックし、[Add Pod] をクリックします。
- ステップ5 作業ペインで、[Add Pod] をクリックします。
- ステップ6 [Add Physical Pod STEP 2 > Pod Fabric] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [ポッド ID (Pod ID)]フィールドで、ポッド ID を選択します。

b) [Pod TEP Pool] フィールドで、プール アドレスとサブネットを入力します。

```
ポッドTEPプールは、トラフィックのカプセル化識別子の範囲を表します。共有リソース
であり、複数のドメインが使用できます。
```

c) [Spine ID] セレクタを使用して、スパイン ID を選択します。

複数のスパイン ID を選択するには [+] (プラス記号) アイコンをクリックします。

- d) [Interfaces] 領域の [Interface] フィールドで、IPN への接続に使用されるスパイン スイッチ インターフェイス (スロットおよびポート) を入力します。
- e) [IPv4 Address] フィールドに、インターフェイスの IPv4 ゲートウェイ アドレスとネット ワーク マスクを入力します。
- f) [MTU (bytes)]フィールドで、外部ネットワークの最大伝送ユニット (MTU) の値を選 択します。

[+] (プラス記号) アイコンをクリックすると、もう1つのインターフェイスを設定できます。

- ステップ7 [Add Physical Pod STEP 3 > External TEP] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [Use Defaults] チェックボックスをオンまたはオフのままにして、外部 TEP プールを設定す るためのオプション フィールドを表示します。
 - b) [Pod] フィールドと [Internal TEP Pool] フィールドの値はすでに設定済みであることがわかります。
 - c) [External TEP Pool] フィールドに、物理ポッドの外部 TEP プールを入力します。 外部 TEP プールは内部 TEP プールと重ならないようにする必要があります。
 - d) [Dataplane TEP IP] フィールドに、ポッド間のトラフィックのルーティングに使用されるア ドレスを入力します。
 - e) (オプション) [Unicast TEP IP] フィールドに、ユニキャスト TEP IP アドレスを入力しま す。

Cisco APIC によって、データプレーン TEP IP アドレスを入力するときにユニキャスト TEP IP アドレスが自動的に設定されます。

- f) (オプション) [Node] フィールドの値は設定できないことに注意してください。
- g) (オプション)[Router ID] フィールドに、IPN ルータ IP アドレスを入力します。

Cisco APIC によって、データプレーン TEP アドレスを入力するときにルータ IP アドレス が自動的に設定されます。

ポッド ID には任意の正の整数を指定できます。ただし、Cisco ACI ファブリック内で一意である必要があります。

- h) [Loopback Address] フィールドに、ルータ ループバック IP アドレスを入力します。 ルータ IP アドレスを使用する場合は、[Loopback Address] は空白のままにします。
- i) [終了] をクリックします。

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでのマルチポッド IPN 設定の例

Cisco APIC リリース 5.2(3) よりも前のリリースでは、IPN アンダーレイ プロトコルは OSPF で す。Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、IPN アンダーレイ プロトコルは OSPF または BGP (eBGP のみ) になることが可能です。



(注)

- ポッド間接続用の IPN での専用 VRF の展開はオプションですが、ベスト プラクティスとして推奨されます。代わりにグローバル ルーティング ドメインを使用することもできます。
 - ip dhcp relay address 10.0.0.1 を示す設定例の領域では、この設定は Pod 1 の TEP プールが 10.0.0/x であるという前提に基づいています。

OSPF アンダーレイ プロトコルを使用した IPN の設定例

```
(pod1-spine1) ----- 2/7 [ IPN-N9K ] 2/9----- (pod2-spine1)
feature dhcp
feature pim
service dhcp
ip dhcp relay
ip pim ssm range 232.0.0/8
# Create a new VRF for Multipod.
vrf context fabric-mpod
 ip pim rp-address 12.1.1.1 group-list 225.0.0.0/15 bidir
  ip pim rp-address 12.1.1.1 group-list 239.255.255.240/28 bidir
  ip pim ssm range 232.0.0.0/8
interface Ethernet2/7
  no switchport
  mtu 9150
 no shutdown
interface Ethernet2/7.4
  description pod1-spine1
 mtu 9150
  encapsulation dot1q 4
```

```
vrf member fabric-mpod
  ip address 201.1.2.2/30
  ip router ospf al area 0.0.0.0
  ip pim sparse-mode
  ip dhcp relay address 10.0.0.1
  ip dhcp relay address 10.0.0.2
  ip dhcp relay address 10.0.0.3
  no shutdown
interface Ethernet2/9
 no switchport
 mtu 9150
 no shutdown
interface Ethernet2/9.4
  description to pod2-spine1
  mtu 9150
  encapsulation dot1q 4
  vrf member fabric-mpod
 ip address 203.1.2.2/30
 ip router ospf al area 0.0.0.0
  ip pim sparse-mode
  ip dhcp relay address 10.0.0.1
 ip dhcp relay address 10.0.0.2
  ip dhcp relay address 10.0.0.3
 no shutdown
interface loopback29
 vrf member fabric-mpod
  ip address 12.1.1.1/32
router ospf al
  vrf fabric-mpod
   router-id 29.29.29.29
```

BGP アンダーレイ プロトコルを使用した IPN の設定例

Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、IPN アンダーレイ プロトコルは OSPF ではなく BGP になる ことが可能です。次の設定を前の例に追加し、OSPF 設定を削除できます。

```
router bgp 200
router-id 29.29.29.29
vrf fabric-mpod
address-family ipv4 unicast
neighbor 201.1.2.3
remote-as 65000
address-family ipv4 unicast
disable-peer-as-check
neighbor 203.1.2.3
remote-as 65000
address-family ipv4 unicast
disable-peer-as-check
```

APIC を1つのポッドから別のポッドに移動する

マルチポッドのセットアップにおいて、APIC をあるポッドから別のポッドに移動するには、 次の手順に従います。

手順

ステップ1 クラスタ内の APIC をデコミッションします。

- a) メニューバーで、System > Controllers を選択します。
- b) Navigation ウィンドウで、 Controllers > apic_controller_name > Cluster as Seen by Node を 展開します。
- c) Navigation ウィンドウで、apic_controller_name をクリックします。これは、クラスタ内 のものですが、デコミッションしているコントローラではありません。
- d) 継続する前に、Work ウィンドウで、クラスタの Health State (Active Controllers サマリ テーブルに示されているもの)が Fully Fit になっていることを確認します。
- e) Work ウィンドウで、Actions > Decommission をクリックします。
- f) Yes をクリックします。
 解放されたコントローラは [Operational State] 列に [Unregistered] と表示されます。コントローラは稼動対象外になり、Work ウィンドウには表示されなくなります。
- ステップ2 デコミッションされた APIC を目的のポッドに移動します。
- ステップ3 次のコマンドを入力して、APIC をリブートします。

apic1# acidiag touch setup
apic1# acidiag reboot

- ステップ4 APIC セットアップ スクリプトで、APIC ノードが移動されたポッド ID を指定します。
 - a) Cisco Integrated Management Controller (CIMC) にログインします。
 - b) ポッド ID のプロンプトで、ポッド ID を入力します。
 - (注) **TEP Pool**のアドレス情報は変更しないでください。
- ステップ5 APIC をリコミッションします。
 - a) メニューバーで、SYSTEM > Controllers を選択します。
 - b) Navigation ウィンドウで、 Controllers > apic_controller_name > Cluster as Seen by Node を 展開します。
 - c) 継続する前に、Work ウィンドウで、Active Controllers サマリテーブルのクラスタのHealth State が Fully Fit になっていることを確認します。
 - d) Work ウィンドウで、Unregistered と Operational State カラムに表示されている、デコミッションされたコントローラをクリックします。
 - e) Work ウィンドウで、Actions > Commission をクリックします。
 - f) Confirmation ダイアログボックスで Yes をクリックします。

g) コミッションされた Cisco APIC コントローラが動作状態であり、ヘルス ステータスが、 Fully Fit であることを確認します。

OSPF IPN アンダーレイから BGP IPN アンダーレイへの移 行

Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、IPN アンダーレイ プロトコルは OSPF または BGP になるこ とが可能です。ポッドを OSPF アンダーレイの使用から BGP アンダーレイに移行するには、 既存の IPN 接続 L3Out の下の論理インターフェイス プロファイルに BGP インターフェイスを 追加します。そのインターフェイスが実行中の BGP ピアに正常に接続されたら、OSPF イン ターフェイス プロファイルを削除できます。

- (注) OSPF と BGP の両方が Multi-Pod、Multi-Site、または リモート リーフのアンダーレイで使用されている場合、 IPN ルータの OSPF から router-id を BGP に再配布しないでください。そうすると、ルーティング ループが生じ、スパイン スイッチと IPN ルータの間の OSPF と BGP セッションを停止してしまいます。



(注) アンダーレイプロトコルの移行は中断を伴うアクションであり、メンテナンス期間中にのみ実 行する必要があります。

手順

- ステップ1 APIC メニュー バーから、[テナント(Tenants)]>[インフラ(infra)]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]>[使用する *IPN L3Out*(*your IPN L3Out*)]に移動します。ここで、 [使用する *IPN L3Out*(*your IPN L3Out*)]は IPN に接続する L3Out です。
- ステップ2 [Navigation] ペインで、[使用する IPN L3Out (your IPN L3Out)]を展開し[論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]>[使用する IPN ノードプロファイル (your IPN node profile)]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[使用する IPN インターフェイス (your IPN interface)]に移動します。ここで[使用する IPN インターフェイス (your IPN interface)]は現在の IPN 接続の論理インターフェイス プロファイルです。

[論理インターフェイスプロファイル (Logical Interface Profile)] テーブルが作業ペインに表示 されます。

ステップ3 作業ウィンドウで、[ポリシー (Policy)]タブをクリックし、[ポリシー (Policy)]タブの下に ある [ルーテッド サブインターフェイス (Routed Sub-Interfaces)]タブをクリックします。 **ステップ4** [ルーテッドサブインターフェイス(Routed Sub-Interfaces)] テーブルで、現在の IPN 接続のインターフェイスをダブルクリックします。

[ルーテッドサブインターフェイス (Routed Sub-Interface)]ダイアログボックスが開きます。

- **ステップ5** [ルーテッド サブインターフェイス(Routed Sub-Interface)] ダイアログ ボックスで、次の操 作を実行します:
 - a) [BGPピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profiles)]バーの[+]アイコンをクリッ クして、BGP ピア接続を追加します。

[ピア接続プロファイルの作成(Create Peer Connectivity Profiles)] ダイアログ ボックス が開きます。

- b) [ピア IPv4 アドレス (Peer IPv4 Address)] フィールドで、BGP ピアの IP アドレスを入力 します。
- c) BGP ピア接続に必要なその他の設定を行います。
 - (注) 移行を設定しているが、実際には移行していない場合は、[管理状態(Admin State)]を[無効化(Disabled)]に設定し、移行の準備ができたらこの手順に戻 ります。移行はメンテナンス期間中に行う必要があります。
- d) [送信 (Submit)]をクリックして、[ルーテッド サブインターフェイス (Routed Sub-Interface)] ダイアログ ボックスに戻ります。
- **ステップ6** [ルーテッド サブインターフェイス(Routed Sub-Interface)] ダイアログ ボックスで、[送信 (Submit)]をクリックします。
- ステップ7 [ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[論理ノードプロファイル(Logical Node Profiles)]>
 [使用する IPN ノード プロファイル (your IPN node profile)]>[設定済みノード(Configured Nodes)]>
 [使用する IPN ノード (your IPN node)]に移動します。次の手順に従って、BGP ネイバーが UP であることを確認します。
 - a) [使用する IPN ノード (your IPN node)] を展開し、[VRF-overlay-1の BGP (BGP for VRF-overlay-1)] などの BGP エントリを見つけます。
 - b) [BGP] エントリを展開し、[ネイバー(Neighbors)] をクリックします。
 - c) [ネイバー (Neighbors)] テーブルで、[ピア IPv4 アドレス (Peer IPv4 Address)] で設定し たピア IP アドレスを検索し、[状態 (State)] が「established」であることを確認します。
- ステップ8 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profile)]の下で現在の OSPF Interface Profile を右クリックして[削除 (Delete)]を選 択します。
 - (注) OSPF インターフェイス プロファイルを削除する前に、BGP ネイバーが UP である ことを確認します。
- ステップ9 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]>[ネッ トワーキング (Networking)]>[L3Outs]>[使用する IPN L3Out (your IPN L3Out)]に移動し ます。
- **ステップ10** 作業ウィンドウで、[ポリシー (Policy)]タブをクリックし、[ポリシー (Policy)]タブの下の [メイン (Main)]タブをクリックします。

- **ステップ11** 作業ウィンドウの [BGP/EIGRP/OSPF の有効化(Enable BGP/EIGRP/OSPF)] セクションで、 [OSPF] をオフにし、[BGP] をオンのままにします。
- ステップ12 [送信 (Submit)] をクリックします。

マルチポッドスパインバックツーバック について

Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、ACI マルチポッドアーキテクチャが拡張され、2 つのポッド のスパインをバックツーバック(「B2B」)リンクで直接接続できるようになりました。この ソリューションを呼び出すと、小規模なACI マルチポッドの導入でIPN 要件を削除できます。 また、設定が必要な外部デバイスがないため、運用の簡素化とエンドツーエンドのファブリッ クの可視性も実現します。マルチポッドスパインバックツーバックマルチポッドスパインバッ クツーバック

トポロジでは、バックツーバックスパインリンクインターフェイスがインフラテナントの L3Outとして実装されます。マルチポッドスパインバックツーバックこれらのリンクは通常、 ポッド間の直接ケーブル接続またはダークファイバ接続で伝送されます。は、異なるポッドに 属するスパインスイッチ間の Open Shortest Path First (OSPF)接続のみをサポートします。マ ルチポッドスパインバックツーバック

次の図は、Pod1 と Pod2 の間にバックツーバックスパインが接続された、2 つの可能なマルチ ポッドスパインバックツーバックトポロジを示しています。最初の図は、Pod1 スパインと Pod2 スパイン間のフルメッシュ相互接続を使用した推奨トポロジを示しています。ポッド間のより シンプルな相互接続を示す2番目の図もサポートされています。





図 13:シンプルな相互接続



詳細については、シスコのナレッジベース記事「Cisco ACI Multi-Podスパイン バックツーバック」を参照してください。マルチポッドスパインバックツーバックhttps://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/dcn/aci/apic/kb/cisco-multipod-b2b.html



リモート リーフ スイッチ

この章は、次の内容で構成されています。

- ACI ファブリックのリモート リーフ スイッチについて (139ページ)
- ・リモートリーフスイッチのハードウェアの要件(148ページ)
- リモートリーフスイッチの制約事項と制限事項(149ページ)
- WAN ルータとリモート リーフスイッチ設定の注意事項 (152ページ)
- GUI を使用してリモート リーフ スイッチのポッドとファブリック メンバーシップを設定 する (155 ページ)
- ・ダイレクトトラフィックフォワーディングについて(166ページ)
- ・リモート リーフ スイッチのフェールオーバー (173 ページ)
- ・リモートのリーフスイッチのダウングレードする前に必要な前提条件(176ページ)

ACI ファブリックのリモート リーフ スイッチについて

ACI ファブリックの展開では、ローカルスパインスイッチまたは APIC が接続されていない Cisco ACI リーフスイッチのリモートデータセンタに、ACI サービスと APIC 管理を拡張できま す。

リモートリーフスイッチがファブリックの既存のポッドに追加されます。メインデータセン ターに展開されるすべてのポリシーはリモートスイッチで展開され、ポッドに属するローカル リーフスイッチのように動作します。このトポロジでは、すべてのユニキャストトラフィック はレイヤ3上のVXLANを経由します。レイヤ2ブロードキャスト、不明なユニキャスト、マ ルチキャスト(BUM)メッセージは、WANを使用するレイヤ3マルチキャスト(bidirectional PIM)を使用することなく、Head End Replication(HER)トンネルを使用して送信されます。 スパインスイッチプロキシを使用する必要があるすべてのトラフィックは、メインデータセ ンターに転送されます。

APIC システムは、起動時にリモート リーフ スイッチを検出します。その時点から、ファブ リックの一部として APIC で管理できます。

- ・すべての inter-VRF トラフィック(リリース 4.0(1) 以前)は、転送される前にスパインス イッチに移動します。
 - リリース 4.1(2) 以前では、リモートリーフを解除する前に、vPC を最初に削除する必要が あります。

リリース 4.0(1) でのリモート リーフスイッチの動作の特性

- リリース 4.0(1) 以降、リモート リーフ スイッチの動作には次の特徴があります。
 - spine-proxy からサービスを切り離すことによって WAN 帯域幅の使用量を削減します。
 - PBR: ローカル PBR デバイスまたは vPC の背後にある PBR デバイスでは、ローカル スイッチングはスパイン プロキシに移動せずに使用されます。ピア リモート リーフ 上の孤立ポートの PBR デバイスでは、RL-vPC トンネルを使用します。これは、主要 DC へのスパイン リンクが機能しているか否かを問わず該当します。
 - ERSPAN: ピア接続先 EPG では、RL-vPC トンネルが使用されます。ローカルな孤立 ポートまたは vPC ポート上の EPG は、宛先 EPG へのローカルスイッチングを使用し ます。これは、主要 DC へのスパインリンクが機能しているか否かを問わず該当しま す。
 - ・共有サービス:パケットはスパインプロキシパスを使用しないためWAN帯域幅の 使用量を削減します。
 - Inter-VRF トラフィックは上流に位置するルータ経由で転送され、スパインには配置 されません。
 - •この機能強化は、リモートリーフ vPC ペアにのみ適用されます。リモートリーフペ アを介した通信では、スパイン プロキシは引き続き使用されます。
 - spine-proxy に到達不能な場合のリモート リーフ ロケーション内の(ToR グリーニングプ ロセスを通じた)不明なL3 エンドポイントの解像度。

リリース4.1(2) でのリモート リーフ スイッチ動作の特性

リリース4.1(2)よりも前のリリースでは、次の図に示すように、リモートリーフロケーション 上のすべてのローカル スイッチング(リモート リーフ vPC ピア内)トラフィックは、物理的 または仮想的にエンドポイント間で直接スイッチングされます。



図 14 : Local Switching Traffic : リリース 4.1(2)以前

さらに、リリース4.1(2)よりも前では、次の図に示すように、リモートロケーション内または リモートロケーション間のリモートリーフスイッチ vPC ペア間のトラフィックは、ACIメイ ンデータ センター ポッドのスパイン スイッチに転送されます。 ACI ファブリックのリモート リーフ スイッチについて

図 15: Remote Switching Traffic: リリース 4.1(2) より以前



リリース 4.1(2) 以降では、異なるリモート ロケーションにあるリモート リーフ スイッチ間の 直接トラフィック転送がサポートされるようになりました。この機能は、次の図に示すよう に、リモート ロケーション間の接続に一定レベルの冗長性と可用性を提供します。 図 16 : Remote Leaf Switch Behavior : リリース 4.1(2)



また、リリース 4.1(2) 以降でも、リモート リーフ スイッチの動作には次の特徴があります。

- ・リリース 4.1(2) 以降、ダイレクト トラフィック転送では、シングル ポッド設定内でスパ イン スイッチに障害が発生すると、次のようになります。
 - ・ローカル スイッチングは、上記の「ローカル スイッチング トラフィック:リリース
 4.1(2)以前」に示すように、リモート リーフ スイッチ vPC ピア間の既存および新規のエンドポイント トラフィックに対して機能し続けます。
 - ・リモート ロケーション間のリモート リーフ スイッチ間のトラフィックの場合:
 - リモートリーフスイッチからスパインスイッチへのトンネルがダウンするため、 新しいエンドポイントトラフィックは失敗します。リモートリーフスイッチから、新しいエンドポイントの詳細はスパインスイッチに同期されないため、同じまたは異なる場所にある他のリモートリーフスイッチペアは、COOPから新しいエンドポイント情報をダウンロードできません。
 - ・単方向トラフィックの場合、既存のリモートエンドポイントは300秒後にエージ ングアウトするため、そのポイント以降のトラフィックは失敗します。ポッド内

のリモートリーフサイト内(リモートリーフVPCペア間)の双方向トラフィックは更新され、引き続き機能します。リモートロケーション(リモートリーフスイッチ)への双方向トラフィックは、900秒のタイムアウト後に COOP によってリモートエンドポイントが期限切れになるため、影響を受けることに注意してください。

- ・共有サービス(VRF間)の場合、同じポッド内の2つの異なるリモートロケーションに接続されたリモートリーフスイッチに属するエンドポイント間の双方向トラフィックは、リモートリーフスイッチ COOP エンドポイントのエージアウト時間(900秒)後に失敗します。これは、リモートリーフスイッチからスパインへのCOOP セッションがこの状況でダウンするためです。ただし、2つの異なるポッドに接続されたリモートリーフスイッチに属するエンドポイント間の共有サービストラフィックは、COOP 高速エージングタイムである 30 秒後に失敗します。
- スパインスイッチへのBGPセッションがダウンするため、L3Out間通信は続行できません。
- トラフィックが1つのリモートリーフスイッチから送信され、別のリモートリーフス イッチ(送信元のvPCピアではない)に送信されるリモートリーフ直接単方向トラフィッ クがある場合は、300秒のリモートエンドポイント(XREP)タイムアウトが発生するた びに、ミリ秒単位のトラフィック損失が発生します。
- ACI Multi-Site 設定を使用したリモートリーフスイッチでは、スパインスイッチに障害が 発生しても、リモートリーフスイッチから他のポッドおよびリモートロケーションへの すべてのトラフィックが継続します。これは、この状況ではトラフィックが代替の使用可 能なポッドを通過するためです。

リモート リーフ スイッチの IPN での 10 Mbps 帯域幅のサポート

リモート リーフ スイッチからのデータ トラフィックのほとんどがローカルで、ポッド間ネットワーク(IPN)が管理目的でのみ必要な場合があります。このような状況では、100 Mbps の IPN は必要ない場合があります。これらの環境をサポートするために、リリース 4.2(4) 以降、 IPN の最小帯域幅として 10 Mbps のサポートが利用可能になりました。

これをサポートするには、次の要件を満たす必要があります。

- IPN パスは、リモート リーフ スイッチ(アップグレードおよびダウングレード、ディス カバリ、COOP、ポリシー プッシュなどの管理機能)の管理にのみ使用されます。
- 「Cisco APIC GUI を使用した DSCP 変換ポリシーの作成」の項に記載されている情報に基づいて、Cisco ACIデータセンターとリモートリーフスイッチペア間のコントロールおよび管理プレーントラフィックに優先順位を付けるために、QoS 設定を使用して IPN を設定します。
- データセンターおよびリモート リーフ スイッチからのすべてのトラフィックは、ローカル L3Out を経由します。Cisco ACI

- EPG またはブリッジドメインは、リモートリーフスイッチと ACI メインデータセンター 間で拡張されません。
- アップグレード時間を短縮するには、リモートリーフスイッチにソフトウェアイメージ を事前にダウンロードする必要があります。

次の図に、この機能のグラフィカル表示を示します。





リモート リーフ スイッチでの Dot1q トンネルのサポート

状況によっては、コロケーションプロバイダーが複数のカスタマーをホストしており、各カス タマーがリモートリーフスイッチペアごとに数千の VLAN を使用している場合があります。 リリース 4.2(4) 以降では、リモートリーフスイッチと ACI メイン データセンター間に 802.1Q トンネルを作成するためのサポートを利用できます。これにより、複数の VLAN を単一の 802.1Q トンネルに柔軟にマッピングできるため、EPG の拡張要件が軽減されます。

次の図に、この機能のグラフィカル表示を示します。



図 18: リモート リーフ スイッチの動作、リリース 4.2 (4) :リモート リーフ スイッチでの 802.10 トンネル サポート

Cisco APIC ドキュメンテーションのランディングページにある『Cisco APIC Layer 2 Networking Configuration Guide』の「802.1Q Tunnels」の章に記載されている手順を使用して、リモート リーフ スイッチと ACI メイン データセンター間にこの 802.1Q トンネルを作成します。 https://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/ application-policy-infrastructure-controller-apic/tsd-products-support-series-home.html

ウィザードを使用するか(使用しない場合も)、REST API またはNX-OS スタイル CLI を使用 して、APIC GUI のリモート リーフ スイッチを設定できます。

リモート リーフ バックツーバック接続について

Cisco APIC リリース 5.2(1) 以降では、ファブリック リンクによってリモート リーフ スイッチ ペアを相互に直接接続(「バックツーバック」)して、ローカルの東西トラフィックを伝送で きます。重要な東西データトラフィックのシナリオの例は、次の図に示すように、vPCペアの EPG から L3Out へのユニキャストトラフィックです。



図 19: リモート リーフ バックツーバック接続

非 vPC 接続ホスト間のトラフィックのみがバックツーバック リンクを通過します。vPC に接続されたホストは、宛先に最も近いリモート リーフ スイッチからローカルにトラフィックを 送信できるため、このようなトラフィックはバックツーバック リンクを使用しません。

リモート リーフ スイッチのペア間でアップリンクとバックツーバック接続がアクティブな場合、バックツーバックリンクが東西トラフィックに優先されますが、アップリンクは、主要な データ センターにある他のリモート リーフ スイッチおよびスイッチとの間でトラフィックを 伝送します。

リモートリーフアーキテクチャでは、通常、隣接するリモートリーフスイッチ間でトラフィックをルーティングするためにスパインスイッチまたは IPN ルータが必要ですが、直接バック ツーバック リーフ接続を使用すると、アップストリーム デバイスの帯域幅を節約できます。

リモート リーフ バックツーバック接続のガイドラインと制限事項

- リモートリーフスイッチ間のバックツーバックリンクは、中間デバイスのない直接リンクである必要があります。
- バックツーバック接続では、ファブリックポートまたはファブリックポートに変換された前面パネルポートを使用できます。
- リモート リーフ スイッチは、ペアでのみバックツーバック リンクで接続できます。バッ クツーバック リンクによる3つ以上のリモート リーフ スイッチの相互接続はサポートさ れていません。
- リモートリーフスイッチのペアがバックツーバックで接続され、ペアの1つがアップリンク接続を失った場合、同じリモートリーフスイッチは、バックツーバックリンクを介

して他のリモート リーフ スイッチ経由で到達可能になります。この場合、メイン データ センターからのトラフィックもバックツーバック リンクで伝送されます。

• PTP および SyncE は、バックツーバック リンクではサポートされません。

リモート リーフ バックツーバック接続の展開

Cisco APIC リリース 5.2(1) よりも前のリリースでは、リモート リーフ スイッチ ファブリック ポート間のバックツーバック接続により、配線エラーが発生しました。Cisco APIC リリース 5.2(1) では、次のいずれかの状況でこのような接続が自動的に認識されます。

- •2つのリモートリーフ vPC ピア間で接続が確立されます。
- ・接続は、単一のリモートロケーションにある vPC のメンバーではないリモートリーフス イッチ間で行われます。

このような場合、特別な設定は必要ありません。

リモート リーフ スイッチのハードウェアの要件

リモート リーフ スイッチの機能には、次のスイッチがサポートされています。

ファブリック スパイン スイッチ

WAN ルータに接続された ACI メイン データ センターにスパイン スイッチでの次のスパイン スイッチがサポートされています。

- ・固定スパイン スイッチ Cisco Nexus 9000 シリーズ
 - N9K-C9316D-GX
 - N9K-C9332C
 - N9K-C9364C
 - N9K-C9364C-GX
- ・モジューラースパインスイッチでは、EX で終了する名前の Cisco Nexus 9000 シリーズス イッチ、およびそれ以降(たとえば N9K-X9732C-*EX*)のみがサポートされています。
- 古い生成スパインスイッチは、固定スパインスイッチ N9K C9336PQ または N9K X9736PQ
 ラインカードでモジュラスパインスイッチなどのメインデータセンターではサポートが 次世代のみのスパインスイッチは、WANへの接続をサポートします。
- リモートのリーフ スイッチ
 - ・リモートのリーフスイッチ、後で(たとえば N9K-C93180LC-EX) EX で終了する名前と Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチのみがサポートされています。

リモートのリーフスイッチする必要がありますにイメージを実行する、スイッチ13.1.x以降(aci n9000 dk9.13.1.x.x.bin)検出できる前にします。これにより、リーフスイッチでの手動アップグレードが必要があります。

リモート リーフ スイッチの制約事項と制限事項

リモートリーフには、次の注意事項および制約事項が適用されます。

- リモートリーフソリューションでは、リモートリーフスイッチとメインデータセンターのリーフ/スパインスイッチの/32トンネルエンドポイント(TEP) IP アドレスが、要約なしでメインデータセンターとリモートリーフスイッチ間でアドバタイズされる必要があります。
- リモート リーフ スイッチを同じポッド内の別のサイトに移動し、新しいサイトに元のサ イトと同じノード ID がある場合は、仮想ポート チャネル(vPC)を削除して再作成する 必要があります。
- Cisco N9K-C9348GC-FXP スイッチでは、ポート 1/53 または 1/54 でのみ最初のリモート リーフスイッチディスカバリを実行できます。その後、リモートリーフスイッチの ISN/IPN へのファブリック アップリンクに他のポートを使用できます。

ここでは、リモート リーフ スイッチでサポートされるものとサポートされないものについて 説明します。

- Supported Features $(149 \sim \checkmark)$
- ・サポートされない機能 (150ページ)
- リリース 5.0(1)の変更点(152ページ)
- リリース 5.2(3) での変更点 (152 ページ)

Supported Features

vPC リモート リーフスイッチ ペア内の L3Out SVI のストレッチがサポートされています。 Cisco APIC リリース 4.2(4) 以降、802.1Q(Dot1q)トンネル機能がサポートされています。 Cisco APIC リリース 4.1(2) 以降、次の機能がサポートされています。

- ACI Multi-Site を使用したリモート リーフ スイッチ
- ・同じリモートデータセンター内の2つのリモートリーフvPCペア間またはデータセンター間でのトラフィック転送(これらのリモートリーフペアが同じポッドまたは同じマルチポッドファブリックの一部であるポッドに関連付けられている場合)
- 主要な Cisco ACI データ センター ポッドが 2 つのリモート ロケーションの間の中継である場合、リモート ロケーションでの L3Out の中継(RL location-1の L3Out と RLlocation-2の L3Out がそれぞれのプレフィックスをアドバタイズしている)

Cisco APIC リリース 4.0(1) 以降、次の機能がサポートされています。

- Epg の Q-で-Q カプセル化のマッピング
- リモート リーフ スイッチでの PBR トラッキング(システムレベルのグローバル GIPo が 有効になっている場合)
- PBR の復元力のあるハッシュ
- Netflow
- MacSec の暗号化
- ウィザードのトラブルシューティング
- •アトミック カウンタ

サポートされない機能

このリリースで、サポート対象外の次の機能を除き、ファブリックおよびテナントの完全なポ リシーがリモート リーフ スイッチでサポートされています。

- GOLF
- vPod
- •フローティング L3Out
- ローカルリーフスイッチ(ACI主要データセンタースイッチ)とリモートリーフスイッ チ間のL3out SVIのストレッチ、または2つの異なるリモートリーフスイッチのvPCペ ア間のストレッチ
- コピーサービスは、ローカルリーフスイッチに導入されている場合、および送信元また は宛先がリモートリーフスイッチにある場合はサポートされません。この状況では、ルー ティング可能な TEP IP アドレスはローカルリーフスイッチに割り当てられません。詳細 については、『APIC ドキュメンテーションページ』で入手可能な『Cisco APIC Layer 4 to Layer 7 Services Deployment Guide』の「Configuring Copy Services」の章の「Copy Services Limitations」を参照してください。https://www.cisco.com/c/en/us/support/ cloud-systems-management/application-policy-infrastructure-controller-apic/ tsd-products-support-series-home.html
- ・レイヤ2(スタティック Epg)を除く接続外部
- VzAny 契約とサービスをコピーします。
- ・リモートのリーフ スイッチの FCoE 接続
- ブリッジドメインまたは Epg のカプセル化をフラッディングします。
- Fast Link Failover ポリシーは、リーフ スイッチとスパイン スイッチ間の ACI ファブリック リンク用であり、リモート リーフ接続には適用されません。リモート リーフ接続のコンバージェンスを高速化するために、Cisco APICリリース 5.2(1) で代替方法が導入されています。

- ・遠隔地での管理対象のサービス グラフに接続されたデバイス
- ・トラフィック ストーム制御
- Cloud Sec 暗号化
- •ファーストホップセキュリティ
- ・レイヤ3マルチキャストリモートリーフスイッチ上のルーティング
- •メンテナンスモード
- TEP 間アトミック カウンタ

Multi-Site アーキテクチャでリモートリーフスイッチをサイト間L3Out 機能と統合する場合、 次のシナリオはサポートされません。

- ・別々のサイトに関連付けられたリモート リーフ スイッチのペアに展開された L3Out 間の トランジット ルーティング
- リモートサイトに関連付けられたリモートリーフスイッチのペアに展開されたL3Outと 通信するサイトに関連付けられたリモートリーフスイッチのペアに接続されたエンドポ イント
- リモートサイトに関連付けられたリモートリーフスイッチのペアに展開されたL3Outと 通信するローカルサイトに接続されたエンドポイント
- リモート サイトに展開された L3Out と通信するサイトに関連付けられたリモート リーフ スイッチのペアに接続されたエンドポイント

(注) 異なるデータ センター サイトが同じマルチポッド ファブリックの一部としてポッドとして展開されている場合、上記の制限は適用されません。

リモート リーフ スイッチ機能では、次の導入と設定がサポートされていません。

- 特定のサイト(APICドメイン)に関連付けられたリモートリーフノードとマルチサイト 展開の別のサイトのリーフノード部分の間でブリッジドメインを拡張することはサポート されていません(これらのリーフノードがローカルまたはリモート)、この制限を強調表 示するために障害が APIC に生成されます。これは、Multi-Site Orchestrator(MSO)でス トレッチブリッジドメインを構成するときに、BUM フラッディングが有効または無効で あることとは無関係です。ただし、ブリッジドメインは、同じサイト(APICドメイン) に属するリモートリーフノードとローカルリーフノード間で常に拡張できます(BUM フラッディングを有効または無効にします)。
- リモート リーフスイッチ ロケーションおよび主要データセンター全体でのスパニング ツ リープロトコル
- APIC は、リモート リーフスイッチに直接接続されます。

- vPC ドメインでの、リモート リーフスイッチ上の孤立ポート チャネルまたは物理ポート (この制限は、リリース 3.1 以降に適用します)。
- コンシューマ、プロバイダー、およびサービスノードがすべてリモートリーフスイッチ に接続されていて、vPCモードである場合、サービスノード統合の有無に関わらず、リ モートロケーション内でのローカルトラフィック転送のみサポートされます。
- スパインスイッチから IPN にアドバタイズされる /32 ループバックは、リモートリーフスイッチに向けて抑制/集約してはなりません。/32 ループバックは、リモートリーフスイッチにアドバタイズする必要があります。

リリース 5.0(1) の変更点

Cisco APIC リリース 5.0(1) 以降では、リモート リーフスイッチに次の変更が適用されています。

- ・直接トラフィック転送機能はデフォルトでイネーブルになっており、ディセーブルにできません。
- リモートリーフスイッチの直接トラフィック転送を使用しない設定はサポートされなくなりました。リモートリーフスイッチがあり、Ciscoリリース 5.0(1)にアップグレードする場合は、「Direct Traffic Forwardingについて」の項に記載されている情報を確認し、その項の手順を使用して直接トラフィック転送をイネーブルにします。APIC

リリース 5.2(3) での変更点

Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降では、リモート リーフスイッチに次の変更が適用されています。

リモートリーフスイッチとアップストリームルータ間のピアへのIPNアンダーレイプロトコルは、OSPFまたはBGPのいずれかです。以前のリリースでは、OSPFアンダーレイのみがサポートされています。

WAN ルータとリモート リーフ スイッチ設定の注意事項

リモートリーフが検出され APIC 管理に組み込まれる前に、WAN ルータとリモートリーフス イッチを設定する必要があります。

次の要件に従い、ファブリックスパインスイッチの外部インターフェイスとリモートリーフ スイッチ ポートに接続する WAN ルータを接続します。

WAN ルータ

- エリアID、タイプ、コストなど、同じ詳細を有するインターフェイスでOSPFを有効にします。
- •メインファブリックの各APICのIPアドレスにつながるインターフェイスでDHCPリレー を設定します。

- スパインスイッチでVLAN5インターフェイスに接続するWANルータのインターフェイスは、通常のマルチポッドネットワークに接続するインターフェイス以外に、異なるVRFに存在する必要があります。
- リモート リーフ スイッチ
 - ファブリックポートの1つから直接接続して、アップストリームルータにリモートリーフスイッチを接続します。アップストリームルータへの次の接続がサポートされています。
 - •40 Gbps 以上の接続
 - QSFP-SFP アダプタでは、1/10 G SFP がサポートされています

WANの帯域幅は、リリースによって異なります。

- 4.2(4) 以前のリリースでは、WAN の帯域幅は最小で 100 Mbps、サポートされている 最大遅延は 300 ミリ秒です。
- •4.2(4) 以降のリリースでは、WAN の帯域幅は最小で 10 Mbps、サポートされている最 大遅延は 300 ミリ秒です。
- 上記が推奨されますが、vPCとリモートリーフスイッチのペアを接続する必要はありません。vPCの両端にあるスイッチは、同じリモートデータセンタのリモートリーフスイッチである必要があります。
- 一意の IP アドレスを持つ VLAN 4 でレイヤ 3 サブインターフェイスとしてノース バウンドインターフェイスを設定します。

リモートのリーフスイッチからルータに1個以上のインターフェイスを接続する場合、一 意の IP アドレスで各インターフェイスを設定します。

- インターフェイスでOSPFをイネーブルにしますが、OSPFエリアタイプをスタブエリア として設定しないでください。
- リモート リーフ スイッチ内の TEP プール サブネットの IP アドレスは、ポッド TEP サブ ネットプールと重複しないようにする必要があります。使用されるサブネットは/24 以下 である必要があります。
- マルチポッドがサポートされますが、リモートリーフ機能は必要ありません。
- ・単一ポッドファブリックのポッドをリモートリーフスイッチに接続するとき、スパインスイッチから WAN ルータへ、リモートリーフスイッチから WAN ルータへ L3Out を設定し、これは両方ともスイッチインターフェイスで VLAN-4 を使用します。
- マルチポッドファブリックのポッドをリモート リーフスイッチに接続するとき、スパインスイッチから WAN ルータへ、リモート リーフスイッチから WAN ルータへ L3Out を設定し、これは両方ともスイッチインターフェイスで VLAN-4 を使用します。また、VLAN-5 を使用してマルチポッド内部 L3Out を設定し、リモート リーフスイッチを宛先としてポッドを通過するトラフィックをサポートします。VLAN 4 および VLAN 5 を使用

する限り、通常のマルチポッドおよびマルチポッド内部接続は、同じ物理インターフェイ スで設定できます。

- マルチポッド内部L3Outを設定している場合、通常のマルチポッドL3Outとして同じルータ ID を使用しますが、ルータ ID の [ループバック アドレスとしてルータ ID を使用する] オプションを選択解除して、異なるループバックIP アドレスを設定します。これで ECMP が機能します。
- ・6.0(1) リリース以降、リモートリーフスイッチは、サブネットマスクが最大/28のリモートプールをサポートします。以前のリリースでは、リモートリーフスイッチは、サブネットマスクが最大/24のリモートプールをサポートしていました。リモートプールを削除できるのは、使用を停止し、そのプールを使用しているすべてのノードを含むファブリックから削除した後でのみです。

/28 リモート TEP プールは、2 つの vPC ペアを持つ最大4 つのリモート リーフスイッチを サポートします。RMA の目的では、2 つの IP アドレスを未使用のままにしておくことを お勧めします。これらの2 つの IP アドレスは、1 つのスイッチの RMA を行うのに十分で す。次の表は、リモート リーフスイッチがこれらの IP アドレスをどのように使用するか を示しています。

(注) 2 つの IP アドレスが内部ファブリックの使用に使用されます。

IP アドレスタイプ	数量
/28 プールで使用可能な使用可能な IP アド レスの合計	16 - 2 = 14
ファブリックが内部的に使用する IP アドレ スの数	2
ノードで使用可能な使用可能な IP アドレス の合計	14 - 2 = 12
4 つのリモート リーフ スイッチに必要な IP アドレスの数	4 * 2 = 8
2 つの vPC ペアに必要な IP アドレスの数	2 * 1 =2
リモートプールで使用されているIPアドレ スの合計	8 + 2 = 10
/28 リモート プールの空き IP アドレス	12 - 10 = 2

リモートリーフスイッチを廃止すると、2つの IP アドレスが解放されますが、24 時間が 経過した後にのみ再利用できます。

GUI を使用してリモート リーフ スイッチのポッドとファ ブリック メンバーシップを設定する

IPN ルータとリモートスイッチを検出して接続するために、Cisco APIC を設定して有効にする ことができます。ウィザードを使用するか、またはウィザードを使用せずに APIC GUI を使用 する方法があります。

ウィザードを使用してリモートリーフスイッチのポッドとファブリッ クメンバーシップを設定する

IPN ルータとリモートスイッチを検出して接続するために、Cisco APIC を設定して有効にす ることができます。このトピックで説明するようにウィザードを使用して、または APIC GUI を使用する代替の方法で行えます。「GUIを使用してリモートリーフスイッチのポッドとファ ブリックメンバーシップを設定する(ウィザードは使用しない)(163ページ)」を参照してく ださい。

始める前に

 IPNとWANルータとリモートのリーフスイッチがアクティブで設定されています。WAN ルータとリモートリーフスイッチ設定の注意事項(152ページ)を参照してください。



(注) ウィザードを起動する前に、物理ポッドと IPN 間の接続を設定することを推奨します。ポッド間接続の設定については、IPN 接続のためのポッドの準備(127ページ)を参照してください。

- ・リモート リーフ スイッチ ペアは、vPC で接続されています。
- リモート リーフ スイッチは、14.1.x 以降 (aci-n9000-dk9.14.1.x.x.bin) のスイッチ イメージ を実行しています。
- ・リモート リーフ スイッチを追加する予定のポッドが作成され、設定されています。
- ポッドをリモート リーフ スイッチに接続するために使用するスパイン スイッチは IPN ルータに接続されています。

手順

- ステップ1 メニューバーで、Fabric > Inventory をクリックします。
- ステップ2 [ナビゲーション(Navigation)] ペインで、[クイックスタート(Quick Start)を展開し、[リ モート リーフの追加(Add Remote Leaf)] をクリックします。

ステップ3 ワーク ペインの [リモート リーフ (Remote Leaf)] ペインで、[リモート リーフの追加 (Add Remote Leaf)] をクリックします。

[リモート リーフの追加(Add Remote Leaf)] ウィザードが表示されます。

まだポッド間接続を設定していない場合は、[ポッド間接続の設定(Configure Interpod Connectivity)] 画面が表示され、他のウィザード手順の順序はこの手順で説明されている順序 とは異なります。この状況では、IP 接続、ルーティング プロトコル、および外部 TEP アドレ スを設定します。ACI を別の場所に拡張する前に、ポッド間接続が前提条件となります。

ポッド間接続の設定については、IPN 接続のためのポッドの準備 (127 ページ)を参照してください。

ステップ4 [リモートリーフの追加 (Add Remote Leaf)]ウィザードで、[概要 (Overview)]ページの情報 を確認します。

このパネルには、ファブリック内のポッドにリモートリーフスイッチを追加するために必要な手順に関する高度な情報が表示されます。[概要(Overview)]パネルに表示される情報、および後続のページで設定する領域は、既存の設定によって異なります。

- シングルポッドまたはマルチポッドの設定に新しいリモートリーフスイッチを追加する場合は、通常、[概要(Overview)]パネルに次の項目が表示され、これらの後続のページでこれらの領域を設定します。
 - ・外部 TEP
 - ・ポッドの選択
 - ・ルーティング プロトコル
 - ・リモートリーフ

また、新しいリモート リーフ スイッチを追加するため、ダイレクト トラフィック転送機 能が自動的に設定されます。

・すでにリモートリーフスイッチが設定されており、リモートリーフウィザードを使用してこれらの既存のリモートリーフスイッチを設定しているが、既存のリモートリーフスイッチがリリース4.1(2)より前のソフトウェアリリースからアップグレードされている場合、それらのリモートリーフスイッチは直接トラフィック転送機能を設定しないでください。この場合、[リモートリーフ直接コミュニケーションは有効化されていません(Remote Leaf Direct Communication is not enabled)]で始まる[概要(Overview)]ページの上部に警告が表示されます。

この状況でウィザードを使用してリモート リーフスイッチを追加する場合、2つのオプ ションがあります。

・これらの既存のリモートリーフスイッチでの直接トラフィック転送機能を有効にします。これは、この状況で推奨される一連のアクションです。最初に、リモートリーフスイッチのアップグレードおよび直接トラフィック転送の有効化(168ページ)に記載されている手順に従って、スイッチの直接トラフィック転送機能を手動でイネーブルにする必要があります。これらの手順を使用して直接トラフィック転送機能を手動で有効にしたら、このリモートリーフスイッチウィザードに戻り、ウィザードの
プロセスに従って、ファブリック内のポッドにリモート リーフ スイッチを追加します。

- ・直接トラフィック転送機能をイネーブルにせずに、リモートリーフスイッチを追加します。これは許容可能なオプションですが、推奨されません。直接トラフィック転送機能を有効にせずにリモートリーフスイッチを追加するには、リモートトラフィック転送機能を手動で有効にせずにリモートリーフスイッチウィザードの設定を続行します。
- **ステップ5** [概要(Overview)]パネルの情報を確認したら、ページの右下隅にある[開始(Get Started)] をクリックします。
 - 新しいリモート リーフ スイッチを追加すると、リリース 4.1(2) 以降が実行され、直接トラフィック転送機能が自動的に設定され、[外部 TEP (External TEP)]ページが表示されます。ステップ6 (157ページ) に進みます。
 - ・直接トラフィック転送機能をイネーブルにせずにリモート リーフ スイッチを追加する場合、またはスイッチをリリース 4.1(2) にアップグレードし、リモート リーフ スイッチのアップグレードおよび直接トラフィック転送の有効化(168ページ)の指示に従ってスイッチで直接トラフィック転送機能を手動でイネーブルにした場合は、ポッド選択ページが表示されます。ステップ7(158ページ)に進みます。
- **ステップ6** 外部 TEP ページで、必要なパラメータを設定します。

外部 TEP アドレスは、リモート ロケーションと通信するために物理ポッドで使用されます。 このページでは、異なるロケーションを接続するネットワーク全体でルーティング可能なサブ ネットを設定します。外部 TEP プールは、他の内部 TEP プール、リモート リーフ TEP プー ル、または他のポッドからの外部 TEP プールと重複できません。ウィザードは、外部 TEP プー ルからポッド固有の TEP アドレスおよびスパインルータ ID のアドレスを自動的に割り当てま す。必要に応じて、提案されたアドレスを変更できます。

a) [デフォルトを使用(Use Defaults)] チェックボックスをオンのままにするか、必要に応じ てオフにします。

オンにすると、ウィザードは自動的にデータ プレーンおよびユニキャスト TEP アドレス を割り当てます。[デフォルトを使用(Use Defaults)]ボックスがオンの場合、これらの フィールドは表示されません。必要に応じて、提案されたアドレスを表示または変更する には、[デフォルトを使用(Use Defaults)]ボックスをオフにします。

b) [**外部 TEP プール (External TEP Pool**)]フィールドに、物理ポッドの外部 TEP を入力し ます。

外部 TEP プールは内部 TEP プールと重ならないようにする必要があります。

c) [ユニキャスト TEP IP (Unicast TEP IP)]フィールドで、必要に応じてこのフィールドに 自動的に入力される値を変更します。

このアドレスは、外部 TEP プールからCisco APICによって自動的に割り当てられ、リモートリーフスイッチからそのポッドのローカルリーフスイッチにトラフィックを送信するために使用されます。

Cisco APIC によって、外部 TEP プール アドレスを入力するときにユニキャスト TEP IP ア ドレスが自動的に設定されます。

- d) マルチポッド構成の場合は、ポッドごとにこれらの手順を繰り返します。
- e) このページに必要な情報をすべて入力したら、ページの右下隅にある[次(Next)]ボタン をクリックします。

[ポッド選択(Pod Selection)]ページが表示されます。

ステップ7 [ポッド選択 (Pod Selection)]ページで、必要なパラメータを設定します。

リモートリーフスイッチは、Cisco ACI ファブリック内のいずれかのポッドに論理的に接続します。このページで、リモートリーフスイッチが関連付けられるポッドのポッド ID を選択します。リモートリーフスイッチに IP アドレスを割り当てるには、リモートリーフ TEP プールが必要です。既存のリモートリーフ TEP プールを選択するか、リモートリーフ TEP プールを入力して新しいプールを作成します。リモートリーフ TEP プールは、既存の TEP プールとは異なる必要があります。複数のリモートリーフ ペアを同じリモート TEP プールに含めることができます。

- a) [ポッド ID (Pod ID)]フィールドで、リモート リーフ スイッチが関連付けられるポッド のポッド ID を選択します。
- b) [リモート リーフ TEP プール(Remote Leaf TEP Pool)] フィールドで、既存のリモート リーフ TEP プールを選択するか、リモート リーフ TEP プールを入力して、リモート リー フ スイッチに IP アドレスを割り当てます。

[リモートリーフ TEP プール (Remote Leaf TEP Pool)]フィールドの下にある[既存の TEP プールの表示 (View existing TEP Pools)]リンクをクリックして、既存の TEP プール (内 部 TEP プール、リモートリーフ TEP プール、および外部 TEP プール)を表示します。こ の情報を使用して、プールの重複または重複を回避します。

c) このページに必要な情報をすべて入力したら、ページの右下隅にある[次(Next)]ボタン をクリックします。

[ルーティング プロトコル (Routing Protocol)]ページが表示されます。

- ステップ8 [ルーティング プロトコル (Routing Protocol)] ページで、リモート リーフ スイッチとアップ ストリーム ルータ間でピアリングするアンダーレイ プロトコルに必要なパラメータを選択し て設定します。次のサブステップに従います。
 - a) [L3 Outside 設定(L3 Outside Configuration)] セクションの[L3 Outside] フィールドで、リ モート リーフ スイッチとアップストリーム ルータ間の接続を表す既存の L3Out を作成ま たは選択します。複数のリモート リーフペアは、アップストリーム接続を表すために同 じ L3 Outside を使用できます。

リモート リーフ スイッチの設定では、マルチポッド設定で使用される L3Out とは異なる L3Out を使用または作成することを推奨します。

b) Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降のリリースでは、[アンダーレイ (Underlay)] コントロー ルを [OSPF] または [BGP] に設定します。 Cisco APIC リリース 5.2(3) よりも前のリリースでは、OSPF が唯一サポートされているア ンダーレイ プロトコルであるため、選択する必要はありません。

- (注) OSPF と BGP の両方が Multi-Pod、Multi-Site、または リモート リーフのアン ダーレイで使用されている場合、 IPN ルータの OSPF から router-id を BGP に再 配布しないでください。そうすると、ルーティング ループが生じ、スパイン スイッチと IPN ルータの間の OSPF と BGP セッションを停止してしまいます。
- c) 適切な次の構成手順を選択します。
 - OSPF アンダーレイの場合は、ステップステップ9(159ページ) で OSPF パラメータを 構成し、ステップステップ10(160ページ)をスキップします。
 - ・BGPアンダーレイの場合は、ステップステップ9(159ページ)をスキップし、ステップ ステップ10(160ページ)のBGPパラメータを設定します。
- ステップ9 (OSPF アンダーレイの場合のみ) OSPF アンダーレイを設定するには、[ルーティング プロト コル (Routing Protocol)]ページで次の手順を実行します。

このページで、OSPF エリア ID、エリア タイプ、および OSPF インターフェイス ポリシーを 設定します。OSPF インターフェイス ポリシーには、OSPF ネットワーク タイプ、インター フェイスコスト、タイマーなどの OSPF 固有の設定が含まれています。[デフォルトの使用(Use Defaults)]チェックボックスをオフにして、OSFP 認証キーと OSPF エリア コストを設定しま す。

a) [OSPF] セクションで、[デフォルトの使用(Use Defaults)] チェックボックスをオンのま まにするか、必要に応じてオフにします。

チェックボックスはデフォルトでオンになります。チェックをオフにすると、エリアコス トや認証設定などのオプションフィールドが表示されます。

b) 必要に応じて、IPN から設定情報を収集します。

たとえば、IPN から次のコマンドを入力して、特定の設定情報を収集できます。

IPN# show running-config interface ethernet slot/chassis-number

次に例を示します。

```
IPN# show running-config interface ethernet 1/5.11
...
ip router ospf infra area 0.0.0.59
...
```

c) [Area ID] フィールドに OSPF エリア ID を入力します。

前のステップの出力に示されているOSPFエリア59の情報を見ると、[AreaID(エリアID)] フィールドに別のエリアに(たとえば、0)を入力し、別のL3Outを設定できます。リモー トリーフスイッチに別のエリアを使用している場合は、別のL3Outを作成する必要があ ります。同じ OSPF エリア ID を使用している場合でも、別のL3Out を作成できます。

d) [エリアタイプ(Area Type)]フィールドで、OSPF エリア タイプを選択します。

次の OSPF タイプのいずれかを選択できます。

・[NSSA エリア(NSSA area)]

• [通常エリア(Regular area)]

 (注) [エリア タイプ(Area Type)]フィールドのオプションとして[スタブ エリア (Stub area)]が表示される場合があります。ただし、スタブ エリアは IPN に ルートをアドバタイズしないため、スタブエリアはインフラL3Outでサポート されません。

[通常エリア(Regular area)] がデフォルトです。

e) [インターフェイス ポリシー (Interface Policy)]フィールドで、OSPF インターフェイス ポリシーを入力または選択します。

既存のポリシーを選択するか、[**OSPF インターフェイス ポリシーの作成(Create OSPF** Interface Policy)] ダイアログ ボックスを使用して新しいポリシーを作成できます。OSPF インターフェイスポリシーには、OSPF ネットワークタイプ、インターフェイスコスト、 タイマーなどの OSPF 固有の設定が含まれています。

f) このページに必要な情報をすべて入力したら、ページの右下隅にある[次へ (Next)]ボタ ンをクリックします。

[リモート リーフ (Remote Leafs)]ページが表示されます。

- **ステップ10** (BGP アンダーレイの場合のみ) 次の BGP フィールドが [ルーティング プロトコル] ページに表示される場合は、次のサブステップに従います。それ以外の場合は、[次へ]をクリックして続行します。
 - a) [BGP] セクションで、[デフォルトの使用(Use Defaults)] チェックボックスをオンのまま にするか、必要に応じてオフにします。

チェックボックスはデフォルトでオンになります。チェックを外すと、ピアリング タイ プ、ピア パスワード、ルート リフレクタ ノードなどのオプション フィールドが表示され ます。

- b) [スパインID (Spine ID)]、[インターフェイス (Interface)]、および[IPv4アドレス (IPv4 Address)]フィールドでは値は設定不可であることに注意してください。
- c) [ピアアドレス (Peer Address) フィールドで、BGP ネイバーの IP アドレスを入力しま す。
- d) [リモートAS (Remote AS) フィールドで、BGP ネイバーの自動システム (AS) 番号を入 力します。
- e) このページに必要な情報をすべて入力したら、ページの右下隅にある[次へ (Next)]ボタ ンをクリックします。

[リモート リーフ(Remote Leafs)]ページが表示されます。

ステップ11 [リモート リーフ (Remote Leafs)]ページで、必要なパラメータを設定します。

インターポッドネットワーク(IPN)は、Cisco ACI ロケーションを接続して、エンドツーエンドのネットワーク接続を提供します。これを実現するには、リモートリーフスイッチにアップストリーム ルータへの IP 接続が必要です。リモート リーフスイッチごとに、アップストリーム ルータおよび残りの Cisco ACI ファブリックとのコントロールプレーン通信を確立する

ために使用されるルータ ID を入力します。また、各リモート リーフ スイッチの少なくとも1 つのインターフェイスのIP 設定を指定します。複数のインターフェイスがサポートされます。

- a) [シリアル (Serial)]フィールドに、リモートリーフスイッチのシリアル番号を入力す るか、ドロップダウンメニューから検出されたリモートリーフスイッチを選択します。
- b) [ノードID (Node ID)]フィールドで、ノードID をリモート リーフ スイッチに割り当 てます。
- c) [名前(Name)]フィールドで、リモート リーフ スイッチに名前を割り当てます。
- d) [ルータ ID (Router ID)]フィールドに、アップストリームルータおよびその他の Cisco ACIファブリックとのコントロールプレーン通信を確立するために使用されるルータ ID を入力します。
- e) [ループバックアドレス(Loopback Address)] フィールドに、必要に応じて IPN ルータ ループバック IP アドレスを入力します。

ルータ ID アドレスを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。

- f) [インターフェイス (Interfaces)] セクションの[インターフェイス (Interface)]フィー ルドに、このリモート リーフ スイッチのインターフェイス情報を入力します。
- g) [インターフェイス (Interfaces)] セクションの [IPv4 アドレス (IPv4 Address)] フィー ルドに、インターフェイスの IPv4 IP アドレスを入力します。
- h) [インターフェイス] セクションの [MTU] フィールドで、外部ネットワークの最大送信単 位の値を割り当てます。

範囲は1500~9216です。

- i) BGP アンダーレイを選択した場合は、BGP ネイバーの IP アドレスを [ピア アドレス] フィールドに入力し、BGP ネイバーの自律システム(AS) 番号を [リモート AS] フィー ルドに入力します。
- j) 必要に応じて、追加のインターフェイスに関する情報を入力します。

[インターフェイス (Interfaces)]ボックス内の[+]をクリックして、複数のインターフェ イスの情報を入力します。

k) このリモートリーフスイッチに必要な情報をすべて入力したら、必要に応じて追加のリ モートリーフスイッチの情報を入力します。

[インターフェイス(Interfaces)] ボックスの右側にある [+] をクリックして、複数のリ モート リーフ スイッチの情報を入力します。

 このページに必要な情報をすべて入力したら、ページの右下隅にある[次へ(Next)]ボ タンをクリックします。

[確認 (Confirmation)]ページが表示されます。

ステップ12 [確認(Confirmation)]ページで、ウィザードが作成するポリシーのリストを確認し、必要に 応じて任意のポリシーの名前を変更し、ページの右下隅にある[完了(Finish)]をクリックし ます。

[リモート リーフ サマリ(Remote Leaf Summary)]ページが表示されます。

- ステップ13 [リモート リーフ サマリ(Remote Leaf Summary)] ページで、適切なボタンをクリックします。
 - JSON ファイル内の設定の API を表示するには、[JSON の表示(View JSON)]をクリックします。API をコピーして、後で使用するために保存できます。
 - このページの情報に問題がなく、JSONファイルを表示しない場合は、[OK]をクリックします。
- ステップ14 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ファブリックメンバーシップ (Fabric Membership)] をクリックし、[ノード保留レジストレーション (Nodes Pending Registration)]タブをクリッ クして、リモート リーフ スイッチ設定のステータスを表示します。 追加したリモートリーフスイッチの[ステータス (Status)]カラムに[検出なし (Undiscovered)]

と表示されます。

ステップ15 IPN を使用してスパイン スイッチにログインし、次のコマンドを入力します。

switch# show nattable

次のような出力が表示されます。

----- NAT TABLE -----Private Ip Routeable Ip 10.0.0.1 192.0.2.100 10.0.0.2 192.0.2.101 10.0.0.3 192.0.2.102

ステップ16 リモート リーフ スイッチを接続する IPN サブインターフェイスで、各インターフェイスの DHCP リレーを設定します。

次に例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/5.11
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.100
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.101
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.102
switch(config-subif)# exit
switch(config)# interface ethernet 1/7.11
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.100
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.101
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.102
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.102
switch(config-subif)# ip dhcp relay address 192.0.2.102
switch(config-subif)# exit
switch(config)# exit
switch(config)# exit
```

ステップ17 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ファブリックメンバーシップ (Fabric Membership)] をクリックし、[登録済みのノード (Registered Nodes)]タブをクリックして、リモート リー フ スイッチ設定のステータスを表示します。

> しばらくすると、追加したリモートリーフスイッチの[ステータス(Status)]カラムに[アク ティブ(Active)]と表示されます。

- ステップ18 メニューバーで、[システム (System)]>[システム設定 (System Settings)]の順にクリック します。
- **ステップ19** [ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[システム グローバル GIPo(System Global GIPo)] を選択します。
- ステップ20 [インフラ GIPo をシステム GIPo として使用(Use Infra GIPo as System GIPo)]で、[有効 (Enabled)]を選択します。

GUIを使用してリモートリーフスイッチのポッドとファブリックメン バーシップを設定する (ウィザードは使用しない)

リモート リーフ スイッチを設定するには、GUI の手順を使用できます。または、ウィザード を使用します。ウィザードを使用する手順については、次を参照してください: ウィザードを 使用したリモート リーフ スイッチのポッドとファブリック メンバーシップの構成: リリース 4.1(2) より前

始める前に

- ルータ (IPN と WAN) とリモートのリーフ スイッチはアクティブで設定されています。
 WAN ルータとリモート リーフ スイッチ設定の注意事項 (152ページ) を参照してください。
- リモート リーフ スイッチは、13.1.x 以降 (aci n9000 dk9.13.1.x.x.bin) のスイッチ イメージ を実行しています。
- リモートリーフスイッチを追加する予定のポッドが作成され、設定されています。
- ポッドをリモートリーフスイッチに接続するために使用するスパインスイッチは IPN ルータに接続されています。

手順

- ステップ1 次の手順で、リモート リーフ スイッチの TEP プールを設定します:
 - a) メニュー バーで、[ファブリック (Fabric)]>[インベントリ (Inventory)]をクリックします。
 - b) [ナビゲーション(Navigation)] ウィンドウで、[ポッドファブリック セットアップポリシー (Pod Fabric Setup Policy)] をクリックします。
 - c) Fabric Setup Policy パネルで、リモートリーフスイッチのペアを追加するポッドをダブル クリックします。
 - d) Remote Pools テーブルで [+] をクリックします。
 - e) リモート TEP プールのリモート ID とサブネットを入力し、Submit をクリックします。
 - f) Fabric Setup Policy パネルで、Submit をクリックします。
- ステップ2 次の手順で、IPN ルータに接続されているスパイン スイッチの L3Out を設定します:

- a) メニューバーで [テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)] をクリックします。
- b) [Navigation] ウィンドウで、Networking を展開し、External Routed Networks を右クリック し、Create Routed Outside を選択します。
- c) L3Out の名前を入力します。
- d) **OSPF** チェック ボックスをオンにして OSPF を有効にし、IPN および WAN ルータと同じ 方法で OSPF の詳細を設定します。
- e) リモート リーフ スイッチを追加するポッドがマルチポッド ファブリックの一部である場合には、Enable Remote Leaf チェック ボックスだけをオンにします。

このオプションは、マルチポッドのための VLAN-5 を使用する第2の OSPF インスタンス を有効にします。これにより、リモート リーフ スイッチのルートが、スイッチが所属し ているポッド内にのみアドバタイズされるようにします。

- f) overlay-1 VRF を選択します。
- **ステップ3** 次の手順に従って、L3Out で使用されるスパインとインターフェイスの詳細を設定します:
 - a) Nodes and Interfaces Protocol Profiles テーブルの [+] アイコンをクリックします。
 - b) ノードプロファイル名を入力します。
 - c) Nodes テーブルで [+] アイコンをクリックし、以下の詳細を入力します。
 - Node ID IPN ルータに接続されているスパイン スイッチの ID。
 - Router ID IPN ルータの IP アドレス
 - External Control Peering リモートリーフスイッチを追加するポッドがシングルポッドファブリックの場合には無効にします。
 - d) **OK**をクリックします。
 - e) **OSPF Interfaces Profiles** テーブルの [+] アイコンをクリックします。
 - f) インターフェイス プロファイルの名前を入力して Next をクリックします。
 - g) **OSPF Profile** で、**OSPF Policy** をクリックし、前に作成したポリシーを選択します。または、**Create OSPF Interface Policy** をクリックします。
 - h) Next をクリックします。
 - i) Routed Sub-Interface をクリックし、Routed Sub-Interfaces テーブルの [+] をクリックして、以下の詳細を入力します:
 - Node インターフェイスが所在するスパイン スイッチです。
 - Path IPN ルータに接続されたインターフェイス
 - Encap VLAN の場合には4を入力します。
 - j) **OK** をクリックし、**Next** をクリックします。
 - k) External EPG Networks テーブルの [+] をクリックします。
 - 1) 外部ネットワークの名前を入力し、**OK**をクリックします。
 - m) **Finish** をクリックします。

- **ステップ4** リモート リーフ スイッチのファブリック メンバーシップ設定を完了するには、次の手順を実行します:
 - a) [ファブリック(Fabric)]>[インベントリ(Inventory)]>[ファブリック メンバーシップ (Fabric Membership)]に移動します。

この時点で、新しいリモート リーフスイッチが、ファブリックに登録されているスイッ チのリストに表示されるようになります。ただし、次の手順で説明する方法でノードアイ デンティティ ポリシーを設定するまでは、これらはリモート リーフスイッチとは認識さ れません。

- b) それぞれのリモート リーフ スイッチについてに、リストのノードをダブルクリックし、 次の詳細情報を設定し、**Update** をクリックします:
 - Node ID リモート リーフ スイッチの ID
 - RL TEP Pool 以前に設定した、リモート リーフ TEP プールの識別子
 - Node Name リモート リーフ スイッチの名前

リモート リーフ スイッチごとにノード アイデンティティ ポリシーを設定すると、**Fabric Membership** テーブルに、remote leaf ロールを持つものとしてリストされます。

- ステップ5 次の手順で、リモート リーフ ロケーションの L3Out を設定します:
 - a) [テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]>[ネットワーキング (Networking)]に移動 します。
 - b) External Routed Networks を右クリックし、Create Routed Outside を選択します。
 - c) L3Out の名前を入力します。
 - d) **OSPF** チェック ボックスをオンにして OSPF を有効にし、IPN および WAN ルータと同じ 方法で OSPF の詳細を設定します。
 - e) リモート リーフ スイッチを追加するポッドがマルチポッド ファブリックの一部である場合には、Enable Remote Leaf チェック ボックスだけをオンにします。
 - f) overlay-1 VRF を選択します。
- **ステップ6** 次の手順で、ノードと、リモート リーフ スイッチから WAN ルータに向かうインターフェイ スを設定します:
 - a) [Create Routed Outside] パネルで、Nodes and Interfaces Protocol Profiles テーブルの[+]をク リックします。
 - b) [Nodes] テーブルで [+] をクリックし、次の詳細を入力します:
 - Node ID WAN ルータに接続されているリモート リーフの ID
 - Router ID— WAN ルータの IP アドレス
 - External Control Peering リモート リーフ スイッチがマルチポッドファブリック内の ポッドに追加される場合にのみ、有効にしてください
 - c) OK をクリックします。

- d) OSPF Interface Profiles の [+] をクリックし、リモート リーフ スイッチを WAN ルータに 接続するために使用されるルーテッドサブインターフェイスについて、次の詳細を設定し ます。
 - Identity OSPF インターフェイスのプロファイルの名前
 - Protocol Profiles 以前に設定した OSPF プロファイル。または新たに作成
 - Interfaces Routed Sub-Interface タブの、WAN ルータに向かうルーテッドサブイン ターフェイスのパスと IP アドレス
- **ステップ1** 次の手順で、ファブリック外部接続プロファイルを設定します。
 - a) [テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]に移動します。
 - b) Fabric Ext Connection Policies を右クリックし、Create Intrasite/Intersite Profile を選択し ます。
 - c) 例に示されている形式で必須の [コミュニティ (Community)] 値を入力します。
 - d) Fabric External Routing Profile で [+] をクリックします。
 - e) プロファイルの名前を入力し、すべてのリモートリーフスイッチのアップリンクインター フェイス サブネットを追加します。
 - f) Update をクリックし、Submit をクリックします。
- **ステップ8** メニューバーで、[システム (System)]>[システム設定 (System Settings)]の順にクリック します。
- **ステップ9** [ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[システムグローバルGIPo(System Global GIPo)] を選択します。
- ステップ10 [インフラ GIPo をシステム GIPo として使用(Use Infra GIPo as System GIPo)] で、[有効 (Enabled)]を選択します。
- ステップ11 リモートのリーフ スイッチが、apic 内で検出されたことを確認するには、[ファブリック (Fabric)]>[インベントリ(Inventory)]>[ファブリック メンバーシップ(Fabric Membership)]、または[ファブリック(Fabric)]>[インベントリ(Inventory)]>[ポッド (Pod)]>[トポロジー(Topology)]に移動します。
- ステップ12 ファブリックとリモート リーフ スイッチ間のリンクのステータスを表示するには、IPN ルー タに接続されているスパイン スイッチで、show ip ospf neighbors vrf overlay-1 コマンドを入力 します。
- ステップ13 CLIを使用する APIC で、ファブリック内のリモート リーフ スイッチのステータスを表示する には、acidiag fnvread という NX-OS スタイルのコマンドを入力します。

ダイレクト トラフィック フォワーディングについて

で説明されているように、直接トラフィック転送のサポートはリリース4.1(2)以降でサポート され、リリース5.0(1)以降ではデフォルトで有効になっており、無効にすることはできませ ん。リリース4.1(2)でのリモートリーフスイッチ動作の特性(140ページ)ただし、直接トラ フィック転送を有効または無効にするために使用する方法は、リモート リーフ スイッチで実 行されているソフトウェアのバージョンによって異なります。

- リモートリーフスイッチが現在リリース4.1(2)以降で実行されている場合(リモートリーフスイッチが4.1(2)より前のリリースで実行されていない場合)、ウィザードを使用してリモートリーフスイッチのポッドとファブリックメンバーシップを設定する(155ページ)に移動してください。
- リモート リーフ スイッチが現在 4.1(2) よりも前のリリースで稼働している場合は、に移動してスイッチをリリース 4.1(2) 以降にアップグレードし、必要な設定変更を行い、それらのリモート リーフ スイッチで直接トラフィック転送を有効にします。リモート リーフスイッチのアップグレードおよび直接トラフィック転送の有効化(168ページ)
- リモート リーフ スイッチがリリース 4.1(2) 以降で実行されており、直接トラフィック転送が有効になっているが、4.1(2) より前のリリースにダウングレードする場合は、に移動して、それらのリモート リーフ スイッチをダウングレードする前に直接トラフィック転送機能を無効にします。直接トラフィック転送を無効化、およびリモート リーフ スイッチのダウングレード (172ページ)
- ・リモート リーフ スイッチがリリース 5.0(1) より前のリリースで実行されており、リリース 5.0(1) 以降にアップグレードする場合:
 - リモートリーフスイッチが4.1(2)より前のリリースで実行されている場合は、最初に リリース4.1(2)にアップグレードし、で説明されている手順を使用してそれらのリモー トスイッチで直接トラフィック転送を有効にします。リモートリーフスイッチのアッ プグレードおよび直接トラフィック転送の有効化(168ページ)
 - リモート リーフ スイッチがリリース 4.1(2) にあり、ダイレクト トラフィック転送が 有効になっている場合は、リモート リーフスイッチをリリース 5.0(1)以降にアップグ レードします。
- リモートリーフスイッチがリリース 5.0(1)以降で実行されており、直接トラフィック転送がデフォルトで有効になっている場合、直接トラフィック転送もサポートしている次の以前のリリースにダウングレードする必要があります。
 - リリース 4.2(x)
 - リリース 4.1(2)

直接トラフィック転送は、設定に応じてデフォルトで有効になっている場合とされていない場合があります。

- ルーティング可能なサブネットとルーティング可能な Ucast の両方がダウングレード 前にすべてのポッドで有効にされていた場合、ダウングレード後も直接トラフィック 転送はデフォルトで有効のままになります。
- ルーティング可能なサブネットがすべてのポッドで有効になっているが、ルーティン グ可能な Ucast が有効になっていない場合、ダウングレード後に直接トラフィック転 送は有効になりません。

リモート リーフ スイッチのアップグレードおよび直接トラフィック 転送の有効化

リモート リーフ スイッチが現在 4.1(2) よりも前のリリースで稼働している場合は、これらの 手順に従ってスイッチをリリース 4.1(2) 以降にアップグレードし、必要な設定変更を行い、そ れらのリモート リーフ スイッチで直接トラフィック転送を有効にします。



- (注) リリース 4.1(2) 以降にアップグレードする場合、アップグレード先のリリースに応じて、直接 トラフィック転送の有効化はオプションまたは必須になります。
 - ・リリース5.0(1)よりも前のリリースにアップグレードする場合、ダイレクトトラフィック 転送の有効化はオプションです。ダイレクトトラフィック転送機能をイネーブルにしなく ても、スイッチをアップグレードできます。必要に応じて、アップグレードを行った後の ある時点で、この機能を有効にできます。
 - ・リリース5.0(1)以降にアップグレードする場合は、直接トラフィック転送を有効にする必要があります。ダイレクトトラフィック転送は、リリース5.0(1)以降ではデフォルトで有効になっており、無効にすることはできません。

後日、リモートリーフスイッチのソフトウェアを、リモートリーフスイッチの直接トラフィック転送をサポートしないバージョン(リリース 4.1(2)よりも前のリリース)にダウングレード する必要がある場合は、直接トラフィック転送を無効化、およびリモートリーフスイッチの ダウングレード(172ページ)の手順に従って、リモートリーフスイッチのソフトウェアをダ ウングレードする前に、直接トラフィック転送機能を無効にします。

手順

- **ステップ1** ファブリック内のすべてのノードをリリース 4.1(2) 以降にアップグレードします。Cisco APIC
- **ステップ2** 設定するルーティング可能なサブネットのルートがポッド間ネットワーク(IPN)で到達可能 であること、およびサブネットがリモート リーフ スイッチから到達可能であることを確認し ます。
- **ステップ3** ファブリック内のすべてのポッドでルーティング可能なサブネットを設定します。
 - a) メニューバーで、Fabric > Inventory をクリックします。
 - b) [Navigation] ウィンドウで、Pod Fabric Setup Policy をクリックします。
 - c) [ファブリック セットアップ ポリシー(Fabric Setup Policy)] パネルで、ルータブル サブ ネットを設定するポッドをダブルクリックします。
 - d) APIC ソフトウェアのリリースに応じて、サブネットまたは TEP テーブルの情報にアクセ スします。
 - 4.2(3) よりも前のリリースでは、[ルータブル サブネット(Routable Subnets)] テーブ ルで[+] をクリックします。

- 4.2(3) の場合のみ、[外部サブネット(External Subnets)] テーブルで [+] をクリックします。
- 4.2(4) 以降では、[外部 TEP (External TEP)] テーブル で [+] をクリックします。
- e) 必要に応じてIPアドレスと予約アドレスを入力し、状態を**アクティブ**または**非アクティブ** に設定します。
 - IP アドレスは、ロータブル IP スペースとして設定するサブネットプレフィックスです。
 - 予約アドレスは、スパインスイッチおよびリモートリーフスイッチに動的に割り当ててはいけないサブネット内のアドレスの数です。カウントは常にサブネットの最初のIPから始まり、順番に増加します。このプールからユニキャストTEP(これらの手順の後で変換されます)を割り当てる場合は、予約する必要があります。
- f) [更新(Update)]をクリックして、新しい外部ルータブルサブネットをサブネットまたは TEP テーブルに追加します。
- g) Fabric Setup Policy パネルで、Submit をクリックします。
- (注) これらの設定を行った後、サブネットまたは TEP テーブルの情報を変更する必要 がある場合に、 *Cisco APIC Getting Started Guide* 内の「Changing the External Routable Subnet」の手順に従い、これらの変更を行います。
- ステップ4 各ポートのルータブル Ucast を追加します。
 - a) メニューバーで、[テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]>[ポリシー (Policies)]>
 [プロトコル (Protocol)]>[ファブリック外部接続ポリシー (Fabric Ext Connection Policies)]>[*intrasite-intersite profile name*]の順にクリックします。
 - b) このサイト内/サイト間プロファイルのプロパティページで、[ポッド接続プロファイル (Pod Connection Profile)]領域の[+]をクリックします。

[ポッド接続プロファイルの作成(Create Pod Connection Profile)]ウィンドウが表示されます。

c) ポッドを選択し、[ポッド接続プロファイルの作成(Create Pod Connection Profile)] ウィン ドウに必要な情報を入力します。

[ユニキャスト TEP (Unicast TEP)]フィールドに、IPN を介したユニキャストトラフィックに使用される、ルーティング可能な TEP IP アドレス (プレフィックスのビット長を含む)を入力します。この IP アドレスは、特定のシナリオでユニキャストトラフィックのそれぞれのポッドのスパインスイッチによって使用されます。たとえば、リモートリーフスイッチの直接展開にはユニキャスト TEP が必要です。

- (注) リリース4.2(5)以降、APICソフトウェアは、次のいずれかの誤った設定がある 場合、4.2(5)より前のリリースから4.2(5)以降へのアップグレード後に、適切 な障害を自動的に発生させます。
 - 予約アドレス数が0または0以外のポッドの外部TEPプールの非予約部分のいずれかのIPアドレスで設定された1つのポッドのユニキャストTEP
 IPアドレス
 - •1つのポッドのユニキャスト TEP IP アドレスが、ファブリック内の他の ポッドのユニキャスト TEP IP アドレスと一致します
 - ユニキャスト TEP IP アドレスが、ファブリック内のすべてのポッドのリ モート リーフ TEP プールと重複しています

この場合、障害をクリアするには、リリース 4.2(5) 以降へのアップグレード後 に適切な設定変更を行う必要があります。何らかの設定のエクスポートを試行 する前に、これらの設定を変更する必要があります。そうしないと、リリース 4.2(5) 以降からの設定のインポート、設定のロールバック、または ID リカバリ で障害が発生します。

ステップ5 [送信(Submit)]をクリックします。`

各ポッドにルーティング可能なサブネットとルーティング可能な Ucast を設定すると、次の領 域が設定されます。

- スパインスイッチで、リモートリーフマルチキャストTEPインターフェイス (rl-mcast-hrep)とルーティング可能なCPTEPインターフェイス(rt-cp-etep)が作成され ます。
- ・リモート リーフ スイッチでは、プライベート リモート リーフ マルチキャスト TEP イン ターフェイス (rl-mcast-hrep) はそのままです。
- トラフィックは引き続きプライベートリモートリーフマルチキャストTEPインターフェ イス(rl-mcast-hrep)を使用します。
- トラフィックは、新しく設定されたルーティング可能な Ucast TEP インターフェイスで再開されます。プライベートリモートリーフユニキャスト TEP インターフェイス(rl_ucast) トンネルがリモートリーフスイッチから削除されます。新しく設定されたユニキャスト TEP でトラフィックが収束しているため、サービスの中断は非常に短時間です。
- リモート リーフ スイッチおよびスパイン スイッチ COOP(オラクル プロトコル会議)
 セッションは、プライベート IP アドレスのままです。
- •BGP ルートリフレクタは、ルーティング可能な CP TEP インターフェイス (rt-cp-etep) に 切り替わります。
- **ステップ6** COOP が正しく設定されていることを確認します。

```
# show coop internal info global
# netstat -anp | grep 5000
```

ステップ7 リモート リーフ スイッチの BGP ルート リフレクタ セッションが正しく設定されていること を確認します。

remote-leaf# show bgp vpnv4 unicast summary vrf all | grep 14.0.0 14.0.0.227 4 100 1292 1164 395 0 0 19:00:13 52 14.0.0.228 4 100 1296 1164 395 0 0 19:00:10 52

- ステップ8 リモート リーフ スイッチの直接トラフィック転送を有効にします。
 - a) メニューバーで、[System] > [System Settings] の順にクリックします。
 - b) [Fabric Wide Setting] をクリックします。
 - c) [リモートリーフダイレクトトラフィック転送の有効化(Enable Remote Leaf Direct Traffic Forwarding)] でチェック ボックスをクリックします。

これを有効にすると、リモートリーフスイッチが各リモートリーフスイッチの TEP 間で 直接送信するようになるため、スパインスイッチはアクセス制御リスト(ACL)をインス トールして、リモートリーフスイッチからのトラフィックが返送されないようにします。 リモートリーフスイッチ間にトンネルが構築されている間、サービスが短時間中断する 場合があります。

- d) [送信 (Submit)] をクリックします。`
- e) コンフィギュレーションが正しく設定されているか確認するには、スパインスイッチで次 のコマンドを入力します。

spine# cat /mit/sys/summary

出力内容で次のハイライトされているラインを確認してください。コンフィギュレーションが正しく設定されているかの確認ができます(フル出力の省略形)。

```
...
podId : 1
remoteNetworkId : 0
remoteNode : no
rldirectMode : yes
rn : sys
role : spine
...
```

この時点で、次の領域が設定されます。

- ネットワークアドレス変換アクセスコントロールリスト(NAT ACL)は、データセン ターのスパインスイッチで作成されます。
- リモートリーフスイッチでは、プライベートリモートリーフユニキャストTEPインターフェイス(rl_ucast)およびリモートリーフマルチキャストTEPインターフェイス(rl-mcast-hrep)トンネルが削除され、ルータブルトンネルが作成されます。
- •次の例に示すように、rlRoutableMode および rldirectMode 属性は yes に設定されます。

```
remote-leaf# moquery -d sys | egrep "rlRoutableMode|rldirectMode"
rlRoutableMode : yes
rldirectMode : yes
```

ステップ9 リモート リーフ スイッチに接続する IPN インターフェイスで DHCP が遅延するため、Cisco APIC のルータブル IP アドレスを追加します。

クラスタ内の各APICには、プールからアドレスが割り当てられます。これらのアドレスは、 リモートリーフスイッチ側のインターフェイスにDHCPリレーアドレスとして追加する必要 があります。これらのアドレスを検索するには、APIC CLI から次のコマンドを実行します。

remote-leaf# moquery -c infraWiNode | grep routable

ステップ10 各リモートリーフスイッチを一度に1つずつ解放し、再起動して、ルーティング可能なIPア ドレスで検出します。Cisco APIC

> COOP 設定が Routable CP TEP Interface (rt-cp-etep) に変更されます。各リモートリーフスイッ チがデコミッションされて再コミッションされると、DHCP サーバ ID にルーティング可能な IP アドレスが割り当てられます。Cisco APIC

直接トラフィック転送を無効化、およびリモート リーフ スイッチの ダウングレード

リモート リーフ スイッチがリリース 4.1(2) 以降で実行されており、直接トラフィック転送が 有効になっているが、4.1(2) より前のリリースにダウングレードする場合は、リモートリーフ スイッチをダウングレードする前に、直接トラフィック転送機能を無効にするこれらの手順に 従います。

始める前に

手順

- ステップ1 マルチポッド設定の場合は、VLAN-5を使用してマルチポッド内部 L3Out を設定します。
- **ステップ2** リモート リーフ スイッチで直接トラフィック転送機能をイネーブルにしたときに削除された 場合は、プライベート ネットワークの到達可能性をプロビジョニングします。

たとえば、IPN でプライベート IP ルートの到達可能性を設定し、リモート リーフ スイッチに 接続された IPN のレイヤ 3 インターフェイスでのプライベート IP アドレスを DHCP リレーア ドレスとして設定します。Cisco APIC

ステップ3 次のポリシーをポストして、すべてのリモートリーフスイッチのリモートリーフスイッチの 直接トラフィック転送を無効にします。

これにより、MO が Cisco APIC にポストされ、設定が Cisco APIC からファブリック内のすべ てのノードにプッシュされます。

この時点で、次の領域が設定されます。

- ネットワークアドレス変換アクセスコントロールリスト(NAT ACL)は、データセンターのスパインスイッチで削除されます。
- 次の例に示すように、rlRoutableMode および rldirectMode 属性は no に設定されます。

remote-leaf# moquery -d sys | egrep "rlRoutableMode|rldirectMode"
rlRoutableMode : no
rldirectMode : no

ステップ4 ファブリック内のポッドからルーティング可能なサブネットとルーティング可能な Ucast を削除します。

各ポッドからルーティング可能なサブネットとルーティング可能な Ucast を削除すると、次の 領域が設定されます。

- スパインスイッチで、リモートリーフマルチキャストTEPインターフェイス (rl-mcast-hrep)およびルーティング可能なCPTEPインターフェイス(rt-cp-etep)が削除 されます。
- リモートリーフスイッチでは、ルーティング可能なリモートリーフマルチキャスト TEP インターフェイス (rl-mcast-hrep) へのトンネルが削除され、プライベートリモートリー フマルチキャスト TEP インターフェイス (rl-mcast-hrep) が作成されます。リモートリー フユニキャスト TEP インターフェイス (rl_ucast) トンネルは、この時点でルーティング 可能です。
- リモートリーフスイッチおよびスパインスイッチ COOP(オラクル プロトコルのカウンシル)およびルートリフレクタセッションはプライベートに切り替わります。
- ルーティング可能なリモートリーフユニキャストTEPインターフェイス(rl_ucast)へのトンネルが削除され、プライベートリモートリーフユニキャストTEPインターフェイス(rl ucast)トンネルが作成されます。
- ステップ5 各リモート リーフ スイッチをデコミッションして再起動し、Cisco APIC のルーティング不可 能な内部 IP アドレスで検出します。
- ステップ6 ファブリック内のおよびすべてのノードを4.1(2)より前のリリースにダウングレードします。 Cisco APIC

リモート リーフ スイッチのフェールオーバー

(APIC) リリース 4.2(2) 以降、リモート リーフ スイッチはポッド冗長です。Cisco Application Policy Infrastructure Controllerつまり、マルチポッドのセットアップでは、ポッド内のリモート リーフ スイッチがスパイン スイッチへの接続を失うと、別のポッドに移動されます。これに

より、元のポッドに接続されているリモートリーフスイッチのエンドポイント間のトラフィックが機能します。

リモートリーフスイッチはポッドに関連付けられ、ピン接続され、スパインプロキシパスは 設定によって決定されます。以前のリリースでは、Council of Oracle Protocol (COOP) はマッ ピング情報をスパインプロキシに伝達していました。現在、スパインスイッチへの通信が失 敗すると、COOP セッションは別のスパインスイッチのポッドに移動します。

以前は、Border Gateway Protocol (BGP) ルートリフレクタをポッドに追加しました。ここで、 外部ルートリフレクタを使用し、ポッド内のリモートリーフスイッチが他のポッドとBGP 関 係を持っていることを確認します。

リモートリーフスイッチのフェールオーバーは、デフォルトでは無効になっています。[シス テム (Systems)][システム設定 (System Settings)]タブの (APIC) GUIで、リモートリーフ ポッド冗長性ポリシーを有効にします。Cisco Application Policy Infrastructure Controller > 冗長プ リエンプションを有効にすることもできます。プリエンプションを有効にすると、リモート ポッドがバックアップされると、リモートリーフスイッチは親ポッドに再関連付けされます。 プリエンプションを有効にしない場合、リモートリーフは、親ポッドが復帰しても動作ポッド に関連付けられたままになります。



(注) あるポッドから別のポッドにリモート リーフ スイッチを移動すると、数秒のトラフィックの 中断が発生する可能性があります。

リモート リーフ フェールオーバーの要件

ここでは、リモート リーフ スイッチのフェールオーバーが機能するために満たす必要がある 要件を示します。この要件は、この章のリモート リーフ スイッチのハードウェア要件に追加 されるものです。リモート リーフ スイッチのハードウェアの要件 (148 ページ)

- フルメッシュモードではなく、ルートリフレクタモードでマルチポッドを設定します。
- リモートリーフスイッチのルート可能なIPアドレスで直接トラフィック転送を有効にします。
- 外部 Border Gateway Protocol (BGP) ルートリフレクタを設定します。
 - スパインスイッチ間のBGPセッションを減らすために、マルチポッドに外部ルート リフレクタを使用することを推奨します。

各ポッドの1つのスパインスイッチを外部ルートリフレクタ専用にすることができ ます。

- フルメッシュモードですべてのリモートリーフポッドの外部 BGP ルートリフレクタノードを設定します。
- ・すでにフルメッシュモードでマルチポッドを使用している場合は、フルメッシュを 引き続き使用できます。ただし、リモートリーフスイッチのルートリフレクタを有 効にします。

リモート リーフ スイッチ フェールオーバーの有効化

リモート リーフ スイッチ ポッドの冗長性ポリシーを作成して、リモート リーフ スイッチの フェールオーバーを有効にします。冗長プリエンプションを有効にすることもできます。この 場合、ポッドがバックアップされると、リモート リーフ スイッチと親ポッドが再度関連付け られます。

始める前に

リモート リーフ スイッチのフェールオーバーをイネーブルにする前に、次のタスクを実行し ます。

- ・セクション「リモートリーフフェールオーバーの要件(174ページ)」の前提条件を満たします。
- ・リモートリーフダイレクト (RLD) を有効にします。
- ・ すべてのポッドが(APIC) リリース 4.2(2) 以降を実行していることを確認します。Cisco Application Policy Infrastructure Controller
- ・すべてのポッドに少なくとも2つのDate Center Interconnect (DCI) 対応スパインスイッチ があることを確認します。

製品名にサフィックス「EX」が付いた Cisco Nexus 9000 シリーズ スパイン スイッチを使用していることを確認します。たとえば、N9K-C93180YC-EX です。



(注) ポッドに単一のリモート リーフ スイッチがあり、スイッチがクリーン リロードされると、ス イッチはスパインスイッチのフェールオーバーポッド(親設定ポッド)に接続されます。ポッ ドに複数のリモート リーフ スイッチがある場合は、少なくとも1つのスイッチがクリーン リ ロードされていないことを確認します。これにより、他のリモートリーフスイッチは、リロー ドされなかったリモート リーフ スイッチが存在するポッドに移動できます。

手順

- ステップ1 Cisco APIC にログインします。
- ステップ2 [システム (System)] > [システム設定 (System Settings)] に移動します。
- ステップ3 [システム設定 (System Settings)] ナビゲーション ウィンドウで、[リモート リーフ ポッド冗 長性ポリシー (Remote Leaf POD Redundancy Policy)]を選択します。
- ステップ4 [リモート リーフ ポッド冗長性ポリシー (Remote Leaf POD Redundancy Policy)]作業ウィンド ウで、[リモートリーフ ポッド冗長性ポリシーの有効化 (Enable Remote Leaf Pod Redundancy Policy)]チェックボックスをオンにします。
- **ステップ5** (任意) [リモートリーフ ポッド冗長性プリエンプションの有効化 (Enable Remote Leaf Pod Redundancy pre-emption)] チェックボックスをオンにします。

ポッドが復旧すると、親ポッドにリモートリーフスイッチが再度関連付けられたチェックボッ クスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、親ポッドが復帰しても、 リモートリーフは動作ポッドに関連付けられたままになります。

次のタスク

フェールオーバーが発生したときにリモート リーフ スイッチで次のコマンドを入力し、どの ポッド リモート リーフ スイッチが動作しているかを確認します。

cat /mit/sys/summary

moquery -c rlpodredRlSwitchoverPod

リモートのリーフスイッチのダウングレードする前に必 要な前提条件



(注) リモートノードの使用停止し、リモートリーフに関連するポリシー(を削除する必要がありますがあれば導入で、リモートのリーフスイッチリリース 3.1 (1) から以降、リモートリーフ機能をサポートしていない以前のリリースには、APIC ソフトウェアのダウングレードする場合、というプールにある)を含む前にダウングレードします。スイッチの使用停止の詳細についてを参照してください。使用停止およびスイッチの再稼働で、Cisco APICトラブルシューティングガイド。

リモート リーフ スイッチをダウン グレードする前に、いずれかのタスクが完了することを確認します。

- •vPC ドメインを削除します。
- SCVMM を使用している場合は、vTEP 仮想ネットワーク アダプタを削除します。
- リモートリーフノードの使用停止および10を待機-15分を完了するタスクの使用停止後。
- ・削除に WAN L3out にリモート リーフ、テナントインフラ。
- Multipod を使用している場合、インフラ-l3out VLAN 5 とを削除します。
- リモートというプールを削除します。



SR-MPLS ハンドオフ

リリース 5.0(1) 以降、境界リーフ スイッチでのセグメント ルーティング (SR) マルチプロト コル ラベル スイッチング (MPLS) ハンドオフは、新機能として使用できます。Cisco ACI

このドキュメントの手順では、GUI と REST API を使用して SR-MPLS ハンドオフを設定する 方法について説明します。現時点では、NX-OS スタイルの CLI を使用して SR-MPLS ハンドオ フを設定することはできません。

- ACI ハンドオフについて (177 ページ)
- SR-MPLS ハンドオフの ACI 実装について (183 ページ)
- SR-MPLS 設定モデルについて (192 ページ)
- •注意事項と制約事項 (197 ページ)
- GUI を使用した SR-MPLS インフラ L3Out の設定 (204 ページ)
- GUI を使用した SR-MPLS VRF L3Out の設定 (213 ページ)
- GUI を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシーの作成 (216 ページ)
- MPLS 統計情報の表示 (219 ページ)
- SR-MPLS グローバル ブロック (GB) の設定 (222 ページ)
- IP ハンドオフ設定から SR ハンドオフ設定への移行 (225 ページ)
- ・ループ防止のための BGP ドメインパス機能について (233 ページ)

ACI ハンドオフについて

ここでは、IP ハンドオフを使用したリリース 5.0(1) より前のリリースでの ACI ハンドオフの 処理方法と、リリース 5.0(1) 以降の SR-MPLS ハンドオフを使用した処理方法について説明し ます。Cisco APICCisco APIC

リリース 5.0(1) 以前の ACI ハンドオフ: IP ハンドオフ

リリース5.0(1) 以前では、ACI 境界リーフ ノードをデータ センター プロバイダー エッジ (DC-PE) に接続する ACI ファブリックを設定するときに、マルチテナント ネットワークを

⁽注)

使用する構成の場合は、複数のVRFがあり、各VRFにルーティングプロトコルが必要です。 Cisco APICまた、各VRFのインターフェイスを専用にする必要があります。このインターフェ イスは、物理インターフェイスまたは論理インターフェイスのいずれかです。次の図に示すよ うに、この設定は通常VRF-Liteと呼ばれます。



図 20: IP ハンドオフを使用した DC-PE への ACI ハンドオフ (VRF-Lite)

この設定では、境界リーフスイッチはVRF-Lite を使用して DC-PE に接続されます。境界リー フスイッチと DC-PE 間のインターフェイスおよびルーティング プロトコル セッションの設定 は、個別の VRF を使用して行われます。差別化サービス コード ポイント (DSCP) は、発信 トラフィックの境界リーフスイッチで設定されます。DC-PE では、DSCP は、トラフィック エンジニアリング (SR-TE) ポリシーのセグメントルーティングにマッピングされます。この ポリシーは、トランスポート ネットワーク経由でトラフィックを誘導するために使用されま す。

境界リーフスイッチとデータセンターの間に多数のセッションがある場合、この設定は面倒になります。したがって、自動化と拡張性は、VRF-Liteを使用して設定する際の重要な課題です。

リリース 5.0(1) での ACI ハンドオフ : SR ハンドオフ

リリース 5.0(1) 以降、SR-MPLS ハンドオフを使用して、境界リーフ スイッチと DC-PE ルータ 間の ACI ファブリック接続を設定できるようになりました。Cisco APICSR は他のオプション よりも優れたソリューションです。VXLAN などの他のオプションは SP コアでは一般的なテ クノロジーではないため、SR はトランスポート デバイスよりもはるかに一般的で成熟したソ リューションです。

次のシナリオは、SR-MPLS を使用した DC-PE への ACI ハンドオフの設定がどのように役立つ かを示しています。

- 統合セグメントルーティングの転送(179ページ)
- •トランスポート ネットワークでの DC-to-DC フローのモニタリング (179 ページ)
- 複数の VRF の単一コントロール プレーン セッション (180 ページ)

- [カラー コミュニティ(Color Community)] または [宛先プレフィックス(Destination Prefix)] を使用したトランスポートの SR-TE / Flex Algo (181 ページ)
- SR または MPLS による DC およびトランスポート QoS (182 ページ)

統合セグメントルーティングの転送

次のシナリオでは、異なる ACI DC ネットワークを相互接続するための統合 SR または MPLS トランスポート ネットワークの導入について説明します。VXLAN から SR-MPLS へのハンド オフは、ACI ネットワークと DC-PE ルータ間の各ロケーションで活用されます。



このシナリオでは、VXLAN は ACI ファブリック エリアで使用され、セグメント ルーティン グはトランスポートネットワークで使用されます。ACI ファブリックエリアの外部で VXLAN を使用するのではなく、同じ SR ベースのルーティングを使用することをお勧めします。この 場合、トランスポート デバイスに対して SR ハンドオフまたは MPLS ハンドオフを実行しま す。ACI 境界で VXLAN を SR に変更すると、トランスポート デバイスは SR または MPLS を 実行するだけでよく、VXLAN を実行する必要はありません。

トランスポート ネットワークでの DC-to-DC フローのモニタリング

次のシナリオでは、DC-to-DC フローは VXLAN ではなくセグメント ルーティングを使用して カプセル化されます。



このシナリオでは、トランスポート ネットワークに使用される既存のモニタリング ツールは MPLS トラフィックをモニタできますが、VXLAN パケットはモニタできません。ACI から SR-MPLS へのハンドオフを使用することで、トランスポート チームは既存のモニタリング ツールを使用して DC-to-DC フローをモニタできます。

複数の VRF の単一コントロール プレーン セッション

SRハンドオフを使用すると、単一のコントロールプレーンセッション(MP-BGP EVPN)が、 IPハンドオフ設定で使用する必要がある VRF 単位のセッションではなく、すべての VRF に使 用されます。これにより、ACIデータ センターと DC-PE 間の複数の VRF の自動化とスケーラ ビリティのオプションが向上します。



SR ハンドオフでは、VRF 単位のコントロール プレーンおよびデータ プレーン セッションの 代わりに単一のコントロール プレーンおよびデータ プレーン セッションが使用され、Cisco ACI ファブリックから SP コアへの統合 SR トランスポートが使用されます。BGP ラベル ユニ キャスト(BGPLU)アドレスファミリは、アンダーレイラベル交換に使用されます。MP-BGP EVPNアドレスファミリは、VRF 情報ごとにプレフィックスと MPLS ラベルを伝送します。

[カラーコミュニティ (Color Community)]または[宛先プレフィックス (Destination Prefix)]を 使用したトランスポートの SR-TE / Flex Algo

SRハンドオフは、SPコアでSRのシグナリングを自動化するため、有益です。この場合、ACI 境界リーフスイッチは、BGPカラー拡張コミュニティを持つ EVPN タイプ 5 ルートを DC-PE にアドバタイズします。DC-PEは、ACI境界リーフスイッチから受信したカラーコミュニティ または宛先プレフィックスに基づいてセグメント ルーティング ポリシーを作成できます。こ の機能により、DC とトランスポート ネットワークをシームレスに統合できます。



同様に、次の図に示すように、ACI境界リーフスイッチから EVPN タイプ 5 プレフィックス をアドバタイズでき、DC-PE は宛先プレフィックスに基づいて SR-TE または Flex Algo ルー ティング ポリシーを作成できます。



2つの方法のうち、カラーコミュニティを使用してDC-PEの設定を減らすことを推奨します。 ただし、いずれの場合も、この方法でSR-MPLSを使用する前に、DC-PEにこの機能をサポー トする機能があることを確認する必要があります。

SR または MPLS による DC およびトランスポート QoS

ACIファブリック内では、非境界リーフスイッチは、EPG、コントラクト、およびL3Out QoS ポリシーを使用して DSCP 値でパケットをマーキングできます。これらの DSCP 値を使用し て、ACI 境界リーフスイッチで MPLS 出力ルールを設定し、Experimental Bit (EXP) または Class of Service (COS) 値でパケットをマーキングできます。トランスポートネットワークは、 データ センターからの DSCP または EXP 値に基づいて、QoS アクションを実行したり、異な る SR または MPLS パスを選択したりできます。



同様に、MPLS入力ルールを使用して、ACI境界リーフスイッチは、EXP値に基づいてファブ リックに着信する入力パケットを COS、DSCP、および QoS レベルでマーキングできます。 QoS レベルはファブリック内の QoS アクションを定義します。

SR-MPLS ハンドオフの ACI 実装について

ACIは、Cisco APIC リリース 5.0(1) で導入された次の ACI コンポーネントを使用して SR-MPLS ハンドオフを実装します。

SR-MPLS インフラ L30ut

SR-MPLS インフラ L3Out は SR-MPLS 接続を提供します。境界リーフ スイッチのインフラ テ ナントで SR-MPLS インフラ L3Out を設定して、アンダーレイ MP-BGP EVPN セッションを SR-MPLS ハンドオフ用に設定します。テナント VRF は ACI SR-MPLS インフラ L3Out に選択 的にマッピングされ、テナント サブネットを DC-PE ルータにアドバタイズし、DC-PE から MPLS VPN ルートをインポートします。SR-MPLS インフラ L3Out は、ポッドまたはリモート リーフ スイッチサイトにスコープされ、ポッドまたはリモートリーフスイッチペアに拡張さ れません。



図 21 : SR-MPLS インフラ L3Out

ポッドまたはリモート リーフ スイッチ サイトには、1 つ以上の SR-MPLS インフラ L3Out を 設定できます。

SR-MPLS インフラ L3Out の設定手順については、GUI を使用した SR-MPLS インフラ L3Out の設定 (204 ページ) を参照してください。

SR-MPLS インフラ L3Out の設定プロセスの一環として、次の領域を設定します。

- ACI 境界リーフ スイッチと DC-PE 間の MP-BGP EVPN セッション (184 ページ)
- BGP EVPN セッションのマルチホップ BFD (186 ページ)
- ACI 境界リーフ スイッチおよびネクストホップ ルータでのアンダーレイ BGP セッション (BGP ラベル付きユニキャストおよび IPv4 アドレス ファミリ) (186 ページ)
- •BGP ラベル付きユニキャスト セッションのシングルホップ BFD (187 ページ)

ACI 境界リーフ スイッチと DC-PE 間の MP-BGP EVPN セッション

次の図に示すように、境界リーフスイッチのEVPNループバックとDC-PEルータ間のMP-BGP EVPN セッションを設定するために必要な情報を提供する必要があります。



この領域では、次の設定が行われます。

- BGP ラベル付きユニキャストアドレスファミリを使用したトランスポートループバックのラベルアドバタイズメント。
- •SR-MPLS インフラ VRF の境界リーフ スイッチ上の一意のルータ ID。
- ルータ ID は、BGP-EVPN ループバックおよびトランスポートループバックアドレスとは 異なる必要があります。

図に示すように、MP-BGP EVPN とトランスポートのループバックに異なる IP アドレスを使用 できますが、MP-BGP EVPN と ACI 境界リーフ スイッチのトランスポート ループバックに同 じループバックを使用することを推奨します。

現時点では、eBGP セッションのみがサポートされていることに注意してください。

BGP EVPN セッションのマルチホップ BFD

リリース5.0(1)から、次の図に示すように、マルチホップBFDのサポートが可能になりました。この場合、EVPNループバック間にマルチホップBFDEVPNセッションを設定できます。



ACI 境界リーフ スイッチと DC-PE 間の BGP EVPN セッションでは、最小タイマーが 250 ミリ 秒、検出乗数が 3 のマルチホップ BFD がサポートされます。要件に基づいてこのタイマー値 を変更できることに注意してください。

ACI境界リーフスイッチおよびネクストホップルータでのアンダーレイ BGP セッション(BGP ラベル付きユニキャストおよび IPv4 アドレス ファミリ)

また、次の図に示すように、ACI境界リーフスイッチとDC-PE間のインターフェイスごとに、 BGP IPv4 とラベル付きユニキャスト アドレス ファミリを設定します。



BGP IPv4アドレス ファミリは EVPN ループバックを自動的にアドバタイズし、BGP ラベル付 きユニキャスト アドレス ファミリは SR-MPLS ラベルを使用して SR トランスポート ループ バックを自動的にアドバタイズします。

繰り返しますが、現時点では eBGP セッションのみがサポートされています。

BGP ラベル付きユニキャスト セッションのシングルホップ BFD

リンクがアップしたままで、リンクの転送機能が影響を受けるソフト障害に関連する問題を防 ぐために、次に示すように、IPv4 および BGP ラベル付きユニキャスト セッションのアンダー レイ BGP セッションのシングルホップ BFD セッションを設定できます。次の図を参照してく ださい。



ACI 境界リーフ スイッチと DC-PE 間の BGP EVPN セッションでは、最小タイマーが 50 ミリ 秒、検出乗数が 3 のシングルホップ BFD がサポートされます。要件に基づいてこのタイマー 値を変更できることに注意してください。

SR-MPLS VRF L3Out

SR-MPLS トランスポートに対してプレフィックスをアドバタイズする必要がある各 VRF は、 SR-MPLS インフラ L3Out に関連付ける必要があります。SR-MPLS インフラ L3Out に接続され ている SR-MPLS VRF L3Out を使用して、これらのアソシエーションを設定します。



22 : User Tenant SR-MPLS L3Out

1 つ以上の SR-MPLS VRF L3Out を同じ SR-MPLS インフラ L3Out に接続できます。SR-MPLS VRF L3Out を使用して、インポートおよびエクスポート ルート マップを設定し、次のことを 実行できます。

- プレフィックスやコミュニティに基づいてルートポリシーを適用する
- •SR ネットワークにプレフィックスをアドバタイズする
- ・SR ネットワークから受信したプレフィックスを除外する

また、外部 EPG を各 SR-MPLS VRF L3Out テナントの1つ以上のサブネットで設定します。これは次の目的で使用されます。

- セキュリティポリシー(コントラクト)
- ポリシーベース リダイレクト (PBR) ポリシー
- VRF 間のルート リーク

SR-MPLS VRF L3Out の設定手順については、GUI を使用した SR-MPLS VRF L3Out の設定(213 ページ)を参照してください。

SR-MPLS カスタム QoS ポリシー

カスタムQoSポリシーを使用して、MPLSネットワークからのトラフィックをACIファブリッ ク内で優先順位付けする方法を定義できます。これらのポリシーを使用して、MPLS L3Out を 介してトラフィックがファブリックを離れるときに、トラフィックを再マーキングすることも できます。

カスタム QoS ポリシーを設定する場合、境界リーフスイッチに適用される次の2つのルール を定義します。

入力ルール: MPLSネットワークに接続されている境界リーフスイッチに着信するすべてのトラフィックは、MPLS Experimental ビット(EXP)値に対してチェックされ、一致が検出されると、トラフィックはACIQoSレベルに分類され、適切なCoSおよびDifferentiated Services Code Point(DSCP)値でマークされます。

値は、境界リーフでカスタム QoS 変換ポリシーを使用して取得されます。SR-MPLS からのトラフィックの元のDSCP 値は、再マーキングなしで保持されます。カスタムポリシーが定義されていないか、一致していない場合、デフォルトのQoSレベル(Level3)が割り当てられます。

・出力ルール:トラフィックが境界リーフのMPLSインターフェイスから離れていくと、パケットのDSCP値に基づいて照合され、一致が見つかると、MPLS EXPおよび CoS値がポリシーに基づいて設定されます。

出力 MPLS QoS ポリシーが設定されていない場合、MPLS EXP はデフォルトでゼロになり ます。MPLS カスタム QoS ポリシーに基づいて設定されている場合は、EXP が再マーキ ングされます。

次の2つの図は、入力および出力ルールが適用されるタイミングと、内部ACIトラフィックが ファブリック内でパケットのQoSフィールドを再マーキングする方法を要約しています。

図 23:入力 QoS



図 24:入力 0oS



GUI を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシーの作成 (216 ページ)の説明に従って、複数 のカスタム QoS ポリシーを定義し、作成した各 SR-MPLS インフラ L3Out に適用できます。

SR-MPLS 設定モデルについて

次の図に、SR-MPLS ハンドオフの ACI 実装の設定モデルを示します。


SR-MPLS ハンドオフの設定は、次のテナント内で行われます。

- Infra Tenant: インフラテナントの下で、SR-MPLS インフラ L3Out (183 ページ)の説明 に従って SR-MPLS インフラ L3Out を設定します。SR-MPLS インフラ L3Out では、ACI ファブリックと境界リーフ スイッチに接続された外部デバイス間の接続を定義します。 SR-MPLS インフラ L3Out でオーバーレイおよびアンダーレイ ノードパスを指定します。
- ユーザテナント:ユーザテナントの下に、図の左側の領域に示すように、複数のVRF、 EPG、およびL3Outがある場合があります。ユーザテナント内で、SR-MPLSハンドオフ 設定の一部として使用するSR-MPLSVRFL3Outを設定します。SR-MPLSVRFL3Out(188 ページ)

SR-MPLS VRF L3Out 内では、次のルート マップも設定します。

・着信ルートマップ:デフォルトでは、着信ルートマップのポリシーはすべてのプレフィックスを受け入れます。

明示的な着信ルートマップは、次のように設定できます。

- ファブリック内のアドバタイズメントを選択的に拒否するプレフィックスを一致 させる
- プレフィックスとコミュニティを照合して、ファブリック内のアドバタイズメントを選択的に拒否する
- アウトバウンドルートマップ:ブリッジドメインサブネットを含む任意のプレフィックスをアドバタイズするために、アウトバウンドルートマップのポリシーを設定する必要があります。デフォルトでは、アウトバウンドルートマップのポリシーはプレフィックスをアドバタイズしません。

明示的なアウトバウンドルートマップは、次のように設定できます。

- SR-MPLS ネットワークにアドバタイズされるプレフィックスの照合
- SR-MPLS ネットワークにプレフィックスをアドバタイズするためのプレフィックスとコミュニティの照合
- プレフィックスやコミュニティの一致に基づいて、カラーコミュニティを含むコ ミュニティを設定します。

インバウンドルートマップとアウトバウンドルートマップの両方がコントロールプレー ンに使用され、ファブリック内外で許可または拒否されるプレフィックスを設定します。

SR-MPLS VRF L3Out 内で、外部 EPG と、データ プレーンに使用される該当の外部 EPG 内のサブネットも設定します。これらのサブネットは、ACIセキュリティポリシーを適用 するために使用されます。外部 EPG サブネットは、フラグを使用して別の VRF のプレ フィックスをリークするためにも使用されます。外部 EPG サブネットでルート リークと セキュリティ フラグを有効にすると、そのサブネットは別の VRF にリークされる可能性 があります。集約フラグを使用して外部 EPG サブネットを設定し、プレフィックスを別 の VRF にリークすることもできます。この場合、リーフスイッチプレフィックスへのコ ントラクトを定義し、VRF 間の通信を許可する必要があります。



(注) SR-MPLS VRF L3Out 上の外部 EPG は、ルートマップを適用して プレフィックスアドバタイズメントを拒否するなど、ルーティン グポリシーには使用されません。

この例では、ユーザテナント内の SR-MPLS VRF-1 L3Out が SR-MPLS インフラ L3Out に接続 され、ユーザテナント内の SR-MPLS VRF-2 L3Out も SR-MPLS インフラ L3Out に接続されま す。

EPG to SR-MPLS L3Out

次の図は、EPG to SR-MPLS L3Out 設定の例を示します。



このシナリオでは、次の設定を行います。

- ・境界リーフスイッチ(上図の BL1 と BL2)で SR-MPLS infra L3Out を設定します。
- ・EPG、ブリッジドメイン、およびユーザVRFとともに、ユーザテナントでSR-MPLSVRF L3Out を設定します。
- プレフィックスのエクスポートおよびインポート用のルートマップを設定し、SR-MPLS VRF L3Out に適用します。
- EPG と SR-MPLS L3Out 間のトラフィック転送のために、EPG と SR-MPLS VRF L3Out で 定義された外部 EPG の間に契約を設定し、適用します。

IP L3Out to SR-MPLS L3Out

次の図に、通常の IP L3Out と SR-MPLS L3Out の間の中継ルーティングを有効にする設定の例 を示します。



このシナリオでは、前述の EPG から SR-MPLS L3Out への設定と同様の設定を行いますが、その違いは次のとおりです。

- ・境界リーフスイッチ(上図の BL1 と BL2)で SR-MPLS infra L3Out を設定します。
- IP L3Out およびユーザ VRF とともに、ユーザ テナントで SR-MPLS VRF L3Out を設定します。
- プレフィックスのエクスポートおよびインポート用のルートマップを設定し、SR-MPLS VRF L3Out に適用します。
- IP L3Out と SR-MPLS L3Out 間のトラフィック転送のために、IP L3Out と SR-MPLS VRF L3Out に関連付けられた外部 EPG 間にコントラクトを設定し、適用します。

注意事項と制約事項

次は、SR-MPLS ハンドオフ機能のガイドラインおよび制限事項です。

- 対応プラットフォーム (197ページ)
- プラットフォームでの制限(197ページ)
- SR-MPLS インフラ L3Out のガイドラインと制約事項 (198 ページ)
- SR-MPLS VRF L3Out のガイドラインと制約事項 (198 ページ)
- MPLS スイッチングに関するガイドラインと制限事項 (203 ページ)
- SR-MPLS 統計情報のガイドラインと制約事項 (204 ページ)

対応プラットフォーム

SR-MPLS ハンドオフ機能は、次のプラットフォームでサポートされます。

- ・ボーダー リーフスイッチ:-FX スイッチ モデル以降 (たとえば、スイッチ名の末尾に 「FX」、「FX2」、「FX3」、「GX」… が付いているスイッチ モデル)
- •スパインスイッチ:
 - ラインカード名の末尾に「LC-EX」、「LC-FX」、および「GX」が付いたモジュラ スパイン スイッチ モデル
 - 固定スパイン スイッチの Cisco Nexus 9000 シリーズ N9K-C9364C および N9K-C9332C
- DC-PEルータ:
 - Network Convergence System (NCS) 5500 シリーズ
 - ASR 9000 シリーズ
 - NCS 540 または 560 ルータ

プラットフォームでの制限

- FX プラットフォームでは、SR-MPLS 機能を有効にすると、MPLS が有効になっていない、または展開されていないポートを含むすべてのポートで MPLS 解析が有効になります。FX2 プラットフォーム以降では、MPLS 解析は、SR-MPLS が有効化または展開されているポートでのみ有効化されます。
- MPLS 解析が有効になっているポートでは、MPLS カプセル化パケットの純粋なレイヤ2 スイッチングはサポートされていません。非 MPLS レイヤー2トラフィックは、問題な く、レイヤー2トランジットとして ACI ファブリックを使用できます。

SR-MPLS インフラ L30ut のガイドラインと制約事項

- ボーダー リーフ スイッチが複数の SR-MPLS Infra L3Out にあることができる場合でも、 ボーダー リーフ スイッチ/プロバイダ エッジ ルーターの組み合わせは1つの SR-MPLS L3Out になければなりません。ユーザ VRF/ボーダー リーフ スイッチ/プロバイダ エッジ ルートの組み合わせに対して1つのルーティング ポリシーのみが存在できるからです。
- 複数のポッドおよびリモートロケーションから SR-MPLS 接続を確立する必要がある場合は、SR-MPLS 接続を使用するポッドおよびリモートリーフロケーションのそれぞれに異なる SR-MPLS インフラ L3Out があることを確認します。

SR-MPLS VRF L3Out のガイドラインと制約事項

Routing Policy

- 各 SR-MPLS VRF L3Out 内では、アウトバウンドルートマップ(エクスポートルーティングポリシー)の定義は必須ですが、インバウンドルートマップ(インポートルーティングポリシー)の定義はオプションです。
- SR-MPLS VRF L3Out に関連付けられているルーティングポリシーは、グローバルタイプ である必要があります。つまり、ブリッジドメインサブネットを含むすべてのルートを 明示的に追加する必要があります。
- ・ホストベース ルーティングは SR-MPLS ではサポートされません。
- •移行ルーティングがサポートされますが、一部の制約があります。
 - ・サポート対象:次の図に示すように、異なるボーダーリーフペアを使用する単一の VRFでのSR-MPLSトラフィック。この設定では、各SR-MPLSインフラL3out(ボー ダーリーフペア)を介して一意のプレフィックス範囲をアドバタイズする必要があ ります。また、トランスポートネットワークにルーティングループがないことを確 認する必要があります(つまり、ファブリックがハブとして機能し、2つのトランス ポートネットワークがスポークとして機能している)。



 ・サポート対象:次の図に示すように、同じ境界リーフペアと異なる VRF を持つ SR-MPLS トラフィック。



 ・サポート対象:次の図に示すように、異なる境界リーフペアと異なる VRF を持つ SR-MPLS トラフィック。



- ・次の図に示すように、同じ VRF 内および同じ境界リーフペア上の SR-MPLS トラフィックを中継します。
 - リリース 5.1(1) よりも前のリリースではサポートされません。
 - リリース 5.1(1)以降でサポートされます。システムでの一時的なループを回避するために、再発信されたルートが同じInfraL3Outピアにアドバタイズされないようにします。



リーフスイッチが複数のSR-MPLSインフラL3Outで設定されている場合、プレフィックスが単一のプレフィックスリスト(1つの一致ルール)で設定されていれば、同じサブネットをすべてのL3Outからアドバタイズできます。その後、そのプレフィックスリストのルートマップは、すべてのSR-MPLS VRFL3Outに関連付けられます。

たとえば、次のようなコンフィギュレーションがあるものとします。

- ・サブネット S1 と S2 を持つ単一のプレフィックス リスト P1
- ルートマップ R1 に関連付けられている SR-MPLS VRF L3Out 1 (プレフィックス リスト P1)
- ルートマップ R2 に関連付けられている SR-MPLS VRF L3Out 2 (プレフィックス リスト P1)

プレフィックスは同じプレフィックスリスト(P1)に設定されているため、異なるSR-MPLS VRF L3Out に関連付けられていても、プレフィックスリスト P1 内の同じサブネットが両 方の L3Out からアドバタイズされます。

一方、次の設定を検討します。

- •2つのプレフィックスリスト
 - ・プレフィックス リスト P1、サブネット S1 および S2
 - プレフィックス リスト P2、サブネット S1 および S2
- ルートマップ R1 に関連付けられている SR-MPLS VRF L3Out 1 (プレフィックス リスト P1)
- ルートマップ R2 に関連付けられている SR-MPLS VRF L3Out 2 (プレフィックス リスト P2)

プレフィックスは2つのプレフィックスリスト(P1とP2)で設定され、異なるSR-MPLS VRFL3Outに関連付けられているため、サブネットS1とS2は両方のL3Outからアドバタ イズされません。

Security Policy

- SR-MPLS VRF L3Out 内で定義されている外部 EPG インスタンス プロファイルを使用して セキュリティ ポリシーを設定できます。外部 EPG インスタンス プロファイルには、1 つ 以上の SR-MPLS インフラ L3Out から SR-MPLS ネットワークを介して到達可能な IP プレ フィックスが含まれており、同じセキュリティ ポリシーが必要です。
- 外部 EPG インスタンス プロファイルで 0/0 プレフィックスを設定して、外部 EPG の一部 として、任意の外部 IP アドレスから発信された着信トラフィック フローを分類できます。
- 外部 EPG インスタンス プロファイルの外部 EPG を1つ以上の SR-MPLS VRF L3Out に関 連付けることができます。外部 EPG インスタンス プロファイルが複数の SR-MPLS イン フラ L3Out の外部にある場合、複数の SR-MPLS VRF L3Out は同じ外部 EPG インスタンス プロファイルを指します。
- ローカル EPG と外部 EPG インスタンス プロファイル間、または異なる VRF L3Out に関 連付けられた外部 EPG 間でコントラクトを設定する必要があります(中継ルーティング を有効にするため)。

MPLS スイッチングに関するガイドラインと制限事項

次に、MPLS QoS のデフォルトの動作を示します。

- ・サービスクラス (COS) の保持は、宛先ポートが MPLS ポートである ToR 内 MPLS 出力 QoS ポリシーではサポートされません。
- ・境界リーフスイッチ上のすべての受信 MPLS トラフィックは QoS レベル3(デフォルトの QoS レベル) に分類されます。

- 境界リーフスイッチは、再マーキングなしでSR-MPLSからのトラフィックの元のDSCP 値を保持します。
- ・境界リーフスイッチは、デフォルトのMPLSEXP(0)のパケットをSR-MPLSネットワークに転送します。

次に、MPLS カスタム QoS ポリシーを設定する際のガイドラインと制約事項を示します。

- ・データ プレーン ポリサー (DPP) は、SR-MPLS L3Out ではサポートされていません。
- ・レイヤ2DPPは、MPLSインターフェイスの入力方向で動作します。
- レイヤ2DPPは、出力カスタムMPLSQoSポリシーがない場合、MPLSインターフェイスの出力方向で動作します。
- VRF レベルのポリシングはサポートされていません。

SR-MPLS 統計情報のガイドラインと制約事項

次に、SR MPLS 統計情報のガイドラインと制限事項を示します。

- SR-MPLS 統計情報を表示するには、リーフスイッチで SR-MPLS 設定をイネーブルにするときに、ワンタイムステートフル リロードを実行する必要があります。
- SR-MPLS インターフェイスの統計情報は、スイッチ名の末尾に「FX2」または「GX」が ある境界リーフ スイッチ モデルでのみサポートされます。
- SR-MPLS VRF 統計情報は、スイッチ名の末尾が「FX」、「FX2」、または「GX」である 境界リーフ スイッチ モデルでサポートされます。
- 15分間の履歴統計の場合、15分の間隔データを更新するのに20分かかることがあります。

GUI を使用した SR-MPLS インフラ L30ut の設定

- SR-MPLS インフラ L3Out は、境界リーフスイッチで設定され、SR-MPLS ハンドオフに必要なアンダーレイ BGP-LUおよびオーバーレイ MP-BGP EVPN セッションを設定するために使用されます。
- •SR-MPLSインフラL3Outは、ポッドまたはリモートリーフスイッチサイトにスコープされます。
- ・ポッドまたはリモートリーフスイッチサイトには、1 つ以上の SR-MPLS インフラ L3Out を設定できます。

SR-MPLS インフラ L3Out を設定する場合は、次の項目を設定します。

・ノード

- リーフスイッチのみがSR-MPLSインフラL3Outのノードとして設定できます(境界 リーフスイッチおよびリモートリーフスイッチ)。
- 各 SR-MPLS インフラ L3Out は、1 つのポッドからの境界リーフ スイッチまたは同じ サイトからのリモート リーフ スイッチを持つことができます。
- 各境界リーフスイッチまたはリモートリーフスイッチは、複数のSR-MPLSドメインに接続する場合、複数のSR-MPLSインフラL3Outで設定できます。
- また、ノードの下にループバックインターフェイスを設定し、ループバックインター フェイスの下にノード SID ポリシーを設定します。

・インターフェイス

- サポートされるインターフェイスのタイプは次のとおりです。
 - •ルーテッドインターフェイスまたはサブインターフェイス
 - ・ルーテッド ポートチャネルまたはポートチャネル サブインターフェイス

サブインターフェイスでは、任意の VLAN タグがサポートされます。

- また、SR-MPLS infra L3Outのインターフェイスエリアの下にアンダーレイ BGP ピア ポリシーを設定します。
- ・QoS ルール
 - MPLS 入力ルールと MPLS 出力ルールは、SR-MPLS インフラ L3Out の MPLS QoS ポ リシーを使用して設定できます。
 - MPLS QoS ポリシーを作成しない場合、入力 MPLS トラフィックにはデフォルトの QoS レベルが割り当てられます。
- また、SR-MPLS インフラ L3Out を使用してアンダーレイとオーバーレイを設定します。
 - •アンダーレイ:インターフェイス設定の一部としてのBGPピアIP(BGPLUおよびIPv4 ピア)設定。
 - •オーバーレイ:論理ノードプロファイル設定の一部としてのMP-BGP EVPN リモート IPv4 アドレス (MP-BGP EVPN ピア)設定。

始める前に

- 注意事項と制約事項(197ページ)で提供されている SR-MPLS ガイドラインと制約事項 を確認します。特に、SR-MPLSインフラL3Outのガイドラインと制約事項(198ページ) で提供されているガイドラインと制約事項を確認してください。
- ・に示す手順を使用して、MPLS カスタム QoS ポリシーを設定します。 GUI を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシーの作成 (216ページ)

手順

- ステップ1 [テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]>[ネットワーキング (Networking)]>[SR-MPLS Infra L3Outs] に移動します。
- ステップ2 [SR-MPLS Infra L3Outs] を右クリックし、[SR-MPLS インフラ L3Out の作成(Create SR-MPLS Infra L3Out)]を選択します。

[接続(Connectivity)] ウィンドウが表示されます。

2 Add Add Add Add Add Add Add Add Add Ad	reate SR-MPLS Infra L3Out					•
Connectivity Sherk's Intra Layer's outside (L3out) is required to configure SR/MPL's handoff from ACI. SR-MPL's Intra L3out configures following important components of ACI to andore: SPE VEPN session from ACI Border Leaf (BL) to remote BGP peer - ACI BL can advertise SR/MPL's labels for multiple VRFs using a single BGP session. BGP EVPN session if formed between VEPN loopbacks of BL and DC Provider Edge (DC-PE) router. By doing so removes the need for per VRF sub-interface and routing proteins formed between VEPN loopbacks of the ACI BL and DC Provider Edge (DC-PE) rom BL. BCP-U butween ACI BL and router is used to advertise SR/MPL's labels for multiple BGP EVPN session and enconfigured on each BL. BCP-LU and IP4 address family - To provide reachability to toruter (DC-PE) rom BL. BCP-U butween ACI BL and router is used to advertise SR/MPL's labels for convergence. Multiple BGP EVPN session and enconfigured naces BL. Description ID4 CO BL and router BGP-IP4 address family between ACI BL and router is used to provide reachability between BGC EVPN control place. Put on the ACI BL and router BGP-IP4 address family between ACI BL and router is used to provide reachability between BGC EVPN control place. Put on the ACI BL and router BGP-IP4 address family between ACI BL and router is used to provide reachability between BGC EVPN control place. Put on the Rode, Bort, functional profile, AEP, and Layer 3 domain: Nmm:					1. Connectivity	2. Nodes And Interfaces
Connectivity Sh-MPLS Infra Layer3 outside (L3out) is required to configure SR/MPLS handoff from ACI. SR-MPLS Infra L3out configures following important components of ACI to handor: BGP EVPN session from ACI Border Leaf (BL) to remote BGP peer - ACI BL can advertise SR/MPLS labels for multiple VRFs using a single BGP session. BGP EVPN session from BL to DC-PE. We recommend enability for outer (DC-PE) from BL. BGP-LU Detween ACI BL and router is used to provide reachability to router (DC-PE) from BL. BGP-LU Detween ACI BL and router is used to advertise SR/MPLS labels for fransport loopback of the ACI BL and router BGP-IPVA address family between ACI BL and router is used to provide reachability to router (DC-PE) from BL. BGP-LU Detween ACI BL and router is used to advertise SR/MPLS labels for fraster compared. BLPS custom QOS policy to the ingress and egress SR/MPLS QOS for the SR-MPLS handoff. MPLS Custom QOS policy to the ingress and egress SR/MPLS QOS for the SR-MPLS handoff. BGP-EVPN Connectivity BFD Multihop Policy: select an option						
SR-MPLS Infra Layer3 outside (L3out) is required to configure SR/MPLS handoff from ACI. SR-MPLS Infra L3out configures following important components of ACI to handoff: SGP EVPN session from ACI Border Laef (BL) to remote BGP peer - ACI BL can advertise SR/MPLS labels for multiple VRFs using a single BGP session. BG PEVPN session from BL to DC-PE. We recommend enabiling Multi-hop BFD for faster convergence. Multiple BGP EVPN session can be configured on each BL. BGP-LU and IPV4 address family - To provide reachability to router (DC-PE) from BL BGP-LUD between ACI BL and router is used to advertise SR/MPLS labels for multiple VRFs using a single BGP EVPN session (advertise SR/MPLS BDP for faster convergence. Multiple BGP EVPN session can be configured on each BL. BGP-LU and IPV4 address family between ACI BL and router is used to provide reachability to router (DC-PE) from BL BGP-LUD between ACI BL and router is used to advertise SR/MPLS babels for faster convergence. AINLS custom QOS policy to the ingress and egress SR/MPLS QOS for the SR-MPLS handoff. Prequisites: O a configure the node, port, functional profile, AEP, and Layer 3 domain. Name: user 3 Domain: select an option	Connectivity					
 BGP EVPN session from ACI Border Leaf (BL) to remote BGP peer - ACI BL can advertise SR/MPLS labels for multiple VRFs using a single BGP session. BGP EVPN session is formed between EVPN loopbacks of BL and DC Provider Edge (DC-PE) router. By doing so removes the need for per VRF sub-interface and routing prote session from BL to DC-PE. We recommend enabling Multi-hop BFD for faster convergence. Multiple BGP EVPN session can be configured on each BL. BGP-LU and IPv4 address family - To provide reachability to router (DC-PE) from BL. BGP-LU between ACI BL and router is used to advertise SR/MPLS labels for transport loopback of the ACI BL and router BGP-IPv4 address family between ACI BL and router is used to provide reachability between BG EVPN control plane loopbacks. We recommend enabling Single-hop BFD for faster convergence. MPLS custom QOS policy to the ingress and egress SR/MPLS QOS for the SR-MPLS handoff. Prerequisites: Configure the node, port, functional profile, AEP, and Layer 3 domain. Name: Layer 3 Domain: select an option	SR-MPLS Infra Layer3 outside (L3out) is requir handoff:	d to configure SR/MPLS ha	ndoff from ACI. SR-M	IPLS Infra L3out configu	ures following importan	t components of ACI to SR
Name: Layer 3 Domain: select an option Pod: select an option Pod: MPLS Custom QoS Policy: select an option BGP-EVPN Connectivity BFD Multihop Policy: select a value BGP-EVPN Remote IPv4 Address Remote ASN TIL 2 address 0	 BGP EVPN session from ACI Border Leaf (BL session is formed between EVPN loopbacks session from BL to DC-PE. We recommend the BGP-LU and IPV4 address family - To provid transport loopback of the ACI BL and router loopbacks. We recommend enabling Single MPLS custom QOS policy to the ingress and Prerequisites: Configure the node, port, functional profile 	to remote BGP peer - ACI of BL and DC Provider Edge nabling Multi-hop BFD for fr reachability to router (DC- IGP-IPv4 address family be op BFD for faster converge egress SR/MPLS QOS for th AEP, and Layer 3 domain.	BL can advertise SR/I (DC-PE) router. By d aster convergence. Mr PE) from BL. BGP-LU tween ACI BL and rou ince. Ine SR-MPLS handoff.	MPLS labels for multiple oing so removes the ne ultiple BGP EVPN sessic between ACI BL and rc iter is used to provide n	e VRFs using a single B eed for per VRF sub-int on can be configured or outer is used to advertit eachability between B0	GP session. BGP EVPN erface and routing protoco n each BL. se SR/MPLS labels for 3℃EVPN control plane
Pod: select an option BGP-EVPN Connectivity BFD Multihop Policy: select a value BGP-EVPN Remote IPv4 Address Remote ASN TTL 2 address •	Name:	 Layer 3 Domai 	1: select an option			
BGP-EVPN Connectivity BFD Multihop Policy: select a value BGP-EVPN Remote IPv4 Address Remote ASN TTL 2 0 0 +	Pod: select an option	V MPLS Custom QoS Polic	select an option	×		
	BGP-EVPN Connectivity BFD Multihop Policy: select a value BGP-EVPN Remote IPV4 Address address	N TTL 2	<u></u>			

ステップ3 [接続(Connectivity)] ウィンドウで、必要な情報を入力します。

a) [名前 (Name)] フィールドに、SR-MPLS Infra L3Out の名前を入力します。

これは外部への接続を制御するポリシーに付ける名前です。名前では最大64文字までの 英数字を使用できます。

(注) オブジェクトの作成後は、この名前は変更できません。

- b) [レイヤ3ドメイン(Layer 3 Domain)]フィールドで、既存のレイヤ3ドメインを選択するか、[L3ドメインの作成(Create L3 Domain)]を選択して新しいレイヤ3ドメインを 作成します。
- c) マルチポッド設定がある場合は、[ポッド(Pod)]フィールドでポッドを選択します。
 マルチポッド設定がない場合は、選択をポッド1のままにします。

d) (任意) [MPLS カスタム QoS ポリシー (MPLS Custom QoS Policy)] フィールドで、既存の QoS ポリシーを選択するか、[MPLS カスタム QoS ポリシーの作成 (Create MPLS Custom QoS Policy)]を選択して新しい QoS ポリシーを作成します。

新しい QoS ポリシーの作成の詳細については、を参照してください。GUI を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシーの作成 (216 ページ)

カスタム QoS ポリシーを作成しない場合は、次のデフォルト値が割り当てられます。

- ・境界リーフスイッチ上のすべての着信 MPLS トラフィックは、QoS レベル 3 (デ フォルトの QoS レベル) に分類されます。
- ・境界リーフスイッチは次の処理を実行します。
 - ・再マーキングなしで SR-MPLS からのトラフィックの元の DSCP 値を保持します。
 - COS保存が有効な場合、テナントトラフィックの元のCOS値を使用してパケットをMPLSネットワークに転送します。
 - デフォルトの MPLS EXP 値(0)のパケットを SR-MPLS ネットワークに転送し ます。
- また、境界リーフスイッチは、SRネットワークへの転送中に、アプリケーション サーバから着信するテナントトラフィックの元のDSCP値を変更しません。
- e) [BGP-EVPN 接続(BGP-EVPN Connectivity)]領域に移動します。
- f) (任意) [BFD マルチホップ ポリシー (BFD Multihop Policy)] フィールドで、既存の
 BFD マルチホップ ポリシーを選択するか、[BFD マルチホップ ノード ポリシーの作成
 (Create BFD Multihop Node Policy)]を選択して新しいポリシーを作成します。

境界リーフスイッチから DC-PE への MP-BGP EVPN マルチホップ セッションがある場 合、BFD マルチホップ ポリシー オプションを有効にすると、BGP セッションは通常の BGP タイマーに依存しません。代わりに、BFD タイマーに基づいて、より速く終了しま す。詳細については、「BGP EVPN セッションのマルチホップ BFD (186ページ)」を 参照してください。

g) [BGP-EVPN リモート IPv4 アドレス(BGP-EVPN Remote IPv4 Address)] フィールドに、 MP-BGP EVPN リモート IPv4 アドレスを入力します。

この BGP ピア IP アドレスは、オーバーレイ設定の一部です。これは、DC-PE のループ バック アドレスです(リモート DC-PE ごとに1エントリ)。

h) [リモート ASN (Remote ASN)]フィールドに、DC-PE のネイバー自律システムを一意 に識別する番号を入力します。

自律システム番号は、1~4294967295のプレーン形式で4バイトにすることができます。

- (注) ACI は asdot または asdot + 形式の AS 番号をサポートしていません。asdot または asdot + 形式の AS 番号の詳細については、『Explaining 4-Byte Autonomous System (AS) ASPLAIN and ASDOT Notation for Cisco IOS』を参照してください。https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/ios-nx-os-software/border-gateway-protocol-bgp/white_paper_c11_516829.html
- i) [TTL] フィールドに、接続存続可能時間(TTL)を入力します。

有効な範囲は1~255ホップです。

j) [次へ (Next)] をクリックします。

[**ノードとインターフェイス**(Nodes and Interfaces)] ウィンドウが表示されます。

Create SR-MPL	_S Infra L3Out					28
					1. Connectivity	2. Nodes And Interfaces
Nodes and Inter	rfaces					
Select the Border interface can be o BGP-LU peer is c	r leaf (BL) switches for the S configured for each BL, and configured. Single hop BFD	R-MPLS configuration. Con for each interface of BL, BC can be enabled for each BG	figure BGP EVPN control p BP labeled unicast (BGP-LL P-LU and IPv4 address fan	lane loopback, router J) peer is configured. nily session.	id and transport loo BGP IPv4 address fa	oback for each BL. Multiple mily is automatically enabled once
Node Profile Name:	example_nodeProfile					
Interface Profile Name:	example_interfaceProfile					ar and a second s
BFD Interface Policy:	select a value	~				
Transport Data Plane:	MPLS SR-MPLS					
Interface Types Layer 3: Layer 2:	Interface Sub-Interface Port Direct Port Channel					
Nodes						
Node ID select an option	Router ID	BGP-EVPN Loopback	MPLS Transport Loopback	Segment ID (SID) Index]• + Hide	Interfaces
Interface Select a port	VLAN Encep MT	U (bytes) IPv4 Address 00 BGP-Label Unicast Source address/mask	Peer IPv4 Address	Remote ASN	•	
					Previous	Cancel Finish

- **ステップ4**[ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]ウィンドウで、境界リーフノードとイン ターフェイスを設定するために必要な情報を入力します。
 - a) [ノードプロファイル名 (Node Profile Name)]フィールドと[インターフェイスプロファ イル名 (Interface Profile Name)]フィールドで、ノードプロファイル名とインターフェ イス プロファイル名にデフォルトの命名規則を使用するかどうかを決定します。

デフォルトのノードプロファイル名は L3Out-name _nodeProfile で、デフォルトのイン ターフェイスプロファイル名は [L3Out-name_interfaceProfile] です。[L3Out-name] は、[接続 (Connectivity)]ページの[名前 (Name)] フィールドに入力した名前です。必要に応じて、これらのフィールドのプロファイル名を変更します。

- b) (任意) [BFD インターフェイス ポリシー (BFD Interface Policy)] フィールドで、既存のBFD インターフェイス ポリシーを選択するか、[BFD インターフェイス ポリシーの作成 (Create BFD Interface Policy)]を選択して新しい BFD インターフェイス ポリシーを作成します。
- c) [データ プレーンのトランスポート (Transport Data Plane)]フィールドで、Cisco ACI境 界リーフスイッチのハンドオフに使用するルーティングのタイプを決定します。

次のオプションがあります。

- •[MPLS]:トランスポートデバイスへのハンドオフにマルチプロトコルラベルスイッ チング(MPLS)を使用するには、このオプションを選択します。
- [SR-MPLS]: トランスポートデバイスへのハンドオフにセグメント ルーティング (SR) マルチプロトコルラベルスイッチング(MPLS)を使用するには、このオプ ションを選択します。
- d) [インターフェイスタイプ(Interface Types)]領域で、[レイヤ3(Layer 3)]および[レ イヤ2(Layer 2)]フィールドで必要な選択を行います。

次のオプションがあります。

- ・レイヤ3:
 - インターフェイス:境界リーフスイッチを外部ルータに接続するためのレイヤ 3インターフェイスを設定するには、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、レイヤ3インターフェイスは、このページの[レ イヤ2(Layer2)]フィールドで選択した特定のオプションに応じて、物理ポー トまたは直接ポートチャネルのいずれかになります。

・サブインターフェイス:境界リーフスイッチを外部ルータに接続するようにレイヤ3サブインターフェイスを設定するには、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、このページの[レイヤ2(Layer 2)]フィールド で選択した特定のオプションに応じて、物理ポートまたはダイレクト ポート チャネルのいずれかに対して、レイヤ3サブインターフェイスが作成されます。

・レイヤ2:

•[ポート (Port)]

・ダイレクトポートチャネル(Direct Port Channel)

e) [**ノードID**(Node ID)]フィールドのドロップダウンメニューで、L3Out のリーフス イッチ、またはノードを選択します。

マルチポッド設定の場合、前の画面で選択したポッドの一部であるリーフスイッチ(ノード)のみが表示されます。

ルータ ID の設定方法を説明する警告メッセージが画面に表示される場合があります。

- このノードのルータIDがまだ設定されていない場合は、に進み、このノードのルータIDを設定する手順を参照してください。4.f (210ページ)
- このノードにルータ ID がすでに設定されている場合(たとえば、以前に MP-BGP ルートリフレクタを設定していた場合)、次のオプションがあります。
 - SR-MPLS 設定に同じルータ ID を使用します。これは推奨オプションです。この場合、次の手順で使用するためにこの警告に表示されるルータ ID をメモし、このノードのルータ ID の設定手順を参照してください。4.f (210ページ)
 - SR-MPLS 設定に別のルータ ID を使用します。この状況では、次の手順でルータ IDを入力する前に、既存のアプリケーションへのトラフィックの中断を回避するために、最初にノードをアクティブパスから外す必要があります。アクティブパスからノードを削除するには、次の手順を実行します。
 - 1. ノードをメンテナンスモードにします。
 - 2. の説明に従って、SR-MPLS 設定に別のルータ ID を入力します。4.f (210 ページ)
 - 3. ノードをリロードします。
- f) [ルータ ID (Router ID)] フィールドに、Infra L3Out の境界リーフスイッチ部分の一意の ルータ ID (IPv4 または IPv6 アドレス)を入力します。

ルータ IDは、すべての境界リーフ スイッチと DC-PE で一意である必要があります。

で説明したように、ルータIDがこのノードですでに設定されている場合、いくつかのオ プションがあります。4.e (209ページ)

- SR-MPLS 設定に同じルータ ID を使用する場合は、の警告メッセージに表示された ルータ ID を入力します。4.e (209 ページ)
- SR-MPLS 設定に同じルータ ID を使用しない場合、またはルータ ID がまだ設定されていない場合は、の境界リーフスイッチ部分の IP アドレス(IPv4 または IPv6)をこのフィールドに入力します。一意のルータ ID である必要があることに注意してください。

ルータ ID のエントリを決定すると、[BGP-EVPN ループバック(BGP-EVPN Loopback)] フィールドと [MPLS トランスポート ループバック(MPLS Transport Loopback)] フィー ルドのエントリに、[ルータ ID(Router ID)] フィールドに入力したエントリが自動的に 入力されます。

g) (任意) 必要に応じて、[N ループバック (BGP-EVPN Loopback)] フィールドに IP ア ドレスを入力します。

BGP-EVPN セッションの場合、BGP-EVPN ループバックがコントロール プレーン セッ ションに使用されます。このフィールドを使用して、境界リーフスイッチの EVPN ルー プバックと DC-PE 間の MP-BGP EVPN セッションを設定し、オーバーレイ プレフィッ クスをアドバタイズします。MP-BGP EVPN セッションは、BP-EVPN ループバックと BGP-EVPN リモートピアアドレス([接続 (Connectivity)]ウィンドウの[BGP-EVPN リ モート IPv4 アドレス (BGP-EVPN Remote IPv4 Address)]フィールドで設定)の間で確 立されます。

[BP-EVPN ループバック(BGP-EVPN Loopback)] フィールドには、[ルータ ID (Router ID)] フィールドに入力したものと同じエントリが自動的に入力されます。BGP-EVPN ループバック アドレスとしてルータ ID を使用しない場合は、BGP-EVPN ループバック アドレスに別の IP アドレスを入力します。

次の点に注意してください。

- BGP-EVPN セッションでは、[BGP-EVPN ループバック(BGP-EVPN Loopback)]
 フィールドに、[ルータ ID (Router ID)] フィールドに入力した IP アドレスとは異なる IP アドレスを使用することを推奨します。
- BGP-EVPN ループバックと MPLS トランスポート ループバックに異なる IP アドレスを使用できますが、ACI境界リーフスイッチの BGP-EVPN と MPLS トランスポートループバックに同じループバックを使用することを推奨します。
- h) [MPLS トランスポートループバック (MPLS Transport Loopback)]フィールドに、MPLS トランスポート ループバックのアドレスを入力します。

MPLS トランスポート ループバックは、ACI 境界リーフ スイッチと DC-PE 間のデータ プレーンセッションを構築するために使用されます。MPLS トランスポート ループバッ クは、境界リーフ スイッチから DC-PE ルータにアドバタイズされるプレフィックスの ネクスト ホップになります。詳細については、「ACI 境界リーフ スイッチと DC-PE 間 の MP-BGP EVPN セッション(184ページ)」を参照してください。

次の点に注意してください。

- BGP-EVPN セッションでは、[MPLSトランスポートループバック (MPLS Transport Loopback)]フィールドに、[ルータ ID (Router ID)]フィールドに入力した IP アド レスとは異なる IP アドレスを使用することを推奨します。
- BGP-EVPN ループバックと MPLS トランスポート ループバックに異なる IP アドレスを使用できますが、ACI境界リーフスイッチの BGP-EVPN と MPLS トランスポートループバックに同じループバックを使用することを推奨します。
- i) [セグメントID (SID) インデックス (Segment ID (SID) Index)]フィールドに、SIDイ ンデックスを入力します。

SID インデックスは、MPLS トランスポートループバックの各ノードで設定されます。 SID インデックス値は BGP-LU を使用してピア ルータにアドバタイズされ、ピア ルータ は SID インデックスを使用してローカル ラベルを計算します。

SID インデックス エントリでサポートされる値は0~4294967295 です。SID インデック スは、セグメント ルーティング ドメイン全体で一意である必要があります。

j) 上記の[レイヤ2(Layer 2)]領域で[ポート(Port)]を選択した場合は、[インターフェ イス(Interface)]フィールドが表示されます。ドロップダウンリストから[ポート(Port)] を選択します。

- k) 上記の[レイヤ2(Layer 2)]領域で[ダイレクトポートチャネル(Direct Port Channel)] を選択した場合は、[PCパス(PC Paths)]フィールドが表示されます。ドロップダウン リストからポートチャネルを選択します。これは、インターフェイスプロファイルの ポートチャネルエンドポイントへのパスです。
- 上記の[レイヤ3 (Layer 3)]領域で[サブインターフェイス (Sub-Interface)]を選択した場合は、[VLAN Encap]フィールドが表示されます。レイヤ3外部プロファイルに使用されるカプセル化を入力します。
- m) [MTU (bytes)] フィールドで、外部ネットワークの最大転送単位を入力します。

このフィールドの許容値は 576 ~ 9216 です。値を継承するには、このフィールドに inherit を入力します。

n) [IPv4 アドレス (IPv4 Address)] フィールドに、BGP-Label ユニキャスト送信元の IP ア ドレスを入力します。

これは、前の手順で設定したレイヤ3インターフェイス/サブインターフェイス/ポート チャネルに割り当てられた IP アドレスです。

o) [IPv4 アドレス (IPv4 Address)] フィールドに、BGP-Label ユニキャスト ピア IP アドレ スを入力します。

これは、境界リーフスイッチに直接接続されているルータのインターフェイスのIPアドレスです。

- p) [リモート ASN (Remote ASN)] フィールドに、直接接続されたルータの BGP-Label Autonomous System Number を入力します。
- q) SR-MPLS infra L3Outのこのノードに追加のインターフェイスを設定するかどうかを決定 します。
 - このSR-MPLS infra L3Outのこのノードに追加のインターフェイスを設定しない場合は、に進みます。4.s (213ページ)
 - この SR-MPLS infra L3Out のこのノードに追加のインターフェイスを設定する場合 は、[インターフェイス (Interface)]領域で[+]をクリックして、このノードの別の インターフェイスに同じオプションを表示します。
 - (注) このノードのインターフェイスに入力した情報を削除する場合、または 誤って追加したインターフェイス行を削除する場合は、削除するインター フェイス行のごみ箱アイコンをクリックします。
- r) この SR-MPLS infra L3Out に追加のノードを設定するかどうかを決定します。
 - このSR-MPLS infra L3Out の追加ノードを設定しない場合は、に進みます。4.s (213 ページ)
 - この SR-MPLS infra L3Out に追加のノードを設定する場合は、[ノード(Nodes)]領域で[+]をクリックして、別のノードに同じオプションを表示します。

- (注) ノードに入力した情報を削除する場合、または誤って追加したノード行を削除する場合は、削除するノード行のごみ箱アイコンをクリックします。
- s) [ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]ウィンドウに残りの追加情報を入力したら、[完了(Finish)]をクリックして、[SR-MPLS インフラ L3Out の作成(Create SR-MPLS Infra L3Out)]ウィザードで必要な設定を完了します。

次のタスク

の手順に従って、SR-MPLS VRF L3Out を設定します。GUI を使用した SR-MPLS VRF L3Out の 設定 (213 ページ)

GUI を使用した SR-MPLS VRF L3Out の設定

この項の手順を使用して、SR-MPLS VRF L3Out を設定します。これは、前の手順で設定した SR-MPLS インフラ L3Out からのトラフィックの転送に使用されます。

- ユーザテナント VRF は SR-MPLS インフラ L3Out にマッピングされ、テナント ブリッジ ドメイン サブネットを DC-PE ルータにアドバタイズし、DC-PE から受信した MPLS VPN ルートをインポートします。
- 各 VRF の SR-MPLS VRF L3Out でルーティング ポリシーとセキュリティ ポリシーを指定 する必要があります。これらのポリシーは、1 つ以上の SR-MPLS インフラ L3Out をポイ ントします。
- VRF ごとに 1 つの SR-MPLS VRF L3Out がサポートされます。

始める前に

- 注意事項と制約事項(197ページ)で提供されている SR-MPLS ガイドラインと制約事項 を確認します。特に、SR-MPLS VRF L3Outのガイドラインと制約事項(198ページ)で 提供されているガイドラインと制約事項を確認してください。
- GUIを使用したSR-MPLSインフラL3Outの設定(204ページ)の手順に従って、SR-MPLS インフラL3Outを設定します。

手順

ステップ1 テナントの [SR-MPLS VRF L3Out の作成 (Create SR-MPLS VRF L3Out)]ウィンドウ ([テナント (Tenants)][テナント (tenant)][ネットワーキング (Networking)][SR-MPLS VRF L3Outs]) に移動して SR-MPLS VRF L3Out を設定します。 > > >

ステップ2 [SR-MPLS VRF L3Outs]を右クリックし、[SR-MPLS VRF L3Out の作成(Create SR-MPLS VRF L3Out)]を選択します。

[SR-MPLS VRF L3Out の作成(Create SR-MPLS VRF L3Out)] ウィンドウが表示されます。

```
図 25: SR-MPLS L30ut の作成
```

	Name:	•	
	VRF: select an option	\sim \bullet	
SR-MP	LS Infra L3Out: select an option		
Externa	al EPGs		
	5-4		
	External EPG Name:	- Ulido Subnote and Contracte	
	Subnets and Contracts		
	IP Prefix:	Inter VRF Policy:	
		Route Leaking	
	address/mask	Security	
	Provided Contract:	Consumed Contract:	
	select a value	✓ select a value	
		N	
		~	
(oute N	Vaps	-	
	Outbound: select an op	ion V O	
	Inbound: select an op	ion 🗸	

- ステップ3 [名前(Name)]フィールドに、SR-MPLS VRF L3Out の名前を入力します。 これは外部への接続を制御するポリシーに付ける名前です。名前では最大 64 文字までの英数 字を使用できます。
 - (注) オブジェクトの作成後は、この名前は変更できません。
- **ステップ4** [VRF] フィールドで、既存の VRF を選択するか、[VRF の作成(Create VRF)]をクリックして 新しい VRF を作成します。
- ステップ5 [SR-MPLS Infra L3Out] フィールドで、既存の SR-MPLS infra L3Out を選択するか、[SR-MPLS Infra L3Out の作成 (Create SR-MPLS Infra L3Out)]をクリックして新しい SR-MPLS infra L3Out を作成します。

SR-MPLS インフラ L3Out の作成の詳細については、を参照してください。GUI を使用した SR-MPLS インフラ L3Out の設定 (204 ページ)

- ステップ6 [外部 EPG (External EPGs)]領域に移動し、[外部 EPG 名 (External EPG Name)]領域で、この SR-MPLS VRF L3Out に使用する外部 EPG の一意の名前を入力します。
- **ステップ7** [サブネットとコントラクト (Subnets and Contracts)]領域に移動し、このEPG内の個々のサブ ネットを設定します。
 - (注) サブネットフィールドを設定しても、次のフィールドが表示されない場合は、[サ ブネットとコントラクトの表示 (Show Subnets and Contracts)]をクリックして次の フィールドを表示します。
 - a) [IP プレフィックス (IP Prefix)] フィールドに、サブネットの IP アドレスとネットマスク を入力します。
 - b) [インフラ VRF ポリシー (Inter VRF Policy)]フィールドで、VRF 間ポリシーを設定するか どうかを決定します。
 - VRF 間ポリシーを設定しない場合は、に進みます。7.c (215 ページ)
 - VRF 間ポリシーを設定する場合は、使用する適切な VRF 間ポリシーを選択します。 次のオプションがあります。
 - ・[ルート リーク(Route Leaking)]

[ルートリーク (Route Leaking)]を選択すると、[集約 (Aggregate)]フィールド が表示されます。このオプションも有効にする場合は、[集約 (Aggregate)]の横 にあるボックスをクリックします。

・セキュリティ。

[インター VRF ポリシー(Inter VRF Policy)]フィールドでは、上記の2つのオプションのいずれかまたは両方を選択できます。

- c) [提供されたコントラクト(Provided Contract)]フィールドで、既存のプロバイダー契約を 選択するか、[コントラクトの作成(Create Contract)]をクリックしてプロバイダ契約を作 成します。
- d) [消費されたコントラクト (Consumed Contract)]フィールドで、既存のコンシューマコン トラクトを選択するか、[コントラクトの作成 (Create Contract)]をクリックしてコンシュー マコントラクトを作成します。
- e) この外部 EPG に追加のサブネットを設定するかどうかを決定します。
 - この外部 EPG に追加のサブネットを設定しない場合は、に進みます。ステップ8(216ページ)
 - この外部 EPG に追加のサブネットを設定する場合は、[サブネットとコントラクト (Subnet and Contracts)]領域で[+]をクリックして、別のサブネットに同じオプションを表示します。
 - (注) サブネットに入力した情報を削除する場合、または誤って追加したサブ ネット行を削除する場合は、削除するサブネット行のゴミ箱アイコンをク リックします。

- **ステップ8** この SR-MPLS VRF L3Out に使用する追加の外部 EPG を作成するかどうかを決定します。
 - この SR-MPLS VRF L3Out に使用する追加の外部 EPG を設定しない場合は、に進みます。
 ステップ9 (216 ページ)
 - この SR-MPLS VRF L3Out に使用する追加の外部 EPG を設定する場合は、[外部 EPG 名 (External EPG Name)]領域で[+]をクリックして、別の外部 EPG に対して同じオプショ ンを表示します。
 - (注) 外部 EPG に入力した情報を削除する場合、または誤って追加した外部 EPG エ リアを削除する場合は、削除する外部 EPG エリアのゴミ箱アイコンをクリッ クします。
- **ステップ9** [ルート マップ(External EPG Name)]領域で、発信および着信ルート マップを設定します。 各 SR-MPLS VRF L3Out 内:
 - アウトバウンドルートマップ(エクスポートルーティングポリシー)の定義は必須です。これは、外部 DC-PE ルータにプレフィックスをアドバタイズできるようにするために必要です。
 - デフォルトでは、DC-PEルータから受信したすべてのプレフィックスがファブリックに許可されるため、インバウンドルートマップ(インポートルーティングポリシー)の定義はオプションです。
 - a) [アウトバウンド(Outbound)]フィールドで、既存のエクスポートルートマップを選択す るか、[ルート制御用ルートマップの作成(Create Route Maps for Route Control)]をクリッ クして新しいエクスポートルートマップを作成します。
 - b) [インバウンド (Inbound)]フィールドで、既存のインポートルートマップを選択するか、 [ルート制御用ルートマップの作成 (Create Route Maps for Route Control)]をクリックして 新しいインポートルートマップを作成します。
- **ステップ10** [SR-MPLS VRF L3Out の作成(Create SR-MPLS VRF L3Out)]ウィンドウでの設定が完了したら、[送信(Submit)]をクリックします。

GUI を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシーの作成

SR MPLS カスタム QoS ポリシーは、MPLS QoS 出力 ポリシーで定義された着信 MPLS EXP 値 に基づいて、SR-MPLS ネットワークから送信されるパケットのプライオリティを定義します。 これらのパケットは、ACI ファブリック内にあります。また、MPLS QoS 出力ポリシーで定義 された IPv4 DSCP 値に基づく MPLS インターフェイスを介して ACI ファブリックから離れる パケットの CoS 値および MPLS EXP 値をマーキングします。

カスタム出力ポリシーが定義されていない場合、デフォルトのQosレベル(Level3)がファブ リック内のパケットに割り当てられます。カスタム出力ポリシーが定義されていない場合、デ フォルトの EXP 値(0)がファブリックから離れるパケットにマーキングされます。 手順

- ステップ1 メニュー バーから [Tenants(テナント)] > [インフラ(infra)] を選択します。
- ステップ2 左側のペインで、[インフラ (infra)][ポリシー (Policies)][プロトコル (Protocol)][MPLS カスタム QoS (MPLS Custom QoS)]を選択します。>>>
- **ステップ3** [MPLS カスタム QoS (MPLS Custom QoS)] フォルダを右クリックし、[MPLS カスタム QoS ポリシーの作成 (Create MPLS Custom QoS Policy)]を選択します。
- ステップ4 表示される [MPLS カスタム QoS ポリシーの作成(Create MPLS Custom QoS Policy)] ウィンド ウで、作成するポリシーの名前と説明を入力します。

Create MPLS C	ustom QOS	Policy				28
Name:	1					-
Description:	optional					- 1
MPLS IngressRule:						+
	Priority	EXP Range From	EXP Range To	Target DSCP	Target CoS	
MPLS ForessRule						
a sea a sea a sea	DSCP Range From	DSCP Range To	Target F)	(P	Target CoS	+
				C	ancel	

ステップ5 [**MPLS 入力ルール**(**MPLS Ingress Rule**)]領域で、[+]をクリックして入力 QoS 変換ルールを 追加します。

> MPLS ネットワークに接続されている境界リーフ (BL) に着信するすべてのトラフィックは、 MPLS EXP 値に対してチェックされ、一致が検出されると、トラフィックは ACI QoS レベルに 分類され、適切な CoS および DSCP 値でマークされます。

Create MPLS C	ustom Q	OS Policy				?×
Name:	mpls-qos1					-
Description:	optional					- 1
MPLS IngressRule:						+
	Priority	EXP Range From	EXP Range To	Target DSCP	Target CoS	
	Unspecified	✓ Unspecified	Unspecified	 Unspecified 	Unspecified	\sim
			Update	Cancel		

a) [優先順位(Priority)]フィールドで、入力ルールの優先順位を選択します。

これは、ACIファブリック内のトラフィックに割り当てる QoS レベルで、ACI はファブ リック内のトラフィックのプライオリティを決めるために使用します。オプションの範囲 はLevel1 ~ Level6 です。デフォルト値は Level3 です。このフィールドで選択しない場合、 トラフィックには自動的に Level3 の優先順位が割り当てられます。

- b) [EXP 範囲開始(EXP Range From)]と[EXP 範囲終了(EXP Range To)]フィールドで、 照合する入力 MPLS パケットの EXP 範囲を指定します。
- c) [ターゲット DSCP(Target DSCP)] フィールドで、パケットが ACI ファブリック内にあ る場合にパケットに割り当てる DSCP 値を選択します。

指定された DSCP 値は、外部ネットワークから受信した元のトラフィックに設定されるため、トラフィックが宛先 ACI リーフ ノードで VXLAN カプセル化解除された場合にのみ 再公開されます。

デフォルトは[未指定 (Unspecified)]です。つまり、パケットの元のDSCP値が保持されます。

d) [ターゲット CoS (Target CoS)]フィールドで、パケットが ACI ファブリック内にある場合にパケットに割り当てる CoS 値を選択します。

指定された CoS 値は、外部ネットワークから受信した元のトラフィックに設定されるため、トラフィックが宛先 ACI リーフ ノードで VXLAN カプセル化解除された場合にのみ 再公開されます。

デフォルトは [未指定 (Unspecified)]です。つまり、ファブリックで CoS 保存オプション が有効になっている場合にのみ、パケットの元の CoS 値が保持されます。

- e) [更新(Update)]をクリックして入力ルールを保存します。
- f) 追加の入力 QoS ポリシー ルールについて、この手順を繰り返します。
- **ステップ6** [**MPLS 出力ルール**(**MPLS Egress Rule**)]領域で、[+]をクリックして出力 QoS 変換ルールを 追加します。

トラフィックが境界リーフのMPLSインターフェイスから離れていくと、パケットのDSCP値に基づいて照合され、一致が見つかると、MPLSEXPおよびCoS値がポリシーに基づいて設定されます。

- a) [DSCP 範囲開始 (DSCP Range From)] と [DSCP 範囲終了 (DSCP Range To)] ドロップ ダウンを使用して、出力 MPLS パケットのプライオリティを割り当てるために一致させる ACI ファブリック パケットの DSCP 範囲を指定します。
- b) [ターゲット EXP(Target EXP)] ドロップダウンから、出力 MPLS パケットに割り当てる EXP 値を選択します。
- c) [ターゲット CoS (Target CoS)] ドロップダウンから、出力 MPLS パケットに割り当てる CoS 値を選択します。
- d) [更新(Update)]をクリックして入力ルールを保存します。
- e) 追加の出力 QoS ポリシー ルールについて、この手順を繰り返します。
- ステップ7 [OK] をクリックし、MPLS カスタム QoS の作成を完了します。

MPLS 統計情報の表示

次に、このトピックで説明する統計画面に表示するために選択できる MPLS 固有の統計情報を 示します。

- インターフェイスの SR-MPLS 統計情報の表示 (220ページ) で説明されているように、
 インターフェイス レベルでは、
- VRS 向け SR-MPLS 統計情報の表示(221ページ)で説明されているように、VRF レベルでは、

システム内のすべてのインターフェイスおよび VRF の統計情報を表示するには、次の場所に 移動します。

[テナント(Tenants)]>[インフラ(infra)]>[ネットワーキング(Networking)]>[SR-MPLS Infra L3Outs]

[SR-MPLS インフラ L3Outs(SR-MPLS Infra L3Outs)] パネルが表示され、システムで設定され ているすべての SR-MPLS infra L3Outs が表示されます。上位レベルの [SR-MPLS インフラ L3Out (SR-MPLS Infra L3Outs)]パネルで、表示する統計情報のタイプに応じて、適切な統計情報 ページに移動します。

 [インターフェイス統計情報(Interface Stats)]タブをクリックして、システム上のすべてのMPLSインターフェイスの統計情報の概要を表示します。このウィンドウの各行には、 特定のノード上の特定のインターフェイスのMPLS統計情報が表示されます。



(注) メインの SR-MPLS infra L3Outs ページに表示されるインターフェ イス統計情報は、スイッチ名の末尾に「FX2」または「GX」があ る境界リーフスイッチモデル上のすべての SR-MPLS 対応イン ターフェイスのみを対象としています。 他のレベルの MPLS インターフェイス統計情報を確認するには、インターフェイスの SR-MPLS 統計情報の表示 (220 ページ)を参照してください。

• [VRF 統計情報(VRF Stats)]タブをクリックして、システム上のすべての MPLS VRF の 統計情報の要約を表示します。このウィンドウの各行には、特定のノードに設定された特 定の VRF の MPLS 統計情報が表示されます。

SR-MPLS インフラ L3Out プロパティ ページで提供される VRF 統計情報は、SR-MPLS インフラ L3Out のプロバイダー ラベルが消費される特定の境界リーフスイッチまたはリモート リーフ スイッチの個々の VRF 統計情報です。

MPLS VRF統計情報のその他のレベルについては、VRS 向け SR-MPLS 統計情報の表示 (221 ページ)を参照してください。

インターフェイスの SR-MPLS 統計情報の表示

次に、このトピックで説明する統計画面に表示するために選択できる MPLS 固有のインター フェイス統計情報を示します。

- Mpls 出力ドロップ バイト
- Mpls 出力許可バイト
- Mpls 出力ドロップ パケット
- Mpls 出力許可パケット
- Mpls 受信ドロップ バイト
- Mpls Ingress Admit Bytes
- Mpls 受信ドロップ パケット
- Mpls 受信許可パケット

統計情報ページに表示される統計情報のタイプを変更するには、チェックボックスをクリック して[統計情報の選択(Select Stats)]ウィンドウを開きます。エントリを左コラムから右コラ ムに移動して別の統計情報を表示し、右コラムから左コラムへ移動してビューから特定の統計 情報を削除します。

このページの統計情報のレイアウトを変更して、統計情報を表形式で表示するには、3本の横 棒アイコンをクリックして [テーブル ビュー(Table View)]を選択します。

 SR-MPLS インフラ L3Out の SR-MPLS VRF L3Out 内のすべてのインターフェイスの詳細な 集約インターフェイス統計情報を表示するには、その SR-MPLS インフラ L3Out に移動し ます。

[テナント (Tenant)]>[インフラ (infra)]>[ネットワーキング (Networking)]> [SR-MPLS Infra L3Outs]>[SR-MPLS_infra_L3Out_name] 特定のSR-MPLSインフラL3Outの下にあるSR-MPLSVRFL3Outのすべてのインターフェイスの詳細な集約インターフェイス統計情報を表示するには、[統計情報(Stats)]タブを クリックします。

 特定のリーフスイッチの特定のインターフェイスの統計情報を表示するには、リーフス イッチのそのインターフェイス領域に移動します。

[Fabric Inventory Pod # leaf_switch Interfaces] をクリックし、[ルーテッドインターフェイス (Routed Interfaces)]または[カプセル化されたルーテッドインターフェイス (Encapsulated Routed Interfaces)]をクリックします。>>>>

統計情報を取得する特定のインターフェイスをクリックし、[統計情報(Stats)]タブをクリックします。

VRS 向け SR-MPLS 統計情報の表示

次に、このトピックで説明する統計画面に表示するために選択できる MPLS 固有の VRF 統計 情報を示します。

- Mpls Vrf 出力ドロップ バイト
- Mpls Vrf 出力許可バイト
- Mpls Vrf 出力ドロップ パケット
- Mpls Vrf 出力許可パケット
- Mpls Vrf 受信ドロップ バイト
- Mpls Vrf 受信許可バイト
- Mpls Vrf 受信ドロップ パケット
- Mpls Vrf 受信許可パケット

統計情報ページに表示される統計情報のタイプを変更するには、チェックボックスをクリック して[統計情報の選択(Select Stats)]ウィンドウを開きます。エントリを左コラムから右コラ ムに移動して別の統計情報を表示し、右コラムから左コラムへ移動してビューから特定の統計 情報を削除します。

このページの統計情報のレイアウトを変更して、統計情報を表形式で表示するには、3本の横 棒アイコンをクリックして [テーブル ビュー(Table View)] を選択します。

・特定の VRF の詳細な集約 VRF 統計情報を表示するには、その VRF に移動します。

[テナント (Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング (Networking)]>[VRFs]> [VRF_name]の順にクリックします。

[統計情報(Stats)]タブをクリックして、この特定のVRFの集約VRF統計情報を表示します。このVRFはSR-MPLSL3Outの1つで使用されており、このSR-MPLSL3Outには 複数のリーフスイッチがあり、各リーフスイッチに複数のインターフェイスがあること に注意してください。このウィンドウに表示される統計情報は、この VRF で使用されて いるこの SR-MPLS L3Out 内のすべてのインターフェイスの集約です。

特定のリーフスイッチのVRF統計情報を表示するには、そのリーフスイッチのVRFコンテキストに移動します。

[ファブリック (Fabric)]>[インベントリ (Inventory)]>[ポッド# (Pod #)]> [*leaf_switch*]>[VRF コンテキスト (VRF Contexts)]>[*VRF_context_name*]

[統計情報(Stats)] タブをクリックして、この特定のリーフ スイッチのこの VRF の統計 情報を表示します。

SR-MPLS グローバル ブロック(GB)の設定

次の図に示すように、ACIファブリックの境界リーフスイッチとDC-PEの間にSRネットワークがある場合は、SR-MPLS グローバルブロック(GB)を設定します。



SR ドメイン内のすべてのノードで同じ SR-GB 設定を使用することを推奨します。

次に、SR-MPLS グローバル ブロックを設定する際に考慮すべき重要なガイドラインを示します。

- 設定可能な SR-GB の範囲は 16000 ~ 471804 です。
- •ACIファブリックのデフォルトのSR-GB範囲は16000~23999です。
- ACI は、アンダーレイ ラベルに対して常にヌルをアドバタイズします(トランスポート ループバック)。

手順

ステップ1 [SR-MPLS グローバル設定 (SR-MPLS Global Configurations)] ウィンドウに移動します。

[テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]>[MPLS グローバル設定 (MPLS Global Configurations)]

ステップ2 メインの [SR-MPLS グローバル設定 (SR-MPLS Global Configurations)] 画面で [デフォルト (default)]をダブルクリックするか、左側のナビゲーション バーで [Mpls グローバル設定 (Mpls Global Configurations)]の下にある [デフォルト(default)]をクリックして、デフォル トの MPLS Global Configurations 画面にアクセスします。

デフォルトの [SR-MPLS グローバル設定] ウィンドウが表示されます。

R-MPLS Global Configuratio	ns		Q
		Policy	History
		0	+ %
Properties			
Name:	default		
Description:	optional		
SR Global Block Minimum:	16001		

Show Usage	Reset	Submit
	Contract of the local division of the local	

ステップ3 [SR グローバル ブロック最小値(SR Global Block Minimum)] フィールドに、SR-GB 範囲の最 小値を入力します。

このフィールドの最小許容値は16000です。

ステップ4 [SR グローバル ブロック最小値 (SR Global Block Maximum)] フィールドに、SR-GB 範囲の最 大値を入力します。

このフィールドの最大許容値は471804です。

ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。

IP ハンドオフ設定から SR ハンドオフ設定への移行

始める前に:

リリース 5.0(1) 以前の ACI ハンドオフ: IP ハンドオフ (177 ページ) で説明されているよう に、プレリリース 5.0(1) IP ハンドオフ設定を使用する、事前に設定された L3Out があること。

このタスクの概要:

これらの手順では、で説明したように、Cisco APIC リリース 5.0(1)で導入された新しい SR-MPLS コンポーネントを使用して、以前に IP ハンドオフ設定(で説明されています)で設定した L3Out を SR ハンドオフ設定に移行する手順を示します。リリース 5.0(1) 以前の ACI ハンドオ フ: IP ハンドオフ (177 ページ) リリース 5.0(1) での ACI ハンドオフ: SR ハンドオフ (178 ページ)

これらの手順では、2つのハンドオフが同じ外部ネットワークインフラストラクチャへの接続 に使用され、外部デバイスが両方のL3Outを使用してACIファブリックにアクセスできるこ とを前提としています。現在、外部クライアントはIPハンドオフ設定で使用されているL3Out を介して着信することができますが、この項の手順を完了すると、外部クライアントはSR-MPLSハンドオフ設定で使用されているL3Outを介して着信することができます。

(注) これらの手順では、次の用語を使用して2つのタイプのL3Outを区別します。

- IP ベースの L3Out: リリース 5.0(1) より前の IP ハンドオフ設定を使用している、以前に 設定されたユーザテナント L3Out に使用されます。
- SR-MPLS L3Out: Cisco APIC Release 5.0(1) で導入された新しい SR-MPLS コンポーネント を使用して設定された、新しく設定されたユーザ テナント L3Out に使用されます。

このプロセスの一部として実行する全体的な手順は次のとおりです。

- IP ベースの L3Out 設定をミラーリングするために、SR-MPLS VRF L3Out で外部 EPG を設 定します。これには、着信トラフィックを分類するためのサブネット設定と、外部 EPG によって提供または消費されるコントラクトが含まれます。
- インバウンドおよびアウトバウンドトラフィックをリダイレクトして、SR-MPLS L3Out を優先するようにします。
- IP ベースの L3Out を切断します。

次の項では、上記の各手順の詳細な手順を示します。

SR-MPLS VRF L3Out での外部 EPG の設定

このタスクでは、SR-MPLS VRF L3Out で外部 EPG を設定して、IP ベースの L3Out 設定(以前 に設定した、リリース 5.0(1)より前の IP ハンドオフ設定を使用する L3Out)をミラーリングし ます。これにはインバウンドトラフィックの分類のサブネット設定、および外部 EPG によっ て提供されるか消費されるコントラクトが含まれています。

始める前に

IP ハンドオフ設定から **SR** ハンドオフ設定への移行 (225 ページ)に記載の情報について、確認してください。

手順

ステップ1 新しいインフラ SR-MPLS L3Out をまだ作成していない場合は、作成します。

これらの手順については、を参照してください。GUIを使用した SR-MPLS インフラ L3Out の 設定 (204 ページ)

ステップ2 新しいユーザ テナント SR-MPLS L3Out を作成します(まだ作成していない場合)。

これらの手順については、を参照してください。GUI を使用した SR-MPLS VRF L3Out の設定 (213 ページ) この L3Out は、以前に設定した IP ベースの L3Out と同じ VRF に関連付ける必 要があります。

新しいユーザテナントSR-MPLSL3Outを作成するプロセスの一環として、このSR-MPLSL3Outの外部 EPGを設定するように求められます。

- 新しい SR-MPLS L3Out の外部 EPG には、以前に設定した IP ベースの L3Out に対して現 在持っているものと同じ IP プレフィックス情報を入力します。
- ・以前に設定した IP ベースの L3Out に複数の外部 EPG が設定されている場合は、新しい SR-MPLS L3Out に追加の外部 EPG を作成し、各 EPG に同じ IP プレフィックス情報を一 致させます。

最終的に、新しい SR-MPLS L3Out 用に設定する外部 EPG 設定は、付随するサブネット設定とともに、以前に IP ベースの L3Out 用に設定した外部 EPG およびサブネット設定と一致する必要があります。

新しいユーザ テナント SR-MPLS L3Out の作成手順を完了すると、2 つの L3Out (BGP の 2 つ のパス) が作成されます。

- ・プレリリース 5.0(1) IP ハンドオフ 設定を使用した、既存の、以前に設定した IP ベースの L3Out。内の[開始する前に(Before you begin)]領域に記述があります。IP ハンドオフ設 定から SR ハンドオフ設定への移行(225ページ)
- Cisco APIC リリース 5.0(1) で導入された新しい SR-MPLS コンポーネントを使用して作成 した新しい SR-MPLS L3Out。

ステップ3 IP ベースの L3Out と同じセキュリティ ポリシーが SR-MPLS L3Out の外部 EPG に適用されて いることを確認します。

非境界リーフスイッチおよび境界リーフスイッチでは、新しいSR-MPLS L3Outの作成時に設定した外部 EPG の新しいセキュリティポリシーにより、以前に設定された IP ベース L3Out の すべての EPG サブネットプレフィックスと衝突するすべてのサブネットで障害が発生します。 これは、同じセキュリティポリシーが両方の L3Out の同じ外部 EPG に適用される限り、機能 に影響を与えない障害です。

次のタスク

インバウンドおよびアウトバウンドトラフィックをリダイレクトし、に示す手順を使用して SR-MPLS L3Out を優先して開始するようにします。SR-MPLS L3Out へのトラフィックのリダ イレクト (227 ページ)

SR-MPLS L30ut へのトラフィックのリダイレクト

このタスクでは、着信トラフィックと発信トラフィックをリダイレクトして、SR-MPLSL3Out の優先を開始するようにします。

始める前に

- IPハンドオフ設定からSRハンドオフ設定への移行(225ページ)に記載の情報について、 確認してください。
- に示す手順を使用して、IP ベースの L3Out 設定をミラーリングするように SR-MPLS VRF L3Out の外部 EPG を設定します。SR-MPLS VRF L3Out での外部 EPG の設定 (226 ページ)

手順

ステップ1以前に設定した IP ベースの L3Out の BGP ピア接続プロファイルに移動します。

[ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenants)]> [tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]> [L3Out_name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]>[logical_profile_name> [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]> [logical_interface_profile_name]>[BGP_peer_connectivity_profile]の順に移動します。

- ステップ2 左側のナビゲーションバーで [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]を クリックすると、[BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]ページが右側 のメイン ウィンドウに表示されます。
- ステップ3 [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]ページに[ルート制御プロファイル (Route Control Profile)]領域が表示されるまでページを下にスクロールします。

ステップ4 既存の IP ベースの L3Out に対してルート制御ポリシーがすでに設定されているかどうかを確認します。

既存の IP ベースの L3Out に対してルート制御ポリシーが設定されている場合と設定されてい ない場合があります。ただし、新しい SR-MPLS L3Out の場合は、ルート制御ポリシーを設定 する必要があります。既存の IP ベースの L3Out にルート制御ポリシーが設定されている場合 は、新しい SR-MPLS L3Out にそれらのルート制御ポリシーを使用できます。それ以外の場合 は、SR-MPLS L3Out の新しいルート制御ポリシーを作成する必要があります。

- •[ルート制御プロファイル (Route Control Profile)]テーブルに2つのルート制御プロファ イルが表示されている場合:
 - エクスポートルート制御ポリシー。表の[方向(Direction)]列に[ルートエクスポートポリシー(Route Export Policy)]と表示されます。
 - インポートルート制御ポリシー。表の[方向(Direction)]列に[ルートインポートポリシー(Route Import Policy)]と表示されます。

IP ベースの L3Out に対してルート制御ポリシーがすでに設定されています。ステップ5 (229 ページ) に進みます。

- 「ルート制御プロファイル (Route Control Profiles)]テーブルに2つのルート制御プロファ イルが表示されない場合は、SR-MPLS L3Out に使用する新しいルートマップを作成します。
- a) [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、[テナント (Tenants)]> [*tenant_name_for_IP_handoff_L3Out*]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)] を展開します。
- b) [ルート制御のルートマップ(Route Maps for Route Control)]を右クリックし、[ルート制御のルートマップの作成(Create Route Maps for Route Control)]を選択します。
- c) [ルート制御のルート マップの作成(Create Route Maps for Route Control)]ダイアログ ボックスで、[名前(Name)]フィールドに、ルート プロファイル名を入力します。
- d) [タイプ(Type)]フィールドで、[ルーティングポリシーのみ照合(Match Routing Policy Only)]を選択する必要があります。
- e) [コンテキスト (Contexts)]領域で[+]サインをクリックして、[ルート制御コンテキスト 作成 (Create Route Control Context)]ダイアログボックスを表示し、次のアクションを 実行します。
 - 1. 必要に応じて、[順序(Order)]と[名前(Name)]フィールドに入力します。
 - **2.** [一致ルール (Match Rule)]フィールドで、[一致ルールの作成 (Create Match Rule)] をクリックします。
 - **3.** [**一致ルール**(Match Rule)] ダイアログ ボックスの [名前(Name)] フィールドに、 一致ルールの名前を入力します。
 - 4. 該当するフィールド(一致 Regex コミュニティ条件、一致コミュニティ条件、および 一致プレフィックス)に必要な情報を入力し、[送信(Submit)]をクリックします。
- 5. [セット ルール (Set Rule)] フィールドで、[ルート マップのセット ルールの作成 (Create Set Rules for a Route Map)] をクリックします。
- 6. [ルートマップのセットルールの作成(Create Set Rules for a Route Map)]ダイアロ グボックスの[名前(Name)]フィールドに、ルールの名前を入力します。
- **7.** 目的の属性および関連するコミュニティ、条件、タグ、および設定 (preferences) を選択します。[完了 (Finish)]をクリックします。
- **8.** [ルート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)] ダイアログボック スで、[OK] をクリックします。
- **9.** [ルートマップの作成(Create Route Map)]ダイアログボックスで、[送信(Submit)] をクリックします。
- f) BGP ピア接続プロファイル スクリーンに移動します。

[テナント (Tenants)]>[tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]>[L3out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]>[logical-node-profile-name]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[logical-interface-profile-name]>[BGP_peer_connectivity_profile]

- g) 左側のナビゲーションバーで[BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] をクリックすると、[BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]ページが 右側のメイン ウィンドウに表示されます。
- h) [ルート制御プロファイル (Route Control Profile)]フィールドまで下にスクロールし、[+] をクリックして次の項目を設定します。
 - •[名前(Name)]: ルートインポート ポリシー用に設定したルート マップを選択しま す。
 - [方向(Direction)]: [方向(Direction)]フィールドで[ルートインポートポリシー (Route Import Policy)]を選択します。

これらの手順を繰り返して、ルートエクスポートポリシーのルートマップを選択し、[方向(Direction)]フィールドで[ルートエクスポートポリシー(Route Export Policy)]を設定します。

- **ステップ5** 移行を実行する VRF の境界リーフ スイッチ内のすべてのピアにルート ポリシーを設定することにより、BGP に新しい SR パスを選択させます。
 - ・以前に設定された IP ベースの L3Out が eBGP 用に設定されている場合、IP ベースの L3Out ピアのルートインポート ポリシーとルート エクスポート ポリシーの両方に、追加の AS パス エントリ(ローカル エントリと同じ AS など)を設定します。これが最も一般的な シナリオです。

- (注) 次の手順では、ルートマップにルールが設定されていないことを前提としています。ルートマップに設定済みのルールをすでに設定している場合は、既存の設定済みルールを編集して AS パス エントリを追加します([AS パスの設定(Set AS Path)]チェックボックスをオンにし、[AS 番号を付加(Prepend AS)]を選択して、[+]をクリックして AS 番号を付加します)。
- [テナント (Tenant)]>[tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ポリシー (Policies)]>
 [プロトコル (Protocol)]>[セットルール (Set Rules)]の順に移動し、[ルートマップのセットルールの作成 (Create Set Rules for a Route Map)]を右クリックします。

[**ルート マップの設定ルールの作成(Create Set Rules For A Route Map**)] ウィンド ウが表示されます。

- 2. 設定ルールのAルートマップの作成 ダイアログボックス、次のタスクを実行します。
 - 1. [名前 (Name)] フィールドに、これらの設定ルールの名前を入力します。
 - **2.** [AS パスの設定 (Set AS Path)] チェックボックスをオンにし、[次へ (Next)] をクリックします。
 - [AS パス(AS Path)] ウィンドウで [+] をクリックして [AS パスの設定を作成 (Create Set AS Path)] ダイアログ ボックスを開きます。
- **3.** 基準に [**AS 番号の付加(Prepend AS)**] を選択し、[+] をクリックして **AS** 番号を先 頭に付加します。
- 4. AS 番号とその順序を入力し、クリックして 更新。
- 5. [OK] をクリックします。
- [ルートマップの設定ルールを作成(Create Set Rules For A Rout Map)]ウィンドウ でASパスに基づく設定ルールの基準を確認し、[完了(Finish)]をクリックしま す。
- **7.** この既存のIPベースのL3Outの[BGPピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] 画面に戻ります。

[テナント (Tenants)]>[tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]>[L3out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]>[logical-node-profile-name]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[logical-interface-profile-name]> [BGP_peer_connectivity_profile]

- [ルート制御プロファイル (Route Control Profile)]領域までスクロールし、この既存のIPベースのL3Outに使用されているエクスポートルート制御ポリシーとインポートルート制御ポリシーの両方のルートプロファイル名を確認します。
- 9. [テナント (Tenants)]>[tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]>[ルート制御のルートマップ (Route Maps for Route Control)]の順に移動します。

10. 最初に、この既存の IP ベースの L3Out に使用されているエクスポート ルート制御 プロファイルを見つけ、そのルート プロファイルをクリックします。

このルート制御プロファイルのプロパティページがメインパネルに表示されます。

11. ページでルート制御コンテキストエントリを見つけ、ルート制御コンテキストエン トリをダブルクリックします。

このルート制御コンテキストのプロパティページが表示されます。

- **12.** [セットルール (Set Rule)]領域で、追加の AS パスエントリを使用してこれらの 手順で前に作成した設定ルールを選択し、[送信 (Submit)]をクリックします。
- 13. 次に、この既存の IP ベースの L3Out に使用されている import ルート制御プロファ イルを見つけ、そのルートプロファイルをクリックしてから、インポートルート制 御プロファイルの追加のASパスエントリを使用してこれらの手順を繰り返します。 これを行うと、外部ソースが優先を開始する必要がある着信トラフィックに影響し ます。
- ・以前に設定された IP ベースの L3Out が iBGP 用に設定されている場合、SR-MPLS は eBGP のみをサポートするため、前の箇条書きの説明のように、eBGP が設定された SR-MPLS L3Out にトラフィックを誘導するためにローカル設定を使用する必要があります。IP ベースの L3Out ピアのルート インポート ポリシーとルート エクスポート ポリシーの両方を、より低いローカル プリファレンス値に設定します。
 - [テナント (Tenant)]>[tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ポリシー (Policies)]>
 [プロトコル (Protocol)]>[セットルール (Set Rules)]の順に移動し、[ルートマップのセットルールの作成 (Create Set Rules for a Route Map)]を右クリックします。

[ルート マップの設定ルールの作成 (Create Set Rules For A Route Map)] ウィンド ウが表示されます。

- 2. [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。
- 3. [プリファレンスの設定(Set Preference)]チェックボックスをオンにします。

[プリファレンス (Preferences)]フィールドが表示されます。

4. BGP ローカル プリファレンス パス値を入力します。

範囲は0~4294967295です。

- 5. [完了 (Finish)] をクリックします。
- 6. この既存のIPベースのL3Outの[BGPピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] 画面に戻ります。

[テナント (Tenants)]>[tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]>[L3out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]>[logical-node-profile-name]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[logical-interface-profile-name]> [BGP_peer_connectivity_profile]

- [ルート制御プロファイル (Route Control Profile)]領域までスクロールし、この既存のIPベースのL3Outに使用されているエクスポートルート制御ポリシーとインポートルート制御ポリシーの両方のルートプロファイル名を確認します。
- 8. [テナント (Tenants)]>[tenant_name_for_IP_handoff_L3Out]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]>[ルート制御のルートマップ (Route Maps for Route Control)]の順に移動します。
- **9.** 最初に、この既存の IP ベースの L3Out に使用されているエクスポート ルート制御 プロファイルを見つけ、そのルート プロファイルをクリックします。

このルート制御プロファイルのプロパティページがメインパネルに表示されます。

 ページでルート制御コンテキストエントリを見つけ、ルート制御コンテキストエン トリをダブルクリックします。

このルート制御コンテキストのプロパティページが表示されます。

- **11.** [セットルール (Set Rule)]領域で、BGP ローカルプリファレンスパスを使用して これらの手順で作成した設定ルールを選択し、[送信 (Submit)]をクリックします。
- 次に、この既存の IP ベースの L3Out に使用されているインポート ルート制御プロ ファイルを見つけ、そのルートプロファイルをクリックしてから、インポートルー ト制御プロファイルの BGP ローカル プリファレンス パス エントリを使用してこれ らの手順を繰り返します。
- ステップ6 トラフィックが SR-MPLS パスを選択していることを確認します。

ルーティング/パスの選択は、SR-MPLS を使用する必要があります(BGP は、IP パスよりも SR-MPLS パスを選択する必要があります)。各 VRF の URIB のトラフィックとルートをモニ タして、SR-MPLS パスが選択されていることを確認できます。

次のタスク

に示す手順を使用して、IPベースのL3Outを切断します。IPベースのL3Outの切断(232ページ)

IP ベースの L30ut の切断

このタスクでは、IP ベースの L3Out を切断します。

始める前に

• IPハンドオフ設定からSRハンドオフ設定への移行(225ページ)に記載の情報について、 確認してください。

- に示す手順を使用して、IP ベースの L3Out 設定をミラーリングするように SR-MPLS VRF L3Out の外部 EPG を設定します。SR-MPLS VRF L3Out での外部 EPG の設定 (226 ページ)
- インバウンドおよびアウトバウンドトラフィックをリダイレクトし、に示す手順を使用して SR-MPLS L3Out を優先して開始するようにします。SR-MPLS L3Out へのトラフィックのリダイレクト (227 ページ)

手順

ステップ1 IP パスをクリーン アップします。

次のいずれかの方法を使用して、IP パスをクリーン アップできます。

- •以前に設定した IP ベースの L3Out の外部 EPG で一度に1 つのサブネットを削除します。
- ・以前に設定した IP ベースの L3Out の外部 EPG を削除します。

上記のいずれかの方法では、障害がクリアされ、SR-MPLSL3Outの外部 EPG が展開されます。

セキュリティ ポリシーを IP ベースの L3Out から SR-MPLS L3Out に変更するプロセスの一環 として、最大 15 秒のドロップが発生する可能性があります。その期間が経過すると、ACI か ら外部へのアウトバウンド トラフィックは SR-MPLS パスを使用します。

以前に設定した IP ベースの L3Out が新しい SR-MPLS L3Out に正常に移行された場合は、以前 に設定した IP ベースの L3Out を削除できます。

ステップ2 SR-MPLS に移行する追加の L3Out/VRF があるかどうかを確認します。

他のユーザL3Out および VRF を SR-MPLS に移行するには、IP ハンドオフ設定から SR ハンド オフ設定への移行 (225 ページ)の手順を繰り返します。

IP ハンドオフ設定から SR ハンドオフ設定への移行 (225 ページ)の同じ手順を使用して、テ ナント GOLF L3Out とテナント SR-MPLS L3Out 間の移行を行うこともできます。

ループ防止のための BGP ドメインパス機能について

BGP ルーティング ループは、次のようなさまざまな条件が原因で発生することがあります。

- •AS パス チェックなどの既存の BGP ループ防止メカニズムの意図的な無効化
- ・異なる VRF または VPN 間のルート リーク

次に、BGP ルーティング ループが発生するシナリオの例を示します。

1. BGP IP L3Out ピアから受信したプレフィックス P1 は、Multiprotocol Border Gateway Protocol (MP-BGP) を使用して ACI ファブリックでアドバタイズされます。



2. 中継のケースとして、このプレフィックスは SR-MPLS インフラ L3Out を介して外部にアドバタイズできます。



3. このプレフィックスは、同じ VRF または異なる VRF のいずれかで、コアから ACI ファブ リックにインポートできます。



BGP ルーティング ループは、同じ VRF から、または別の VRF からのリークによって、このインポートされたプレフィックスが発信元スイッチにアドバタイズされるときに発生します。



リリース 5.1(3) 以降では、新しい BGP ドメイン パス機能を使用できます。これは、次の方法 で BGP ルーティング ループを支援します。

- 同じ VPN または拡張 VRF 内、および異なる VPN または VRF 内のルートが通過する個別のルーティングドメインを追跡します。
- ルートがすでに通過したドメイン内の VRF にループバックするタイミングを検出します (通常、ドメイン間のスティッチング ポイントである境界リーフ スイッチだけでなく、 場合によっては内部スイッチでも)。
- •ループにつながる場合に、ルートがインポートまたは受け入れられないようにします。

ACIファブリック内では、VRFスコープはグローバルであり、設定されているすべてのスイッ チに拡張されます。したがって、VRFのドメインからエクスポートされたルートは、他のス イッチの VRF に受信されないようにします。

次のコンポーネントは、ループ防止のためにBGPドメインパス機能で使用されます。

Routing domain ID: ACI サイトのすべてのテナント VRF は、1つの内部ファブリックドメイン、各 SR-MPLS インフラ L3Out の各 VRF に1つのドメイン、および各 IP L3Out に1つのドメインに関連付けられます。BGPドメインパス機能が有効になっている場合、これらの各ドメインには、次の形式で一意のルーティングドメイン ID が割り当てられます。Base:<variable>

- Base は、[BGP ルート リフレクタ ポリシー(BGP Route Reflector Policy)] ページの [ドメインID ベース (Domain ID Base)]フィールドに入力されたゼロ以外の値です。
- <variable> は、そのドメイン専用にランダムに生成された値です。
- ドメインパス(Domain path):ルートが通過するドメインセグメントは、BGPドメインパス属性を使用して追跡されます。
 - ルートを受信する送信元ドメインのVRFのドメインIDがドメインパスの先頭に追加 されます。
 - ・送信元ドメイン ID はドメインパスの先頭に追加され、境界リーフスイッチのドメイン間でルートが再生成されます。
 - VRFのローカルドメイン ID のいずれかがドメインパスにある場合、外部ルートは受け入れられません。
 - ドメインパスは、次のように表される各ドメインセグメントとともに、オプションの遷移 BGPパス属性として伝送されます。
 - •ACI境界リーフスイッチは、ドメイン内のリークを追跡するために、ローカルに発信 されたルートと外部ルートの両方に VRF 内部ドメイン ID を付加します。
 - 内部ドメインからのルートをインポートし、競合する外部ドメイン ID を持つノードの VRF にインストールして、内部バックアップまたは中継パスを提供できます。
 - インフラL3Out ピアの場合、ピアドメインのドメインIDがルートのドメインパスに 存在する場合、ピアへのルートのアドバタイズメントはスキップされます(アウトバ ウンドチェックはIPL3Out ピアには適用されません)
 - ・境界リーフスイッチと非境界リーフスイッチはどちらもドメインパス属性を処理します。



(注) ループ防止のために BGP ドメインパス機能を設定するか、GUI またはREST API を使用して、 受信したドメインパスを送信するように設定をイネーブルにすることができます。ループ防止 のために BGP ドメインパス機能を設定したり、NX-OS スタイルの CLI を介して受信ドメイン パスを送信するように設定したりすることはできません。



(注) 以前のリリースからリリース5.1(3)にアップグレードするときに、VRF間共有サービス用に設定されたコントラクトがある場合、BGPドメインIDにリリース5.1(3)にアップグレードする前に設定された契約で設定されています。このような状況では、契約を削除してから、契約を追加し直すと、BGPドメインの更新が可能になります。これは、リリース5.1(3)へのアップグレード前に設定された契約がある場合にのみ問題になります。これは、リリース5.1(3)へのアップグレードの完了後に新しい契約を作成する場合は問題になりません。

GUIを使用したループ防止のための BGP ドメインパス機能の設定

始める前に

ループ防止のためのBGPドメインパス機能について(233ページ)に記載されている情報を使用して、BGPドメインパス機能に精通します。

手順

- **ステップ1** ループ防止に BGP ドメイン パス機能を使用する場合は、BGP ルート リフレクタに BGP ドメ イン パス属性を設定します。
 - (注) ループ防止に BGP ドメインパス機能を使用しないが、受信したドメインパスを送信する場合は、この手順で BGP ドメイン リフレクタの BGP ドメイン パス機能を 有効にしないでください。代わりに、に直接移動して、適切な BGP 接続ウィンド ウの [ドメインパスの送信(Send Domain Path)]フィールドのみを有効にします。 ステップ2(240ページ)
 - a) [システム (System)]>[システム設定 (System Settings)]>[BGP ルート リフレクター (BGP Route Reflector)]の順に移動します。

[BGP ルート リフレクター (BGP Route Reflector)]ウィンドウが表示されます。このウィ ンドウで [ポリシー (Policy)]ページ タブが選択されていることを確認します。

- b) [ドメイン ID ベース (Domain ID Base)]フィールドを見つけます。
- c) [ドメイン ID ベース (Domain ID Base)]フィールドに数値を入力します。
 - BGPドメインパス機能を有効にするには、1 ~ 4294967295の値を入力します。ACI ファブリックがマルチサイト環境の一部である場合は、この[ドメイン ID ベース (Domain ID Base)]フィールドでこの ACI ファブリックに固有の一意の値を使用し てください。
 - ・BGPドメインパス機能を無効にするには、この[ドメインIDベース(IDBase)]フィールドに0を入力します。

ループ防止のBGPドメインパス機能が有効になっている場合は、Base:<variable>形式の暗 黙のルーティングドメイン ID が割り当てられます。

- •[ベース(Base)]は、この[ドメイン ID ベース(Domain ID Base)]フィールドに入力 したゼロ以外の値です。
- <変数(variable)>は、VRF または L3Out 用にランダムに生成された値で、ループ防止の BGP ドメインパス機能に使用されます。

このルーティング ドメイン ID は、次のドメインを識別するために BGP に渡されます。

- VRF: そのテナントの VRF ウィンドウの [ポリシー(Policy)] タブにある [ルーティング ドメイン ID (Routing Domain ID)] フィールドに示されているように、各 VRF にランダムに生成された値を使用して内部ドメイン ID によって識別されます。
- IP L3Out: IP L3Out の [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] ウィンドウの [ルーティング ドメイン ID (Routing Domain ID)] フィールドに示され ているように、各 IP L3Out に対してランダムに生成された値を使用して、外部ドメイン ID によって識別されます。
- SR-MPLS infra L3Out: 各 SR-MPLS VRFL3Out のウィンドウの [SR-MPLS Infra L3Outs] テーブルの [ルーティングドメイン ID (Routing Domain ID)]列に示されているよう に、各 SR-MPLS infra L3Out の各 VRF にランダムに生成された値を使用して、外部ド メイン ID によって識別されます。

Domain-Path 属性は、パス内のルーティングドメイン ID に基づいてループをチェックする ために着信方向で処理されます。Domain-Path 属性はピアに送信されます。これは、次の 手順で説明するように、IP L3Out または SR-MPLS infraL3OutのBGP ピアレベルの [ドメイ ンパスの送信 (Send Domain Path)]フィールドを使用して個別に制御されます。

ステップ2 BGP ドメイン パス属性をピアに送信するには、適切な BGP 接続ウィンドウで [ドメイン パスの送信 (Send Domain Path)] フィールドを有効にします。

ループ防止のために BGP ドメインパス機能を使用する場合は、最初に [ドメインベース ID (Domain Base ID)]を設定してから、ここで [ドメインパスの送信(Send Domain Path)]フィー ルドを有効にします。ステップ1(239ページ)ループ防止のために BGP ドメインパス機能を 使用しない場合でも、受信したドメインパスを送信する場合は、ここで [ドメインパスの送信 (Send Domain Path)]フィールドのみを有効にします(その場合は [ドメインベース ID(Domain Base ID)]を設定しないでください)。ステップ1(239ページ)

- IP L3Out ピアの [ドメイン パスの送信 (Send Domain Path)] フィールドを有効にするに は、次の手順を実行します。
 - **1.** IP L3Out ピアの [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] ウィン ドウに移動します。

[テナント (Tenant)]>[tenant_name]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]> [L3Out_name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profile)]> [log_node_prof_name]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profile)]>[log_int_prof_name]>[BGP ピア (BGP Peer)]]<address>-ノード (Node) -[<node_ID>]

この設定されたL3Outの[BGPピア接続プロファイル(BGP Peer Connectivity Profile)] ウィンドウが表示されます。

- [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]ウィンドウで [BGP 制御 (BGP Controls)]領域を見つけます。
- **3.** [BGP 制御(BGP Controls)]領域で、[ドメインパスの送信(Send Domain Path)]フィー ルドの横にあるボックスをクリックします。
- 4. [送信 (Submit)] をクリックします。`

このアクションは、BGP ドメイン パス属性をピアに送信します。

- SR-MPLS インフラ L3Out ピアの [ドメイン パスの送信 (Send Domain Path)] フィールド を有効にするには、次の手順を実行します。
 - [テナント (Tenant)]>[infra]>[ネットワーキング (Networking)]>[SR-MPLS Infra L3Outs]>[SR-MPLS-infra-L3Out_name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]>[log_node_prof_name]の順に移動します。

この設定済み SR-MPLS インフラ L3Out の [論理ノードプロファイル (Logical Node Profile)] ウィンドウが表示されます。

- [BGP-EVPN 接続プロファイル (BGP-EVPN Connectivity Profile)]領域を見つけ、新しい BGP-EVPN 接続ポリシーを作成するか、または既存の BGP-EVPN 接続ポリシーの [ドメインパスの送信 (Send Domain Path)]フィールドを有効にするかを決定します。
 - 新しい BGP-EVPN 接続ポリシーを作成する場合は、[BGP-EVPN 接続プロファイル (BGP-EVPN Connectivity Profile)]領域のテーブルの上にある[+]をクリックします。[BGP-EVPN 接続ポリシーの作成 (Create BGP-EVPN Connectivity Policy)]ウィンドウが表示されます。
 - 既存の BGP-EVPN 接続ポリシーの [ドメイン パスの送信(Send Domain Path)] フィールドを有効にする場合は、[BGP-EVPN 接続プロファイル(BGP-EVPN Connectivity Profile)]領域のテーブルでそのポリシーをダブルクリックします。 [BGP-EVPN 接続ポリシー(BGP-EVPN Connectivity Policy)]ウィンドウが表示されます。
- 3. ウィンドウで [BGP 制御(BGP Controls)] 領域を見つけます。
- **4.** [BGP 制御(BGP Controls)]領域で、[ドメインパスの送信(Send Domain Path)]フィー ルドの横にあるボックスをクリックします。
- 5. [送信 (Submit)] をクリックします。`

このアクションは、BGPドメインパス属性をピアに送信します。

- **ステップ3** 適切なエリアに移動して、さまざまなドメインに割り当てられたルーティング ID を確認します。
 - ・VRFドメインに割り当てられたルーティングIDを確認するには、次の手順を実行します。

Tenant tenant_name Networking VRFs VRF_name をクリックし、その VRF の [ポリシー (Policy)]タブをクリックして、[VRF]ウィンドウの[ルーティングドメイン ID (Routing Domain ID)]フィールドのエントリを見つけます。>>>>

• IP L3Out ドメインに割り当てられたルーティング ID を確認するには、次の手順を実行します。

[テナント (Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]> [L3Out_name]>[論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]>[log_node_prof_name]> [BGP ピア (BGP Peer)]の順に移動し、その後 [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]ウィンドウの[**ルーティングドメイン ID**(Routing Domain ID)] フィールドでエントリを見つけます。

• SR-MPLS インフラ L3Out ドメインに割り当てられたルーティング ID を確認するには、次の場所に移動します。

[テナント (Tenants)] [tenant_name] [ネットワーキング (Networking)] [SR-MPLS VRF L3Outs] [SR-MPLS_VRF_L3Out_name] をクリックし、[SR-MPLS VRFL3Out] のウィンドウ で [SR-MPLS Infra L3Outs] テーブルの [ルーティング ドメイン ID (Routing Domain ID)] カラムのエントリを見つけます。>>>>



第 ▌ ▌ 部

外部ルーティング(L3Out)の設定

- •WAN およびその他の外部ネットワーク フォワーディング (245 ページ)
- ・外部ネットワークへのルーテッド接続 (261ページ)
- L3Out のノードとインターフェイス (283 ページ)
- •ルーティングプロトコルのサポート (299ページ)
- ルート集約 (351ページ)
- ルートマップおよびルートプロファイルによるルート制御(361ページ)
- ・ルーティングとサブネット範囲 (387ページ)
- トランジットルーティング (395 ページ)
- ・共有サービス (423ページ)
- L3Out の QoS (433 ページ)
- IP SLAs (437 ページ)
- HSRP (457 ページ)
- Cisco ACI GOLF, on page 465



WAN およびその他の外部ネットワーク フォワーディング

この章は、次の内容で構成されています。

- •ネットワークドメイン (245ページ)
- ルータピアリングおよびルート配布 (246ページ)
- ルートのインポートとエクスポート、ルート集約、ルートコミュニティの一致(247ページ)
- ACI のルート再配布 (252 ページ)
- •ACIファブリック内のルート配布 (252ページ)
- 外部レイヤ 3 Outside 接続タイプ (253 ページ)
- ・レイヤ3外部接続の設定のモードについて (256ページ)
- L3Out ネットワーク インスタンス プロファイルで設定されているサブネットで有効な制御(257ページ)
- ACI レイヤ 3 Outside ネットワークのワークフロー (259 ページ)

ネットワーク ドメイン

ファブリック管理者は、ポート、プロトコル、VLANプール、およびカプセル化を設定するド メインポリシーを作成します。これらのポリシーは、単一テナント専用にすることも、共有す ることもできます。ファブリック管理者がACIファブリック内にドメインを設定すると、テナ ント管理者はテナントエンドポイントグループ(EPG)をドメインに関連付けることができ ます。

以下のネットワーク ドメイン プロファイルを設定できます。

- VMM ドメイン プロファイル (vmmDomP) は、仮想マシンのハイパーバイザ統合のために 必要です。
- 物理ドメインプロファイル (physDomP) は、ベアメタルサーバ接続と管理アクセスに使用します。

- ・ブリッジド外部ネットワークドメインプロファイル(12extDomP)は通常、ACIファブリックのリーフスイッチにブリッジド外部ネットワークトランクスイッチを接続するために使用されます。
- ルーテッド外部ネットワークドメインプロファイル(13extDomP)は、ACIファブリックのリーフスイッチにルータを接続するために使用されます。
- ファイバチャネルドメインプロファイル(fcDomP)は、ファイバチャネルのVLANとVSAN を接続するために使用されます。

ドメインは VLAN プールに関連付けられるように設定されます。その後、EPG は、ドメイン に関連付けられている VLAN を使用するように設定されます。



(注) EPG ポートと VLAN の設定は、EPG が関連付けられているドメイン インフラストラクチャ設定で指定されている設定に一致する必要があります。一致しない場合、APIC でエラーが発生します。そのようなエラーが発生した場合は、ドメインインフラストラクチャ設定がEPG ポートと VLAN の設定に一致していることを確認してください。

ルータ ピアリングおよびルート配布

次の図に示すように、ルーティングピアモデルを使用すると、リーフスイッチインターフェ イスが外部ルータのルーティングプロトコルとピアリングするように静的に設定されます。



ピアリングによって学習されるルートは、スパインスイッチに送信されます。スパインスイッ チはルートリフレクタとして動作し、外部ルートを同じテナントに属するインターフェイスを 持つすべてのリーフスイッチに配布します。これらのルートは、最長プレフィクス照合(LPM) により集約されたアドレスで、外部ルータが接続されているリモートのリーフスイッチのVTEP IP アドレスが含まれるリーフスイッチの転送テーブルに配置されます。WAN ルートには転送 プロキシはありません。WAN ルートがリーフスイッチの転送テーブルに適合しない場合、ト ラフィックはドロップされます。外部ルータがデフォルトゲートウェイではないため、テナン トのエンドポイント (EP) からのパケットは ACI ファブリックのデフォルト ゲートウェイに送 信されます。

ルートのインポートとエクスポート、ルート集約、ルー トコミュニティの一致

サブネットルートのエクスポートまたはインポート設定オプションは、次に説明するスコープ および集約オプションに従って指定できます。

ルーティング対象サブネットについては、以下のスコープオプションが使用可能です。

エクスポートルート制御サブネット:エクスポートルート方向を制御します。

•インポートルート制御サブネット:インポートルート方向を制御します。

- (注) インポート ルート コントロールは、BGP と、OSPF が EIGRP で はなく、サポートされています。
 - ・外部 EPG (セキュリティインポートサブネット)の外部サブネット:どの外部サブネットが、特定の外部 L3Out EPG (13extInstP)の一部として適用されるコントラクトを保持するか指定します。サブネットの13extInstP 外部 EPG として分類、サブネット上の範囲を「インポートセキュリティ」に設定する必要があります。この範囲のサブネットを決定する IP アドレスが関連付けられています、13extInstP。これが決定されると、契約は、他のどの Epg でその外部のサブネットが通信を許可を決定します。たとえば、レイヤ3外部の外部ネットワーク(L3extOut)の ACI スイッチでトラフィックが開始する場合、13extInstPに関連付けられている送信元 IP アドレスを判断するための検索が行われます。このアクションより一般的なサブネット上で複数の特定のサブネットが優先されるようにで最長プレフィックス一致(ほか)に基づいて行われます。
 - ・共有ルート制御サブネット 共有サービス設定においては、この特性が有効になっているサブネットだけが、コンシューマ EPG の Virtual Routing and Forwarding (VRF) にインポートされます。これは VRF 間の共有サービスのルート方向を制御します。
 - ・共有セキュリティインポートサブネット:インポート対象サブネットに共有コントラクトを適用します。デフォルトの仕様では、外部 EPG 用外部サブネットが設定されています。

ルート対象サブネットを集約することができます。集約が設定されていない場合は、サブネットが正確に照合されます。たとえば、サブネットが 11.1.0.0/16 の場合、11.1.1.0/24 ルートには ポリシーが適用されず、ルートが 11.1.0.0/16 である場合のみ適用されます。すべてのサブネットを1つずつ定義する作業は面倒でエラーが発生しやすいので、それを回避するために、サブ ネットのセットを1つのエクスポート、インポートまたは共有ルートポリシーに集約すること ができます。現時点では、0/0 サブネットのみ集約可能です。0/0 に集約を指定すると、次の選 択オプションに基づき、すべてのルートがインポート、エクスポートされ、異なる VRF と共 有されます:

- ・集約エクスポート VRF(サブネット 0/0)のすべての中継ルートをエクスポートします。
- •集約インポート 所定のL3 ピア (サブネット0/0)のすべて着信ルートをインポートします。



- (注) BGP、OSPF が EIGRP の集約インポートルート制御はサポートされます。
 - ・集約共有ルート—1つのVRFで学習されているルートを別のVRFにアドバタイズする必要がある場合、サブネットとの正確な一致、またはサブネットマスクに従った方法で共有

できます。集約共有ルートでは、複数のサブネットマスクを使用して、どの特定のルート グループをVRF間で共有するかを決定できます。たとえば、10.1.0.0/16と12.1.0.0/16を指 定してこれらのサブネットを集約することができます。あるいは、0/0を使用すると、複 数のVRFのすべてのサブネットルートを共有できます。

(注) 第2世代のスイッチのVRF機能間で正常にルートが共有されます(N9K-93108TC-EXなど、 スイッチモデル名の最後やその後に「EX」や「FX」がつくCisco Nexus N9K)。第1世代の スイッチですが、ルートを保存する物理的な3進コンテンツ対応メモリ(TCAM)にルートの 解析を完全にサポートするだけの容量がないため、この設定のパケットは失敗する可能性があ ります。

ルート集約では、多数の具体的なアドレスを1つのアドレスに置き換えることで、ルートテー ブルが簡素化します。たとえば、10.1.1.0/24、10.1.2.0/24、10.1.3.0/24は10.1.0.0/16に置き換え られます。ルート集約ポリシーにより、ボーダーリーフスイッチとそのネイバーリーフス イッチの間でルートを効率的に共有することができます。BGP、OSPF、あるいはEIGRPのルー ト集約ポリシーは、ブリッジドメインまたは中継サブネットに適用されます。OSPFでは、エ リア間ルート集約と外部ルート集約がサポートされます。集約ルートはエクスポートされま す。ファブリック内でのアドバタイズは行われません。上記の例では、ルート集約ポリシーが 適用され、EPGが10.1.0.0/16サブネットを使用している場合、10.1.0.0/16の範囲全体がすべて の隣接リーフスイッチと共有されます。



(注) 同じリーフスイッチで2つのL3extOutポリシーにOSPFを設定している場合(1つはレギュ ラーで、もう1つはバックボーン)には、VRF内の全エリアに集約が適用されるため、一方の L3extOutで設定されているルート集約ポリシーが両方のL3extOutポリシーに適用されます。

次の図に示すように、ルート制御プロファイルは、プレフィックスベースおよびコミュニティ ベースの一致に基づいて、ルートマップを取得します。 図 27: ルートコミュニティ マッチング



ルート制御プロファイル (rtctrtlProfile) は、許可される対象を指定します。ルート制御コ ンテキストは一致対象を指定し、スコープは設定すべき対象を指定します。サブジェクトプロ ファイルには、コミュニティマッチの仕様が含まれます。これは複数の13extoutで使用でき ます。サブジェクトプロファイル (subjP) には、それぞれ1つまたは複数のコミュニティ ファクタ (コミュニティ) を含む複数のコミュニティタームを含めることができます。これに より、次のブール演算を指定することができます。

- 複数コミュニティターム間の論理的 OR
- ・複数コミュニティターム間の論理的 AND

たとえば、北東と呼ばれるコミュニティタームに、それぞれ多くのルートを含む複数のコミュ ニティが含まれているとします。また、南東という別のコミュニティタームにも、さまざまな ルートが多数含まれているとします。管理者は、そのどちらかあるいは両方を一致させること を選択できます。コミュニティファクタタイプには、レギュラーまたは拡張を使用できます。 拡張タイプのコミュニティファクタを使用する際には、仕様間の重複がないよう注意すること が必要です。

ルート制御プロファイルのスコープ部分は、属性プロファイル(rtctrlAttrp)を参照して、 適用すべき設定-アクション(プリファレンス、ネクストホップ、コミュニティなど)を指定 します。ルートを 13extout から学習した場合は、ルートの属性を変更できます。

上の図は、13extOutにrtctrtlProfileが含まれているケースを示しています。rtctrtlProfile はテナントの下にも配置できます。この例では、13extOutに、自身をテナント下の rtctrtlProfileと関連付ける相互リーク関係ポリシー(L3extRsInterleakPol)が設定されてい ます。この設定により、再利用、 rtctrtlProfile 複数の 13extOut 接続します。BGP 属性 (BGPは、ファブリック内で使用される)は、それを OSPF からは、ファブリックを学習ルート の追跡することもできます。L3extOut 下で定義された rtctrtlProfile の優先順位は、テナン ト下で定義されたものよりも高くなります。

rtctrtlProfileには、組み合わせ可能およびグローバルという2つのモードがあります。デフォルトの組み合わせ可能モードでは、パーベイシブサブネット(fvsubnet)および外部サブネット(13extSubnet)に一致/設定メカニズムを組み合わせてルートマップをレンダリングします。グローバルモードはテナント内のすべてのサブネットに適用され、そのほかのポリシー属性の設定が無効になります。グローバルrtctrtlProfileでは、明示的な(0/0)サブネットを定義しなくても、すべての動作が許可されます。グローバルrtctrtlProfileは、コミュニティやネクストホップといった異なるサブネット属性を使用してマッチングが行われる非プレフィックスベースの一致ルールと一緒に使用されます。1つのテナント下で複数のrtctrtlProfileポリシーを設定できます。

rtctrtlProfile ポリシーによって、デフォルトインポートおよびデフォルト エクスポートの ルート制御の拡張が可能になります。集約インポートあるいはエクスポートルートを伴うLayer 3 Outside ネットワークには、サポート対象デフォルト エクスポート/デフォルトインポートお よびサポート対象 0/0 集約ポリシーを指定するインポート/エクスポート ポリシーを設定でき ます。すべてのルート(着信または発信)に rtctrtlProfile ポリシーを適用するには、一致 ルールのないグローバル デフォルト rtctrtlProfile を定義します。



(注) 1つのスイッチ上で複数の13extout 接続を設定することは可能ですが、スイッチは1つのルートマップしか持つことができないため、スイッチで設定されているすべてのレイヤ3外側ネットワークが同じrtctrtlProfileを使用する必要があります。

プロトコル相互リークと再配布ポリシーは、ACIファブリック BGP ルートで共有される外部 学習ルートを制御します。設定属性はサポートされています。これらのポリシーはL3extOut 単位、ノード単位、VRF単位でサポートされます。相互リークポリシーは、L3extOut内のルー ティングプロトコルによって学習されたルートに適用されます。現在のところ、相互リークと 再配布ポリシーは、OSPF v2 および v3 でサポートされています。ルート制御ポリシー rtctrtlProfileは、相互リークポリシーによって消費される場合、グローバルとして定義する必 要があります。

ACIのルート再配布

図 28: ACI のルート再配布



- 境界リーフの OSPF プロセスで学習されたルートは、テナント VRF 用に BGP に再配布され、それらは境界リーフの MP-BGP にインポートされます。
- インポートルート制御は、BGP および OSPF ではサポートされていますが、EIGRP では サポートされていません。
- •エクスポート ルート制御は、OSPF、BGP、および EIGRP でサポートされています。
- ルートは、VRF が導入されている境界リーフで学習されます。ルートは、エクスポート ルート制御で許可されていない限り、外部レイヤ 3 Outside 接続にアドバタイズされません。

(注)

ブリッジドメイン/EPGのサブネットが [Advertise Externally] に設定されている場合、サブネットは境界リーフの静的ルートとしてプログラムされます。スタティックルートがアドバタイズ されると、ルーティング プロトコルに直接注入されない外部ネットワークとして EPG のレイ ヤ3 ネットワーク ルーティング プロトコルに再配布されます。

ACIファブリック内のルート配布

ACI は以下のルーティング メカニズムをサポートします。

- •スタティックルート
- OSPFv2 (IPv4)
- OSPFv3 (IPv6)
- iBGP
- ・eBGP (IPv4 および IPv6)
- ・EIGRP (IPv4 および IPv6) プロトコル

ACIは、外部ルータに接続する際にVRF-Liteの実装をサポートします。サブインターフェイスを使用して、境界リーフは1つの物理インターフェイスを持つ複数のテナントへのレイヤ3 Outside接続を提供できます。VRF-Liteの実装では、テナントごとに1つのプロトコルセッションが必要です。

ACIファブリック内の外部ルートを伝播するために、ACIファブリック内のリーフスイッチと スパインスイッチの間に Multiprotocol BGP(MP-BGP)が実装されています。単一ファブリッ ク内で多数のリーフスイッチをサポートするために、BGP ルートリフレクタテクノロジーが 導入されています。リーフスイッチをサポートするために、BGP ルートリフレクタテクノロジーが (AS)内にあります。境界リーフが外部ルートを学習すると、MP-BGP アドレスファミリ VPN バージョン4または VPN バージョン6に特定の VRFの外部ルートを再配布できます。アドレ スファミリ VPN バージョン4を使用して、MP-BGP は VRF ごとに別の BGP ルーティング テーブルを維持します。MP-BGP 内で、境界リーフは BGP ルート リフレクタであるスパイン スイッチにルートをアドバタイズします。その後、ルートは VRF(APIC GUI の用語ではプラ イベート ネットワーク)がインスタンス化されているすべてのリーフに伝播されます。

外部レイヤ3 Outside 接続タイプ

ACIは、以下の外部レイヤ3 Outside 接続オプションをサポートします。

- ・スタティック ルーティング (IPv4 および IPv6 でサポート)
- ・標準および NSSA エリアの OSPFv2 (IPv4)
- ・標準および NSSA エリアの OSPFv3 (IPv6)
- iBGP (IPv4 および IPv6)
- ・eBGP (IPv4 および IPv6)
- ・BGP (IPv4 および IPv6)

外部レイヤ3 Outside 接続は、以下のインターフェイスでサポートされます。

- ・レイヤ3ルーテッドインターフェイス
- •802.1Qタギング対応のサブインターフェイス:サブインターフェイスを使用すると、複数 のプライベートネットワークに対するレイヤ2外部接続を提供できます。

 スイッチ仮想インターフェイス(SVI): SVI インターフェイスを使用すると、レイヤ2 とレイヤ3をサポートする同じ物理インターフェイスをレイヤ2外部接続とレイヤ3外部 接続に使用できます。

図 29: ACI レイヤ 3 管理対象オブジェクト



L3Outside 接続に使用される管理対象オブジェクトは、次のとおりです。

- 外部レイヤ3Outside (L3ext):ルーティングプロトコルオプション (OSPF エリアタイプ、エリア、EIGRP 自律システム、BGP)、プライベートネットワーク、外部物理ドメイン。
- ・論理ノードプロファイル:外部レイヤ3 Outside 接続に対して1つ以上のノードが定義されたプロファイル。ルータ ID とループバック インターフェイスの設定はプロファイルで定義されます。



(注) 複数の外部レイヤ 3 Outside 接続間の同じノードには同じルータ ID を使用してください。



- (注) 単一のL3Out内では、ノードは、1つの論理ノードプロファイルの一部でのみあり得ます。単一のL3Out内に複数の論理ノードプロファイルの一部であるノードを構成すると、1つの論理ノードプロファイルからループバックアドレスがプッシュされるものの、他方からはそうならないなど、予測できない動作が生じる可能性があります。既存の論理インターフェイスプロファイルの下の追加パスのバインディングを使用します。または、既存の論理ノードのプロファイルの下に新しい論理インターフェイスプロファイルを作成してください。
 - ・論理インターフェイス プロファイル: IPv4 および IPv6 インターフェイスの IP インター フェイス設定。これは、ルートインターフェイス、ルーテッド サブインターフェイス、 および SVI でサポートされます。SVI は、物理ポート、ポート チャネルまたは vPC で設 定できます。
 - OSPF インターフェイス ポリシー: OSPF のネットワーク タイプ、優先順位などの詳細が 含まれています。
 - EIGRP インターフェイス ポリシー:タイマー、スプリット ホライズン タイマーなどの詳細が含まれています。
 - BGP ピア接続プロファイル:ほとんどの BGP ピア設定、リモート AS、ローカル AS、および BGP ピア接続オプションが設定されるプロファイル。BGP ピア接続プロファイルは、ノード プロファイルの下の論理インターフェイス プロファイルまたはループバック インターフェイスに関連付けることができます。これは、BGP ピアリング セッションのupdate-source 設定を決定します。
 - 外部レイヤ 3 Outside EPG(l3extInstP):外部 EPG はプレフィックスベースの EPG また は InstP とも呼ばれます。インポートおよびエクスポートのルート制御ポリシー、セキュ リティインポート ポリシー、およびコントラクトの関連付けは、このプロファイルで定 義されます。単一L3Outの下に複数の外部 EPG を設定できます。単一外部レイヤ 3 Outside 接続で別のルートまたはセキュリティ ポリシーが定義されている場合、複数の外部 EPG を使用できます。1つの外部 EPG または複数の外部 EGP がルート マップにまとめられま す。外部 EPG で定義されるインポート/エクスポート サブネットは、ルート マップの IP プレフィックス リストの match 句と関連しています。外部 EPG は、インポート セキュリ ティサブネットとコントラクトが関連付けられる場所でもあります。これは、この L3out のトラフィックの許可またはドロップに使用されます。
 - アクションルールプロファイル:アクションルールプロファイルは、L3Outのルートマップのset句を定義するために使用されます。サポートされるset句は、BGP communities (standard および extended)、Tags、Preference、Metric、および Metric type です。
 - ルート制御プロファイル:ルート制御プロファイルは、アクション ルール プロファイル を参照するために使用されます。これは、アクション ルール プロファイルの順序付きプ ロファイルにすることができます。ルート制御プロファイルは、テナント BD、BD サブ ネット、外部 EPG、または外部 EPG サブネットで参照できます。

BGP、OSPF、およびEIGRP L3Out 用の追加のプロトコル設定が存在します。これらの設定は、 GUIの [ACI Protocol Policies] セクションでテナントごとに設定されます。



(注) 外部 EPG (中継ルーティング ケース)の間でポリシーの適用を設定する際には、エクスポート ルート制御、集約エクスポート、および外部のセキュリティのために、デフォルトプレフィッ クスである 0/0 で2番目の外部 EPG (InstP)を設定する必要があります。さらに、優先グループ を除外し、中継 InstPs 間では任意の契約 (または適切な契約)を使用する必要があります。

レイヤ3外部接続の設定のモードについて

APIC は設定のための複数のユーザインターフェイス(UI)をサポートしているので、1つの UI を使用して設定を作成し、その後、別の UI を使用して設定を変更する場合は、予期しないインタラクションが潜んでいます。ここでは、さらに他の APIC のユーザインターフェイスを使用した可能性がある場合、APIC NX-OS スタイルの CLI を使用してレイヤ3外部接続を設定するための考慮事項を説明します。

APIC NX-OS スタイルの CLI を使用してレイヤ3外部接続を設定する場合、次の2つのモードを選択することができます。

- •よりシンプルな暗黙 モードは、APIC GUI または REST API と互換性がありません。
- •名前付き(または明示)モードは、APIC GUI および REST API と互換性があります。

いずれの場合も、設定は互換性がない UI では読み取り専用であると考えてください。

モードの違いについて

どちらのモードでも、構成設定は API の **l3extOut** クラスのインスタンスである内部コンテナ オブジェクト「L3 Outside」(または「L3Out」)内で定義されます。2 つのモード間の主な違 いは、このコンテナ オブジェクト インスタンスの命名にあります。

- ・暗黙モード:コンテナのネーミングは潜在的であり、CLIコマンドには表示されません。 CLIは、これらのオブジェクトを内部的に作成し保持します。
- 名前付きモード:名前はユーザーが決定します。名前付きモードのCLIコマンドには、追加のl3Outフィールドがあります。名前付きL3Outがを正常に設定され障害を回避するためには、ユーザーが外部レイヤ3用のAPIオブジェクトモデルを理解する必要があります。



(注) 「名前付きモードセクションを使用したレイヤ3外部接続の設定」セクションの手順を除き、 このガイドでは、暗黙モードの手順を説明します。

注意事項および制約事項

- 同じAPICインターフェイスでは、両方のモードを、次の制限でレイヤ3外部接続を設定 するために一緒に使用することができます。テナントVRF、およびリーフの特定の組み合 わせのレイヤ3外部接続設定は、1つのモードを介してのみ実行できます。
- ・特定のテナント VRF の場合、外部 L3 EPG を配置できるポリシードメインは、名前付き モードまたは暗黙モードのいずれかになります。推奨する設定方式は、特定のテナント VRF が、レイヤ3外部接続用に展開されたすべてのノード全体で、特定のテナント VRF の組み合わせに対して1つのモードだけを使用することです。モードは、異なるテナント または異なる VRF 全体で変えることができ、制限は適用されません。
- 場合によっては、Cisco APICクラスタへの着信設定で不整合が検証されます。外部から確認できる設定(L3Outを通過するノースバウンドトラフィック)も検証の対象です。設定が無効な場合は、「Invalid Configuration」エラーメッセージが表示されます。
- 外部レイヤ3機能は、次の例外を除いて、両方の設定モードでサポートされます
 - L4 ~ L7 サービス アプライアンスを使用したルーティング ピアリングとルート ヘル スインジェクション(RHI)は、名前付きモードでのみをサポートされます。名前付き モードは、ルーティング ピアリングが含まれるテナント VRF のすべての境界リーフ スイッチ全体で使用する必要があります。
- ・暗黙モード CLI 手順を使用して作成されたレイヤ3外部ネットワークオブジェクト (l3extOut)は、「_ui」で始まる名前で識別され、GUIで読み取り専用としてマークさ れます。CLIは、インターフェイス、プロトコル、ルートマップ、EPGなどの機能で、こ れらの外部L3ネットワークを分割します。REST APIを介して実行される設定変更は、こ の構造を破棄することができ、CLI を介してさらなる変更を防ぐことができます。

このようなオブジェクトを削除する手順については、『APIC Troubleshooting Guide』の「Troubleshooting Unwanted _ui_ Objects」を参照してください。

L30ut ネットワーク インスタンス プロファイルで設定さ れているサブネットで有効な制御

L3Out ネットワーク インスタンス プロファイルで設定されているサブネットに対して以下の 制御を有効にすることができます。

I

表 9: ルート制御オプション

ルート制御設定	用途	オプション (Options)
エクスポート ルート制御	ルートマップとIPプレフィク スリストを使用して、どの外 部ネットワークがファブリッ クからアドバタイズされるか を制御します。IP プレフィッ クスリストは、定義されてい るサブネットごとにBLスイッ チに作成されます。エクス ポート制御ポリシーは、デ フォルトで有効になってお り、BGP、EIGRP、および OSPFでサポートされていま す。	特定の一致(プレフィックスと プレフィックス長)。
インポート ルート制御	ファブリックに許可されてい るサブネットを制御します。 ルールを設定してルートを フィルタリングすることがで きます。BGP および OSPF で はサポートされますが、EIGRP ではサポートされますとん。サ ポートされていないプロトコ ルのインポート制御ポリシー を有効にすると、自動的に無 引きれます。インポート制御 ポリシーは、デフォルトでは 有効になっていませんが、 [L3Out の作成 (Create L3Out)]パネルで有効にする ことができます。[Identity]タ ブで、[Route Control Enforcement: Import]を有効に します。	特定の一致(プレフィックスと プレフィックス長)。
セキュリティインポートサブ ネット	2 つのプレフィックス ベース の EPG 間をパケットが流れる ようにするために使用されま す。ACL で実装されます。	ACL のプレフィックスまたは ワイルドカードによる一致 ルールを使用します。

ルート制御設定	用途	オプション (Options)
集約エクスポート	すべてのプレフィックスを外 部ピアにアドバタイズできる ようにするために使用されま す。0.0.0.0/le32IPプレフィッ クスリストで実装されます。	0.0.0.0/0 サブネット (すべての プレフィックス)の場合にのみ サポートされます。
集約インポート	外部 BGP ピアからの着信であ るすべてのプレフィックスを 許可するために使用されま す。0.0.0.0/0 le 32 IP プレ フィックス リストで実装され ます。	0.0.0.0/0 サブネット (すべての プレフィックス)の場合にのみ サポートされます。

L3Out接続からすべての中継ルートをアドバタイズすることをお勧めします。この場合、プレフィックス0.0.0/0の集約エクスポートオプションを使用します。この集約エクスポートオプションを使用すると、APICシステムがエクスポートルートマップのマッチ句として使用する IP プレフィクスリストエントリ (permit 0.0.0/0 le 32) が作成されます。出力を表示するには、 show route-map <outbound route-map> および show ip prefix-list <match-clause> コマンドを使用します。

集約共有ルートを有効にすると、ある VRF で学習されたルートを別の VRF にアドバタイズす る必要がある場合、サブネットを正確に一致させることでルートを共有するか、集約サブネッ トマスクを使用してルートを共有できます。複数のサブネットマスクを使用して、特定のルー トグループを VRF 間で共有するかどうかを判断できます。たとえば、10.1.0.0/16と12.1.0.0/16 を指定してこれらのサブネットを集約することができます。あるいは、0/0を使用すると、複 数の VRF のすべてのサブネットルートを共有できます。

(注) 第2世代のスイッチのVRF機能間で正常にルートが共有されます(N9K-93108TC-EXなど、 スイッチモデル名の最後やその後に「EX」や「FX」がつく Cisco Nexus N9K)。第1世代の スイッチですが、ルートを保存する物理的な3進コンテンツ対応メモリ(TCAM)にルートの 解析を完全にサポートするだけの容量がないため、この設定のパケットは失敗する可能性があ ります。

ACI レイヤ 3 Outside ネットワークのワークフロー

このワークフローでは、レイヤ 3 Outside (L3Out) ネットワーク接続を設定するために必要なス テップの概要を示します。

図 30: レイヤ 3 Outside ネットワーク接続



1. 前提条件

- インフラセキュリティドメインに読み取り/書き込みアクセス権限があることを確認します。
- ・必要なインターフェイスを持つターゲットリーフスイッチが使用できることを確認します。

レイヤ3 Outside ネットワークの設定

次の L3Outl シナリオのいずれかを選択します。

- ・単一のテナント内で消費されるL3Outについて、BGPまたはOSPFの設定の指示に従います。
- 複数のテナント間で消費 (共有) される L3Out について、「共有レイヤ 3 Out」のガイドラ インに従います。
- •L3Outの中継ルーティング使用例については、ACI 中継ルーティング手順に従ってください。
- 注:この機能には APIC リリース 1.2(1x)以降が必要です。



外部ネットワークへのルーテッド接続

この章は、次の内容で構成されています。

- ・外部ネットワークヘルートされた接続について (261ページ)
- L3Out ウィザードの作成 (263 ページ)
- •アドバタイズホストルート (277ページ)
- ルートリフレクタの設定(280ページ)

外部ネットワークヘルートされた接続について

ネットワーク構成(L3Out)外部レイヤ3では、ファブリック以外のトラフィックを転送する方 法を定義します。レイヤ3はし、他のノードのアドレスを見つける、ルートを選択して、サー ビスの品質を選択して、入力して、終了、およびファブリックを移動する際は、トラフィック を転送に使用されます。



(注) ガイドラインとの設定と接続の外部レイヤ3を維持するための注意事項は、次を参照してくだ さい。レイヤ3ネットワーキングの注意事項(477ページ)。

L3Outs の種類についての詳細は、外部レイヤ 3 Outside 接続タイプ (253 ページ) を参照して ください。

外部ネットワークへのルーテッド接続のためのレイヤ3Out

外部ネットワークへのルーテッド接続は、次の図の階層で示すようにファブリックアクセス (infraInfra)外部ルーテッドドメイン (13extDomP) をレイヤ3外部外側ネットワーク (13extOut)のテナントレイヤ3外部インスタンスプロファイル (13extInstP または外部 EPG) に関連付けることによって有効になります。 図 *31* : レイヤ *3* 外部接続のポリシー モデル



レイヤ3外部アウトサイドネットワーク(13extOut オブジェクト)には、ルーティングプロ トコルのオプション(BGP、OSPF、または EIGRP またはサポートされている組み合わせ)お よびスイッチとインターフェイス固有の設定が含まれています。13extOut にルーティングプ ロトコル(たとえば、関連する仮想ルーティングおよび転送(VRF)およびエリア ID を含む OSPF)が含まれる一方で、レイヤ3外部インターフェイスのプロファイルには必要な OSPF インターフェイスの詳細が含まれます。いずれも OSPF のイネーブル化に必要です。

13extInstP EPG は、コントラクトを通してテナント EPG に外部ネットワークを公開します。 たとえば、Web サーバのグループを含むテナント EPG は、13extOut に含まれるネットワーク 設定に応じてコントラクトを介して 13extInstP EPG と通信できます。外部ネットワーク設定 は、ノードをL3 外部ノードプロファイルに関連付けることで複数のノードに容易に再利用で きます。同じプロファイルを使用する複数のノードをフェールオーバーやロードバランシング のために設定できます。ノードを複数の I3extOuts に追加することで、I3extOuts に関連付けら れている VRF がノードでも展開されます。拡張性に関する情報については、現行の「Verified Scalability Guide for Cisco ACI」を参照してください。

L30ut ウィザードの作成

APIC リリース 4.2(1) には、L3Out を設定するための簡単なウォークスルーを提供する新しい Create L3Out ウィザードが導入されています。

Create L3Out ウィザードは、ACI ファブリックが外部レイヤ3ネットワークに接続する方法を 定義するL3Outの設定プロセスを合理化します。[L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザード を使用して、次のページでL3Out コンポーネントに必要な基本設定を行います。

- [識別(Identity)] ページ:このページは、L3Outの基本設定、およびスタティックルー ティングとダイナミックルーティングプロトコルの設定に使用します。
- [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ページ:このページは、レイヤ3お よびレイヤ2インターフェイスタイプのノードプロファイルとインターフェイスプロファ イルを設定するために使用されます。
- •[プロトコル (Protocols)]ページ:このページは、[識別 (Identity)]ページで選択したプロトコルに基づいて特定のポリシーを設定するために使用します。
- [外部 EPG (External EPG)]ページ:このページは、外部 EPG のコントラクトとサブネットを設定するために使用します。

L30ut の設定例

[L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードを使用してL3Outを設定する場合は、さまざまなオ プションを使用できます。次に、2つの外部ルータで OSPF L3Out を設定する L3Out 設定の例 を示します。これは、一般的な設定プロセスを理解するのに役立ちます。

(注) この例では、Cisco APIC リリース 4.2(x) および関連する GUI 画面を使用します。

トポロジの例



図 *32 : 2* つの外部ルータがある *0SPF L30ut* のトポロジ例

この基本的なL3Outの例は、次の方法を示しています。

- 次の仕様でL3Outを設定します。
 - ・エリア0のOSPF
 - ・2台の外部ルータを使用
 - •ルーテッドインターフェイス
 - •2つの境界リーフスイッチ
- ・デフォルトルートマップ(default-export)を使用して BD サブネットをアドバタイズします。
- EPG1 と外部ルート(10.0.0.0/8)間のコントラクトとの通信を許可する

図 33: OSPF 構成図



上記の図は、のトポロジ例の設定を示しています。図 32:2つの外部ルータがある OSPF L3Out のトポロジ例 (264 ページ) この例の設定フローは次のとおりです。

- 1. L3Out:これにより、
 - •L3Out 自体 (OSPF パラメータ)
 - ・ノード、インターフェイス、OSPF I/F プロファイル
 - ・外部 EPG の範囲の外部サブネットを持つ L3Out EPG
- 2. BD サブネットのアドバタイズ:
 - default-export route-map
 - Advertise Externallyスコープを持つ BD サブネット
- **3.** EPG-L3Outコミュニケーションを許可(Allow EPG-L3Out communication): これは、EPG1 と L3Out EPG1 間のコントラクトを使用します。

前提条件

Example (\mathbf{r}) Static Ports 00 C Quick Start 1 F 0 + **-Example Path Primary VLAN Port Encap (or Deployment Mode for Micro-Seg Application Profiles Secondary Immediacy VLAN for AP1 Micro-Seg) E Application EPGs ■ Node: Pod-1 V 🎇 EPG1 Pod-1/Node-101... unknown vlan-10 Immediate Trunk E Domains (VMs and Bare-Met. EPG Members Static Ports Pod-1/Node-101/eth1/1 E Static Leafs Fibre Channel (Paths) Contracts E Static Endpoint Subnets E L4-L7 Virtual IPs E L4-L7 IP Address Pool uSeg EPGs Endpoint Security Groups Networking IP Address: 192.168.1.254/24 🚞 Bridge Domains Description: optional / 🕕 BD1 > 🚞 DHCP Relay Labels Treat as virtual IP address: 🗌 Subnets Make this IP address primary: 🗌 192.168.1.254/24 = → Scope: Advertised Externally Shared between VRFs To Proxy Subnets Subnet Control: 🗌 No Default SVI Gateway VRFs Querier IP L3 Out for Route Profile: select a value VRF1 External Bridged Networks Route Profile: select a value

図 34:前提条件として作成されたオブジェクトの画面例

- この設定例では、L3Out 設定部分のみに焦点を当てています。VRF、BD、EPG、アプリケーションプロファイル、アクセスポリシー(レイヤ3ドメインなど)などの他の設定は対象外です。上記のスクリーンショットは、次のような前提条件のテナント設定を示しています。
 - VRF1
 - ・サブネット192.168.1.254/24のBD1
 - ・エンドポイントへのスタティック ポートを持つ EPG1

Create L30ut Wizard を使用した L30ut の作成例

このタスクでは、「トポロジの例」で説明する OSPF L3Out を作成します。このタスクに続いて、に示すように、2 つの境界リーフスイッチと2 つの外部ルータとの OSPF ネイバーシップ

を設定します。Cisco ACI図 32:2 つの外部ルータがある OSPF L3Out のトポロジ例 (264 ページ)

手順

- **ステップ1** GUIの[ナビゲーション (Navigation)]ペインの、[テナント例 (Tenant Example)]で[ネット ワーキング (Networking)][L3Out]の順に移動します。 >
- ステップ2 [L3Out の作成(Create L3Out)]を右クリックして選択します。
- **ステップ3** [L3Outの作成(Create L3Out)]スクリーンで、[識別(Identity)]タブを選択して次のアクションを実行します。

Create L3Out						08
			1. Identity 2	Nodes And Interfaces	3. Protocols	4. External EPG
Leaf			Protocol			Router
Identity A Layer : networks Prerequi - Config - Config	3 Outside (L3Out) netwo s using static routing and sites: jure an L3 Domain and F jure a BGP Route Reflec	rk configuration defines 4 dynamic routing protoc abric Access Policies for tor Policy for the fabric in	how the ACI fabric connects to ex ols (BGP, OSPF, and EIGRP). r interfaces used in the L3Out (AAI fra MP-BGP.	ternal layer 3 networks. Ti EP, VLAN pool, Interface s	he L3Out supports co electors).	nnecting to external
Name: VRF: L3 Domain: Use for GOLF:	EXAMPLE_L3Out1 VRF1 EXAMPLE_L3_DOM	\~\ & ~\ &	OSPF Area Type: OSPF Area Type: OSPF Area Cost:	CP EXCRP © Send redistributed LSAs int © Originate summary LSA Suppress forwarding addre NSSA area Regular a 1	COSPF to NSSA area ss in translated LSA rea Stub area	
					Previous	Cancel Next

- a) [名前 (Name)]フィールドで、L3Out の名前を入力します。 (EXAMPLE_L3Out1)
- b) [VRF] フィールドおよび [L3 ドメイン(L3 Domain)] フィールドで、適切な値を選択しま す。(VRF1, EXAMPLE_L3DOM)
- c) [OSPF] フィールドで、チェック ボックスをオンにします。
- d) [OSPF 領域 ID (OSPF Area ID)]フィールドで、値0またはテキスト[バックボーン (backbone)]を選択します。
- e) [OSPF領域タイプ (OSPF Area Type)]フィールドで、[レギュラー領域 (Regular area)]を 選択します。
- f) 残りのフィールドはデフォルト値のままにします。

ステップ4 [次へ (Next)]をクリックして[ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)] 画面を表示し、次の操作を実行します。

ate L3Out							2
				1. Iden	tity 2. Nodes And Interface	as 3. Protocols	4. External EPG
Nodes and Interfaces	;						
The L3Out configuration n a single node profile a separate interface profil	a consists of node and is required fo ie is required for t	e profiles a r nodes th he IPv4 an	nd interface pr at are part of a nd IPv6 configu	rofiles. An L3Out can s VPC pair. Interface pr ration, that is automati	pan across multiple nodes in the fo ofiles can include multiple interfac cally taken care of by this wizard.	abric. All nodes used b es. When configuring o	ny the L3Out can be include dual stack interfaces a
Use Defaults: 🗹 terface Types				_			
Layer 3: Rou	Ited Routed Su	b SVI	Floating SV				
Layer 2: Por odes Node ID	t Direct Port Cl	Router ID		Loopback Address			
leaf2 (Node-102)		2.2.2.2			Hide Interfaces		
				Leave empty to not configure any Loopback	A		
Interface	IP Address		MTU (bytes)			Cli	ick + icon to ad
eth1/11 ~	172.16.1.1/30		inherit		-	an	other node
interface	IP Address		MTU (bytes)	1			
eth1/12	172.16.2.1/30 address/mask		inherit			Cli an	ick + icon to ad other interface
Node ID		Router ID		Loopback Address			
leaf3 (Node-103)		3.3.3.3		Leave empty to not configure any Loopback	Hide Interfaces		
Interface	IP Address		MTU (bytes)				
eth1/11 🗸	172.16.3.1/30 address/mask		inherit				
	IP Address		MTU (bytes)				
Interface							
eth1/12 V	172.16.4.1/30		inherit	(B) (H)			

- a) [インターフェイスタイプ (Interface Types)]領域の[レイヤ3 (Layer 3)]フィールドと [レイヤ2 (Layer 2)]フィールドで、選択内容が上記のスクリーンショットの選択内容 と一致することを確認します。
- b) [ノード (Nodes)]領域で、[ノード ID (Node ID)]フィールドのドロップダウンリスト からノード ID を選択します。(leaf2 (Node 102))
- c) [ルータ ID (Router ID)] フィールドに、適切なルータ ID を入力します。(2.2.2.2)

[ループバックアドレス(Loopback Address)]フィールドは、入力したルータ ID 値に基 づいて自動的に入力されます。ループバックアドレスは必要ないため、値を削除し、 フィールドを空白のままにします。

- d) [インターフェイス (Interface)] フィールドで、インターフェイス ID を選択します。 (eth1/11)
- e) [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、関連付けされた IP アドレスを入力します。 (172.16.1.1/30)
- f) [MTU] フィールドはデフォルト値のままにします。(inherit)

- g) [MTU] フィールドの横にある [+] アイコンをクリックして、ノード leaf2 のインターフェ イスを追加します。(Node-102)
- h) [インターフェイス (Interface)] フィールドで、インターフェイス ID を選択します。 (eth1/12)
- i) [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、関連付けされた IP アドレスを入力します。 (172.16.2.1/30)
- j) [MTU] フィールドはデフォルト値のままにします。(inherit)
- ステップ5 別のノードを追加するには、[ループバックアドレス(Loopback Address)]フィールドの横に ある[+]アイコンをクリックし、次の操作を実行します。
 - (注) [+]アイコンをクリックすると、以前に入力した領域の下に新しい[ノード(Nodes)] 領域が表示されます。
 - a) [ノード (Nodes)]領域で、[ノードID (Node ID)]フィールドのドロップダウンリストか らノードID を選択します。(leaf3 (Node-103))
 - b) [Router ID] フィールドに、ルータ ID を入力します。(3.3.3.3)

[ループバックアドレス(Loopback Address)]フィールドは、入力したルータ ID 値に基づ いて自動的に入力されます。ループバックアドレスは必要ないため、値を削除し、フィー ルドを空白のままにします。

- c) [インターフェイス(Interface)] フィールドで、インターフェイス ID を選択します。 (eth1/11)
- d) [IP Address] フィールドに、IP アドレスを入力します。(172.16.3.1/30)
- e) [MTU] フィールドはデフォルト値のままにします。(inherit)
- f) [MTU] フィールドの横にある [+] アイコンをクリックして、ノード leaf3 のインターフェイ スを追加します。(Node-103)
- g) [インターフェイス (Interface)] フィールドで、インターフェイス ID を選択します。 (eth1/12)
- h) [IP アドレス(IP Address)] フィールドに、関連付けされた IP アドレスを入力します。 (172.16.4.1/30)
- i) [MTU]フィールドはデフォルト値のままにします。(inherit)、[次へ(Next)]をクリックします。

```
各インターフェイスのノード、インターフェイス、および IP アドレスを指定しました。
```

ステップ6 [次へ (Next)]をクリックして、[プロトコル (Protocols)]画面を表示します。

08

この画面では、hello-interval、network-typeなどを設定するためのOSPFインターフェイスレベルポリシーを指定できます。 Create L3Out

			1. Identity	2. Nodes And Interfaces	3. Protocols	4. External EF
ol Associations						
OSPF						
Node ID: 102						
late days	Defen:			Hide Policy		
1/11,1/12	select a value	~				
Node ID: 103						
Law days	0.1			Hide Policy		
1/11,1/12	Policy select a value	~				

この例では、何も選択されていません。したがって、デフォルトポリシーが使用されます。デ フォルトの OSPF インターフェイス プロファイルは、ネットワーク タイプとして Unspecified を使用します。デフォルトはブロードキャスト ネットワーク タイプです。サブインターフェ イスのポイントツーポイントネットワークタイプでこれを最適化するには、「OSPF インター フェイスレベルパラメータの変更(任意)」を参照してください。

ステップ7 [次へ (Next)] をクリックします。

[外部 EPG (External EPG)] 画面に L3Out EPG の詳細が表示されます。この設定では、コント ラクトに適用する EPG にトラフィックを分類します。

ステップ8 [外部 EPG (External EPG)] スクリーンで次のアクションを実行します。 Create L3Out

		1. Id	entity 2. Node	s And Interfaces 3. Pro	otocols 4. External EPG
External EPG					
The L3Out Net for applying co fabric.	work or External EPG is used for traffic intracts. Route control policies are used	classification, contract asso d for filtering dynamic route:	ociations, and route co s exchanged between	ontrol policies. Classification is ma the ACI fabric and external device	atching external networks to this EP ces, and leaked into other VRFs in th
	Name: L3Out_EPG1				
P	Provided Contract: select a value	~			
Co	nsumed Contract: common/default	9			
Default EPG for all e	external networks:				
ubnets					
ubnets					1
ubnets IP Address	Scope	Name	Aggregate	Route Control Pr	rofile Route Summarization Policy
IP Address	Scope External Subnets for the External El	Name	Aggregate	Route Control Pr	rofile Route Summarization Policy

- a) [外部 EPG (External EPG)]領域で、[名前 (Name)]フィールドに、外部 EPG の名前を入 力します。(L3Out_EPG1)
- b) [提供されたコントラクト (Provided Contract)]フィールドでは、値を選択しないでください。

この例では、通常のEPG(EPG1)がプロバイダーであるため、L3Out_EPG1に提供される コントラクトはありません。

- c) [消費されたコントラクト (Consumed Contract)] フィールドで、ドロップダウンリストから、[デフォルト (default)]を選択します。
- **ステップ9** [すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external networks)]フィール ドで、チェックボックスをオフにし、次の操作を実行します。
 - a) [サブネット (Subnets)]領域の[+]アイコンをクリックして、[サブネットの作成 (Create Subnet)]ダイアログボックスを表示します。
 - b) [IP アドレス (IP Address)] フィールドに、サブネットを入力します。(10.0.0.0/8)
 - c) [外部 EPG 分類(External EPG Classification)]フィールドで、[外部 EPG の外部サブネット (External Subnets for the External EPG)]のチェックボックスをオンにします。[OK] をク リックします。
- ステップ10 [サブネット(Subnets)]領域の[+]アイコンをもう一度クリックして[サブネットの作成(Create Subnet)]ダイアログボックスを表示し、次の操作を実行します。
 - (注) これはオプションの設定ですが、エンドポイントがこれらの IP と通信する必要が ある場合に備えて、L3Outインターフェイスサブネットを指定することをお勧めし ます。
 - a) [IP アドレス (IP Address)]フィールドに、サブネットを入力します。(172.16.0.0/21) このサブネットは、L3Out 内のすべてのインターフェイスをカバーします。代わりに、各 ルーテッドインターフェイスの個々のサブネットを使用できます。
 - b) [外部 EPG 分類(External EPG Classification)]フィールドで、[外部 EPG の外部サブネット (External Subnets for the External EPG)]のチェックボックスをオンにします。[OK] をク リックします。
 - c) [終了] をクリックします。

L3Out OSPF が展開されました。

確認:Create L3Out Wizard を使用した L3Out の作成例

ウィザードを使用した設定が GUI にどのように表示されるかを確認し、設定が正確であることを確認します。Cisco APIC

手順

ステップ1 [作業(Work)]ペインで、[Tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[L3Outs]> [EXAMPLE_L3Out1]の順に移動し、次のようにスクロールして詳細を表示します。

> GUI のこの場所で、[L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードの[識別(Identity)]画面で設 定されている VRF、ドメイン、OSPF パラメータなどの主要な L3Out パラメータを確認しま す。



- **ステップ2** OSPF がエリア ID やエリア タイプなどの指定されたパラメータで有効になっていることを確認します。
- **ステップ3** [論理ノードプロファイル(Logical Node Profiles)] の下に、EXAMPLE_L3Out1_nodeProfile が 作成され、ルータ ID で境界リーフ スイッチが指定されます。
- **ステップ4** [論理インターフェイス プロファイル(Logical Interface Profile)] の下に、 EXAMPLE_L3Out1_interfaceProfile が作成されます。

この例では、インターフェイス ID、IP アドレスなどのインターフェイスパラメータをルーテッドインターフェイスとして確認します。デフォルトの MAC アドレスが自動的に入力されます。OSPF インターフェイス プロファイルは、OSPF インターフェイス レベルのパラメータに対しても作成されます。

レビューが完了しました。

ルート マップによる BD サブネットのアドバタイズの設定

この例では、ルート マップ default-export を IP プレフィックス リストとともに使用して、BD サブネットをアドバタイズします。



ステップ2 L3Out (EXAMPLE_L3Out1) の下にルートマップを作成するには、[ルート制御のインポート およびエクスポート向けルートマップ (Route map for import and export route control)]に移動 します。



- **ステップ3** 右クリックして[ルート制御のインポートおよびエクスポート向けルートマップの作成 (Create Route map for import and export route control)]を選択します。
- **ステップ4** [ルート制御のインポートおよびエクスポート向けルート マップの作成 (Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスの[名前 (Name)]フィールドで、 [default-export] を選択します。
- **ステップ5** [タイプ(Type)] フィールドで、[ルート ポリシーの一致のみ(Match Routing Policy Only)] を選択します。

 (注) [ルーティングポリシーのみ照合(Match Routing Policy Only)]: この[タイプ (Type)]を default-export ルート マップで選択すると、すべてのルート アドバタ イズメント設定がこのルートマップによって実行されます。外部 EPG で設定され たBDアソシエーションおよびエクスポートルート制御サブネットは適用されませ ん。このL3Outからアドバタイズされるすべてのルートに対して、このルートマッ プ内のすべての一致ルールを設定する必要があります。

[プレフィックスおよびルーティング ポシリーの照合(Match Prefix and Routing Policy)]: この[タイプ(Type)]を default-export ルートマップで選択すると、ルートアドバタイズメントは、外部 EPG で定義された BD から L3Out へのアソシエーションおよびエクスポート ルート制御サブネットに加えて、このルートマップで設定されたすべての一致ルールと照合されます。

ルートプロファイルを使用する場合は、メンテナンスが容易なシンプルな設定のために [ルーティング ポリシーのみ照合(Match Routing Policy Only)]を使用することを推奨します。

- ステップ6 [コンテキスト (Contexts)]領域で [+] アイコンをクリックして、[ルート制御コンテキストの 作成 (Create Route Control Context)]ダイアログボックスを表示し、次のアクションを実行 します。
 - a) [順序(Order)]フィールドで、順序を設定します。(0)

この例では、注文は1つだけです。

- b) [名前(Name)]フィールドに、コンテキストポリシーの名前を入力します。(BD Subnets)
- c) **[アクション**(Action)]フィールドで [許可(Permit)]を選択します。

これにより、設定するプレフィックスを許可するルートマップが有効になります。

この例では、IP プレフィックス リスト [**BD1_prefix**] を必要とする一致ルールが必要です。この IP プレフィックス リストは、アドバタイズされた BD サブネットを指します。

- ステップ7 [一致ルール (Match Rule)]フィールドで、次の操作を実行して IP プレフィックス リストを作成します。
 - a) [ルートマップの一致ルールの作成(Create Match Rule for a Route-Map)]を選択します。
 - b) [名前 (Name)] フィールドに、名前 [BD1_prefix] を入力します。
 - c) [プレフィクスの一致 (Match Prefix)]領域で、[+]アイコンをクリックし、BD サブネット (192.168.1.0/24) を入力します。

コントラクトの確認

このタスクでは、エンドポイント(192.168.1.1)と外部プレフィックス(10.0.0.0/8、およびオ プションで172.16.0.0/21)間の通信を有効にするためのコントラクトを確認します。この例で は、エンドポイントのEPGはEPG1で、外部プレフィックスの外部EPGはL3Out_EPG1です。 必要な設定は、[L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードにすでに表示されています。

手順

ステップ1 L3Out で [外部 EPG (External EPGs)]> [L3Out_EPG1] に移動します。



- ステップ2 [作業(Work)]ペインの[外部 EPG インスタンスプロファイル(External EPG Instance Profile)]
 領域の[ポリシー全般(Policy General)]サブタブで、[プロパティ(Properties)]を確認し、外
 部 EPG の[外部サブネット(External Subnets)]で2つのサブネットが表示されることを確認
 します。>
- ステップ3 次に、[コントラクト (Contracts)]サブタブをクリックし、前に指定した契約が正しく使用さ れていることを確認します。さらにコントラクトを追加する場合は、GUIでこの場所からアク ションを実行できます。
- **ステップ4** [アプリケーションプロファイル (Application Profile)][アプリケーション EPG (Application EPGs)][EPG1][コントラクト (Contracts)]に移動し、EPG1 が適切なコントラクトを提供していることを確認します。>>>

OSPF インターフェイス レベル パラメータの変更(任意)

Hello Interval、OSPF ネットワーク タイプなどの OSPF インターフェイス レベルのパラメータ を変更する場合は、OSPF インターフェイス プロファイルで設定できます。ノード レベルの OSPF パラメータはすでに設定されています。

手順

ステップ1 L3Out で、[論理インターフェイス プロファイル(Logical Interface Profile)]の [EXAMPLE L3Out1 interfaceProfile] に移動します。 > >



ステップ2 [ワーク(Work)] ペインの [プロパティ(Properties)] 領域で、使用する OSPF インターフェ イス ポリシーを選択します。

これにより、OSPF インターフェイス レベルのパラメータが変更されます。

アドバタイズ ホスト ルート

BDでアドバタイズホストルートを有効にすると、個々のホストルート(/32 および/128 のプ レフィクス)が境界リーフスイッチ(BL)からアドバタイズされます。BDは、L3outまたは ホストルートに一致する明示的なプレフィックスリストに関連付けられている必要がありま す。ホストルートは、ファブリック外のホストルートをアドバタイズするように設定する必 要があります。

境界リーフスイッチとサブネットは、個々のエンドポイント(EP)プレフィックスをアドバ タイズします。ルート情報は、ホストがローカル POD に接続されている場合にのみアドバタ イズされます。EP がローカル POD から離れた、または EP が EP データベースから削除された



場合(そのEPがリモートリーフに接続されていた場合であっても)、ルートアドバタイズメントはその時に撤回されます。

アドバタイズ ホスト ルートの設定ガイドラインと制限事項を次に示します。

- ホストルートがアドバタイズされると、VRFトランジットルートタグが設定されて、 ルートがファブリックにアドバタイズされてインストールされないようにします。この ループ保護が正常に機能するためには、外部ルータが別のL3Outにアドバタイズする場 合、このルートタグを保持する必要があります。
- ・ブリッジドメインが、内部リーク用に設定された同じサブネットを持つ EPG に関連付けられている場合は、EPG サブネットで「外部アドバタイズ」フラグも有効にする必要があります。
- 第2世代以降のスイッチ(N9K-93108TC-EXなど、スイッチモデル名の最後やその後に「EX」、「FX」または「FX2」がつく Cisco Nexus N9K スイッチ)で、アドバタイズホストルート機能がサポートされます。
- ホストルートのアドバタイズメントは、BDからL3outへのアソシエーションと明示的なルートマップ設定の両方をサポートしています。設定するホストルートを個々にまたは範囲を定めて確実に制御しながら設定できるため、明示的なルートマップの設定を使用することをお勧めします。
- SITE-1のEP/ホストルートは、他のSITEの境界リーフを介してアドバタイズされません。

- EP がエージングするかデータベースから削除されると、ホストルートは境界リーフから 撤回されます。
- EP を SITE または POD 全体で移動させる場合、ホスト ルートを最初の SITE/POD から撤回し、新しい POD/SITE でアドバタイズしてください。
- いずれかの BD サブネットの下の特定の BD で学習された EP は、同じ POD 内の境界リーフ上で L3out からアドバタイズされます。
- EPは、境界リーフ経由のローカル POD 内でのみ、ホストルートとしてアドバタイズされます。
- ・ある POD から別の POD にホスト ルートがアドバタイズされることはありません。
- リモートリーフでは、EP がリモートリーフ内でローカルで学習された場合、同じ POD 内のリモートリーフスイッチに導入された L3out を通じてのみ、それらの EP はアドバタ イズされます。
- リモート リーフの EP/ホスト ルートは、主要 POD または別の POD の境界リーフ スイッ チを通じてアドバタイズされません。
- 主要 POD の EP/ホスト ルートは、同じ POD または別の POD のリモート リーフ スイッチのL3out を通じてアドバタイズされません。
- •BD サブネットでは、[**外部にアドバタイズ**(Advertise Externally)] オプションが有効に なっている必要があります。
- BD が L3out に関連付けられているか、または L3out に明示的なルートマップが設定され た一致する BD サブネットがなければなりません。
- •L3out では、指定された BD の EPG と外部 EPG の間に契約が必要です。



- (注) BD/EPG と外部 EPG の間に契約がない場合、境界リーフに BD サ ブネットおよびホスト ルートがインストールされません。
 - アドバタイズホストルートは、共有サービスでサポートされます。例:導入された
 EPG1/BD1は VRF1で、L3out は別の VRF2でアドバタイズできます。EPGとL3outの間に共有契約を提供することで、ホストルートは1つの VRF-1から別の VRF-2 にプルされます。
 - BD でアドバタイズ ホスト ルートを有効にした場合、ルートマップを使用して BD サブ ネット上で カスタム タグを設定することはできません。
 - BD でアドバタイズ ホスト ルートが有効になっており、BD が L3Out に関連付けられてい る場合、BD サブネットはパブリックとしてマークされます。BD の下に不正な EP が存在 する場合、その EP は L3Out でアドバタイズされます。

ルート リフレクタの設定

ACIファブリックのルートリフレクタは、マルチプロトコルBGP(MP-BGP)を使用してファ ブリック内に外部ルートを配布します。ACIファブリックでルートリフレクタをイネーブルに するには、ファブリックの管理者がルートリフレクタになるスパインスイッチを選択して、 自律システム(AS)番号を提供する必要があります。冗長性を確保するために、ポッドあた り少なくとも2つのスパインノードをMP-BGPルートリフレクタとして設定することを推奨 します。

ルートリフレクタが ACI ファブリックで有効になったら、管理者は、レイヤ 3 Out (L3Out) というコンポーネントを使用してリーフノードを介して外部ネットワークへの接続を設定でき ます。L3Out で設定されたリーフノードは、境界リーフと呼ばれます。境界リーフは、L3Out で指定されたルーティングプロトコルを介して、接続された外部デバイスとルートを交換しま す。L3Out 経由でスタティック ルートを設定することもできます。

L3Out とスパイン ルート リフレクタの両方が展開されると、境界リーフ ノードは L3Out を介 して外部ルートを学習し、それらの外部ルートはスパイン MP-BGP ルート リフレクタを介し てファブリック内のすべてのリーフ ノードに配布されます。

リーフでサポートされるルートの最大数については、ご使用のリリースの『Cisco APICの検証 済みスケーラビリティガイド』を参照してください。

GUIを使用した MP-BGP ルート リフレクタの設定

手順

- ステップ1 メニューバーで、[System]>[System Settings]の順に選択します。
- ステップ2 [ナビゲーション(Navigation)] ペインで、[BGP ルート リフレクタ(BGP Route Reflector)] を右クリックして、[ルート リフレクタ ノードの作成(Create Route Reflector Node)] をク リックします。
- ステップ3 [ルートリフレクタノードの作成(Create Route Reflector Node)]ダイアログボックスで、[ス パインノード(Spine Node)]ドロップダウンリストから、適切なスパインノードを選択しま す。Submit をクリックします。
 - (注) 必要に応じてスパインノードを追加するには、上記の手順を繰り返してください。

スパインスイッチがルートリフレクタノードとしてマークされます。

- **ステップ4** BGP Route Reflector プロパティ エリアの Autonomous System Number フィールドで、適切な 番号を選択します。Submit をクリックします。
 - (注) 自律システム番号は、Border Gateway Protocol(BGP)がルータに設定されている場合は、リーフが接続されたルータ設定に一致する必要があります。スタティックまたは Open Shortest Path First (OSPF)を使用して学習されたルートを使用している場合は、自律システム番号値を任意の有効な値にできます。

- ステップ5 メニュー バーで、[ファブリック(Fabric)]>[ファブリック ポリシー(Fabric Policies)]> [ポッド(Pods)]>[ポリシー グループ(Policy Groups)] をクリックします。
- ステップ6 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー グループ (Policy Groups)]を展開して 右クリックし、[POD ポリシー グループの作成 (Create POD Policy Group)]をクリックしま す。
- ステップ7 [ポッド ポリシー グループの作成(Create Pod Policy Group)] ダイアログ ボックスで、[名前 (Name)] フィールドに、ポッド ポリシー グループの名前を入力します。
- ステップ8 [BGP Route Reflector Policy] ドロップダウン リストで、適切なポリシー(デフォルト)を選択します。[Submit] をクリックします。、
 BGP ルート リフレクタのポリシーは、ルート リフレクタのポッド ポリシー グループに関連付けられ、BGP プロセスはリーフ スイッチでイネーブルになります。
- ステップ9 メニュー バーで、[ファブリック(Fabric)]>[ファブリック ポリシー(Fabric Policies)]> [プロファイル(Profiles)]>[ポッドプロファイルデフォルト(Pod Profile default)]>[デフォ ルト(default)]を選択します。
- ステップ10 [Work] ペインで、[Fabric Policy Group] ドロップダウン リストから、前に作成されたポッド ポリシーを選択します。[Submit] をクリックします。 ポッド ポリシー グループが、ファブリック ポリシー グループに適用されました。

MP-BGP ルート リフレクタ設定の確認

手順

- ステップ1 次の操作を実行して、設定を確認します。
 - a) セキュアシェル (SSH) を使用して、必要に応じて各リーフスイッチへの管理者としてロ グインします。
 - b) show processes | grep bgp コマンドを入力して、状態が S であることを確認します。 状態が NR(実行していない)である場合は、設定が正常に行われませんでした。
- **ステップ2** 次の操作を実行して、自律システム番号がスパインスイッチで設定されていることを確認します。
 - a) SSHを使用して、必要に応じて各スパインスイッチへの管理者としてログインします。
 - b) シェル ウィンドウから次のコマンドを実行します。
 - 例:

cd /mit/sys/bgp/inst

例:

grep asn summary

設定した自律システム番号が表示される必要があります。自律システム番号の値が0と表示される場合は、設定が正常に行われませんでした。



L3Out のノードとインターフェイス

- L3Out のインターフェイスの変更 (283 ページ)
- L3Out の SVI のカスタマイズ (285 ページ)
- Cisco フローティング L3Out について (297 ページ)

L30ut のインターフェイスの変更

GUI を使用した L30ut のインターフェイスの変更

この手順では、L3Out インターフェイスを変更します。



(注) フィールドに入力する手順は、必ずしも GUI に表示される順序と同じ順序でリストされてい るわけではありません。

始める前に

- Cisco ACI ファブリックが設置され、Cisco APIC がオンラインになっており、Cisco APIC クラスタが形成されて正常に動作していること。
- ・必要なファブリックインフラストラクチャ設定を作成できる Cisco APIC ファブリック管 理者アカウントが使用可能であること。
- ・ターゲットリーフスイッチが Cisco ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。
- ポートチャネルは、L3Outインターフェイスにポートチャネルが使用される場合に設定されます。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[すべてのテナント(ALL Tenants)]の順に選択し ます。
- ステップ2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ3 ナビゲーションペインで、[tenant_name] > [ネットワーキング(Networking)] > [L3Outs] > [L3Outs] > [論理ノードプロファイル(Logical Node Profiles)] > node_profile > [論理インター フェイス プロファイル(Logical Interface Profiles)]の順に移動し、変更したいプロファイル を選択します。
- ステップ4 [インターフェイス タイプ] タブを選択: [ルーテッド サブインターフェイス (Routed Sub-Interfaces)]、[ルーテッドインターフェイス (Routed Interfaces)]、[SVI]、または[浮動 SVI (Floating SVI)]を選択します。
- **ステップ5** 既存のインターフェイスをダブルクリックして変更するか、[作成(Create)](+) ボタンを クリックして新しいインターフェイスを論理インターフェイス プロファイルに追加します。
- ステップ6 浮動 SVI 以外のインターフェイス タイプの場合は、次のサブステップを実行します。m
 - a) [パス タイプ (Path Type)] フィールドで新しいインターフェイスを追加し、適切なパス タイプを選択します。

ルーテッドサブインターフェイスまたはルーテッドインターフェイスタイプの場合、ポートまたはダイレクトポートチャネルを選択します。SVIインターフェイスタイプの場合、 ポート、ダイレクト ポート チャネル、または仮想ポート チャネルを選択します。

- b) [ノード(Node)] ドロップダウン リストから、ノードを選択します。
 - (注) これは、非ポートチャネルパスタイプにのみ適用されます。[パスタイプ(Path Type)]を[ポート(Port)]として選択した場合は、この手順を実行します。
 それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- c) [パス (Path)] ドロップダウン リストからインターフェイス ID またはポート チャネル名 を選択します。

インターフェイス ID の例は eth 1/1 です。ポート チャネル名は、各直接または仮想ポート チャネルのインターフェイス ポリシー グループ名です。

- **ステップ7** 浮動 SVI インターフェイス タイプの場合、[アンカーノード] ドロップダウン リストでノード を選択します。
- **ステップ8** (任意) [説明 (Description)]フィールドに、L3Out インターフェイスの説明を入力します。
- ステップ9 ルーテッドサブインターフェイス、SVI および浮動 SVI インターフェイスの場合、[[カプセル 化(Encap)]ドロップダウンrストで、[VLAN]を選択し、このエントリの整数値を入力しま す。
- ステップ10 SVI および浮動 SVI インターフェイス タイプの場合は、次のサブステップを実行します。
 - a) [カプセル化範囲(Encap Scope)]ボタンで、レイヤ3 Outside プロファイルに使用される カプセル化の範囲を選択します。

- VRF:特定の VLAN カプセル化の同じ VRF インスタンス内のすべてのレイヤ3外部 で同じトランジット VLAN を使用します。これはグローバル値です。
- Local: レイヤ3外部ごとに一意のトランジット VLAN を使用します。
- b) [自動状態(Auto State)]ボタンについては、この機能を有効にするか無効にするかを選択 します。
 - disabled:インターフェイスが対応するVLANで動作していない場合、SVIがアクティブであることを意味します。
 - enabled: VLAN インターフェイスが VLAN で複数のポートを有する場合、SVI は 浮動 SVI はVLAN のすべてのポートがダウンするとダウン状態になります。
- c) [モード] ボタンで、VLAN タギング モードを選択します。
- **ステップ11 IPv4** Primary / **IPv6** Preferred Address フィールドに、レイヤ3外側プロファイルにアタッチさ れているパスのプライマリ IP アドレスを入力します。
- **ステップ12** [IPv4 セカンダリ/IPv6 追加アドレス] テーブルで、+ をクリックして、レイヤ3外側プロファ イルにアタッチされているパスのセカンダリ IP アドレスを入力します。
- ステップ13 (任意) Link-local Address フィールドに、IPv6 リンクローカル アドレスを入力します。これは、システムによって生成された IPv6 リンクローカル アドレスをオーバーライドします。
- **ステップ14** [MAC アドレス] フィールドに、レイヤ3外側プロファイルにアタッチされているパスの MAC アドレスを入力します。
- ステップ15 [MTU (バイト)]フィールドで、外部ネットワークの最大転送単位を設定します。指定できる 範囲は 576 ~ 9216 です。値を継承するには、inherit フィールドに入力します。
- **ステップ16** [ターゲットDSCP] ドロップダウンリストで、レイヤ3アウトサイドプロファイルに接続され ているパスのターゲット Differentiated Services Code Point (DSCP)を選択します。
- ステップ17 [送信 (Submit)] をクリックします。

L3OutのSVIのカスタマイズ

SVI 外部カプセル化の範囲

SVI 外部カプセル化の範囲について

レイヤ3アウト設定のコンテキストでは、スイッチ仮想インターフェイス(SVI)はACIリーフスイッチとルータ間に接続性を提供するように設定されます。

デフォルトで単一のレイヤ3アウトがSVIインターフェイスで設定されている場合、VLANの カプセル化はファブリック内の複数のノードに範囲が及びます。これは、図で示されるように SVIインターフェイスが同じ外部カプセル化(SVI)を使用する限り、レイヤ3アウトSVIが 展開されているファブリックで、ACIファブリックがすべてのノード上に同じブリッジドメイン (VXLAN VN)を設定するため発生します。

ただし、異なるレイヤ3アウトが展開されている場合、同じ外部カプセル化 (SVI)を使用している場合でも ACI ファブリックは異なるブリッジドメインを使用します。





図 36: ローカル範囲のカプセル化と2個のレイヤ3アウト



Cisco APIC リリース 2.3 以降、同じ外部カプセル化(SVI)を使用して、2 個以上のレイヤ3アウトを展開する場合の動作を選択できるようになりました。

カプセル化の範囲は、ローカルまたは VRF として設定できます。

 ・ローカル範囲(デフォルト):例の動作が「ローカル範囲のカプセル化および2個のレイ ヤ3アウト」というタイトルの図に表示されます。 VRF範囲:ACIファブリックが、同じ外部カプセル化(SVI)が展開されているすべての ノードとレイヤ3アウト上で同じブリッジドメイン(VXLAN VNI)を設定します。「VRF 範囲のカプセル化および2個のレイヤ3アウト」というタイトルの図の例を参照してくだ さい。

図 37: VRF範囲のカプセル化および 2個のレイヤ 3 アウト

L3out1 Nodes: 301 SVI encap: 800 Scope: VRF	L3out2 Nodes: 303 SVI encap: 800 Scope: VRF	VLAN Name Status Ports 54 Ten-4:vrf1:13out-L3out1:vlan-800 active Eth1/11
ACI F	abric	VLAN Type Vlan-mode Encap
BD (L2) e across	extended fabric	54 enet CE vxlan-15007705, vlan-800
L3Out1	L3Out2	Pod1-Leaf-303# show vlan id 12 extended Different L3out
TACI	TACIA	VLAN Name Status Ports
Leaf-301	Leaf-30	VLAN Type Vlan-mode Encap VIAN Type Vlan-mode Encap VIAN Type Vlan-mode Encap VIAN Type Vlan-mode Encap
		12 ener CE vxian-15007705, vian-800 nodes

カプセル化スコープ構文

レイヤ3Outプロファイルで使用されるカプセル化の範囲を設定するためのオプションは次のとおりです。

- Ctx]: 特定の VLAN のカプセル化の同じ VRF に、すべてのレイヤ 3 が記録されるで同じ 外部 SVI。これはグローバル値です。
- ・ローカル:レイヤ3 Out ごとの一意の外部 SVI。これはデフォルト値です。

CLI、API、および GUI 構文間のマッピングは次のとおりです。

表 10:カプセル化スコープ構文

CLI	ΑΡΙ	GUI
13out	local	local
vrf	ctx	VRF

(注) カプセル化の範囲を設定する CLI コマンドでは、名前付きのレイヤ3アウト設定、VRF が設定されている場合にのみサポートされます。

SVI 外部カプセル化の範囲のガイドライン

SVI 外部カプセル化の範囲を使用する際には、次のガイドラインに従ってください:

- ・同じノード上にレイヤ3Outを設定するためには、両方のレイヤ3OutのOSPFエリアが 異なっている必要があります。
- ・同じノード上にレイヤ3Outを設定するためには、両方のレイヤ3OutのBGPピア設定が 異なる必要があります。

GUI を使用して SVI 外部カプセル化の範囲の設定

始める前に

- ・テナントと VRF が設定されています。
- ・L3Out が設定されていて、L3Out で論理ノード プロファイルが設定されています。

手順

- ステップ1 メニューバーで、> Tenants > Tenant_name をクリックします。
- **ステップ2** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ネットワーキング (Networking)] [L3Outs] [L3Out_name] [論理ノードプロファイル) Logical Node Profiles] [LogicalNodeProfile_name] [論理 インターフェイスプロファイル (Logical Interface Profiles)]をクリックします。>>>>>
- ステップ3 [ナビゲーション (Navigation)]ウィンドウで、[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profile)]を右クリックし、[インターフェイス プロファイルの作成 (Create Interface Profile)]をクリックします。
- ステップ4 [Create Interface Profile] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) Step 1 Identity 画面の Name フィールドで、インターフェイス プロファイルの名前を入力 します。
 - b) 残りのフィールドに、適切なオプションを選択し]をクリックして次。
 - c) ステップ2プロトコルプロファイル 画面、目的のプロトコルを選択するには、プロファ イルの詳細、および]をクリックして次。
 - d) ステップ3インターフェイス 画面で、をクリックして、 SVI] タブをクリックして、 + を開くにアイコン、 選択 SVI ダイアログボックス。
 - e) インターフェイスの指定] 領域で、目的、さまざまなフィールド値を選択します。
 - f) Encap スコープ フィールドで、目的のカプセル化範囲の値を選択します。[OK] をクリッ クします。

デフォルト値は Local です。

SVI外部のカプセル化の範囲は、指定されたインターフェイスで設定されます。

SVI での複数の L30ut のカプセル化のサポート

同じカプセル化 VLAN を使用する異なるリーフ スイッチ上の SVI インターフェイスで L3Out が設定されている場合、SVI VLAN は同じ VXLAN ネットワーク識別子 (VNID) にマッピン グされます。これにより、ファブリック全体に単一のブリッジ ドメイン (外部ブリッジ ドメ イン) とブロードキャスト ドメインが形成されます。次の図に示すように、異なる VLAN で 設定された SVI インターフェイスは、別個の外部ブリッジ ドメインを形成します。リリース 5.2(3) より前は、異なるスイッチ上に異なるカプセル化 VLAN を持つ単一の外部ブリッジ ドメ インを作成することはできませんでした。

図 38:カプセル化が異なる外部ブリッジドメインに関連付けられた個別の VNID (ACI 5.2(3)より前のリリース)。



リリース 5.2(3) では、異なるリーフスイッチ上の異なるカプセル化 VLAN で構成できる単一 の外部ブリッジを構成するためのサポートが追加されました。複数カプセル化のサポート機能 では、フローティング SVI オブジェクトを使用して、フローティング L3Out の外部ブリッジ ドメインを定義するか、または外部ブリッジグループプロファイルを使用して、通常のL3Out の外部ブリッジ ドメインを定義します。この機能の使用例としては、同じ VLAN がすでに使 用されている可能性があるため、異なるリーフスイッチで同じ VLAN を使用できない場合が あります。



図 39:異なるカプセル化で外部ブリッジドメインに関連付けられた単一の VNID (ACI 5.2(3)以降のリリース)。

ACI リリース 6.0(1) の時点で、この機能は物理ドメイン L3Out に対してのみサポートされ、 VMM ドメイン L3Out に対してはサポートされません。

複数の SVI を異なるアクセスのカプセル化でグループ化する

次の図は、複数の SVI が異なるアクセス カプセル化でグループ化されている設定を示しています。



この使用ケースでは:

- 次のリーフ スイッチは VPC ペアです。
 - node101 および node102
 - node103 および node104
 - node105 および node106

複数の SVI をレイヤ2ブリッジグループにグループ化する上記の使用例を設定します。

- 1. VPC ペアごとに3つの通常の SVI を作成します。
 - ・リーフ スイッチ node101 および node102 に通常の SVI svi-100 を作成します。
 - ・リーフスイッチ node103 および node104 に通常の SVI svi-101 を作成します。
 - ・リーフ スイッチ node105 および node106 に通常の SVI svi-102 を作成します。
- 2. リーフスイッチをアクセスカプセル化に構成します。
 - •アクセスカプセル化 vlan100 を使用してリーフスイッチ node101 および node102 を設定します。

- •アクセス カプセル化 vlan101 でリーフ スイッチ node103 および node104 を設定します。
- アクセスカプセル化 vlan102 を使用してリーフスイッチ node105 および node106 を設 定します。
- 3. 通常の SVI svi-100、svi-101、および svi-102 をグループ化して、単一のレイヤ 2 ブロード キャスト ドメインの一部として動作させます。
 - 1. ブリッジドメインプロファイルを作成します。

ブリッジドメインプロファイルは、新しいMO 13extBdProfileで表されます。

- 2. ブリッジドメインプロファイルの一意の名前文字列を指定します。
- **3.** 同じブリッジドメインプロファイルにグループ化する必要がある通常およびSVIのそ れぞれを関連付けます。

この関連付けには、*l3extBdProfileCont* と *l3extRsBdProfile* の 2 つの新しい MO を使用できます。

注意事項と制約事項

- レイヤ2ループは、外部デバイス/ハイパーバイザによってブロックされます。ループを 防止するためにスパニングツリープロトコルに依存する外部スイッチでこの機能を使用す ると、ループが発生する可能性があります。
- SVI は、外部ブリッジ ドメイン プロファイルの設定後に削除され、再度追加されます。
- 外部ブリッジドメインプロファイルはL3Outスコープです。ノードでは、同じ外部ブリッジドメインプロファイルに2つの異なるアクセスカプセル化マッピングを設定することはできません。
- •ブリッジドメインのグループ化は、カプセル化スコープ ctx(APIC GUI の VRF オプショ ン)ではサポートされていません。
- ・異なる回線カプセル化を持つグループ化された SVI は、共通ノードを共有できません。
- ・リリース 5.2(3) から SVI による L3Out の複数のカプセル化がサポートされていない以前の リリースにダウングレードする場合、複数のカプセル化や外部ブリッジドメインプロファ イルで設定された L3Out で次のアクションが実行されます。
 - 複数のカプセル化サポートに使用される新しいアロケータ (*l3extBdProfileEncapAllocator*)が削除されます。
 - ・ すべての外部ブリッジ ドメイン プロファイル (新しい *l3extBdProfile* MO) が削除さ れます。
 - すべての新しい *l3extBdProfileCont* MO が削除されます。
 - ・ すべての新しい *l3extRsBdProfile* MOが削除されます。

GUI を使用して SVI で複数の L30ut のカプセル化を設定する

手順

ステップ1 通常の SVI を作成し、リーフ スイッチをカプセル化にアクセスして構成します。

これらの手順については、GUIを使用してSVI外部カプセル化の範囲の設定(288ページ)を 参照してください。

- **ステップ2** SVI グループ化に使用される外部ブリッジ グループ プロファイルを作成します。
 - a) [テナント (Tenants) >[*tenant-name*]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]> [外部ブリッジ グループ プロファイル (External Bridge Group Profiles)]に移動します。 設定済みの外部ブリッジ グループ プロファイルを示すページが表示されます。
 - b) [外部ブリッジグループプロファイル (External Bridge Group Profiles)]を右クリックし、
 [外部ブリッジグループプロファイルの作成 (Create External Bridge Group Profile)]を選択します。
 [外部ブリッジグループプロファイルの作成 (Create External Bridge Group Profile)]ページが表示されます。
 - c) 外部ブリッジ グループ プロファイルの名前を入力し、[送信(Submit)] をクリックします。
 すでに設定されている外部ブリッジ グループ プロファイルを示すページが、新しい外部ブリッジ グループ プロファイルで更新されます。
- **ステップ3** 通常の SVI をブリッジ ドメイン プロファイルに関連付けます。
 - a) [テナント (Tenants)]>[tenant-name]> [ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]> [L3Out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profile) >[log-node-profile-name]> [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profile)] > [log-int-profile-name] に移動します。 この論理インターフェイス プロファイルの[全般 (General)]ページが表示されます。
 - b) [SVI] タブをクリックします。 設定済みのスイッチ仮想インターフェイスを示すページが表示されます。
 - c) 外部ブリッジドメインプロファイルに関連付けるスイッチ仮想インターフェイスをダブル クリックします。 このスイッチ仮想インターフェイスの一般情報が表示されます。
 - d) [外部ブリッジ グループ プロファイル (External Bridge Group Profile)]フィールドで、 このスイッチ仮想インターフェイスに関連付ける外部ブリッジ ドメイン プロファイルを 選択します。
 - e) [送信 (Submit)]をクリックします。

CLI を使用して SVI で複数の L30ut のカプセル化を設定する

手順

ステップ1 通常の SVI を作成し、リーフ スイッチをカプセル化にアクセスして構成します。

これらの手順については、NX-OS スタイル CLI を使用して、SVI インターフェイスのカプセル化スコープの設定(519ページ)を参照してください。

ステップ2 CLIを使用して APIC にログインし、コンフィギュレーションモードとテナントコンフィギュレーション モードを開始します。

apic1#
apic1# configuration
apic1(config)# tenant <tenant-name>
apic1(config-tenant)#

ステップ3 次のコマンドを入力して、SVI グループ化に使用する外部ブリッジ プロファイルを作成します。

apic1(config-tenant)# external-bridge-profile <bridge-profile-name>
apic1(config-tenant-external-bridge-profile)# ?

ステップ4 次のコマンドを入力して、通常の SVI をブリッジ ドメイン プロファイルに関連付けます。

apic1(config)# leaf <leaf-ID>
apic1(config-leaf)# interface vlan <vlan-num>
apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant <tenant-name> vrf <VRF-name>
apic1(config-leaf-if)# ip address <IP-address>
apic1(config-leaf-if)# external-bridge-profile <bridge-profile-name>

REST API を使用した複数の SVI 付き L30ut のカプセル化の設定

手順

ステップ1 通常の SVI を作成し、リーフ スイッチをカプセル化にアクセスして構成します。

これらの手順については、REST API を使用して、SVI インターフェイスのカプセル化スコープの設定(604ページ)を参照してください。

ステップ2 次の例のような投稿を入力して、SVIグループ化に使用する外部ブリッジプロファイルを作成 します。

```
<fvTenant name="t1" dn="uni/tn-t1" >
<l3extBdProfile name="bd100" status=""/>
</fvTenant>
```

ステップ3 次の例のように投稿を入力して、通常の SVI をブリッジ ドメイン プロファイルに関連付けます。

```
<fvTenant name="t1">
<l3extOut name="l1">
<l3extLNodeP name="n1">
<l3extLIfP name="i1">
<l3extRsPathL3OutAtt encap="vlan-108"
tDn="topology/pod-1/paths-108/pathep-[eth1/10]"
ifInstT="ext-svi">
<l3extRsDdProfileCont>
<l3extRsBdProfile tDn="uni/tn-t1/bdprofile-bd100" status=""/
</l3extRsDdProfileCont>
</l3extRsPathL3OutAtt>
</l3extLIfP>
</l3extLIfP>
</l3extLIfP>
</l3extLIndeP>
</l3extOut>
</fvTenant>
```

ステップ4 フローティングノードの個別のカプセル化を指定するには、次の例のような投稿を入力します。

```
<fvTenant name="t1">
<l3extOut name="l1">
<l3extLNodeP name="n1">
<l3extLIfP name="i1">
<l3extVirtualLIfP addr="10.1.0.1/24"
encap="vlan-100"
nodeDn="topology/pod-1/node-101"
ifInstT="ext-svi">
<l3extRsDynPathAtt floatingAddr="10.1.0.100/24"
encap="vlan-104"
tDn="uni/phys-phyDom"/>
</l3extVirtualLIfP>
</l3extLIfP>
</l3extOut>
</fvTenant>
```

SVI 自動状態

SVI 自動状態について

(注) この機能は、APIC リリース 2.2(3x) リリースおよび APIC リリース 3.1 (1) で使用できます。
 APIC リリース 3.0(x) ではサポートされていません。

スイッチ仮想インターフェイス(SVI)は、デバイスのVLANのブリッジング機能とルーティング機能間の論理インターフェイスを表します。SVIは、物理ポート、直接ポートチャネル、 仮想ポートチャネルのメンバーを有することができます。SVI論理インターフェイスはVLAN に関連付けられ、VLAN ポートメンバーシップを有します。 SVIの状態はメンバーに依存しません。Cisco APICのSVIのデフォルトの自動状態動作は、自動状態の値が無効になっているときに最新の状態になっていることを意味します。これは、インターフェイスが対応するVLANで動作していない場合、SVIがアクティブであることを意味します。

SVI 自動状態の値を有効に変更する場合、関連する VLAN のポート メンバーに依存します。 VLAN インターフェイスが VLAN で複数のポートを有する場合、SVI は VLAN のすべてのポー トがダウンするとダウン状態になります。

表 11: SVI 自動状態

SVI 自動状態	SVI 状態の説明
ディセーブル	インターフェイスが対応する VLAN で動作していない 場合、SVI がアップ状態であることを意味します。
	無効がデフォルトの SVI 自動状態の値です。
イネーブル	SVIは、関連付けられている VLAN のポート メンバに よって異なります。VLAN インターフェイスに複数の ポートを含む場合、SVIはVLAN のすべてのポートがダ ウンするとダウン状態になります。

SVI 自動状態の動作のガイドラインと制限事項

次のガイドラインをお読みください。

• SVI の自動状態の動作を有効化または無効化にすると、SVI あたりの自動状態の動作を設定します。これらはグローバル コマンドではありません。

GUI を使用した SVI 自動状態の設定

始める前に

- ・テナントと VRF が設定されています。
- •L3Outが設定されており、L3Outの論理ノードプロファイルと論理インターフェイスプロファイルが設定されています。

手順

- ステップ1 メニューバーで、 > Tenants > Tenant_name をクリックします。
- **ステップ2** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ネットワーキング (Networking)][L3Outs] [L3Out_name][論理ノードプロファイル) Logical Node Profiles][LogicalNodeProfile_name][論理 インターフェイスプロファイル (Logical Interface Profiles)]をクリックします。>>>>>

- ステップ3 Navigation ウィンドウで、Logical Interface Profile を展開し、適切な論理インターフェイスプ ロファイルをクリックします。
- ステップ4 [作業(Work)]ペインで、[+] 記号をクリックして [SVI] ダイアログボックスを表示します。
- ステップ5 付加的な SVI を追加するには、 SVI ダイアログボックスで、以下の手順を実行します:
 - a) Path Type フィールドで、適切なパス タイプを選択します。
 - b) Path フィールドで、ドロップダウンリストから適切な物理インターフェイスを選択しま す。
 - c) Encap フィールドで、適切な値を選択します。
 - d) Auto State フィールド (Work ウィンドウ) で SVI を選択し、自動状態を表示または変更し ます。

デフォルト値は Disabled です。

(注) 既存 SVI の自動状態の値を確認または変更するには、適切な SVI を選択して、 値を確認または変更します。

Cisco フローティング L3Out について

Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 4.2(1) 以降では、外部ネット ワークデバイスに接続するための複数のレイヤ3外部ネットワーク接続(L3Out) 論理インター フェイスパスを指定する必要がなくなりました。

このフローティングL3Out機能を使用すると、論理インターフェイスを指定せずにL3Outを設 定できます。この機能により、仮想マシン(特定の仮想ネットワーク機能を実行する)がホス ト間を移動する際に、ルーティングを維持するために複数のL3Out論理インターフェイスを設 定する必要がなくなります。フローティングL3Outは、VMwarevSphere分散スイッチ(VDS) を持つ VMM ドメインでサポートされています。

Cisco APIC リリース 5.0(1) 以降のリリースでは、物理ドメインがサポートされています。これは、同じ単純化された構成を物理ルータの展開にも使用できることを意味します。

詳細については、「フローティングL3Outを使用して外部ネットワーク接続を簡素化する」の ナレッジベース記事を参照してください。

https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/switches/datacenter/aci/apic/sw/kb/Cisco-ACI-Floating-L3Out.html

I



ルーティング プロトコルのサポート

この章は、次の内容で構成されています。

- ルーティング プロトコルのサポートについて (299 ページ)
- •BGP 外部ルーテッド ネットワークと BFD のサポート (299 ページ)
- OSPF 外部ルーテッド ネットワーク (341 ページ)
- EIGRP 外部ルーテッド ネットワーク (344 ページ)

ルーティング プロトコルのサポートについて

Cisco ACIファブリック内のルーティングは、BGP(BFD サポート)および OSPF または EIGRP ルーティング プロトコルを使用して実装されます。

IP 送信元ルーティングは ACI ファブリックではサポートされません。

BGP 外部ルーテッド ネットワークと BFD のサポート

ここでは、BFD をサポートする BGP 外部ルーテッド ネットワークの詳細について説明します。

BGP レイヤ3外部ネットワーク接続設定のガイドライン

BGP外部ルーテッドネットワークを設定するときは、以下のガイドラインに従ってください。

BGP 直接ルート エクスポートの動作は、リリース 3.2(1) 以降に変更されました。この場合 ACI は、エクスポート ルートマップ節を照合するときに、発信元ルートタイプ(スタティック、ダイレクトなど)を評価しません。その結果、アウトバウンド ネイバー ルートマップに常に含まれる「match direct」 deny 節は、直接ルートと一致しなくなり、ユーザ定義のルートマップ節が一致するかどうかに基づいて直接ルートがアドバタイズされるようになりました。

したがって、直接ルートはルートマップを介して明示的にアドバタイズする必要がありま す。そうしないと、アドバタイズされている直接ルートが暗黙的に拒否されます。 L3OutのBGPピア接続プロファイルの[BGP制御(BGP Controls)]フィールドの[AS オーバーライド(AS override)]オプションは、リリース 3.1(2)で導入されました。これにより、ACIはAS_PATH内のリモートASをACI BGP ASで上書きできます。ACIでは、通常、eBGP L3Outから同じAS番号を持つ別のeBGP L3Outへの中継ルーティングを実行するときに使用されます。

ただし、eBGP ネイバーの AS 番号が異なる場合に [AS オーバーライド(AS override)] オ プションを有効にすると、問題が発生します。この状況では、ピアに反映するときに AS PATH から peer-as を削除します。

- BGP外部ルーテッドネットワークを設定する場合、着信アップデートにはローカルAS番号が付加されますが、BGPプロセスは他のeBGPピアに送信されたときに最後にローカルAS番号を付加します。これを行わない場合は、L3OutのBGPピア接続プロファイルの[Local-AS番号の設定(Local-ASNumberConfig)]フィールドに[no-prepend]設定を設定します。
- ファブリック MP-BGP ルート リフレクタ プロファイルに割り当てられている AS とは異なる AS 番号をアドバタイズするために、ローカル AS 機能を使用します。L3Out の BGP ピア接続プロファイルの [Local-AS 番号の設定(Local-AS Number Config)] フィールドで [replace-as]オプションを有効にすると、ローカル AS 番号で設定されたネイバーには、BGP プロセスからローカルに設定された AS 番号ではなくアドバタイズされている別の AS 番号だけが表示されます。
- ・現時点では、ACIファブリックを介したBGPL3Out間の通信はブロックされませんが、このシナリオではサポートされません。
 - 両方の L3Out が同じ ASN にあります。
 - ・L3Out は ACI ファブリックとの iBGP セッションを形成しています
- ・ルーティングプロトコルのL3OutのルーターIDは、ルーテッドインターフェイス、サブ インターフェイス、SVIなどのL3Outインターフェイスと同じIPアドレスまたは同じサ ブネットにすることはできません。ただし、必要に応じて、ルータIDをL3Outループバッ クIPアドレスの1つと同じにすることができます。
- 同じVRFの同じリーフスイッチに同じルーティングプロトコルの複数のL3Outがある場合、それらのルータ ID は同じである必要があります。ルータ ID と同じ IP アドレスを持つループバックが必要な場合は、それらのL3Outの1つだけにループバックを構成できます。
- •L3OutのBGPピアを定義するには、次の2つの方法があります。
 - ループバック IP アドレスに BGP ピアを関連付ける論理ノードプロファイル レベル (l3extLNodeP)のBGPピア接続プロファイル(bgpPeerP)を介した方法。BGP ピア がこのレベルで設定されている場合は、BGP 接続にループバック アドレスが想定さ れます。そのため、ループバック アドレス設定が欠落していると、障害が発生しま す。
- BGPピアをそれぞれのインターフェイスまたはサブインターフェイスに関連付け、論 理インターフェイス プロファイル レベル (l3extRsPathL3OutAtt) で BGP ピア接続プ ロファイル (bgpPeerP) を介した方法。
- IPv6 を使用したループバックを介したピアリングを有効にするには、ユーザが IPv6 アド レスを設定する必要があります。
- 自律システム機能は eBGP ピアでしか使用できません。この機能では、ルータが実際の ASに加えて、2番めの自律システム(AS)のメンバであるように見せることができます。 ローカル ASを使用すると、ピアリングの調整を変更せずに2つの ISP をマージできます。 マージされた ISP 内のルータは、新しい自律システムのメンバになりますが、使用者に対 しては古い自律システム番号を使用し続けます。
- ・リリース 1.2 (1x) 以降、BGP 13extOut 接続のテナントネットワーキングプロトコルポ リシーは、最大プレフィックス制限を使用して設定できます。これにより、ピアから受信 されるルートプレフィックスの数をモニタし、制限することができます。最大プレフィッ クス制限を超えると、ログエントリの記録、それ以降のプレフィックスの拒否、固定期間 中にカウントがしきい値未満になった場合の接続の再起動、または接続のシャットダウン を行うことができます。一度に1つのオプションだけを使用できます。デフォルト設定で は20,000 プレフィックスに制限され、その後は新しいプレフィックスは拒否されます。拒 否オプションが導入されると、BGPは設定されている制限よりも1つ多くプレフィックス を受け入れ、APICでエラーが発生します。



(注) Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。 したがって、外部ルータへのレイヤ 3 Outside (L3Out) 接続、ま たは Inter-Pod Network (IPN) を介したマルチポッド 接続を設定 する場合は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設 定されていることが推奨されます。Cisco ACI、Cisco NX-OS、 Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定可能な MTU 値はイーサネット ヘッダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネッ ト ヘッダー サイズを除く)を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームには、設定された MTU 値にイーサ ネットヘッダーが含まれています。設定された値が 9000の場合、 Cisco ACI、Cisco NX-OS Cisco IOS の最大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタグなしインターフェイス の最大 IP パケットサイズは 8986 バイトになります。

> 各プラットフォームの適切な MTU 値については、それぞれの設 定ガイドを参照してください。

> CLI ベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く 推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1 などのコマンド を使用します。

BGPの接続タイプとループバックのガイドライン

ACI では次の BGP 接続の種類をサポートし、それらのループバックのガイドラインをまとめています。

BGP 接続タイプ	ループバックが 必要	ルータ ID と同じ ループバック	スタティック ルートまた は OSPF ルートが必要
直接 iBGP	非対応	該当なし	非対応
iBGP ループバック ピアリング	はい(L3Out ご とに個別のルー プバック)	いいえ(同じノー ドに複数のレイヤ 3 Out がある場 合)	はい
直接 eBGP	非対応	該当なし	非対応
eBGP ループバック ピアリン グ(マルチホップ)	はい(L3Outご とに個別のルー プバック)	いいえ(同じノー ドに複数のレイヤ 3 Out がある場 合)	はい

外部 BGP スピーカーに対する BGP プロトコル ピアリング

ACI は、iBGP と eBGP を使用して境界リーフと外部 BGP スピーカーの間のピアリングをサポートします。ACI は、BGP ピアリングで以下の接続をサポートします。

- OSPF 上の iBGP ピアリング
- OSPF 上の eBGP ピアリング
- ・直接接続上の iBGP ピアリング
- ・直接接続上の eBGP ピアリング
- •スタティック ルート上の iBGP ピアリング

(注) BGP ピアリングで OSPF が使用される場合、OSPF は BGP ピアリング アドレスへのルートの 学習とアドバタイズのみに使用されます。レイヤ3 Outside ネットワーク(EPG)に適用される すべてのルート制御が BGP プロトコル レベルで適用されます。

ACI は、外部ピアへの iBGP および eBGP 接続用に多数の機能をサポートします。BGP 機能 は、[BGP Peer Connectivity Profile] で設定されます。

BGP ピアの接続プロファイル機能について、次の表で説明します。

(注) ACI は、次の BGP 機能をサポートしています。以下にリストされていない NX-OS BGP 機能 は、現在 ACI ではサポートされていません。

表 12: BGP ピアの接続プロファイル機能

BGP 機能	機能の説明	NX-0S での同等のコマンド
Allow Self-AS	Allowed AS Number Count 設定と併用されます。	allowas-in
Disable peer AS check	アドバタイズ時のピアAS 番号のチェックを無効に します。	disable-peer-as-check
Next-hop self	常にローカルピアアドレ スにネクスト ホップ属性 を設定します。	next-hop-self
Send community	ネイバーにコミュニティ 属性を送信します。	send-community
Send community extended	ネイバーに拡張コミュニ ティ属性を送信します。	send-community extended
Password	BGP MD5 認証。	password
Allowed AS Number Count	Allow Self-AS 機能と併用 されます。	allowas-in
Disable connected check	直接接続された EBGP ネ イバーの接続チェックを 無効にします(EBGPネイ バーがループバックから ピアリングすることを許 可)。	
TTL	EBGPマルチホップ接続の TTL 値を設定します。こ れは EBGP でのみ有効で す。	ebgp-multihop <ttl></ttl>
Autonomous System Number	ピアのリモート自律シス テム番号。	neighbor <x.x.x.> remote-as</x.x.x.>

BGP 機能	機能の説明	NX-OS での同等のコマンド
Local Autonomous System Number Configuration	ローカル AS 機能を使用す るときのオプション(No Prepend+replace-AS+dual-AS など)。	
Local Autonomous System Number	ファブリック MP-BGP ルートリフレクタプロ ファイルに割り当てられ ている AS とは異なる AS 番号をアドバタイズする ために使用されるローカ ルAS機能。これはEBGP ネイバーの場合にのみサ ポートされ、ローカルAS 番号がルートリフレクタ ポリシーASと異なってい る必要があります。	local-as xxx <no-prepend> <replace-as> <dual-as></dual-as></replace-as></no-prepend>
Site of Origin	site-of-origin (SoO) は、 ルーティング ループを防 ぐためにルートを学習す るサイトを一意に識別す るために使用される BGP 拡張コミュニティ属性で す。	soo <value></value>

BGP 外部ルーテッド ネットワークの設定

BGP 外部ルーテッドネットワークを設定するには、次の項の手順を使用します。

GUI を使用した BGP L30ut の設定

始める前に

BGP L3Out を設定するテナント、VRF、およびブリッジドメインはすでに作成されており、 VRFの作成時に[BGP ポリシーの設定(Configure BGP Policies)]オプションを選択しました。

手順

- ステップ1 [メニュー (Menu)]バーで、[テナント (Tenants)]>[すべてのテナント (All Tenants)]を選 択します。
- ステップ2 作業ウィンドウで、テナントの名前をダブルクリックします。

- ステップ**3** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[*Tenant_name*]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs] の順に展開します。
- ステップ4 [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。[L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードが表示されます。
- **ステップ5** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードの[識別(Identity)]ページに必要な情報を入力 します。
 - a) [名前 (Name)]、[VRF]、および [L3 ドメイン (L3 Domain)] フィールドに必要な情報を 入力します。
 - b) ルーティング プロトコルのチェック ボックスがある領域で、[BGP] を選択します。
 - c) [次 (Next)]をクリックして [**ノードとインターフェイス** (Nodes and Interfaces)]ウィン ドウに移動します。
- ステップ6 [L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードの[ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)] ページに必要な情報を入力します。
 - a) [レイヤ3 (Layer 3)]領域で、[ルーテッド (Routed)]を選択します。
 - b) [ノード ID (Node ID)]フィールドのドロップダウン メニューで、L3Out のノードを選択 します。

これらの例のトポロジでは、ノード 103 を使用します。

- c) [Router ID] フィールドに、ルータ ID を入力します。
- d) (任意) 必要に応じて、ループバックアドレスに別の IP アドレスを設定できます。

[ルータ ID (Router ID)]フィールドに入力したエントリと同じ内容が[ループバックアド レス (Loopback Address)]フィールドに自動で入力されます。これは以前のビルドでの [ループバックアドレスのルータ ID の使用 (Use Router ID for Loopback Address)]と同等 です。ループバックアドレスにルータ ID を使用しない場合は、ループバックアドレスに 別の IP アドレスを入力します。または、ループバックアドレスにルータ ID を使用しない 場合は、このフィールドを空のままにします。

e) [**ノードとインターフェイス**(Nodes and Interfaces)]ページに追加の必要な情報を入力し ます。

このページに表示されるフィールドは、[レイヤ3 (Layer 3)]および[レイヤ2 (Layer 2)]領域で選択したオプションによって異なります。

f) [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ページで残りの追加の情報を入力したら、[次へ (Next)]をクリックします。

[プロトコル (Protocol)] ページが表示されます。

- **ステップ7** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードの[プロトコル(Protocols)]ページに必要な情報 を入力します。
 - a) [BGP ループバック ポリシー (BGP Loopback Policies)]および [BGP インターフェイス ポ リシー (BGP Interface Policies)]領域で、次の情報を入力します。
 - ・ピアアドレス(Peer Address):ピア IP アドレスを入力します

- EBGP Multihop TTL(EBGP マルチホップ TTL):接続の存続可能時間(TTL)を入 力します。範囲は1~255 ホップです。ゼロの場合、TTLは指定されません。デフォ ルトは1です。
- リモートASN(Remote ASN):ネイバー自律システムを固有に識別する番号を入力 します。自律システム番号は、1~4294967295のプレーン形式で4バイトにすること ができます。
 - (注) ACI は asdot または asdot + 形式の AS 番号をサポートしていません。
- b) [次へ (Next)] をクリックします。

[外部タスク(External Tasks)]ページが表示されます。

- **ステップ8** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードで[外部 EPG(External EPG)]ページに必要な 情報を入力します。
 - a) Name フィールドに、外部ネットワークの名前を入力します。
 - b) [提供済みコントラクト (Provided Contract)] フィールドで、提供済みコントラクトの 名前を入力します。
 - c) [消費済みコントラクト (Consumed Contract)]フィールドで、消費済みコントラクトの 名前を入力します。
 - d) [すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external network)] フィールドで、このL3Out 接続からのすべての中継ルートをアドバタイズしない場合は オフにします。

このボックスをオフにすると、[Subnets] 領域が表示されます。次の手順に従って、必要 なサブネットとコントロールを指定します。

- e) [+]アイコンをクリックして[サブネット(Subnet)]を展開し、[サブネットの作成(Create Subnet)]ダイアログボックスで次の操作を実行します。
- f) IP address フィールドに、外部ネットワークの IP アドレスとサブネットマスクを入力し ます。
 - (注) 前のステップで入力した内容に応じて、IPv4またはIPv6のアドレスを入力し ます。

外部サブネットを作成するときに、プレフィックス EPG の BGP ループバッ クの両方を設定するか、またはどちらも設定しない必要があります。BGP ループバックを1つのみ設定すると、BGP ネイバーシップは確立されませ ん。

- g) [名前 (Name)] フィールドに、サブネットの名前を入力します。
- h) [Scope] フィールドで、[Export Route Control Subnet]、[Import Route Control Subnet]、および [Security Import Subnet] のチェックボックスをオンにします。[OK] をクリックします。
 - (注) BGP でインポート制御を適用する場合は、[Import Route Control Subnet] チェッ クボックスをオンにします。

- i) [サブネットの作成(Create Subnet)]ウィンドウで必要な設定が完了したら、[OK]をク リックします。
- j) [完了(Finish)]をクリックして、[L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードに必要な 設定の入力を完了させます。
- **ステップ9** (任意) 必要に応じて、[BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] ウィン ドウに移動して、BGP 外部ルーテッドネットワークの追加設定を行います。

[テナント (Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]> [L3Out_name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]>[log_node_prof_name]> [BGP ピア (BGP Peer)] <address>

この L3Out の [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] ページが表示さ れます。

a) [BGP Controls] フィールドで、目的の制御をオンにします。

ピアは、ピアに送信される境界ゲートウェイプロトコル(BGP)属性を指定します。ピ ア制御オプションは次のとおりです。

- •[自身のASを許可(Allow Self AS)]:自律番号チェックを自身で有効にします。これにより、同じAS番号が使用されている場合にBGPピアが更新を挿入できます。
- [AS オーバーライド (AS override)]: BGP AS オーバーライド機能を有効にして、 デフォルト設定をオーバーライドします。AS オーバーライド機能では、発信元の ルータからの AS 番号を、アウトバウンド ルートの AS パスの BGP ルータ送信の AS 番号に置き換えます。アドレスファミリごとにこの機能を有効にできます(IPv4 または IPv6)。

AS オーバーライド機能を有効にするには、[ピア AS チェックを無効化(Disable Peer AS Check)]チェックボックスもオンにする必要があります。

[ピアASチェックを無効化(Disable Peer AS Check)]: ピア自律番号チェックを無効にします。このチェックボックスをオンにすると、アドバタイジングルータがASパスでレシーバのAS番号を見つけた場合、そのルータはレシーバにルートを送信しません。

AS オーバーライド機能を有効にするには、[ピア AS チェックを無効化(Disable Peer AS Check)] チェックボックスをオンにする必要があります。

- [自身にネクストホップを送信(Next-hop Self)]: BGP ネクストホップ属性を自身 に送信します。
- •[コミュニティの送信(Send Community)]: ピアに BGP コミュニティ属性を送信 します。
- •**[拡張コミュニティの送信(Send Extended Community)]**: ピアに BGP 拡張コミュ ニティ属性を送信します。
- •[ドメインパスの送信(Send Domain Path)]: BGP ドメインパスをピアに送信しま す。

- b) [パスワード(Password)]フィールドと[パスワードの確認(Confirm Password)]フィー ルドに、管理パスワードを入力します。
- c) [自身の AS 番号カウントを許可(Allow Self AS Number Count)]フィールドで、ローカ ル自律システム番号(ASN)の許可される発生回数を選択します。
 値の範囲は1~10です。デフォルトは3です。
- d) [ピア制御 (Peer Controls)]フィールドに、ネイバーチェックパラメータを入力します。 次のオプションがあります。
 - [双方向フォワーディングの検出(Bidirectional Forwarding Detection)]: ピアの BFD を有効にします。
 - •[接続チェックの無効化(Disable Connected Check)]: ピア接続のチェックを無効 にします。
- e) [アドレスタイプ制御(Address Type Controls)]フィールドで、必要に応じて BGP IPv4/IPv6 アドレスファミリ機能を設定します。
 - [AF Mcast]: マルチキャストアドレスファミリ機能を有効にする場合にオンにしま す。
 - [AFUcast]: ユニキャストアドレスファミリ機能が有効にする場合にオンにします。
- f) 必要に応じて、[ルーティングドメインID (Routing Domain ID)]のエントリをメモしま す。

[ルーティングドメイン ID (Routing Domain ID)]フィールドの値は、[BGP ルートリフ レクタポリシー (BGP Route Reflector Policy)]ページに入力されたグローバルドメイン ID ベース値を反映します。詳細については、「ループ防止のための BGP ドメインパス 機能について (233 ページ)」を参照してください。

g) [EBGP マルチホップ TTL (EBGP Multihop TTL)]フィールドに、接続存続可能時間 (TTL)を入力します。

範囲は1~255 ホップです。ゼロの場合、TTL は指定されません。デフォルトは1です。

h) [このネイバーからのルートの重み付け(Weight for routes from this neighbor)]フィール ドで、ピアからのルートに許可される重みを選択します。

ルータにローカルに割り当てられた重みが、最適パスの選択に使用されます。範囲は0~65535です。

i) [プライベート AS 制御(Private AS Control)] フィールドで、プライベート AS 制御を設 定します。

これらのオプションは、ACI BGP AS がパブリック AS 番号である場合、または [no-Prepend+replace-as] オプションを指定した [Local-AS 番号設定(Local-AS Number Config)]が、指定された BGP ピア接続プロファイル(BGP ネイバー コンフィギュレー ション)。[プライベート AS 制御(Private AS Control)]機能は自身のローカル プライ ベート AS を削除しないため、[replace-as] オプションを使用して、実際のローカル プラ イベート AS を AS PATH から削除します。

次のオプションがあります。

 「すべてのプライベート AS の削除(Remove all private AS)]:発信 eBGP ルート更 新ではこのネイバーを更新する際に、AS_PATH からすべてのプライベート AS 番号 を削除します。eBGP ルートにプライベート AS 番号とパブリック AS 番号がある場 合は、このオプションを使用します。パブリック AS 番号は保持されます。

ネイバーのリモート AS が AS_PATH にある場合、このオプションは適用されません。

このオプションを有効にするには、[プライベート AS の削除(Remove private AS)] を有効にする必要があります。

「プライベートASの削除(Remove private AS)]: このネイバーへの発信 eBGP ルート更新では、AS_PATH にプライベート AS 番号しかない場合、このオプションはすべてのプライベート AS 番号を削除します。eBGP ルートにプライベート AS 番号のみがある場合は、このオプションを使用します。

ネイバーのリモート AS が AS_PATH にある場合、このオプションは適用されません。

•[プライベート AS をローカル AS と置換(Replace private AS with local AS)]: この ネイバーへの発信 eBGP ルート更新では、このオプションは、パブリック AS また はネイバーリモート AS が AS_PATH に含まれているかどうかに関係なく、AS_PATH 内のすべてのプライベート AS 番号を ACI ローカル AS に置き換えます。

このオプションを有効にするには、[すべてのプライベート AS を削除(Remove all private AS)]を有効にする必要があります。

j) [BGP ピア プレフィックス ポリシー(BGP Peer Prefix Policy)]フィールドで、既存のピア プレフィックス ポリシーを選択するか、新しいポリシーを作成します。

ピアプレフィックスポリシーは、ネイバーから受信できるプレフィックスの数と、許可 されるプレフィックスの数を超えた場合に実行するアクションを定義します。この機能 は、外部 BGP ピアで一般的に使用されますが、内部 BGP ピアにも適用できます。

k) [Site of Origin] フィールドに、このピアを識別するための拡張コミュニティ値を入力します。

Site-of-Origin (SoO) 拡張コミュニティは、サイトを発信元とするルートを識別し、その プレフィックスの再アドバタイズメントが送信元のサイトに戻されることを防ぐために 使用される BGP 拡張コミュニティ属性です。この SoO 拡張コミュニティは、ルータが ルートを学んだサイトを一意に識別します。BGPは、ルートに関連付けられた SoO 値を 使用し、ルーティング ループを防止できます。

有効な形式:

- extended:as2-nn2:<2-byte number>:<2-byte number>
 - 例:extended:as2-nn2:1000:65534

• extended:as2-nn4:<2-byte number>:<4-byte number>

例: extended:as2-nn4:1000:6554387

• extended:as4-nn2:<4-byte number>:<2-byte number>

例:extended:as4-nn2:1000:65504

extended:ipv4-nn2:<IPv4 address>:<2-byte number>

例: extended:ipv4-nn2:1.2.3.4:65515

 (注) ユーザテナントL3OutのSoOを設定する場合は、ACIファブリック内で設定 されたグローバルファブリック、ポッド、またはマルチサイトSoOと同じ SoO値を設定しないようにしてください。スイッチで次のコマンドを実行す ると、ファブリック内に設定されたファブリック、ポッド、およびマルチサ イトSoOの値を表示できます。

show bgp process vrf overlay-1 | grep SOO

 [リモート自律システム番号(Remote Autonomous System Number)]フィールドで、ネイ バー自律システムを一意に識別する番号を選択します。

自律システム番号は、1~4294967295のプレーン形式で4バイトにすることができます。

- (注) ACI は asdot または asdot + 形式の AS 番号をサポートしていません。
- m) [ローカル AS 番号設定(Local-AS Number Config)] フィールドで、ローカル自律システム番号(ASN)設定を選択します。

グローバルASではなくローカルAS番号を使用すると、関連付けられたネットワーク内 のルーティングデバイスが以前のASに属しているように見えます。設定は次のとおり です。

• [no-Prepend+replace-as+dual-as]: ローカル AS での先頭付加を許可せず、両方の AS 番号で置き換えます。

ASパスの先頭に1つ以上の自律システム(AS)番号を付加できます。AS番号は、 ルートの発信元である実際のAS番号がパスに追加された後に、パスの先頭に追加 されます。ASパスの前に付加すると、ASパスが短く見えるため、BGPよりも優先 度が低くなります。

- [no-prepend]: ローカル AS でのプリペンドを許可しません。
- [no options]: ローカル AS の変更を許可しません。
- [no-Prepend+replace-as]: ローカル AS での先頭追加を許可せず、AS 番号を置き換 えます。
- n) [ローカル AS 番号 (Local-AS Number)]フィールドで、目的の値を選択します。

eBGP ピアのローカル自律システム機能の場合にオプションで必要です。ローカル自律 システム番号は、1 ~ 4294967295 のプレーン形式で4 バイトにすることができます。 ACI は asdot または asdot + 形式の AS 番号をサポートしていません。

o) [管理状態(Admin State)]フィールドで、[無効化(Disabled)]または[有効化(Enabled)] を選択します。

[管理状態(Admin State)]フィールドでは、対応する BGP ネイバーをシャットダウンで きます。この機能を使用すると、BGP ピア設定を削除せずに BGP セッションがシャッ トダウンされます。

次のオプションがあります。

- ・無効化: BGP ネイバーの管理状態を無効にします。
- •有効化: BGP ネイバーの管理状態を有効にします。
- p) [ルート制御プロファイル (Route Control Profile)]フィールドで、BGP ピアごとにルート 制御ポリシーを設定します。

[+]をクリックして、次を設定します。

- [名前(Name)]: ルート制御プロファイル名を選択します。
- [方向(Direction)]: 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ルートインポートポリシー
 - ルートエクスポートポリシー
- q) [送信(Submit)] をクリックします。`
- ステップ10 [テナント (Tenants)]> [tenant_name] > [ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]> [L3Out_name] に移動します。
- ステップ11 [ポリシー/メイン (Policy/Main)]タブをクリックし、次の操作を実行します。
 - a) (任意) [Route Control Enforcement] フィールドで、[mport] チェックボックスをオンにし ます。
 - (注) BGPでインポート制御を適用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
 - b) [Route Control for Dampening] フィールドを展開し、目的のアドレスファミリタイプとルート ダンプニング ポリシーを選択します。[Update] をクリックします。

このステップでは、ポリシーはステップ4で作成することができます。または、ポリシー 名が選択されているドロップダウンリストで[**ルート プロファイルの作成**(Create route profile)]をするオプションがあります。

ステップ12 [テナント (Tenants)]> [tenant_name] > [ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]> [L3Out_name] に移動します。

- ステップ13 [ルート制御のインポートおよびエクスポートのルートマップ(Route Map for import and export rout control)]を右クリックし、[ルート制御のインポートおよびエクスポートのルートマッ プの作成(Create Route Map for import and export rout control)]を選択します。
- ステップ14 このウィンドウに必要な情報を入力し、[コンテキスト(Context)]領域で[+]をクリックして [ルート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)]ウィンドウを表示します。
 - a) [名前 (Name)]フィールドに、ルート制御 VRF の名前を入力します。
 - b) [Set Attribute] ドロップダウン リストから、[Create Action Rule Profile] を選択します。

BGP Max Path の設定

次の機能を使用すると、等コストマルチパスのロード バランシングを有効にするルート テー ブルへのパスの最大数を追加できます。

GUI を使用した BGP Max Path の設定

始める前に

適切なテナントと BGP 外部ルーティング ネットワークが作成され、使用可能になります。

手順

- ステップ1 [メニュー (Menu)]バーで、[テナント (Tenants)]>[すべてのテナント (All Tenants)]を選 択します。
- **ステップ2** 作業ウィンドウで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ3 [ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[テナント名(Tenant_name)]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル(Protocol)]>[BGP]>[BGPアドレスファミリコンテキスト(BGP Address Family Context)]を展開します。
- ステップ4 [BGP アドレス ファミリ コンテキスト (BGP Address Family Context)]を右クリックし、[BGP アドレス ファミリ コンテキスト ポリシーの作成 (Create BGP Address Family Context Policy)] を選択します。
- **ステップ5** [Create BGP Address Family Context Policy] ダイアログ ボックスで、次のタスクを実行します。

次のフィールドの許容値については、Cisco APICドキュメンテーションページの Cisco APIC 検 証済みスケーラビリティ ガイドを参照してください。

- a) [Name] フィールドにポリシーの名前を入力します。
- b) [eBGP 距離(eBGP Distance)] フィールドに、eBGP ルートの[管理距離(Administrative Distance)]の値を入力します。

アクション ルールを作成するときに、必要に応じてルート ダンプニング属性を設定しま す。

- c) [**iBGP 距離(iBGP Distance**)] フィールドに、iBGP ルートの[管理距離(Administrative Distance)]の値を入力します。
- d) [ローカル距離(Local Distance)]フィールドに、ローカル距離の値を入力します。
- e) [eBGP 最大 ECMP (eBGP Max ECMP)]フィールドに、eBGP ロード シェアリングの等コ ストパスの最大数の値を入力します。
- f) [iBGP 最大 ECMP(iBGP Max ECMP)] フィールドに、iBGP ロード シェアリングの等コス トパスの最大数の値を入力します。
- g) DCIG への EVPN タイプ2(MAC/IP)ホストルートの配布を有効にする場合には、[ホス トルートリークの有効化(Enable Host Route Leak)]チェックボックスをオンにします。
- h) エントリを更新した後、[Submit] をクリックします。
- ステップ6 [テナント (Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング (Networking)]>[VRFs]> [vrf_name] の順にクリックします。
- ステップ7 対象の VRF の設定の詳細を確認します。
- **ステップ8** [アドレスファミリごとの BGP コンテキスト (BGP Context Per Address Family)]フィールドを 見つけ、[BGP アドレスファミリ タイプ (BGP Address Family Type)]領域で、IPv4 unicast address family または IPv6 unicast address family を選択します。
- **ステップ9** [BGP Address Family Context] ドロップダウン リストで作成した [BGP Address Family Context] にアクセスし、それをサブジェクト VRF に関連付けます。
- ステップ10 [送信 (Submit)] をクリックします。

AS パス プリペンドの設定

次の項の手順を使用して、AS パスのプリペンドを設定します。

AS パス プリペンドの設定

BGP ピアは、AS パスアトリビュートの長さを増やすことで、リモート ピアでベスト パス選 択の影響を与えることができます。番号として指定桁の前に付加して AS パスアトリビュート の長さを向上するために使用するメカニズムを提供する AS パス Prepend。

ASパス前に付加は、ルートマップを使用してアウトバウンド方向にのみ適用できます。パス として前に付加が機能しない iBGP セッションで。

AS パス Prepend 機能は、次のように変更を有効に。

プリペンド	ルート マップ を付加します	プと一致するルートの AS パスに、指定した AS 番号 。
	(注)	•1個以上のAS番号を設定できます。
		•4 バイト番号がサポートされています。
		 合計を prepend は 32 の AS 番号。AS 番号は、AS パスアトリビュートに挿入されます順序を指定す る必要があります。

Prepend-最後-として 最後(の前に付加 AS パス1から10までの範囲に番号として。			
次の表では、AS パス Prepend の実装の選択基準について説明します。					
プリペンド	1	指定された AS 番号を追加します。			
Prepend-最後-として	2	最後のAS番号をASパスに付加します。			
デフォルト	Prepend(1)	指定された AS 番号を追加します。			

設定の AS パス Prepend GUI を使用して

始める前に

構成済みのテナント

手順

ステップ1 APIC GUI にログインしメニュー バーで、[テナント(Tenants)]>[tenant_name]>[ポリシー(Policies)]>[プロトコル(Protocol)]>[設定ルール(Set Rules)]の順にクリックし、[ルートマップの設定ルールの作成(Create Set Rules for a Route Map)]を右クリックします。

[**ルートマップの設定ルールの作成**(Create Set Rules For A Route Map)] ウィンドウが表示されます。

- **ステップ2** 設定ルールのAルートマップの作成 ダイアログボックス、次のタスクを実行します。
 - a) [Name] フィールドに、名前を入力します
 - b) [AS パスの設定 (Set AS Path)] チェックボックスをオンにし、[次へ (Next)] をクリック します。
 - c) [AS パス (AS Path)] ウィンドウで [+] をクリックして [AS パスの設定を作成 (Create Set AS Path)] ダイアログ ボックスを開きます。
- **ステップ3** 基準に [AS 番号の付加(Prepend AS)]を選択し、[+] をクリックして AS 番号を先頭に付加し ます。
- **ステップ4** AS 番号とその順序を入力し、クリックして **更新**。[+] をクリックして複数の AS 番号の先頭 を追加する必要があるかどうかを繰り返します。
- ステップ5 AS番号の先頭を追加する設定が完了したら、基準[AS番号の末尾を追加(Prepend Last-AS)] を選択し、指定された回数の数を AS 番号の末尾に付加します。
- ステップ6 [カウント](1-10)を入力します。
- **ステップ7** [OK] をクリックします。
- **ステップ8** [ルート マップの設定ルールを作成(Create Set Rules For A Rout Map)] ウィンドウで AS パス に基づく設定ルールの基準を確認し、[完了(Finish)] をクリックします。
- **ステップ9** APIC GUI メニューバーで、[テナント(Tenants)][tenant_name][ポリシー(Policies)][プロト コル(Protocol)][設定ルール(Set Rules)]の順にクリックし、プロファイルを右クリックし ます。> >>>

ステップ10 確認、 AS パスの設定 画面の下部の値します。

AS オーバーライドの BGP 外部ルーテッド ネットワーク

AS オーバーライドを使用して BGB 外部ルーテッド ネットワークを設定するには、次の項の 手順を使用します。

BGP 自律システムのオーバーライドについて

BGP のループ防止は、自律システムパスの自律システム番号を確認することで行われます。 受信側のルータが受信した BGP パケットの自律システムパスで独自の自律システム番号が表示される場合、パケットは廃棄されます。受信側のルータでは、パケットが独自の自律システムから発信され、最初に発信元から同じ場所に達したことが想定されます。この設定では、 ルーティング ループが発生しないようにするためのデフォルトです。

別の自立システム番号によりリンクする同一の自律システム番号を持つさまざまなサイトや禁 止ユーザーのサイトを使用する場合、デフォルトルートのループが発生しないようにする設定 によって問題が発生する可能性があります。このようなシナリオでは、その他のサイトが受信 した場合1つのサイトからのルーティング更新は廃棄されます。

このような状況の発生を防ぐため、Cisco APIC リリース 3.1(2m) 以降、BGP 自律システムの オーバーライド機能を有効にして、デフォルトの設定をオーバーライドすることができます。 同時に、ピア AS チェックの無効化も有効にする必要があります。

自律システムオーバライド機能では、発信元のルータからの自律システム番号を、アウトバウンドルートのASパスのBGPルータ送信の自律システム番号に置き換えます。アドレスファミリごとにこの機能を有効にできます(IPv4またはIPv6)。

自律システム オーバライド機能は、GOLF レイヤ3設定および非GOLF レイヤ3の設定でサポートされています。



ルータ1およびルータ2は、複数のサイトを持つ2つの顧客です(サイトAとサイトB)。顧客ルータ1はAS100で動作し、顧客ルータ2はAS200で動作します。

上の図は、次のような自律システム(AS)オーバーライドプロセスを示しています。

- 1. ルータAサイト1では、AS100でルート10.3.3.3をアドバタイズします。
- 2. ルータ PE-1 は、AS100 として PE2 へ内部ルートとして反映します。
- 3. ルータPE-2はAS121で10.3.3.3をプリペンドし(ASパスの100を121に置き換えます)、 プレフィックスをプロパゲートします。
- 4. ルータ2サイトBは10.3.3.3 更新プログラムを承認します。

GUIを使用して、BGP外部ルーテッドネットワークと有効になっている自律システム オーバーライドを設定する

始める前に

- テナント、VRF、およびブリッジ ドメインが作成されています。
- 非 GOLF 設定の外部ルーテッドネットワーク、論理ノードプロファイル、および BGP ピア接続プロファイルが作成されています。

手順

ステップ1 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[Tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]> [L3Outs]>[Non-GOLF Layer 3 Out_name]>[論理ノードプロファイル(Logical Node Profiles)] を選択します。 ステップ2 Navigation ウィンドウで、適切な BGP Peer Connectivity Profile を選択します。

- **ステップ3** [作業(Work)]ペインで、[BGP ピア接続プロファイル(BGP Peer Connectivity Profile)]の[プ ロパティ(Properties)]下の[BGP 制御(BGP Controls)]フィールドで、次の手順を実行しま す:
 - a) AS override フィールドのチェック ボックスをオンにして、Autonomous System override 機能を有効にします。
 - b) Disable Peer AS Check フィールドのチェック ボックスをオンにします。
 - (注) AS オーバーライド機能を有効にするには、AS override および Disable Peer AS Check チェック ボックスをオンにする必要があります。
 - c) 必要に応じてその他のフィールドを選択します。
- ステップ4 [送信 (Submit)]をクリックします。

BGP ネイバー シャットダウンおよびソフト リセット

BGB ネイバーのシャットダウンとソフト リセットを設定するには、次の項の手順を使用します。

BGP ネイバー シャットダウンとソフト リセットについて

リリース 4.2(1) 以降、次の機能がサポートされるようになりました。

- BGP ネイバー シャットダウン (317 ページ)
- •BGP ネイバー ソフト リセット (317 ページ)

BGP ネイバー シャットダウン

BGP ネイバーシャットダウン機能は、NX-OS の neighbor shutdown コマンドに似ており、対応 する BGP ネイバーをシャットダウンします。このポリシーを使用して、BGP ネイバーの管理 状態を無効または有効にします。この機能を使用すると、BGP ピア設定を削除せずに BGP セッ ションがシャットダウンされます。

BGP ネイバー ソフト リセット

BGP ネイバー ソフト リセット機能は、BGP ルート リフレッシュ機能を使用して、保存されて いるルーティング テーブル アップデート情報に依存しない着信および発信 BGP ルーティング テーブル アップデートのダイナミック ソフト リセットを自動的にサポートします。ソフト ダ イナミック インバウンド リセットとソフト アウトバウンド リセットを有効にするには、この ポリシーを使用します。

GUI を使用した BGP ネイバー シャットダウンの設定

次の手順では、GUIを使用して BGP ネイバー シャットダウン機能を使用する方法について説明します。

始める前に

L3Out を設定する前に、次のような標準的な前提条件を満たします。

- ノード、ポート、AEP、機能プロファイル、レイヤ3ドメインを設定します。
- ファブリック内でルートを伝播させるための、BGP ルート リフレクタ ポリシーを設定します。

手順

ステップ1 L3Out を作成し、L3Out の BGP を設定します。

- a) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで[テナント (Tenant)]および[ネットワーキング (Networking)]を展開します。
- b) [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。
- c) L3Out の BGP を設定するために必要な情報を入力します。
 この L3Out の BGP プロトコルを設定するには、L3Out 作成ウィザードの[識別(Identity)]
 ページで [BGP] を選択します。

							00
			1. Identity	2. Nodes And Interfa	ices 3	3. Protocols	4. External EPG
			🏠 Protocol -				
L			Ø Route				R
Leaf							Router
Identity							
A Layer select ro Prerequi Config	3 Outside network config utes, select quality of se sites: gure the node, port, funci sure a BGP route reflecto	guration (L3Out) defines ho rvice, and forward the traff tional profile, AEP, and Laye tr policy to propagate the re	w traffic is forwarded outsi c that is entering, exiting, or 3 domain.	de of the fabric. Layer 3 and transiting the fabric.	is used to dis	cover the addres:	ses of other nodes,
				\sim			
Name:	L3Out-demo		(🗹 BGP 🔵 🗌		OSPF	
Name: VRF:	L3Out-demo VRF-demo		C	BGP		OSPF	
Name: VRF: Layer 3 Domain:	L3Out-demo VRF-demo L3Domain-demo		(SGP 🗆		OSPF	

- d) 残りのページを続けて行い([ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]、[プロトコル(Protocols)]、および[外部 EPG(External EPG)])、L3Outの設定を完了します。
- ステップ2 L3Out の設定が完了したら、BGP ネイバーのシャットダウンを設定します。
 - a) BGP ピア接続プロファイル画面に移動します。

[テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]>[L3out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical-node-profile-name]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[logical-interface-profile-name]>[BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)][IP-address]

- b) [管理状態(Admin State)] フィールドまでスクロールし、このフィールドで適切な選択を 行います。
 - ・無効化: BGP ネイバーの管理状態を無効にします。
 - 有効化: BGP ネイバーの管理状態を有効にします。

GUI を使用した BGP ネイバー ソフト リセットの設定

次の手順では、GUIを使用して BGP ネイバー ソフト リセット機能を使用する方法について説 明します。

始める前に

L3Out を設定する前に、次のような標準的な前提条件を満たします。

- ノード、ポート、AEP、機能プロファイル、レイヤ3ドメインを設定します。
- ファブリック内でルートを伝播させるための、BGP ルート リフレクタ ポリシーを設定します。

手順

ステップ1 L3Out を作成し、L3Out の BGP を設定します。

- a) [**ナビゲーション**(Navigation)]ペインで[**テナント**(Tenant)]および[ネットワーキング (Networking)]を展開します。
- b) [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。
- c) L3Out の BGP を設定するために必要な情報を入力します。
 この L3Out の BGP プロトコルを設定するには、L3Out 作成ウィザードの[識別(Identity)]
 ページで [BGP] を選択します。

						8 8
			1. Identity	2. Nodes And Interfaces	3. Protocols	4. External EPG
			🌺 Protocol			
L			Route			R
Leaf						Router
Identity A Layer 3 of select rout Prerequisit Configu Configu	Outside network configurati les, select quality of service les: re the node, port, functional re a BGP route reflector pol	ion (L3Out) defines how tr , and forward the traffic th I profile, AEP, and Layer 3 licy to propagate the route	raffic is forwarded outsid hat is entering, exiting, ai domain. Is within the fabric.	e of the fabric. Layer 3 is us nd transiting the fabric.	ed to discover the addre	sses of other nodes,
Name: [30ut-demo		C			
VPE-	/RF-demo	- C				
***** L						
Layer 3 Domain: L	3Domain-demo					

- d) 残りのページを続けて行い([ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]、[プロトコル (Protocols)]、および [外部 EPG (External EPG)])、L3Out の設定を完了します。
- ステップ2 L3Outの設定が完了したら、BGPネイバーのソフトリセットを設定します。
 - a) [BGP ピアエントリ (BGP Peer Entry)] 画面に移動します。

[テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]>[L3out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical-node-profile-name]>[設定済みノード (Configured Nodes)]>[ノード (node)]> [BGP for VRF-vrf-name]>[ネイバー (Neighbors)]

b) 適切なネイバーエントリを右クリックし、[BGP ピアのクリア(Clear BGP Peer)]を選択 します。

[BGP をクリア(Clear BGP)]ページが表示されます。

c) [モード (Mode)]フィールドで、[ソフト (Soft)]を選択します。

[方向 (Direction)] フィールドが表示されます。

- d) [方向(Direction)]フィールドで適切な値を選択します。
 - Incoming: ソフトダイナミックインバウンドリセットを有効にします。
 - Outgoing: ソフトアウトバウンドリセットを有効にします。

VRF ごと、ノード BGP ごとのタイマーの値の設定

ノードごとの BGP タイマー値を設定するには、次の項の手順を使用します。

ノード BGP タイマー値ごとの各 VRF

この機能を紹介する前に、特定のVRF について、すべてのノードには同じ BGP タイマーの値 が使用されます。

ノード BGP タイマー値ごとの各 VRF 機能の導入により、BGP タイマーを定義し、各ノード ベースの VRF ごとに関連付けることが可能です。ノードでは複数の VRF を所持することが可 能で、それぞれ、fvCtx に対応しています。ノード設定(13extLNodeP)には、BGP プロトコ ルプロファイル (bgpProtP) の設定が含まれており、希望の BGP コンテキスト ポリシーを参 照します (bgpCtxPol)。これにより、同じ VRF 内のさまざまなノードが異なる BGP タイマー の値を含めることが可能になります。

各 VRF ではノードに bgpDom の具体的な MO を含みます。その名前(プライマリキー)は、 VRF <fvTenant>:<fvCtx>です。属性として BGP タイマーの値が含まれています(例:holdIntvl、 kaIntvl、maxAsLimit)。

有効なレイヤ3アウト設定を作成するために必要なすべての手順は、ノード BPG タイマーご との各 VRF に正常に適用する必要があります。たとえば、次のような MO は必須です: fvTenant、fvCtx、13extOut、13extInstP、LNodeP、bgpRR.。

ノードでは、BGP タイマーポリシーは次のアルゴリズムに基づいて選択されます。

- BgpProtP が指定されると、bgpProtP の下で参照される bgpCtxPol を使用します。
- ・それ以外の場合、指定されると対応するfvCtxの下で参照されるbgpCtxPolを使用します。
- それ以外の場合、指定されるとテナントでデフォルトポリシーを使用します。例: uni/tn-<tenant>/bgpCtxP-default.。
- それ以外の場合、テナント common の下の default ポリシーを使用します。例: uni/tn-common/bgpCtxP-default。これはプログラム済みです。

設定の高度な GUI を使用して BGP タイマーのノードごとの VRF あたり

BGP タイマーが特定のノードに設定されているときに、ノードで BGP タイマー ポリシーを使用し、VRF に関連付けられている BGP ポリシー タイマーはすべて無視されます。

始める前に

テナントと VRF はすでに設定されています。

手順

- ステップ1 メニュー バーで、[テナント(Tenant)]> [Tenant_name] > [ポリシー(Policies)]> [プロト コル(Protocol)]> [BGP]> [BGP タイマー(BGP Timers)]を選択し、[BGP タイマー ポリ シーの作成(Create BGP Timers Policy)]を右クリックします。
- **ステップ2** [**BGP タイマー ポリシーの作成(Create BGP Timers Policy**)] ダイアログ ボックスで、次の操作を実行します:
 - a) Name フィールドに、BGP タイマー ポリシーの名前を入力します。
 - b) 使用可能なフィールドには、必要に応じて、適切な値を選択します。[Submit] をクリック します。`

BGP タイマー ポリシーが作成されます。

ステップ3 [テナント(Tenant)]> [Tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[L3Outs]に移 動し、[L3Out の作成(Create L3Out)]を右クリックします。

> **Create L3Out** ウィザードが表示されます。次の操作を実行して、BGP を有効にした L3Out を 作成します。

- **ステップ4** [L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードの [識別(Identity)] ウィンドウに必要な情報を入 力します。
 - a) Name フィールドに L3Out の名前を入力します。
 - b) VRF ドロップダウンリストから VRF を選択します。
 - c) [L3 ドメイン(L3 Domain)]ドロップダウンリストから、適切なドメインを選択します。
 - d) ルーティング プロトコルのチェック ボックスがある領域で、[BGP] を選択します。
 - e) Next をクリックして Nodes and Interfaces ウィンドウに移動します。
 - f) [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードの残りのウィンドウに進み、L3Out の作成プロセスを完了します。
- ステップ6 [論理ノードプロファイル (Logical Node Profile)]ウィンドウで、[BGP プロトコルプロファ イルの作成 (Create BGP Protocol Profile)]の横にあるチェックボックスをオンにします。 [ノード指定 BGP プロトコルプロファイルの作成 (Create Node Specific BGP Protocol Profile)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ7 BGP タイマー] フィールドに、ドロップダウンリストから、この特定のノードに関連付ける BGP タイマー ポリシー選択します。[送信(Submit)] をクリックします。'

特定のBGP タイマーポリシーは、ノードに適用されます。

 (注) BGP タイマー ポリシーと、既存のノードのプロファイルを関連付ける、ノードの プロファイルを右クリックし、タイマー ポリシーを関連付けます。

タイマーポリシーが具体的に選択していない場合、**BGP タイマー**されたノードのプロファイルが存在する自動的にVRF に関連付けられている BGP タイマーポリシーは、このノードに適用を取得し、ノードのフィールドします。

ステップ8 設定を確認するには、Navigation ウィンドウで、次の手順を実行します:

- a) [テナント (Tenants)]> [Tenant_name]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]> [L3Out_name] >[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]> [LogicalNodeProfile-name] >[プロトコル プロファイル (Protocol Profiles)]の順に移動し ます。
- b) 作業]ペインで、ノードのプロファイルに関連付けられている BGP プロトコル プロファ イルが表示されます。

不整合や障害のトラブルシューティング

特定の状況下では、次のような不整合や障害が発生する可能性があります:

異なるレイヤ3Out(13Out)が同じVRF(fvctx)に関連付けられているか、同じノードで bgpProtP が異なるポリシー (bgpCtxPol)に関連付けられていると、障害が発生します。次の例では、同 じ Layer 3 Out (out1 と out2)が同じ VRF (ctx1)に関連付けられています。out1 の下では、node1 は BGP タイマープロトコル pol1 に関連付けられており、out2 の下では、node1 は別の BGP タイマープロトコル pol2 に関連付けられています。。この場合、障害が発生します。

```
tn1
  ctx1
  out1
   ctx1
   node1
   protp pol1
  out2
   ctx1
   node1
   protp pol2
   ctx1
   ctx
```

このような障害が発生した場合は、設定を変更して、BGP タイマー ポリシー間の競合を削除 してください。

BFD サポートの設定

BFD サポートを設定するには、次の項の手順を使用します。

双方向フォワーディング検出

双方向フォワーディング検出(BFD)を使用して、ピアリングルータの接続をサポートするように設定された ACI ファブリック境界リーフ スイッチ間の転送パスのサブセカンド障害検出 時間を提供します。

BFD は、次のような場合に特に役立ちます。

 ルータ同士の間に直接的な接続がない場合に、レイヤ2デバイスまたはレイヤ2クラウド 経由でピアリングルータが接続されているとき。転送パスに障害があっても、ピアルー タにはそれがわからない可能性があります。プロトコルの制御に利用できるメカニズムは helloタイムアウトだけですが、タイムアウトまでには数十秒、さらには数分の時間がかか る場合があります。BFDでは、障害を1秒未満で検出することが可能です。

- 信頼できる障害検出に非対応の物理メディア(共有イーサネットなど)経由でピアリングルータが接続されているとき。この場合も、ルーティングプロトコルは、時間のかかるhelloタイマーに頼るしかありません。
- •1 組のルータの間で多くのプロトコルが実行されているとき、各プロトコルは、独自のタ イムアウトでリンク障害を検出する独自の hello メカニズムを持っています。BFD は、す べてのプロトコルに均一のタイムアウトを指定し、それによってコンバージェンス時間の 一貫性を保ち、予測可能にします。

次に示す BFD の設定のガイドラインおよび制限事項に従ってください。

- APIC リリース 3.1 (1) 以降、リーフおよびスパイン スイッチ間の BFD は IS-IS のファブ リック インターフェイスでサポートされています。さらに、スパイン スイッチの BFD 機 能は、OSPF ルートとスタティック ルートでサポートされます。
- Cisco APIC リリース 5.2(4) 以降、BFD 機能は、ルーテッドインターフェイスで設定されているセカンダリ IPv4/IPv6 サブネットを使用して到達可能なスタティック ルートでサポートされています。サブネットに複数のアドレスが設定されている場合、スタティックBFDセッションはL3Outインターフェイスのセカンダリサブネットから発信できません。
 共有サブネット アドレス (vPC シナリオに使用)と浮動 L3Out に使用される浮動 IP アドレスは、サブネットの追加アドレスとして許可され、自動的にスキップされ、静的BFDセッションの発信元には使用されません。

- (注) セッションのソースに使用されているセカンダリアドレスを変更 するには、同じサブネットに新しいアドレスを追加し、後で以前 のアドレスを削除します。
 - •BFDは-EXおよび-FX ラインカード(または新しいバージョン)のモジュラスパインス イッチでサポートされ、また BFDは Nexus 9364C 非モジュラスパインスイッチ(または 新しいバージョン)でサポートされます。
 - VPC ピア間の BFD はサポートされません。
 - APIC リリース 5.0(1) 以降、BFD マルチホップはリーフ スイッチでサポートされます。
 BFD マルチホップ セッションが合計に含まれるようになったため、BFD セッションの最大数は変更されません。
 - APIC リリース 5.0(1) 以降、ACI はCビット対応 BFD をサポートしています。BFD がコントロール プレーンに依存しているかいないかは、受信する BFD パケットのCビットによって判別されます。
 - ループバック アドレス ピアでの iBGP 上の BFD はサポートされません。

- インターフェイスポリシーでBFDサブインターフェイス最適化を有効化できます。この フラグを1つのサブインターフェイスに立てることにより、その物理インターフェイス上 のすべてのサブインターフェイスの最適化が有効になります。
- BGP プレフィクス ピアの BFD はサポートされません。



(注) Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。したがって、外部ルータへの レイヤ 3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介した マルチポッド 接続 を設定する場合は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設定されていることが推 奨されます。Cisco ACI、Cisco NX-OS、Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定 可能な MTU 値はイーサネット ヘッダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネット ヘッダー サイ ズを除く)を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームには、設定された MTU 値にイーサネット ヘッダーが含まれています。設定された値が 9000の場合、Cisco ACI、 Cisco NX-OS Cisco IOS の最大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタグ なしインターフェイスの最大 IP パケットサイズは 8986 バイトになります。

各プラットフォームの適切なMTU値については、それぞれの設定ガイドを参照してください。

CLI ベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1 などの コマンドを使用します。

サブインターフェイスの BFD の最適化

サブインターフェイスの BFD は最適化できます。BFD により、設定されているすべてのサブ インターフェイスのセッションが作成されます。BFD により、設定されている最小の VLAN ID を持つサブインターフェイスがマスター サブインターフェイスとして設定され、そのサブ インターフェイスは親インターフェイスの BFD セッション パラメータを使用します。残りの サブインターフェイスは slow timer を使用します。

最適化サブインターフェイス セッションでエラーが検出されると、BFD により、その物理イ ンターフェイスのすべてのサブインターフェイスがダウンとマークされます。

BFD モニタ対象リンクの一端または両端で BFD エコー機能を設定できます。エコー機能は設 定された slow timer に基づいて必要最小受信間隔を遅くします。[*RequiredMinEchoRx*]BFD セッ ションパラメータは、エコー機能がディセーブルの場合、ゼロに設定されます。slow timer は、 エコー機能がイネーブルの場合、必要最小受信間隔になります。



(注) サブインターフェイスの1つがフラップすると、その物理インターフェイスのサブインター フェイスが影響を受け、1秒間ダウンします。

GUI を使用したセカンダリ IP アドレスでの双方向フォワーディング検出の構成

この手順では、GUIを使用して、セカンダリIPアドレスで双方向フォワーディング検出(BFD)を構成します。

手順

- **ステップ1** メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[すべてのテナント(ALL Tenants)]の順に選択し ます。>
- **ステップ2** 作業ウィンドウで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ3 ナビゲーションペインから、[tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[L3Outs]> [l3Out_name]>[論理ノード プロファイル(Logical Node Profiles)]>[node_profile_name]>[論 理インターフェイス プロファイル(Logical Interface Profiles)]>[interface_profile_name]の順 に移動します。
- ステップ4 [Work] ペインで、必要に応じて [Policy(ポリシー)] > [ルーテッド サブインターフェイス (Routed Sub-interfaces)]、[Policy(ポリシー)] > Routed Interfacesまたは [Policy(ポリ シー)] > [SVI]を選択します。
- **ステップ5** インターフェイスをダブルクリックして、そのプロパティを編集します。
- **ステップ6** インターフェイスのタイプに応じて、次のサブステップのいずれかを実行します。
 - a) インターフェイスがルーテッド サブインターフェイスまたはルーテッド インターフェイ ス、または[パス タイプ(Path Type)]が[ポート(Port)]または[ダイレクト ポート チャ ネル(Direct Port Channel)]に設定されたスイッチ仮想インターフェイス(SVI)である場 合は、[IPv4 セカンダリ/IPv6 追加アドレス(IPv4 secondary/IPv6 Additional Addresses)] テーブルで、+をクリックし、IP を入力します。アドレスとサブネットを選択し、[送信 (Submit)]をクリックします。
 - b) インターフェイスがスイッチ仮想インターフェイス (SVI) で、パス タイプが仮想ポート チャネルに設定されている場合は、サイド B の IPv4 セカンダリ/IPv6 追加アドレステーブ ルで、+ をクリックし、IP アドレスとサブネットを入力して、[OK] をクリックします。
- ステップ7 [ナビゲーション]ペインで、[tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[L3Outs]> [l3out_name]>[論理ノード プロファイル(Logical Node Profiles)]>[node_profile_name]>[構 成済みノード(Configured Nodes)]>[node_name]を選択します。
- **ステップ8** [静的ルート(Static Routes)]テーブルで、[+]をクリックして、次のサブステップを実行します。
 - a) [プレフィックス (Prefix)] フィールドに、外部ネットワークに割り当てられている静的 ルートの IP アドレスとマスクを入力します。
 - b) [BFD] チェックボックスをオンにします。
 - c) [次のホップアドレス(Next Hop Addresses)] テーブルで、[+] をクリックし、[次のホッ プアドレス(Next Hop Addresses)] フィールドに、インターフェイスに指定したセカン ダリ IP アドレスから到達可能な IP アドレスを入力します。
 - d) 必要に応じて、残りのフィールドに入力します。
 - e) [OK] をクリックします。

ステップ9 必要に応じて、残りのフィールドに入力します。 ステップ10 [送信 (Submit)]をクリックします。

GUI を使用してリーフ スイッチの BFD をグローバルに設定する

手順

- ステップ1 メニューバーで、[Fabric] > [Access Policies] の順に選択します。
- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]>[スイッチ (Switch)]> [BFD]の順に展開します。

設定を双方向フォワーディング検出 (BFD)には、使用可能な2つの種類があります:

• BFD IPV4

• BFD IPV6

これらのBFD設定ごとに、デフォルトポリシーを使用するか、特定のスイッチ(またはスイッ チのセット)用に新しいポリシーを作成できます。

- (注) デフォルトでは、APIC コントローラはシステムの起動時にデフォルトのポリシー を作成します。これらのデフォルトポリシーはグローバルなもので、双方向転送検 出(BFD)の設定ポリシーです。デフォルトグローバルポリシー内の属性は、作業 ウィンドウで設定できます。または、これらデフォルトのポリシーの値を変更する こともできます。ただし、いったんデフォルトのグローバルポリシーを変更する と、システム全体(すべてのスイッチ)に影響することに注意してください。デフォ ルトではありませんが、特定のスイッチ(またはスイッチの設定)の特定の設定を使 用する場合は、次の手順の説明に従って、スイッチのプロファイルを作成します。
- ステップ3 特定のグローバル BFD ポリシー(デフォルトではないもの)向けにスパイン スイッチ プロ ファイルを作成するには、[ナビゲーション(Navigation)] ペインで、[スイッチ(Switches)]> [リーフスイッチ(Leaf Switches)]>[プロファイル(Profiles)]の順に展開します。 リーフスイッチ - プロファイル(Leaf Switches - Profiles) 画面が [作業(Work)] ペインに表 示されます。
- ステップ4 [作業(Work)] ペインの右側、アクションアイコンの下で、リーフ プロファイルの作成 (Create Leaf Profile) を選択します。 [Create Leaf Profile] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ5 Create Leaf Profile ダイアログボックスで、次の操作を実行します:
 - a) Name フィールドに、リーフ スイッチ プロファイルの名前を入力します
 - b) (任意) [説明 (Description)] フィールドに、プロファイルの説明を入力します。
 - c) (任意) [リーフ セレクタ (Leaf Selectors)] ツールバーで、[+] をクリックします。
 - d) [名前(Name)](スイッチに名前を付けます)、[ブロック(Blocks)](スイッチを選択します)、および[ポリシーグループ(Policy Group)]([アクセス スイッチ ポリシーグループの作成(Create Access Switch Policy Group)])に適切な値を入力します。

Create Access Switch Policy Group ダイアログボックスが表示されます。ここでは、ポリ シー グループの識別プロパティを指定できます。

- ステップ6 (リーフセレクタを設定する場合) [アクセススイッチポリシーグループの作成 (Create Access Switch Policy Group)] ダイアログ ボックスで次のアクションを実行します。
 - a) [Name] フィールドにポリシー グループの名前を入力します。
 - b) (任意)[説明(Description)]フィールドで、ポリシーグループの説明を入力します。
 - c) BFD ポリシー タイプ (BFD IPV4 Policy または BFD IPV6 Policy) を選択し、値 (default または Create BFD Global Ipv4 Policy) を特定のスイッチまたはスイッチのセットに対して選択します。
 - d) [更新 (Update)]をクリックします。
- ステップ7 [次へ (Next)]をクリックして [関連付け (Associations)] へ進みます。

(任意)[関連付け(Associations)]メニューで、リーフ プロファイルをリーフ インターフェ イス プロファイルおよびアクセス モジュール プロファイルに関連付けることができます。

ステップ8 [完了 (Finish)]をクリックします。

BFD グローバルポリシーを作成するもう1つの方法は、BFD IPV4 または BFD IPV6 のいずれ かを右クリックします (Navigation ウィンドウにあります)。

- ステップ9 作成した BFD グローバル コンフィギュレーションを確認するには、[ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー(Policies)]>[スイッチ(Switch)]>[BFD]の順に展開 します。
- GUI を使用してスパイン スイッチで BFD のグローバル設定

手順

- ステップ1 メニューバーで、[Fabric] > [Access Policies] の順に選択します。
- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]>[スイッチ (Switch)]> [BFD]の順に展開します。

設定を双方向フォワーディング検出 (BFD)には、使用可能な2つの種類があります:

- BFD IPV4
- BFD IPV6

これらのBFD設定ごとに、デフォルトポリシーを使用するか、特定のスイッチ(またはスイッ チのセット)用に新しいポリシーを作成できます。

- (注) デフォルトでは、APIC コントローラはシステムの起動時にデフォルトのポリシー を作成します。これらのデフォルトポリシーはグローバルなもので、双方向転送検 出(BFD)の設定ポリシーです。デフォルトグローバルポリシー内の属性は、作業 ウィンドウで設定できます。または、これらデフォルトのポリシーの値を変更する こともできます。ただし、いったんデフォルトのグローバルポリシーを変更する と、システム全体(すべてのスイッチ)に影響することに注意してください。デフォ ルトではありませんが、特定のスイッチ(またはスイッチの設定)の特定の設定を使 用する場合は、次の手順の説明に従って、スイッチのプロファイルを作成します。
- ステップ3 特定のグローバル BFD ポリシー(デフォルトではないもの)向けにスパイン スイッチ プロ ファイルを作成するには、[ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[スイッチ(Switches)]> [スパインスイッチ(Spine Switches)]>[プロファイル(Profiles)]の順に展開します。 スパインスイッチ:プロファイル 画面が [作業(Work)] ペインに表示されます。
- ステップ4 [作業(Work)]ペインの右側、アクションアイコンの下で、[スパイン プロファイルの作成 (Create Spine Profile)]を選択します。
 Create Spine Profile ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ5 Create Spine Profile ダイアログボックスで、次の操作を実行します:
 - a) Name フィールドに、スイッチ プロファイルの名前を入力します。
 - b) **Description** フィールドの隣にに、プロファイルの説明を入力します。(この手順は任意で す)。
 - c) (任意) [スパイン セレクタ (Spine Selectors)] ツールバーで、[+] をクリックします。
 - d) [名前(Name)](スイッチに名前を付けます)、[ブロック(Blocks)](スイッチを選択します)、および[ポリシーグループ(Policy Group)]([スパインスイッチポリシーグループの作成(Create Spine Switch Policy Group)])に適切な値を入力します。 スパインスイッチポリシーグループの作成 ダイアログボックスはポリシーグループ id のプロパティを指定できますが表示されます。
- ステップ6 (スパイン セレクタを設定する場合) [スパイン スイッチ ポリシー グループの作成 (Create Spine Switch Policy Group)] ダイアログ ボックスで次のアクションを実行します。
 - a) [Name] フィールドにポリシー グループの名前を入力します。
 - b) (任意) [説明 (Description)] フィールドで、ポリシー グループの説明を入力します。
 - c) BFD ポリシー タイプ (BFD IPV4 Policy または BFD IPV6 Policy) を選択し、値 (default または Create BFD Global Ipv4 Policy) を特定のスイッチまたはスイッチのセットに対して選択します。
 - d) [更新(Update)]をクリックします。
- ステップ7 [次へ (Next)]をクリックして [関連付け (Associations)] へ進みます。

(任意)[関連付け(Associations)] メニューで、スパイン プロファイルをスパイン インター フェイス プロファイルに関連付けることができます。

ステップ8 [完了 (Finish)] をクリックします。

BFD グローバルポリシーを作成するもう1つの方法は、BFD IPV4 または BFD IPV6 のいずれ かを右クリックします (Navigation ウィンドウにあります)。 ステップ9 作成した BFD グローバル コンフィギュレーションを確認するには、[ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー(Policies)]>[スイッチ(Switch)]>[BFD]の順に展開 します。

GUI を使用した BFD インターフェイスのオーバーライドの設定

明示的な双方向フォワーディング検出 (BFD) を設定できる、3 つのサポート対象のインター フェイス(ルーテッドレイヤインターフェイス、外部インターフェイス SVI とルーテッドサ ブインターフェイス) があります。グローバルコンフィギュレーションを使用しないで、さら に特定のインターフェイスの明示的な設定をしたい場合、特定のスイッチまたは一連のすべて のインターフェイスに適用される独自のグローバルコンフィギュレーションを作成できます。 特定のインターフェイス上の特定のスイッチの粒度がさらに必要な場合、このインターフェイ スオーバーライド設定を使用する必要があります。



(注) BFD インターフェイス ポリシーが親ルーテッド インターフェイスに設定されている場合、デフォルトでは、親インターフェイスと同じアドレス ファミリを持つすべてのルーテッド サブインターフェイスがこのポリシーを継承します。継承された設定のいずれかを上書きする必要がある場合は、サブインターフェイスで明示的な BFD インターフェイス ポリシーを設定します。ただし、親インターフェイスで Admin State または Echo Admin State が無効になっている場合、サブインターフェイスでプロパティをオーバーライドすることはできません。

始める前に

テナントはすでに作成されています。

手順

- ステップ1 メニューバーで、Tenantを選択します。
- **ステップ2** [ナビゲーション(Navigation)] ペイン (クイック スタートの下)、作成したテナント [*Tenant_name*]> [ネットワー キング(Networking)]> [L3Outs]を展開します。
- **ステップ3** [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。 [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードが表示されます。
- **ステップ4** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードの[識別(Identity)]ウィンドウに必要な情報を入 力します。
 - a) [名前 (Name)]、[VRF]、および [L3 ドメイン (L3 Domain)] フィールドに必要な情報を 入力します。
 - b) ルーティング プロトコルのチェック ボックスがある領域で、[BGP] を選択します。
 - c) [次 (Next)]をクリックして[**ノードとインターフェイス** (Nodes and Interfaces)]ウィン ドウに移動します。

- **ステップ5** [L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードの[ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)] ウィンドウに必要な情報を入力します。
 - a) [レイヤ3 (Layer 3)]領域で、[ルーテッド (Routed)]を選択します。
 - b) [ノードID (Node ID)]フィールドのドロップダウンメニューで、L3Out のノードを選択 します。

これらの例のトポロジでは、ノード 103 を使用します。

- c) [Router ID] フィールドに、ルータ ID を入力します。
- d) (任意) 必要に応じて、ループバック アドレスに別の IP アドレスを設定できます。

[ルータ ID (Router ID)]フィールドに入力したエントリと同じ内容が[ループバックアド レス (Loopback Address)]フィールドに自動で入力されます。これは以前のビルドでの [ループバックアドレスのルータ ID の使用 (Use Router ID for Loopback Address)]と同等 です。ループバックアドレスにルータ ID を使用しない場合は、ループバックアドレスに 別の IP アドレスを入力します。または、ループバックアドレスにルータ ID を使用しない 場合は、このフィールドを空のままにします。

e) [ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]ウィンドウに追加の必要な情報を入力 します。

このウィンドウに表示されるフィールドは、[レイヤ3 (Layer 3)]および[レイヤ2 (Layer 2)]領域で選択したオプションによって異なります。

f) [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ウィンドウで残りの追加の情報を入力 したら、[次 (Next)]をクリックします。

[プロトコル(Protocols)]ウィンドウが表示されます。

- **ステップ6** [L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードの[プロトコル(Protocols)]ウィンドウに必要な情報を入力します。
 - a) [BGP ループバック ポリシー (BGP Loopback Policies)]および [BGP インターフェイス ポ リシー (BGP Interface Policies)]領域で、次の情報を入力します。
 - ・ピアアドレス(Peer Address): ピア IP アドレスを入力します
 - EBGP Multihop TTL(EBGP マルチホップ TTL):接続の存続可能時間(TTL)を入 力します。範囲は1~255 ホップです。ゼロの場合、TTLは指定されません。デフォ ルトは0です。
 - リモートASN(Remote ASN):ネイバー自律システムを固有に識別する番号を入力します。自律システム番号は、1~4294967295のプレーン形式で4バイトにすることができます。
 - (注) ACI は asdot または asdot + 形式の AS 番号をサポートしていません。
 - b) [OSPF] 領域で、デフォルトOSPF ポリシー、以前に作成したOSPF ポリシー、または[OSPF インターフェイス ポリシーの作成(Create OSPF Interface Policy)] を選択します。
 - c) [次へ (Next)] をクリックします。

[外部 EPG (External EPG)] ウィンドウが表示されます。

- **ステップ7** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードで[外部 EPG(External EPG)]ウィンドウに必要な 情報を入力します。
 - a) Name フィールドに、外部ネットワークの名前を入力します。
 - b) [提供済みコントラクト (Provided Contract)] フィールドで、提供済みコントラクトの名 前を入力します。
 - c) [消費済みコントラクト (Consumed Contract)] フィールドで、消費済みコントラクトの 名前を入力します。
 - d) [すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external network)]フィー ルドで、このL3Out 接続からのすべての中継ルートをアドバタイズしない場合はオフにし ます。

このボックスをオフにすると、[Subnets]領域が表示されます。次の手順に従って、必要な サブネットとコントロールを指定します。

- e) [完了(Finish)] をクリックして、[L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードに必要な設 定の入力を完了させます。
- ステップ8 [テナント (Tenants)]> [tenant_name] > [ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]> [L3Out_name] > [論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical_node_profile_name] > [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]> [logical_interface_profile_name] の順に移動します。
- ステップ9 [論理インターフェイスプロファイル (Logical Interface Profile)]ウィンドウで、[BFDインター フェイス プロファイルの作成 (Create BFD Interface Profile)]フィールドまで下にスクロール し、このフィールドの横にあるボックスをオンにします。
- **ステップ10** [**BFD インターフェイス プロファイルの作成(Create BFD Interface Profile**)] ウィンドウで、 BFD の詳細を入力します。
 - ・認証タイプ フィールドで、選択 No authentication または キー SHA1。

認証 (SHA1 のキーを選択) により、入力を選択すると、 認証キー ID を入力してください、の認証キーを (パスワード)、再次を入力して、パスワードを確認 キーの確認。

(BFD インターフェイス ポリシー (BFD Interface Policy)]フィールドで、[一般的な/デフォルト (common/default)]設定(デフォルトBFDポリシー)のいずれかを選択、または、[BFD インターフェイス ポリシーの作成(Create BFD Interface Policy)]を選択することによって自分の BFD ポリシーを作成します。

選択した場合 BFD インターフェイス ポリシーの作成 、 BFD インターフェイス ポリシー の作成 BFD インターフェイス ポリシーの値を定義するダイアログボックスが表示されま す。

- **ステップ11** [Submit] をクリックします。
- ステップ12 設定したインターフェイス レベルの BFD ポリシーを確認するには、[ポリシー(Policies)]> [プロトコル(Protocol)]>[BFD]に移動します。

GUI を使用して BFD コンシューマ プロトコルを設定する

この手順では、BFD機能の消費者であるコンシューマプロトコル(OSPF、BGP、EIGRP、スタ ティックルート、および IS-IS) での双方向フォワーディング検出 (BFD) を有効にする方法を 説明します。これらのプロトコルで BFD を使用するには、それらのフラグを有効にする必要 があります。

- (注)
 - これらの4つのコンシューマ プロトコルは、左側のナビゲーション ペインの [テナント (Tenant)]>[ポリシー(Policies)]>[プロトコル(Protocol)]の下にあります。

始める前に

テナントはすでに作成されています。

手順

- **ステップ1** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードを使用して L3Out を作成します。
- ステップ2 メニューバーで、[テナント(Tenant)]を選択します。
- ステップ3 BGP プロトコルの BFD を設定するには、[ナビゲーション(Navigation)]ペイン(Quick Start の下)で、作成したテナント、[*Tenant_name*]>[ポリシー(Policies)]>[プロトコル (Protocol)]>[BGP]>[BGP]ピア プレフィックス(BGP Peer Prefix)]を展開します。
- **ステップ4** Work ウィンドウの右側の [ACTIONS] の下で、[Create BGP Peer Prefix Policy] を選択します。 [Create BGP Peer Prefix Policy] ダイアログボックスが表示されます。
 - (注) 左のナビゲーション ウィンドウで [BGP Peer Prefix] を右クリックして [Create BGP Peer Prefix] を選択し、ポリシーを作成することもできます。
- **ステップ5** [Name] フィールドに名前を入力し、残りのフィールドに値を入力して BGP ピア プレフィック スポリシーを定義します。
- ステップ6 [送信 (Submit)]をクリックします。` 作成した BGP ピア プレフィックス ポリシーは、左のナビゲーション ウィンドウの [BGP Peer Prefix] の下に表示されます。
- ステップ7 [テナント (Tenants)]> [tenant_name] > [ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]> [L3Out_name] > [論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical_node_profile_name] > [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]> [logical_interface_profile_name] > [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)] の順に移動します。
- ステップ8 [BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]ウィンドウで、[BGP ピア プレ フィックス ポリシー (BGP Peer Prefix Policy)]フィールドまでスクロールし、作成した BGP ピア プレフィックス ポリシーを選択します。

- ステップ9 [ピア制御(Peer Controls)]フィールドで、[双方向フォワーディング検出(Bidirectional Forwarding Detection)]を選択して BGP コンシューマ プロトコルの BFD を有効にします(またはオフにして BFD を無効にします)。
- ステップ10 OSPF プロトコルの BFD を設定するには、[ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[ポリ シー(Policies)]>[プロトコル(Protocol)]>[OSPF]>[OSPF インターフェイス(OSPF Interface)]に移動します。
- ステップ11 Work ウィンドウの右側の、[ACTIONS] の下で、[Create OSPF Interface Policy] を選択しま す。

[Create OSPF Interface Policy] ダイアログボックスが表示されます。

- (注) 左のナビゲーションウィンドウで [OSPF Interface] を右クリックして [Create OSPF Interface Policy] を選択し、ポリシーを作成することもできます。
- **ステップ12** [Name] フィールドに名前を入力し、残りのフィールドに値を入力して OSPF インターフェイ スポリシーを定義します。
- ステップ13 このダイアログボックスの[Interface Controls] セクションでは、BFDの有効と無効を切り替え ることができます。有効にするには、図のように、[BFD]の隣のボックスをオンにして OSPF コンシューマ プロトコルにフラグを追加します (またはボックスをオフにして BFD を無効に します)。
- ステップ14 [送信(Submit)]をクリックします。`
- ステップ15 EIGRP プロトコルの BFD を設定するには、[ナビゲーション(Navigation)] ペインで、 [*tenant_name*] > [ポリシー(Policies)] > [プロトコル(Protocol)] > [EIGRP] > [EIGRP イン ターフェイス(EIGRP Interface)] に移動します。
- ステップ16 Work ウィンドウの右側の、[ACTIONS]の下で、[Create EIGRP Interface Policy] を選択しま す。

[Create EIGRP Interface Policy] ダイアログボックスが表示されます。

- (注) 左のナビゲーション ウィンドウで [EIGRP Interface] を右クリックして [Create EIGRP Interface Policy] を選択し、ポリシーを作成することもできます。
- **ステップ17** [Name] フィールドに名前を入力し、残りのフィールドに値を入力して OSPF インターフェイ スポリシーを定義します。
- ステップ18 このダイアログボックスの[Control State] セクションでは、BFDの有効と無効を切り替えるこ とができます。有効にするには、図のように、[BFD]の隣のボックスをオンにして EIGRP コ ンシューマ プロトコルにフラグを追加します (またはボックスをオフにして BFD を無効にし ます)。
- ステップ19 [送信 (Submit)] をクリックします。`
- ステップ20 スタティック ルート プロトコルで BFD を設定するには、[ナビゲーション (Navigation)]ペインで [ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]>[L3Outs]>[B定済みのノード (Configured Nodes)]に戻り、設定済みのノードをクリックして [ノード関連付け (Node Association)]ウィンドウを表示します。
- ステップ21 [Static Routes] セクションで、[+] (展開) ボタンをクリックします。 [Create Static Route] ダイアログボックスが表示されます。このセクションで、必要なフィー ルドの値を入力します。

- **ステップ22** [Route Control] の隣で、[BFD] の隣のボックスをオンにして有効にします(または、無効にする場合にはオフにします)。
- ステップ23 [送信 (Submit)]をクリックします。`
- ステップ24 IS-IS プロトコルの BFD を設定するには、[ナビゲーション(Navigation)] ペインで [ファブ リック(Fabric)] > [ファブリック ポリシー(Fabric Policies)] > [ポリシー(Policies)] > [イ ンターフェイス(Interface)] > [L3 インターフェイス(L3 Interface)] に移動します。
- **ステップ25** Work ウィンドウの右側の、[ACTIONS]の下で、[Create L3 Interface Policy] を選択します。 [Create L3 Interface Policy] ダイアログボックスが表示されます。
 - (注) 左のナビゲーション ウィンドウで [L3 Interface] を右クリックして [Create EIGRP Interface Policy] を選択し、ポリシーを作成することもできます。
- **ステップ26** [Name] フィールドに名前を入力し、残りのフィールドに値を入力して L3 インターフェイス ポリシーを定義します。
- **ステップ27** BFD ISIS ポリシーを有効にするには、[BFD ISIS ポリシー設定(BFD ISIS Policy Configuration)] フィールドで [**有効化(enabled**)] をクリックします。
- ステップ28 [送信 (Submit)]をクリックします。

BFD マルチホップ

BFD マルチホップでは、複数ホップ(最大255 ホップ)の宛先に対する1秒未満の転送障害検 出が可能になります。リリース 5.0(1)以降、APIC は IPv4 の BFD マルチホップおよび IPv6 の BFD マルチホップを、RFC5883 に準拠してサポートします。BFD マルチホップ セッション は、固有のソースと宛先アドレスペア間で設定されます。BFD マルチホップ セッションは、 シングルホップ BFD セッションの場合、インターフェイスではなく、送信元と宛先の間で作 成されます。

BFD マルチホップは TTL フィールドを BGP によってサポートされる最大制限に設定し、受信 時に値のチェックを行いません。ACIリーフは、BFD マルチホップパケットが通過できるホッ プ数には影響しませんが、ホップ数は 255 に制限されます。

BFD マルチホップの注意事項と制約事項

- •BFDマルチホップのデフォルトおよび最小送信/受信インターバル タイマーは 250 ミリ秒 です。
- デフォルトの最小検出乗数は3です。
- •エコーモードは BFD マルチホップではサポートされません。

BFD マルチホップ ポリシーの設定

ポリシーの目的に応じて、GUIの複数の場所でBFDマルチホップポリシーを設定できます。

・グローバルポリシー:デフォルトでは、APIC コントローラはシステムの起動時にデフォルトのポリシーを作成します。これらのデフォルトポリシーは、グローバルBFD マルチホップ設定ポリシーです。デフォルトグローバルポリシー内の属性は、[作業(Work)]ペインで設定できます。または、これらデフォルトのポリシーの値を変更することもできます。ただし、いったんデフォルトのグローバルポリシーを変更すると、システム全体(すべてのスイッチ)に影響が及びます。デフォルトではありませんが、特定のスイッチまたはスイッチのセットの特定の設定を使用する場合は、スイッチプロファイルを作成し、そのスイッチプロファイル内でBFD マルチホップの値を変更します。

次の GUI の場所で、IPv4 または IPv6 のグローバル BFD マルチホップ設定ポリシーを作成 または変更できます。

- [ファブリック(Fabric)]>[アクセス ポリシー(Access Policies)]>[ポリシー (Policies)]>[スイッチ(Switch)]>[BFD マルチホップ(BFD Multihop)]>[BFD マルチホップ IPv4(BFD Multihop IPv4)]: [BFD グローバル IPv4 MH ポリシーの作成 (Create BFD Global IPv4 MH Policy)]を右クリックして選択します。
- [ファブリック(Fabric)]>[アクセスポリシー(Access Policies)]>[ポリシー (Policies)]>[スイッチ(Switch)]>[BFDマルチホップ(BFD Multihop)]>[BFD マルチホップ IPv6(BFD Multihop IPv6)]: [BFD グローバル IPv6 MH ポリシーの作成 (Create BFD Global IPv6 MH Policy)]を右クリックして選択します。
- ノードポリシー:BFDマルチホップノードポリシーは、ノードプロファイルの下のイン ターフェイスに適用されます。
 - この GUI の場所で BFD マルチホップ ノード ポリシーを作成または変更できます。
 - [テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]>[BFD マルチホップ (BFD Multihop)]>[ノード ポリシー (Node Policies)]: [BFD マルチホップ ノード ポリシーの作成 (Create BFD Multihop Node Policy)]を右クリックして選択します。
- インターフェイスポリシー: BFD マルチホップインターフェイスポリシーは、インター フェイスプロファイルの下のインターフェイスに適用されます。

このGUIの場所でBFDマルチホップインターフェイスポリシーを作成または変更できます。

- [テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]>[BFD マルチホップ (BFD Multihop)]>[インターフェイス ポリシー (Interface Policies)]: [BFD マルチホップインターフェイス ポリシーの作成 (Create BFD Multihop Interface Policy)]を右クリックして選択します。
- ・グローバルポリシーの上書き:デフォルトのグローバル設定を使用せず、特定のインターフェイスで明示的な設定を行う場合は、独自のグローバル設定を作成できます。この設定は、特定のスイッチまたはスイッチセットのすべてのインターフェイスに適用されます。特定のインターフェイス上の特定のスイッチの粒度がさらに必要な場合、このインターフェイスオーバーライド設定を使用する必要があります。
次の GUI ロケーションで、ノード プロファイルまたはインターフェイス プロファイルの BFD マルチホップ オーバーライド ポリシーを作成または変更できます。

- [テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ネットワーキング (Networking)]>
 [L3Outs]>[l3out]>[論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]>
 [logical_node_profile]: [BFDインターフェイスプロトコルプロファイルの作成 (Create BFD Interface Protocol Profile)]を右クリックして選択し、BFD マルチホップ ノード ポリシーを指定します。
- [テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]>[l3out]>[論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical_node_profile]>[論理インターフェイスプロファイル (Logical Interface Profiles)]
 >[logical_interface_profile]: [MH-BFD インターフェイスプロトコルプロファイルの 作成 (Create MH-BFD Interface Protocol Profile)]を右クリックして選択し、BFDマル チホップ インターフェイスポリシーを指定します。
- [テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]>[ネットワーキング (Networking)]>
 [SR-MPLS Infra L3Outs]>[l3out]>[論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]
 [logical_node_profile]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[logical_interface_profile]: [MH-BFD インターフェイス プロトコル プロファイルの作成 (Create MH-BFD Interface Protocol Profile)]を右クリックして選択し、BFD マルチホップ インターフェイス ポリシーを指定します。

手順

ステップ1 BFD マルチホップポリシーを作成または設定する GUI の場所に移動します。

- **ステップ2** 既存のプロファイルまたはポリシーを編集するか、ダイアログボックスを起動して新しいプロ ファイルを作成します。
- ステップ3 プロファイルで、BFD マルチホップ セッションの [認証タイプ (Authentication Type)]を選択 します。

認証なしまたは SHA-1 認証を要求するように選択できます。

- ステップ4 新しいポリシーを作成する場合は、ダイアログボックスで設定を行います。
 - a) ポリシーの [名前 (Name)] を入力します。
 - b) [管理状態(Admin State)] を [有効(Enabled)] に設定します。
 - c) [検出乗数(Detection Multiplier)]の値を設定します。

セッションがダウンしたとBFDが宣言する前に失われた可能性のある連続するパケットの 最小数を指定します。範囲は1~50パケットです。デフォルトは3です。

d) [最小送信間隔 (Minimum Transit Interval)]の値を設定します。

送信されるパケットの最小間隔時間。指定できる範囲は 250 ~ 999 ミリ秒です。デフォル トは 250 です。

e) [最大受信間隔(Maximum Receive Interval)]の値を設定します。

受信されたパケットの最大インターバル時間。指定できる範囲は 250 ~ 999 ミリ秒です。 デフォルトは 250 です。

f) [送信 (Submit)]をクリックします。

マイクロBFD

Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、IETF RFC 7130 で定義されているように、APIC はマイクロ BFD をサポートします。Bidirectional Forwarding Detection (BFD) がポート チャネルで設定さ れている場合、キープアライブ パケットは使用可能なメンバー リンクで送信されます。キー プアライブ パケットは残りのリンクを通過するだけであるため、単一のメンバー リンクの障 害は検出されない場合があります。マイクロBFDは、次の図に示すように、ポートチャネルの 各メンバー リンクで個別の BFD セッションを確立する BFD の拡張機能です。





Switch 1

Switch 2

354547

リンク単位のBFD セッションがメンバー リンクで障害を検知すると、障害が発生したリンク は転送テーブルから削除されます。このメカニズムは、障害検出を高速化し、ポートチャネル で障害が発生したリンクを特定します。

に関する注意事項と制限事項マイクロBFD

- マイクロBFDは、同じポートチャネルでマルチホップBFDと同時に実行できますが、シングルホップBFDでは実行できません。
- マイクロBFDは、シングルホップBFD実装です。スイッチのメインポートチャネルとス イッチのピアの間にレイヤ2スイッチが存在する場合は機能しません。
- マイクロBFDは、第1世代のリーフスイッチではサポートされていません。第1世代の スイッチは、PID(製品識別子)に-EXや-FXなどのサフィックスが含まれていないス イッチです。
- マイクロBFDは、ポートチャネル上のルーテッドインターフェイスでのみサポートされます。

- クライアントプロトコルは、マイクロBFDが有効になっている同じポートチャネル上の サブインターフェイスで実行できます。
- ・マイクロBFDは、FEXポートまたはファブリックポートではサポートされません。
- •BFD エコーは、マイクロBFD セッションではサポートされません。
- マイクロBFD が有効になっているデュアル IP スタック ポート チャネル (IPv4 および IPv6) では、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれかを使用して マイクロBFD を設 定する必要がありますが、両方は必須ではありません。IPv4と IPv6の両方のマイクロBFD セッションを設定することはできません。
- Cisco APIC リリース 5.2(3) 以降、Cisco APIC では、L3 ポート チャネルのメイン インターフェイスと同じ L3 ポート チャネル上のサブインターフェイスを使用できます。ただし、L3 ポート チャネルのメイン インターフェイスを作成または削除すると、ポート チャネルの物理メンバーポートがフラップします。これにより、ポート チャネルサブインターフェイスがすでにアクティブな場合、トラフィックが失われます。

ポート チャネルでの マイクロBFD の設定

この手順では、L3Outポートチャネルインターフェイスを有効に変更します。ポートチャネル の各メンバーリンクで個別のBFDセッションを確立します。マイクロBFDマイクロBFD

始める前に

・ダイレクトポートチャネルがL3Outインターフェイスに設定されています。

手順

- ステップ1 [テナント (Tenants)]> [tenant_name] > [ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]> [L3Out_name] > [論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical_node_profile_name] > [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]の順に移動します。
- ステップ2 変更する [論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profile)]を選択します。
- ステップ3 [ルーテッドインターフェイス(Routed Interfaces)] タブを選択します。

マイクロBFDは、ポートチャネル上のルーテッドインターフェイスでのみサポートされます。

ステップ4 [ルーテッドインターフェイス(Routed Interfaces)] セクションで、既存のインターフェイスを ダブル クリックして変更するか、[+] アイコンをクリックして新しいインターフェイスを論理 インターフェイス プロファイルに追加します。

> この手順の残りの手順では、既存の論理インターフェイスでのイネーブル化についてのみ説明 します。マイクロBFD論理インターフェイスプロファイルに新しいインターフェイスを追加す る場合は、GUIを使用したL3Outのインターフェイスの変更(283ページ)を参照してくださ い。

- ステップ5 選択したインターフェイスの設定済みプロパティで、選択した [パス タイプ(Path Type)]が [ダイレクト ポート チャネル(Direct Port Channel)]であることを確認します。 マイクロBFD は、ポート チャネルでのみ適用できます。
- **ステップ6** [Micro BFD の有効化(Enable Micro BFD)] チェックボックスをオンにします。
- **ステップ7** [Micro BFD 宛先アドレス(Micro BFD Destination Address)] にポート チャネルの宛先 IP アド レスを入力します。
- **ステップ8** [Micro BFD 開始タイマー(秒) (Micro BFD Start Timer (sec))]に 60 ~ 3600 秒の値を入力 します。

開始タイマーは、BFD セッションの確立を可能にするためにメンバー リンクでの BFD モニタ リングのアクティブ化を遅延させます。タイマーはオプションです。タイマーが設定されてい ない場合、アクティベーションは遅延しません。

ステップ9 [送信 (Submit)] をクリックします。`

次のタスク

次の例に示すように、CLI を使用して マイクロBFD セッションを確認できます。

```
leaf4# show port-channel database interface port-channel 3
port-channel3
Last membership update is successful
4 ports in total, 4 ports up
First operational port is Ethernet1/44
Age of the port-channel is 0d:22h:46m:03s
Time since last bundle is 0d:22h:42m:43s
Last bundled member is Ethernet1/44
Ports: Ethernet1/41 [on] [up]
Ethernet1/42 [on] [up]
Ethernet1/43 [on] [up]
Ethernet1/44 [on] [up] *
leaf4# show bfd neighbors vrf tenant1:vrf1
OurAddr NeighAddr
LD/RD RH/RS Holdown(mult) State Int Vrf Type
2003:190:190:1::1 2003:190:190:1::2
1090519041/0 Up 6000(3) Up Po3 tenant1:vrf1 singlehop
2003:190:190:1::1 2003:190:190:1::2
1090519042/2148074790 Up 180(3) Up Eth1/44 tenant1:vrf1 singlehop
2003:190:190:1::1 2003:190:190:1::2
1090519043/2148074787 Up 180(3) Up Eth1/41 tenant1:vrf1 singlehop
2003:190:190:1::1 2003:190:190:1::2
1090519044/2148074789 Up 180(3) Up Eth1/43 tenant1:vrf1 singlehop
2003:190:190:1::1 2003:190:190:1::2
```

```
1090519045/2148074788 Up 180(3) Up Eth1/42 tenant1:vrf1 singlehop
```

OSPF 外部ルーテッド ネットワーク

OSPF 外部ルーテッド ネットワークを設定するには、次の項の手順を使用します。

OSPF レイヤ 3 Outside 接続

OSPF レイヤ 3 Outside 接続は、標準または NSSA エリアです。バックボーン(エリア 0)エリ アも、OSPF レイヤ 3 Outside 接続エリアとしてサポートされます。ACI は、IPv4 の OSPFv2 と IPv6 の OSPFv3 の両方をサポートします。OSPF レイヤ 3 Outside を作成するときに、OSPF バー ジョンを設定する必要はありません。インターフェイス プロファイル設定(IPv4 または IPv6 アドレッシング)に基づいて、正しい OSPF プロセスが自動的に作成されます。IPv4 と IPv6 の両方のプロトコルが同じインターフェイス(デュアル スタック)でサポートされますが、2 つの個別インターフェイス プロファイルを作成する必要があります。

レイヤ3 Outside 接続は、ルーテッドインターフェイス、ルーテッドサブインターフェイス、 および SVI でサポートされます。SVI は、レイヤ2とレイヤ3両方のトラフィックで物理接続 を共有する必要がある場合に使用されます。SVI は、物理ポート、ポートチャネル、および仮 想ポート チャネル (vPC) でサポートされています。



図 42: OSPF レイヤ 3 Out 接続

SVI がレイヤ 3 Outside 接続に使用されると、外部ブリッジ ドメインが境界リーフ スイッチに 作成されます。外部ブリッジ ドメインは、ACI ファブリック上の 2 つの VPC スイッチ間の接

続を可能にします。これにより、両方の VPC スイッチが、相互の、および外部 OSPF デバイ スとの OSPF 隣接関係を確立できます。

ブロードキャストネットワークでOSPFを実行する場合、障害が発生したネイバーを検出する時間は dead 間隔(デフォルトは 40 秒)です。障害が発生した後でネイバー隣接関係を再確立する場合にも、代表ルータ(DR)の選定が原因で時間がかかる可能性があります。

- (注)

 1 つの vPC ノードへのリンクまたはポート チャネルに障害が発生しても、OSPF 隣接関係 がダウンすることはありません。OSPF 隣接関係は、その他の vPC ノードを介してアクセ スできる外部ブリッジ ドメインによりアップ状態を維持することができます。
 - OSPF時間ポリシーまたはBGP、OSPF、またはEIGRPアドレスファミリポリシーがL3Out に適用されると、次の動作を観察できます。
 - ・L3Outとポリシーが同じテナントで定義されている場合、動作に変更はありません。
 - ・共通テナント以外のユーザーテナントでL3Outが設定されている場合、L3Out VRF インスタンスは共通テナントに解決され、ポリシーが共通テナントで定義されている 場合、デフォルト値のみが適用されます。ポリシーの変更は有効になりません。
 - ・境界リーフスイッチが2つの外部スイッチとOSPF隣接関係を形成し、2つのスイッチの1つでルート損失が発生し、隣接スイッチでは発生しない場合、Cisco ACI境界リーフスイッチは両方のネイバーのルートを再コンバージェンスします。

GUI を使用した管理テナントの OSPF L30ut の作成

- ルータ ID と論理インターフェイスプロファイルの IP アドレスが異なっていて重複していないことを確認します。
- 次の手順は、管理テナントの OSPF L3Out を作成するためのものです。テナントの OSPF L3Out を作成するには、テナントを選択し、テナント用の VRF を作成する必要があります。
- 詳細については、『Cisco APIC and Transit Routing』を参照してください。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[Tenants] > [mgmt] の順に選択します。
- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs] を 展開します。
- ステップ3 [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)] をクリックします。

[L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードが表示されます。

- **ステップ4** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードの[識別(Identity)]ウィンドウで、次の操作を実行します。
 - a) [Name] フィールドに、名前 (RtdOut) を入力します。
 - b) [VRF] フィールドのドロップダウンリストから、VRF (inb) を選択します。
 - (注) このステップでは、ルーテッド Outside をインバンド VRF に関連付けます。
 - c) [L3 ドメイン (L3 Domain)] ドロップダウン リストから、適切なドメインを選択します。
 - d) [OSPF] チェックボックスをオンにします。
 - e) [OSPF Area ID] フィールドに、エリア ID を入力します。
 - f) [OSPF Area Control] フィールドで、適切なチェックボックスをオンにします。
 - g) [OSPF Area Type] フィールドで、適切なエリア タイプを選択します。
 - h) [OSPF Area Cost] フィールドで、適切な値を選択します。
 - i) [次へ (Next)] をクリックします。

[ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)] ウィンドウが表示されます。

ステップ5 [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ウィンドウで、次の操作を実行します。

a) [デフォルトを使用(Use Defaults)] ボックスをオフにします。

これにより、[ノードプロファイル名(Node Profile Name)]フィールドを編集できます。

- b) [**ノードプロファイル名**(Node Profile Name)]フィールドに、ノードプロファイルの名 前を入力します(borderLeaf)。
- c) [Node ID] フィールドで、ドロップダウン リストから、最初のノードを選択します (leafl)。
- d) [Router ID] フィールドに、一意のルータ ID を入力します。
- e) ループバック アドレスにルータ ID を使用しない場合は、[ループバック アドレス (Loopback Address)]フィールドで別のIP アドレスを使用するか、空のままにします。
 - (注) [ルータ ID (Router ID)]フィールドに入力したエントリと同じ内容が[ループバックアドレス (Loopback Address)]フィールドに自動で入力されます。これは以前のビルドでの[ループバックアドレスのルータ ID の使用 (Use Router ID for Loopback Address)]と同等です。ループバックアドレスにルータ ID を使用しない場合は、別の IP アドレスを使用するか、このフィールドを空のままにします。
- f) 必要に応じて、このノードの[インターフェイス (Interface)]、[IP アドレス (IP Address)]、[インターフェイスプロファイル名 (Interface Profile Name)]、および[MTU] フィールドに適切な情報を入力します。
- g) [ノード(Nodes)] フィールドで、[+] アイコンをクリックして、別のノードの2番目の フィールド セットを追加します。
 - (注) 2 つ目のノード ID を追加します。
- h) [Node ID] フィールドで、ドロップダウン リストから、最初のノードを選択します (leafl)。

- i) [Router ID] フィールドに、一意のルータ ID を入力します。
- j) ループバック アドレスにルータ ID を使用しない場合は、[ループバック アドレス (Loopback Address)]フィールドで別のIPアドレスを使用するか、空のままにします。
 - (注) [ルータ ID (Router ID)]フィールドに入力したエントリと同じ内容が[ループバックアドレス (Loopback Address)]フィールドに自動で入力されます。これは以前のビルドでの[ループバックアドレスのルータ ID の使用 (Use Router ID for Loopback Address)]と同等です。ループバックアドレスにルータ ID を使用しない場合は、別の IP アドレスを使用するか、このフィールドを空のままにします。
- k) 必要に応じて、このノードの[インターフェイス (Interface)]、[IP アドレス (IP Address)]、[インターフェイスプロファイル名 (Interface Profile Name)]、および[MTU] フィールドに適切な情報を入力します。
- l) [次へ (Next)]をクリックします。

[プロトコル (Protocols)] ウィンドウが表示されます。

ステップ6 [プロトコル (Protocols)] ウィンドウの [ポリシー (Policy)] 領域で、[デフォルト (default)] をクリックし、[次 (Next)] をクリックします。

[外部 EPG (External EPG)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ7 [外部 EPG (External EPG)]ウィンドウで次のアクションを実行します。
 - a) [Name] フィールドに、外部ネットワークの名前(extMgmt)を入力します。
 - b) [すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external network)]フィー ルドをオフにします。

[サブネット(Subnets)]領域が表示されます。

- c) [+] をクリックして [サブネットの作成(Create Subnet)] ダイアログ ボックスにアクセス します。
- d) [サブネットの作成 (Create Subnet)]ダイアログボックスで、[IP アドレス (IP address)] フィールドに、サブネットの IP アドレスとマスクを入力します。
- e) [Scope]フィールドで、目的のチェックボックスをオンにします。[OK]をクリックします。
- f) [外部 EPG (External EPG)] ダイアログボックスで、[完了 (Finish)]をクリックします。
 - (注) [作業(Work)]ペインの [L3Outs] 領域に、[L3Out] アイコン(RtdOut) が表示 されます。

EIGRP 外部ルーテッド ネットワーク

EIGRP 外部ルーテッド ネットワークを設定するには、次の項の手順を使用します。

EIGRP レイヤ3 Outside 接続について

この例は、Cisco APICを使用して、拡張内部ゲートウェイルーティングプロトコル(EIGRP) を設定する方法を示しています。次の情報は、EIGRPを設定するときに適用されます:

- テナント、VRF、およびブリッジドメインがすでに作成されている必要があります。
- レイヤ3外部テナントネットワークがすでに設定されている必要があります。
- 外部ルーテッドのルート制御プロファイルがすでに設定されている必要があります。
- ・EIGRP VRF ポリシーは EIGRP ファミリ コンテキスト ポリシーと同じです。
- EIGRP はエクスポートルート制御プロファイルをサポートしています。ルート制御に関する設定はすべてのプロトコルで共通です。

サブネット ルートをネットワーク レベルのルートへ自動的に要約するよう(ルート要約)、 EIGRP を設定できます。たとえば、192.31.7.0 のサブネットが設定されているインターフェイ ス上で、サブネット 131.108.1.0 が 131.108.0.0 としてアドバタイズされるように設定すること ができます。自動集約は、EIGRP プロセスに設定されているネットワーク ルータ設定コマン ドが2つまたはそれ以上ある場合に実行されます。デフォルトでは、この機能は有効です。詳 細については、「*Route Summarization*」を参照してください。

EIGRP プロトコルのサポート

EIGRP プロトコルは、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリック内の他のルー ティング プロトコルと同様にモデル化されています。

サポートされる機能

サポートされる機能は次のとおりです。

- IPv4 および IPv6 ルーティング
- ・各アドレスファミリの仮想ルーティングおよび転送(VRF)とインターフェイスの制御
- ・ノード間の OSPF による再配布
- VRF ごとのデフォルト ルート リーク ポリシー
- パッシブ インターフェイスおよびスプリット ホライズンのサポート
- エクスポートされたルートにタグを設定するためのルートマップ制御
- EIGRP インターフェイス ポリシーの帯域幅および遅延設定オプション
- 認証サポート

サポートされない機能

次の機能はサポートされていません。

•スタブルーティング

- •BGP 接続に使用される EIGRP
- ・同じノード上の複数の EIGRP L3extOut
- インターフェイスごとの集約(EIGRPサマリーポリシーは、L3Outで設定されたすべての インターフェイスに適用されます)
- •インターフェイスごとのインポートおよびエクスポート用配布リスト

EIGRP 機能のカテゴリ

EIGRP の機能は、次のように大きく分類できます。

- プロトコル ポリシー
- ・L3extOut の設定
- インターフェイス設定
- •ルートマップサポート
- デフォルトルートサポート
- 中継サポート

EIGRP をサポートしているプライマリ管理対象オブジェクト

次のプライマリ管理対象オブジェクトは、EIGRP サポートを提供します。

- •.EIGRP アドレスファミリコンテキストポリシー eigrpCtxAfPol:fvTenant (テナント/プ ロトコル) で設定されているアドレスファミリコンテキスト ポリシー
- ・fvRsCtxToEigrpCtxAfPol:所定のアドレスファミリ(IPv4またはIpv6)についてのVRFからeigrpCtxAfPolへの関係。関係は、アドレスファミリごとに1つのみ存在できます。
- eigrpIfPol:fvTenant で設定される EIGRP インターフェイス ポリシー。
- eigrpExtP: L3extOut 上で EIGRP のフラグを有効にします。
- eigrpIfP: 13extLIfP に接続された EIGRP インターフェイス プロファイル。
- eigrpRsIfPol: EIGRP インターフェイス プロファイルから eigrpIfPol への関係。
- Defrtleak: 13extOut 下のデフォルトルートリークポリシー。

テナントでサポートされる EIGRP プロトコル ポリシー

テナント下では次の EIGRP プロトコル ポリシーがサポートされます。

- EIGRP インターフェイスポリシー(eigrpIfPol):インターフェイス上の所定のアドレスファミリに適用される設定が含まれます。インターフェイスポリシーでは次の設定が可能です。
 - 秒単位の hello 間隔

- 分単位の hold 間隔
- ・次のインターフェイス制御フラグのうち1つ以上。
 - •スプリットホライズン
 - ・パッシブ
 - ネクスト ホップ セルフ
- EIGRP アドレスファミリコンテキストポリシー(eigrpCtxAfPol):所定のVRF内の所定のアドレスファミリの設定が含まれます。eigrpCtxAfPolは、テナントプロトコルポリシー下で設定され、テナント下の1つ以上のVRFに適用できます。eigrpCtxAfPolは、VRF-per-addressファミリの関係を通してVRFで有効にできます。所定のアドレスファミリに関係がない場合、あるいは関係に記述されているeigrpCtxAfPolが存在しない場合は、[共通]テナント下に作成されたデフォルトのVRFポリシーがそのアドレスファミリに使用されます。

次の設定では、eigrpCtxAfPol で許可されます。

- 内部ルートのアドミニストレーティブ ディスタンス
- 外部ルートのアドミニストレーティブ ディスタンス
- 最大許容 ECMP パス数
- アクティブ タイマー間隔
- •メトリック バージョン (32 ビット/64 ビット メトリック)

ガイドラインと EIGRP を設定するときの制限事項

EIGRP を設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- ・外部同じレイヤ3の EIGRP および BGP を設定することはサポートされていません。
- ・外部同じレイヤ3の EIGRP や OSPF を設定することはサポートされていません。
- 1つ EIGRP レイヤ 3 Out VRF あたりノードごとできますがあります。ノードで複数の Vrf を導入している場合、自身レイヤ 3 Out 各 VRF ことができます。
- ・複数の EIGRP ピア、1 つレイヤ 3 Out からがサポートされます。これにより、1 つレイヤ 3 Out と同じノードから複数の EIGRP デバイスに接続できます。

次の設定では、EIGRP ネイバーがフラップします。

- VRF の EIGRP アドレス ファミリ コンテキストによるアドミニストレーティブ ディスタ ンスまたはメトリック スタイル (ワイド/ナロー)の変更
- 内部で使用されるテーブルマップを更新する次の設定を設定します。
 - VRF のルート タグの変更

EIGRP L3Out と同じ境界リーフスイッチ上の同じ VRF 内の OSPF L3Out のインポート方向ルート制御の設定の設定(たとえば、ルート制御適用「インポート」オプションの有効化または無効化、インポート方向)。この機能は EIGRP ではサポートされていないため、このような設定は EIGRP L3Out 自体では許可されないことに注意してください。ただし、OSPF L3Out の設定は、同じ VRF とリーフスイッチの EIGRP L3Out に影響を与えます。これは、OSPF のインポート ルート制御が、同じ境界リーフスイッチ上の同じ VRF の EIGRP と他の目的で共有されるテーブルマップを使用するためです。

GUIを使用した**EIGRP**の設定

手順

- ステップ1 メニューバーで、[Tenants] > [All Tenants] の順に選択します。
- **ステップ2** Work ウィンドウで、テナントをダブルクリックします。
- ステップ3 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[*Tenant_name*]>[ポリシー (Policies)]>[プロト コル (Protocol)]>[EIGRP] を展開します。
- ステップ4 右クリックして EIGRP アドレス ファミリコンテキスト]を選択します EIGRP アドレス ファ ミリコンテキストのポリシーを作成 します。
- ステップ5 Create EIGRP Address Family Context Policy ダイアログボックスで、以下の操作を実行します:
 - a) Name フィールドに、コンテキストポリシーの名前を入力します。
 - b) アクティブ間隔(分) フィールドで、インターバル タイマーを選択します。
 - c) 外部距離、および内部距離フィールドで、適切な値を選択します。
 - d) パスの上限 フィールドで、[インターフェイス(ノードごと/リーフスイッチごと)間の値 を適切なロードバランシングを選択します。
 - e) メトリックスタイル フィールドで、適切なメトリックスタイルを選択します。[Submit] をクリックします。`

Work ウィンドウに、コンテキスト ポリシーの詳細が表示されます。

- ステップ6 VRF のコンテキストポリシーを適用する、 ナビゲーション] ペインで、[展開 ネットワーキング > Vrf 。
- ステップ7 適切な VRF を選択し、[作業(Work)]ペインの [ポリシー(Policy)] タブで [アドレス ファ ミリごとの EIGRP コンテキスト(EIGRP Context Per Address Family)] を展開します。
- **ステップ8 EIGRP アドレス ファミリ タイプ** ドロップダウンリスト、IP バージョンを選択します。
- **ステップ9 EIGRP アドレス ファミリ コンテキスト** ドロップダウンリスト、コンテキスト ポリシーを選択します。Update をクリックし、Submit をクリックします。
- ステップ10 レイヤ3Out内のEIGRPを有効にするには、[ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[ネットワーキング(Networking)]>[L3Out]をクリックして目的のレイヤ3外部ネットワークをクリックします。

- ステップ11 [作業(Work)]ペインの[ポシリー(Policy)]タブで[EIGRP]のチェックボックスをオンに して EIGRP 自律システム番号を入力します。[送信(Submit)]をクリックします。`
- ステップ12 EIGRPインターフェイスポリシーを作成するには、[ナビゲーション(Navigation) ペインで、 [*Tenant_name*] > [ポリシー(Policies)] > [プロトコル(Protocol)] > [EIGRP] をクリックして 次のアクションを実行します。
 - a) 右クリックして EIGRP インターフェイス 、をクリックし、 EIGRP インターフェイス ポリシーの作成 します。
 - b) Create EIGRP Interface Policy ダイアログボックスで、Name フィールドにポリシーの名前 を入力します。
 - c) 制御状態 フィールドは、1 つまたは複数の制御を有効にする目的のチェック ボックスを チェックします。
 - d) Helloインターバル(秒) フィールドで、目的の間隔を選択します。
 - e) 保留間隔(秒) フィールドで、目的の間隔を選択します。[Submit] をクリックします。`
 - f) Bandwidth フィールドで、目的の帯域幅を選択します。
 - g) 遅延 フィールドで、10マイクロ秒またはピコセル秒で、目的の遅延を選択します。

作業]ペインで、EIGRP インターフェイス ポリシーの詳細が表示されます。

- **ステップ13** ナビゲーション]ペインで、適切な外部ルーテッド ネットワークの EIGRP が有効になってク リック展開 論理ノード プロファイル および次の操作の実行します。
 - a) 適切なノードとそのノードの下にインターフェイスを展開します。
 - b) インターフェイスを右クリックし、をクリックして EIGRP インターフェイス プロファイ ルの作成 します。
 - c) EIGRP インターフェイス プロファイルの作成 ダイアログボックスで、 EIGRP ポリシー フィールドで、目的のEIGRP インターフェイスポリシーを選択します。[Submit]をクリッ クします。`
 - (注) EIGRPのVRFポリシーおよび EIGRP インターフェイスポリシーは、EIGRPが有効になっているときに使用するプロパティを定義します。EIGRPのVRFポリシーおよび EIGRP インターフェイスポリシーは、新しいポリシーを作成しない場合にもデフォルトポリシーとして利用できます。したがって、ポリシーのいずれかを明示的に選択しない場合は、EIGRPが有効になっているとき、デフォルトのポリシーが自動的に利用されます。

これで EIGRP の設定は完了です。

I



ルート集約

この章は、次の内容で構成されています。

- はじめに (351ページ)
- L3Out 外部 EPG レベルでのルート集約 (352 ページ)
- VRF レベルでのルートフィルタリングと集約 (352 ページ)
- •注意事項と制約事項(355ページ)
- GUI を使用した L3out 外部 EPG レベルでのルート要約の設定 (355 ページ)
- GUI を使用した VRF でのルート制御ポリシーの構成 (358 ページ)

はじめに

ルート集約では、多数の具体的なアドレスを1つのアドレスに置き換えることで、ルートテー ブルが簡素化します。たとえば、10.1.1.0/24、10.1.2.0/24、10.1.3.0/24は10.1.0.0/16で置き換え ることができます。ルート集約ポリシーにより、ボーダーリーフスイッチとそのネイバーリー フスイッチの間でルートを効率的に共有することができます。

Cisco APIC 5.2(4) リリース以降、ACI では2つの形式のルート集約がサポートされています。

• L3Out 外部 EPG レベルでのルート要約:

L3Out 外部 EPG レベルでのルート集約のこの設定により、外部 L3Out ピアのみへのルート集約が可能になります。

• VRF レベルでのルート フィルタリングと集約:

Cisco APIC 5.2(4) リリース以降、Cisco APIC は、ファブリックでアドバタイズされるルートのルートフィルタリングと集約を実行して、ファブリックのスケール要件を軽減するオプションも提供します。この機能は、VRF レベルで構成されます。VRF レベルでルートの集約を有効にすると、ACIファブリックへのルートの集約、および外部 BGPL3Out ピアへのルートの集約を実現するのに役立ちます。

上記の両方の要約形式の詳細については、以降のセクションで説明します。

L30ut 外部 EPG レベルでのルート集約

BGP、OSPF、あるいは EIGRP のルート集約ポリシーは、ブリッジ ドメインまたは中継サブ ネットに適用されます。OSPF では、エリア間ルート集約と外部ルート集約がサポートされま す。集約ルートはエクスポートされます。ファブリック内でのアドバタイズは行われません。

L3Out 外部 EPG でルート集約を有効にすると、ACI ファブリック内ではなく、L3Out ピアのみ へのルート集約を実現できます。ACI ファブリックおよび外部 L3Out ピアへのルートの集約を 実現するには、VRF レベルでのルート フィルタリングと集約 (352 ページ) を参照してくだ さい。

また、このルート集約が設定されている場合、集約プレフィックスは外部L3Outピアにアドバタイズされ、より具体的なプレフィックスはL3Outピアにアドバタイズされません。

VRF レベルでのルート フィルタリングと集約

デフォルトでは、境界リーフノードは直接接続されたスタティックルート、およびルーティ ングプロトコルから多くのプレフィックスを受け取り、これらのプレフィックスは MP-BGP で再配布され、これらのプレフィックスはすべてのリーフスイッチとスパインスイッチにア ドバタイズされます。リーフスイッチは、LPM で構成された VRF のすべてのプレフィックス をプログラムします。この機能を使用すると、管理者は VRF のプレフィックスを LPM テーブ ルに選択的にインポートしたり、VRF のプレフィックスを MP-BGP または L3Out ピアにエク スポートしたりできます。

Cisco APIC 5.2(4) リリース以降、Cisco APIC は、ファブリックでアドバタイズされるルートを 要約またはフィルタリングして、ファブリックのスケール要件を軽減するオプションを提供し ます。

以下のルート制御ポリシーが VRF 配下に追加されます。

BGP ルート集約ポリシー

このポリシーを使用すると、サブネットが外部ルーターから直接学習されるかどうかに関係な く、プレフィックスをより大きなサブネットに集約できます。ポリシーには、集約されたサブ ネットのみをアドバタイズするか、サブネット内のすべてのプレフィックスをアドバタイズす るかを指定するオプションが用意されています。このポリシーは、L3Out ピアと MP-BGP の集 約を制御します。

以下の構成がこのポリシーで使用可能です。

- ノード:ルートプロファイルを適用する必要があるボーダーリーフノードのリスト。
 - ・ポリシーを展開するには、少なくとも1つの境界リーフを構成する必要があります。
 - スパインスイッチはこのポリシーでサポートされていません。
 - •VRF、境界リーフペアごとに複数のポリシーを設定できます。

- このポリシーはvPC非認識です。したがって、vPCペアのノード間で異なるポリシー を構成できます。
- •このポリシーは、ユニキャストアドレスファミリにのみ適用されます。
- ・サブネット:各サブネットがテナントの下で構成された BGP ルート要約ポリシーを指す サブネットのリスト。
 - ・ポリシーを展開するには、少なくとも1つのサブネットを構成する必要があります。
 - ・同じノードの異なるルート集約ポリシーに関連付けられているサブネット間に重複が あってはなりません。
- BGPルート要約ポリシーの作成(テナントの下):集約されたルートのみをアドバタイズ するための新しいオプションが提供されています。ルート集約ポリシー制御状態オプショ ンを使用して、ピアへの集約プレフィックスのみのアドバタイズを有効にするか、ピアへ の集約プレフィックスと特定のプレフィックスの両方のアドバタイズを許可することがで きます。
- ルート集約が VRF と l3extSubnet の同じサブネットに構成されている場合、障害が発生します。したがって、ファブリックのアップグレードまたはスイッチのリロードの前に、この障害をクリアすることを強くお勧めします。

BGP ルート集約ポリシーを設定する手順は、GUI を使用した VRF でのルート制御ポリシーの 構成 (358 ページ) で提供されています。

VRF 内インポート ルート制御ポリシー

このポリシーにより、ルーティングテーブルに登録するプレフィックスを制御できます。 以下の構成がこのポリシーで使用可能です。

- ノード:ルートプロファイルを適用する必要があるリーフノードのリスト。
 - ・ポリシーを展開するには、少なくとも1つのリーフを構成する必要があります。
 - このポリシーでは、スパインスイッチはサポートされていません。
 - VRF、リーフノードに設定されているインポートルート制御ポリシーがない場合、 MP-BGPからのVRFのすべてのプレフィックスがノードのルーティングテーブルに 登録されます。
 - このポリシーはvPC非認識です。したがって、vPCペアのノード間で異なるポリシー を構成できます。
- ルートマップ:テナントの既存のルートプロファイル構成を構成するのと同じ方法で構成 します。次のルートマップのmatch句とset句は、インポートルート制御構成に適用され ます。

Match 句:

• IP プレフィックス リスト

- ・コミュニティ
- ・拡張コミュニティ(マッチオンカラー拡張コミュニティはサポートされていません)
- •正規表現コミュニティ
- •正規表現拡張コミュニティ
- •正規表現 AS パス

Set 句:

- ・コミュニティ
- Extended Community
- ・タグ
- 重量
- Preference
- メトリック

ルート集約またはファブリック エクスポート制御が MP-BGP のプレフィックスを抑制するように設定されている場合、このポリシーは、リーフのインポートルート制御ポリシーによって許可されている場合でも、レシーバー リーフのルーティング テーブルで更新されません。

VRF間インポートルート制御ポリシーを設定する手順は、GUIを使用した VRF でのルート制御ポリシーの構成(358ページ)で提供されています。

VRF エクスポート ルート制御ポリシー

このポリシーにより、ファブリックにアドバタイズされるプレフィックスを制御できます。 以下の構成がこのポリシーで使用可能です。

- •ノード:ルートプロファイルを適用する必要があるボーダーリーフノードのリスト。
 - ・ポリシーを展開するには、少なくとも1つの境界リーフを構成する必要があります。
 - スパイン スイッチはこのポリシーでサポートされていません。
 - VRF、ボーダー リーフ ペアに設定されているエクスポート ルート制御ポリシーがな い場合、ボーダー リーフから MP-BPG への VRF のすべてのプレフィックスがアドバ タイズされます。
 - このポリシーはvPC非認識です。したがって、vPCペアのノード間で異なるポリシー を構成できます。

 ルートマップ:テナントの既存のルートプロファイル構成を構成するのと同じ方法で構成 します。次のルートマップの match および set 句は、エクスポートルート制御設定に適用 されます。

Match 句:

- IP プレフィックス リスト
- ・コミュニティ
- 拡張コミュニティ(マッチオンカラー拡張コミュニティはサポートされていません)
- •正規表現コミュニティ
- •正規表現拡張コミュニティ

Set 句:

- ・コミュニティ
- 拡張コミュニティ(拡張コミュニティを None に設定することを除く)
- 重量
- Preference
- •メトリック

VRF エクスポート ルート制御ポリシーを設定する手順は、GUI を使用した **VRF** でのルート制 御ポリシーの構成(358ページ)に提供されています。

注意事項と制約事項

外部 EPG で設定されたルート集約ポリシーにより、同じ境界リーフスイッチに接続され、同 じ VRF にあるすべての BGP ピアに集約されたプレフィックスがアドバタイズされます。これ には、同じ境界リーフスイッチと VRF 条件が満たされている場合に、異なる L3Out に属する BGP ピアが含まれます。

この動作を行わず、集約ルートを受信する BGP ピアを制限する場合は、該当する L3Out のア ウトバウンドルートマップを使用して、該当するルートをブロックします。

GUI を使用した L3out 外部 EPG レベルでのルート要約の設定

このセクションでは、L3Out外部 EPG に関連付けられたルート集約を設定する手順について説明します。これらの構成手順を使用してルート集約を有効にすると、ACI ファブリック内ではなく、L3Out ピアのみへのルート集約を実現できます。

また、ルート集約が構成されている場合、集約プレフィックスは外部L3Outピアにアドバタイズされ、より具体的なプレフィックスはL3Outピアにアドバタイズされません。

ACIファブリックおよび外部 L3Out ピアへの ルートの集約を達成するには、GUIを使用した VRF でのルート制御ポリシーの構成 (358ページ) を参照してください。

始める前に

次の設定のそれぞれに対して、L3 Outがすでに作成されていること。L3 Out については、外部 ルーテッド ネットワーク、サブネット、およびルート集約ポリシーを作成することができま す。

手順

ステップ1 次のように、GUI を使用して BGP ルート集約を設定します:

- a) メニューバーで、[テナント(Tenants)] > common]を選択します。
- b) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs] を展開します。
- c) [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。
 [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードが表示されます。
- d) [作業(Work)]ペインで、必要な情報([名前(Name)]、[VRF]、および[L3ドメイン (L3 Domain)])を入力し、[BGP]の横にあるチェックボックスをオンにします。
- e) [次へ(Next)]をクリックします。
 [ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]ウィンドウが表示されます。
- f) [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ウィンドウで、適切なフィールドに入力し、[次へ (Next)]をクリックします。
 [プロトコル (Protocols)]ウィンドウが表示されます。
- g) [プロトコル (Protocols)]ウィンドウで、適切なフィールドに入力し、[次 (Next)]をクリックします。

[外部 EPG (External EPG)] ウィンドウが表示されます。

- h) [名前(Name)]フィールドに名前を入力し、[すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external network)]フィールドをオフにします。
 [サブネット(Subnets)]フィールドが表示されます。
- i) [ルート集約ポリシー (Route Summarization Policy)]の上にある[+]をクリックします。
 Create Subnet ダイアログボックスが表示されます。
- j) Specify the Subnet ダイアログボックスでは、次の方法で、ルート集約ポリシーをサブ ネットに関連付けることができます。
- 例:
 - IP アドレスを IP Address フィールドに入力します。
 - Export Route Control Subnet の隣のチェック ボックスをオンにします。
 - External Subnets for the External EPG の隣のチェック ボックスをオンにします。

- BGP Route Summarization Policy ドロップダウンメニューで、既存の (デフォルトの) ポリ シーを選択する場合には default を、新しいポリシーを作成する場合には Create BGP route summarization policy を選択します。
- Create BGP route summarization policy を選択した場合には、Create BGP Route Summarization Policy ダイアログボックスが表示されます。[名前(Name)]フィールドに 名前を入力し、[AS-SET 情報の生成(Generate AS-SET information)]で[制御状態(Control State)]チェックボックスをオンにし、[送信(Submit)]をクリックして[OK]、[完了 (Finish)]をクリックします。
 - (注) [より詳細な制御状態をアドバタイズしない] オプションと [アドレスタイプ制御(Address Type Contr)]オプションは、ポリシーが VRF ルート制御ポリシーに適用されている場合にのみ適用されます。ここでは、AF Ucast と AF Mcastの両方がデフォルトで有効になっています。
- ステップ2 GUIを使用して、次のように OSPF のエリア間および外部の集約を設定します。
 - a) メニューバーで、[**テナント(Tenants**) > common] を選択します。
 - b) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ネットワーキング (Networking)]>[L3Outs]>
 [外部 EPG (External EPGs)] を展開し、設定済みの外部 EPG をクリックします。
 設定された外部 EPG の概要情報が表示されます。
 - c) 作業ウィンドウで、+ 記号 (Route Summarization Policy の上) をクリックします。 Create Subnet ダイアログボックスが表示されます。
 - d) Specify the Subnet ダイアログボックスでは、次の方法で、ルート集約ポリシーをサブネットに関連付けることができます。
 - 例:
 - IP アドレスを IP Address フィールドに入力します。
 - Export Route Control Subnet の隣のチェック ボックスをオンにします。
 - External Subnets for the External EPG の隣のチェック ボックスをオンにします。
 - OSPF Route Summarization Policy ドロップダウンメニューで、既存の (デフォルトの) ポ リシーを選択する場合には default を、新しいポリシーを作成する場合には Create OSPF route summarization policy を選択します。
 - Create OSPF route summarization policy を選択した場合には、Create OSPF Route Summarization Policy ダイアログボックスが表示されます。名前を Name フィールドに入 力し、Inter-Area Enabled の隣のチェック ボックスをオンにし、Cost の隣に値を入力し、 SUBMIT をクリックします。
- ステップ3 次のように、GUIを使用して EIGRP の集約を設定します。
 - a) メニューバーで、**Tenants > common** を選択します。
 - b) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ネットワーキング (Networking) >L3Outs]を 展開します。
 - c) [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。

[L3Out の作成(Create L3Out)]ダイアログボックスが表示されます。

- d) 作業ウィンドウで、EIGRP の隣のチェック ボックスをオンにします。
- e) Name フィールドに名前を入力し、NEXT をクリックします。 External EPG Networks ダイアログボックスが表示されます。
- f) 作業ウィンドウで、+記号をクリックします。
 Define an External Network ダイアログボックスが表示されます。
- g) Name フィールドに名前を入力し、+ 記号 (Route Summarization Policy の上のもの)をク リックします。
 - **Create Subnet** ダイアログボックスが表示されます。
- h) Specify the Subnet ダイアログボックスでは、次の方法で、ルート集約ポリシーをサブネットに関連付けることができます。
- 例:
 - IP アドレスを IP Address フィールドに入力します。
 - Export Route Control Subnet の隣のチェック ボックスをオンにします。
 - External Subnets for the External EPG の隣のチェック ボックスをオンにします。
 - EIGRP Route Summarization の隣のチェック ボックスをオンにし、OK をクリックし、 OK をクリックし、FINISH をクリックします。

GUI を使用した VRF でのルート制御ポリシーの構成

このセクションでは、VRFのルート集約を構成する手順について説明します。これには、ルート集約ポリシー、VRF内インポートルート制御、およびVRFエクスポートルート制御を構成する手順が含まれます。

このセクションの手順を使用してルートの集約を有効にすると、ACIファブリックへのルート と、外部 BGP L3Out ピアへのルートの集約を実現できます。さらに、このセクションの手順 を使用して設定されたルート集約では、有効になっている制御状態オプションに基づいて、よ り具体的なプレフィックスが集約プレフィックスと共にアドバタイズされる場合とされない場 合があります。

手順

- ステップ1 [テナント(Tenants)]>[tenant_name]>[ネットワーキング(Networking)]>[VRF]>[vrf_name] に移動します。
- **ステップ2** [VRF-vrf_name] 作業ペインで、[ルートコントロール(Route Control)] タブをクリックしま す。
- ステップ3 VRF レベルでルート フィルタリングと集約をどのように設定するかを決定します。

• BGP ルート集約ポリシーを設定するには、ステップ4 (359 ページ) に進みます。

- VRF間インポートルート制御ポリシーを設定するには、ステップ5 (359ページ) に進み ます。
- VRFエクスポートルート制御ポリシーを設定するには、ステップ6(360ページ)に進みます。
- ステップ4 次のように、GUIを使用して、ルート集約ポリシーを構成します。
 - a) [ルート集約ポリシー(Route Summarization Policy)] の上にある [+] をクリックします。 [ルート集約ポリシーの作成(Create Route Summarization Route)] ダイアログボックスが 表示されます。
 - b) [名前] フィールドに名前を入力し、[ノード] リストからスイッチを選択します。
 - c) [サブネット (Subnet)]の隣の[+]をクリックします。
 [サブネットと要約ポリシーの関連付けの作成 (Create Association of Subnet to Summarization Policy)]ダイアログボックスが表示されます。
 - d) [サブネット(Subnet)] フィールドに、IP アドレスを入力します。
 - e) BGP ルート サマリー ポリシー リストからポリシーを選択します。
 [ルート集約ポリシーの作成(Create Route Summarization Route)]ダイアログボックスが 表示されます。
 - f) [名前 (Name)] フィールドに名前を入力し、適切な [制御状態 (Control State)] および [アドレス タイプ コントロール (Address Type Controls)] オプションを選択します。

BGPルート集約ポリシー設定の[より詳細な制御状態をアドバタイズしない (Do not advertise more specifics control option)]オプションが有効になっている場合、集約プレフィックス はアドバタイズされ、より具体的なプレフィックスはピアにアドバタイズされません。[よ り詳細にアドバタイズしない (Do not advertise more specifics)]オプションが有効になっ ていない場合、集約プレフィックスとより詳細なプレフィックスの両方がピアにアドバタ イズされます。

- g) [送信(Submit)]をクリックして、以前の構成を確認します。
- (注) 集約プレフィックスがL3Outピアから、およびルート集約ポリシー構成を使用して ボーダーリーフでローカルに発信された集約プレフィックスから学習される場合、 ローカルで発信された集約プレフィックスよりも外部で学習された集約プレフィッ クスを BGP ベストパスとして優先する場合、L3Outピアから発信されるすべての ルートは、32769 以上に設定する必要があります。
- ステップ5 次のように、GUIを使用して Intra-VRF インポート ルート構成ポリシーを設定します。
 - a) [VRF 間インポート ルート構成ポリシー(Intra-VRF Import Route Configuration Policy)] の横にある [+] をクリックします。
 [VRF インポート ルート制御ポリシーの作成(Create VRF Import Route Control Policy)] ダイアログボックスが表示されます。
 - b) [名前] フィールドに名前を入力し、[ノード] リストからスイッチを選択します。
 - c) [インポートするルート プロファイル (Route Profile for Import)] リストからポリシーを 選択します。
 - d) [送信(Submit)] をクリックします。

ステップ6 次のように、GUIを使用して VRF エクスポート ルート構成ポリシーを構成します。

- a) VRF エクスポート ルート構成ポリシーの横にある [+] をクリックします。
 [VRF エクスポート ルートコントロール ポリシーの作成 (Create VRF Export Route Control Policy)] ダイアログ ボックスが表示されます。
- b) [名前] フィールドに名前を入力し、[ノード] リストからスイッチを選択します。
- c) [エクスポートするルート プロファイル (Route Profile for Export)] リストからポリシー を選択します。
- d) [送信 (Submit)]をクリックします。



ルート マップおよびルート プロファイル によるルート制御

この章は、次の内容で構成されています。

- ・ルート制御プロファイルポリシー (361ページ)
- •BGP ピアごとのルート制御について (363 ページ)
- ・明示的なプレフィクスリストでルートマップ/プロファイル (368ページ)
- ・ルート制御プロトコル (381ページ)
- MP-BGP のインターリーク再配布 (384 ページ)

ルート制御プロファイル ポリシー

ACI ファブリックは、ファブリックの内部と外部にアドバタイズされるルート用に、ルート マップの set 句もサポートします。ルート マップの set ルールは、ルート制御プロファイル ポ リシーとアクション ルール プロファイルで設定されます。

ACI は以下の set オプションをサポートします。

表 13: アクション ルール プロファイルのプロパティ(ルートマップ の set 句)

プロパティ	OSPF	EIGRP	BGP	注
コミュニティの設 定			0	標準コミュニティ と拡張コミュニ ティをサポートし ます。
追加のコミュニ ティを設定			0	標準コミュニティ と拡張コミュニ ティをサポートし ます。

プロパティ	OSPF	EIGRP	BGP	注
ルートタグ	はい	はい		BD のサブネット のみでサポートさ れます。中継プレ フィックスには、 常にタグ 4294967295 が割 り当てられます。
優先順位			0	BGP ローカル プ リファレンスを設 定します。
メトリック	はい		はい	BGP の MED を設 定します。EIGRP のメトリックを変 更しますが、 EIGRP 複合メト リックは指定でき ません。
メトリック タイ プ	0			OSPF タイプ 1 と OSPF タイプ 2。

ルートプロファイルポリシーは、レイヤ3 Outside 接続の下に作成されます。ルート制御ポリシーは、以下のオブジェクトで参照できます。

- テナント BD サブネット
- ・テナント BD
- 外部 EPG
- 外部 EPG のインポート/エクスポート サブネット

以下に、BGP のインポート ルート制御を使用し、2 つの異なるレイヤ 2 Outside から学習した 外部ルートのローカル プリファレンスを設定する例を示します。AS300 への外部接続用のレ イヤ 3 Outside 接続は、インポート ルート制御を適用して設定されています。アクション ルー ルプロファイルの設定では、[Local Preference] ウィンドウの [Action Rule Profile] でローカルプ リファレンスが 200 に設定されています。

レイヤ3 Outside 接続の外部 EPG は、0.0.0.0/0インポート集約ポリシーを使用してすべてのルートを許可するように設定されています。これは、インポートルート制御が適用されていますが、どのプレフィックスもブロックされてはならないためです。ローカルプリファレンスの設定を許可するために、インポートルート制御が適用されています。また、[Route Control Profile]ウィンドウの [External EPG] で [Action Rule Profile] を参照するルートプロファイルを使用して、別のインポートサブネット 151.0.1.0/24 が追加されています。

MP-BGP テーブルを表示するには、show ip bgp vrf overlay-1 コマンドを使用します。スパイン の MP-BGP テーブルには、プレフィックス 151.0.1.0/24 とローカル プリファレンス 200、およ び BGP 300 レイヤ 3 Outside 接続の境界リーフの次のホップが表示されます。

default-import と default-export という、2 つの特殊なルート制御プロファイルがあります。名前 default-import および default-export を使用して設定すると、ルート制御プロファイルはインポー トとエクスポート両方のレイヤ 3 Outside レベルで自動的に適用されます。default-import およ び default-export のルート制御プロファイルは、0.0.0.0/0 集約を使用して設定することはできま せん。

ルート制御プロファイルは、次の順序でファブリックルートに適用されます。

- 1. テナント BD サブネット
- 2. テナント BD
- 3. $\nu \uparrow \uparrow$ 3 Outside

ルート制御プロファイルは、次の順序で中継ルートに適用されます。

- 1. 外部 EPG プレフィックス
- 2. 外部 EPG
- 3. $\nu \uparrow \neq 3$ Outside

BGP ピアごとのルート制御について

ルート制御ポリシーは、外部ネットワークにアドバタイズされるルート(エクスポート)また はファブリックに許可されるルート(インポート)を決定します。Cisco Application Policy Infrastructure Controller(APIC)リリース4.2(1)よりも前の Cisco APIC リリースでは、これら のポリシーを、L3Out プロファイル(l3extInstP)の下の L3Out レベル、または L3Out (l3extSubnet)の下の L3Out サブネットを介して設定するため、これらのポリシーは L3Out に 含まれるすべてのノードまたはパス向けに設定されるプロトコルに適用されます。この設定で は、L3Outに複数のノードプロファイルが設定され、それぞれにBGPネイバーが指定された複 数のノードまたはパスがあります。このため、個々のポリシーを各プロトコルエンティティに 適用する方法はありません。

Cisco APIC リリース4.2(1) 以降では、BGP ピアごとのルート制御機能が導入され、より詳細な ルートのエクスポートおよびインポート制御が必要とされるこの状況に対処し始めています。

Cisco APIC リリース 6.0(1) 以降、一致ルールの作成中に Match As パスパラメータを設定できます。1 つのルート マップで、複数の AS パス アクセス リスト名を一致させることができます。

BGP ピアごとのルート制御に関するガイドラインと制約事項

BGP ピアごとのルート制御機能のガイドラインと制約事項を次に示します。

- テナントのBGP ピアごとに使用されるルート プロファイルを設定する必要があります。
- ルートマップの一致を設定する方法、ルールまたはルートプロファイルを設定する方法、 およびこれらの各コンポーネントの動作は、以前のリリースから変更されていません。
- この機能のルートプロファイルは、[ルーティングポリシーのみ照合(Match Routing Policy Only)](グローバルポリシー)にのみ設定できます。ルートプロファイルは、BGPピア ごとのルートマップを生成する唯一の情報源です。この機能のルートプロファイルを[プ レフィックスおよびルーティングポリシーの照合(Match Prefix and Routing Policy)]に設 定することはできません。

また、BD サブネットをエクスポートする場合は、プレフィックス リストで BD サブネットを明示的に指定する必要があります。

- 特定の方向のBGP ピアに関連付けることができるルート制御プロファイルは1つだけです。
- デフォルトポリシーは、これらのルートマップではサポートされていません(名前付き ルートプロファイルのみを BGP ピアに適用できます)。
- BGPピアのルート制御プロファイルを指定すると、その情報だけに基づいてルートマップが生成されます。L3Outプロファイル(l3extInstP)またはL3Outの下のL3Outサブネット(l3extSubnet)を介して設定されたルート制御プロファイルは、このルートマップに関与しません。同様に、BGPピアごとのルート制御プロファイル設定がない場合、L3Outの下のルート制御プロファイルが有効になります。
- ・一致プレフィックスリストでプライベートBDサブネットを指定すると、そのサブネット が含まれます。プライベートBDサブネットを除外するために追加の設定を行う必要はあ りません。
- ・一致プレフィックスリストで 0.0.0.0/0 を設定すると、BD サブネットを含むすべてのプレ フィックスに一致します。
- Cisco APICは、境界リーフスイッチにルートマップを作成して展開します。
 <route profile name> _<L3Out name> -<direction> 。たとえば、次の設定のルートマップがあります。
 - ・[テナント名(Tenant name)]: t1
 - ・[ルート プロファイル名(**Route profile name**)]: rp1
 - [L3Out name]: 13out1
 - •[方向(Direction)]: import

will have this as the route map name: t1_rp1_l3out1-in

- BGP ピアごとのルート制御機能を設定しても、共有サービス ルートマップの動作には影響しません。
- APIC ソフトウェアをアップグレードまたはダウングレードする場合は、次の点に注意してください。

- APIC ソフトウェアのアップグレード: APIC ソフトウェアをアップグレードする前に L3Out でルートプロファイルを設定した場合、L3Out のルートプロファイルは、BGP ピアごとのルートプロファイルを設定するまで正常に動作し続けます。上記が適用さ れます。
- APIC ソフトウェアのダウングレード: BGP ピアごとのルート プロファイルを設定し、その後で APIC ソフトウェアをダウングレードする場合は、ダウングレードに進む前にポリシーを削除する必要があります。

GUI を使用した BGP ピアごとのルート制御の設定

次の手順では、GUIを使用して BGP ピア単位のルート制御を設定する方法について説明します。

始める前に

- •ノード、ポート、AEP、機能プロファイル、レイヤ3ドメインを設定します。
- ファブリック内でルートを伝播させるための、BGP ルート リフレクタ ポリシーを設定します。

手順

ステップ1 テナントおよび VRF の作成

a) メニューバーで [Tenants] > [Add Tenant] の順に選択します。

[テナントの作成(Create Tenant)]ダイアログボックスが表示されます。

- b) Name フィールドに、テナント名を入力します。
- c) In the VRF Name フィールドに、VRF 名を入力します。
- d) Submit をクリックします。

ステップ2 ブリッジドメインを作成します。

- a) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで[テナント (Tenant)]および[ネットワーキング (Networking)]を展開します。
- b) Bridge Domains を右クリックして、Create Bridge Domain を選択します。
- c) Name フィールドに、ブリッジ ドメイン (BD) の名前を入力します。
- d) (オプション) [Advertise Host Routes] ボックスをクリックすると、すべての導入済み境 界リーフでアドバタイズメントが有効になります。
- e) **VRF** フィールドのドロップダウンリストから、作成した VRF を選択します (この例で は v1)。
- f) Next をクリックします。
- g) + アイコンを Subnets でクリックします。
- h) Gateway IP フィールドに、BD のサブネットを入力します。

i) **Scope** フィールドで、**Advertised Externally** を選択します。

後ほど作成した後に、L3 Out for Route Profile を追加します。

- (注) [ホストルータのアドバタイズ (Advertise Host Routes)] が有効になってい る場合、ルートマップもすべてのホストルートを一致させます。
- i) **OK**をクリックします。
- k) Next をクリックし、Finish をクリックします。
- ステップ3 アプリケーション EPG の作成
 - a) Application Profiles を右クリックし、Create Application Profile を選択します。
 - b) アプリケーションの名前を入力します。
 - c) EPG の + アイコンをクリックします。
 - d) EPG の名前を入力します。
 - e) BD ドロップダウンリストで、以前に作成したブリッジ ドメインを選択します。
 - f) Update をクリックします。
 - g) [送信 (Submit)]をクリックします。

ステップ4 BGPピアごとのルートマップとして使用されるテナントレベルのルートマップを作成します。

- a) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[テナント (Tenants)]>[*Tenant_name*]>[ポ リシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]を展開します。
- b) [BGP ダンプニング、リーク間のルートマップ(Route Maps for BGP Dampening, Inter-leak)]
 を右クリックし、[BGP ダンプニング、リーク間のルートマップの作成(Create Route Maps for BGP Dampening, Inter-leak)]を選択します。
- c) [BGP ダンプニング、リーク間のルート マップの作成(Create Route Maps for BGP Dampening, Inter-leak)]ダイアログボックスで、[名前(Name)]フィールドに、ルート プロファイル名を入力します。
- d) [タイプ(Type)]フィールドで、[ルーティングポリシーのみ照合(Match Routing Policy Only)]を選択する必要があります。
- e) [コンテキスト (Contexts)]領域で[+]サインをクリックして、[ルート制御コンテキスト 作成 (Create Route Control Context)]ダイアログボックスを表示し、次のアクションを 実行します。
 - 1. 必要に応じて、[順序(Order)]と[名前(Name)]フィールドに入力します。
 - **2.** [一致ルール (Match Rule)]フィールドで、[一致ルールの作成 (Create Match Rule)] をクリックします。
 - **3.** [**一致ルール**(Match Rule)] ダイアログ ボックスの [名前(Name)] フィールドに、 一致ルールの名前を入力します。
 - 該当するフィールド(一致 Regex コミュニティ条件、一致コミュニティ条件、および 一致プレフィックス、一致 AS パス Regex 条件)に必要な情報を入力し、[送信 (Submit)]をクリックします。
 - 5. [セット ルール (Set Rule)] フィールドで、[ルート マップのセット ルールの作成 (Create Set Rules for a Route Map)]をクリックします。

- 6. [ルートマップのセットルールの作成(Create Set Rules for a Route Map)]ダイアロ グボックスの[名前(Name)]フィールドに、ルールの名前を入力します。
- **7.** 目的の属性および関連するコミュニティ、条件、タグ、および設定 (preferences) を選択します。[完了 (Finish)] をクリックします。
- 8. [ルート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)] ダイアログボック スで、[OK] をクリックします。
- [BGP ダンプニング、インターリークのルートマップの作成(Create Route Maps for BGP Dampening, Inter-leak)]ダイアログボックスで、[送信(Submit)]をクリック します。
- ステップ5 L3Out を作成し、L3Out の BGP を設定します。
 - a) [ナビゲーション (Navigation)]ペインで[テナント (Tenant)]および[ネットワーキング (Networking)]を展開します。
 - b) [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。
 - c) L3OutのBGPを設定するために必要な情報を入力します。

このL3OutのBGPプロトコルを設定するには、L3Out作成ウィザードの[識別(Identity)] ページで[BGP]を選択します。

			1. Identity	2. Nodes And Int	erfaces	3. Protocols	4. Extern
			🍄 Protocol -				
			Ø Route				
Leaf							
Identity							
A Layer select ro	o outside network configu lutes, select quality of sen	vice, and forward the traffic	v trame is forwarded outsi c that is entering, exiting, :	de of the fabric. Laye and transiting the fab	r 3 is used to d ric.	iscover the addres	ses of other
Config	pure the node, port, functi- pure a BGP route reflector	onal profile, AEP, and Laye policy to propagate the ro	r 3 domain. utes within the fabric.				
 Config 							
Config	120.4 4.00						
Config Name: VRF:	L3Out-demo		C	BGP		OSPF	
Config Name: VRF: Layer 3 Domain:	L3Out-demo VRF-demo L3Domain-demo	2 2 2 2 2 2	C	BGP		OSPF	
Confr Name: VRF: Layer 3 Domain: Use for GOLF:	L3Out-demo VRF-demo L3Domain-demo	✓ 4²✓ 4²	C	BGP		OSPF	
Config Name: VRF: Layer 3 Domain: Use for GOLF:	L3Out-demo VRF-demo L3Domain-demo		(BGP		OSPF	
Confr Name: VRF: Layer 3 Domain: Use for GOLF:	L3Out-demo VRF-demo L3Domain-demo	✓ Ø	C	BCP		OSPF	
Confr Name: VRF: Layer 3 Domain: Use for GOLF:	L3Out-demo VRF-demo L3Domain-demo	∨ C ∨ C	(Ø SOP	EIGRP	OSPF	

d) 残りのページを続けて行い([ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]、[プロトコル(Protocols)]、および[外部 EPG(External EPG)])、L3Outの設定を完了します。

ステップ6 L3Outの設定が完了したら、BGP ピアごとのルート制御機能を設定します。

a) BGP ピア接続プロファイル画面に移動します。

[テナント (Tenants)]>[テナント (tenant)]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]>[L3Outs]>[L3out-name]>[論理ノード プロファイル (Logical Node Profiles)]> [logical-node-profile-name]>[論理インターフェイス プロファイル (Logical Interface Profiles)]>[logical-interface-profile-name]>[BGP ピア接続プロファイル (BGP Peer Connectivity Profile)]/[P-address]

- b) [ルート制御プロファイル (Route Control Profile)]フィールドまで下にスクロールし、[+] をクリックして次の項目を設定します。
 - •[名前(Name)]: 設定したルートマップを選択します。ステップ4(366ページ)
 - •[方向(Direction)]:次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ルートインポートポリシー
 - ・ルートエクスポートポリシー

明示的なプレフィクス リストでルート マップ/プロファ イル

ルートマップ/プロファイルについて

ルートプロファイルは、関連付けられているセットアクションルールと一致する論理アクショ ンルールの順序付きのセット (rtctrlCtxP) を定義する論理ポリシーです。ルートプロファイル では、ルートマップの論理抽象です。複数のルートプロファイルは、1 個のルートマップに マージすることができます。ルートプロファイルには、以下のいずれかのタイプを指定できま す。

- プレフィックスとルーティングポリシーと一致: 普及サブネット (fvSubnet) と外部のサブネット (l3extSubnet) がルートプロファイルと組み合わせるし、マージされ、1つのルートマップ(またはルートマップエントリ)になります。一致するプレフィックスとルーティングポリシーは、デフォルト値です。
- ・一致ルーティングポリシーのみ:は、ルートプロファイルは、ルートマップを生成する
 情報の唯一のソースと、その他のポリシー属性が上書きされます。



(注) 明示的なプレフィクス リストを使用すると、「ルーティング ポリシーのみを一致」にルート プロファイルのタイプを設定する必要があります。 一致後の設定プロファイルが定義されていると、レイヤ3Outでルートマップを作成する必要 があります。ルートマップは以下のいずれかの方法で作成できます。

- エクスポートルートコントロールでは、「デフォルトエクスポート」ルートマップとインポートルート制御の「デフォルトインポート」ルートマップを作成します。
- (デフォルトエクスポートまたはデフォルトインポートしないという名前)他のルートマップを作成し、l3extInstPsまたはサブネット、l3extInstPの下の1つまたは複数の関係を設定します。
- いずれにしても、ルートマップ内でrtctrlSubjPを指しているによって明示的なプレフィックスリストでルートマップに一致します。

エクスポートとインポートルートマップでは、設定と一致のルールは、グループ間の相対シー ケンス (rtctrlCtxP) とともにグループにまとめられます。一致の各グループの下でさらに、い ずれかに関係ステートメント (rtctrlCtxP) を設定し、または一致プロファイルの詳細について は、使用可能な (rtctrlSubjP)。

(たとえばBGPプロトコル)は、アウトのレイヤ3で有効になっているすべてのプロトコルは、 エクスポートを使用し、ルートフィルタリングのマップをインポートルート。

ルートマップ/プロファイルの明示的なプレフィックスリストのサポー トについて

Cisco APIC では、公開ブリッジドメイン (BD) サブネットと外部の中継ネットワークのイン バウンドおよびアウトバウンドルート コントロールは、明示的なプレフィックス リストを通 して提供されます。レイヤ3アウトのインバウンドおよびアウトバウンドルート コントロー ルは、ルート マップ/プロファイル (rtctrlProfile) によって管理されます。ルート マップ/プロ ファイル ポリシーは、Cisco ACI ファブリックでレイヤ3アウトを完全に管理するプレフィッ クス リストをサポートし\ています。

プレフィックス リストのサブネットは、ブリッジ ドメイン公開サブネットまたは外部のネットワークを表すことがあります。明示的なプレフィックスリストは別の方法を示し、次の代わりに使用できます。

•BDを介して BD サブネットをレイヤ3アウト関係にアドバタイズします。

(注)

BD のサブネットは、アドバタイズされるサブネットに公開とし てマークする必要があります。

 ・中継トラフィックと外部ネットワークをアドバタイジングするため、エクスポート/イン ポートルートコントロールによりl3extInstPでサブネットを指定します。

明示的なプレフィックスリストは一致ルートの宛先(rtctrlMatchRtDest)と呼ばれる新しい一 致タイプで定義されます。使用例は次のAPIの例で説明します。





明示的なプレフィクスリストを使用する場合の一致ルール、ルール設定に関する追加情報は次 の通りです。

ー致ルール

 ・テナント(fvTenant)で、ルートマップフィルタリングの一致プロファイル(rtctrlSubjP) を作成できます。各一致プロファイルは1個以上の一致ルールを含めることができます。
 一致ルールでは、複数の一致タイプをサポートしています。Cisco APIC リリース 2.1(x) 以前、サポートされていた一致タイプは明示的なプレフィックスリストおよびコミュニティリストでした。

Cisco APIC リリース 2.1(x) より、明示的なプレフィック一致または一致ルートの宛先 (rtctrlMatchRtDest) がサポートされています。

一致プレフィックスリスト(rtctrlMatchRtDest)は、オプションの集約フラグで1つまた は複数のサブネットがサポートされています。集約フラグは、設定で言及されているマス クから始めて、プレフィックスのアドレスファミリで許可されている最大数のマスクに達 するまで、プレフィックスが複数のマスクと一致できるようにするために使用されます。 これは、NX-OS ソフトウェアのプレフィックス リストの「le」オプションに相当します (たとえば 10.0.0.0/8 le 32)。

プレフィクスリストは、次のケースに対応するために使用できます。

- ・ すべて許可(集約フラグでは0.0.0.0/0、0.0.0.0/0 le 32と同等)
- ・1 つ以上の特定のプレフィクス (たとえば 10.1.1.0/24)
- •1 つ以上の集約フラグを伴うプレフィックス (たとえば 10.1.1.0/24 le 32 と同等)。



(注) 一致プレフィックス「0.0.0.0/0 with aggregate flag」を持つルート マップがエクスポート方向のL3Out EPGで使用される場合、ルー ルはダイナミック ルーティングプロトコルからの再配布にのみ 適用されます。したがって、ルールは次のものには適用されませ ん(OSPFやEIGRPなどのルーティングプロトコル)。

- •ブリッジドメイン (BD) のサブネット
- ・境界リーフスイッチに直接接続されたサブネット
- ・L3Out で定義されたスタティックルート
- 明示的なプレフィックス一致ルールは、1つ以上のサブネットを含めることができます。
 これらのサブネットとしては、ブリッジドメインパブリックサブネットまたは外部ネットワークがあり得ます。またサブネットは、最大サブネットマスクまで集約することもできます(IPv4では/32、IPv6では/128)。
- ・さまざまなタイプの複数の一致ルールが存在する場合(一致コミュニティや明示的なプレフィックスの一致など)、一致ルールは、個々の一致タイプすべての一致ステートメントが一致する場合だけを許可します。これはANDフィルタと等価です。明示的なプレフィクス一致はサブジェクトプロファイル(rtctrlSubjP)に含められ、サブジェクトプロファイル下に他の一致ルールが存在する場合には論理ANDを形成します。
- 特定の一致タイプ(一致プレフィックスリスト)内では、少なくとも1つの一致ルールス テートメントが一致する必要があります。複数の明示的なプレフィックス一致 (rtctrlMatchRtDest)は、論理 OR を形成する同じサブジェクトプロファイル (rtctrlSubjP)下 で定義することができます。

一致プレフィックスの機能拡張

Cisco APIC リリース 4.2(3) 以降、一致ルールを作成し、集約を有効にすると、[一致プレフィックス (Match Prefix)] フィールドに 2 つの新しいフィールドが使用できるようになりました。 リリースに基づいて、これらのフィールドには、次の表に示すように異なる命名規則があります。

リリース	フィールド
Cisco APIC リリース 4.2(3)	[開始プレフィックス(From Prefix)]
	[終了プレフィックス(To Prefix)]
Cisco APIC リリース 5.2(2)	[大きいマスク(Greater Than Mask)]
	[小さいマスク(Less Than Mask)]
Cisco APIC リリース 5.2(6)	[以上マスク(Greater Equal Mask)]
	[以下マスク(Less Equal Mask)]

プレフィックスー致ルールを作成して集約を有効にする場合は、これらのフィールドを使用してマスク範囲を指定します。次に、これらのフィールドを使用する状況の例を示します。

- ・ すべて許可(0.0.0.0/0、マスク長 24 ~ 30、0.0.0.0/0 ge 24 le 30 に相当)
- ・特定の IP アドレスと 28 より大きいネットマスクを持つプレフィックス(たとえば、10.1.1.0/24 ge 28 と同等)

次の表に、これら2つの新しいフィールドを使用するさまざまなシナリオと、各シナリオの結 果の詳細を示します。次の点に注意してください。

- 「以上マスク(Greater Equal Mask)]と[以下マスク(Less Equal Mask)]フィールドは、 [集約(Aggregate)]オプションを[一致ルート宛先ルールの作成(Create Match Route Destination Rule)]ウィンドウで選択した場合にのみ使用できます。
- ・値0を[以上マスク(Greater Equal Mask)]および[以下マスク(Less Equal Mask)] フィールドに設定した場合、未指定と見なされ、次のデフォルト値が使用されます。
 - 以上マスク=0
 - ・以下マスクは、IP アドレス ファミリが IPv4 か IPv6 かによって、32 または 128 になります。

この状況は、従来の動作を前提としており、これらのプロパティが存在しない古い設定の インポートをサポートします。詳細については、次の表の2列目を参照してください。

IPアドレス/ ネットマスク	集約	以上マスク エ ントリ (fromPfxLen)	以下マスク エ ントリ (toPfxLen)	結果	その他の情報
192.0.2.0/24	イネーブルに なっていない	なし	なし	192.0.2.0/24	完全一致:
192.0.2.0/24	有効	0	0	192.0.2.0/24 le 32	従来の動作
IPアドレス/ ネットマスク	集約	以上マスク エ ントリ (fromPfxLen)	以下マスク エ ントリ (toPfxLen)	結果	その他の情報
-------------------	----	--------------------------------	--	-----------------------------	--
192.0.2.0/24	有効	24	 不適切な値 ([以上マスク (Greater Equal Mask)] エントリに指 定した値のた めにエラーが 発生した) 	エラー:無効 な設定です。	[以上マスク (Greater Equal Mask)] エントリは、 ネットマスク 長よりも大き い必要があり ます。
192.0.2.0/24	有効	28	30	192.0.2.0/24 ge 28 le 30	これらの新し いフィールド による新しい 動作
192.0.2.0/24	有効	30	0	192.0.2.0/24 ge 30	これらの新し いフィールド による新しい 動作
192.0.2.0/24	有効	28	28	192.0.2.0/24 eq 28	これらの新し いフィールド による新しい 動作
192.0.2.0/24	有効	0	28	192.0.2.0/24 le 28	これらの新し いフィールド による新しい 動作
192.0.2.0/24	有効	30	28	エラー:無効 な設定です。	[以上マスク (Greater Equal Mask)] エントリを[以 下マスク (Less Equal Mask)]エン トリより大き くすることは できません。

ルールの設定

設定ポリシーは、設定コミュニティおよび設定タグなど明示的なプレフィックスで実施される 設定ルールを定義するために作成する必要があります。

明示プレフィックス リストの集約サポート

一致するプレフィックスリストの各プレフィックス(rtctrlMatchRtDest)は、1つのプレフィックスリストエントリに一致する複数のサブネットをサポートするように集約できます。

集約されたプレフィックスと BD プライベート サブネット

明示的なプレフィックスリストマッチ内のサブネットは、集約されたマッチまたは正確なマッ チにより BD プライベート サブネットとマッチする可能性がありますが、プライベート サブ ネットは明示的なプレフィックス リストを使用するルーティング プロトコルを通してアドバ タイズされることはありません。BD サブネットの範囲は、BD サブネットをアドバタイズす るため明示プレフィックス リスト機能に対して「public」に設定する必要があります。

集約による 0.0.0.0/0 の動作の違い

集約設定を使用した 0.0.0.0/0 は、「0.0.0.0/0 le 32」に相当する IP プレフィックス リストを作成します。集約設定の 0.0.0.0/0 は、主に次の 2 つの状況で使用できます。

- L3Out ネットワーク(L3Out EPG)下の L3Out サブネットの「Aggregate Export」スコープ を持つ「Export Route Control Subnet」
- 「default-export」という名前のルートマップに割り当てられた明示的なプレフィックスリスト(Match Prefix ルール)

L3Out サブネット下の「Export Route Control Subnet」スコープで使用すると、ルートマップは ダイナミックルーティングプロトコルから学習したルートのみに一致します。BDサブネット または直接接続されたネットワークには一致しません。

明示的なルートマップ設定で使用すると、ルートマップはBD サブネットや直接接続ネット ワークを含むすべてのルートに一致します。

上記の2つの状況で予想される動作と予期しない(一貫性のない)動作を理解するには、次の 例を検討してください。

シナリオ1

最初のシナリオでは、次のような設定ポストを使用して、ルートマップ(名前は rpm with catch all)を設定します。

<l3extOut annotation="" descr="" dn="uni/tn-t9/out-L3-out" enforceRtctrl="export" name="L3-out" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified"> <rtctrlProfile annotation="" descr="" name="rpm_with_catch_all" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" type="combinable"> <rtctrlCtxP action="permit" annotation="" descr="" name="catch_all" nameAlias=""</pre>

```
order="0">
```

<rtctrlScope annotation="" descr="" name="" nameAlias="">

<rtctrlRsScopeToAttrP annotation="" tnRtctrlAttrPName="set metric type"/> </rtctrlScope> </rtctrlCtxP> </rtctrlProfile> <ospfExtP annotation="" areaCost="1" areaCtrl="redistribute,summary" areaId="backbone"</pre> areaType="regular" descr="" multipodInternal="no" nameAlias=""/> <l3extRsEctx annotation="" tnFvCtxName="ctx0"/> sextLNodeP annotation="" configIssues="" descr="" name="leaf" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green" targetDscp="unspecified"> <l3extRsNodeL3OutAtt annotation="" configIssues="" rtrId="20.2.0.2" rtrIdLoopBack="no" tDn="topology/pod-1/node-104"> <l3extLoopBackIfP addr="14.1.1.1/32" annotation="" descr="" name="" nameAlias=""/> <l3extInfraNodeP annotation="" descr="" fabricExtCtrlPeering="no" fabricExtIntersiteCtrlPeering="no" name="" nameAlias="" spineRole=""/> </l3extRsNodeL3OutAtt> <l3extLIfP annotation="" descr="" name="interface" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green"> <ospfIfP annotation="" authKeyId="1" authType="none" descr="" name=""</pre> nameAlias=""> <ospfRsIfPol annotation="" tnOspfIfPolName=""/> </ospfIfP> <l3extRsPathL3OutAtt addr="36.1.1.1/24" annotation="" autostate="disabled" descr="" encap="vlan-3063" encapScope="local" ifInstT="ext-svi" ipv6Dad="enabled" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit" tDn="topology/pod-1/paths-104/pathep-[accBndlGrp 104 pc13]" targetDscp="unspecified"/> <l3extRsNdIfPol annotation="" tnNdIfPolName=""/> <l3extRsIngressQosDppPol annotation="" tnQosDppPolName=""/> <l3extRsEgressQosDppPol annotation="" tnQosDppPolName=""/> </l3extLTfP> </l3extLNodeP> <l3extInstP annotation="" descr="" exceptionTag="" floodOnEncap="disabled" matchT="AtleastOne" name="epg" nameAlias="" prefGrMemb="exclude" prio="unspecified" targetDscp="unspecified"> tnRtctrlProfileName="rpm_with_catch_all"/> <l3extSubnet aggregate="" annotation="" descr="" ip="0.0.0.0/0" name="" nameAlias="" scope="import-security"/> <fvRsCustQosPol annotation="" tnQosCustomPolName=""/> </l3extInstP> </l3extOut> <rtctrlAttrP annotation="" descr="" dn="uni/tn-t9/attr-set metric type"</pre> name="set metric type" nameAlias=""> <rtctrlSetRtMetricType annotation="" descr="" metricType="ospf-type1" name=""</pre> nameAlias="" type="metric-type"/> </rtctrlAttrP> <rtctrlSubjP annotation="" descr="" dn="uni/tn-t9/subj-catch_all_ip" name="catch_all_ip" nameAlias=""> <rtctrlMatchRtDest aggregate="yes" annotation="" descr="" ip="0.0.0.0/0" name=""</pre> nameAlias=""/> </rtctrlSubjP>

このルートマップでは、0.0.0.0/0 で予想されることは、すべてのルートが metric Type = "ospf-type1" プロパティを使用することですが、OSPF ルートに対してのみです。

さらに、ブリッジドメイン(たとえば、209.165.201.0/27)の下に、スタティックルートのパー ベイシブサブネット(fvSubnet)を持つルートマップを使用して、ブリッジドメインとL3Out の関係を設定したサブネットがあります。ただし、上記のルートマップは結合可能ですが、上 記のルートマップで 0.0.0.0/0 を、スタティック ルートではなく、中継ルートにのみ適用する ため、ブリッジ ドメインで設定されたサブネットには適用されません。

次に、show route-map および show ip prefix-list コマンドの出力を示します。

exp-ctx-st-2555939は、ブリッジドメインで設定されたサブネットの発信ルート マップ の名前、および、show route-map コマンドの出力に示されているプレフィックスリストの名前 です。

```
leaf4# show route-map exp-ctx-st-2555939
route-map exp-ctx-st-2555939, deny, sequence 1
Match clauses:
    tag: 4294967295
Set clauses:
route-map exp-ctx-st-2555939, permit, sequence 15801
Match clauses:
    ip address prefix-lists: IPv4-st16391-2555939-exc-int-inferred-export-dst
    ipv6 address prefix-lists: IPv6-deny-all
Set clauses:
```

leaf4# show ip prefix-list IPv4-st16391-2555939-exc-int-inferred-export-dst ip prefix-list IPv4-st16391-2555939-exc-int-inferred-export-dst: 1 entries seq 1 permit 209.165.201.0/27

leaf4#

この場合、ブリッジドメインサブネットが外に出ると、rpm_with_catch_allルートマップポリシーが適用されないため、すべてが予期したとおりに動作します。

シナリオ2

2番目のシナリオでは、エクスポートルート制御用の「default-export」ルートマップを設定します。この場合、次のような設定ポストを使用して、明示的なプレフィックスリスト (Match Prefix ルール)が「default-export」ルートマップに割り当てられます。次のとおりです。

```
<l3extOut annotation="" descr="" dn="uni/tn-t9/out-L3-out" enforceRtctrl="export"
name="L3-out" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified">
   <rtctrlProfile annotation="" descr="" name="default-export" nameAlias="" ownerKey=""</pre>
 ownerTag="" type="combinable">
       <rtctrlCtxP action="permit" annotation="" descr="" name="set-rule" nameAlias=""</pre>
 order="0">
           <rtctrlScope annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
             <rtctrlRsScopeToAttrP annotation="" tnRtctrlAttrPName="set_metric_type"/>
           </rtctrlScope>
       </rtctrlCtxP>
   </rtctrlProfile>
   <ospfExtP annotation="" areaCost="1" areaCtrl="redistribute,summary" areaId="backbone"</pre>
 areaType="regular" descr="" multipodInternal="no" nameAlias=""/>
   <l3extRsEctx annotation="" tnFvCtxName="ctx0"/>
   ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green" targetDscp="unspecified">
       <l3extRsNodeL3OutAtt annotation="" configIssues="" rtrId="20.2.0.2"
rtrIdLoopBack="no" tDn="topology/pod-1/node-104">
           <l3extLoopBackIfP addr="14.1.1.1/32" annotation="" descr="" name=""</pre>
nameAlias=""/>
           <l3extInfraNodeP annotation="" descr="" fabricExtCtrlPeering="no"
fabricExtIntersiteCtrlPeering="no" name="" nameAlias="" spineRole=""/>
```

```
</l3extRsNodeL3OutAtt>
      ownerTag="" tag="yellow-green">
          <ospfIfP annotation="" authKeyId="1" authType="none" descr="" name=""</pre>
nameAlias="">
              <ospfRsIfPol annotation="" tnOspfIfPolName=""/>
          </ospfIfP>
          <l3extRsPathL3OutAtt addr="36.1.1.1/24" annotation="" autostate="disabled"
descr="" encap="vlan-3063" encapScope="local" ifInstT="ext-svi" ipv6Dad="enabled"
llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit"
tDn="topology/pod-1/paths-104/pathep-[accBndlGrp 104 pc13]" targetDscp="unspecified"/>
          <l3extRsNdIfPol annotation="" tnNdIfPolName=""/>
          <l3extRsIngressQosDppPol annotation="" tnQosDppPolName=""/>
          <l3extRsEgressQosDppPol annotation="" tnQosDppPolName=""/>
      </l3extLIfP>
   </l3extLNodeP>
   annotation="" descr="" exceptionTag="" floodOnEncap="disabled"
matchT="AtleastOne" name="epg" nameAlias="" prefGrMemb="exclude" prio="unspecified"
targetDscp="unspecified">
       nameAlias="" scope="import-security"/>
      <fvRsCustQosPol annotation="" tnQosCustomPolName=""/>
   </l3extInstP>
```

</l3extOut>

この default-export ルート マップには、rpm_with_catch_all ルート マップと同様の 情報があり、IPが0.0.0.0/0 (ip=0.0.0.0/0) に設定されており、default-export ルートマッ プの設定ルールが Set Metric Type (tnRtctrlAttrPName=set metric type) でのみ設定されます。

前の例の状況と同様にブリッジドメインの下に同じサブネットを設定し、前の例と同様にブリッジドメインとL3Outの関係を設定します。

ただし、このシナリオでは、show route-map コマンドと show ip prefix-list コマンドの出力 を次に示します。

```
leaf4# show route-map exp-ctx-st-2555939
route-map exp-ctx-st-2555939, deny, sequence 1
  Match clauses:
    tag: 4294967295
  Set clauses:
route-map exp-ctx-st-2555939, permit, sequence 8201
  Match clauses:
   ip address prefix-lists:
IPv4-st16391-2555939-exc-int-out-default-export2set-rule0pfx-only-dst
    ipv6 address prefix-lists: IPv6-deny-all
  Set clauses:
   metric-type type-1
leaf4# show ip prefix-list IPv4-st16391-2555939-exc-int-inferred-export-dst
% Policy IPv4-st16391-2555939-exc-int-inferred-export-dst not found
ifav82-leaf4# show ip prefix-list
IPv4-st16391-2555939-exc-int-out-default-export2set-rule0pfx-only-dst
ip prefix-list IPv4-st16391-2555939-exc-int-out-default-export2set-rule0pfx-only-dst: 1
 entries
   seq 1 permit 209.165.201.0/27
```

leaf4#

この状況では、ブリッジドメインサブネットが発信されると、default-exportルートマッ プポリシーが適用されます。この状況では、そのルートマップはBDサブネットと直接接続 ネットワークを含むすべてのルートに一致します。これは一貫性のない動作です。

注意事項と制約事項

- ・次の2つの方法のいずれかを選択し、ルートマップの設定を行う必要があります。両方の 方法を使用する場合は、二重エントリになり定義されていないルートマップになります。
 - レイヤ3アウトサイド関係にブリッジドメイン(BD)でルートを追加し、BDを設定します。
 - rtctrlSubjP マッチ プロファイルで、マッチ プレフィックスを構成します。
- 2.3(x) 以降、[deny-static] 暗黙エントリはエクスポート ルート マップから削除されています。ユーザ-は、静的ルートのエクスポートを制御するために必要な許可と拒否を暗黙で設定する必要があります。
- L3Oout ではピアごとの Route-map は OSPF および EIGRP でサポートされません。Route-map は、全体として L3Out にのみ適用できます。4.2(x) 以降、L3Out のピアごとのルートマッ プは BGP でサポートされます。

この問題の回避策を次に示します。

- ネイバーの反対側からアドバタイズされないようにプレフィックスをブロックします。
- プレフィックスを学習したくない既存 L3Out で route-map のプレフィックスをブロックし、プレフィックスを学習したい別のL3Out にネイバーを移動して、別の route-map を作成します。
- GUI と API コマンドの組み合わせを使用した route-map の作成はサポートされません。考 えられる解決策として、GUIを使用してデフォルトの route-map とは異なる route-map を作 成することはできますが、L3Out で GUI を通じて作成された route-map をピアごとに適用 することはできません。

GUI を使用した、明示的なプレフィックス リストでルート マップ/プ ロファイルの設定

始める前に

- テナントと VRF を設定する必要があります。
- ・リーフ スイッチで VRF をイネーブルにする必要があります。

手順

- **ステップ1** メニューバーで [テナント (Tenant)]をクリックし、[ナビゲーション (Navigation)]ペイン で[Tenant_name] [ポリシー (Policies)][プロトコル (Protocol)][一致ルール (Match Rules)] を展開します。 > > >
- ステップ2 [一致ルール (Match Rules)]を右クリックし、[ルート マップの一致ルールの作成 (Create Match Rule for a Route Map)]をクリックします。
- **ステップ3** [一致ルールの作成(Create Match Rule)] ウィンドウで、ルールの名前を入力し、必要なコ ミュニティ条件を選択します。
- **ステップ4** 一致プレフィックスに必要な情報を入力します。

```
一致プレフィックスの情報を入力する方法は、APIC のリリースによって異なります。
```

- APIC リリース 4.2(3) 以前では、[一致ルールの作成(Create Match Rule)] ウィンドウで、
 [一致プレフィックス(Match Prefix)] を展開し、次のアクションを実行します:
- 1. IP フィールドで、明示的プレフィックス リストを入力します。

明示的プレフィックスは、BDサブネットまたは外部ネットワークを表記できます。

- 2. (任意) [説明 (Description)] フィールドに、このポリシーの説明を入力します。
- 3. Aggregate チェック ボックスは、集約プレフィックスが必要な場合にのみオンにします。
- **4.** [更新(Update)]をクリックします。
- APIC リリース 4.2(3) 以降では、[一致ルールの作成(Create Match Rule)] ウィンドウで、 [一致プレフィックス(Match Prefix)] 領域の[+] をクリックします。

[一致ルート宛先ルールの作成 (Create Match Route Destination Rule)]ウィンドウが表示されます。このウィンドウで次のアクションを実行します。

1. IP フィールドで、明示的プレフィックス リストを入力します。

明示的プレフィックスは、BD サブネットまたは外部ネットワークを表記できます。

- 2. (任意) [説明(Description)] フィールドに、このポリシーの説明を入力します。
- 3. 集約プレフィックスが必要かどうかを決定します。
 - ・集約プレフィックスが不要な場合は、[集約(Aggregate)]をオフのままにし、[送信(Submit)]をクリックしてに進みます。ステップ5(380ページ)
 - 集約プレフィックスが必要な場合に[集約(Aggregate)] チェックボックスをオンにします。

[以上マスク(Greater Equal Mask)]フィールドと[以下マスク(Less Equal Mask)]フィールドが使用可能になります。

1. [以上マスク (Greater Equal Mask)] フィールドで、一致させるプレフィッ クス長を指定します。 有効な範囲は0~128です。値0は未指定と見なされます。

2. [以下マスク (Less Equal Mask)]フィールドで、一致させるプレフィックス 長を指定します。

有効な範囲は0~128です。値0は未指定と見なされます。

APIC リリース 4.2(3) 以降の [以上マスク(Greater Equal Mask)] および [以下マ スク(Less Equal Mask)] フィールドの詳細については、一致プレフィックスの 機能拡張 (371 ページ) を参照してください。

- **4.** [一致ルート宛先ルールの作成(Create Match Route Destination Rule)]ウィンドウで[送 信(Submit)]をクリックします。
- ステップ5 [一致ルールの作成(Create Match Rule)]ウィンドウで、[送信(Submit)]をクリックします。
 一致ルールは、1つ以上の一致宛先ルールと、1つ以上の一致コミュニティ条件を持つことができます。一致の種類ではANDフィルタがサポートされています。これを利用すると、受け入れられるためには、一致ルール内のすべて条件がルート一致ルールと一致することが必要になります。Match Destination Rules に複数の一致プレフィックスがある場合には、ORフィルタがサポートされます。これを利用すると、任意の一致プレフィックスがルートタイプとして受け入れられます。
- **ステップ6** [L3outs]の下で、利用可能なデフォルトレイヤ3Outをクリックして選択します。 別のレイヤ3Outが必要な場合には、代わりにそれを選択することができます。
- **ステップ7** [ルート制御のインポートおよびエクスポートのルート マップ (Route Map for import and export rout control)]を右クリックし、[ルート制御のインポートおよびエクスポートのルート マップ の作成 (Create Route Map for import and export rout control)]をクリックします。
- ステップ8 ルート制御のインポートおよびエクスポートのルート マップの作成(Create Route Map for import and export rout control) ダイアログボックスで、デフォルトのルート マップを使用するか、使用するルート マップの名前を入力します。

この例では、default_export ルート マップを使用します。

ステップ9 Type フィールドで、Match Routing Policy Only を選択します。

一致ルーティングポリシーは、グローバルな RPC 一致宛先ルートです。このフィールドで使用できる他のオプションとしては、一致プレフィックスおよびルーティングポリシーで、RPC ルーティングポリシーの宛先ルートと組み合わせることができます。

- **ステップ10** [コンテキスト (Contexts)]領域で、+アイコンを展開して[ルート制御コンテキストの作成 (Create Route Control Context)]ダイアログボックスを表示します。
- ステップ11 ルート制御のコンテキストの名前を入力し、各フィールドで必要なオプションを選択します。 一致ルールで定義されている基準に一致するルートを拒否するには(次の手順で選択します)、 アクション[拒否(deny)]を選択します。デフォルトのアクションは permit です。
- ステップ12 Match Rule フィールドで、前に作成したルールを選択します。

ステップ13 Set Rule フィールドで、Create Set Rules for a Route Map を選択します。

通常は、ルートマップ/プロファイルで一致させることにより、プレフィックスリストに入出 力を許可しますが、それに加えて何らかの属性をこれらのルートに設定し、その属性を持つ ルートをさらに一致させることもできます。

- ステップ14 Create Set Rules for a Route Map ダイアログボックスで、アクション ルールの名前を入力し、 必要なチェック ボックスをオンにします。[完了(Finish)]をクリックします。
- ステップ15 Create Route Control Context ダイアログボックスで、OK をクリックします。[インポートおよびエクスポート ルート制御向けのルート マップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスで、[送信(Submit)]をクリックします。

これで、ルートマップ/プロファイルの作成は完了です。ルートマップは、一致アクション ルールと設定アクションルールの組み合わせです。ルートマップは、ユーザの必要に応じて、 エクスポートプロファイルまたはインポートプロファイルまたは再配布可能プロファイルに 関連付けられます。ルートマップのプロトコルを有効にすることができます。

ルート制御プロトコル

インポート制御とエクスポート制御を使用するルーティング制御プロ トコルの設定について

このトピックでは、インポート制御とエクスポート制御を使用するルーティング制御プロトコ ルを設定する方法の典型的な例を示します。これは、外部 BGP を使用したネットワーク接続 のレイヤ3が設定されていると仮定します。OSPF で設定されたネットワークの外部レイヤ3 の次のタスクを実行することもできます。

GUIを使用した、インポート制御とエクスポート制御を使用するルート制御プロトコルの設定

この例では、ネットワーク接続 BGP を使用して外部レイヤ3が設定されていることを前提と しています。OSPF を使用するように設定されたネットワークに対してもこれらのタスクを実 行することができます。

このタスクでは、インポートポリシーとエクスポートポリシーの作成手順を示します。デフォ ルトでは、インポート制御は適用されていないため、インポート制御を手動で割り当てる必要 があります。

始める前に

テナント、プライベートネットワーク、およびブリッジドメインが作成されていること。

・テナントネットワークのレイヤ3 Outside が作成されていること。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[テナント(TENANTS)]>[*Tenant_name*]>[ネットワーキング (Networking)]>[L3Out]>[*Layer3_Outside_name*]の順にクリックします。
- ステップ2 [Layer3_Outside_name] を右クリックして、[ルート制御のインポートおよびエクスポート向け ルート マップの作成(Create Route map for import and export route control)] をクリックしま す。
- ステップ3 [ルート制御のインポートおよびエクスポート向けルート マップの作成 (Create Route map for import and export route control)] ダイアログ ボックスで、次のアクションを実行します。
 - a) [Name] フィールドのドロップダウン リストから、適切なルート プロファイルを選択します。
 選択内容に応じて、特定の Outside でアドバタイズされている内容が自動的に使用されます。
 - b) Type フィールドで、Match Prefix AND Routing Policy を選択します。
 - c) [コンテキスト (Contexts)]領域で、[+]をクリックして[ルート制御コンテキストの作成 (Create Route Control Context)]ウィンドウを表示します。
- ステップ4 [Create Route Control Context] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) [Order] フィールドで、目的の順序の番号を選択します。
 - b) [Name] フィールドに、ルート制御プライベート ネットワークの名前を入力します。
 - c) Match Rule フィールドのドロップダウンリストで、Create Match Rule For a Route Map を クリックします。
 - d) Create Match Rule ダイアログボックスの Name フィールドに、一致ルールの名前を入力し ます。[Submit] をクリックします。`

必要に応じて、正規表現による一致コミュニティ条件および一致コミュニティ条件を指定 します。一致コミュニティファクタでは、名前、コミュニティ、およびスコープを指定す る必要があります。

- e) [セット ルール (Set Rule)] ドロップダウン リストから、[ルート マップのセット ルール の作成 (Create Set Rules For a Route Map)] を選択します。
- f) Create Set Rules For a Route Map ダイアログボックスの Name フィールドに、ルールの名 前を入力します。
- g) 設定するルールのチェックボックスをオンにし、選択肢として表示されている適切な値を 選択します。[完了(Finish)]をクリックします。
 ポリシーが作成され、アクション ルールに関連付けられました。
- h) [*ル*ート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)]ダイアログボックスで、 [OK] をクリックします。
- i) [インポートおよびエクスポートルート制御向けのルートマップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスで、[送信(Submit)]をクリッ クします。

- ステップ5 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ルート プロファイル (Route Profile)]> [route_profile_name]>[route_control_private_network_name]の順に選択します。 [Work]ペインの [Properties] に、ルートプロファイル ポリシーと関連アクションルール名が表示されます。
- **ステップ6** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[Layer3_Outside_name]をクリックし、[ポリシー/メ イン (Policy/Main)]タブをクリックします。 Work ウィンドウに、Properties が表示されます。
- ステップ7 (任意) [ルート制御の強化(Route Control Enforcement)] フィールドのとなりの [インポート(Import)] チェック ボックスをオンにして、インポート ポリシーを有効にします。

インポート制御ポリシーはデフォルトで有効になっていませんが、ユーザが有効にすることが できます。インポート制御ポリシーは BGP と OSPF でサポートされていますが、EIGRP では サポートされていません。ユーザがサポートされていないプロトコルのインポート制御ポリ シーを有効にしても、自動的に無視されます。エクスポート制御ポリシーは、BGP、EIGRP、 および OSPF でサポートされます。

- (注) BGPがOSPF上で確立されると、インポート制御ポリシーはBGPにのみ適用され、 OSPFは無視されます。
- ステップ8 カスタマイズされたエクスポート ポリシーを作成するには、[ルート制御のインポートおよび エクスポートのルート マップ(Route Map for import and export rout control)]を右クリック し、[ルート制御のインポートおよびエクスポートのルート マップの作成(Create Route Map for import and export rout control)]をクリックし、次のアクションを実行します。
 - a) [ルート制御のインポートおよびエクスポート向けルート マップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスで、[名前(Name)] フィールドのドロップダウンリストから、エクスポートポリシーを選択するか、名前を 入力します。
 - b) [コンテキスト (Contexts)]領域で、[+]をクリックして[ルート制御コンテキストの作成 (Create Route Control Context)]ウィンドウを表示します。
 - c) [Create Route Control Context] ダイアログボックスの [Order] フィールドで、値を選択します。
 - d) [Name] フィールドに、ルート制御プライベート ネットワークの名前を入力します。
 - e) (任意) Match Rule フィールドのドロップダウンリストから Create Match Rule For a Route Map を選択し、必要に応じて一致ルールポリシーを作成して、アタッチします。
 - f) [セットルール (Set Rule)] フィールドのドロップダウン リストから、[ルート マップのセットルールの作成 (Create Set Rules For a Route Map)]を選択して、[OK] をクリックします。

または、必要に応じて既存の set アクションを選択し、OK をクリックします。

- g) Create Set Rules For A Route Map ダイアログボックスの Name フィールドに名前を入力 します。
- h) 設定するルールのチェックボックスをオンにし、選択肢として表示されている適切な値を選択します。[完了(Finish)]をクリックします。
 [Create Route Control Context] ダイアログボックスでは、ポリシーが作成されてアクションルールに関連付けられています。

- i) **OK** をクリックします。
- j) [インポートおよびエクスポート ルート制御向けのルート マップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログ ボックスで、[送信(Submit)]を クリックします。

[Work] ペインに、エクスポート ポリシーが表示されます。

- (注) エクスポートポリシーを有効にするには、最初に適用する必要があります。この例 では、このポリシーはネットワークのすべてのサブネットに適用されます。
- ステップ9 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで [L3Outs] > [*L3Out_name*] > [外部 EPG (External EPGs)] > [*externalEPG_name*] の順に展開して、次のアクションを実行します。
 - a) Route Control Profile を展開します。
 - b) Name フィールドのドロップダウン リストから、前に作成したポリシーを選択します。
 - c) [方向(Direction)] フィールドのドロップダウンリストから、[ルート エクスポート ポリ シー(Route Export Policy)]を選択します。[更新(Update)] をクリックします。

MP-BGP のインターリーク再配布

MP-BGP のインターリーク再配布の概要

このトピックでは、()を使用して()ファブリックでのインターリーク再配布を設定する方法について説明します。Cisco Application Centric InfrastructureACICisco Application Policy Infrastructure ControllerAPIC

Cisco ACI では、レイヤ3 Outside(L3Out)が展開されている境界リーフノードが、L3Outルートを BGP IPv4/IPv6 アドレス ファミリに再配布し、VRF 情報とともに MP-BGP VPNv4/VPNv6 アドレス ファミリに再配布して、L3Out ルートを配布します。境界リーフノードからスパインノードを介して他のリーフノードに移動します。Cisco ACI ファブリック内のインターリーク再配布は、BGP IPv4/IPv6 アドレス ファミリへの L3Out ルートのこの再配布を指します。デフォルトでは、BGP を介して学習されたルートを除き、ダイナミック ルーティング プロトコル、スタティック ルート、および L3Out インターフェイスの直接接続されたサブネットを介して学習されたルートなど、すべての L3Out ルートでインターリークが発生します。BGP を介して学習されたルートはすでに BGP IPv4/IPv6 テーブルにあり、インターリークなしでMP-BGP VPNv4/VPNv6 にエクスポートする準備ができています。

インターリーク再配布により、ユーザはルートマップを適用してL3Outルートを選択的にBGP に再配布し、他のリーフノードに表示されるルートを制御したり、BGPコミュニティ、プリ ファレンス、メトリックなどの一部の属性をルートに設定したりできます。。この再配布によ り、入力境界リーフノードによって設定された属性に基づいて、または他のリーフノードが ある境界リーフノードから別の境界リーフノードへのルートを優先できるように、別の境界 リーフノードで選択的中継ルーティングを実行できます。 以前のリリースでは、OSPFおよびEIGRPルートからのインターリーク再配布にルートマップ を適用できました。

Cisco APIC 4.2(1) リリース以降では、スタティック ルートからのインターリーク再配布への ルートマップの適用がサポートされています。

Cisco APIC 5.1(4) リリース以降、直接サブネット(L3Out インターフェイス)からのインター リーク再配布へのルートマップの適用がサポートされています。この機能は、当初Cisco APIC 4.2(6h) リリースで追加されましたが、5.1(4) リリースまではいずれの 5.x リリースでも使用で きませんでした。

Cisco APIC 5.1(4) リリース以降では、スタティック ルートおよび直接サブネットのインター リーク再配布のために、ルートマップで拒否アクションを設定できます。この機能は、当初 Cisco APIC 4.2(6h) リリースで追加されましたが、5.1(4) リリースまではいずれの 5.x リリース でも使用できませんでした。

GUI を使用したインターリーク再配布のルート マップの設定

インターリーク再配布のルートマップは、[テナント(Tenant)][ポリシー(Policies)][プト ロコル(Protocol)][ルート制御のルートマップ(Route Maps for Route Control)]で作成でき ます。>>>

始める前に

テナントを作成します。

手順

- **ステップ1** メニューバーで、[テナント]をクリックします。
- ステップ2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- **ステップ3** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[tenant_name Policies][プロトコル (Protocol)][ルート制御のルートマップ (Route Maps for Route Control)]を展開します。>>>
- ステップ4 [ルート制御のルート マップ (Route Maps for Route Control)]を右クリックし、[ルート制御の ルートマップの作成 (Create Route Maps for Route Control)]をクリックします。[ルート制御の ルートマップの作成 (Create Route Maps for Route Control)]ダイアログボックスが表示されま す。
- **ステップ5** [名前(Name)] フィールドに、インターリーク(BGPへの再配布)を制御するルートマップ の名前を入力します。
- **ステップ6** [コンテキスト (Contexts)]領域で[+] サインをクリックして、[ルート制御コンテキスト作成 (Create Route Control Context)]ダイアログボックスを表示し、次のアクションを実行しま す。
 - a) 必要に応じて、[順序(Order)]と[名前(Name)]フィールドに入力します。
 - b) [アクション(Action)]フィールドで[許可(Permit)]を選択します。

- c) [一致ルール(Match Rule)]フィールドで、目的の一致ルールを選択するか、新しい一致 ルールを作成します。
- d) [セットルール (Set Rule)]フィールドで、目的のセットルールを選択するか、新しいセットルールを作成します。
- e) [**OK**]をクリックします。

作成する必要があるルート制御コンテキストごとに、この手順を繰り返します。

ステップ7 [ルート マップの作成(Create Route Map)]ダイアログ ボックスで、[送信(Submit)]をク リックします。

GUI を使用したインターリーク再配布のルート マップの適用

特定のL3Outからのインターリーク再配布をカスタマイズするルートマップは、L3Outを介し て適用する必要があります。

始める前に

テナント、VRF、および L3Out を作成します。

手順

- **ステップ1** メニューバーで、[テナント]をクリックします。
- ステップ2 [Work] ペインで、テナントの名前をダブルクリックします。
- ステップ3 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[*tenant_name*]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs]>[*L3Out_name*]の順に展開します。
- ステップ4 [ポリシーメイン (Policy Main)] タブをクリックして、このL3Outの[プロパティ (Properties)] ウィンドウにアクセスします。 >
- ステップ5 OSPF または EIGRP ルートの場合は、次の操作を実行します。
 - a) [**インターリークのルートプロファイル**(Route Profile for Interleak)]フィールドで、ルー トマップ/プロファイルを選択するか作成します。
 - b) [ワーク(Work)]ペインで、[送信(Submit)]をクリックし、[変更の送信(Submit Changes)]をクリックします。
- ステップ6 スタティックルートの場合は、次の操作を実行します。
 - a) [再配布のルートプロファイル (Route Profile for Redistribution)]フィールドで、[+]アイコ ンをクリックします。
 - b) [送信元 (Source)]フィールドで、インターリーク再配布の送信元としてスタティックルートのスタティックを選択します。
 - c) [更新(Update)]をクリックします。



ルーティングとサブネット範囲

この章は、次の内容で構成されています。

- L3Out EPG スコープと制御パラメータ (387 ページ)
- セキュリティインポートポリシー (388 ページ)

L3Out EPG スコープと制御パラメータ

サブネットの範囲と集約コントロール

次のセクションでは、サブネットを作成するときに利用できるいくつかの範囲と集約に関する オプションについて説明します:

Export Route Control Subnet: コントロールは、ファブリック外の特定の中継ルートをアドバタイズします。これは中継ルートにのみ影響するもので、内部ルートやブリッジドメインで設定されるデフォルトのゲートウェイには影響しません。

インポートルートコントロールサブネット:このコントロールは、インポートルート制御の 強制が設定されている場合、ルートをBorder Gateway Protocol (BGP) と Open Shortest Path First (OSPF) でファブリックにアドバタイズすることを可能にします。

External Subnets for the External EPG (セキュリティインポート サブネットとも呼ばれる): この オプションは、ルーティング情報のファブリックへの出入りはコントロールしません。トラ フィックがある外部 EPG から別の外部 EPG に、または内部 EPG に流れるようにするには、サ ブネットにはこのコントロールでマークを付ける必要があります。このコントロールを使用し てサブネットにマークしなかった場合には、ある EPG から学習したルートが他の外部 EPG に もアドバタイズされますが、パケットはファブリックでドロップされます。パケットがドロッ プされるのは、APIC が許可済みリスト モデルで動作するからです。そのデフォルトの動作 は、契約で明示的に許可されていない限り、EPG 間の全データプレーントラフィックをドロッ プするというものです。この許可済みリスト モデルは外部 EPG とアプリケーション EPG に適 用されます。このオプションが設定されているセキュリティポリシーを使用する場合には、契 約とセキュリティ プレフィックスを設定する必要があります。 Shared Route Control Subnet: VRF 間のリーキングの共有 L3Outs から学習されたサブネットは、 他のVRFにアドバタイズされる前に、このコントロールでマークされる必要があります。APIC リリース 2.2(2e) 以降では、異なる VRF の共有 L3Outs は契約を使用して相互に通信できます。 異なる VRF の共有 L3Outs 間の通信の詳細については、『*Cisco APIC* レイヤ3ネットワーキン グ構成定ガイド』を参照してください。

Shared Security Import Subnet: このコントロールは、共有L3Out 学習ルートについては、[External Subnets for the External EPG] と同じです。トラフィックがある外部 EPG から別の外部 EPG に、または別の内部 EPG に流れるようにするには、サブネットにはこのコントロールでマークを付ける必要があります。このコントロールを使用してサブネットにマークしなかった場合には、ある EPG から学習したルートが他の外部 EPG にもアドバタイズされますが、パケットはファブリックでドロップされます。このオプションが設定されているセキュリティポリシーを使用する場合には、契約とセキュリティ プレフィックスを設定する必要があります。

Aggregate Export, Aggregate Import, and Aggregate Shared Routes: このオプションは、0.0.0.0/0 プレフィックスの前に32を追加します。現在、インポート/エクスポートルート制御サブネットに集約できるのは、0.0.0.0/0 プレフィクスのみです。0.0.0.0/0 プレフィックスを集約すると、制御プロファイルを0.0.0.0/0 ネットワークに適用することはできなくなります。

Aggregate Shared Route: このオプションは、共有ルート制御サブネットとしてマークされている任意のプレフィックスに使用できます。

Route Control Profile: ACI ファブリックは、ファブリックの内部と外部にアドバタイズされる ルート用に、ルートマップの set 句もサポートします。ルートマップの set ルールは、ルート 制御プロファイル ポリシーとアクション ルール プロファイルで設定されます。

セキュリティ インポート ポリシー

静的 L30ut EPG

本書で説明されているポリシーでは、ACIファブリックの内外へのルーティング情報の交換、 およびルートの制御とタグ付けに使用する方法を取り扱ってきました。ファブリックは許可リ ストモデルで動作します。そのデフォルトの動作は、契約によって明示的に許可されていない 限り、エンドポイント グループ間のすべてのデータプレーン トラフィックをドロップすると いうものです。この許可リストモデルは外部 EPG とテナント EPG に適用されます。

中継トラフィックの場合、テナントトラフィックとは、セキュリティポリシーの設定方法と 実装方法が少し異なります。

中継セキュリティ ポリシー

- •プレフィックスフィルタリングを使用します。
- ・リリース 2.0(1m) 以降では、Ethertype、プロトコル、L4 ポート、および TCP フラグ フィ ルタのサポートが利用できるようになりました。
- セキュリティインポートサブネット(プレフィックス)と外部 EPG で設定されたコント ラクトを使用して実装されます。

テナント EPG セキュリティ ポリシー

- プレフィックスフィルタリングは使用しないでください。
- Ethertype、プロトコル、L4 ポート、および TCP フラグ フィルタをサポートします。
- テナント $EPG \leftarrow \rightarrow EPG$ およびテナント $EPG \leftarrow \rightarrow$ 外部 EPG でサポートされます。

外部プレフィックス ベースの EPG 間に契約が存在しない場合、トラフィックはドロップされ ます。2つの外部 Epgの間のトラフィックを許可するには、契約とセキュリティプレフィック スを設定する必要があります。プレフィックスフィルタリングのみがサポートされるため、契 約ではデフォルト フィルタを使用できます。

外部 L3Out 接続契約

L3Out 接続が展開されているすべてのリーフノードでは、L3Out 接続のプレフィックスの結合 がプログラムされます。3つ以上のL3Out 接続が展開されている場合、集約ルール 0.0.0.0/0 を 使用すると、契約のない L3Out 接続間でもトラフィックのフローが許可されます。

L3Out インスタンス プロファイル (instP) で、プロバイダーとコンシューマの契約の関連づけ とセキュリティ インポート サブネットを設定します。

セキュリティインポート サブネットが設定されており、集約ルール、0.0.0.0/0 がサポートさ れている場合、セキュリティインポート サブネットは ACL タイプのルールに従います。セ キュリティインポート サブネットのルール 10.0.0.0/8 は、10.0.0~10.255.255.255 の範囲のす べてのアドレスに適合します。ルート制御サブネットで許可されているプレフィックスに対し て正確なプレフィックス照合を設定する必要はありません。

3 つ以上のL3Out 接続が同じ VRF 内に設定されている場合は、ルールの結合が問題となるため、セキュリティ インポート サブネットを設定するときに注意する必要があります。

同じ L3Out で入出力する中継トラフィック フローは、0.0.0.0/0 セキュリティ インポート サブ ネットを設定すると、ポリシーによってドロップされます。この動作は、ダイナミックまたは スタティックルーティングに当てはまります。この動作を防ぐためには、より詳細なサブネッ トを定義してください。

ダイナミック L30ut EPG 分類

Cisco APIC 5.2(4) リリースより前は、外部サブネットは外部 EPG の下で構成されていたため、 外部サブネットの pcTag は外部 EPG の pcTag から派生していました。ルーティングが変更さ れると、外部サブネットは別の L3Out または外部 EPG から学習されました。 pcTag は、ルー ティングが変更されても変更されません。

Cisco APIC 5.2(4) リリース以降、動的 L3Out EPG 分類 (DEC) 機能が導入され、ルーティングの 変更に伴う pcTag の動的な変更が可能になりました。

この機能により、管理者はサブネットまたは BGP コミュニティを照合することにより、ルートマップを使用して外部 EPG を設定することもできます。外部 EPG 設定が設定されたルートマップは、デフォルトインポートを使用して L3Out に、またはルート制御プロファイルを使用して BGP ピアに適用できます。L3Out の外部 EPG および契約設定は以前と同じままです。

ルート マップに基づいて、特定の外部 EPG および関連する契約がプレフィックスに対して決 定されます。



 (注) ルートマップによる外部 EPG の選択は、L3Out で設定された外部 EPG サブネットよりも優先 されます。たとえば、ルートマップ構成が 10.1.1.0/24 を外部 EPG1 に関連付け、サブネット 10.1.1.0/24 が外部 EPG2 に構成されている場合、外部 EPG1 はルートマップによる外部 EPG 決定が優先されるため、10.1.1.0/24 のハードウェアでプログラムされます。

DECの注意事項と制限事項

- •この機能は、BGP と OSPF のみをサポートします。
- DEC は、L3Out デフォルト インポート ルート マップまたは BGP ピア インポート ルート マップでのみサポートされます。
- ・共有セキュリティを有効にするには、共有する共有セキュリティフラグとサブネットを使用して外部 EPG を構成します。
- DEC は次の機能をサポートしていません。
 - サイト間
 - ・浮動 L3Out との統合
 - •スタティックルーティング
 - EIGRP
 - セグメントルーティング
 - 午前
 - 浮動 L3Out を使用した BGP ネクストホップ伝達
 - ・Cisco ACI GOLF、SR-MPLS、およびフォールバックルートとの共存

GUI を使用したダイナミック L30ut EPG 分類の設定

この手順では、ダイナミック L3Out EPG 分類(DEC)を構成し、BGP を使用してレイヤー 3 外部ネットワーク接続を構成していることを前提としています。OSPF を使用して設定された L3Out に対してこれらのタスクを実行することもできます。

このタスクでは、インポートポリシーとエクスポートポリシーの作成手順を示します。デフォ ルトでは、インポート制御は適用されていないため、インポート制御を手動で割り当てる必要 があります。

始める前に

テナント、プライベートネットワーク、およびブリッジドメインが作成されていること。

・テナントネットワークのレイヤ3 Outside が作成されていること。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[すべてのテナント(ALL Tenants)]の順に選択し ます。
- ステップ2 [作業(Work)]ペインで、テナント名をダブルクリックします。
- ステップ3 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[*tenant_name*]>[ネットワーキング (Networking)]> [L3Outs] > [L3Out_name[の順に展開します。
- ステップ4 [Layer3_Outside_name] を右クリックして、[ルート制御のインポートおよびエクスポート向け ルート マップの作成(Create Route map for import and export route control)] をクリックしま す。
- ステップ5 [ルート制御のインポートおよびエクスポート向けルート マップの作成 (Create Route map for import and export route control)]ダイアログ ボックスで、次のアクションを実行します。
 - a) [名前 (Name)] フィールドから、[default-import] を選択します。 選択内容に応じて、特定の L3Out でアドバタイズされている内容が自動的に使用されま す。
 - b) Type フィールドで、Match Prefix AND Routing Policy を選択します。
 - c) [コンテキスト(Contexts)]領域で、[+]をクリックして[ルート制御コンテキストの作成 (Create Route Control Context)]ウィンドウを表示します。
- **ステップ6** [Create Route Control Context] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) [Order] フィールドで、目的の順序の番号を選択します。
 - b) [Name] フィールドに、ルート制御プライベート ネットワークの名前を入力します。
 - c) [関連する一致したルール(Associated Matched Rules)] テーブルで、[+] をクリックし ます。
 - d) [セット ルール (Set Rule)] ドロップダウン リストから、[ルート マップのセット ルー ルの作成 (Create Set Rules For a Route Map)]を選択します。
 - e) [ルートマップの一致ルールの作成(Create Match Rule for Route Map)]ダイアログボッ クスの[名前(Name)]フィールドに、一致ルールの名前を入力します。
 - f) 必要に応じて、正規表現による一致コミュニティ条件および一致コミュニティ条件を指 定します。

ー致コミュニティファクタでは、名前、コミュニティ、および範囲を指定する必要があ ります。

- g) [送信 (Submit)] をクリックします。
- h) [セットルール (Set Rule)] ドロップダウン リストから、[ルート マップのセット ルー ルの作成 (Create Set Rules For a Route Map)]を選択します。
- i) [ルートマップのセット ルールの作成(Create Set Rules For a Route Map)]ダイアログ ボックスの[名前(Name)]フィールドに、ルールの名前を入力します。

j) [外部 EPG の設定(Set External EPG)] チェックボックスをオンにして、[外部 EPG (External EPG)] ドロップダウンリストで EPG を選択して、[完了(Finish)] をクリッ クします。

ポリシーが作成され、アクション ルールに関連付けられました。

- k) [ルート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)] ダイアログボックス で、[OK] をクリックします。
- [インポートおよびエクスポート ルート制御向けのルート マップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスで、[送信(Submit)]を クリックします。
- **ステップ7** [作業(Work)]ペインで、[ポリシー(Policy)]>[メイン(Main)]タブを選択します。 Work ウィンドウに、Properties が表示されます。
- ステップ8 (任意) [ルート制御の強化 (Route Control Enforcement)] フィールドのとなりの [インポート (Import)] チェック ボックスをオンにして、インポート ポリシーを有効にして [送信 (Submit)] をクリックします。

インポート制御ポリシーはデフォルトで無効になっています。インポート制御ポリシーはBGP とOSPFでサポートされていますが、EIGRPではサポートされていません。ユーザーがサポー トされていないプロトコルのインポート制御ポリシーを有効にしても、プロトコルは自動的に 無視されます。エクスポート制御ポリシーは、BGP、EIGRP、および OSPF でサポートされま す。また、ネイバーインポート ルート マップごとに BGP を設定する場合は、インポート ポ リシーの[インポート (Import)] チェックボックスをオンにする必要はありません。

- (注) BGPがOSPF上で確立されると、インポート制御ポリシーはBGPにのみ適用され、 OSPFは無視されます。
- ステップ9 カスタマイズされたエクスポート ポリシーを作成するには、[ナビゲーション(Navigation)] ペインで、[ルート制御のインポートおよびエクスポートのルートマップ(Route Map for import and export rout control)]を右クリックし、[ルート制御のインポートおよびエクスポートの ルートマップの作成(Create Route Map for import and export rout control)]をクリックし、 次のアクションを実行します。
 - a) [ルート制御のインポートおよびエクスポート向けルートマップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスで、[名前(Name)]ドロップダ ウン リストから、エクスポート ポリシーを選択するか、名前を入力します。
 - b) [コンテキスト(Contexts)]領域で、[+]をクリックして[ルート制御コンテキストの作成 (Create Route Control Context)]ダイアログを開きます。
 - c) [ルート制御コンテキストの作成(Create Route Control Context)]ダイアログボックスの [注文(Order)]フィールドに、値を入力します。
 - d) [Name] フィールドに、ルート制御プライベート ネットワークの名前を入力します。
 - e) (任意) [関連する一致ルール (Associated Match Rules)]テーブルで、[+]をクリックし、
 [ルール名 (Route Name)]ドロップダウンリストから[ルートマップの一致ルールを作成
 (Create Match Rule For a Route Map)]を選択し、必要に応じてフィールドに入力して、
 [送信 (Submit)]をクリックします。
 - f) [セット ルール (Set Rule)] ドロップダウン リストから、[ルート マップのセット ルール の作成 (Create Set Rules For a Route Map)] を選択します。

または、既存のセットルールを選択できます。

- g) [ルートマップのセットルールの作成(Create Set Rules For a Route Map)]を選択した場合は、[ルートマップのセットルールの作成(Create Set Rules For A Route Map)]ダイアログボックスで、[名前(Name)]フィールドにセットルールの名前を入力し、設定するルールのチェックボックスをオンにして、次のように入力します。ルールに適切な値を入力し、[完了(Finish)]をクリックします。 [Create Route Control Context]ダイアログボックスでは、ポリシーが作成されてアクションルールに関連付けられています。
- h) **OK** をクリックします。
- i) [インポートおよびエクスポートルート制御向けのルートマップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスで、[送信(Submit)]をクリッ クします。

[Work] ペインに、エクスポート ポリシーが表示されます。

- (注) エクスポートポリシーを有効にするには、最初に適用する必要があります。この例 では、このポリシーはネットワークのすべてのサブネットに適用されます。
- ステップ10 [ナビゲーション(Navigation)]ペインで [tenant_name] > [ネットワーキング(Networking)] > [L3Outs] > [L3Out_name] > [外部 EPG(External EPGs)] > [external_EPG_name] の順に展開して、次のアクションを実行します。
 - a) ルート制御プロファイル テーブルで、+ をクリックします。
 - b) [名前 (Name)] フィールドのドロップダウン リストから、前に作成したポリシーを選択 します。
 - c) [方向(Direction)] フィールドのドロップダウン リストから、[ルート エクスポート ポリ シー(Route Export Policy)]を選択します。
 - d) Update をクリックします。
 - e) [送信 (Submit)]をクリックします。



トランジット ルーティング

この章は、次の内容で構成されています。

- ・中継 ACI ファブリックのルーティング (395 ページ)
- ・トランジットルーティングの使用例 (396ページ)
- サポートされるトランジットの組み合わせのマトリックス(402ページ)
- •トランジットルーティングの注意事項(404ページ)
- トランジットルーティングの設定(413ページ)

中継 ACI ファブリックのルーティング

Cisco APIC ソフトウェアは、OSPF (NSSA) および iBGP を使用した外部レイヤ3 接続をサポートします。ファブリックは、外部レイヤ3 アウトサイド (l3out) 接続の外部ルータにテナントブリッジドメインのサブネットをアドバタイズします。外部ルータから学習されたルートは、他の外部ルータにアドバタイズされません。ファブリックはスタブネットワークと同じように動作し、外部レイヤ3 ドメイン間のトラフィックの伝送に使用できます。

図 44: ファブリックでルーティング中継



中継のルーティングで1つのテナントとVRF内の複数のL3Out接続がサポートされているし、 APIC は別のL3Out 接続を1つのL3Out 接続から学習したルートをアドバタイズします。外部 レイヤ3ドメインは、境界リーフスイッチのファブリックとピアリングします。ファブリッ クはピア間の Multiprotocol-Border Gateway Protocol (MP-BGP) 中継ドメインです。

外部L3Out接続の設定は、テナントとVRFレベルで実行されます。外部ピアから学習したルートは、VRFごとに入力リーフの MP-BGP にインポートされます。L3Out 接続から学習したプレフィックスは、テナント VRF が存在するリーフ スイッチにのみエクスポートされます。

(注)

注意事項と中継ルーティングの設定のガイドラインは、次を参照してください。中継ルーティ ングのガイドライン (404ページ)

トランジット ルーティングの使用例

レイヤ3ドメイン間のトランジット ルーティング

外部ポッド、メインフレーム、サービス ノード、WAN ルータなどの複数のレイヤ3ドメイン がACIファブリックとピアリングして、それらの間のトランジット機能を提供することができ ます。



図 45: レイヤ 3 ドメイン間のトランジット ルーティング

ACI ファブリックで中継されるメインフレーム トラフィック

メインフレームは、論理パーティション(LPAR)および仮想 IP アドレッシング(VIPA)の 要件に対応する標準 IP ルーティング プロトコルを実行する IP サーバとして機能します。



図 46: メインフレームのトランジット接続

このトポロジにおいて、メインフレームは、ACIファブリックが WAN ルータを経由して外部 と接続するため、およびファブリック内の East-West トラフィックのための中継ドメインとな ることを必要とします。これらは、ホストルートをファブリックにプッシュして、ファブリッ ク内、および外部インターフェイスに再配布されるようにします。

サービス ノードのトランジット接続

サービス ノードは ACI ファブリックとピアリングし、外部 WAN インターフェイスに再配布 される仮想 IP (VIP) ルートをアドバタイズすることができます。



図 47:サービスノードのトランジット接続

VIP は、特定のサイトやサービスの外部向けの IP アドレスです。VIP は、サービス ノードの 背後にある1つ以上のサーバまたはノードに関連付けられています。

中継ルーティング設定でのマルチポッド

マルチポッドトポロジでは、ファブリックは、外部接続と複数のポッド間の相互接続の中継と して機能します。クラウドプロバイダは、顧客データセンター内に管理対象のリソースポッ ドを展開できます。責任分界点は、ファブリックとのピアリングを行っている OSPF または BGP を伴う L3Out にすることができます。



図 48: 中継ルーティング設定における L30ut を伴う複数のポッド

このようなシナリオでは、ポリシーは責任分界点で管理され、ACIポリシーを設定する必要は ありません。

レイヤ4~レイヤ7ルートピアリングはファブリックを中継として使用する特殊な使用例であ り、ファブリックは複数ポッドに対する中継OSPFまたはBGPドメインの役目を果たします。 ルートピアリングは、接続されているリーフノードとルートを交換できるようにするため、 レイヤ4~レイヤ7サービスデバイス上でOSPFまたはBGPピアリングを有効にするように 設定します。ルートピアリングの一般的な使用例として、SLB VIPがOSPFおよびiBGPを介 してファブリック外のクライアントにアドバタイズされる、ルートヘルスインジェクション があります。このシナリオの詳細については、『L4-L7 Route Peering with Transit Fabric -Configuration Walkthrough』を参照してください。

中継ルーティング設定での GOLF

APIC、リリース2.0以降では、Cisco ACIは、GOLF L3Out での中継ルーティング(BGP と OSPF) をサポートしています。たとえば、次の図は、GOLF L3Out と境界リーフ L3Out を伴うファブ リックで中継されるトラフィックを示しています。



図 49: 中継ルーティング設定での GOLF L30ut と境界リーフ L30ut

サポートされるトランジットの組み合わせのマトリック ス

レイヤ 3 Outside		OSPF	iBGP		eBGP			EIGRP	EIGRP	スタ	
接続タイプ	OSPF 上 の iBGP		スタ ティッ ク ルー ト上 の iBGP	直接接 続上の iBGP	OSPF 上の eBGP	スタ ティッ ク ルー ト上 の eBGP	直接接 続上の eBGP	v4	v6	ティッ ク ルー ト	
OSPF		0	0*	はい	○* (APIC リリー ス 1.3 c でテス ト)	はい	はい	はい	はい	○* (APIC リ リー ス 1.2 gでテ スト)	はい
iBGP	OSPF 上の iBGP	•*	X	X	X	o* (APIC リリー ス 1.3 c でテス ト)	非対応	はい	はい	非対応	0
	スタ ティッ ク ルート 上の iBGP	はい	Х	Х	X	○* (APIC リリー ス1.2g でテス ト)	X	○* (APIC リリー ス 1.2 g でテス ト)	はい	非対応	0
	直接接 続上の iBGP	はい	Х	X	X	-	X	○* (APIC リリー ス 1.2 g でテス ト)	はい	非対応	0

レイヤ 3 Outside		OSPF	iBGP	iBGP		eBGP			EIGRP	EIGRP	スタ
接続タイ	、プ		OSPF 上 の iBGP	スタ ティッ ク ルー ト上 の iBGP	直接接 続上の iBGP	OSPF 上の eBGP	スタ ティッ ク ルー ト上 の eBGP	直接接 続上の eBGP	'v4	v6	ティッ ク ルー ト
eBGP	OSPF 上の eBGP	はい	 ○* (APIC リ リ コ ロ テ ス ト) 	o* (APIC リ リー ス 1.3 c でテ スト)	o* (APIC リリー ス 1.3 c でテス ト)	はい	o* (APIC リ リー ス 1.3 c でテ スト)	o* (APIC リリー ス 1.3 c でテス ト)	はい	非対応	o* (APIC リ リー ス 1.3 c でテ スト)
	スタ ティッ ク ルート 上の eBGP	はい	X	X	X	○* (APIC リリー ス 1.2 g でテス ト)	 ○ (APIC リ リー ス 3.0 でテ ス ト) 	o* (APIC リリー ス 1.2 g でテス ト)	はい	非対応	0
	直接接 続上の eBGP	はい	はい	はい	o* (APIC リリー ス 1.3 c でテス ト)	○* (APIC リリー ス 1.3 c でテス ト)	o* (APIC リ リー ス 1.3 c でテ スト)	はい	はい	非対応	0
EIGRPv4	1	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	。 (APIC リ リー ス 1.3 c でテ スト)	非対応	0

レイヤ 3 Outside	OSPF	iBGP		eBGP			EIGRP	EIGRP	スタ	
接続タイプ		OSPF 上 の iBGP	スタ ティッ ク ルー ト上 の iBGP	直接接 続上の iBGP	OSPF 上の eBGP	スタ ティッ ク ルー ト上 の eBGP	直接接 続上の eBGP	v4	v6	ティッ ク ルー ト
EIGRPv6	 ○ (APIC リ リー ス 1.2 g でテ ス ト) 	X	X	X	X	X	X	X	。 (APIC リ リー ス 1.3 c でテ スト)	。 (APIC リ リー ス 1.2 gでテ スト)
スタティック ルート	はい	はい	はい	はい	 ○ (APIC リリー ス 1.3 c でテス ト) 	はい	はい	はい	。 (APIC リ リー ス 1.2 gでテ スト)	0

接続=接続

*=同じリーフスイッチではサポートされません

•×=サポートされていないかテストされていない組み合わせ

トランジット ルーティングの注意事項

中継ルーティングのガイドライン

作成し、中継ルーティング接続を維持する場合は、次のガイドラインを使用します。

トピック	注意またはガイドライン
複数の VRF 間のトランジット ルーティング 時の ACI ファブリック iBGP への OSPF/EIGRP 再配布:ルート タグ	外部ルータを使用して複数の VRF 間のルーティングを行う中継ルー ティングシナリオでは、デフォルトルートタグ(4294967295)以外の エントリを使用して異なる VRF のポリシーを識別する場合に、1 つま たは複数の OSPF または EIGRP のテナント L3Out から取り消されたルー トが存在する時にルーティングがループするリスクがあります。
	これは想定されている動作です。EIGRP/OSPF が ACI ファブリックに ルートを再配布すると、境界リーフスイッチのデフォルトの iBGP ア ンチルーティング ループ メカニズムは、特定のデフォルト ルート タ グ 4294967295 を使用するか、または [VRF/ポリシー(VRF/Policy)] ページの [トランジットルートタグ ポリシー(Transit Route Tag Policy)] フィールドで割り当てられたものと同じタグを使用します。
	VRF ごとに異なる固有の中継ルート タグを設定すると、デフォルトの アンチルーティング ループ メカニズムは機能しません。この状況を回 避するには、すべての VRF で [トランジット ルート タグ ポリシー (Transit Route Tag Policy)]フィールドに同じ値を使用します。ルート マップとタグの使用に関する詳細については、「OSPF または EIGRP のバックツーバック設定」の行と、この表のルート制御プロファイル ポリシーに関するその他の情報を参照してください。
	 (注) ルートタグポリシーは、[ルートタグポリシーの作成 (Create Route Tag Policy)]ページで設定します。このペー ジには、[VRF/ポリシー(VRF/Policy)]ページの[トラン ジットルートタグポリシー(Transit Route Tag Policy)] フィールドからアクセスします。
	[テナント(Tenants)]>[<i>tenant_name</i>]>[ネットワーキング (Networking)]>[VRFs]>[VRF_name] の順にクリックし ます。

トピック	注意またはガイドライン
中継が1つのL3Outプロファイルを使用して ルーティング	前に APIC リリース 2.3(1f) では、ルーティングを通過、1 つの L3Out プ ロファイル内ではサポートされていませんでした。APIC2.3(1f) のリリー ス、および以降では、中継が単一 L3Out プロファイルで、次の制限で ルーティングを設定できます。
	 VRF が適用されるではない場合は、同じL3EPG を共有ルータ間の トラフィックを許可する 0.0.0.0/0 の外部のサブネット (l3extSubnet) を使用できます。
	 外部デフォルト サブネット (0.0.0.0/0) の場合は、VRF を適用する と、できません 同一のレイヤ 3 EPG 内のトラフィックの送信元 と宛先の両方のプレフィックスに一致するために使用します。同 一のレイヤ 3 EPG 内のすべてのトラフィックを一致するには、次 のプレフィックスがサポートされています。
	• IPv4
	• 外部 EPG の 0.0.0.0/1—with 外部サブネット
	• 外部 EPG の 128.0.0.0/1—with 外部サブネット
	•0.0.0.0/0—withインポートルート制御サブネット、集約の インポート
	• IPv6
	• 0::0/1: 外部 EPG の外部のサブネットを持つ
	• 8000::0/1: 外部 EPG の外部のサブネットを持つ
	• 0:0/0: インポート ルート制御のサブネットで集約のイン ポート
	 また、VzAny契約と組み合わせると、1つのデフォルトのサブネット (0.0.0.0/0)を使用できます。次に例を示します。
	 ・使用契約とレイヤ 3 EPG の提供 VzAny 消費契約 (一致する 0.0.0.0/0)、または、VzAny には、契約とレイヤ 3 EPG が提供 される契約 (0.0.0.0/0 に一致する) が使用された行数。
	 ・サブネット 0.0.0.0/0—with インポート/エクスポート ルート制 御サブネット、集約のインポートおよび集約エクスポートを 使用します。

トピック	注意またはガイドライン
ハードウェア サポートの違いを共有ルート:	第2世代のスイッチのVRF機能間で正常にルートが共有されます (N9K-93108TC-EXなど、スイッチモデル名の最後やその後に「EX」 や「FX」がつくCisco Nexus N9K)。第1世代のスイッチですが、ルー トを保存する物理的な3進コンテンツ対応メモリ(TCAM)にルートの 解析を完全にサポートするだけの容量がないため、この設定のパケッ トは失敗する可能性があります。
背面に戻る設定で EIGRP や OSPF	Cisco APIC では、中継が、L3Out に設定されているエクスポートルート制御ポリシーのルーティングをサポートします。ルート(プレフィックス)を通過するこれらのポリシー制御は、L3Out でルーティングプロトコルに再配送されます。これらの中継ルートは、EIGRP や OSPF に再配布されたが、これらはルーティングループを防ぐためにタグ付けされた4294967295です。Cisco ACI ファブリックは、OSPF または EIGRP L3Out で学習すると、このタグに一致するルートを受け入れません。ただし、次の場合、この動作をオーバーライドする必要があります。
	• EIGRP や OSPF を使用して、2 つの Cisco ACI ファブリックを接続 します。
	 EIGRP やOSPF を使用して、同じ Cisco ACI ファブリックで2つの 異なる Vrf を接続します。
	オーバーライドが必要な場合、APIC GUI の次の場所に別のタグ ポリ シーを使用してVRFを設定する必要があります。[テナント(Tenant)]> [<i>Tenant_name</i>] > [ポリシー(Policies)]> [プロトコル(Protocol)]> [ルート タグ(Route Tag)] 異なるタグを適用します。
	新しいルートタグポリシーを作成するだけでなく、APIC GUI の次の場 所でこのポリシーを使用する VRF を更新します。[テナント(Tenant)]> [Tenant_name] > [ネットワーキング(Networking)] > [VRFs] > [Tenant_VRF] VRF を作成したルート タグ ポリシーを適用します。
	 (注) 複数L3Outsまたは同じL3Outで複数のインターフェイスは 同じリーフスイッチに導入し、中継ルーティングに使用、 (、IGPに再配布されません)IGP内で、ルートをアドバタ イズします。この状況では、ルートタグポリシーは適用されません。

トピック	注意またはガイドライン	
BD サブネットをファブリック外にアドバタ イズする	インポートおよびエクスポートのルート制御ポリシーは、中継ルート (他の外部ピアから学習したルート)およびスタティックルートのみ に適用されます。テナント BD サブネット上に設定されているファブ リック内部のサブネットは、エクスポート ポリシー サブネットを使用 して外部にアドバタイズされません。IP プレフィックス リストおよび ルートマップを使用するとIPテナントサブネットは許可されますが、 これらは別の設定手順を使用して実装されます。テナントサブネット をファブリックの外部にアドバタイズする場合は、次の設定手順を参 照してください。	
	 [subnet properties] ウィンドウで、テナントサブネットのスコープを [Public Subnet] として設定します。 	
	2. オプション。[subnet properties] ウィンドウで、[Subnet Control] を [ND RA Prefix] として設定します。	
	3. テナントブリッジドメイン (BD) を外部レイヤ 3 Outside に関連 付けます (L3Out)。	
	4. テナントEPGと外部EPG間にコントラクト(プロバイダ/コンシューマ)の関連付けを作成します。	
	BD サブネットを Public 範囲に設定し、BD をレイヤ 3 Out に関連付けると、BD サブネット プレフィックスの境界リーフに IP プレフィックスおよびルート マップの連続エントリが作成されます。	
トピック	注意またはガイドライン	
------------------	--	--
デフォルト ルートのアドバタイズ	デフォルトルートのみを必要とするファブリックへの外部接続の場合、 OSPF、EIGRP、および BGP の L3Out 接続をデフォルト ルートの起点 とすることがサポートされます。外部ピアからデフォルト ルートが受 信されると、この文書で説明されている中継エクスポート ルート制御 に従って、このルートを別のピアに再配布できます。	
	デフォルトルートは、デフォルトルートリークポリシーを使用して アドバタイズすることもできます。このポリシーは、デフォルトルー トがルーティングテーブル内にあるか、または常にデフォルトルート をアドバタイズすることがサポートされている場合、デフォルトルー トのアドバタイズをサポートします。デフォルトルートリークポリ シーは、L3Out接続で設定されます。	
	デフォルトルートリークポリシーを作成するときは、以下のガイドラ インに従ってください:	
	•BGPの場合、Alwaysプロパティは適用されません。	
	 BGPの場合、Scope プロパティを設定するときには、Outside を選択します。 	
	 OSPFの場合、範囲の値が Context だとタイプ 5 LSA が作成されるのに対し、Outside だとタイプ 7 LSA が作成されます。選択したは、L3Out で設定されたエリアのタイプによって異なります。エリアタイプが場合 定期的な、範囲を設定します コンテキスト。エリアタイプが場合 NSSA、範囲を設定します 外部。 	
	 EIGRP で、Scope プロパティを選択する場合には、Context を選択 する必要があります。 	
MTU	Cisco ACI は、IP フラグメンテーションをサポートしていません。した がって、外部ルータへのレイヤ3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介した multipod 接続を設定する場合は、MTU が両側 で適切に設定されていることが重要です。ACI、Cisco NX-OS、Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定された MTU 値は IP ヘッ ダーを考慮に入れています (結果として、最大パケットサイズは、ACI で 9216 バイト、NX-OS および IOS で 9000 バイトに設定されます)。 ただし、IOS XR などの他のプラットフォームは、パケット ヘッダーの を除く MTU 値を設定します (結果として最大パケット サイズは 8986 バイトになります)。	
	各プラットフォームの適切なMTU値については、それぞれの設定ガイ ドを参照してください。	
	CLIベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1 などのコマンドを使用します。	

トランジット ルート制御

ルート トランジットは、インポートされるレイヤ3アウトサイド ネットワーク L3extOut プロ ファイル (13extInstP) を通してトラフィックをインポートするために定義されます。異なる ルート トランジットは、エクスポートされる別の 13extInstP を通してトラフィックをエクス ポートするために定義されます。

ファブリック内の1つまたは複数のノードに複数の13extout ポリシーを配置できるので、プロトコルのさまざまな組み合わせがサポートされます。プロトコルの組み合わせはすべて、複数の13extout ポリシーを使用して1つのノードに配置することも、または複数の13extout ポリシーを使用して複数のノードに配置することも可能です。同じファブリック内の異なる13extout ポリシーに3つ以上のプロトコルを配置することもできます。

エクスポートルートマップは、プレフィックスリストの一致から構成されます。各プレフィックス リストは、VRF 内のブリッジ ドメイン (BD) パブリック サブネット プレフィクスと、 外部にアドバタイズする必要のあるエクスポート プレフィクストから構成されます。

ルート制御ポリシーは、13extOut ポリシーで定義され、13extOut に関連付けられたプロパティ および関係によって制御されます。APIC は13extOut の enforceRtctrl プロパティを使用して、 ルート制御方向を適用します。デフォルトでは、エクスポートの制御を適用し、インポートの すべてを許可します。インポートおよびエクスポートされたルート(13extSubnets)は、 13extInstP で定義されます。すべてのルートのデフォルト スコープはインポートです。これ らは、プレフィックス ベースの EPG を形成するルートおよびプレフィックスです。

インポート ルート マップからのすべてのインポート ルートは、BGP および OSPF によってイ ンポートを制御するために使用されます。エクスポート ルート マップからのすべてのエクス ポート ルートは OSPF および BGP によってエクスポートを制御するために使用されます。

インポートとエクスポートのルート制御ポリシーは、異なるレベルで定義されます。IPv6では すべての IPv4 ポリシー レベルがサポートされます。13extInstP および 13extSubnet MO で定 義されている追加の関係でインポートを制御します。

デフォルトルートリークは、13extOutの下の13extDefaultRouteLeakP MOの定義によって有効になります。

OSPF のエリアごと、BGP のピアごとに 13extDefaultRouteLeakP は Virtual Routing and Forwarding (VRF) 範囲または L3extOut 範囲を有することができます。

次の設定ルールは、ルート制御を提供します。

- rtctrlSetPref
- rtctrlSetRtMetric
- rtctrlSetRtMetricType

rtctrlSetComm MO の追加構文には以下が含まれています。

- no-advertise
- no-export
- no-peer

BGP

ACIファブリックは、外部ルータとのBGPピアリングをサポートします。BGPピアは13extout ポリシーに関連付けられており、13extoutごとに複数のBGPピアを設定することができます。 BGPは、13extoutの下でbgpExtPMOを定義することにより13extoutレベルで有効化できま す。

_____ (注)

E) 13extOut ポリシーにルーティングプロトコル(たとえば、関連する VRF を含む BGP)が含まれる一方で、L3Out インターフェイスのプロファイルには必要な BGP インターフェイス設定の詳細が含まれます。いずれも BGP の有効化に必要です。

BGP ピアには、OSPF、EIGRP、接続されたインターフェイス、スタティックルート、または ループバック経由で到達できます。外部ルータとのピアリングには iBGP または eBGP を使用 できます。ファブリック内への外部ルートの配付には MP-BGP が使用されるため、外部ルータ からの BGP ルート属性は保持されます。BGP は 13extout に関連付けられた VRF に Ipv4 や IPv6 アドレス ファミリを有効にすることができます。スイッチ上で有効になるアドレス ファ ミリは、bgpPeerP ポリシーで 13extout のために定義した IP アドレス タイプによって決まりま す。ポリシーは省略可能です。定義しない場合はデフォルトが使用されます。ポリシーはテナ ントに対して定義され、名前で参照される VRF によって使用できます。

ピア ポリシーを少なくとも1つのピアを定義して、境界リーフ(BL)の各スイッチでプロト コルを有効にする必要があります。ピア ポリシーは2つの場所で定義できます。

- 13extRsPathL3OutAttの下:送信元インターフェイスとして物理インターフェイスが使用 されます。
- 13extLNodePの下:送信元インターフェイスとしてループバックインターフェイスが使用 されます。

OSPF

接続を有効にして冗長性を提供するために、さまざまなホストタイプが OSPF を必要としま す。これらには、たとえばファブリック内および WAN へのレイヤ 3 中継として ACI ファブ リックを使用するサービス ノード、外部ポッド、メインフレーム デバイスなどがあります。 このような外部デバイスは、OSPF を実行している非境界リーフスイッチを介してファブリッ クとピアリングします。デフォルトルートは受信し、全域ルーティングには参加しないよう、 OSPF エリアを NSSA(スタブ)エリアとして設定します。通常は、既存のルーティングの導 入によって設定の変更が回避されるため、スタブ エリアの設定は必須ではありません。

13extOut で ospfExtP 管理対象オブジェクトを設定して、OSPF を有効にします。BL スイッチ 上で設定されている OSPF IP アドレス ファミリ バージョンは、OSPF インターフェイス IP ア ドレスに設定されているアドレス ファミリによって決まります。



 (注) 13extOut ポリシーにルーティングプロトコル(たとえば、関連する VRF とエリア ID を含む OSPF)が含まれる一方で、レイヤ3外部インターフェイスのプロファイルには必要な OSPF インターフェイスの詳細が含まれます。いずれも OSPF のイネーブル化に必要です。 アドレスファミリごとに設定可能な fvRsCtxToOspfCtxPol 関係を使用して、VRF レベルでOSPF ポリシーを設定します。設定していない場合、デフォルトパラメータが使用されます。

要求されるエリア プロパティ Ipv6 を公開する ospfExtP 管理対象オブジェクトで OSPF を設定 します。

サブネットの範囲と集約コントロール

次のセクションでは、サブネットを作成するときに利用できるいくつかの範囲と集約に関する オプションについて説明します:

Export Route Control Subnet: コントロールは、ファブリック外の特定の中継ルートをアドバタイズします。これは中継ルートにのみ影響するもので、内部ルートやブリッジドメインで設定されるデフォルトのゲートウェイには影響しません。

インポートルートコントロールサブネット:このコントロールは、インポートルート制御の 強制が設定されている場合、ルートを Border Gateway Protocol (BGP) と Open Shortest Path First (OSPF) でファブリックにアドバタイズすることを可能にします。

External Subnets for the External EPG (セキュリティインポート サブネットとも呼ばれる): この オプションは、ルーティング情報のファブリックへの出入りはコントロールしません。トラ フィックがある外部 EPG から別の外部 EPG に、または内部 EPG に流れるようにするには、サ ブネットにはこのコントロールでマークを付ける必要があります。このコントロールを使用し てサブネットにマークしなかった場合には、ある EPG から学習したルートが他の外部 EPG に もアドバタイズされますが、パケットはファブリックでドロップされます。パケットがドロッ プされるのは、APIC が許可済みリスト モデルで動作するからです。そのデフォルトの動作 は、契約で明示的に許可されていない限り、EPG 間の全データプレーントラフィックをドロッ プするというものです。この許可済みリスト モデルは外部 EPG とアプリケーション EPG に適 用されます。このオプションが設定されているセキュリティポリシーを使用する場合には、契 約とセキュリティ プレフィックスを設定する必要があります。

Shared Route Control Subnet: VRF 間のリーキングの共有 L3Outs から学習されたサブネットは、 他のVRFにアドバタイズされる前に、このコントロールでマークされる必要があります。APIC リリース 2.2(2e) 以降では、異なる VRFの共有 L3Outs は契約を使用して相互に通信できます。 異なる VRF の共有 L3Outs 間の通信の詳細については、『*Cisco APIC* レイヤ 3 ネットワーキン グ構成定ガイド』を参照してください。

Shared Security Import Subnet: このコントロールは、共有L3Out 学習ルートについては、[External Subnets for the External EPG] と同じです。トラフィックがある外部 EPG から別の外部 EPG に、または別の内部 EPG に流れるようにするには、サブネットにはこのコントロールでマークを付ける必要があります。このコントロールを使用してサブネットにマークしなかった場合には、ある EPG から学習したルートが他の外部 EPG にもアドバタイズされますが、パケットはファブリックでドロップされます。このオプションが設定されているセキュリティポリシーを使用する場合には、契約とセキュリティ プレフィックスを設定する必要があります。

Aggregate Export, Aggregate Import, and Aggregate Shared Routes: このオプションは、0.0.0.0/0 プレフィックスの前に32を追加します。現在、インポート/エクスポートルート制御サブネットに集約できるのは、0.0.0.0/0 プレフィクスのみです。0.0.0.0/0 プレフィックスを集約すると、制御プロファイルを0.0.0.0/0 ネットワークに適用することはできなくなります。

Aggregate Shared Route: このオプションは、共有ルート制御サブネットとしてマークされている任意のプレフィックスに使用できます。

Route Control Profile: ACI ファブリックは、ファブリックの内部と外部にアドバタイズされる ルート用に、ルートマップの set 句もサポートします。ルートマップの set ルールは、ルート 制御プロファイル ポリシーとアクション ルール プロファイルで設定されます。

トランジット ルーティングの設定

トランジット ルーティングの概要

このトピックでは、CiscoAPICを使用する際のトランジットルーティングを設定する方法の一般的な例を説明します。

この章にある例では、次のトポロジを使用します。

図 50:



この章の例では、Cisco ACI ファブリックには APIC クラスタによって制御される 2 個のリーフスイッチと 2 個のスパインスイッチがあります。境界リーフスイッチ 101 と 102 には L3Out があり、2 t のルータに接続することでインターネットにも接続しています。この例の目標は、2 つの L3Out を通して、インターネット上の EP1 から EP2 へ、ファブリック内外をトラフィックが行き来できるようにすることです。

この例では、両方のL3Out に関連付けられているテナントは、t1と、VRF がつくv1です。

L3Out を設定する前に、ノード、ポート、機能プロファイル、AEP、レイヤ3ドメインを設定 します。BGP ルート リフレクタとして 104 と 105 スパイン スイッチを設定する必要がありま す。

トランジットルーティングの設定には、次のコンポーネントの定義が含まれます。

- 1. テナントおよび VRF
- 2. リーフ 101 と 102 上のノードおよびインターフェイス
- 3. 各 L3Out のプライマリ ルーティング プロトコル (境界リーフ スイッチと外部ルータ間の ルートの交換に使用。この例では BGP)
- **4.** 各 L3Out のルーティング プロトコルの接続性(プライマリ プロトコルへの到達可能性情報の提供。この例では、OSPF)
- 5. 2 個の外部 EPG
- 6. 1個のルートマップ
- 7. 少なくとも1つのフィルタと1つのコントラクト
- 8. 外部 EPG とコントラクトを関連付ける



(注) トランジット ルーティングの注意事項については、中継ルーティングのガイドライン (404 ページ) を参照してください。

次の表では、	この章で使用される名前を一覧にしています。

プロパティ	ノード101のL30ut1の名前	ノード102のL30ut2の名前
テナント	t1	t1
VRF	v1	v1
ノード	ルータ ID 11.11.11.103 を持つ ^{nodep1}	ルータ ID 22.22.203 を持つ ^{nodep2}
OSPF インターフェイス	Eth/1/3 Ø ifp1	Eth/1/3 Ø ifp2
BPG ピア アドレス	15.15.15.2/24	25.25.25.2/24
外部 EPG	192.168.1.0/24 ${\cal O}$ extnw1	192.168.2.0/24 ${\cal O}$ extnw2
ルートマップ	ctx1 を持つ rp1 とルートの宛 先 192.168.1.0/24	ctx2 を持つ rp2 とルートの宛 先 192.168.2.0/24
フィルタ	http-filter	http-filter
コントラクト	extnw1 によって提供される httpCtrct	extnw2 によって消費される httpCtrct

GUI を使用した中継ルーティングの設定

これらの手順は、テナントの中継ルーティングを設定する方法を示しています。この例では、 2つのL3Outsを、1つのVRF内、2つの境界リーフスイッチ上に展開します。スイッチは別々 のルータに接続されています。

テナントとVRFを作成する手順を除き、これらの手順を2回繰り返して、同じテナントとVRFの下に2つのL3Outを作成します。

サンプルの名前については、中継ACIファブリックのルーティング(395ページ)を参照して ください。。

始める前に

- •L3Out で使用されるインターフェイス(AAEP、VLAN プール、インターフェイス セレク タ)のL3ドメインおよびファブリック アクセス ポリシーを設定します。
- ・ファブリック インフラ MPBGP の BGP ルート リフレクタ ポリシーを設定します。

手順

- **ステップ1** テナントと VRF を作成するには、メニュー バーで、**Tenants** > **Add Tenant** を選択し、**Create Tenant** ダイアログボックスで、次のタスクを実行します:
 - a) Name フィールドに、テナント名を入力します。
 - b) In the VRF Name フィールドに、VRF 名を入力します。
 - c) Submit をクリックします。
 - (注) この手順の後の手順は2回実行して、中継ルーティングのための同じテナントと VRF に 2 つの L3Out を作成します。
- ステップ2 L3Out の作成を開始するには、[ナビゲーション(Navigation)]ペインで[テナント(Tenant)] [ネットワーキング(Networking)]を展開し、[L3Outs]を右クリックして[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。

[L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードが表示されます。次の手順では、[L3Out の作成 (Create L3Out)] ウィザードを使用した L3Out 設定例の手順を示します。

- **ステップ3** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードの[識別(Identity)]ウィンドウに必要な情報を入 力します。
 - a) Name フィールドに L3Out の名前を入力します。
 - b) VRF ドロップダウンリストから VRF を選択します。
 - c) [L3ドメイン(L3Domain)]ドロップダウンリストで、先ほど作成した、外部ルーテッド ドメインを選択します。
 - d) ルーテッドプロトコルのチェックボックスがある領域で、目的のプロトコル(BGP、OSPF、 または EIGRP)をオンにします。

この章の例では、BGP および OSPF を選択します。

選択するプロトコルに応じて、設定する必要のあるプロパティに入力します。

e) OSPF を有効にした場合は、OSPF の詳細を入力します。

この章の例では、OSPF エリア 0 を使用し、Regular area に入力します。

- f) [次 (Next)]をクリックして[**ノードとインターフェイス** (Nodes and Interfaces)]ウィン ドウに移動します。
- ステップ4 [L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードの[ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)] ウィンドウに必要な情報を入力します。
 - a) デフォルトの命名規則を使用するかどうかを決定します。

[デフォルトの使用(Use Defaults)]フィールドで、デフォルトのノードプロファイル名 およびインターフェイス プロファイル名を使用する場合は、チェックをオンにします。

- ・デフォルトのノードプロファイル名は L3Out-name _nodeProfileです。ここで、 L3Out-name は[識別(Identity)]ページの[名前(Name)]フィールドに入力した名前 です。
- デフォルトのインターフェイスプロファイル名はL3Out-name _interfaceProfile です。ここで、L3Out-name は、[識別(Identity)]ページの[名前(Name)]フィール ドに入力した名前です。
- b) [インターフェイスタイプ (Interface Types)]領域で、[レイヤ3 (Layer 3)]および[レイ ヤ2 (Layer 2)]フィールドで必要な選択を行います。

次のオプションがあります。

- ・レイヤ3:
 - ルーテッド:ポートチャネルへのレイヤ3ルートを設定するには、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、レイヤ3ルートは、このページの[レイヤ2 (Layer 2)]フィールドで選択された物理ポートまたはダイレクト ポート チャネルのい ずれかになります。

 ・ルーテッドサブ:ポートチャネルへのレイヤ3サブインターフェイスルートを 設定するには、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、レイヤ3サブインターフェイスのルートは、この ページの[レイヤ2(Layer 2)]フィールドで選択された物理ポートまたはダイレ クトポートチャネルのいずれかになります。

• SVI: ACI リーフ スイッチとルータ間に接続性を提供する Switch Virtual Interface (SVI)を設定するにはこのオプションを選択します。

SVIは、物理ポート、直接ポートチャネル、仮想ポートチャネルのメンバーを持つことができ、このページの [レイヤ2(Layer 2)] フィールドで選択します。

 フローティング SVI: フローティング L3Out を設定するにはこのオプションを選 択します。

フローティングL3Outを使用すると、仮想ルータが1つのリーフスイッチの下から別のリーフスイッチに移動できるようにするL3Outを設定できます。この機能により、VMがホスト間を移動する際に、ルーティングを維持するために複数のL3Outインターフェイスを設定する必要がなくなります。

- レイヤ2: (レイヤ3エリアで仮想 SVI を選択した場合は使用できません)
 - ・ポート
 - ・仮想ポートチャネル(レイヤ3領域で [SVI] を選択した場合に使用可能)
 - ・ダイレクトポートチャネル(Direct Port Channel)
- c) [ノード ID (Node ID)]フィールドのドロップダウンメニューで、L3Out のノードを選択 します。

これらの例のトポロジでは、ノード103を使用します。

- d) Router ID フィールドで、ルータ ID (L3Out に接続されているルータの IPv4 または IPv6 ア ドレス) を入力します。
- e) (任意) 必要に応じて、ループバック アドレスに別の IP アドレスを設定できます。

[ルータ ID (Router ID)]フィールドに入力したエントリと同じ内容が[ループバックアド レス (Loopback Address)]フィールドに自動で入力されます。これは以前のビルドでの [ループバックアドレスのルータ ID の使用 (Use Router ID for Loopback Address)]と同等 です。ループバックアドレスにルータ ID を使用しない場合は、ループバックアドレスに 別の IP アドレスを入力します。または、ループバックアドレスにルータ ID を使用しない 場合は、このフィールドを空のままにします。

f) [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ウィンドウに追加の必要な情報を入力 します。

このウィンドウに表示されるフィールドは、[レイヤ3 (Layer 3)]および[レイヤ2 (Layer 2)]領域で選択したオプションによって異なります。

g) [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ウィンドウで残りの追加の情報を入力 したら、[次 (Next)]をクリックします。

[プロトコル (Protocols)] ウィンドウが表示されます。

ステップ5 [L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードの[プロトコル(Protocols)]ウィンドウに必要な情報を入力します。

この例ではプロトコルとしてBGPとOSPFを使用しているため、次の手順でこれらのフィール ドに情報を提供します。

a) [BGP ループバック ポリシー (BGP Loopback Policies)]および [BGP インターフェイス ポ リシー (BGP Interface Policies)]領域で、次の情報を入力します。

- ・ピア アドレス(Peer Address): ピア IP アドレスを入力します
- EBGP Multihop TTL(EBGP マルチホップTTL):接続の存続可能時間(TTL)を入 力します。範囲は1~255ホップです。ゼロの場合、TTLは指定されません。デフォ ルトは0です。
- リモートASN(Remote ASN):ネイバー自律システムを固有に識別する番号を入力します。自律システム番号は、1~4294967295のプレーン形式で4バイトにすることができます。
 - (注) ACI は asdot または asdot + 形式の AS 番号をサポートしていません。
- b) [OSPF]領域で、デフォルトOSPFポリシー、以前に作成したOSPFポリシー、または[OSPF インターフェイス ポリシーの作成(Create OSPF Interface Policy)]を選択します。
- c) [次へ (Next)] をクリックします。

[外部 EPG (External EPG)] ウィンドウが表示されます。

- **ステップ6** [L3Out の作成(Create L3Out)]ウィザードで[外部 EPG(External EPG)]ウィンドウに必要な 情報を入力します。
 - a) Name フィールドに、外部ネットワークの名前を入力します。
 - b) [提供済みコントラクト (Provided Contract)] フィールドで、提供済みコントラクトの 名前を入力します。
 - c) [消費済みコントラクト (Consumed Contract)]フィールドで、消費済みコントラクトの 名前を入力します。
 - d) [すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external network)] フィールドで、このL3Out 接続からのすべての中継ルートをアドバタイズしない場合は オフにします。

このボックスをオフにすると、[Subnets] 領域が表示されます。次の手順に従って、必要なサブネットとコントロールを指定します。

- e) [+]アイコンをクリックして[サブネット(Subnet)]を展開し、[サブネットの作成(Create Subnet)]ダイアログボックスで次の操作を実行します。
- f) IP address フィールドに、外部ネットワークの IP アドレスとサブネットマスクを入力します。
- g) [名前 (Name)] フィールドに、サブネットの名前を入力します。
- h) Scope フィールドで、L3Out のプレフィックスのインポートとエクスポートを制御する ための適切なチェック ボックスをオンにします。
 - (注) 範囲のオプションの詳細については、この Create Subnet パネルのオンライ ン ヘルプを参照してください。
- i) (任意) [ルート制御サブネットのエクスポート(Export Route Control Subnet)]の
 チェックボックスをオンにします。

[BGP ルート集約ポリシー (BGP Route Summarization Policy)]フィールドが使用可能になります。

j) [BGPルート集約ポリシー (BGP Route Summarization Policy)]フィールドでは、ドロッ プダウンリストから既存のルート集約ポリシーを選択するか、必要に応じて新しいユー ザーを作成します。

ルート集約ポリシーのタイプは、L3Out に対して有効になっているルーティングプロト コルに依存します。

- k) [サブネットの作成(Create Subnet)]ウィンドウで必要な設定が完了したら、[OK]をク リックします。
- 1) (任意) より多くのサブネットを追加するにはこれを繰り返します。
- m) [完了 (Finish)]をクリックして、[L3Out の作成 (Create L3Out)]ウィザードに必要な 設定の入力を完了させます。
- **ステップ7** 作成した L3Out に移動し、[L3Out] を右クリックして、[ルート制御のインポートおよびエクス ポートのルートマップの作成(Create Route map for import and export route control)]を選択しま す。
- **ステップ8** [ルート制御のインポートおよびエクスポートのルート マップの作成 (Create Route map for import and export route control)] ウィンドウで、次の操作を実行します。
 - a) Name フィールドに、ルートマップ名を入力します。
 - b) Type を選択します。
 この例では、デフォルトの Match Prefix AND Routing Policy のままにします。
 - c) + アイコンをクリックして Contexts を展開し、ルート マップのルート コンテキストを 作成します。
 - d) プロファイル コンテキストの順序と名前を入力します。
 - e) このコンテキストで実行するアクションとして Deny または Permit を選択します。
 - f) (任意) Set Rule フィールドで、Create Set Rules for a Route Map を選択します。

セット ルールのための名前を入力し、ルールで使用するオブジェクトをクリックし、 Finish をクリックします。

- g) [一致ルール (Match Rule)]フィールドで、[ルートマップの一致ルールの作成 (Create Match Rules for a Route Map)]を選択します。
- h) 一致ルールの名前を入力し、ルールで一致させる対象として正規表現コミュニティ用語の一致(Match Regex Community Terms)、コミュニティ用語の一致(Match Community Terms)、または一致プレフィックス(Match Prefix)を入力します。
- i) [一致ルールの作成(Create Match Rule)]ウィンドウのフィールドへの入力が完了した
 ら、[送信(Submit)]をクリックします。
- j) Create Route Control Context ダイアログボックスで、OK をクリックします。
- k) [インポートおよびエクスポート ルート制御向けのルート マップの作成(Create Route map for import and export route control)] ダイアログ ボックスで、[送信(Submit)] を クリックします。
- ステップ9 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで [L3Outs] > [L3Out_name] > [外部 EPG (External EPGs)] > [externalEPG_name] の順に展開して、次のアクションを実行します。
 - a) + アイコンをクリックして Route Control Profile を展開します。

- b) Name フィールドのドロップダウン リストから、前に作成したルート制御プロファイルを 選択します。
- c) Direction フィールドで、Route Export Policy を選択します。
- d) Update をクリックします。
- **ステップ10** 作成した L3Out に移動し、[L3Out] を右クリックして、[ルート制御のインポートおよびエクス ポートのルートマップの作成(Create Route map for import and export route control)]を選択しま す。
- **ステップ11** [ルート制御のインポートおよびエクスポートのルート マップの作成 (Create Route map for import and export route control)] ウィンドウで、次の操作を実行します。
 - (注) 受信ルートについて BGP、OSPF、または EIGRP の属性を設定するには、
 default-import ルート制御プロファイルを作成し、適切な set アクションと、 no match
 のアクションを作成します。
 - a) [名前 (Name)] フィールドから、[default-import] を選択します。
 - b) [タイプ (Type)]フィールドでは、[ルーティングポリシーのみ一致 (Match Routing Policy Only)]をクリックする必要があります。
 - c) [インポートおよびエクスポートルート制御向けのルートマップの作成(Create Route map for import and export route control)]ダイアログボックスで、[送信(Submit)]をクリッ クします。
- **ステップ12** L3Outを使用していた EPG間の通信を有効にするには、次の手順を使用して、少なくとも1つ のフィルタと契約を作成します:
 - a) ナビゲーションウィンドウのL3Outを使用するテナントの下で、Contractsを展開します。
 - b) Filters を右クリックして Create Filter を選択します。
 - c) Name フィールドに、フィルタのの名前を入力します。

フィルタは基本的にはアクセス コントロール リスト (ACL) です。

- d) + アイコンをクリックして Entries を展開し、フィルタ エントリを追加します。
- e) エントリの詳細を追加します。。

たとえば、単純な Web フィルタの場合には、次のような条件を設定します:

- EtherType—IP
- IP Protocol—tcp
- Destination Port Range From—Unspecified
- Destination Port Range To to https
- f) Update をクリックします。
- g) Create Filter ダイアログボックスで、Submit をクリックします。
- ステップ13 契約を追加するには、次の手順を実行します:
 - a) Contracts の下で、Standard を右クリックして、Create Contract を選択します。
 - b) 契約の名前を入力します。
 - c) + アイコンをクリックして Subjects を展開し、情報カテゴリを契約に追加します。

- d) 情報カテゴリの名前を入力します。
- e) [+]アイコンをクリックして[**フィルタ**(Filters)]を展開し、ドロップダウンリストから、 前に作成したフィルタを選択します。
- f) **Update** をクリックします。
- g) Create Contract Subject ダイアログボックスで、OK をクリックします。
- h) Create Contract ダイアログボックスで、Submitをクリックします。
- ステップ14 次の手順で、L3OutのEPGを契約に関連付けます:

最初のL3外部EPG (extnw1 が契約のプロバイダとなり、2番目の外部EPG、extnw2) がコンシューマとなります。

- a) 契約をプロバイダとしてのL3外部EPGに関連付けるには、テナントの下で[ネットワー キング(Networking)]をクリックし、[L3Outs]をクリックし、L3Outを展開します。
- b) [**外部 EPG**(**External EPGs**)]を展開し、L3 外部 EPG をクリックし、[**コントラクト** (**Contracts**)] タブをクリックします。
- c) + アイコンをクリックして Provided Contracts を展開します。

2番目のL3外部EPGで、+アイコンをクリックして Consumed Contracts を展開します。

- d) Name フィールドで、前に作成した契約をリストから選択します。
- e) Update をクリックします。
- f) [送信 (Submit)]をクリックします。

I



共有サービス

この章は、次の内容で構成されています。

- 共有レイヤ 3 Out (423 ページ)
- ・レイヤ3アウトからレイヤ3アウト内部 VRF への漏洩 (427 ページ)

共有レイヤ3Out

共有レイヤ3アウトサイドネットワーク(L3extOut)は、外部ネットワークへのルーテッド接続 を共有サービスとして提供します。L3extOutプロファイル(13extInstP)) EPG は、外部ネッ トワークへのルーテッド接続を提供します。これは、任意のテナント(user、common、infra、 mgmt.)の共有サービスとしてプロビジョニングできます。リリース1.2(1x)より前では、この 設定は user テナントと common テナントでのみサポートされていました。任意のテナントの EPG が、13extInstP EPG がファブリック内のどこにプロビジョニングされているかには関係 なく、共有サービスコントラクトを使用してその13extInstP EPG に接続できます。これによ り、外部ネットワークへのルーテッド接続のプロビジョニングが簡単になります。複数のテナ ントが、外部ネットワークへのルーテッド接続用に単一の13extInstP EPG を共有できます。 13extInstP EPG を共有すると、単一の共有13extInstP EPG を使用する EPG の数には関係なく スイッチ上で使用されるセッションは1つのみであるため、より効率的になります。



(注) 13extInstPEPG共有サービスコントラクトを使用するすべてのスイッチは、APIC 1.2 (1x) およびスイッチ11.2 (1x) の各リリース以降で使用可能なハードウェアおよびソフトウェアのサポートを必要とします。詳細については、「Cisco APIC Management, Installation, Upgrade, and Downgrade Guide」とリリースノートドキュメントを参照してください。

次の図は、共有 13extInstP EPG 用に設定された主なポリシー モデル オブジェクトを示しています。

図 51: 共有レイヤ 3 Out ポリシー モデル



共有レイヤ3アウトサイドネットワーク設定については、以下の注意事項と制限事項に注意してください。

- テナント制限なし:テナントAとBは、任意の種類のテナント(user、common、infra、 mgmt)です。共有 13extInstP EPG が common テナントにある必要はありません。
- EPG の柔軟な配置:上の図の EPG A と EPG B は異なるテナントにあります。EPG A と EPG B で同じブリッジ ドメインと VRF を使用することはできますが、それは必須ではあ りません。EPG A と EPG B は異なるブリッジ ドメインおよび異なる VRF にありますが、 同じ 13extInstP EPG を共有しています。
- サブネットは、private、public、または shared です。L3extOut のコンシューマまたはプロ バイダ EPG にアドバタイズされるサブネットは、shared に設定されている必要がありま す。L3extOut にエクスポートされるサブネットは public に設定される必要があります。
- ・共有サービス コントラクトは、共有レイヤ3アウトサイドネットワーク サービスを提供 する 13extInstP EPG が含まれているテナントからエクスポートされます。共有サービス コントラクトは、共有サービスを使用する EPG が含まれているテナントにインポートさ れます。
- ・共有L3Outでは禁止コントラクトを使用しないでください。この設定はサポートされません。
- 13extInstPは共有サービスプロバイダとしてサポートされますが、l3extInstP以外のコンシューマのみに限定されます(L3extOut EPG=13extInstPである場合)。

- トラフィック中断(フラップ):13instP EPGが、13instP サブセットのスコーププロパティを共有ルート制御(shared-rctrl)または共有セキュリティ(shared-security)に設定して外部サブネット0.0.0/0を使用して設定されると、VRFはグローバルpcTagを使用して再配置されます。これにより、そのVRF内のすべての外部トラフィックが中断されます(VRFがグローバルpcTagを使用して再配置されるため)。
- ・共有レイヤL3extOutのプレフィックスは一意である必要があります。同じコンテキスト (VRF)の同じプレフィックスを使用した、複数の共有L3extOut設定は動作しません。
 VRFにアドバタイズする外部サブネット(外部プレフィックス)が一意であることを確認してください(同じ外部サブネットが複数の13instPに属することはできません)。プレフィックス prefixlを使用したL3extOut設定(たとえば、L3Outl)と、同様にプレフィックス prefixlを使用したL3extOut設定(たとえば、L3Outl)と、同様にプレフィックス prefixlを使用した2番目のレイヤ3アウトサイド設定(たとえば、L3Out2)が同じVRFに属すると、動作しません(導入されるpcTagは1つのみであるため)。L3extOutのさまざまな動作は、同じVRFの同じリーフスイッチに設定されている可能性があります。考えられるシナリオは次の2つです。
 - ・シナリオ1には、SVIインターフェイスおよび2個のサブネット(10.10.10.0/24および0.0.0/0)が定義された.L3extoutがあります。レイヤ3アウトサイドネットワークの入力トラフィックに一致するプレフィックス10.10.10.0/24がある場合、入力トラフィックは外部 EPG pcTag を使用します。レイヤ3アウトサイドネットワーク上の入力トラフィックに一致するデフォルトプレフィックス0.0.0.0/0がある場合、入力トラフィックは外部ブリッジ pcTag を使用します。
 - ・シナリオ2には、2個のサブネット(10.10.10.0/24および0.0.0.0/0)が定義されたルー テッドまたは routed-sub-interface を使用する L3extOut があります。レイヤ3アウトサ イドネットワークの入力トラフィックに一致するプレフィックス10.10.10.0/24 がある 場合、入力トラフィックは外部 EPG pcTag を使用します。レイヤ3アウトサイドネッ トワーク上の入力トラフィックに一致するデフォルトプレフィックス0.0.0.0/0 がある 場合、入力トラフィックは VRF pcTag を使用します。
 - これらの説明した動作の結果として、SVIインターフェイスを使用してL3extOut-AおよびL3extOut-Bで同じVRFおよび同じリーフスイッチが設定されている場合、次のユースケースが考えられます。

ケース1は L3extout -A用です。この外部ネットワーク EPG には2個のサブネット が定義されています。10.10.10.0/24 & 0.0.0.0/1。L3extOut-Aの入力トラフィックに一 致するプレフィックス10.10.10.0/24 がある場合、L3extOut-Aに関連付けられている外 部 EPG pcTag & コントラクトを使用します。L3extOut-Aの出力トラフィックに特定 の一致がなく、最大のプレフィックス一致が0.0.0.0/1の場合、外部ブリッジドメイン (BD) pcTag & コントラクト-Aを使用します。

ケース2はL3extOut-Bです。 この外部ネットワーク EPG には定義された1個のサブ ネット: 0.0.0.0/0 があります。L3extOut-Bの入力トラフィックに一致するプレフィッ クス 10.10.10.0/24 (L3extOut-Aで定義)がある場合、L3extOut-A に関連付けられてい る L3extOut-A およびコントラクト Aの外部 EPG pcTag を使用します。L3extOut-B に 関連付けられているコントラクト-B は使用しません。

- 許可されないトラフィック:無効な設定で、共有ルート制御(shared-rtctrl)に対する外部 サブネットのスコープが、共有セキュリティ(shared-security)に設定されているサブネットのサブセットとして設定されている場合、トラフィックは許可されません。たとえば、 以下の設定は許可されません。
 - shared rtctrl: 10.1.1.0/24, 10.1.2.0/24
 - *shared security* : 10.1.0.0/16

この場合、10.1.1.0/24 および 10.1.2.0/24 の各プレフィックスがドロップルールを使用して インストールされているため、宛先 IP 10.1.1.1 を使用して非境界リーフの入力トラフィッ クはドロップされます。トラフィックは許可されません。そのようなトラフィックは、 shared-rtctrl プレフィックスを shared-security プレフィックスとしても使用するように設 定を修正することで、有効にすることができます。

- 不注意によるトラフィックフロー:次の設定シナリオを避けることで、不注意によるトラフィックフローを予防します。
 - ケース1設定の詳細:
 - VRF1を持つレイヤ3アウトサイドネットワーク設定(たとえば、名前付き L3extOut -1)は provider1と呼ばれます。
 - VRF2を持つ二番目のレイヤ3アウトサイドネットワーク設定(たとえば、名前 付き L3extOut-2)は provider2 と呼ばれます。
 - L3extOut -1 VRF1 は、インターネット 0.0.0.0/0 にデフォルト ルートをアドバタ イズし、これは shared-rtctrl および shared-security の両方を有効にします。
 - L3extOut-2 VRF2 は特定のサブネットを DNS および NTP 192.0.0.0/8 にアドバタイズし、shared-rtctrl を有効にします。
 - L3extOut-2 VRF2 に特定の 192.1.0.0/16 があり、shared-security を有効にします。
 - ・バリエーションA: EPG トラフィックが複数の VRF に向かいます。
 - EPG1 と L3extOut-1 の間の通信は *allow_all* コントラクトによって制御されま す。
 - EPG1 と L3extOut-2の間の通信は allow_all コントラクトによって制御されます。
 - 結果: EPG1 から L3extOut-2 へのトラフィックも 192.2.x.x に向かいます。
 - ・バリエーションB: EPG は2番目の共有レイヤ3アウトサイドネットワークの allow_all コントラクトに従います。
 - EPG1 と L3extOut-1 の間の通信は allow_all コントラクトによって制御されます。
 - EPG1 と L3extOut-2 の間の通信は allow_icmp コントラクトによって制御され ます。

結果: EPG1 ~ L3extOut-2 から 192.2.x.x へのトラフィックは allow_all コン トラクトに従います。

ケース2設定の詳細:

- L3extOut プロファイル(l3instP)は、1つの共有プレフィックスとその他の非共有プレフィックスを持っています。
- src = non-shared で到達するトラフィックは、EPG に向かうことが許可されます。
 - ・バリエーションA: 意図しないトラフィックが EPG を通過します。

L3extOut (l3instP) EPG のトラフィックがこれらのプレフィックスを持つ L3extOut に向かいます。

- -192.0.0.0/8 = import-security, shared-rtctrl
- -192.1.0.0/16 = shared-security
- EPG には 1.1.0.0/16 = shared があります

結果: 192.2.x.x からのトラフィックも EPG に向かいます。

・バリエーションB: 意図しないトラフィックが EPG を通過します。共有 L3extOut に到達したトラフィックは EPG を通過できます。

-共有 L3extOut VRF には、pcTag = prov vrf を持つ EPG と *allow_all* に設定 されているコントラクトがあります。

- EPG は <subnet> = shared となっています。

結果:レイヤ3Outに到達するトラフィックはEPGを通過することができます。

レイヤ3アウトからレイヤ3アウト内部 VRF への漏洩

Cisco APIC リリース 2.2(2e) から、2つの異なる VRF に2個のレイヤ3アウトがある場合、VRF 内部の漏洩がサポートされています。

この機能を稼働するには、次の条件を満たす必要があります。

- •2個のレイヤ3アウト間にはコントラクトが必要です。
- レイヤ3アウトの接続したり移行したりするサブネットのルートは、コントラクトを適用し(L3Out-L3OutおよびL3Out-EPG)、VRF間の動的または静的ルートを漏洩させることなく漏洩します。
- ・動的または静的ルートは、コントラクトを適用し(L3Out-L3Out および L3Out-EPG)、 VRF間で直接接続したり移行したりするルートをアドバタイズすることなく漏洩します。

- ・異なる VRF の共有のレイヤ 3 アウトは相互に通信できます。
- ・ブリッジドメインに必要な関連付けられたL3Outはありません。VRF間共有L3Outを使用する場合は、テナント共通のL3Outにユーザテナントブリッジドメインを関連付ける必要はありません。テナント固有のL3Outがある場合、それぞれのテナントのブリッジドメインに関連付けられます。
- •2 個のレイヤ3アウトは異なる2 個の VRF に存在し、正常にルートを交換できます。
- この強化は、アプリケーション EPG およびレイヤ3アウト内部 VRF 間の通信と同じです。唯一の違いは、アプリケーション EPG ではなく別のレイヤ3アウトが存在します。したがってこの状況では、コントラクトは2個のレイヤ3アウト間で記録されます。

次の図では、共有サブネットによる2個のレイヤ3アウトが存在します。両方のVRFでレイ ヤ3外部インスタンスプロファイル(l3extInstP)間のコントラクトがあります。この場合、 VRF1の共有レイヤ3アウトはVRF2の共有レイヤ3と通信できます。





拡張 GUI を使用した共有レイヤ3 Out VRF 間リーキングの設定

始める前に

コンシューマとプロバイダーによって使用される契約ラベルがすでに作成されています。

手順

- ステップ1 メニューバーで Tenants > Add Tenant を選択します。
- **ステップ2** Create Tenant ダイアログボックスに、プロバイダーのテナント名を入力します。

- ステップ3 [VRF 名 (VRF Name)] フィールドに、プロバイダの VRF 名を入力し、[送信 (Submit)] を クリックしてテナントを作成します。
- **ステップ4** [**ナビゲーション**(Navigation)]ペインの新しいテナント名の下で、[L3Outs] に移動します。
- ステップ5 [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]を選択します。

[L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードが表示されます。

- ステップ6 [VRF の作成 (Create VRF)]ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) Name フィールドに、L3Out の名前を入力します。
 - b) [VRF] フィールドで、前に作成した VRF を選択します。
 - c) [L3 ドメイン(L3 Domain)] フィールドで、L3 ドメインを選択します。
 - d) プロトコルに適切な選択を行い、[次へ (Next)]をクリックします。
- **ステップ7** [外部 EPG (External EPG)]ウィンドウが表示されるまで、次のウィンドウで必要な選択を行います。

[識別(Identity)] ウィンドウで選択したプロトコルに応じて、[ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)] ウィンドウと[プロトコル (Protocols)] ウィンドウが表示される場合 があります。[L3Out の作成 (Create L3Out)] ウィザードの最後のウィンドウは、[外部 EPG (External EPG)] ウィンドウです。

- ステップ8 [外部 EPG (External EPG)]ウィンドウで次のアクションを実行します。
 - a) Name フィールドに、外部ネットワーク名を入力します。
 - b) [すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external network)]チェッ クボックスをオフにします。

[サブネット (Subnets)]フィールドが表示されます。

- c) [サブネットの作成 (Create Subnet)]ウィンドウにアクセスするには、[+] をクリックしま す。
- d) [サブネットの作成(Create Subnet)]ダイアログボックスの[IP アドレス(IP Address)] フィールドに、マッチングを行う IP アドレスを入力します。OK をクリックします。
- e) [L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードで[完了(Finish)] をクリックします。
- **ステップ9** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、作成した [L3Out_name] [外部 EPG (External EPGs)] [ExternalEPG_name] に移動します。 > >
- **ステップ10** Work ウィンドウの、外部ネットワークの Properties の下で、Resolved VRF フィールドに解決 された VRF が表示されていることを確認します。
- **ステップ11** 外部サブネットのIPアドレスをダブルクリックして、[**サブネット**(Subnet)]ダイアログボッ クスを開きます。
- **ステップ12** Scope フィールドで、必要なチェック ボックスをオンにして、Submit をクリックします。 このシナリオで、次のチェック ボックスをオンにします。
 - ・[外部 EPG の外部サブネット(External Subnets for the External EPG)]
 - ・共有ルートコントロールサブネット
 - ・共有セキュリティインポートサブネット

- ステップ13 以前に作成した [L3 Outside] に移動します。
- **ステップ14** [プロバイダ ラベル (Provider Label)]フィールドに、このタスクを開始するための前提条件 として作成したプロバイダ名を入力します。Submit をクリックします。
- ステップ15 メニューバーで、Tenants > Add Tenant をクリックします。
- **ステップ16** [テナントの作成(Create Tenant)]ダイアログボックスで、L3 コンシューマのためのテナン ト名を入力します。
- ステップ17 VRF Name フィールドに、コンシューマの VRF 名を入力します。
- ステップ18 [ナビゲーション(Navigation)]ペインの新しいテナント名の下で、コンシューマの[L3Outs] に移動します。
- ステップ19 [L3Outs] を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)] を選択します。

[L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードが表示されます。

- ステップ20 [VRFの作成(Create VRF)]ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) Name フィールドに、L3Out の名前を入力します。
 - b) [VRF] フィールドで、ドロップダウン メニューから、コンシューマのために作成された VRF を選択します。
 - c) Consumer Label フィールドに、コンシューマ ラベルの名前を入力します。
 - d) [L3 ドメイン (L3 Domain)] フィールドで、L3 ドメインを選択します。
 - e) プロトコルに適切な選択を行い、[次へ(Next)]をクリックします。
- ステップ21 [外部 EPG (External EPG)]ウィンドウが表示されるまで、次のウィンドウで必要な選択を行います。

[識別(Identity)] ウィンドウで選択したプロトコルに応じて、[ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)] ウィンドウと[プロトコル (Protocols)] ウィンドウが表示される場合 があります。[L3Out の作成 (Create L3Out)] ウィザードの最後のウィンドウは、[外部 EPG (External EPG)] ウィンドウです。

- **ステップ22** [外部 EPG (External EPG)] ウィンドウで次のアクションを実行します。
 - a) Name フィールドに、外部ネットワーク名を入力します。
 - b) [すべての外部ネットワークのデフォルト EPG (Default EPG for all external network)] チェッ クボックスをオフにします。

[サブネット (Subnets)]フィールドが表示されます。

- c) [サブネットの作成 (Create Subnet)]ウィンドウにアクセスするには、[+]をクリックしま す。
- d) [サブネットの作成(Create Subnet)]ダイアログボックスの[IP アドレス(IP Address)] フィールドに、マッチングを行う IP アドレスを入力します。OK をクリックします。
- e) Scope フィールドで、必要なチェックボックスをオンにして、OK をクリックします。

このシナリオでは、Shared Route Control Subnet と Shared Security Import Subnet のチェックボックスをオンにします。

f) [L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードで[完了(Finish)] をクリックします。

これで、共有レイヤ3Out VRF間リーキングの設定は完了です。



L30utの**QoS**

この章は、次の内容で構成されています。

- L3Out QoS (433 ページ)
- L3Out QoS ガイドラインと制約事項 (433 ページ)
- GUI を使用して L3Out に QoS ディレクトリを設定する (435 ページ)
- GUI を使用した L3Outs の QoS コントラクトの設定 (435 ページ)

L3Out QoS

L3Out QoS は、外部 EPG レベルで適用されるコントラクトを使用して設定できます。リリース 4.0(1) 以降、L3Out QoS は L3Out インターフェイスで直接設定することもできます。

 (注) Cisco APICリリース 4.0(1) 以降を実行している場合は、L3Out に直接適用されるカスタム QoS ポリシーを使用して L3Out の QoS を設定することを推奨します。

パケットは入力 DSCP または CoS 値を使用して分類されるため、カスタム QoS ポリシーを使 用して着信トラフィックを Cisco ACIQoS キューに分類できます。カスタム QoS ポリシーに は、DSCP/CoS 値をユーザキューまたは新しい DSCP/CoS 値(マーキングの場合)にマッピン グするテーブルが含まれます。特定の DSCP/CoS 値のマッピングがない場合、ユーザキューは 入力 L3Out インターフェイスの QoS 優先度設定によって選択されます(設定されている場 合)。

L3Out QoS ガイドラインと制約事項

L3OutのQoS設定には次の注意事項が適用されます。

カスタム QoS ポリシーは、Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) ファブリックの外部から送信された(L3Out から受信した)レイヤ3マルチキャストトラフィックではサポートされません。

• L3Out が存在する境界リーフスイッチに適用するコントラクトを使用して QoS ポリシー を設定するには、VRFテーブルが出力モードである必要があります(ポリシー制御適用の 方向は「出力」にする必要があります)。

リリース 4.0(1) 以降、カスタム QoS 設定は L3Out で直接設定でき、境界リーフからのト ラフィックに適用できます。そのため、VRFテーブルは出力モードである必要はありませ ん。

- 適用するQoSポリシーを有効にするには、VRFポリシー制御適用設定を「適用」にする必要があります。
- L3Outとその他のEPG間の通信を制御する契約を設定する際に、契約またはサブジェクト にQoSクラスまたはターゲットDSCPを含めます。



- (注) 外部 EPG ではなく、契約の QoS クラスまたはターゲット DSCP のみ設定します(13extInstP)。
 - 契約のサブジェクトを作成する際は、QoS優先度レベルを選択する必要があります。
 [Unspecified]を選択することはできません。



- (注) カスタム QoS ポリシーは QoS クラスが [未指定(Unspecified)] に設定されている場合でも DSCP/CoS 値を設定するため、カスタ ム QoS ポリシーは例外となります。QoS レベルが指定されていな い場合、レベルはデフォルトで3として扱われます。未指定はサ ポートされず、無効です。
 - ・リリース 4.0(1) 以降、QoS で、グローバル ポリシー、EPG、L3out、カスタム QoS、およ び契約で設定された新しいレベル4、5、6をサポートします。次の制限が適用されます。
 - 厳密な優先順位を設定できるクラスの数は、5つまで増加できます。
 - ・非 EX および非 FX スイッチでは、3 つの新しいクラスはサポートされません。
 - ・非EXまたは非FXスイッチと、EXまたはFXスイッチの間でトラフィックが流れる 場合、トラフィックはQoSレベル3を使用します。
 - 新しいクラスでFEXと通信するため、トラフィックは値0のレイヤ2Cosを伝送します。
 - ・リリース 4.0(1) 以降、QoS クラスを設定したり、L3Out インターフェイスに適用するカス タム QoS ポリシーを作成できるようになりました。

GUI を使用して L30ut に QoS ディレクトリを設定する

この章では L3Out で QoS ディレクトリを設定する方法について説明します。これは、リリース 4.0(1) 以降の L3Out QoS の推奨設定方法です。Cisco APIC

手順

- ステップ1 メインメニューバーから[テナント(Tenants)]> [<tenant-name>]を選択します。

存在しない場合は、新しいネットワーク、ノードプロファイル、およびインターフェイスプ ロファイルを作成する必要があります。

ステップ3 メイン ウィンドウペインで、L3Out のカスタム QoS を設定します。

[QoS 優先順位(QoS Priority)]ドロップダウンリストを使用して、標準 QoS レベルの優先順 位を設定できます。または、[カスタム QoS ポリシー(Custom QoS Policy)]ドロップダウンか ら既存のカスタム QoS ポリシーを設定するか、新しいカスタム QoS ポリシーを作成できます。

GUIを使用した L30uts の QoS コントラクトの設定

ポリシーよりも優先されます。

この項では、コントラクトを使用して L3Out の QoS を設定する方法について説明します。



手順

- ステップ1 L3Outにより使用される境界リーフスイッチに適用されるQoSをサポートするために、L3Out を利用していたテナントのVRF インスタンスを設定します。
 - a) メイン メニュー バーから [テナント (Tenants)]> [<tenant-name>] を選択します。

- b) Navigation ウィンドウで、Networking を展開し、VRFs を右クリックし、 Create VRF を 選択します。
- c) VRF の名前を入力します。
- d) Policy Control Enforcement Preference フィールドで、Enforced を選択します。
- e) [Policy Control Enforcement Dirction] で [Egress] を選択します

QoS 分類がコントラクトで実行される場合は、VRF の適用を強制を [出力(Egress)] に設定する必要があります。

- f) L3Out の要件に従って VRF を設定します。
- ステップ2 L3Out を使用する EPG の間の通信を可能にするためにフィルタを設定するときには、QoS ク ラスまたはターゲット DSCP を含めて、L3Out を通して入力されるトラフィックにおける QoS の優先順位を適用します。
 - a) [Navigation] ウィンドウの L3Out を使用するテナントで、Contracts を展開し、Filters を右 クリックし、Create Filter を選択します。
 - b) Name フィールドに、ファイルの名前を入力します。
 - c) [Entries] フィールドで、[+] をクリックしてフィルタエントリを追加します。
 - d) エントリの詳細を追加し、Update をクリックし、Submit をクリックします。
 - e) 以前に作成したフィルタを展開し、フィルタエントリをクリックします。
 - f) Match DSCP フィールドを、そのエントリで必要な DSCP レベルに設定します。たとえば EF にします。
- ステップ3 契約を追加します。
 - a) Contracts の下で、Standard を右クリックして、Create Contract を選択します。
 - b) 契約の名前を入力します。
 - c) **QoS Class** フィールドで、この契約で管理されるトラフィックの QoS 優先順位を選択しま す。または、**Target DSCP** の値を選択することもできます。

この項で説明するコントラクトを使用した QoS 分類の設定は、L3Out で直接設定された QoS ポリシーよりも優先されます

- d) [Subjects] の [+] アイコンをクリックして、情報カテゴリを契約に追加します。
- e) 情報カテゴリの名前を入力します。
- f) [QoS Priority] フィールドで、必要な優先度レベルを選択します。[Unspecified] を選択する ことはできません。
- g) [Filter Chain]の下で、[Filters]の[+] アイコンをクリックし、先ほど作成したフィルタをド ロップダウンリストから選択します。
- h) Update をクリックします。
- i) Create Contract Subject ダイアログボックスで、OK をクリックします。



IP SLAs

この章は、次の内容で構成されています。

- ACI IP SLA について (437 ページ)
- IP SLA のガイドラインと制約事項 (447 ページ)
- •スタティックルートのACI IP SLAの設定および関連付け(449ページ)
- ACI IP SLA モニタリング情報の確認 (454 ページ)

ACI IP SLA について

多くの企業ではビジネスのほとんどをオンラインで行い、サービスの損失は企業の収益性に影響を及ぼすことがあります。今では、インターネットサービスプロバイダ(ISP)や内部 IT 部門でさえも、定義済みのサービスレベル、サービスレベル契約(SLA)を提供して、お客様に一定の予測可能性を提供しています。

IP SLA トラッキングは、ネットワークの一般的な要件です。IP SLA トラッキングにより、ネッ トワーク管理者はネットワークパフォーマンスに関する情報をリアルタイムで収集できます。 Cisco ACI IP SLA では、ICMP および TCP プローブを使用して IP アドレスを追跡できます。ト ラッキング設定はルートテーブルに影響を与える可能性があり、トラッキング結果がネガティ ブになったときにルートを削除し、結果が再びポジティブになったときにルートをテーブルに 戻すことができます。

ACI IP SLA は、次のものに使用できます。

- •スタティックルート:
 - ACI 4.1 の新機能
 - ・ルート テーブルからのスタティック ルートの自動削除または追加
 - ICMP および TCP プローブを使用してルートを追跡する
- ・ポリシーベース リダイレクト (PBR) トラッキング:
 - ACI 3.1 以降で使用可能
 - ネクストホップの自動削除または追加

- ICMP プローブと TCP プローブ、または L2Ping を使用した組み合わせを使用して、 ネクストホップ IP アドレスを追跡します。
- ネクストホップの到達可能性に基づいて PBR ノードにトラフィックをリダイレクト する

PBR トラッキングの詳細については、『Cisco APIC Layer 4 to Layer 7 Services Deployment Guide』 の「ポリシーベース リダイレクトの設定」を参照してください。



(注) いずれの機能でも、設定、APIの使用、スクリプトの実行など、プローブの結果に基づいて ネットワーク アクションを実行できます。

ACI IP SLA でサポートされるトポロジ

次の ACI ファブリック トポロジは IP SLA をサポートします。

- シングルファブリック: IP SLA トラッキングは、L3out と EPG/BD の両方を介して到達可能な IP アドレスでサポートされます。
- ・マルチポッド
 - ・異なるポッドで単一のオブジェクトトラッキングポリシーを定義できます。
 - ワークロードは、あるポッドから別のポッドに移動できます。IPSLAポリシーは引き 続きアクセス可能性情報をチェックし、エンドポイントが移動したかどうかを検出し ます。
 - エンドポイントが別のポッドに移動すると、IPSLAトラッキングも他のポッドに移動 されるため、トラッキング情報はIPネットワークを通過しません。
- ・リモートリーフ
 - ACIメインデータセンターおよびリモートリーフスイッチ全体で単一オブジェクトトラッキングポリシーを定義できます。
 - リモート リーフ スイッチの IP SLA プローブは、IP ネットワークを使用せずに IP ア ドレスをローカルに追跡します。
 - ワークロードは、1つのローカルリーフからリモートリーフに移動できます。IPSLA ポリシーは引き続きアクセス可能性情報をチェックし、エンドポイントが移動したか どうかを検出します。
 - IP SLA ポリシーは、エンドポイントの場所に基づいてリモート リーフ スイッチまた は ACI メインデータ センターに移動し、ローカル トラッキングを行うため、トラッ キング トラフィックは IP ネットワークを通過しません。

Cisco ACI IP SLA のオペレーション

Cisco ACI IP SLA は、ACI ファブリック上でモニタリング機能を提供し、SLA プローブをデー タセンターネットワーク全体および外部ネットワークで実行できるようにします。これは、 モニタリング中に使用されるプローブタイプを定義する IP SLA モニタリングポリシーを設定 することによって実現されます。モニタリングポリシーは、「トラックメンバー」と呼ばれ るモニタリングプローブプロファイルに関連付けられます。設定が完了すると、IP アドレス、 関連付けられたモニタリングポリシー、およびスコープ(ブリッジドメインまたは L3Out) によって、エンドポイントまたはネクストホップを定義します。1つ以上のトラックメンバー を「トラックリスト」に割り当てることができます。トラックリストは、しきい値を設定しま す。これを超えると、トラックリストが使用可能(アップ)か使用不可(ダウン)かが決まり ます。

次の4つの例は、スタティックルートでサポートされるACIIPSLAの使用例を示しています。

例1:ネクストホップのトラッキングによるスタティックルートの可用性

次の図は、ネットワークトポロジと、ルータのスタティックルートの可用性を追跡する動作 を示しています。



図 53: ネクストホップのトラッキングによるスタティック ルートの可用性

この使用ケースでは:

- ネクストホップは直接または間接のいずれかになります。つまり、ネクストホップはルー タのループバック IP アドレスになります。
- ネクストホップには、物理インターフェイス、サブインターフェイス、ポート チャネル (PC)、PCサブインターフェイス、vPC、またはスイッチ仮想インターフェイス (SVI) を介してアクセスできます。

•スタティックルートはL3out外部ネットワークの下で設定され、ネクストホップのアクセ ス可能性に基づいてルートテーブルから削除または追加できます。

例 2: L3Out を介した IP アドレスのトラッキングによるスタティック ルートの可用性

次の図は、L3Out外部ルートを介してサーバのスタティックルートの可用性を追跡するための ネットワークトポロジと動作を示しています。



図 54: L30ut を介した IP アドレスの追跡によるスタティック ルートの可用性

この使用ケースでは:

- •ACIファブリック(境界リーフ)からルータに接続されているサーバの IP アドレスを追 跡し、サーバのアクセス可能性に基づいてスタティックルートを削除または追加します。
- L3Out は、ポート チャネル (PC) 、PC サブインターフェイス、vPC、スイッチ仮想イン ターフェイス (SVI) 、L3 インターフェイス、または L3 サブインターフェイスを経由で きます。
- スタティックルートはL3Outで設定され、IPアドレスのアクセス可能性に基づいて削除 または追加されます。

例 3: L3Out を介した IP アドレスのトラッキングによるスタティック ルートの削除

次の図は、L3Out外部ルートを介してサーバのスタティックルートの可用性を追跡するための ネットワークトポロジと動作を示しています。L3Out/VRFからアクセスできない場合、ルート は削除されます。



図 55: L30ut を介した IP アドレスのトラッキングによるスタティック ルートの削除

この使用ケースでは:

- ・L3Out は VLAN/SVI を介して設定され、その SVI は複数のリーフに拡張されます。
- •L3Out を介してアクセス可能なサーバの IP アドレスは、リーフ間を移動できます。
- ・サーバの IP アドレスを追跡し、L3Out/VRF からアクセスできない場合は、ルートテーブ ルからスタティック ルートを削除します。
- ・サーバが再びアクセス可能になると、スタティックルートがルートテーブルに戻されます。

例 4 : ACI ファブリックの IP アドレスのトラッキングによるスタティック ルートの削除

前の例で示したように、ルートの IP SLA のプローブ IP は通常、ルートのネクストホップまた はルート経由で到達可能な外部 IP アドレスですが、エンドポイントが IP SLA の対象となる ルートの背後に存在しない場合でも、プローブ IP として ACI BD でエンドポイント IP アドレ スを使用することもできます。これは、ACI 内の特定のエンドポイントだけがスタティック ルートを使用する場合に役立ちます。このようなエンドポイントが存在しない場合、ルートは 使用されません。

次の図は、ネットワークトポロジと、ACIファブリックの IP アドレスを追跡する動作を示しています。



図 56: ACI ファブリックでの IP アドレスの追跡によるスタティック ルートの可用性

この使用ケースでは:

- ・EPG/BD 経由で接続されているエンドポイントの IP 到達可能性を追跡します。
- エンドポイントのアクセス可能性に基づいて、スタティックルートがL3Outで削除また は追加されます。
- エンドポイントがファブリック内のある場所から別の場所に移動しても、同じBDからエンドポイントへのIP 到達可能性がある限り、IP SLA モニタリングはそれをアクセス可能と見なし、スタティックルートの有効性に影響を与えません。

IP SLA モニタリングポリシー

IP Service Level Agreements (SLA) は、継続的で信頼性のある予測可能な方法でトラフィック を生成する、アクティブ トラフィック モニタリングを使用し、ネットワークのパフォーマン スを測定するために分析を行います。IP SLA モニタリング ポリシー動作による測定統計情報 を、トラブルシューティング、問題分析、ネットワーク トポロジの設計に使用できます。

Cisco ACI では、IP SLA モニタリング ポリシーは次のものに関連付けられます。

- ・サービス リダイレクト ポリシー:サービス リダイレクト ポリシー下のすべての宛先は、
 モニタリング ポリシーで設定された設定とパラメータに基づいてモニタされます。
- スタティックルート: IP SLA モニタリングポリシーをトラックリストまたはトラック メンバーに追加し、スタティックルートに関連付けることで、ルートのネクストホップ セグメントの可用性をモニタリングできます。

IP SLA モニタリングポリシーは、プローブの頻度とタイプを識別します。

ACI IP SLA モニタリング動作プローブ タイプ

ACIIP SLAを使用して、コア、分散、エッジといったネットワークの任意の領域間のパフォーマンスをモニタできます。モニタリングは、物理的なプローブを展開しなくても、時間と場所を問わず実行できます。ACIIP SLAは、生成されたトラフィックを使用して、スイッチなどの2つのネットワークデバイス間のネットワークパフォーマンスを測定します。IP SLA動作のタイプは次のとおりです。

- ICMP: エコープローブ
- TCP: プローブの接続

図 57: TCP 接続の動作例

TCP 接続動作

IP SLA TCP 接続動作は、シスコ スイッチと IP デバイス間の TCP プローブの実行に要する応 答時間を測定します。TCP は、信頼性の高い全二重データ伝送を行うトランスポート層(レイ ヤ4) インターネットプロトコルです。宛先デバイスは、IPを使用する任意のデバイスになり ます。

次の図では、設定されたスタティックルートに基づいて、スイッチBが送信元 IP SLA デバイ スとして設定されています。TCP接続動作は、IP SLA モニタリングポリシー(スタティック ルートに関連付けられている)で、宛先デバイスを IP ホスト1 として設定されます。



ト1からの応答を受信するまでの時間を測定して算出されます。

接続応答時間は、スイッチBからIPホスト1にTCP要求メッセージを送信してから、IPホス

ICMPエコー動作

Internet Control Message Protocol (ICMP) エコー動作は、IPv4 または IPv6 を使用する 2 台のデバイス間のエンドツーエンド応答時間を測定します。応答時間は、ICMP エコー要求メッセー

ジを宛先に送信して応答を受信するまでの時間を測定して算出します。ICMP エコーは、ネットワーク接続問題のトラブルシューティングに役立ちます。ICMP エコー動作の結果を表示および分析することで、ネットワーク IP 接続の実況状況を判断できます。

次の図では、ICMP エコー動作は ping ベースのプローブを使用して送信元 IP SLA デバイスと 宛先 IP デバイスの間の応答時間を測定します。多くのお客様が、応答時間の測定に IP SLA ICMP ベース動作、社内 ping テスト、または ping ベース専用プローブを使用しています。

図 58: ICMP エコー動作の例



IP SLA ICMP エコー動作と ICMP ping テストは同じ IETF 仕様に準拠しているので、どちらの 方法でも同じ応答時間が得られます。

IP SLA トラック メンバー

IP SLA トラック メンバーは、以下を識別します。

- ・追跡対象の IP アドレス
- IP SLA モニタリング ポリシー (プローブの頻度とタイプ)
- •スコープ(ブリッジドメインまたはL3Out)

IP SLA トラック リスト

IP SLA トラック リストは、モニタ対象のネットワーク セグメントを表す1つ以上の IP SLA トラック メンバーを集約します。トラック リストは、スタティック ルートを使用可能または 使用不可と見なすために必要なトラックメンバーのパーセンテージまたは重みを決定します。 しきい値のパーセンテージまたは重みに基づいてトラック リストが稼働している場合、スタ ティックルートはルーティングテーブルに残ります。トラックリストがダウンしている場合、
スタティック ルートは、トラック リストが回復するまでルーティング テーブルから削除され ます。

次に、しきい値パーセンテージオプションを使用して、トラックリストに4つのトラックメンバーを設定する例を示します。

しきい値の設定:

- •「Percentage Up」パラメータを 100 (パーセント) に設定します。
- •「Percentage Down」パラメータを 50 (パーセント) に設定します。

このトラック リストでは、4 つのトラック メンバーのそれぞれに 25% が割り当てられます。 トラックリストが到達不能(ダウン)になるには、4 つのトラックメンバーのうち2 つが到達 不能(50%)である必要があります。トラックリストが到達可能(アップ)に戻るには、4 つ のトラックメンバーすべてが到達可能(100%)である必要があります。

(注)

トラッキング リストがスタティック ルートに関連付けられ、トラッキング リストが到達不能 (ダウン)になると、トラッキング リストが再び到達可能になるまで、スタティック ルート はルーティング テーブルから削除されます。

IP SLA 設定コンポーネントの関連付けの例

ACI IP SLA は、トラックメンバーとトラックリストに基づいて、送信するプローブのタイプ と送信先を特定します。設定を計画すると、タスクを簡単かつ迅速に行うことができます。こ のセクションでは、IP SLA の設定方法を説明する例を使用します。

Cisco ACI IP SLA L3Out Example

次の図は、ACIファブリック内で外部エンドポイントを含む特定の設定済みスタティックルートのモニタリング/プローブを提供する Cisco ACI IP SLA を示しています。



次の図は、エンドポイントプレフィックス 192.168.13.1/24 のスタティック ルートを示してい ます。また、L3Out リーフ スイッチとコンシューマ エンドポイント間のスタティック ルート にあるルータのペアも示します。

図 60:スタティックルートの例



上の図に基づいて ACI IP SLA を設定するには、ルータをモニタして、コンシューマ エンドポ イントへの接続を確認する必要があります。これを行うには、スタティックルート、トラック メンバー、およびトラック リストを作成します。

・ネクストホップ 10.10.10.1 および 11.11.11.1 の 192.168.13.1/24 のスタティック ルート

- トラックメンバー1(TM-1)には、ルータのIPアドレス10.10.10.1が含まれています(これはネクストホッププローブです)。
- トラックメンバー2(TM-2)には、ルータのIPアドレス11.11.11.1が含まれています(これはネクストホッププローブです)。
- TM-1 および TM-2 を含むトラック リスト1(TL-1)(スタティック ルートに関連付けられたトラック リスト)。トラック リストには、設定されたプレフィックス エンドポイントに到達できるネクスト ホップのリストが含まれます。トラック リストが到達可能か到達不能かを決定するしきい値も設定されます)。
- TM-1を含むトラックリスト2(TL-2)(スタティックルートに含まれるネクストホップ エントリに関連付けられる)
- TM-2を含むトラックリスト3(TL-3)(スタティックルートに含まれるネクストホップ エントリに関連付けられる)

汎用スタティック ルートの場合、TL-1 をスタティック ルートに関連付け、TL-2 を 10.10.10.1 ネクストホップに関連付け、TL-3 を 11.11.11.1 ネクストホップに関連付けることができます。 特定のスタティック ルートのペア(両方とも 192.168.13.1/24)では、一方の TL-2 と他方の TL-3 を関連付けることができます。また、ルータのネクストホップに TL-2 と TL-3 が関連付 けられている必要があります。

これらのオプションを使用すると、1台のルータで障害が発生しても、障害発生時にバックアッ プルートを提供できます。トラックメンバーとトラックリストの詳細については、次のセク ションを参照してください。

IP SLA のガイドラインと制約事項

IP サービス レベル合意事項を計画および設定する場合は、次のガイドラインと制限事項を考慮してください。

- ・IP SLAは、IPv4アドレスと IPv6 アドレスの両方をサポートします。
- IP SLA は、-EX および -FX シャーシを含むすべての Cisco Nexus 第2世代スイッチでサ ポートされます。
- Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 4.1(1) 以降、IP SLA モニ タポリシーは IP SLA ポート値を検証します。検証のため、TCP が IP SLA タイプとして 設定されている場合、Cisco APICは以前のリリースで許可されていた IP SLA ポート値 0 を受け入れなくなります。IP SLA ポート値が 0 である以前のリリースの IP SLA モニタポ リシーは、Cisco APICがリリース 4.1(1) 以降にアップグレードされると無効になります。 これにより、設定のインポートまたはスナップショットのロールバックが失敗します。

回避策は、Cisco APICをアップグレードする前にゼロ以外のIP SLA ポート値を設定し、IP SLA ポートの変更後に取得されたスナップショットと設定のエクスポートを使用することです。

- IP SLA でリモート リーフ スイッチをサポートする場合は、グローバル GIPo を有効にす る必要があります。
- 1. メニューバーで、[システム (System)]>[システム設定 (System Settings)]を選択 します。
- [システム設定 (System Settings)]ナビゲーションウィンドウで[システムグローバル GIPo (System Global GIPo)]をクリックします。
- [システム グローバル GIPo ポリシー (System Global GIPo Policy)] 作業ウィンドウで [有効化 (Enabled)] をクリックします。
- [ポリシー使用警告(Policy Usage Warning)]ダイアログで、GIPoポリシーを使用する 可能性があるノードとポリシーを確認し、必要に応じて[変更の送信(Submit Changes)]をクリックします。
- [ファブリック(Fabric)]、[インベントリ(Inventory)]、[ポッド番号(Pod number)]、 [リーフノード名(LeafNode name)]、[プロトコル(Protocols)]、[IP SLA]、[ICMP エコー 操作(ICMP Echo Operations)]、または[TCP 接続操作(TCP Connect Operations)]で表示 される統計情報は、5分間隔でのみ収集できます。間隔のデフォルトは[15分]ですが、[5 分]に設定する必要があります。
- IP SLA ポリシーは、vPod 経由で接続されたエンドポイントではサポートされません。
- IP SLAは、単一のポッド、Cisco ACI Multi-Pod、およびリモートリーフスイッチでサポー トされます。
- 追跡対象の宛先 IP アドレスが接続されている場合、IP SLA はサポートされません。Cisco ACI マルチサイト
- ボーダーリーフスイッチに、VRFのMP-BGP(マルチプロトコルボーダーゲートウェイ プロトコル)で再配布される静的ルートがある場合、MP-BGPルートのアドミニストレー ティブディスタンスは、次に示すように、静的ルートと同じになります。

```
leaf102# show ip route 10.10.10.10/32 vrf test:VRF-1
IP Route Table for VRF "test:VRF-1"
'*' denotes best ucast next-hop
'**' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>
```

10.10.10.10/32, ubest/mbest: 1/0 *via 102.0.0.2, vlan45, [1/0], 01w00d, static

このルートは、VRF のファブリック MP-BGP ルートに挿入され、次に示すように、他の リモート リーフ スイッチによって iBGP ルートとして検出されます。

```
leaf103# show ip route 10.10.10.10/32 vrf test:VRF-1
IP Route Table for VRF "test:VRF-1"
'*' denotes best ucast next-hop
'**' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>
```

```
10.10.10.10/32, ubest/mbest: 1/0
```

Cisco APIC レイヤ3ネットワーク設定ガイド、リリース 5.2(x)

*via 10.0.200.64%overlay-1, [1/0], 01w00d, bgp-65310, internal, tag 65310
recursive next hop: 10.0.200.64/32%overlay-1

ただし、iBGP ルートのアドミニストレーティブ ディスタンスは、iBGP AD のアドミニス トレーティブ ディスタンスではなく、静的ルートのアドミニストレーティブ ディスタン スと同じです。

これは、APIC リリース 4.1(1) と APIC リリース 5.0(1) の両方で観察されました。

検証済み IP SLA 番号の詳細については、Cisco APIC のドキュメントページで該当する『Cisco APIC の検証済みスケーラビリティ ガイド』を参照してください。https://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/application-policy-infrastructure-controller-apic/tsd-products-support-series-home.html

スタティック ルートの ACI IP SLA の設定および関連付け

ここでは、次の IP SLA ポリシーおよびプロファイルを設定および関連付けるために必要なタ スクについて説明します。

- IP SLA モニターリング ポリシー
- IP SLA トラック メンバー
- IP SLA トラック リスト

前のコンポーネントは、スタティック ルートまたはネクスト ホップ プロファイルに適用され ます。

GUI を使用した IP SLA モニタリング ポリシーの設定

GUI を使用して()が特定の SLA タイプのモニタリング プローブを送信できるようにするに は、次の手順を実行します。Cisco Application Policy Infrastructure Controller APIC Cisco APIC

手順

- ステップ1 メニュー バーで [テナント (Tenant)]> [tenant_name] をクリックします。[ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]> [プロトコル (Protocol)]> [IP SLA]をク リックします。
- ステップ2 IP SLA Monitoring Policies を右クリックして、Create IP SLA Monitoring Policy をクリックします。
- ステップ3 Create IP SLA Monitoring Policy ダイアログボックスで、次の操作を実行します:
 - a) [名前(Name)] フィールドに、IP SLA モニタリング ポリシーの一意の名前を入力しま す。
 - b) SLA Type フィールドで、SLAタイプを選択します。

SLA タイプは、[TCP]、[ICMP]、[L2Ping]、または [HTTP] です。[ICMP] がデフォルト 値です。

- (注) [L2Ping] は、レイヤ 1/レイヤ 2 ポリシーベース リダイレクト (PBR) トラッ キングでのみサポートされます。
- c) SLA タイプに [HTTP] を選択した場合は、[HTTP バージョン(HTTP Version)] ボタンに バージョンを選択します。
- d) SLA タイプに [HTTP] を選択した場合は、[HTTP URI] フィールドに、サービス ノード トラッキングに使用する HTTP URI を入力します。

URIは「/index.html」のように「/」で始まる必要があります。

- e) SLA タイプに [TCP] を選択した場合は、[宛先 ポート(Destination Port)] フィールドに ポート番号を入力します。
- f) [SLA頻度(SLA Frequency)]フィールドに、パケットを追跡するために設定された頻度 を決定する値を秒単位で入力します。

範囲は、1~300です。デフォルト値は60です。HTTPトラッキングの最小頻度は5秒 です。

g) [検出乗数(Detect Multiplier)]フィールドに、失敗が検出されたか、またはトラックが ダウンしていることを示す、失敗したプローブの数を行に入力します。

デフォルトでは、3 つのプローブが連続して検出されなかった場合に障害が検出されま す。[検出乗数(Detect Multiplier)]フィールドの値を変更すると、行で検出されなかっ たプローブの数が変更されます。これにより、障害が検出されたタイミング、またはト ラックがダウンしていると見なされるタイミングが決まります。

[SLA頻度(SLA Frequency)]のエントリと組み合わせて使用すると、障害が検出される タイミングを決定できます。たとえば、これらのフィールドに次のエントリを入力した とします。

- •SLA 頻度(秒) (SLA Frequency (sec)):5
- 検出乗数(Detect Multiplier): 30

この例のシナリオでは、約150秒で障害が検出されます(5秒 x 30)。

- h) [TCP] 以外の SLA タイプを選択した場合は、[データ サイズ (バイト) の要求 (Request Data Size (bytes))] フィールドに、IP SLA 動作の要求パケットのペイロードに含まれ るプロトコル データのサイズをバイト単位で入力します。
- i) [サービスのタイプ (Type of Service)]フィールドに、IP SLA 動作の IPv4 ヘッダーのタ イプ オブ サービス (ToS) を入力します。
- j) [**処理タイムアウト(ミリ秒)**(**Operarion Timeout**(**milliseconds**))]フィールドに、要 求パケットの応答に対する IP SLA 処理の待機時間をミリ秒単位で指定します。
- k) Threshold (milliseconds) フィールドに、IP SLA 動作によって作成されるネットワーク モニターリング統計情報を計算するための上限しきい値を入力します。
- 1) [トラフィック クラス値(Traffic Class Value)] フィールドに、IPv6 ネットワークの IP SLA 動作の IPv6 ヘッダーのトラフィック クラス バイトを入力します。

m) [送信(Submit)]をクリックします。IP SLA モニタリング ポリシーが設定されます。

GUI を使用した IP SLA トラック メンバーの設定

このタスクを使用して、IP SLA トラック リストに追加された番号の1 つである IP SLA トラッ クメンバーを作成します。トラッキング リストはスタティック ルートに適用され、定義され たネクスト ホップ間のパフォーマンスをモニタします。

始める前に

IP SLA モニタリング ポリシーを作成し、スタティック ルートでこのトラック メンバーが表す ネクスト ホップの宛先 **IP** アドレスを知っている必要があります。

APIC GUI を使用して IP SLA トラック メンバーを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1 メニュー バーで、[テナント(Tenants)] > [*tenant-name*] をクリックします。
- **ステップ2** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]を展開した後で、[プロトコ ル (Protocol)]を展開します。
- **ステップ3** [IP SLA] を展開し、[トラック メンバー(Track Members)]を右クリックして[トラック メン バーの作成(Create Track Member)]を選択します。
- ステップ4 次のパラメータを設定します。
 - a) [名前(Name)]フィールドに、トラックメンバーの一意の名前を入力します。
 - b) [宛先 IP (Destination IP)]フィールドに、この設定が表すネクストホップの IP アドレスを 入力します。
 - c) [トラックメンバーのスコープ (Scope of Track Member)]ドロップダウン リストで、この トラック メンバーが属する既存のブリッジ ドメインまたは外部ネットワークを選択しま す。
 - d) [IP SLA ポリシー (IP SLA Policy)] フィールドで、既存のを選択するか、モニタリング中 に使用されるプローブを定義する新しい IP SLA モニタリング ポリシーを作成します。

ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。`

次のタスク

上記の手順を繰り返して、モニタするスタティック ルートに必要な数のトラック メンバーを 作成します。すべてのトラック メンバーを設定したら、トラック リストを作成して追加しま す。

GUI を使用した IP SLA トラック リストの設定

このタスクを使用して、スタティック ルートのネクスト ホップを表すトラック メンバーのグ ループを定義する IP SLA トラック リストを作成します。トラッキング リストはスタティック ルートに適用され、定義されたネクスト ホップ間のパフォーマンスをモニタします。

始める前に

1 つ以上の IP SLA トラック メンバーを作成しておく必要があります。

APIC GUI を使用して IP SLA トラック リストを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[tenant-name]をクリックします。
- **ステップ2** [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]を展開した後で、[プロトコ ル (Protocol)]を展開します。
- **ステップ3** [IP SLA] を展開し、[トラック リスト(Track Lists)]を右クリックして[トラック リストの作成(Create Track List)]を選択します。

[テナントの作成(Create Tenant)]ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ4 次のパラメータを設定します。
 - a) [名前 (Name)] フィールドに、トラック リストの一意の名前を入力します。
 - b) ルートの可用性をアップまたはダウンしているトラックメンバーのパーセンテージに基づいて設定する場合は、[トラックリストのタイプ(Type of Track List)]フィールドで、[しきい値パーセンテージ(Threshold percentage)]を選択します。ルートの可用性が各トラックメンバーに割り当てられた重み値に基づいている場合は、[しきい値の重み(Threshold weight)]を選択します。
 - c) メンバー リストを追跡する [トラック メンバー関係のトラック リスト (Track list to track member relation)] テーブルで、テーブル ヘッドの [+] アイコンをクリックして、トラック メンバーをリストに追加します。既存のトラック メンバーを選択し、[トラック リストの タイプ (Type of Track List)]が[しきい値の重み (Threshold weight)]の場合は、重み値を 割り当てます。
- ステップ5 [送信 (Submit)]をクリックします。`

次のタスク

スタティック ルートまたはネクスト ホップ IP アドレスにトラック リストを関連付けます。

GUIを使用したスタティック ルートとトラック リストの関連付け

このタスクを使用して、トラックリストを設定済みのスタティックルートに関連付け、システムが一連のネクストホップのパフォーマンスをモニタできるようにします。



始める前に

スタティックルートが設定されたルーテッドネットワークが使用可能である必要があります。 設定済みのトラックリストも使用できる必要があります。

APIC GUI を使用して IP SLA トラック リストをスタティック ルートに関連付けるには、次の 手順を実行します。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[tenant-name] をクリックします。
- **ステップ2** [ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[**ネットワーキング(Networking**)]、[**L3Outs**]の順 に展開します。
- ステップ3 設定済みのルーテッドネットワーク(名前)、[論理ノードプロファイル (Logical Node Profiles)]、設定済みの論理ノードプロファイル(名前)、および[設定済みノード (Configured Nodes)]を展開します。
- ステップ4 設定済みのノード(名前)をクリックします。

[ノード関連付け(Node Association)]作業ペインが表示されます。

ステップ5 [スタティックルート (Static Routes)] テーブルで、トラック リストを追加するルート エント リをダブルクリックします。

[スタティック ルート (Static Route)]ダイアログ ボックスが表示されます。

- **ステップ6** [トラック ポリシー(Track Policy)] ドロップダウン リストで、このスタティック ルートに関 連付ける IP SLA トラック リストを選択または作成します。
- ステップ7 [送信 (Submit)] をクリックします。`
- **ステップ8** [ポリシー使用の警告 (Policy Usage Warning)]ダイアログが表示されます。
- **ステップ9** この変更がこのスタティックルートを使用する他のノードまたはポリシーに影響を与えないことを確認し、[変更の送信(Submit Changes)]をクリックします。

GUIを使用した、トラックリストとネクストホッププロファイルの関 連付け

このタスクを使用して、トラックリストを設定済みのスタティックルートのネクストホップ プロファイルに関連付けると、システムがネクストホップのパフォーマンスをモニタできるようにします。

始める前に

スタティックルートとネクストホッププロファイルが設定されたルーテッドネットワークが 使用可能である必要があります。

APIC GUI を使用して IP SLA トラック リストをネクスト ホップ プロファイルに関連付けるに は、次の手順を実行します。

手順

- **ステップ1** メニュー バーで、[テナント(Tenants)] > [*tenant-name*] をクリックします。
- **ステップ2** [ナビゲーション(Navigation)]ペインで、[**ネットワーキング**(Networking)]、[L3Outs]の順 に展開します。
- ステップ3 設定済みのルーテッドネットワーク(名前)、[論理ノードプロファイル(Logical Node Profiles)]、設定済みの論理ノードプロファイル(名前)、および[設定済みノード(Configured Nodes)]を展開します。
- **ステップ4** 設定済みのノード(名前)をクリックします。

[ノード関連付け(Node Association)]作業ペインが表示されます。

ステップ5 [スタティックルート (Static Routes)]テーブルで、トラックリストを追加するルートエント リをダブルクリックします。

[スタティック ルート(Static Route)] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ6 [ネクストホップアドレス (Next Hop Addresses)]テーブルで、トラックリストを追加するネ クストホップエントリをダブルクリックします。

[ネクストホッププロファイル (Next Hop Profile)]ダイアログが表示されます。

- **ステップ7** [トラック ポリシー (Track Policy)]ドロップダウン リストで、このスタティック ルートに関 連付ける IP SLA トラック リストを選択または作成します。
 - (注) IP SLA ポリシーをネクスト ホップ プロファイルに追加すると、トラックメンバーとトラック リストが自動的に作成され、プロファイルに関連付けられます。
- **ステップ8** [送信(Submit)]をクリックします。`
- **ステップ9** [ポリシー使用の警告 (Policy Usage Warning)]ダイアログが表示されます。
- **ステップ10** この変更がこのスタティックルートを使用する他のノードまたはポリシーに影響を与えないことを確認し、[変更の送信(Submit Changes)]をクリックします。

ACI IP SLA モニタリング情報の確認

ここでは、IPSLA統計情報、トラックリスト、トラックメンバー、および関連するスタティックルートを表示するために必要なタスクについて説明します。

- GUI を使用した ACI IP SLA プローブ統計情報の表示
- CLI を使用したトラック リストおよびトラック メンバー ステータスの表示

GUI を使用した **IP SLA** プローブ統計情報の確認

ACI IP SLA は、次のリアルタイム統計情報を生成します。

ICMP

- ICMP エコー ラウンド トリップ時間(ミリ秒)
- 失敗した ICMP エコープローブ (パケット)の数
- 成功した ICMP エコー プローブ (パケット)の数
- 伝送した ICMP エコー プローブ (パケット)の数

[TCP]

- 失敗した TCP 接続プローブ (パケット) の数
- ・成功した TCP 接続プローブ (パケット)の数
- 伝送した TCP 接続プローブ (パケット)の数
- •TCP 接続ラウンドトリップ時間(ミリ秒)

このタスクを使用して、現在スタティックルートまたはネクストホップをモニタしている IP SLA トラックリストまたはメンバーの統計情報を表示します。

始める前に

統計情報を表示する前に、IP SLAトラック リストを作成し、スタティック ルートに関連付け る必要があります。

手順

- ステップ1 メニューバーで、[テナント(Tenants)]>[tenant-name]をクリックします。
- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)] セクションで、[ポリシー (Policies)]を展開した後で、[プロ トコル (Protocol)]を展開します。
- **ステップ3** [IP SLA] を展開し、[トラック メンバー(Track Members)] または[トラック リスト(Track Lists)] を展開します。
- ステップ4 表示する既存のトラックメンバーまたはトラックリストをクリックします。
- **ステップ5** [Stats] タブをクリックします。
- ステップ6 [統計情報の選択(Select Stats)]アイコンをクリックして、表示するプローブ統計タイプを選択します。

- ステップ7 プローブ統計タイプを選択し(選択した統計タイプは青色で強調表示されます)、矢印アイコ ンで[使用可能(Available)]から[選択済み(Selected)]に移動します。反対の矢印アイコン を使用して、プローブ統計タイプを[選択済み(Selected)]から[使用可能(Available)]に戻 すことができます。
- ステップ8 表示するプローブ統計タイプの選択が終了したら、[送信 (Submit)]をクリックします。

次のタスク

このタスクで選択された統計情報は、グラフの上の凡例に表示されます。カウンタが累積し始めると、選択したプローブ統計タイプを表す線がグラフに表示されます。



HSRP

この章は、次の項で構成されています。

- HSRP について (457 ページ)
- Cisco APIC と HSRP について (458 ページ)
- HSRP のバージョン (459 ページ)
- •注意事項と制約事項(460ページ)
- デフォルトの HSRP 設定 (461 ページ)
- GUI を使用した HSRP の設定 (462 ページ)

HSRP について

HSRP はファーストホップ冗長プロトコル (FHRP) であり、ファーストホップ IP ルータの透 過的なフェールオーバーを可能にします。HSRP は、デフォルト ルータの IP アドレスを指定 して設定された、イーサネット ネットワーク上の IP ホストにファーストホップ ルーティング の冗長性を提供します。ルータ グループでは HSRP を使用して、アクティブ ルータおよびス タンバイルータを選択します。ルータ グループでは、アクティブルータはパケットをルーティ ングするルータであり、スタンバイ ルータはアクティブ ルータに障害が発生したときや、プ リセット条件に達したときに使用されるルータです。

大部分のホストの実装では、ダイナミックなルータディスカバリメカニズムをサポートして いませんが、デフォルトのルータを設定することはできます。すべてのホスト上でダイナミッ クなルータディスカバリメカニズムを実行するのは、管理上のオーバーヘッド、処理上のオー バーヘッド、セキュリティ上の問題など、さまざまな理由で現実的ではありません。HSRPは、 そうしたホストにフェールオーバーサービスを提供します。

HSRP を使用するとき、ホストのデフォルト ルータとして HSRP 仮想 IP アドレスを設定しま す(実際のルータ IP アドレスの代わりに)。仮想 IP アドレスは、HSRP が動作するルータの グループで共有される IPv4 または IPv6 アドレスです。

ネットワーク セグメントに HSRP を設定する場合は、HSRP グループ用の仮想 MAC アドレス と仮想 IP アドレスを設定します。グループの各 HSRP 対応インターフェイス上で、同じ仮想 アドレスを指定します。各インターフェイス上で、実アドレスとして機能する固有の IP アド レスおよび MAC アドレスも設定します。HSRP はこれらのインターフェイスのうちの1つを アクティブ ルータにするために選択します。アクティブ ルータは、グループの仮想 MAC ア ドレス宛てのパケットを受信してルーティングします。

指定されたアクティブルータで障害が発生すると、HSRPによって検出されます。その時点で、選択されたスタンバイルータが HSRP グループの MAC アドレスおよび IP アドレスの制御を行うことになります。HSRPはこの時点で、新しいスタンバイルータの選択も行います。

HSRPではプライオリティ指示子を使用して、デフォルトのアクティブルータにする HSRP 設 定インターフェイスを決定します。アクティブルータとしてインターフェイスを設定するに は、グループ内の他のすべての HSRP 設定インターフェイスよりも高いプライオリティを与え ます。デフォルトのプライオリティは100 なので、それよりもプライオリティが高いインター フェイスを1つ設定すると、そのインターフェイスがデフォルトのアクティブルータになりま す。

HSRPが動作するインターフェイスは、マルチキャストユーザデータグラムプロトコル(UDP) ベースの hello メッセージを送受信して、障害を検出し、アクティブおよびスタンバイ ルータ を指定します。アクティブ ルータが設定された時間内に hello メッセージを送信できなかった 場合は、最高のプライオリティのスタンバイルータがアクティブルータになります。アクティ ブルータとスタンバイ ルータ間のパケット フォワーディング機能の移動は、ネットワーク上 のすべてのホストに対して完全に透過的です。

1 つのインターフェイス上で複数の HSRP グループを設定できます。仮想ルータは物理的には 存在しませんが、相互にバックアップするように設定されたインターフェイスにとって、共通 のデフォルトルータになります。アクティブルータの IP アドレスを使用して、LAN 上でホス トを設定する必要はありません。代わりに、仮想ルータの IP アドレス(仮想 IP アドレス)を ホストのデフォルトルータとして設定します。アクティブ ルータが設定時間内に hello メッ セージを送信できなかった場合は、スタンバイルータが引き継いで仮想アドレスに応答し、ア クティブ ルータになってアクティブ ルータの役割を引き受けます。ホストの観点からは、仮 想ルータは同じままです。



(注) ルーテッドポートで受信した HSRP 仮想 IP アドレス宛のパケットは、ローカルルータ上で終端します。そのルータがアクティブ HSRP ルータであるのかスタンバイ HSRP ルータであるのかは関係ありません。このプロセスには ping トラフィックと Telnet トラフィックが含まれます。レイヤ2(VLAN)インターフェイスで受信した HSRP 仮想 IP アドレス宛のパケットは、アクティブルータ上で終端します。

Cisco APIC と HSRP について

Cisco ACIのHSRPは、ルーテッドインターフェイスまたはサブインターフェイスでのみサポートされます。したがってHSRPは、レイヤ3Outでのみ設定できます。レイヤ2接続は、HSRPを実行している ACI リーフスイッチ間のレイヤ2スイッチなどの外部デバイスから提供される必要があります。HSRP は外部レイヤ2接続上でHelloメッセージを交換するリーフスイッチ上で動作するからです。HSRP の helloメッセージは、スパインスイッチではパススルーされません。



次に示すのは、Cisco APIC での HSRP の導入のトポロジの例です。

図 *61 : HSRP*の配置トポロジ

HSRP のバージョン

Cisco APICは、デフォルトで HSRP バージョン1をサポートします。HSRP バージョン2を使用するようにインターフェイスを設定できます。

HSRP バージョン2では、HSRP バージョン1から次のように拡張されています。

- ・グループ番号の範囲が拡大されました。HSRP バージョン1がサポートするグループ番号 は0~255です。HSRP バージョン2がサポートするグループ番号は0~4095です。
- IPv4 では、HSRP バージョン1で使用する IP マルチキャスト アドレス 224.0.0.2 の代わり に、IPv4 マルチキャストアドレス 224.0.0.102 または IPv6 マルチキャストアドレス FF02::66 を使用して hello パケットを送信します。
- IPv4 では 0000.0C9F.F000 ~ 0000.0C9F.FFFF、IPv6 アドレスでは 0005.73A0.0000 ~ 0005.73A0.0FFFの MAC アドレス範囲を使用します。HSRP バージョン1で使用する MAC アドレス範囲は、0000.0C07.AC00 ~ 0000.0C07.ACFF です。

注意事項と制約事項

次の注意事項と制約事項に従ってください。

- HSRP 状態は、HSRP IPv4 および IPv6 の両方で同じである必要があります。フェールオー バー後に同じ状態になるようにするには、プライオリティとプリエンプションを設定する 必要があります。
- ・現在、1個の IPv4 と1個の IPv6 グループのみが Cisco ACI の同じサブインターフェイスで サポートされています。デュアルスタックが設定されている場合でも、仮想 MAC は IPv4 および IPv6 HSRP の設定で同じである必要があります。
- HSRP ピアに接続しているネットワークが純粋なレイヤ2ネットワークである場合、BFD IPv4 および IPv6 がサポートされています。リーフスイッチでは、別のルータの MAC ア ドレスを設定する必要があります。BFD セッションは、リーフインターフェイスで異な る MAC アドレスを設定する場合にのみアクティブになります。
- ユーザーは、デュアルスタック設定のIPv4およびIPv6 HSRP グループに同じMACアドレスを設定する必要があります。
- ・HSRP VIP はインターフェイス IP と同じサブネット内にある必要があります。
- ・HSRP 設定のインターフェイス遅延を設定することをお勧めします。
- HSRPは、ルーテッドインターフェイスまたはサブインターフェイスでのみサポートされます。HSRPは、VLANインターフェイスおよびスイッチ済み仮想インターフェイス(SVI)ではサポートされていません。したがって、HSRPのVPCサポートは使用できません。
- •HSRPのオブジェクトトラッキングはサポートされていません。
- SNMP の HSRP 管理情報ベース (MIB) はサポートされません。
- ・HSRP では、複数グループの最適化(MGO) はサポートされていません。
- ICMP IPv4 および IPv6 のリダイレクトはサポートされていません。
- Cold Standby および Non-Stop Forwarding (NSF) は、Cisco ACI 環境で再起動できないため サポートされていません。
- HSRPはリーフスイッチでのみサポートされているため、拡張ホールドダウンタイマーの サポートはありません。HSRPはスパインスイッチでサポートされていません。
- APIC 内では、HSRP のバージョン変更はサポートされていません。設定を削除し、新し いバージョンを再設定する必要があります。
- HSRP バージョン 2 は HSRP バージョン 1 と相互運用できません。どちらのバージョンも相互に排他的なので、インターフェイスはバージョン 1 およびバージョン 2 の両方を運用できません。しかし、同一ルータの異なる物理インターフェイス上であれば、異なるバージョンを実行できます。

- ルートセグメンテーションは、HSRP がインターフェイスでアクティブな場合、Cisco Nexus 93128TX、Cisco Nexus 9396PX、および Cisco Nexus 9396TX リーフスイッチでプロ グラムされています。したがって、インターフェイスでルートパケットに実施する DMAC=router MAC チェックはありません。この制限は、Cisco Nexus 93180LC EX、Cisco Nexus 93180YC-EX、Cisco Nexus 93108TC EX リーフスイッチには適用されません。
- HSRP 設定は、基本的な GUI モードではサポートされていません。APIC リリース 3.0(1) 以降、基本的な GUI モードが廃止されました。
- ファブリックからレイヤ3アウトトラフィックは、状態に関係なくHSRPリーフスイッ チ全体で常にロードバランスします。HSRPリーフスイッチが複数のポッドにわたる場合、ファブリックからアウトトラフィックは同じポッドで常にリーフスイッチを使用します。
- この制限は、以前の Cisco Nexus 93128TX、Cisco Nexus 9396PX と Cisco Nexus 9396TX ス イッチの一部に適用されます。HSRP を使用すると、レイヤ2の外部デバイスのフラッピ ングを防ぐため、ルーテッドインターフェイスまたはルーテッドサブインターフェイス の MAC アドレスを1 個変更する必要があります。これは、インターフェイス論理プロ ファイルの下で論理インターフェイスごとに Cisco APIC が同じ MAC アドレス (00:22:BD:F8:19:FF)を割り当てるためです。

デ	フ	オ	ル	トの	HSRP	設定
---	---	---	---	----	-------------	----

パラメータ	デフォルト値
Version	1
Delay	0
Reload Delay	0
Interface Control	No 使用-焼き込みアドレス (BIA)
Group ID	0
Group Af	IPv4
IP Obtain Mode	admin
プライオリティ	100
Hello Interval	3000 ミリ秒
Hold Interval	10000 ミリ秒
Group Control	プリエンプションは無効
Preempt Delay	0

パラメータ	デフォルト値
Authentication Type	プレーン テキスト
Authentication Key Timeout	0
VMAC	導出方法 (HSRP グループ Id)

GUI を使用した HSRP の設定

リーフスイッチが設定されている場合、HSRP が有効になっています。

始める前に

- ・テナントと VRF が設定されています。
- VLAN プールは、適切な VLAN 範囲が定義され、レイヤ3ドメインが作成されて VLAN プールに接続されている状態で設定される必要があります。
- エンティティプロファイルの接続も、レイヤ3ドメインに関連付けられている必要があり ます。
- リーフスイッチのインターフェイスプロファイルは必要に応じて設定する必要があります。

手順

ステップ1 メニュー バーで、>[テナント]>[Tenant-name] をクリックします。[ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ネットワーキング(Networking)]>L3Outs>L3Out_name>[論 理ノードプロファイル(Logical Node Profiles)]>[論理インターフェイス プロファイル(Logical Interface Profile)]をクリックします。

ここで、HSRP インターフェイス プロファイルが作成されます。

- **ステップ2** 論理インターフェイス プロファイルを選択し、**Create HSRP Interface Profile** をクリックしま す。
- ステップ3 Create HSRPInterface Profile ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) Version フィールドで、該当するバージョンを選択します。
 - b) HSRP Interface Policy フィールドで、ドロップダウンから Create HSRP Interface Policy を 選択します。
 - c) Create HSRP Interface Policy ダイアログボックスの Name フィールドに、ポリシーの名前 を入力します。
 - d) Control フィールドで、該当するコントロールを選択します。
 - e) Delay フィールドと Reload Delay フィールドで、該当する値を設定します。Submit をク リックします。

HSRPインターフェイスポリシーが作成され、インターフェイスプロファイルに関連付けられます。

- ステップ4 Create HSRP Interface Profile ダイアログボックスで、HSRP Interface Groups を展開します。
- **ステップ5** Create HSRP Group Profile ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) Nameフィールドに、HSRP インターフェイスのグループ名を入力します。
 - b) Group ID フィールドで、適切な ID を選択します

使用可能な値は、HSRP バージョン1または2のバージョンのいずれがインターフェイス プロファイルに選択されたかに応じて異なります。

c) **IP**フィールドに、IPアドレスを入力します。

この IP アドレスはインターフェイスと同じサブネット内になければなりません。

- d) MAC Address フィールドに、Mac アドレスを入力します。
 - (注) このフィールドを空白のままにすると、HSRP 仮想 MAC アドレスはグループ ID に基づいて自動的に計算されます。
- e) [グループ名(Group Name)] フィールドにグループ名を入力します。

これは、HSRP MGO 機能の HSRP により、プロトコルで使用する名前です。

- f) Group Type フィールドで、該当するタイプを選択します。
- g) IP Obtain Mode フィールドで、該当するモードを選択します。
- h) HSRP Interface Policy フィールドで、ドロップダウンから Create HSRP Interface Policy を 選択します。
- **ステップ6** Create HSRP Group Policy ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - a) Name フィールドに、HSRP グループポリシーの名前を入力します。
 - b) Key or Password フィールドが自動的に設定されます。

認証タイプのデフォルト値はシンプルで、キーは、「cisco」です。これはユーザーが新規 ポリシーを作成するときに、デフォルトで選択されます。

- c) Type フィールドで、必要とするセキュリティのレベルを選択します。
- d) Priority フィールドで、アクティブルータとスタンバイルータを定義する優先度を選択し ます。
- e) 残りのフィールドで、該当する値を選択し、Submit をクリックします。 HSRP グループ ポリシーが作成されます。
- f) Secondary Virtual IPs フィールドに自動記入することにより、セカンダリバーチャル IP を 作成します。

これは、セカンダリ バーチャル IP で各サブインターフェイスで HSRP を有効にするため に使用できます。また、ここで指定する IP アドレスは、インターフェイスのサブネットに なければなりません。

g) OK をクリックします。

ステップ7 Create HSRP Interface Profile ダイアログボックスで、Submit をクリックします。

これで HSRP の設定は完了です。

ステップ8 [ナビゲーション]ペインで、作成した HSRP インターフェイスとグループポリシーを確認する には、[**ネットワーキング**(Networking)]>[プロトコルポリシー(Protocol Policies)]>[HSRP] をクリックします。



Cisco ACI GOLF

- Cisco ACI GOLF, on page 465
- DCIG への BGP EVPN タイプ 2 ホスト ルートの分散化, on page 472
- EVPN タイプ2ルートアドバタイズメントのトラブルシューティング, on page 474

Cisco ACI GOLF

Cisco ACI GOLF

Cisco ACI GOLF 機能 (ファブリック WAN のレイヤ 3 EVPN サービス機能とも呼ばれる) では、 より効率的かつスケーラブルな ACI ファブリック WAN 接続が可能になります。スパインス イッチに接続されている WAN に OSPF 経由で BGP EVPN プロトコルが使用されます。



すべてのテナント WAN 接続が、WAN ルータが接続されたスパインスイッチ上で単一のセッションを使用します。データセンター相互接続ゲートウェイ (DCIG) へのテナント BGP セッションのこの集約では、テナント BGP セッションの数と、それらすべてに必要な設定の量を 低減することによって、コントロールプレーンのスケールが向上します。ネットワークは、ス パインファブリック ポートに設定された レイヤ3サブインターフェイスを使用して拡張され ます。GOLFを使用した、共有サービスを伴うトランジットルーティングはサポートされてい ません。

スパインスイッチでの GOLF 物理接続のためのレイヤ3 外部外側ネットワーク (L3extOut) は、 infra テナントの下で指定され、次のものを含みます:

- ・LNodeP (infra テナントの L3Out では、13extInstP は必要ありません)。
- infra テナントの GOLF 用の L3extOut のプロバイダ ラベル。
- OSPF プロトコル ポリシー
- •BGP プロトコル ポリシー

すべての通常テナントが、上記で定義した物理接続を使用します。通常のテナントで定義した L3extOut では、次が必要です:

- ・サブネットとコントラクトを持つ 13extInstP (EPG)。サブネットの範囲を使用して、ルート制御ポリシーとセキュリティポリシーのインポートまたはエクスポートを制御します。 ブリッジドメインサブネットは外部的にアドバタイズするように設定される必要があり、 アプリケーション EPG および GOLF L3Out EPG と同じ VRF に存在する必要があります。
- アプリケーション EPG と GOLF L3Out EPG の間の通信は、(契約優先グループではなく) 明示的な契約によって制御されます。
- 13extConsLbl コンシューマラベル。これは infra テナントの GOLF 用の L3Out の同じプロ バイダラベルと一致している必要があります。ラベルを一致させることにより、他のテナ ント内のアプリケーション EPG が LNodeP 外部 L3Out EPG を利用することが可能になりま す。
- ・infra テナント内のマッチング プロバイダ L3extOut の BGP EVPN セッションは、この L3Out で定義されたテナント ルートをアドバタイズします。

注意事項と制約事項

次に示す GOLF のガイドラインおよび制限事項に従ってください。

- GOLF ルータは、トラフィックを受け入れるために少なくとも1つのルートを Cisco ACI にアドバタイズする必要があります。Cisco ACI が外部ルータからルートを受信するまで、 リーフスイッチと外部ルータの間にトンネルは作成されません。
- ・すべての Cisco Nexus 9000 シリーズ ACI モードのスイッチと、すべての Cisco Nexus 9500 プラットフォーム ACI モード スイッチライン カードおよびファブリック モジュールが GOLF をサポートします。Cisco APIC、リリース 3.1(x) 以降では、これに N9K-C9364C ス イッチが含まれます。
- ・現時点では、ファブリック全体のスパインスイッチインターフェイスに展開できるのは、
 単一の GOLF プロバイダ ポリシーだけです。
- APIC リリース 2.0(2) までは、GOLF はマルチポッドでサポートされていません。リリース 2.0 (2) では、同じファブリックでの 2 つの機能を、スイッチ名の末尾に「EX」のない Cisco Nexus N9000K スイッチ上でのみサポートしています。たとえば N9K-9312TX です。
 2.1(1) リリース以降では、2 つの機能を、マルチポッドおよび EVPN トポロジで使用されているすべてのスイッチでともに展開できるようになりました。
- スパインスイッチでGOLFを設定する場合、コントロールプレーンがコンバージするまでは、別のスパインスイッチでGOLFの設定を行わないでください。
- スパインスイッチは複数のプロバイダのGOLF外側ネットワーク(GOLF L3Outs)に追加 できますが、GOLF L3Out ごとのプロバイダラベルは異なっている必要があります。ま た、この例では、OSPFエリアもL3extOut ごとに異なっていて、異なるループバックアド レスを使用する必要があります。
- infraテナント内のマッチングプロバイダL3OutのBGPEVPNセッションは、このL3extOut で定義されたテナントルートをアドバタイズします。

- •3 つの GOLF Outs を展開する場合、1 つだけが GOLF, and 0/0 エクスポート集約のプロバ イダ/コンシューマラベルを持っているなら、APICはすべてのルートをエクスポートしま す。これは、テナントのリーフスイッチ上の既存の L3extOut と同じです。
- VRF インスタンスに SPAN 接続先がある ERSPAN セッションがあり、VRF インスタンス で GOLF が有効になっており、ERSPAN 送信元にスパイン スイッチ上のインターフェイ スがある場合、トランジット プレフィックスは非 GOLF L3Out から間違った BGP ネクス トホップで GOLF ルータに送信されます。
- スパインスイッチとデータセンター相互接続(DCI)ルータ間に直接ピアリングがある場合、リーフスイッチからASRへのトランジットルートには、リーフスイッチのPTEPとして次のホップが存在することになります。この場合、そのACIポッドのTEP範囲に対してASRの静的ルートを定義します。また、DCIが同じポッドにデュアルホーム接続されている場合は、静的ルートの優先順位(管理距離)は、他のリンクを通じて受信するルートと同じである必要があります。
- ・デフォルトの bgpPeerPfxPol ポリシーは、ルートを 20,000 に制限します。ACI WANイ ンターコネクト ピアの場合には、必要に応じてこれを増やしてください。
- 1つのスパインスイッチ上に2つのL3extOutが存在し、そのうちの一方のプロバイダラベルがprov1でDCI1とピアリングしており、もう一方のL3extOutのプロバイダラベルがprov2でDCI2とピアリングしているという、展開シナリオを考えます。テナントVRFに、プロバイダラベルのいずれか一方(prov1またはprov2)をポイントしているコンシューマラベルがある場合、テナントルートはDCI1とDCI2の両方に送信されます。
- GOLF OpFlex Vrfを集約する場合、ACIファブリックまたは GOLF OpFlex VRF とシステム 内のその他の VRF 間の GOLF デバイスでは、ルートのリーキングは発生しません。VRF リーキングのためには、(GOLF ルータではなく)外部デバイスを使用する必要がありま す。



(注) Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。したがって、外部ルータへの レイヤ 3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介した マルチポッド 接続 を設定する場合は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設定されていることが推 奨されます。Cisco ACI、Cisco NX-OS、Cisco IOS などの一部のプラットフォームでは、設定 可能な MTU 値はイーサネット ヘッダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネット ヘッダー サイ ズを除く)を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームには、設定された MTU 値にイーサネット ヘッダーが含まれています。設定された値が 9000の場合、Cisco ACI、 Cisco NX-OS Cisco IOS の最大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタグ なしインターフェイスの最大 IP パケットサイズは 8986 バイトになります。

各プラットフォームの適切なMTU値については、それぞれの設定ガイドを参照してください。

CLI ベースのコマンドを使用して MTU をテストすることを強く推奨します。たとえば、Cisco NX-OS CLI で ping 1.1.1.1 df-bit packet-size 9000 source-interface ethernet 1/1 などの コマンドを使用します。

Multi-Site サイト間の共有 GOLF 接続を使用する

複数のサイトで共有 APIC ゴルフ接続

トポロジでは、複数のサイト、APIC サイトの拡大 Vrf は、ゴルフ接続を共有している場合、 リスクのクロス VRF トラフィックの問題を回避する次のガイドラインに従います。

スパイン スイッチと、DCI の間でルート ターゲットの設定

ゴルフ Vrf の EVPN ルート ターゲット (RTs) を設定する 2 つの方法があります: 手動 RT と自動 RT. ルート ターゲットは、ACI 背表紙と OpFlex を介して DCIs の間で同期されます。ゴルフ Vrf の自動 RT は、形式に組み込まれて Fabric ID: – ASN: [FabricID] VNID

2 つのサイトには、次の図のように導入の Vrf がある、Vrf 間のトラフィックを混在させることができます。

サイト1	サイト2
ASN: 100、ファブリック ID: 1	ASN: 100、ファブリック ID: 1
VRF A : VNID 1000	VRF A: VNID 2000
インポート/エクスポートルートターゲット: 100:[1]1000	インポート/エクスポートルートターゲット: 100:[1]2000
VRF B : VNID 2000	VRF B : VNID 1000
インポート/エクスポートルートターゲット: 100:[1]2000	インポート/エクスポートルートターゲット: 100:[1]1000

Dciのために必要なルートマップ

トンネルは、中継ルートは、[DCI を介してリークとサイト間では作成されません、ため、コ ントロール プレーンの手間をも削減する必要があります。もう1つのサイトでゴルフスパイ ンに、DCI への1つのサイトでゴルフスパインから送信される EVPN タイプ 5 およびタイプ 2 ルートを送信できませんする必要があります。これが発生スパインスイッチに dci のために 次のタイプの BGP セッションが必要がある場合。

Site1: IBGP--DCI--EBGP--サイト2

Site1: EBGP--DCI--IBGP--サイト2

Site1:--DCI--EBGP EBGP--サイト2

Site1: IBGP RR クライアント--DCI (RR)----IBGP サイト2

Dciのためにこの問題を避けるためには、ルートマップは、インバウンドおよびアウトバウン ドのピア ポリシーのさまざまな BGP コミュニティで使用されます。

ルートを1つのサイト、もう1つのサイトフィルタ着信ピア ポリシーでコミュニティに基づ くルートでゴルフ スパインへのアウト バウンド ピア ポリシー ゴルフ スパインから受信しま す。別のアウト バウンド ピア ポリシーは、WAN ヘコミュニティを取り除き。すべてのルー ト マップは、ピアのレベルでです。

GUI を使用した ACI GOLF の設定

次に、任意のテナントネットワークが使用できるインフラ GOLF サービスを設定する手順に ついて説明します。

手順

- ステップ1 メニュー バーで、をクリックして テナント 、]をクリックし、 インフラ を選択、テナント インフラ。
- **ステップ2** [**ナビゲーション**(Navigation)]ペインで、[ネットワー キング(Networking)]オプションを 展開し、次のアクションを行います。
 - a) [L3Outs]を右クリックし、[L3Outの作成(Create L3Out)]をクリックして、[L3Outの作成 (Create L3Out)]ウィザードを開きます。
 - b) [名前 (Name)]、[VRF]、および [L3 ドメイン (L3 Domain)] フィールドに必要な情報を 入力します。
 - c) [用途: (Use For:)] フィールドで、[Golf] を選択します。

[プロバイダ ラベル (Provider Label)] フィールドと [ルート ターゲット (Route Target)] フィールドが表示されます。

- d) [プロバイダラベル (Provider Label)]フィールドに、プロバイダラベル (たとえば、golf) を入力します。
- e) **ルートターゲット** フィールドで、自動または明示的なポリシーを持つ BGP ルートター ゲットをフィルタリング ポリシーを使用するかどうかを選択します。
 - •自動 BGP ルート ターゲット Vrf でフィルタ リングは、これに関連付けられて いる実装は、外部設定をルーティングします。
 - 明示的な -ルートターゲットの明示的にフィルタリングの実装では、この設定の外部 ルーティングに関連付けられている Vrf に BGP ルート ターゲット ポリシーが設定さ れています。
 - (注) 明示的なルートターゲットポリシーが設定されている、BGPルートター ゲットプロファイル テーブルで、BGPページのVRFウィザードの作 成します。選択した場合、自動オプションでルートターゲット]フィー ルドで明示ルートターゲットポリシーの設定、VRFウィザードの作成 BGP ルーティングの中断を引き起こす可能性があります。
- f) 残りのフィールドはそのままにして(BGPを選択するなど)、[次へ(Next)]をクリック します。

[ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)] ウィンドウが表示されます。

- **ステップ3** [L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードの[ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)] ウィンドウに必要な情報を入力します。
 - a) [ノードID] ドロップダウンリストで、スパインスイッチノードID を選択します。
 - b) [Router ID] フィールドに、ルータ ID を入力します。
 - c) (任意) 必要に応じて、ループバック アドレスに別の IP アドレスを設定できます。

[ルータ ID (Router ID)]フィールドに入力したエントリと同じ内容が[ループバックアド レス (Loopback Address)]フィールドに自動で入力されます。これは以前のビルドでの [ループバックアドレスのルータ ID の使用 (Use Router ID for Loopback Address)]と同等 です。ループバックアドレスにルートIDを使用しない場合は、ループバックアドレスに別 のIPアドレスを入力します。ループバックアドレスにルータ ID を使用しない場合は、こ のフィールドを空のままにします。

- d) [外部コントロール ピア(External Control Peering)] フィールドはオンのままにします。
- e) [ノードとインターフェイス(Nodes and Interfaces)]ウィンドウに追加の必要な情報を入力 します。

このウィンドウに表示されるフィールドは、[レイヤ3 (Layer 3)]および[レイヤ2 (Layer 2)]領域で選択したオプションによって異なります。

f) [ノードとインターフェイス (Nodes and Interfaces)]ウィンドウで残りの追加の情報を入力 したら、[次 (Next)]をクリックします。

[プロトコル (Protocols)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ4 [L3Outの作成(Create L3Out)]ウィザードの[プロトコル(Protocols)]ウィンドウに必要な情報を入力します。
 - a) [BGP ループバック ポリシー (BGP Loopback Policies)]および [BGP インターフェイス ポ リシー (BGP Interface Policies)]領域で、次の情報を入力します。
 - ・ピアアドレス(Peer Address): ピア IP アドレスを入力します
 - EBGP Multihop TTL (EBGP マルチホップ TTL):接続の存続可能時間(TTL)を入 力します。範囲は1~255 ホップです。ゼロの場合、TTL は指定されません。デフォ ルトは0です。
 - リモート ASN (Remote ASN): ネイバー自律システムを固有に識別する番号を入力 します。自律システム番号は、プレーン形式の1~4294967295の4バイトにするこ とができます。
 - (注) ACI は asdot または asdot+ 形式の自律システム番号をサポートしません。
 - b) [OSPF]領域で、デフォルトOSPFポリシー、以前に作成したOSPFポリシー、または[OSPF インターフェイス ポリシーの作成(Create OSPF Interface Policy)]を選択します。
 - c) [次へ (Next)] をクリックします。

[外部 EPG (External EPG)] ウィンドウが表示されます。

- **ステップ5** [L3Out の作成(Create L3Out)] ウィザードで [外部 EPG(External EPG)] ウィンドウに必要な 情報を入力します。
 - a) Name フィールドに、外部ネットワークの名前を入力します。
 - b) [提供済みコントラクト (Provided Contract)] フィールドで、提供済みコントラクトの名 前を入力します。
 - c) [消費済みコントラクト (Consumed Contract)] フィールドで、消費済みコントラクトの 名前を入力します。
 - d) [すべてのサブネットを許可(Allow All Subnet)]フィールドで、このL3Out 接続からのす べての中継ルートをアドバタイズしない場合はオフにします。

このボックスをオフにすると、[Subnets]領域が表示されます。次の手順に従って、必要な サブネットとコントロールを指定します。

- e) [完了 (Finish)]をクリックして、[L3Out の作成 (Create L3Out)]ウィザードに必要な設 定の入力を完了させます。
- ステップ6 テナントの [ナビゲーション (Navigation)] ペインで、*tenant_name* > [ネットワー キング (Networking)] > L3Outs を展開し、次のアクションを行います。
 - a) [L3Outs]を右クリックし、[L3Out の作成(Create L3Out)]をクリックしてウィザードを開 きます。
 - b) [名前 (Name)]、[VRF]、および [L3 ドメイン (L3 Domain)] フィールドに必要な情報を 入力します。
 - c) [GOLF の使用(Use for GOLF)] フィールドの横にあるボックスをオンにします。
 - d) [ラベル (Label)]フィールドで、[コンシューマ (Consumer)]を選択します。
 - e) [コンシューマ ラベル]を割り当てます。この例では、(以前に作成した) golf を使用しま す。
 - f) [次へ (Next)]をクリックし、[完了 (Finish)]をクリックします。

DCIG への BGP EVPN タイプ2 ホスト ルートの分散化

DCIG への BGP EVPN タイプ2のホスト ルートの配信

APIC ではリリース 2.0(1f) まで、ファブリック コントロール プレーンは EVPN ホスト ルート を直接送信してはいませんでしたが、Data Center Interconnect Gateway (DCIG) にルーティン グしている BGP EVPN タイプ5 (IP プレフィックス)形式のパブリック ドメイン (BD)サブ ネットをアドバタイズしていました。これにより、最適ではないトラフィックの転送となる可 能性があります。転送を改善するため APIC リリース 2.1 x では、ファブリック スパインを有 効にして、パブリック BD サブネットとともに DCIG に EVPN タイプ2 (MAC-IP) ホストルー トを使用してホスト ルートをアドバタイズできます。

そのためには、次の手順を実行する必要があります。

- BGP アドレスファミリコンテキストポリシーを設定する際に、ホストルートリークを有効にします。
- 2. GOLF セットアップで BGP EVPN へのホスト ルートをリークする場合:
 - GOLF が有効になっている場合にホスト ルートを有効にするには、インフラストラク チャテナント以外に、BPG アドレスファミリ コンテキスト ポリシーがアプリケー ションテナント(アプリケーションテナントはコンシューマテナントであり、エン ドポイントを BGP EVPN にリークします)で設定されている必要があります。
 - 単一ポッドファブリックについては、ホストルート機能は必要ありません。ホストルート機能は、マルチポッドファブリックセットアップで最適ではない転送を避けるために必要です。ただし、単一ポッドファブリックがセットアップされる場合、エンドポイントから BGP EVPN にリークするため、ファブリック外部接続ポリシーを設定し ETEP IP アドレスを提供する必要があります。そうしないと、ホストルートは、BGP EVPN にはリークされません。
- 3. VRF のプロパティを設定する場合:
 - 1. IPv4 および IPv6 の各アドレス ファミリの BGP コンテキストに BGP アドレス ファミ リ コンテキスト ポリシーを追加します。
 - VRFからインポートまたはエクスポート可能なルートを特定するBGPルートターゲットプロファイルを設定します。

GUI を使用して DCIG への BGP EVPN タイプ2のホスト ルートを分散する

次の手順で BGP EVPN タイプ2のホスト ルートの分散を有効にします。

始める前に

インフラテナントでのACIのWAN相互接続サービスをすでに設定しており、サービスを使用 するテナントを設定している

手順

- ステップ1 メニュー バーで [テナント (Tenants)]>[インフラ (infra)]をクリックします。
- ステップ2 [ナビゲーション (Navigation)]ペインで、[ポリシー (Policies)]>[プロトコル (Protocol)]> [BGP]をクリックします。
- ステップ3 BGP Address Family Context を右クリックし、Create BGP Address Family Context Policy を選 択し、次の手順を実行します:
 - a) ポリシーの名前を入力し、必要に応じて説明を追加します。
 - b) Enable Host Route Leak チェック ボックスをクリックします。

c) Submit をクリックします。

- ステップ4 [テナント (Tenants)]>[tenant-name] (BGP アドレスファミリ コンテキスト ポリシーを使用 するテナント)をクリックし、[ネットワーキング (Networking)]を展開します。
- ステップ5 VRFを展開し、分散するホストルートを含む VRF をクリックします。
- ステップ6 VRF のプロパティを設定するときには、BGP Address Family Context Policy を IPv4 と IPv6 の BGP Context Per Address Families に追加します。
- ステップ7 [送信 (Submit)]をクリックします。

EVPN タイプ2ルート アドバタイズメントのトラブル シューティング

EVPN タイプ2ルート アドバタイズメントのトラブルシューティング

DCIG への EVPN タイプ2 ルート配布のトラブルシューティング

EVPNトポロジでのトラフィック転送を最適化するために、ファブリックスパインを有効にして、BGP EVPN タイプ5(IP プレフィックス)ルートの形式のパブリック BD サブネットとともに、EVPN タイプ2(MAC-IP)ルートを使用してホストルートをデータセンターインターコネクトゲートウェイ(DCIG)に配布できます。これは、HostLeak オブジェクトを使用して有効にします。ルート配布で問題が発生した場合は、このトピックの手順を使用してトラブルシューティングを行ってください。

手順

ステップ1 スパイン スイッチ CLI で次のようなコマンドを入力して、問題の VRF-AF で HostLeak オブ ジェクトが有効になっていることを確認します。

例:

spine1# ls /mit/sys/bgp/inst/dom-apple/af-ipv4-ucast/
ctrl-l2vpn-evpn ctrl-vpnv4-ucast hostleak summary

ステップ2 スパイン スイッチ CLI で次のようなコマンドを入力して、config-MO が BGP によって正常に 処理されたことを確認します。

例:

spine1# show bgp process vrf apple

出力は次のようになります。

Information for address family IPv4 Unicast in VRF apple Table Id : 0

Table state : UP : 3 Table refcount Peers Active-peers Routes Paths Networks Aggregates 0 0 0 0 0 0 Redistribution None Wait for IGP convergence is not configured GOLF EVPN MAC-IP route is enabled EVPN network next-hop 192.41.1.1 EVPN network route-map map pfxleakctrl v4 Import route-map rtctrlmap-apple-v4

ステップ3 パブリック BD サブネットが EVPN タイプ 5 ルートとして DCIG にアドバタイズされていることを確認します。

EVPN import route-map rtctrlmap-evpn-apple-v4

例:

spine1# show bgp 12vpn evpn 10.6.0.0 vrf overlay-1
Route Distinguisher: 192.41.1.5:4123 (L3VNI 2097154)
BGP routing table entry for [5]:[0]:[16]:[10.6.0.0]:[0.0.0.0]/224, version 2088
Paths: (1 available, best #1)
Flags: (0x000002 0000000) on xmit-list, is not in rib/evpn
Multipath: eBGP iBGP

Advertised path-id 1 Path type: local 0x4000008c 0x0 ref 1, path is valid, is best path AS-Path: NONE, path locally originated 192.41.1.1 (metric 0) from 0.0.0.0 (192.41.1.5) Origin IGP, MED not set, localpref 100, weight 32768 Received label 2097154 Community: 1234:444 Extcommunity: RT:1234:5101 4BYTEAS-GENERIC:T:1234:444

Path-id 1 advertised to peers: 50.41.50.1

パスタイプエントリで、ref1は、1つのルートが送信されたことを示します。

ステップ4 EVPN ピアにアドバタイズされたホスト ルートが EVPN タイプ2 MAC-IP ルートであったかど うかを確認します。

例:

```
spine1# show bgp l2vpn evpn 10.6.41.1 vrf overlay-1
Route Distinguisher: 10.10.41.2:100 (L2VNI 100)
BGP routing table entry for [2]:[0]:[2097154]:[48]:[0200.0000.0002]:[32]:[10.6.41
.1]/272, version 1146
Shared RD: 192.41.1.5:4123 (L3VNI 2097154)
Paths: (1 available, best #1)
Flags: (0x00010a 0000000) on xmit-list, is not in rib/evpn
Multipath: eBGP iBGP
Advertised path-id 1
Path type: local 0x400008c 0x0 ref 0, path is valid, is best path
AS-Path: NONE, path locally originated
EVPN network: [5]:[0]:[0]:[16]:[10.6.0.0]:[0.0.0.0] (VRF apple)
```

10.10.41.2 (metric 0) from 0.0.0.0 (192.41.1.5) Origin IGP, MED not set, localpref 100, weight 32768

```
Received label 2097154 2097154
Extcommunity:
RT:1234:16777216
```

Path-id 1 advertised to peers: 50.41.50.1

共有 RD 行は、EVPN タイプ2ルートと BD サブネットによって共有される RD/VNI を示します。

EVPN ネットワーク行は、BD-Subnet の EVPN タイプ 5 ルートを示しています。

ピアにアドバタイズされたパス ID は、EVPN ピアにアドバタイズされたパスを示します。

ステップ5 DCIGデバイスで次のようなコマンドを入力して、EVPNピア(DCIG)が正しいタイプ2MAC-IP ルートを受信し、ホストルートが特定のVRFに正常にインポートされたことを確認します (DCIG が以下の例の Cisco ASR 9000 スイッチ):

例:

```
RP/0/RSP0/CPU0:asr9k#show bgp vrf apple-2887482362-8-1 10.6.41.1
Tue Sep 6 23:38:50.034 UTC
BGP routing table entry for 10.6.41.1/32, Route Distinguisher: 44.55.66.77:51
Versions:
 Process
                   bRIB/RIB SendTblVer
 Speaker
                      2088
                                  2088
Last Modified: Feb 21 08:30:36.850 for 28w2d
Paths: (1 available, best #1)
 Not advertised to any peer
 Path #1: Received by speaker 0
 Not advertised to any peer
 Local
   192.41.1.1 (metric 42) from 10.10.41.1 (192.41.1.5)
     Received Label 2097154
     Origin IGP, localpref 100, valid, internal, best, group-best, import-candidate,
imported
     Received Path ID 0, Local Path ID 1, version 2088
     Community: 1234:444
     Extended community: 0x0204:1234:444 Encapsulation Type:8 Router
MAC:0200.c029.0101 RT:1234:5101
     RIB RNH: table id 0xe0000190, Encap 8, VNI 2097154, MAC Address: 0200.c029.0101,
IP Address: 192.41.1.1, IP table id 0x00000000
     Source AFI: L2VPN EVPN, Source VRF: default,
Source Route Distinguisher: 192.41.1.5:4123
この出力では、受信した RD、ネクスト ホップ、および属性は、タイプ 2 ルートと BD サブ
```

ネットで同じです。



レイヤ3ネットワーキングの注意事項

・レイヤ3ネットワーキングの注意事項(477ページ)

レイヤ3ネットワーキングの注意事項

レイヤ3外部接続を作成し、維持する際には、次のガイドラインを使用してください。

トピック	注意またはガイドライン
vPC ペアの境界リーフスイッチが、誤っ	設定に次の条件が存在する場合:
た VNID を持つ BGP パケットをピア上で 学習したエンドポイントに転送する問題	・2 つのリーフ スイッチが vPC ペアの一部である
	 L3Outの背後に接続されている2つのリーフスイッチの場合、宛先エンドポイントは2番目(ピア)の境界リーフスイッチに接続され、エンドポイントはそのリーフスイッチで学習されたピアです。
	ピアが学習したエンドポイント宛ての BGP パケットを受信する入力リーフスイッチでエンドポイントが学習した場合、L3Outの背後にある最初のレイヤ3スイッチ間で中継 BGP 接続が確立できないという問題が発生する可能性があります。および vPC ペアの2番目のリーフスイッチ上のピア上で学習されたエンドポイント。これは、ポート 179を持つ中継 BGP パケットが VRF VNID ではなくブリッジドメイン VNID を使用して誤って転送されるために発生します。
	この問題を解決するには、エンドポイントをファブリック内の他の非ピア リーフ スイッチに移動して、リーフ スイッチで学習されないようにしま す。

I

トピック	注意またはガイドライン
境界リーフ スイッチおよび GIR(メンテ ナンス)モード	境界リーフスイッチに静的ルートがあり、GIR(Graceful Insertion and Removal)モード、またはメンテナンスモードがある場合、境界リーフス イッチからのルートは ACI ファブリックにあるルーティング テーブルか ら削除されない可能性があり、ルーティングの問題が発生します。
	この問題を回避するには、次のいずれかを実行します。
	 その他の境界リーフスイッチで同じ管理ディスタンスを持つ同じ静的 ルートを設定するか、
	•静的ルートの次のホップへの到達性を追跡するためIPSLAまたはBFD を使用します
L3Out 集約統計情報は出力ドロップ カウ ンタをサポートしません	[テナント(Tenants)][tenant_name][ネットワーキング(Networking)] [L3Out][L3Out_name][統計情報(Stats)]を介して、[統計情報の選択(Select Stats)]ウィンドウにアクセスすると、L3Out 集約統計情報が出力ドロッ プカウンタをサポートしていないことがわかります。>>>>これは、 EPG VLAN からの出力ドロップを記録する ASIC に現在ハードウェアテー ブルがないため、これらのカウンタに統計情報が入力されないためです。 EPG VLAN の入力ドロップだけがあります。
CLI による更新	API または GUI で作成され CLI を通して更新されたレイヤ 3 外部ネット ワークについては、プロトコルは API または GUI を通して外部ネットワー クでグローバルに有効にする必要があり、CLI を介してさらに更新を行う 前に、すべての参加ノードのノード プロファイルは API または GUI を通 して追加される必要があります。
同じノード上のレイヤ3ネットワークの ループバック	同じノードで2つのレイヤ3の外部ネットワークを設定するときに、ルー プバックはレイヤ3ネットワークに別々に設定されます。
入力ベース ポリシーの適用	Cisco APIC リリース1.2(1)以降、入力ベースポリシーの適用により、出入 力両方向でレイヤ3アウトサイド(L3Out)トラフィックにポリシー適用 を定義できます。デフォルトでは入力になっています。リリース1.2(1)以 降にアップグレード中、既存のL3Out設定が出力に設定され、動作が既存 の設定と一致します。特別なアップグレードのシーケンスは必要ありませ ん。アップグレード後、グローバルプロパティ値を入力に変更します。変 更されると、システムがルールとプレフィックスエントリを再プログラミ ングします。規則は出力リーフから削除され、入力リーフ上に既存の規則 がない場合は、入力リーフ上にインストールされます。既存の設定がない 場合、Actrl プレフィックスエントリが入力リーフ上にインストールされ ます。ダイレクトサーバリターン(DSR)および属性 EPG には入力ベー スのポリシー適用が必要です。vzAnyと禁止コントラクトは、入力ベース のポリシー適用を契約無視します。入力には中継規則が適用されます。

I

トピック	注意またはガイドライン
L3Outs によるブリッジ ドメイン	テナントのブリッジドメインには、共通テナントでプロビジョニングされ ている 13extout によってアドバタイズされたパブリック サブネットを含 めることができます。
OSPF と EIGRP のブリッジ ドメイン ルー ト アドバタイズメント	OSPF と EIGRP の両方があるノード上の同じ VRF で有効であり、ブリッ ジ ドメインのサブネットがいずれか 1 つの L3Out からアドバタイズされ る場合、他のL3Out で有効になっているプロトコルからも同様にアドバタ イズされます。
	OSPF と EIGRP では、ブリッジ ドメイン ルート アドバタイズメントは VRF ごとに行われ、L3Out ごとには行われません。同じ VRF とノードで (複数エリアの) 複数の OSPF L3Out が有効になっている場合、これと同 じ動作が想定されます。この場合、ブリッジドメインのルートがいずれか の領域で有効になっていれば、すべての領域からアドバタイズされます。
BGP 最大プレフィックス制限	Cisco APICリリース 1.2 (1x) 以降、BGP 13extOut 接続のテナント ポリ シーは、最大プレフィックス制限を使用して設定できます。これにより、 ピアから受信されるルートプレフィックスの数をモニタし、制限すること ができます。最大プレフィックス制限を超えると、ログエントリが記録さ れ、さらにプレフィックスが拒否されます。カウントが一定の間隔でしき い値を下回る場合、接続を再起動することができますが、そうしない場合 接続がシャットダウンします。一度に1つのオプションだけを使用できま す。デフォルト設定では20,000 プレフィックスに制限され、その後は新し いプレフィックスは拒否されます。拒否オプションが導入されると、APIC でエラーが発生する前に BGP は設定されている制限よりも1つ多くプレ フィックスを受け入れます。

I

トピック	注意またはガイドライン
MTU	 Cisco ACI は IP フラグメンテーションをサポートしていません。した がって、外部ルータへのレイヤ 3 Outside (L3Out) 接続、または Inter-Pod Network (IPN) を介した マルチポッド 接続を設定する場合 は、インターフェイス MTU がリンクの両端で適切に設定されている ことが推奨されます。Cisco ACI、Cisco NX-OS、Cisco IOS などの一 部のプラットフォームでは、設定可能な MTU 値はイーサネット ヘッ ダー (一致する IP MTU、14-18 イーサネット ヘッダー サイズを除く) を考慮していません。また、IOS XR などの他のプラットフォームに は、設定された MTU 値にイーサネット ヘッダーが含まれています。 設定された値が 9000 の場合、Cisco ACI、Cisco NX-OS Cisco IOS の最 大 IP パケット サイズは 9000 バイトになりますが、IOS-XR のタグな しインターフェイスの最大 IP パケットサイズは 8986 バイトになりま す。
	 物理インターフェイスの MTU 設定は次のように異なります。Cisco ACI
	 ・サブインターフェイスの場合、物理インターフェイスの MTU は 固定され、リーフ スイッチの前面パネルポートでは 9216 に設定 されます。
	 SVIの場合、物理インターフェイスMTUはファブリックMTUポリシーに基づいて設定されます。たとえば、ファブリックMTUポリシーが9000に設定されている場合、SVIの物理インターフェイスは9000に設定されます。
L3Outs Ø QoS	L3Out 用の QoS ポリシーを設定し、L3Out が存在する BL スイッチで適用 されるポリシーを有効にするには、次の注意事項に従ってください。
	• VRF ポリシー制御の適用方向を 出力 に設定する必要があります。
	• VRF ポリシー制御適用の優先度設定を 有効 に設定する必要があります。
	 L3Outを使用してEPG間の通信を制御するコントラクトを設定する際に、コントラクトまたはコントラクトの件名にQoSクラスまたはター ゲットDSCPを含めます。
ICMP 設定	ICMP リダイレクトおよび ICMP 到達不能は、スイッチ CPU がこれらのパ ケットを生成しないように、デフォルトで無効になっています。Cisco ACI


NX-OS スタイル CLI を使用したタスクの実 行

- Part I: レイヤ3の設定(481ページ)
- ・パートII:外部ルーティング(L3Out)の設定(512ページ)

Partl: レイヤ3の設定

NX-OS スタイルの CLI を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定

NX-OS スタイルの CLI を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定

始める前に

・テナント、VRF、およびブリッジドメインが作成されていること。

手順

共通パーベイシブ ゲートウェイを設定します。

```
apic1#configure
apic1(config)#tenant demo
apic1(config-tenant)#bridge-domain test
apic1(config-tenant-bd)#12-unknown-unicast flood
apic1(config-tenant-bd)#arp flooding
apic1(config-tenant-bd)#exit
apic1(config-tenant)#interface bridge-domain test
apic1(config-tenant)#interface)#multi-site-mac-address 12:34:56:78:9a:bc
apic1(config-tenant-interface)#mac-address 00:CC:CC:CC:C1:01 (Should be unique for each
ACI fabric)
```

apic1(config-tenant-interface)#ip address 192.168.10.1/24 multi-site
apic1(config-tenant-interface)#ip address 192.168.10.254/24 (Should be unique for each
ACI fabric)

NX-OS Style CLI を使用した IP エージングの設定

NX-OS スタイル CLI を使用した IP エージング ポリシーの設定

このセクションでは、CLIを使用した IP エージング ポリシーを有効および無効にする方法を 説明します。

手順

ステップ1 IP エージング ポリシーを有効にするには:

例:

ifc1(config)# endpoint ip aging

ステップ2 IP エージング ポリシーを無効にするには:

例:

ifav9-ifc1(config) # no endpoint ip aging

次のタスク

エンドポイントの IP アドレスをトラッキングするために使用される間隔を指定するには、エ ンドポイント保持ポリシーを作成します。

NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジ ドメイン上のスタティック ルートの設定

NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジ ドメイン上のスタティック ルートの設定

パーベイシブ ブリッジ ドメイン (BD) でスタティック ルートを設定するには、NX-OS スタイ ルの次の CLI コマンドを使用します:

始める前に

テナント、VRF、BD および EPG が設定されています。

スタティックルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。

・サブネットマスクが/32にする必要があります (128/for IPv6)1つの IP アドレスまたは1つのエンドポイントをポイントします。これは、EPG に関連付けられている普及 BD で含まれています。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure 例: apicl# configure	コンフィギュレーション モードに入り ます。
ステップ 2	tenant <i>tenant-name</i> 例: apic1(config)# tenant t1	テナントを作成するか、テナント設定 モードに入ります。
ステップ3	application ap-name 例: apic1(config-tenant)# application ap1	アプリケーション プロファイルを作成 するか、アプリケーション プロファイ ル モードに入ります。
ステップ4	epg epg-name 例: apicl(config-tenant-app)# epg ep1 <> <a.b.c.d>[scope <scope>]</scope></a.b.c.d>	EPG を作成するか、EPG 設定モードに 入ります。
ステップ5	endpoint ipA.B.C.D/LEN next-hop A.B.C.D [scope scope] 例: apic1(config-tenant-app-epg)# endpoint ip 125.12.1.1/32 next-hop 26.0.14.101	EPG の背後にエンドポイントを作成し ます。サブネットマスクは/32 で (IPv6 の場合は/128)、1 つの IP アドレスまた は1つのエンドポイントをポイントして いる必要があります。

例

次の例は、EPG の背後にあるエンドポイントを設定するコマンドを示しています。

```
apic1# config
    apic1(config)# tenant t1
    apic1(config-tenant)# application ap1
    apic1(config-tenant-app)# epg ep1
    apic1(config-tenant-app-epg)# endpoint ip 125.12.1.1/32 next-hop 26.0.14.101
```

NX-OS Style CLI を使用した VRF ごとのデータプレーン IP ラーニングの 設定

NX-OS-Style CLI を使用したデータプレーン IP ラーニングの設定

このセクションでは、NX-OS-Style CLIを使用してデータプレーン IP ラーニングを無効にする 方法について説明します。

特定の VRF のデータプレーン IP ラーニングを無効にするには:

手順

ステップ1 コンフィギュレーション モードを開始します。

例:

apic1# config

ステップ2 特定のテナントのテナントモードに入ります。

例:

apic1(config) # tenant name

ステップ3 VRF のコンテキスト モードに入ります。

例:

apic1(config-tenant) # vrf context name

ステップ4 VRFのデータプレーン IP ラーニングを無効にします。

例:

apic1(config-tenant-vrf)# ipdataplanelearning disabled

NX-OS Style CLI を使用した IPv6 ネイバー探索の設定

NX-OS スタイル CLI を使用したブリッジ ドメイン上の IPv6 ネイバー検索によるテナント、VRF、ブリッジ ドメインの設定

手順

ステップ1 IPv6 ネイバー検索インターフェイス ポリシーを設定し、ブリッジ ドメインに割り当てます。
 a) IPv6 ネイバー検索インターフェイス ポリシーを作成します。

```
apic1(config)# tenant ExampleCorp
apic1(config-tenant)# template ipv6 nd policy NDPol001
apic1(config-tenant-template-ipv6-nd)# ipv6 nd mtu 1500
```

b) VRF およびブリッジ ドメインを作成します:

例:

```
apic1(config-tenant) # vrf context pvn1
apic1(config-tenant-vrf) # exit
apic1(config-tenant) # bridge-domain bd1
apic1(config-tenant-bd) # vrf member pvn1
apic1(config-tenant-bd) # exit
```

c) IPv6 ネイバー検索ポリシーをブリッジ ドメインに割り当てます。

例:

```
apic1(config-tenant)# interface bridge-domain bd1
apic1(config-tenant-interface)# ipv6 nd policy NDPol001
apic1(config-tenant-interface)#exit
```

ステップ2 サブネット上で IPV6 ブリッジ ドメイン サブネットおよびネイバー検索プレフィックス ポリ シーを作成します。

例:

```
apic1(config-tenant)# interface bridge-domain bd1
apic1(config-tenant-interface)# ipv6 address 34::1/64
apic1(config-tenant-interface)# ipv6 address 33::1/64
apic1(config-tenant-interface)# ipv6 nd prefix 34::1/64 1000 1000
apic1(config-tenant-interface)# ipv6 nd prefix 33::1/64 4294967295 4294967295
```

NX-OS スタイル CLI を使用したレイヤ3インターフェイス上の RA による IPv6 ネイバー探 索インターフェイス ポリシーの設定

この例では、IPv6 ネイバー検索インターフェイス ポリシーを設定し、レイヤ3インターフェ イスに割り当てます。次に、IPv6 レイヤ3アウトインターフェイス、ネイバー検索プレフィッ クスポリシーを設定し、インターフェイスにネイバー検索ポリシーを関連付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure	コンフィギュレーションモードに入り
	例: apic1# configure	ます。
ステップ2	tenant tenant_name 例:	テナントを作成し、テナントモードを 開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>apic1(config)# tenant ExampleCorp apic1(config-tenant)#</pre>	
ステップ3	template ipv6 nd policy policy_name	IPv6 ND ポリシーを作成します。
	例:	
	<pre>apic1(config-tenant)# template ipv6 nd policy NDPol001</pre>	
ステップ4	ipv6 nd mtu mtu value	IPv6NDポリシーにMTU値を割り当て
	例:	ます。
	<pre>apic1(config-tenant-template-ipv6-nd)# ipv6 nd mtu 1500 apic1(config-tenant-template-ipv6)# exit apic1(config-tenant-template)# exit apic1(config-tenant)#</pre>	
ステップ5	vrf context VRF_name	VRF を作成します。
	例:	
	<pre>apic1(config-tenant)# vrf context pvn1 apic1(config-tenant-vrf)# exit</pre>	
ステップ6	13out VRF_name	レイヤ3アウトを作成します。
	例:	
	apicl(config-tenant)# 13out 13extOut001	
ステップ 1	vrf member VRF_name	VRFをレイヤ3アウトインターフェイ
	例:	スに関連付けます。
	<pre>apic1(config-tenant-l3out)# vrf member pvnl apic1(config-tenant-l3out)# exit</pre>	
ステップ8	external-13 epg instp 13out 13extOut001	レイヤ3アウトおよびVRFをレイヤ3
	例:	インターフェイスに割り当てます。
	<pre>apic1(config-tenant)# external-13 epg instp 13out 13extOut001 apic1(config-tenant-13ext-epg)# vrf</pre>	

I

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>member pvn1 apic1(config-tenant-l3ext-epg) # exit</pre>	
ステップ9	leaf 2011	リーフスイッチモードを開始します。
	例:	
	apicl(config)# leaf 2011	
ステップ10	vrf context tenant <i>ExampleCorp</i> vrf <i>pvn1</i> l3out <i>l3extOut001</i>	VRF をリーフ スイッチに関連付けま す。
	例:	
	apic1(config-leaf)# vrf context tenant ExampleCorp vrf pvnl l3out l3extOut001	
	apic1(config-leaf-vrf)# exit	
ステップ11	int <i>eth</i> 1/1	インターフェイスモードに入ります。
	例:	
	<pre>apic1(config-leaf)# int eth 1/1 apic1(config-leaf-if)#</pre>	
ステップ 12	<pre>vrf member tenant ExampleCorp vrf pvn1</pre>	インターフェイスで関連付けられてい
	13out 13extOut001	るテナント、VRF、レイヤ3Outを指 定します
	ניפן :	
	<pre>apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant ExampleCorp vrf pvn1 l3out l3extOut001</pre>	
ステップ13	ipv6 address 2001:20:21:22::2/64 preferred	プライマリまたは優先 Ipv6 アドレスを 指定します。
	例:	
	<pre>apic1(config-leaf-if)# ipv6 address 2001:20:21:22::2/64 preferred</pre>	
ステップ14	ipv6 nd prefix 2001:20:21:22::2/64 1000 1000	レイヤ 3 インターフェイス下で IPv6 ND プレフィックス ポリシーを設定し
	例:	ます。
	apic1(config-leaf-if)# ipv6 nd prefix	

	コマンドまたはアクション	目的
	2001:20:21:22::2/64 1000 1000	
ステップ15	inherit ipv6 nd <i>NDPol001</i> 例:	レイヤ 3 インターフェイス下で ND ポ リシーを設定します。
	<pre>apic1(config-leaf-if)# inherit ipv6 nd NDPol001 apic1(config-leaf-if)# exit apic1(config-leaf)# exit</pre>	

設定が完了します。

NX-OS Style CLI を使用した Microsoft NLB の設定

NX-OS Style CLI を使用したユニキャスト モードでのMicrosoft NLB の設定

このタスクは、ブリッジドメインのすべてのポートに Microsoft NLB がフラッドするように設 定します。

始める前に

これらの手順を進める前に次の使用可能な情報を準備してください。

- Microsoft NLB クラスタ VIP
- Microsoft NLB クラスタ MAC アドレス

	-
コマンドまたはアクション	目的
configure	コンフィギュレーション モードに入り
例:	ます。
apic1# configure	
tenant tenant-name	存在しない場合はテナントを作成しま
例:	す。または、テナントコンフィギュレー
apic1 (config)# tenant tenant1	ション モードを開始します。
application app-profile-name	存在しない場合はアプリケーションプ
例:	ロファイルを作成します。または、アプ
apic1 (config-tenant)# application app1	リケーション ブロファイル コンフィ ギュレーション モードを開始します。
	コマンドまたはアクション configure 例: apicl# configure tenant tenant-name 例: apicl (config)# tenant tenant1 application app-profile-name 例: apicl (config-tenant)# application app1

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ4	epg <i>epg-name</i> 例: apicl (config-tenant-app)# epg epg1	存在しない場合は EPG を作成します。 または、EPG コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ5	<pre>[no] endpoint {ip ipv6} ip-address epnlb mode mode-uc mac mac-address 例 : apic1 (config-tenant-app-epg)# endpoint ip 192.0.2.2/32 epnlb mode mode-uc mac 03:BF:01:02:03:04</pre>	 Microsoft NLB をユニキャストモードで 設定します。 <i>ip-address</i> はMicrosoft NLB クラスタ VIP です。 <i>mac-address</i> は Microsoft NLB クラス タ MAC アドレスです。

NX-OS Style CLI を使用したマルチキャスト モードでのMicrosoft NLB の設定

このタスクは、ブリッジドメインの特定のポートでのみ Microsoft NLB がフラッドするように 設定します。

始める前に

これらの手順を進める前に次の使用可能な情報を準備してください。

- Microsoft NLB クラスタ VIP
- Microsoft NLB クラスタ MAC アドレス

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure 例: apicl# configure	コンフィギュレーション モードに入り ます。
ステップ 2	tenant tenant-name 例: apicl (config)# tenant tenant1	存在しない場合はテナントを作成しま す。または、テナントコンフィギュレー ション モードを開始します。
ステップ3	application app-profile-name 例: apic1 (config-tenant)# application appl	存在しない場合はアプリケーションプ ロファイルを作成します。または、アプ リケーションプロファイル コンフィ ギュレーション モードを開始します。

コマンド	またはアクション	目的
ステップ4 epg epg-nd 例: apic1 (co	ame nfig-tenant-app) # epg epg1	存在しない場合は EPG を作成します。 または、EPG コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ5 [no] endpo mode mod 例: apic1 (cor ip 192.0 mode-mcas 03:BF:01:	<pre>point {ip ipv6} ip-address epnlb le-mcaststatic mac mac-address nfig-tenant-app-epg) # endpoint 0.2.2/32 epnlb mode ttstatic mac 02:03:04</pre>	スタティック マルチキャスト モードで Microsoft NLB を設定します。 • <i>ip-address</i> はMicrosoft NLB クラスタ VIP です。 • <i>mac-address</i> は Microsoft NLB クラス タ MAC アドレスです。
ステップ6 [no] nld st leaf-num in port-cham portEncap 例: apicl (co static-gr 102 inter	<pre>tatic-group mac-address leaf interface {ethernet slot/port nel port-channel-name} vlan Vlan anfig-tenant-app-epg) # nlb roup 03:BF:01:02:03:04 leaf fface ethernet 1/12 vlan 19</pre>	 Microsoft NLB マルチキャスト VMAC を、Microsoft NLB サーバが接続されて いる EPG ポートに追加します。 mac-address は、入力したMicrosoft NLBクラスタのMACアドレスです。 ステップ5 (490 ページ) leaf-numは、追加または削除するイ ンターフェイスを含むリーフスイッ チです。 port-channel-nameは、port-channel オ プションを使用する場合のポート チャネルの名前です。 portEncapVlanは、アプリケーション EPG のスタティックメンバのカプ セル化 VLAN です。

NX-OS Style CLI を使用した IGMP モードでの Microsoft NLB の設定

このタスクは、ブリッジドメインの特定のポートでのみ Microsoft NLB がフラッドするように 設定します。

始める前に

これらの手順を進める前に次の使用可能な情報を準備してください。

- Microsoft NLB クラスタ VIP
- Microsoft NLB クラスタ MAC アドレス

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure 例: apicl# configure	コンフィギュレーション モードに入り ます。
ステップ2	tenant tenant-name 例: apicl (config)# tenant tenant1	存在しない場合はテナントを作成しま す。または、テナントコンフィギュレー ション モードを開始します。
ステップ3	application app-profile-name 例: apic1 (config-tenant)# application app1	存在しない場合はアプリケーションプ ロファイルを作成します。または、アプ リケーションプロファイル コンフィ ギュレーション モードを開始します。
ステップ4	epg epg-name 例: apic1 (config-tenant-app)# epg epg1	存在しない場合は EPG を作成します。 または、EPG コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ5	<pre>[no] endpoint {ip ipv6} ip-address epnlb mode mode-mcast-igmp group multicast-IP-address 例: apic1 (config-tenant-app-epg)# endpoint ip 192.0.2.2/32 epnlb mode mode-mcast-igmp group 1.3.5.7</pre>	Microsoft NLB を IGMP モードで設定し ます。 • <i>ip-address</i> はMicrosoft NLB クラスタ VIP です。 • <i>multicast-IP-address</i> は、NLB エンド ポイント グループのマルチキャス ト IP です。

手順

NX-OS Style CLI を使用した IGMP スヌーピングの設定

NX-OS スタイル CLI を使用した IGMP スヌーピング ポリシーの設定とブリッジ ドメイン への割り当て

始める前に

- ・IGMP スヌーピングのポリシーを消費するテナントを作成します。
- IGMP スヌーピング ポリシーを接続するテナントのブリッジ ドメインを作成します。

_	
-	
_	шы
	~~~

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<pre>デフォルト値に基づいてスヌーピング ポリシーを作成します。 例: apicl(config-tenant)# template ip igmp snooping policy cookieCutl apicl(config-tenant-template-ip-igmp-snooping)# show run all # Command: show running -config all tenant foo template ip igmp snooping policy cookieCutl # Time: Thu Oct 13 18:26:03 2016 tenant t_10 template ip igmp snooping policy cookieCut1 ip igmp snooping no ip igmp snooping fast-leave ip igmp snooping fast-leave ip igmp snooping querier ip igmp snooping querier ip igmp snooping querier ip igmp snooping query-max-response-time 10 ip igmp snooping startup-query-interval 31 no description exit exit apicl(config-tenant-template-ip-igmp-snooping)#</pre>	<ul> <li>例のNX-OS スタイル CLI シーケンス:</li> <li>・デフォルト値を持つ cookieCutl という名前の IGMP スヌーピングポリシーを作成します。</li> <li>・ポリシー cookieCutl のデフォルト IGMP スヌーピングの値が表示されます。</li> </ul>
ステップ2	必要に応じてスヌーピングポリシーを 変更します。 例: apicl(config-tenant-template-ip-igmp-snooping)# ip igmp snooping query-interval 300 apicl(config-tenant-template-ip-igmp-snooping)# show run all # Command: show running -config all tenant foo template ip igmp snooping policy cookieCut1 #Time: Thu Oct 13 18:26:03 2016 temant foo template ip igmp snooping policy cookieCut1 ip igmp snooping no ip igmp snooping fast-leave ip igmp snooping last-member-query-interval 1 no ip igmp snooping querier	<ul> <li>例のNX-OS スタイル CLI シーケンス:</li> <li>cookieCut1 という名前の IGMP ス ヌーピング ポリシーのクエリ間隔 値のカスタム値を指定します。</li> <li>ポリシー cookieCut1 の変更された IGMP スヌーピング値を確認しま す。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
	ip igmp snooping query-interval 300	
	<pre>ip igmp snooping query-max-response-time 10</pre>	
	exit apic1(config-tenant-template-ip-igmp-snooping)# exit apic1(configtenant)#	
ステップ3	必要に応じてスヌーピング ポリシーを	例のNX-OS スタイル CLI シーケンス:
	変更します。 例:	• IGMPスヌーピングポリシーのクエ リ バージョンのカスタム値を指定 します
	apicl (config-tenant-template-ip-igmp-snooping) # ip igmp snooping ? <cr> fast-leave Enable IP IGMP Snooping fast leave processing last-member-query-interval Change the IP IGMP snooping last member query interval param querier Enable IP IGMP Snooping querier processing query-interval Change the IP IGMP snooping query interval param query-max-response-time Change the IP IGMP snooping max query response time startup-query-count Change the IP IGMP snooping number of initial queries to send startup-query-interval Change the IP IGMP snooping time for sending initial queries version Change the IP IGMP snooping version param</cr>	します。 ・ポリシーの変更された IGMP スヌー ピング バージョンを確認します。
	<pre>apic1(config-tenant-template-ip-igmp-snooping)# ip igmp snooping version ? v2 version-2 v3 version-3 apic1(config-tenant)# show run # Command: show running-config tenant tenant1 # Time: Mon Jun 1 01:53:53 2020 tenant tenant1         <snipped></snipped></pre>	
	interface bridge-domain amit_bd ip address 10.175.31.30/24 secondary ip address 100.175.31.1/32	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>secondary snooping-querier</pre>	
ステップ4	ブリッジ ドメインにポリシーを割り当 てます。 例: apicl(config-tenant)# int bridge-domain bd3 apicl(config-tenant-interface)# ip igmp snooping policy cookieCutl	<ul> <li>例のNX-OS スタイル CLI シーケンス:</li> <li>・ブリッジドメインの BD3 に移動します。IGMPスヌーピングポリシーのクエリ間隔値は cookieCutl という名前です。</li> <li>・ポリシー cookieCutl の変更されたIGMPスヌーピングの値を持つIGMPスヌーピングのポリシーを割り当てます。</li> </ul>

#### 次のタスク

複数のブリッジドメインに IGMP スヌーピングのポリシーを割り当てることができます。

### NX-OS スタイル CLI によりスタティック ポートで IGMP スヌーピングおよびマルチキャ ストの有効化

EPGに静的に割り当てられたポートでIGMPスヌーピングおよびマルチキャストをイネーブル にできます。それらのポートで有効なIGMPスヌーピングおよびマルチキャストトラフィック へのアクセスを許可または拒否するアクセスユーザーのグループを作成および割り当てること ができます。

このタスクで説明されている手順には、次のエンティティの事前設定を前提とします。

- ・テナント:tenant_A
- アプリケーション: application_A
- EPG : epg_A
- ブリッジ ドメイン: bridge_domain_A

- vrf : vrf_A -- a member of bridge_domain_A
- •VLAN ドメイン: vd_A (300 ~ 310 の範囲で設定される)
- ・リーフスイッチ:101およびインターフェイス1/10

スイッチ 101 のターゲット インターフェイス 1/10 が VLAN 305 に関連付けられており、 enant_A、application_A、epg_A に静的にリンクされています。

・リーフスイッチ:101およびインターフェイス1/11

```
スイッチ 101 のターゲット インターフェイス 1/11 が VLAN 309 に関連付けられており、
enant_A、application_A、epg_A に静的にリンクされています。
```

#### 始める前に

EPG に IGMP スヌーピングおよびマルチキャストを有効にする前に、次のタスクを実行します。

・この機能を有効にして静的に EPG に割り当てるインターフェイスを特定する

# 

(注) スタティックポートの割り当てに関する詳細は、『Cisco APIC レ イヤ2ネットワーキング設定ガイド』の「NX-OS スタイル CLI を 使用した APIC で特定のポートの EPG を展開する」を参照してく ださい。

• IGMP スヌーピング マルチキャスト トラフィックの受信者の IP アドレスを特定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	ターゲットインターフェイスで IGMP スヌーピングおよびレイヤ2マルチキャ スティングを有効にします 例: apicl# conf t apicl(config)# tenant tenant_A apicl(config-tenant)# application application_A apicl(config-tenant-app)# epg epg_A apicl(config-tenant-app-epg)# ip igmp snooping static-group 225.1.1.1 leaf 101 interface ethernet 1/10 vlan 305 apicl(config-tenant-app-epg)# end apicl# conf t apicl(config)# tenant tenant_A;	<ul> <li>例のシーケンスでは次を有効にします。</li> <li>静的にリンクされているターゲット インターフェイス 1/10 の IGMP ス ヌーピング、そしてマルチキャスト IP アドレス、225.1.1.1 に関連付け ます</li> <li>静的にリンクされているターゲット インターフェイス 1/11 の IGMP ス ヌーピング、そしてマルチキャスト IP アドレス、227.1.1.1 に関連付け ます</li> </ul>
	application application_A; epg epg_A apic1(config-tenant-app-epg)# ip igmp snooping static-group 227.1.1.1 leaf	

コマンドまたはアクション	目的
<pre>101 interface ethernet 1/11 vlan 309 apic1(config-tenant-app-epg)# exit apic1(config-tenant-app)# exit</pre>	

### NX-OS スタイル CLI を使用した IGMP スヌーピングおよびマルチ キャスト グループへの アクセスの有効化

EPGに静的に割り当てられたポートでIGMPスヌーピングおよびマルチキャストを有効にした 後、それらのポートで有効なIGMPスヌーピングおよびマルチキャストトラフィックへのアク セスを許可または拒否するユーザーのアクセス グループを作成および割り当てできます。

このタスクで説明されている手順には、次のエンティティの事前設定を前提とします。

- ・テナント:tenant_A
- •アプリケーション: application_A
- EPG : epg_A
- ブリッジ ドメイン: bridge_domain_A
- vrf : vrf_A -- a member of bridge_domain_A
- •VLAN ドメイン: vd_A (300~310の範囲で設定される)
- ・リーフスイッチ:101およびインターフェイス1/10

スイッチ 101 のターゲット インターフェイス 1/10 が VLAN 305 に関連付けられており、 enant_A、application_A、epg_A に静的にリンクされています。

・リーフスイッチ:101およびインターフェイス1/11

スイッチ 101 のターゲット インターフェイス 1/11 が VLAN 309 に関連付けられており、 enant_A、application_A、epg_A に静的にリンクされています。



(注) スタティックポートの割り当てに関する詳細は、『Cisco APIC レイヤ2ネットワーキング設定 ガイド』の「NX-OS スタイル CLI を使用した APIC で特定のポートの EPG を展開する」を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	route-map「アクセス グループ」を定義	例のシーケンスを設定します。
	します。	・マルチキャスト グループ
	例:	225.1.1.1/24 にリンクされる
	apic1# conf t	Route-map-access グループ
	apici (coniig) # cenanc cenanc A,	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>application application_A; epg epg_A apicl(config-tenant) # route-map fooBroker permit apicl(config-tenant-rtmap) # match ip multicast group 225.1.1.1/24 apicl(config-tenant-rtmap) # exit apicl(config-tenant) # route-map fooBroker deny apicl(config-tenant-rtmap) # match ip multicast group 227.1.1.1/24 apicl(config-tenant-rtmap) # match ip</pre>	「foobroker」のアクセスが許可され ています。 ・マルチキャスト グループ 225.1.1.1/24 にリンクされる Route-map-access グループ 「foobroker」のアクセスが拒否され ています。
ステップ2	ルートマップ設定を確認します。 例: apicl(config-tenant)# show running-config tenant test route-map fooBroker # Command: show running-config tenant test route-map fooBroker # Time: Mon Aug 29 14:34:30 2016 tenant test route-map fooBroker permit 10 match ip multicast group 225.1.1.1/24 exit route-map fooBroker deny 20 match ip multicast group 227.1.1.1/24 exit exit	
ステップ3	アクセス グループ接続パスを指定しま す。 例: apicl(config-tenant)# application application_A apicl(config-tenant-app)# epg epg_A apicl(config-tenant-app-epg)# ip igmp snooping access-group route-map fooBroker leaf 101 interface ethernet 1/10 vlan 305 apicl(config-tenant-app-epg)# ip igmp snooping access-group route-map newBroker leaf 101 interface ethernet 1/10 vlan 305	<ul> <li>例のシーケンスを設定します。</li> <li>リーフスイッチ101、インターフェ イス1/10、VLAN 305 で接続されて いる Route-map-access グループ 「foobroker」。</li> <li>リーフスイッチ101、インターフェ イス1/10、VLAN 305 で接続されて いる Route-map-access グループ 「newbroker」。</li> </ul>
ステップ4	アクセスグループ接続を確認します。 例: apic1(config-tenant-app-epg)# show run # Command: show running-config tenant tenant_A application application_A epg epg_A # Time: Mon Aug 29 14:43:02 2016 tenant tenent_A application_application_A	

コマンドまたはアクション
epg epg_A
bridge-domain member
bridge_domain_A
in imp encoding passage group
IP Ignp Shooping access-group
route-map toobroker teat tot interface
ethernet 1/10 Vian 305
ip igmp snooping access-group
route-map fooBroker leaf 101 interface
ethernet 1/11 vlan 309
ip igmp snooping access-group
route-map newBroker leaf 101 interface
ethernet 1/10 vlan 305
ip igmp snooping static-group
225.1.1.1 leaf 101 interface ethernet
1/10 vlan 305
ip igmp snooping static-group
225.1.1.1 leaf 101 interface ethernet
1/11 vlan 309
exit
exit
exit

# NX-OS Style CLI を使用した MLD スヌーピングの設定

NX-OS Style CLI を使用したブリッジ ドメインに対する MLD スヌーピング ポリシーの設 定と割り当て

始める前に

- MLD スヌーピングのポリシーを消費するテナントを作成します。
- MLD スヌーピング ポリシーを接続するテナントのブリッジ ドメインを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure terminal	コンフィギュレーションモードに入り
	例:	ます。
	<pre>apic1# configure terminal apic1(config)#</pre>	
ステップ2	tenant tenant-name	テナントを作成するか、テナント設定
	例:	モードに入ります。
	apic1(config)# <b>tenant tn1</b> apic1(config-tenant)#	

I

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ <b>3</b>	<pre>template ipv6 mld snooping policy policy-name 例: apicl(config-tenant)# template ipv6 mld snooping policy mldPolicy1 apicl(config-tenant-template-ip-mld-snooping)#</pre>	MLD スヌーピング ポリシーを作成し ます。例の NX-OS スタイルの CLI シー ケンスは、mldPolicy1 という名前の MLD スヌーピング ポリシーを作成し ます。
ステップ4	[no] ipv6 mld snooping 例: apic1 (config-tenant-template-ip-mld-snooping) # ipv6 mld snooping apic1 (config-tenant-template-ip-mld-snooping) # no ipv6 mld snooping	MLD スヌープ ポリシーの管理状態を 有効または無効にします。デフォルト のステートはディセーブルです。
ステップ5	[no] ipv6 mld snooping fast-leave 例: apic1 (config-tenant-template-ip-mld-snooping)# ipv6 mld snooping fast-leave apic1 (config-tenant-template-ip-mld-snooping)# no ipv6 mld snooping fast-leave	IPv6 MLD スヌーピング ファストリー ブ処理を有効または無効にします。
ステップ6	<pre>[no] ipv6 mld snooping querier 例: apicl (config-tenant-template-ip-mld-snooping)# ipv6 mld snooping querier apicl (config-tenant-template-ip-mld-snooping)# no ipv6 mld snooping querier</pre>	IPv6 MLD スヌーピング クエリア処理 を有効または無効にします。有効にす るクエリアオプションを割り当て済み のポリシーで効果的に有効にするに は、ステップ14 (501ページ) で説明 されているように、ポリシーを適用す るブリッジドメインに割り当てられる サブネットでもクエリアオプションを 有効にする必要があります。
ステップ1	ipv6 mld snooping last-member-query-interval parameter 例: apic1 (config-tenant-template-ip-mld-snooping) # ipv6 mld snooping last-member-query-interval 25	IPv6 MLD スヌーピングの最終メンバー クエリー間隔パラメータを変更しま す。NX-OS スタイルの CLI シーケンス の例では、IPv6 MLD スヌーピングの 最後のメンバーのクエリー間隔パラ メータが 25 秒に変更されます。有効な オプションは1~25 です。デフォルト 値は1秒です。
ステップ8	ipv6 mld snooping query-interval parameter 例:	IPv6 MLD スヌーピング クエリー間隔 パラメータを変更します。NX-OS スタ イルの CLI シーケンス例では、IPv6 MLDスヌーピングクエリ間隔パラメー

	コマンドまたはアクション	目的
	apicl(config-tenant-template-ip-mld-snooping)# ipv6 mld snooping query-interval 300	タを 300 秒に変更します。有効なオプ ションは 1 ~ 18000 です。デフォルト 値は 125 秒です。
ステップ <b>9</b>	<pre>ipv6 mld snooping query-max-response-time parameter 例: apic1(config-tenant-template-ip-mld-snooping)# ipv6 mld snooping query-max-response-time 25</pre>	IPv6MLDスヌーピングの最大クエリー 応答時間を変更します。NX-OSスタイ ルのCLIシーケンスの例では、IPv6 MLDスヌーピングの最大クエリ応答時 間が25秒に変更されます。有効なオプ ションは1~25です。デフォルトは 10秒です。
ステップ <b>10</b>	ipv6 mld snooping startup-query-count parameter 例: apic1 (config-tenant-template-ip-mld-snooping)# ipv6 mld snooping startup-query-count 10	送信する初期クエリーの IPv6 MLD ス ヌーピング数を変更します。NX-OS ス タイルの CLI シーケンスの例では、最 初のクエリの IPv6 MLD スヌーピング 数を10に変更します。有効なオプショ ンは1~10です。デフォルトは2で す。
ステップ <b>11</b>	ipv6 mld snooping startup-query-interval parameter 例: apicl (config-tenant-template-ip-mld-snooping)# ipv6 mld snooping startup-query-interval 300	初期クエリーを送信するための IPv6 MLDスヌーピング時間を変更します。 NX-OS スタイルの CLI シーケンスの例 では、最初のクエリを送信するための IPv6 MLD スヌーピング時間が 300 秒 に変更されます。有効なオプションは 1~18000 です。デフォルト値は 31 秒 です。
ステップ <b>12</b>	exit 例: apic1(config-tenant-template-ip-mld-snooping)# exit apic1(config-tenant)#	設定モードに戻ります。
ステップ <b>13</b>	<pre>interface bridge-domain bridge-domain-name 例: apic1(config-tenant)# interface bridge-domain bdl apic1(config-tenant-interface)#</pre>	インターフェイスブリッジドメインを 設定します。例の NX-OS スタイルの CLI シーケンスは、bd1 という名前の インターフェイスブリッジドメインを 設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ <b>14</b>	<pre>ipv6 address sub-bits/prefix-length snooping-querier 例: apic1(config-tenant-interface)# ipv6 address 2000::5/64 snooping-querier</pre>	ブリッジドメインをスイッチクエリア として設定します。これにより、ポリ シーが適用されるブリッジドメインに 割り当てられたサブネットでクエリア オプションが有効になります。
ステップ <b>15</b>	<pre>ipv6 mld snooping policy policy-name 例: apic1(config-tenant-interface)# ipv6 mld snooping policy mldPolicy1</pre>	ブリッジ ドメインを MLD スヌーピン グ ポリシーに関連付けます。例の NX-OS スタイルの CLI シーケンスは、 mldPolicy1 という名前の MLD スヌーピ ングポリシーにブリッジドメインを関 連付けます。
ステップ <b>16</b>	exit 例: apicl(config-tenant-interface)# exit apicl(config-tenant)#	設定モードに戻ります。

## NX-OS Style CLI を使用した IP マルチキャストの設定

### NX-OS スタイルの CLI を使用したレイヤ3マルチキャストの設定

手順

ステップ1 コンフィギュレーション モードを開始します。

例:

apic1# configure

**ステップ2** テナントの設定モード、VRF の設定モードは、および PIM オプションの設定モードに入ります。

例:

```
apic1(config)# tenant tenant1
apic1(config-tenant)# vrf context tenant1_vrf
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim fast-convergence
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim bsr forward
```

ステップ3 IGMP を設定し、VRF に適切な IGMP オプションを設定します。

apicl(config-tenant-vrf)# ip igmp apicl(config-tenant-vrf)# exit apicl(config-tenant)# interface bridge-domain tenant1_bd apicl(config-tenant-interface)# ip multicast apicl(config-tenant-interface)# ip igmp fast-leave apicl(config-tenant-interface)# ip igmp inherit interface-policy igmp_intpol1 apicl(config-tenant-interface)# ip igmp inherit interface-policy igmp_intpol1

ステップ4 テナントのL3 Out モードに入り、PIM を有効にし、リーフインターフェイス モードに入りま す。このインターフェイスの PIM を設定します。

#### 例:

```
apic1 (config-tenant) # 13out tenant1_13out
apic1 (config-tenant-13out) # ip pim
apic1 (config-tenant-13out) # exit
apic1 (config-tenant) # exit
apic1 (config) #
apic1 (config) # leaf 101
apic1 (config-leaf) # interface ethernet 1/125
apic1 (config-leaf-if) ip pim inherit interface-policy pim_intpol1
```

ステップ5 IGMP コマンドを使用して、インターフェイスの IGMP を設定します。

#### 例:

```
apic1(config-leaf-if)# ip igmp fast-leave
apic1(config-leaf-if)# ip igmp inherit interface-policy igmp_intpol1
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
```

ステップ6 ファブリック RP を設定します。

#### 例:

```
apic1(config)# tenant tenant1
apic1(config-tenant)# vrf context tenant1_vrf
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim fabric-rp-address 20.1.15.1 route-map intervrf-ctx2
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim fabric-rp-address 20.1.15.2 route-map intervrf-ctx1
apic1(config-tenant-vrf)# exit
```

ステップ7 Inter-VRF マルチキャストを設定します。

#### 例:

```
apic1(config-tenant)# vrf context tenant1_vrf
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim inter-vrf-src ctx2 route-map intervrf-ctx2
apic1(config-tenant-vrf)# route-map intervrf-ctx2 permit 1
apic1(config-tenant-vrf)# match ip multicast group 226.20.0.0/24
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(config-tenant)# exit
apic1(config-tenant)# exit
apic1(config-tenant)# exit
```

これにより、APICのレイヤ3マルチキャストの設定を完了します。

### NX-OS Style CLI を使用したレイヤ 3 IPv6 の設定

#### 始める前に

- ・目的のVRF、ブリッジドメイン、IPv6アドレスを持つレイヤ3Outインターフェイスは、 PIM6が有効になるように設定する必要があります。レイヤ3Outの場合、IPv6マルチキャストが機能するために、論理ノードプロファイルのノードにIPv6ループバックアドレスが設定されます。
- ・基本的なユニキャストネットワークを設定する必要があります。

#### 手順

ステップ1 VRF で PIM6 を有効にし、ランデブーポイント(RP)を設定します。

#### 例:

```
apic1(config)# tenant tenant1
apic1(config-tenant)# vrf context tenant1_vrf
apic1(config-tenant-vrf)# ipv6 pim
apic1(config-tenant-vrf)# ipv6 rp-address 2018::100:100:100:100 route-map ipv6_pim_routemap
```

ステップ2 PIM6 インターフェイス ポリシーを設定し、レイヤ 3 Out に適用します。

例:

```
apicl(config-tenant)# l3out tenant1_l3out
apicl(config-tenant-l3out)# ipv6 pim
apicl(config-tenant-l3out)# exit
apicl(config-tenant)# exit
apicl(config)#
apicl(config)# leaf 101
apicl(config-leaf)# interface ethernet 1/125
apicl(config-leaf-if) ipv6 pim inherit interface-policy pim6_intpol1
```

ステップ3 BD で PIM6 を有効にします。

#### 例:

```
apic1(config-tenant)# interface bridge-domain tenant1_bd
apic1(config-tenant-interface)# ipv6 multicast
apic1(config-tenant)# exit
apic1(config)#
```

PIM6を使用したレイヤ3IPv6マルチキャストが有効になります。

#### NX-OS スタイルの CLI を使用したマルチキャスト フィルタリングの構成

ブリッジ ドメイン レベルでマルチキャスト フィルタリングを設定します。このトピックの手順を使用して、ブリッジ ドメイン レベルで送信元フィルタリングまたは受信者フィルタリン グ、あるいはその両方を設定します。

#### 始める前に

- マルチキャストフィルタリングを設定するブリッジドメインはすでに作成されています。
- •ブリッジ ドメインは PIM 対応ブリッジ ドメインです。
- ・レイヤ3マルチキャストはVRFレベルで有効になります。

#### 手順

ステップ1 コンフィギュレーション モードを開始します。

apic1# configure
apic1(config)#

**ステップ2** テナントにアクセスし、PIM を有効にします。

```
apic1(config)# tenant tenant-name
apic1(config-tenant)# vrf context VRF-name
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(config-tenant)#
```

#### 例:

```
apic1(config)# tenant t1
apic1(config-tenant)# vrf context v1
apic1(config-tenant-vrf)# ip pim
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(config-tenant)#
```

**ステップ3** マルチキャスト フィルタリングを構成するブリッジ ドメインにアクセスします。

```
apic1(config-tenant) # bridge-domain BD-name
apic1(config-tenant-bd) #
```

```
apic1(config-tenant) # bridge-domain bdl
apic1(config-tenant-bd) #
```

- **ステップ4** マルチキャスト [送信元] または [受信者] のフィルタリングを有効にするかどうかを決定します。
  - (注) 送信元フィルタリングと受信先フィルタリングの両方を同じブリッジドメインで有効にできます。
    - このブリッジドメインでマルチキャスト送信元フィルタリングを有効にする場合は、次の 例のように入力します。

apic1(config-tenant-bd)# src-filter source-route-map-policy 次に例を示します。

apic1(config-tenant-bd)# src-filter routemap-Mcast-src

 このブリッジドメインでマルチキャスト送信元フィルタリングを有効にする場合は、次の 例のように入力します。

apic1(config-tenant-bd)# dst-filter destination-route-map-policy

次に例を示します。

apic1(config-tenant-bd)# dst-filter routemap-Mcast-dst

ステップ5 IPv4 のマルチキャストを有効にします。

apic1(config-tenant-bd)# mcast-allow
apic1(config-tenant-bd)#

ステップ6 VRF にブリッジ ドメインを関連付けます。

apic1(config-tenant-bd)# vrf member VRF-name
apic1(config-tenant-bd)# exit
apic1(config-tenant)#

#### 例:

```
apic1(config-tenant-bd)# vrf member v1
apic1(config-tenant-bd)# exit
apic1(config-tenant)#
```

ステップ1 ブリッジ ドメインでマルチキャストを有効にします。

```
apic1(config-tenant)# interface bridge-domain BD-name
apic1(config-tenant-interface)# ip multicast
apic1(config-tenant-interface)# exit
apic1(config-tenant)#
```

#### 例:

apic1(config-tenant)# interface bridge-domain bd1

```
apic1(config-tenant-interface) # exit
           apic1(config-tenant)#
ステップ8 ルートマップを設定します。
           apic1 (config-tenant) # route-map destination-route-map-policy <permit/deny> sequence number
           apic1(config-tenant-rtmap)# match ip multicast <source/group> IP_address_subnet
           <source/group> IP address subnet
           apic1(config-tenant-rtmap)# exit
           apic1(config-tenant) # exit
           apic1(config)#
           例:
           apic1(config-tenant) # route-map routemap-Mcast-src permit 1
           apic1(config-tenant-rtmap)# match ip multicast source 10.10.1.1/24 group 192.1.1.1/32
          apic1(config-tenant-rtmap)# exit
          apic1(config-tenant) # route-map routemap-Mcast-dst permit 1
          apic1(config-tenant-rtmap)# match ip multicast group 192.2.2/32
           apic1(config-tenant-rtmap)# exit
           apic1(config-tenant) # exit
```

```
apic1(config)#
```

# NX-OS Style CLI を使用したマルチポッドの設定

### NX-OS CLI を使用したマルチポッド ファブリックのセットアップ

apic1(config-tenant-interface) # ip multicast

#### 始める前に

・ノード グループ ポリシーと L3Out ポリシーがすでに作成されています。

#### 手順

**ステップ1** 次の例に示すように、マルチポッドを設定します。

```
ifav4-ifc1# show run system
# Command: show running-config system
# Time: Mon Aug 1 21:32:03 2016
system cluster-size 3
system switch-id FOX2016G9DW 204 ifav4-spine4 pod 2
system switch-id SAL1748H56D 201 ifav4-spine1 pod 1
system switch-id SAL1803L25H 102 ifav4-leaf2 pod 1
system switch-id SAL1931LA3B 203 ifav4-spine2 pod 2
system switch-id SAL1934MNY0 103 ifav4-leaf4 pod 1
system switch-id SAL1934MNY3 104 ifav4-leaf4 pod 1
system switch-id SAL1938P7A6 202 ifav4-spine3 pod 1
```

```
system switch-id SAL1938PHBB 105 ifav4-leaf5 pod 2
system switch-id SAL1942R857 106 ifav4-leaf6 pod 2
system pod 1 tep-pool 10.0.0/16
system pod 2 tep-pool 10.1.0.0/16
ifav4-ifc1#
```

ステップ2 次の例のよ、VLAN ドメインを設定します。

#### 例:

```
ifav4-ifc1# show running-config vlan-domain l3Dom
# Command: show running-config vlan-domain l3Dom
# Time: Mon Aug 1 21:32:31 2016
vlan-domain l3Dom
vlan 4
exit
ifav4-ifc1#
```

```
ステップ3次の例のよ、ファブリックの外部接続を設定します。
```

#### 例:

```
ifav4-ifc1# show running-config fabric-external
# Command: show running-config fabric-external
# Time: Mon Aug 1 21:34:17 2016
  fabric-external 1
   bgp evpn peering
   pod 1
     interpod data hardware-proxy 100.11.1.1/32
     bgp evpn peering
     exit
    pod 2
     interpod data hardware-proxy 200.11.1.1/32
     bgp evpn peering
     exit
    route-map interpod-import
     ip prefix-list default permit 0.0.0/0
     exit
   route-target extended 5:16
   exit
ifav4-ifc1#
```

ステップ4 スパイン スイッチインターフェイスと次の例のよの OSPF 設定を構成します。

```
# Command: show running-config spine
# Time: Mon Aug 1 21:34:41 2016
 spine 201
   vrf context tenant infra vrf overlay-1
     router-id 201.201.201.201
     exit
   interface ethernet 1/1
     vlan-domain member 13Dom
     exit
   interface ethernet 1/1.4
     vrf member tenant infra vrf overlay-1
      ip address 201.1.1.1/30
     ip router ospf default area 1.1.1.1
     ip ospf cost 1
     exit
   interface ethernet 1/2
     vlan-domain member 13Dom
     exit
   interface ethernet 1/2.4
```

vrf member tenant infra vrf overlay-1 ip address 201.2.1.1/30 ip router ospf default area 1.1.1.1 ip ospf cost 1 exit router ospf default vrf member tenant infra vrf overlay-1 area 1.1.1.1 loopback 201.201.201.201 area 1.1.1.1 interpod peering exit exit exit spine 202 vrf context tenant infra vrf overlay-1 router-id 202.202.202.202 exit interface ethernet 1/2 vlan-domain member 13Dom exit interface ethernet 1/2.4 vrf member tenant infra vrf overlay-1 ip address 202.1.1.1/30 ip router ospf default area 1.1.1.1 exit router ospf default vrf member tenant infra vrf overlay-1 area 1.1.1.1 loopback 202.202.202.202 area 1.1.1.1 interpod peering exit exit exit spine 203 vrf context tenant infra vrf overlay-1 router-id 203.203.203.203 exit interface ethernet 1/1 vlan-domain member 13Dom exit interface ethernet 1/1.4 vrf member tenant infra vrf overlay-1 ip address 203.1.1.1/30 ip router ospf default area 0.0.0.0 ip ospf cost 1 exit interface ethernet 1/2 vlan-domain member 13Dom exit interface ethernet 1/2.4 vrf member tenant infra vrf overlay-1 ip address 203.2.1.1/30 ip router ospf default area 0.0.0.0 ip ospf cost 1 exit router ospf default vrf member tenant infra vrf overlay-1 area 0.0.0.0 loopback 203.203.203.203 area 0.0.0.0 interpod peering exit exit exit spine 204 vrf context tenant infra vrf overlay-1 router-id 204.204.204.204 exit

```
interface ethernet 1/31
     vlan-domain member 13Dom
     exit
   interface ethernet 1/31.4
     vrf member tenant infra vrf overlav-1
      ip address 204.1.1.1/30
     ip router ospf default area 0.0.0.0
     ip ospf cost 1
     exit
   router ospf default
     vrf member tenant infra vrf overlay-1
       area 0.0.0.0 loopback 204.204.204
       area 0.0.0.0 interpod peering
       exit
     exit
   exit
ifav4-ifc1#
```

### NX-OS Style CLI を使用したリモート リーフ スイッチの設定

### NX-OS スタイル CLI を使用したリモート リーフ スイッチの設定

この例では、リーフ スイッチがメインのファブリック ポッドと通信できるようにするため、 スパイン スイッチとリモート リーフ スイッチを設定しています。

#### 始める前に

- IPN ルータとリモートリーフスイッチはアクティブで設定されています。WAN ルータと リモートリーフスイッチ設定の注意事項(152ページ)を参照してください。
- リモート リーフ スイッチは、13.1.x 以降 (aci n9000 dk9.13.1.x.x.bin)のスイッチ イメージ を実行しています。
- ・リモートリーフスイッチを追加する予定のポッドが作成され、設定されています。

#### 手順

ステップ1 ポッド2のリモートロケーション5で TEP プールを定義します。

ネットワークマスクは/24以下である必要があります。

次の新しいコマンドを使用します: system remote-leaf-site site-id pod pod-id tep-pool ip-address-and-netmask

例:

apic1(config)# system remote-leaf-site 5 pod 2 tep-pool 192.0.0.0/16

ステップ2 ポッド2の、リモート リーフ サイト5 にリモート リーフ スイッチを追加します。

次のコマンドを使用します: system switch-id serial-number node-id leaf-switch-namepod pod-id remote-leaf-site remote-leaf-site-id node-type remote-leaf-wan

#### 例:

apic1(config)# system switch-id FDO210805SKD 109 ifav4-leaf9 pod 2
remote-leaf-site 5 node-type remote-leaf-wan

#### ステップ3 VLAN4を含む VLAN で VLAN ドメインを設定します。

例:

apic1(config)# vlan-domain ospfDom
apic1(config-vlan)# vlan 4-5
apic1(config-vlan)# exit

ステップ4 インフラ テナントに 2 つの L3Out を設定します。1 つはリモート リーフ接続のためで、もう 1 つはマルチポッド IPN のためです。

#### 例:

```
apic1(config)# tenant infra
apic1(config-tenant)# l3out rl-wan
apic1(config-tenant-l3out)# vrf member overlay-1
apic1(config-tenant-l3out)# exit
apic1(config-tenant)# l3out ipn-multipodInternal
apic1(config-tenant-l3out)# vrf member overlay-1
apic1(config-tenant-l3out)# exit
apic1(config-tenant)# exit
apic1(config-tenant)# exit
apic1(config-tenant)# exit
```

**ステップ5** L3Out が使用する、スパイン スイッチ インターフェイスとサブインターフェイスを設定します。

```
apic1(config) # spine 201
apic1(config-spine)# vrf context tenant infra vrf overlay-1 13out rl-wan-test
apic1(config-spine-vrf)# exit
apic1(config-spine)# vrf context tenant infra vrf overlay-1 l3out ipn-multipodInternal
apic1(config-spine-vrf)# exit
apic1(config-spine)#
apic1(config-spine) # interface ethernet 8/36
apic1(config-spine-if) # vlan-domain member ospfDom
apic1(config-spine-if)# exit
apic1(config-spine) # router ospf default
apic1(config-spine-ospf) # vrf member tenant infra vrf overlay-1
apic1(config-spine-ospf-vrf)# area 5 13out rl-wan-test
apic1(config-spine-ospf-vrf) # exit
apic1(config-spine-ospf)# exit
apic1(config-spine)#
apic1(config-spine) # interface ethernet 8/36.4
apic1(config-spine-if) # vrf member tenant infra vrf overlay-1 13out rl-wan-test
apic1(config-spine-if)# ip router ospf default area 5
apic1(config-spine-if)# exit
apic1(config-spine)# router ospf multipod-internal
apic1(config-spine-ospf) # vrf member tenant infra vrf overlay-1
apic1(config-spine-ospf-vrf)# area 5 l3out ipn-multipodInternal
apic1(config-spine-ospf-vrf)# exit
apic1(config-spine-ospf) # exit
apic1(config-spine)#
apic1(config-spine) # interface ethernet 8/36.5
```

apic1(config-spine-if)# vrf member tenant infra vrf overlay-1 l3out ipn-multipodInternal apic1(config-spine-if)# ip router ospf multipod-internal area 5 apic1(config-spine-if)# exit apic1(config-spine)# exit apic1(config)#

```
ステップ6 メインのファブリック ポッドと通信するために使用するリモートのリーフ スイッチ インター
フェイスとサブインターフェイスを設定します。
```

#### 例:

```
(config) # leaf 101
apic1(config-leaf)# vrf context tenant infra vrf overlay-1 l3out rl-wan-test
apic1(config-leaf-vrf) # exit
apic1(config-leaf)#
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/49
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member ospfDom
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf) # router ospf default
apic1(config-leaf-ospf)# vrf member tenant infra vrf overlay-1
apic1(config-leaf-ospf-vrf) # area 5 13out rl-wan-test
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# exit
apic1(config-leaf-ospf)# exit
apic1(config-leaf)#
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/49.4
apic1(config-leaf-if) # vrf member tenant infra vrf overlay-1 13out rl-wan-test
apic1(config-leaf-if)# ip router ospf default area 5
apic1(config-leaf-if)# exit
```

#### 例

次の例は、ダウンロード可能な設定を示しています:

```
apic1# configure
apic1(confiq) # system remote-leaf-site 5 pod 2 tep-pool 192.0.0.0/16
apic1(config)# system switch-id FDO210805SKD 109 ifav4-leaf9 pod 2
remote-leaf-site 5 node-type remote-leaf-wan
apic1(config) # vlan-domain ospfDom
apic1(config-vlan) # vlan 4-5
apic1(config-vlan) # exit
apic1(config) # tenant infra
apic1(config-tenant) # 13out rl-wan-test
apic1(config-tenant-13out) # vrf member overlay-1
apic1(config-tenant-13out) # exit
apic1(config-tenant)# 13out ipn-multipodInternal
apic1(config-tenant-13out) # vrf member overlay-1
apic1(config-tenant-13out) # exit
apic1(config-tenant) # exit
apic1(config)#
apic1(config) # spine 201
apic1(config-spine) # vrf context tenant infra vrf overlay-1 13out rl-wan-test
apic1(config-spine-vrf)# exit
apic1(config-spine) # vrf context tenant infra vrf overlay-1 13out ipn-multipodInternal
apic1(config-spine-vrf)# exit
apic1(config-spine)#
apic1(config-spine) # interface ethernet 8/36
apic1(config-spine-if) # vlan-domain member ospfDom
apic1(config-spine-if) # exit
apic1(config-spine) # router ospf default
apic1(config-spine-ospf)# vrf member tenant infra vrf overlay-1
```

```
apic1(config-spine-ospf-vrf)# area 5 13out rl-wan-test
apic1(config-spine-ospf-vrf)# exit
apic1(config-spine-ospf)# exit
apic1(config-spine)#
apic1(config-spine) # interface ethernet 8/36.4
apic1(config-spine-if) # vrf member tenant infra vrf overlay-1 13out rl-wan-test
apic1(config-spine-if) # ip router ospf default area 5
apic1(config-spine-if)# exit
apic1(config-spine)# router ospf multipod-internal
apic1(config-spine-ospf) # vrf member tenant infra vrf overlay-1
apic1(config-spine-ospf-vrf)# area 5 l3out ipn-multipodInternal
apic1(config-spine-ospf-vrf)# exit
apic1(config-spine-ospf)# exit
apic1(config-spine)#
apic1(config-spine) # interface ethernet 8/36.5
apic1(config-spine-if) # vrf member tenant infra vrf overlay-1 l3out ipn-multipodInternal
apic1(config-spine-if)# ip router ospf multipod-internal area 5
apic1(config-spine-if)# exit
apic1(config-spine) # exit
apic1(config)#
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # vrf context tenant infra vrf overlay-1 l3out rl-wan-test
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf)#
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/49
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member ospfDom
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf) # router ospf default
apic1(config-leaf-ospf) # vrf member tenant infra vrf overlay-1
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# area 5 l3out rl-wan-test
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# exit
apic1(config-leaf-ospf)# exit
apic1(config-leaf)#
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/49.4
apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant infra vrf overlay-1 13out rl-wan-test
apic1(config-leaf-if) # ip router ospf default area 5
apic1(config-leaf-if)# exit
```

# パートII:外部ルーティング(L30ut)の設定

外部ネットワークへのルーテッド接続

#### NX-OS Style CLI を使用した MP-BGP ルート リフレクタの設定

ACI ファブリックの MP-BGP ルート リフレクタの設定

ACIファブリック内のルートを配布するために、MP-BGPプロセスを最初に実行し、スパイン スイッチを BGP ルート リフレクタとして設定する必要があります。

次に、MP-BGP ルートリフレクタの設定例を示します。



apic1(config)# bgp-fabric apic1(config-bgp-fabric)# asn 100 apic1(config-bgp-fabric)# route-reflector spine 104,105

# L3Out のノードとインターフェイス

NX-OS Style CLI を使用したレイヤ3ルーテッドポート チャネルとサブインターフェイス ポート チャネルの設定

#### ポート チャネルの NX-OS は、CLI を使用してをルーテッド レイヤ3の設定

この手順では、レイヤ3ルーテッドポートチャネルを設定します。

	·	
	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>configure</b> 例: apic1# <b>configure</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ <b>2</b>	leaf node-id 例: apic1(config)# leaf 101	リーフスイッチまたはリーフスイッチ の設定を指定します。 <i>Node-id</i> は形式 <i>node-id1-node-id2</i> の単一ノード ID また はID の範囲となる可能性があり、設定 が適用されます。
ステップ <b>3</b>	interface port-channel channel-name 例: apic1(config-leaf)# interface port-channel pol	指定したポート チャネルのインター フェイス コンフィギュレーションモー ドを開始します。
ステップ4	no switchport 例: apicl(config-leaf-if)# no switchport	レイヤ3インターフェイスを可能にな ります。
ステップ5	<pre>vrf member vrf-name tenant tenant-name 例: apic1(config-leaf-if)# vrf member v1 tenant t1</pre>	この仮想ルーティングおよび転送(VRF) インスタンスとL3 ポリシー、外部に は、このポートチャネルを関連付けま す場所。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul> <li>Vrf-name は VRF 名です。32 文字 以内の英数字のストリング(大文 字と小文字を区別)で指定しま す。</li> </ul>
		<ul> <li>・テナント名は、テナント名です。</li> <li>32文字以内の英数字のストリング (大文字と小文字を区別)で指定 します。</li> </ul>
ステップ6	vlan-domain member vlan-domain-name 例: apicl(config-leaf-if)# vlan-domain member doml	以前に設定された VLAN ドメインに は、ポートチャネルのテンプレートを 関連付けます。
ステップ1	<pre>ip address ip-address/subnet-mask 例:     apic1(config-leaf-if)# ip address 10.1.1.1/24</pre>	指定した インターフェイスの IP アド レスとサブネット マスクを設定しま す。
<b>ステップ8</b>	ipv6 address sub-bits/prefix-length preferred 例: apicl(config-leaf-if)# ipv6 address 2001::1/64 preferred	<ul> <li>IPv6の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6処理をイネーブルにします。場所:</li> <li><i>sub-bits</i> i引数は、prefix-name 引数で指定された一般的なプレフィックスによって提供されるプレフィックスによって提供されるプレフィックスによって提供されるプレフィックスによって提供されるプレス・シットです。sub-bits 引数は、RFC 2373 に記載された形式で指定する必要があります。この形式では、アドレスは、16進数値を16ビット単位でコロンで区切って指定します。</li> <li><i>Prefix-length</i> は IPv6 プレフィックスの長さです。プレフィックス(アドレスのネットワーク部分)を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 10 進値です。10 進数値の前にスラッシュ記号が必要です。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ9	ipv6 link-local ipv6-link-local-address	インターフェイスに IPv6 リンクローカ
	例:	ルアドレスを設定します。
	<pre>apic1(config-leaf-if)# ipv6 link-local fe80::1</pre>	
ステップ 10	mac-address mac-address	インターフェイス MAC アドレスを手
	例:	動で設定します。
_	<pre>apic1(config-leaf-if)# mac-address 00:44:55:66:55::01</pre>	
ステップ 11	<b>mtu</b> <i>mtu-value</i>	このサービス クラスの MTU を設定し
	例:	ます
	apic1(config-leaf-if)# <b>mtu 1500</b>	

#### 例

この例では、基本レイヤ3ポートチャネルを設定する方法を示します。

```
apic1# configure
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface port-channel po1
apic1(config-leaf-if)# no switchport
apic1(config-leaf-if)# vrf member v1 tenant t1
apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# ip address 10.1.1.1/24
apic1(config-leaf-if)# ipv6 address 2001::1/64 preferred
apic1(config-leaf-if)# ipv6 link-local fe80::1
apic1(config-leaf-if)# mac-address 00:44:55:66:55::01
apic1(config-leaf-if)# mtu 1500
```

NX-OS CLI を使用したレイヤ3サブインターフェイス ポート チャネルの設定

この手順では、レイヤ3サブインターフェイスポートチャネルを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>configure</b> 例: apic1# <b>configure</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ <b>2</b>	leaf node-id 例:	リーフスイッチまたはリーフスイッチ の設定を指定します。Node-id は形式

I

	コマンドまたはアクション	目的
	apicl(config)# <b>leaf 101</b>	<i>node-id1-node-id2</i> の単一ノードIDまた はIDの範囲となる可能性があり、設定 が適用されます。
ステップ3	<pre>vrf member vrf-name tenant tenant-name 例 : apic1(config-leaf-if)# vrf member v1 tenant t1</pre>	この仮想ルーティングおよび転送(VRF) インスタンスとL3アウトサイドポリ シーにポートチャネルを関連付けま す。場所: ・Vrf-nameはVRF名です。32文字 以内の英数字のストリング(大文 字と小文字を区別)で指定しま す。 ・テナント名は、テナント名です。 32文字以内の英数字のストリング (大文字と小文字を区別)で指定 します。
ステップ4	vlan-domain member vlan-domain-name 例: apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1	以前に設定された VLAN ドメインに は、ポートチャネルのテンプレートを 関連付けます。
ステップ5	<pre>ip address ip-address / subnet-mask 例:     apic1(config-leaf-if)# ip address 10.1.1.1/24</pre>	指定した インターフェイスの IP アド レスとサブネット マスクを設定しま す。
ステップ6	ipv6 address sub-bits / prefix-length preferred 例: apicl(config-leaf-if)# ipv6 address 2001::1/64 preferred	<ul> <li>IPv6の一般的なプレフィックスに基づいて IPv6 アドレスを設定し、インターフェイスにおける IPv6処理をイネーブルにします。場所:</li> <li><i>sub-bits</i> i引数は、prefix-name 引数で指定された一般的なプレフィックスによって提供されるプレフィックスによって提供されるプレフィックスによって提供されるプレス・ソクスに連結する、アドレスのサブプレフィックスビットおよびホスト ビットです。sub-bits 引数は、RFC2373に記載された形式で指定する必要があります。この形式では、アドレスは、16進数値を16ビット単位でコロンで区切って指定します。</li> </ul>
I

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul> <li>Prefix-length は IPv6 プレフィック スの長さです。プレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続 ビット数を示す 10 進値です。10 進数値の前にスラッシュ記号が必 要です。</li> </ul>
ステップ1	ipv6 link-local ipv6-link-local-address	インターフェイスに IPv6 リンクローカ
	例:	ルアドレスを設定します。 
	<pre>apic1(config-leaf-if)# ipv6 link-local fe80::1</pre>	
ステップ8	mac-address mac-address	インターフェイス MAC アドレスを手
	例:	動で設定します。
	<pre>apic1(config-leaf-if)# mac-address 00:44:55:66:55::01</pre>	
ステップ9	<b>mtu</b> mtu-value	このサービス クラスの MTU を設定し
	例:	ます
	apic1(config-leaf-if)# mtu 1500	
ステップ 10	exit	設定モードに戻ります。
	例:	
	apici(conrig-iear-ir)# exit	
ステッフ 11	Interface port-channel channel-name	指定したボート チャネルのインター フェイスコンフィギュレーションチー
	<pre>19/] : apic1(config-leaf)# interface</pre>	ドを開始します。
	port-channel pol	
ステップ <b>12</b>	vlan-domain member vlan-domain-name	以前に設定された VLAN ドメインに
	例:	は、ホートナヤネルのテンプレートを 関連付けます。
	<pre>apicl(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1</pre>	
ステップ13	exit	設定モードに戻ります。
	例:	
	<pre>apic1(config-leaf-if)# exit</pre>	
ステップ 14	<b>interface port-channel</b> <i>channel-name.number</i>	指定したサブインターフェイスポート
	例:	ドを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>apic1(config-leaf)# interface port-channel pol.2001</pre>	
ステップ <b>15</b>	<pre>vrf member vrf-name tenant tenant-name 例 : apic1(config-leaf-if)# vrf member v1 tenant t1</pre>	この仮想ルーティングおよび転送(VRF) インスタンスとL3アウトサイドポリ シーにポートチャネルを関連付けま す。場所: ・Vrf-nameはVRF名です。32文字 以内の英数字のストリング(大文 字と小文字を区別)で指定しま す。 ・テナント名は、テナント名です。 32文字以内の英数字のストリング (大文字と小文字を区別)で指定 します。
ステップ 16	exit	設定モードに戻ります。
	例: apic1(config-leaf-if)# <b>exit</b>	

# 例

この例では、基本的なレイヤ3サブインターフェイスポートチャネルを設定する方法 を示します。

```
apic1# configure
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf)# interface vlan 2001
apic1(config-leaf-if)# no switchport
apic1(config-leaf-if) # vrf member v1 tenant t1
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# ip address 10.1.1.1/24
apic1(config-leaf-if) # ipv6 address 2001::1/64 preferred
apic1(config-leaf-if)# ipv6 link-local fe80::1
apic1(config-leaf-if)# mac-address 00:44:55:66:55::01
apic1(config-leaf-if)# mtu 1500
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# interface port-channel po1
apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# interface port-channel po1.2001
apic1(config-leaf-if)# vrf member v1 tenant t1
apic1(config-leaf-if)# exit
```

# NX-OS CLI を使用したレイヤ3ポート チャネルにポートを追加する

この手順では、以前に設定したレイヤ3ポートチャネルにポートを追加します。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure 例: apicl# configure	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	leaf node-id 例: apicl(config)# leaf 101	リーフスイッチまたはリーフスイッチ の設定を指定します。 <i>Node-id</i> は形式 <i>node-id1-node-id2</i> の単一ノード ID また は ID の範囲となる可能性があり、設定 が適用されます。
ステップ3	<pre>interface Ethernet slot/port 例: apicl(config-leaf)# interface Ethernet 1/1-2</pre>	設定するインターフェイスのインター フェイス コンフィギュレーション モー ドを開始します。
ステップ4	channel-group チャネル名 例: apicl(config-leaf-if)# channel-group p01	チャネル グループでポートを設定しま す。

# 例

この例では、ポートをレイヤ3にポートチャネルを追加する方法を示します。

```
apic1# configure
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface Ethernet 1/1-2
apic1(config-leaf-if)# channel-group p01
```

# NX-OS Style CLI を使用したスイッチ仮想インターフェイスの設定

# NX-OS スタイル CLI を使用して、SVI インターフェイスのカプセル化スコープの設定

SVIインターフェイスカプセル化のスコープ設定を次の例表示する手順では、名前付きのレイ ヤ3アウト設定です。

手順		
	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	コンフィギュレーション モードを開始 します。	コンフィギュレーション モードを開始 します。
_	<b>例</b> : apic1# <b>configure</b>	
ステップ2	スイッチ モードを開始します。	スイッチ モードを開始します。
	<b>例</b> : apicl(config)# <b>leaf 104</b>	
ステップ3	VLANインターフェイスを作成します。	VLANインターフェイスを作成します。
	例:	VLAN の範囲は 1 ~ 4094 です。
	apic1(config-leaf)# interface vlan 2001	
ステップ4	カプセル化の範囲を指定します。	カプセル化の範囲を指定します。
	例:	
	<pre>apic1(config-leaf-if)# encap scope vrf   context</pre>	
ステップ5	インターフェイスモードを終了します。	インターフェイスモードを終了します。
	例:	
	apic1(config-leaf-if)# <b>exit</b>	

# NX-OS スタイル CLI を使用した SVI 自動状態の設定

始める前に

- ・テナントと VRF が設定されています。
- ・レイヤ3アウトが設定されており、レイヤ3アウトの論理ノードプロファイルと論理イン ターフェイス プロファイルが設定されています。

# 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	コンフィギュレーション モードを開始 します。	コンフィギュレーション モードを開始 します。
	例: apicl# configure	
ステップ2	スイッチ モードを開始します。	スイッチ モードを開始します。
	例:	

	コマンドまたはアクション	目的
	apic1(config)# <b>leaf 104</b>	
ステップ3	VLANインターフェイスを作成します。 例:	VLANインターフェイスを作成します。 VLAN の範囲は 1 ~ 4094 です。
	apic1(config-leaf)# interface vlan 2001	
ステップ4	SVI 自動状態を有効にします。	SVI 自動状態を有効にします。
	例: apic1(config-leaf-if)# <b>autostate</b>	デフォルトで、SVI 自動状態の値は有効 ではありません。
ステップ5	インターフェイスモードを終了します。	インターフェイスモードを終了します。
	例: apic1(config-leaf-if)# exit	
ステッフ4  ステップ5	SVI目動状態を有効にします。 例: apicl(config-leaf-if)# autostate インターフェイスモードを終了します。 例: apicl(config-leaf-if)# exit	SVI 目動状態を有効にします。 デフォルトで、SVI 自動状態の値は有 ではありません。 インターフェイスモードを終了します

# NX-OS Style CLI を使用したルーティング プロトコルの設定

NX-OS Style CLI を使用した BFD サポート付き BGP 外部ルーテッド ネットワークの設定

NX-OS スタイルの CLI を使用した BGP 外部ルーテッド ネットワークの設定

手順

ここでは、NX-OS CLI を使用して BGP 外部ルーテッド ネットワークを設定する方法を示します。

```
apic1(config-leaf)# template route-profile damp_rp tenant t1
This template will be available on all leaves where tenant t1 has a VRF deployment
apic1 (config-leaf-template-route-profile) # set dampening 15 750 2000 60
apic1(config-leaf-template-route-profile)# exit
apic1(config-leaf)#
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-bgp) # vrf member tenant t1 vrf ctx3
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 32.0.1.0/24 13out 13out-bgp
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# update-source ethernet 1/16.401
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# address-family ipv4 unicast
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor-af)# weight 400
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor-af)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# remote-as 65001
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# private-as-control remove-exclusive
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# private-as-control remove-exclusive-all
apic1 (config-leaf-bgp-vrf-neighbor) # private-as-control remove-exclusive-all-replace-as
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# address-family ipv4 unicast
apic1(config-leaf-bgp-vrf-af)# inherit bgp dampening damp rp
This template will be inherited on all leaves where VRF ctx3 has been deployed
apic1(config-leaf-bgp-vrf-af)# exit
```

apic1(config-leaf-bgp-vrf)# address-family ipv6 unicast apic1(config-leaf-bgp-vrf-af)# inherit bgp dampening damp_rp This template will be inherited on all leaves where VRF ctx3 has been deployed apic1(config-leaf-bgp-vrf-af)# exit

# NX-OS スタイルの CLI を使用した BGP 最大パスの設定

# 始める前に

次のフィールドの許容値については、Cisco APIC ドキュメンテーション ページの 『Verified Scalability Guide for Cisco APIC』を参照してください。https://www.cisco.com/c/en/us/support/ cloud-systems-management/application-policy-infrastructure-controller-apic/ tsd-products-support-series-home.html

適切なテナントと BGP 外部ルーテッド ネットワークが作成され、使用可能になっています。

BGP にログインして、次のコマンドを使用します:

- •eBGP パスのマルチパスを設定するためのコマンド:
- maximum-paths <value>

no maximum-paths <value>

• iBGP パスのマルチパスを設定するためのコマンド:

maximum-paths ibgp <value>

no maximum-paths ibgp <value>

#### 例:

```
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # template bgp address-family newAf tenant t1
This template will be available on all nodes where tenant t1 has a VRF deployment
apic1(config-bgp-af) # maximum-paths ?
<1-64> Number of parallel paths
ibgp Configure multipath for IBGP paths
apic1(config-bgp-af) # maximum-paths 10
apic1(config-bgp-af) # maximum-paths ibgp 8
apic1(config-bgp-af) # end
apic1#
```

#### NX-OS スタイルの CLI を使用した AS パスのプリペンド

このセクションでは、NX-OS スタイル コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、 AS パスのプリペンド機能を実現する方法について説明します。

# 始める前に

構成済みのテナント

#### 手順

境界ゲートウェイ プロトコル (BGP) ルートの自動システムパス (AS パス)を変更するには、 set as-path コマンドを使用します。set as-path コマンドは、 apic1 (config-leaf-vrf-template-route-profile) # set as-path { 'prepend as-num [ ,... as-num ] | prepend-last-as num} の形式で実行します。 例: apic1(config)# leaf 103 apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1 apic1(config-leaf-vrf) # template route-profile rp1 apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile) # set as-path ? prepend Prepend to the AS-Path prepend-last-as Prepend last AS to the as-path apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile)# set as-path prepend 100, 101, 102, 103 apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile)# set as-path prepend-last-as 8 apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile)# exit apic1(config-leaf-vrf) # exit apic1(config-leaf) # exit

## 次のタスク

AS パスのプリペンドを無効にするには、示されているコマンドの no 形式を使用します:

apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile)# [no] set
as-path { prepend as-num [ ,... as-num ] | prepend-last-as num}

## NX-OS Style CLI を使用した BGP ネイバー シャットダウンの設定

NX-OS Style CLI を使用した BGP ネイバー シャットダウンの設定

次の手順では、NX-OS CLI を使用して BGP ネイバー シャットダウン機能を使用する方法について説明します。

# 手順

ステップ1 L3Out のノードとインターフェイスを設定します。

この例では設定 VRF v1 ノード 103 (border リーフスイッチ) と呼ばれるで nodep1 、ルータ ID を 11.11.11.103 。インターフェイスの設定も eth1/3 ルーテッドインターフェイス (レイヤ3のポート)、IP アドレスとして 12.12.12.3/24 とレイヤ3 ドメイン dom1 。

```
apic1(config)# leaf 103
apic1(config-leaf)# vrf context tenant t1 vrf v1
```

```
apic1(config-leaf-vrf)# router-id 11.11.11.103
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/3
apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# no switchport
apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-if)# ip address 12.12.12.3/24
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit
```

ステップ2 BGP ルーティング プロトコルを設定します。

この例では、15.15.15.2 および ASN 100 の BGP ピア アドレスを使用して、プライマリのルー ティング プロトコルとして BGP を設定します。

## 例:

```
apicl(config) # leaf 103
apicl(config-leaf) # router bgp 100
apicl(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apicl(config-leaf-bgp-vrf) # neighbor 15.15.15.2
```

ステップ3 BGPネイバーシャットダウン機能を使用します。

# 例:

```
apicl(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# shutdown
apicl(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apicl(config-leaf-bgp)# exit
apicl(config-leaf)# exit
```

NX-OS スタイル CLI を使用してノード BGP タイマー ポリシーあたりの VRF あたりを設定する

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	タイマーポリシーを作成する前に、BGP ASN およびルート リフレクタを設定し ます。 例: apic1(config)# apic1(config)# bgp-fabric apic1(config-bgp-fabric)# route-reflector spine 102 apic1(config-bgp-fabric)# asn 42 apic1(config-bgp-fabric)# exit apic1(config)# exit apic1(config)# exit apic1(config)# exit	
ステップ2	タイマー ポリシーを作成します。 例:	特定の値は、例としてのみ提供されます。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>apic1# config apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# template bgp timers pol7 tenant tn1 This template will be available on all nodes where tenant tn1 has a VRF deployment apic1(config-bgp-timers)# timers bgp 120 240 apic1(config-bgp-timers)# graceful-restart stalepath-time 500 apic1(config-bgp-timers)# maxas-limit 300 apic1(config-bgp-timers)# exit apic1(config-leaf)# exit apic1(config)# exit apic1#</pre>	
ステップ <b>3</b>	設定された BGP ポリシーを表示しま す。 <b>例</b> :	
	<pre>apic1# show run leaf 101 template bgp timers pol7 # Command: show running-config leaf 101 template bgp timers pol7 leaf 101 template bgp timers pol7 tenant tn1 timers bgp 120 240 graceful-restart stalepath-time 500 maxas-limit 300 exit exit</pre>	
ステップ4	ノードで特定のポリシーを参照します。 例: apicl# config apicl(config)# leaf 101 apicl(config-leaf)# router bgp 42 apicl(config-leaf-bgp)# vrf member tenant tnl vrf ctx1 apicl(config-leaf-bgp-vrf)# inherit node-only bgp timer pol7 apicl(config-leaf-bgp)# exit apicl(config-leaf-bgp)# exit apicl(config-leaf)# exit apicl(config-leaf)# exit apicl(config-leaf)# exit apicl(config)# exit apicl#	
ステップ5	特定の BGP のタイマー ポリシーのノー ドが表示されます。 例:	

コマンドまたはアクション	目的
apic1# show run leaf 101 router bgp 42 vrf member tenant tnl vrf ctx1 # Command: show running-config leaf 101 router bgp 42 vrf member tenant tnl vrf ctx1 leaf 101 router bgp 42 vrf member tenant tnl vrf ctx1	
inherit node-only bgp timer	
exit exit exit	
apror#	

# NX-OS スタイルの CLI を使用したセカンダリ IP アドレスでの双方向フォワーディング検出の設定

この手順では、NX-OS スタイルの CLI を使用して、セカンダリ IP アドレスに双方向転送検出 (BFD) を設定します。この例ではノード 103 (border リーフ スイッチ) で、ルータ ID を 11.11.11.03で VRF v1 を構成します。また、インターフェイス eth1/3 をルーテッド インター フェイス (レイヤ 3 のポート) として構成し、IP アドレス 12.12.12.3/24 をプライマリ アドレ スとして、6.11.1.224/24 をレイヤー 3 ドメイン dom1 のセカンダリ アドレスとして構成しま す。BFD は 99.99.99.14/32 で有効になっており、セカンダリ サブネット 6.11.1.0/24 を使用して 到達可能です。

#### 手順

ステップ1 コンフィギュレーション モードを開始します。

#### 例:

apic1# configure terminal

**ステップ2** リーフスイッチ 103 の構成モードを開始します。

#### 例:

apic1(config)# leaf 103

ステップ3 VRF インスタンスの構成モードを開始します。

#### 例:

apic1(config-leaf)# vrf context tenant t1 vrf v1

ステップ4 セカンダリ IP アドレスを構成します。

```
apic1(config-leaf-vrf)# router-id 1.1.24.24
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/3
apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# no switchport
apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant t1 vrf v1
```

apic1(config-leaf-if)# ip address 12.12.12.3/24
apic1(config-leaf-if)# ip address 6.11.1.224/24 secondary
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# exit

ステップ5 BFD を有効にします。

例:

```
apicl(config-leaf)# vrf context tenant t1 vrf v1 l3out Routed
apicl(config-leaf-vrf)#router-id 1.1.24.24
apicl(config-leaf-vrf)#ip route 95.95.95.95/32 12.12.12.4 bfd
apicl(config-leaf-vrf)#ip route 99.99.99.14/32 6.11.1.100 bfd
```

NX-OS スタイル CLI を使用したリーフ スイッチでの BFD のグローバルな設定

# 手順

ステップ1 NX-OS CLI を使用して BFD IPV4 グローバル設定(bfdIpv4InstPol)を設定するには:

# 例:

```
apic1# configure
apic1(config)# template bfd ip bfd_ipv4_global_policy
apic1(config-bfd)# [no] echo-address 1.2.3.4
apic1(config-bfd)# [no] slow-timer 2500
apic1(config-bfd)# [no] min-tx 100
apic1(config-bfd)# [no] min-rx 70
apic1(config-bfd)# [no] multiplier 3
apic1(config-bfd)# [no] echo-rx-interval 500
apic1(config-bfd)# exit
```

ステップ2 NX-OS CLI を使用して BFD IPV6 グローバル設定(bfdIpv6InstPol)を設定するには:

例:

```
apic1# configure
apic1(config)# template bfd ipv6 bfd_ipv6_global_policy
apic1(config-bfd)# [no] echo-address 34::1/64
apic1(config-bfd)# [no] slow-timer 2500
apic1(config-bfd)# [no] min-tx 100
apic1(config-bfd)# [no] min-rx 70
apic1(config-bfd)# [no] multiplier 3
apic1(config-bfd)# [no] echo-rx-interval 500
apic1(config-bfd)# exit
```

ステップ3 NX-OS CLI を使用してアクセス リーフ ポリシー グループ (infraAccNodePGrp) を設定し、以前 に作成した BFD グローバル ポリシーを継承するには:

```
apic1# configure
apic1(config)# template leaf-policy-group test_leaf_policy_group
apic1(config-leaf-policy-group)# [no] inherit bfd ip bfd_ipv4_global_policy
apic1(config-leaf-policy-group)# [no] inherit bfd ipv6 bfd_ipv6_global_policy
apic1(config-leaf-policy-group)# exit
```

ステップ4 NX-OS CLI を使用して以前に作成したリーフ ポリシー グループを リーフに関連付けるには:

### 例:

```
apic1(config)# leaf-profile test_leaf_profile
apic1(config-leaf-profile)# leaf-group test_leaf_group
apic1(config-leaf-group)# leaf-policy-group test_leaf_policy_group
apic1(config-leaf-group)# leaf 101-102
apic1(config-leaf-group)# exit
```

# NX-OS スタイル CLI を使用したスパイン スイッチ上の BFD のグローバル設定

次の手順を使用して、NX-OS スタイル CLI を使用してスパイン スイッチの BFD をグローバル に設定します。

#### 手順

ステップ1 NX-OS CLI を使用して BFD IPV4 グローバル設定(bfdIpv4InstPol)を設定するには:

# 例:

```
apic1# configure
apic1(config)# template bfd ip bfd_ipv4_global_policy
apic1(config-bfd)# [no] echo-address 1.2.3.4
apic1(config-bfd)# [no] slow-timer 2500
apic1(config-bfd)# [no] min-tx 100
apic1(config-bfd)# [no] min-rx 70
apic1(config-bfd)# [no] multiplier 3
apic1(config-bfd)# [no] echo-rx-interval 500
apic1(config-bfd)# exit
```

ステップ2 NX-OS CLI を使用して BFD IPV6 グローバル設定(bfdIpv6InstPol)を設定するには:

#### 例:

```
apic1# configure
apic1(config)# template bfd ipv6 bfd_ipv6_global_policy
apic1(config-bfd)# [no] echo-address 34::1/64
apic1(config-bfd)# [no] slow-timer 2500
apic1(config-bfd)# [no] min-tx 100
apic1(config-bfd)# [no] min-rx 70
apic1(config-bfd)# [no] multiplier 3
apic1(config-bfd)# [no] echo-rx-interval 500
apic1(config-bfd)# exit
```

ステップ3 NX-OS CLI を使用してスパイン ポリシー グループを設定し以前作成した BFD グローバル ポリシーを継承するには:

```
apic1# configure
apic1(config)# template spine-policy-group test_spine_policy_group
apic1(config-spine-policy-group)# [no] inherit bfd ip bfd_ipv4_global_policy
```

apic1(config-spine-policy-group)# [no] inherit bfd ipv6 bfd_ipv6_global_policy
apic1(config-spine-policy-group)# exit

**ステップ4** NX-OS を使用して以前作成したスパイン ポリシー グループをスパイン スイッチに関連付ける には;

例:

```
apic1# configure
apic1(config)# spine-profile test_spine_profile
apic1(config-spine-profile)# spine-group test_spine_group
apic1(config-spine-group)# spine-policy-group test_spine_policy_group
apic1(config-spine-group)# spine 103-104
apic1(config-leaf-group)# exit
```

NX-OS スタイルの CLI を使用して BFD インターフェイスのオーバーライドを設定する

# 手順

ステップ1 NX-OS CLI を使用して BFD インターフェイス ポリシー (bfdIfPol) を設定するには:

# 例:

```
apic1# configure
apic1(config) # tenant t0
apic1(config-tenant) # vrf context v0
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(config-tenant) # exit
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t0 vrf v0
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # interface Ethernet 1/18
apic1(config-leaf-if) # vrf member tenant t0 vrf v0
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# template bfd bfdIfPol1 tenant t0
apic1(config-template-bfd-pol)# [no] echo-mode enable
apic1(config-template-bfd-pol)# [no] echo-rx-interval 500
apic1(config-template-bfd-pol)# [no] min-rx 70
apic1(config-template-bfd-pol)# [no] min-tx 100
apic1(config-template-bfd-pol)# [no] multiplier 5
apic1(config-template-bfd-pol)# [no] optimize subinterface
apic1(config-template-bfd-pol)# exit
```

**ステップ2** NX-OS CLI を使用して、以前に作成した BFD インターフェイス ポリシーを、IPv4 アドレスを 持つ L3 インターフェイスに継承させるには:

```
apic1# configure
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface Ethernet 1/15
apic1(config-leaf-if)# bfd ip tenant mode
apic1(config-leaf-if)# bfd ip inherit interface-policy bfdPol1
apic1(config-leaf-if)# bfd ip authentication keyed-shal key 10 key password
```

**ステップ3** NX-OS CLI を使用して、以前に作成した BFD インターフェイス ポリシーを、IPv6 アドレスを 持つ L3 インターフェイスに継承させるには:

#### 例:

```
apic1# configure
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface Ethernet 1/15
apic1(config-leaf-if)# ipv6 address 2001::10:1/64 preferred
apic1(config-leaf-if)# bfd ipv6 tenant mode
apic1(config-leaf-if)# bfd ipv6 inherit interface-policy bfdPol1
apic1(config-leaf-if)# bfd ipv6 authentication keyed-shal key 10 key password
```

ステップ4 NX-OS CLI を使用して、IPv4 アドレスを持つ VLAN インターフェイス上の BFD を設定するには:

. . .

# 例:

apic1# configure apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# interface vlan 15 apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant t0 vrf v0 apic1(config-leaf-if)# bfd ip tenant mode apic1(config-leaf-if)# bfd ip inherit interface-policy bfdPol1 apic1(config-leaf-if)# bfd ip authentication keyed-shal key 10 key password

**ステップ5** NX-OS CLI を使用して、IPv6 アドレスを持つ VLAN インターフェイス上の BFD を設定するには・

7:

# 例:

```
apic1# configure
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# interface vlan 15
apic1(config-leaf-if)# ipv6 address 2001::10:1/64 preferred
apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant t0 vrf v0
apic1(config-leaf-if)# bfd ipv6 tenant mode
apic1(config-leaf-if)# bfd ipv6 inherit interface-policy bfdPol1
apic1(config-leaf-if)# bfd ipv6 authentication keyed-shal key 10 key password
```

# NX-OS スタイルの CLI を使用した BFD コンシューマ プロトコルの設定

# 手順

ステップ1 NX-OS は、CLI を使用して、BGP コンシューマ プロトコルを BFD をイネーブルにします。

```
apic1# configure
apic1(config)# bgp-fabric
apic1(config-bgp-fabric)# asn 200
apic1(config-bgp-fabric)# exit
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# router bgp 200
```

apic1(config-bgp)# vrf member tenant t0 vrf v0
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 1.2.3.4
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# [no] bfd enable

ステップ2 NX-OSは、CLIを使用して、EIGRP コンシューマ プロトコルを BFD をイネーブルにします。

例:

apic1(config-leaf-if)# [no] ip bfd eigrp enable

ステップ3 NX-OS は、CLI を使用して、OSPF コンシューマ プロトコルを BFD をイネーブルにします。

例:

apic1(config-leaf-if)# [no] ip ospf bfd enable

apic1# configure apic1(config)# spine 103 apic1(config-spine)# interface ethernet 5/3.4 apic1(config-spine-if)# [no] ip ospf bfd enable

ステップ4 NX-OS は、CLI を使用して、スタティック ルート コンシューマ プロトコルを BFD をイネー ブルにします。

例:

apic1(config-leaf-vrf)# [no] ip route 10.0.0.1/16 10.0.0.5 bfd

apic1(config)# spine 103 apic1(config-spine)# vrf context tenant infra vrf overlay-1 apic1(config-spine-vrf)# [no] ip route 21.1.1.1/32 32.1.1.1 bfd

ステップ5 NX-OS は、CLI を使用して、IS-IS コンシューマ プロトコルを BFD をイネーブルにします。

例:

```
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-spine)# interface ethernet 1/49
apic1(config-spine-if)# isis bfd enabled
apic1(config-spine-if)# exit
apic1(config-spine)# exit
```

apic1(config)# spine 103 apic1(config-spine)# interface ethernet 5/2 apic1(config-spine-if)# isis bfd enabled apic1(config-spine-if)# exit apic1(config-spine)# exit

# NX-OS Style CLI を使用した OSPF 外部ルーテッド ネットワークの設定

NX-OS CLI を使用したテナントの OSPF 外部ルーテッド ネットワークの作成

外部ルーテッドネットワーク接続の設定には、次のステップがあります。

- 1. テナントの下に VRF を作成します。
- 外部ルーテッドネットワークに接続された境界リーフスイッチのVRFのL3ネットワー キング構成を設定します。この設定には、インターフェイス、ルーティングプロトコル (BGP、OSPF、EIGRP)、プロトコルパラメータ、ルートマップが含まれています。
- テナントの下に外部L3 EPG を作成してポリシーを設定し、これらの EPG を境界リーフス イッチに導入します。ACIファブリック内で同じポリシーを共有する VRFの外部ルーテッ ドサブネットが、1 つの「外部L3 EPG」または1 つの「プレフィクス EPG」を形成しま す。

設定は、2つのモードで実現されます。

- ・テナントモード: VRF の作成および外部 L3 EPG 設定
- リーフモード: L3ネットワーキング構成と外部 L3 EPG の導入

次の手順は、テナントのOSPF外部ルーテッドネットワークを作成するためのものです。テナントのOSPF外部ルーテッドネットワークを作成するには、テナントを選択してからテナント 用の VRF を作成する必要があります。

# 

(注) この項の例では、テナント「exampleCorp」の「OnlineStore」アプリケーションの「web」epg に外部ルーテッド接続を提供する方法について説明します。

# 手順

ステップ1 VLAN ドメインを設定します。

# 例:

apic1(config)# vlan-domain dom_exampleCorp apic1(config-vlan)# vlan 5-1000 apic1(config-vlan)# exit

ステップ2 テナント VRF を設定し、VRF のポリシーの適用を有効にします。

#### 例:

```
apic1(config)# tenant exampleCorp
apic1(config-tenant)# vrf context
exampleCorp_v1
apic1(config-tenant-vrf)# contract enforce
apic1(config-tenant-vrf)# exit
```

ステップ3 テナント BD を設定し、ゲートウェイ IP を「public」としてマークします。エントリ「scope public」は、このゲートウェイ アドレスを外部 L3 ネットワークのルーティング プロトコルに よるアドバタイズに使用できるようにします。

```
apic1(config-tenant)# bridge-domain exampleCorp_b1
apic1(config-tenant-bd)# vrf member exampleCorp_v1
apic1(config-tenant-bd)# exit
apic1(config-tenant)# interface bridge-domain exampleCorp_b1
apic1(config-tenant-interface)# ip address 172.1.1.1/24 scope public
apic1(config-tenant-interface)# exit
```

ステップ4 リーフの VRF を設定します。

例:

apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# vrf context tenant exampleCorp vrf exampleCorp_v1

ステップ5 OSPF エリアを設定し、ルートマップを追加します。

例:

```
apic1(config-leaf)# router ospf default
apic1(config-leaf-ospf)# vrf member tenant exampleCorp vrf exampleCorp_v1
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# area 0.0.0.1 route-map map100 out
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# exit
apic1(config-leaf-ospf)# exit
```

**ステップ6** VRF をインターフェイス (この例ではサブインターフェイス)に割り当て、OSPF エリアを有効 にします。

例:

(注) サブインターフェイスの構成では、メインインターフェイス(この例では、ethernet 1/11)は、「no switchport」によってL3ポートに変換し、サブインターフェイスが使用するカプセル化 VLAN を含む vlan ドメイン (この例では dom_exampleCorp)を割り当てる必要があります。サブインターフェイス ethernet1/11.500で、500 はカプセル化 VLAN です。

```
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/11
apic1(config-leaf-if)# no switchport
apic1(config-leaf-if)# vlan-domain member dom_exampleCorp
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/11.500
apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant exampleCorp vrf exampleCorp_v1
apic1(config-leaf-if)# ip address 157.10.1.1/24
apic1(config-leaf-if)# ip router ospf default area 0.0.0.1
```

ステップ7 外部L3EPGポリシーを設定します。これは、外部サブネットを特定し、epg「web」と接続す る契約を消費するために一致させるサブネットが含まれます。

```
apic1(config) # tenant t100
apic1(config-tenant) # external-13 epg 13epg100
apic1(config-tenant-13ext-epg) # vrf member v100
apic1(config-tenant-13ext-epg) # match ip 145.10.1.0/24
apic1(config-tenant-13ext-epg) # contract consumer web
apic1(config-tenant-13ext-epg) # exit
apic1(config-tenant) # exit
```

ステップ8 リーフスイッチの外部 L3 EPG を導入します。

# 例:

```
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# vrf context tenant t100 vrf v100
apic1(config-leaf-vrf)# external-13 epg 13epg100
```

# NX-OS Style CLI を使用した EIGRP 外部ルーテッド ネットワークの設定

# NX-OS スタイルの CLI を使用したEIGRPの設定

# 手順 ステップ1 ファブリックの Application Policy Infrastructure Controller (APIC) に SSH 接続します。 例: # ssh admin@node name ステップ2 設定モードを開始します。 例: apic1# configure ステップ3 テナントの設定モードを入力します。 例: apic1(config) # tenant tenant1 ステップ4 テナントでレイヤ3 Outside を設定します: 例: apic1(config-tenant) # show run # Command: show running-config tenant tenant1 # Time: Tue Feb 16 09:44:09 2016 tenant tenant1 vrf context 13out exit 13out 13out-L1 vrf member 13out exit 13out 13out-L3 vrf member 13out exit external-13 epg tenant1 13out 13out-L3 vrf member 13out match ip 0.0.0/0 match ip 3.100.0.0/16 match ipv6 43:101::/48 contract consumer default exit external-13 epg tenant1 13out 13out-L1

vrf member 13out

```
match ipv6 23:101::/48
match ipv6 13:101::/48
contract provider default
exit
exit
```

ステップ5 リーフで EIGRP の VRF を設定します:

#### 例:

```
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# vrf context tenant tenant1 vrf 13out 13out 13out-L1
apic1(config-leaf-vrf)# show run
# Command: show running-config leaf 101 vrf context tenant tenant1 vrf 13out 13out
13out-L1
# Time: Tue Feb 16 09:44:45 2016
  leaf 101
    vrf context tenant tenant1 vrf 13out 13out 13out-L1
      router-id 3.1.1.1
      route-map 13out-L1 in
        scope global
        ip prefix-list tenant1 permit 1:102::/48
        match prefix-list tenant1
          exit
        exit
      route-map 13out-L1 out
        scope global
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.10.0/23
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.100.0/31
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.20.0/24
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.30.0/25
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.40.0/26
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.50.0/27
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.60.0/28
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.70.0/29
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.80.0/30
        ip prefix-list tenant1 permit 3.102.90.0/32
        <OUTPUT TRUNCATED>
        ip prefix-list tenant1 permit ::/0
        match prefix-list tenant1
          exit
        exit
      route-map 13out-L1 shared
        scope global
        exit
      exit
    exit
```

```
ステップ6 EIGRP インターフェイス ポリシーを設定します:
```

```
apic1(config-leaf)# template eigrp interface-policy tenant1 tenant tenant1
This template will be available on all leaves where tenant tenant1 has a VRF deployment
apic1(config-template-eigrp-if-pol)# show run
# Command: show running-config leaf 101 template eigrp interface-policy tenant1 tenant
tenant1
# Time: Tue Feb 16 09:45:50 2016
leaf 101
template eigrp interface-policy tenant1 tenant tenant1
ip hello-interval eigrp default 10
ip hold-interval eigrp default 30
ip throughput-delay eigrp default 20
```

exit exit

ステップ7 EIGRPのVRFポリシーを設定します:

例:

```
apic1(config-leaf)# template eigrp vrf-policy tenant1 tenant tenant1
This template will be available on all leaves where tenant tenant1 has a VRF deployment
apic1(config-template-eigrp-vrf-pol)# show run
# Command: show running-config leaf 101 template eigrp vrf-policy tenant1 tenant tenant1
# Time: Tue Feb 16 09:46:31 2016
leaf 101
template eigrp vrf-policy tenant1 tenant tenant1
metric version 64bit
exit
exit
```

```
ステップ8 EIGRP VLAN インターフェイスを設定し、インターフェイスで EIGRP を有効にします:
```

## 例:

```
apic1(config-leaf)# interface vlan 1013
apic1(config-leaf-if) # show run
# Command: show running-config leaf 101 interface vlan 1013
# Time: Tue Feb 16 09:46:59 2016
 leaf 101
    interface vlan 1013
     vrf member tenant tenant1 vrf 13out
     ip address 101.13.1.2/24
      ip router eigrp default
      ipv6 address 101:13::1:2/112 preferred
     ipv6 router eigrp default
     ipv6 link-local fe80::101:13:1:2
     inherit eigrp ip interface-policy tenant1
     inherit eigrp ipv6 interface-policy tenant1
      exit
   exit
apic1(config-leaf-if)# ip summary-address ?
eigrp Configure route summarization for EIGRP
apic1(config-leaf-if) # ip summary-address eigrp default 11.11.0.0/16 ?
 <CR>
apic1(config-leaf-if)# ip summary-address eigrp default 11.11.0.0/16
apic1(config-leaf-if)# ip summary-address eigrp default 11:11:1::/48
apic1(config-leaf-if) # show run
# Command: show running-config leaf 101 interface vlan 1013
# Time: Tue Feb 16 09:47:34 2016
 leaf 101
    interface vlan 1013
     vrf member tenant tenant1 vrf 13out
     ip address 101.13.1.2/24
     ip router eigrp default
     ip summary-address eigrp default 11.11.0.0/16
     ip summary-address eigrp default 11:11:1::/48
     ipv6 address 101:13::1:2/112 preferred
     ipv6 router eigrp default
      ipv6 link-local fe80::101:13:1:2
      inherit eigrp ip interface-policy tenant1
      inherit eigrp ipv6 interface-policy tenant1
      exit
    exit.
```

**ステップ9** 物理インターフェイスに VLAN を適用します:

```
例:
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/5
apic1(config-leaf-if) # show run
# Command: show running-config leaf 101 interface ethernet 1 / 5
# Time: Tue Feb 16 09:48:05 2016
  leaf 101
    interface ethernet 1/5
     vlan-domain member cli
     switchport trunk allowed vlan 1213 tenant tenant13 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 1613 tenant tenant17 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 1013 tenant tenant1 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 666 tenant ten v6 cli external-svi 13out 13out cli L1
     switchport trunk allowed vlan 1513 tenant tenant16 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 1313 tenant tenant14 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 1413 tenant tenant15 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 1113 tenant tenant12 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 712 tenant mgmt external-svi 13out inband 11
     switchport trunk allowed vlan 1913 tenant tenant10 external-svi 13out 13out-L1
     switchport trunk allowed vlan 300 tenant tenant1 external-svi 13out 13out-L1
     exit
    exit
```

```
ステップ10 ルータ EIGRP を有効にします:
```

```
apic1(config-eigrp-vrf)# show run
# Command: show running-config leaf 101 router eigrp default vrf member tenant tenant1
vrf 13out
# Time: Tue Feb 16 09:49:05 2016
  leaf 101
    router eigrp default
      exit
    router eigrp default
      exit
    router eigrp default
      exit
    router eigrp default
      vrf member tenant tenant1 vrf 13out
        autonomous-system 1001 13out 13out-L1
        address-family ipv6 unicast
          inherit eigrp vrf-policy tenant1
          exit
        address-family ipv4 unicast
          inherit eigrp vrf-policy tenant1
          exit
        exit
      exit
```

# NX-OS スタイル CLI を使用したルート集約の設定

# NX-OS スタイル CLI を使用した BGP、OSPF、および EIGRP のルート集約の設定

#### 手順

ステップ1 NX-OS CLI を使用して次のように BGP ルート集約を設定します:

a) 次のように BGP を有効にします:

# 例:

```
apic1(config) # pod 1
apic1(config-pod) # bgp fabric
apic1(config-pod-bgp) # asn 10
apic1(config-pod) # exit
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # router bgp 10
```

b) 次のように 要約ルートを設定します:

# 例:

apic1(config-bgp)# vrf member tenant common vrf vrf1 apic1(config-leaf-bgp-vrf)# aggregate-address 10.0.0.0/8

ステップ2 NX-OS CLI を使用して次のように OSPF 外部集約を設定します。

# 例:

```
apic1(config-leaf)# router ospf default
apic1(config-leaf-ospf)# vrf member tenant common vrf vrf1
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# summary-address 10.0.0.0/8
```

ステップ3 NX-OS CLI を使用して次のように OSPF エリア間集約を設定します。

apic1(config-leaf)# router ospf default apic1(config-leaf-ospf)# vrf member tenant common vrf vrf1 apic1(config-leaf-ospf-vrf)# area 0.0.0.2 range 10.0.0.0/8 cost 20

ステップ4 NX-OS CLI を使用して次のように EIGRP 集約を設定します。

# 例:

```
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/31 (Or interface vlan <vlan-id>)
apic1(config-leaf-if) # ip summary-address eigrp default 10.0.0.0/8
```

(注) EIGRP を設定するルート集約ポリシーはありません。EIGRP の集約を有効にする ために必要なだけの設定では、サマリー サブネット、InstP でです。

# NX-OS スタイルの CLI を使用したルート マップとルート プロファイル によるルート制御の構成

# NX-OS Style CLI を使用した BGP ピアごとのルート制御の設定

次の手順では、NX-OS CLI を使用して BGP ピア単位のルート制御を設定する方法について説明します。

# 手順

ステップ1 ルートグループテンプレートを作成し、ルートグループにIPプレフィックスを追加します。

この例では、テナントtlのルートグループmatch-rulelを作成し、IPプレフィックス200.3.2.0/24 をルートグループに追加します。

# 例:

```
apic1(config)# leaf 103
apic1(config-leaf)# template route group match-rule1 tenant t1
apic1(config-route-group)# ip prefix permit 200.3.2.0/24
apic1(config-route-group)# exit
apic1(config-leaf)#
```

ステップ2 ノードのテナント VRF モードを開始します。

この例では、テナントt1のVRF v1のテナントVRF モードを開始します。

#### 例:

apic1(config-leaf)# vrf context tenant t1 vrf v1

ステップ3 ルートマップを作成し、ルートマップ コンフィギュレーション モードを開始します。すでに 作成されているルート グループとマッチし、マッチ モードを開始してルートプロファイルを 設定します。

この例では、ルートマップ rpl を作成し、ルート グループ match-rulel を順序番号 0 で照合します。

# 例:

```
apic1(config-leaf-vrf)# route-map rp1
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule1 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit
apic1(config-leaf-vrf)# exit
```

ステップ4 BGP ルーティング プロトコルを設定します。

この例では、15.15.15.2 および ASN 100 の BGP ピア アドレスを使用して、プライマリのルー ティング プロトコルとして BGP を設定します。

```
apic1(config)# leaf 103
apic1(config-leaf)# router bgp 100
```

apic1(config-leaf-bgp)# vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 15.15.15.2

- ステップ5 BGP ピアごとのルート制御機能を設定します。
  - ここで、
    - in は、ルートインポートポリシー(ファブリックに許可されるルート)です。
    - outは、ルートエクスポートポリシー(外部ネットワークからアドバタイズされるルート)です。

例:

```
apicl(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# route-map rpl in
apicl(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apicl(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apicl(config-leaf-bgp)# exit
apicl(config-leaf)# exit
```

# NX-OS スタイル CLI を使用して、明示的なプレフィックス リストでルート マップ/プロ ファイルの設定

# 始める前に

- ・テナントと VRF は、NX-OS CLI を介して設定する必要があります。
- •NX-OS CLI を介してリーフ スイッチで VRF をイネーブルにする必要があります。

# 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure	コンフィギュレーションモードに入り
	例:	ます。
	apic1# <b>configure</b>	
ステップ2	leaf node-id	設定するリーフを指定します。
	例:	
	apicl(config)# <b>leaf 101</b>	
ステップ <b>3</b>	template route group group-name tenant	ルートグループテンプレートを作成し
	tenant-name	ます。
	例:	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>apic1(config-leaf)# template route group gl tenant exampleCorp</pre>	<ul> <li>(注) ルートグループ(マッチ ルール)は、1つ以上のIP プレフィックスと1つ以上 のマッチコミュニティ タームを持つことができま す。マッチタイプ全体で は、AND フィルタがサ ポートされているため、 ルートマッチ ルールが受 け入れられるようにするた めに、ルートグループ内の すべての条件がマッチして いる必要があります。ルー トグループに複数のIP プ レフィックスがある場合 は、OR フィルタがサポー トされます。マッチする場 合は、いずれかのプレ フィックスがルートタイプ として受け入れられます。</li> </ul>
ステップ4	<pre>ip prefix permit prefix/masklen [le{32   128 }]</pre>	ルート グループに IP プレフィックス を追加します。
	例: apic1(config-route-group)# ip prefix permit 15.15.15.0/24	<ul> <li>(注) IP プレフィックスは、BD サブネットまたは外部ネッ トワークを示すことができ ます。集約プレフィックス が必要な場合は、IPv4には オプションのle32を、IPv6 には le 128を使用してくだ さい。</li> </ul>
ステップ5	<pre>community-list [ standard   expanded] community-list-name expression 例 : apic1(config-route-group)# community-list standard com1 65535:20</pre>	これは任意のコマンドです。コミュニ ティーもIPプレフィックスと照合する 必要がある場合は、コミュニティの マッチ基準を追加します。
ステップ <b>6</b>	exit 例: apicl(config-route-group)# exit apicl(config-leaf)#	テンプレートモードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ <b>7</b>	<pre>vrf context tenant tenant-name vrf vrf-name [l3out {BGP   EIGRP   OSPF   STATIC }] 何 : apic1(config-leaf)# vrf context tenant exampleCorp vrf v1</pre>	<ul> <li>ノードのテナントVRFモードを開始します。</li> <li>(注) オプションの l3out 文字列を入力する場合、L3Out はNX-OS CLI で設定したL3Out である必要があります。</li> </ul>
ステップ8	template route-profile profile-name [route-control-context-name order-value] 例: apicl(config-leaf-vrf)# template route-profile rpl ctxl 1	マッチするルートに適用する必要のあ るセットアクションを含むテンプレー トを作成します。
ステップ9	set attribute value 例: apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile)# set metric 128	必要な属性 (アクションの設定) をテン プレートに追加します。
ステップ10	exit 例: apicl(config-leaf-vrf-template-route-profile)# exit apicl(config-leaf-vrf)#	テンプレートモードを終了します。
ステップ11	route-map map-name 例: apic1(config-leaf-vrf)# route-map bgpMap	ルートマップを作成し、ルートマップ コンフィギュレーションモードを開始 します。
ステップ <b>12</b>	<pre>match route group group-name [ order number] [deny] 例: apicl(config-leaf-vrf-route-map)# match route group gl order 1</pre>	すでに作成されているルートグループ とマッチし、マッチモードを開始して ルートプロファイルを設定します。さ らに、ルートグループで定義されてい るマッチ基準にマッチするルートを拒 否する必要がある場合は、キーワード [Deny]を選択します。デフォルトの設 定は [Permit] です。
ステップ <b>13</b>	inherit route-profile profile-name 例:	ルートプロファイルを継承します(ア クションを設定します)。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# inherit route-profile rp1</pre>	<ul> <li>(注) これらのアクションは、</li> <li>マッチしたルートに適用されます。または、ルートプロファイルを継承する代わりに、インラインで設定されたアクションを設定することもできます。</li> </ul>
ステップ14	exit	一致モードを終了します。
	例: apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)#	
ステップ 15	exit 例: apicl(config-leaf-vrf-route-map)# exit apicl(config-leaf-vrf)#	ルートマップコンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ16	exit 例: apic1(config-leaf-vrf)# exit apic1(config-leaf)#	VRF コンフィギュレーションモードを 終了します。
ステップ <b>17</b>	router bgp fabric-asn 例: apic1(config-leaf)# router bgp 100	リーフ ノードを設定します。
ステップ18	tl vl vrf member tenant vrf 例: apicl(config-leaf-bgp)# vrf member tenant tl vrf vl	BGP ポリシーの BGP の VRF メンバー シップとテナントを設定します。
ステップ19	neighbor IP-address-of-neighbor 例: apicl(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 15.15.15.2	BGP ネイバーを設定します。
ステップ <b>20</b>	<pre>route-map map-name {in   out } 例: apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# route-map bgpMap out</pre>	BGPネイバのルートマップを設定しま す。

# NX-OS スタイルの CLI を使用した、インポート制御とエクスポート制御を使用するルート制御プロトコルの設定

この例では、ネットワーク接続 BGP を使用して外部レイヤ3 が設定されていることを前提と しています。OSPF を使用するように設定されたネットワークに対してもこれらのタスクを実 行することができます。

ここでは、NX-OS CLI を使用してルートマップを作成する方法を説明します。

#### 始める前に

- テナント、プライベートネットワーク、およびブリッジドメインが作成されていること。
- ・レイヤ3 Outside テナントネットワークが設定されていること。

## 手順

ステップ1 一致コミュニティ、一致プレフィックス リストを使用したインポート ルート制御

# 例:

```
apic1# configure
apic1(config) # leaf 101
    # Create community-list
apic1(config-leaf)# template community-list standard CL 1 65536:20 tenant exampleCorp
apic1(config-leaf) # vrf context tenant exampleCorp vrf v1
     #Create Route-map and use it for BGP import control.
apic1(config-leaf-vrf)# route-map bgpMap
    # Match prefix-list and set route-profile actions for the match.
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# ip prefix-list list1 permit 13.13.13.0/24
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# ip prefix-list list1 permit 14.14.14.0/24
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match prefix-list list1
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# set tag 200
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# set local-preference 64
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-bgp) # vrf member tenant exampleCorp vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf) # neighbor 3.3.3.3
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# route-map bgpMap in
```

**ステップ2** 一致 BD、デフォルトのエクスポート ルート プロファイルを使用したエクスポート ルート制 御

## 例:

# Create custom and "default-export" route-profiles apic1(config) # leaf 101 apic1(config-leaf) # vrf context tenant exampleCorp vrf v1 apic1(config-leaf-vrf) # template route-profile default-export apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile) # set metric 256 apic1(config-leaf-vrf) # template route-profile bd-rtctrl apic1(config-leaf-vrf-template-route-profile) # set metric 128

#Create a Route-map and match on BD, prefix-list

apic1(config-leaf-vrf)# route-map bgpMap apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match bridge-domain bd1 apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)#exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match prefix-list p1 apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)#exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match bridge-domain bd2 apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# inherit route-profile bd-rtctrl

(注) この場合、bdlのパブリックサブネットとプレフィックスリストplを照合するプレフィックスが、ルートプロファイルの「default-export」を使用してエクスポートされ、bd2のパブリックサブネットはルートプロファイルの「bd-rtctrl」を使用してエクスポートされます。

# NX-OS Style CLI を使用したインターリーク再配布の設定

次の手順では、NX-OS スタイルの CLI を使用してインターリーク再配布を設定する方法について説明します。

# 始める前に

テナント、VRF および L3Out を作成します。

#### 手順

**ステップ1** 境界リーフノードのインターリーク再配布のルートマップを設定します。

# 例:

次の例では、[テナント(tenant)][CLI_TEST] および [VRF] [VRF1] の IP プレフィックス リスト [CLI PFX1] を使用してルート マップ [CLI RP] を設定します。

```
apic1# conf t
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# vrf context tenant CLI_TEST vrf VRF1
apic1(config-leaf-vrf)# route-map CLI_RP
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# ip prefix-list CLI_PFX1 permit 192.168.1.0/24
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match prefix-list CLI PFX1 [deny]
```

**ステップ2** 設定されたルート マップを使用して、インターリーク再配布を設定します。

# 例:

次に、設定されたルートマップ [CLI_RP] を使用して OSPF ルートの再配布を設定する例を示 します。

```
apic1# conf t
apic1(config)# leaf 101
apic1(config-leaf)# router bgp 65001
apic1(config-leaf-bgp)# vrf member tenant CLI_TEST vrf VRF1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# redistribute ospf route-map CLI RP
```

# NX-OS スタイル CLI を使用したトランジット ルーティングの設定

# NX-OS スタイル CLI を使用したトランジット ルーティングの設定

次の手順では、テナントのトランジットルーティングを設定する方法を説明します。この例では、別々にルータに接続された2つの境界リーフスイッチ上の1個のVRFで、2個のL3Outsを展開します。

#### 始める前に

- ・ノード、ポート、AEP、機能プロファイル、レイヤ3ドメインを設定します。
- •使用して VLAN ドメイン設定、 vlan ドメイン ドメイン および vlan 範囲 コマン ド。
- BGP ルート リフレクタ ポリシーを設定し、ファブリック内でルーテッドを伝達します。

## 手順

ステップ1 テナントおよび VRF を設定します。

この例では VRF v1 でテナント t1 を設定します。VRF はまだ展開されていません。

#### 例:

```
apic1# configure
apic1(config)# tenant t1
apic1(config-tenant)# vrf context v1
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(config-tenant)# exit
```

- ステップ2 ノードおよびインターフェイスを設定します。
  - この例では、2 つの境界リーフ スイッチでテナント t1 の 2 つの L3Outs を設定します。
    - ・最初のL3Out はノード101上にあり、nodep1という名前です。ノード101 はルータ ID 11.11.11.03 で設定されます。ルーテッドインターフェイス ifp1 が eth1/3 にあり、IPア ドレス 12.12.3/24 です。
    - •2番目のL3Out が ノード 102 上にあり、nodep2 という名前です。ノード 102 はルータ ID 22.22.203 で設定されます。ルーテッドインターフェイス ifp2 が eth1/3 に存在し、IP アドレスは 23.23.1/24 です。

```
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf) # router-id 11.11.11.103
apic1(config-leaf-vrf) # exit
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/3
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if) # no switchport
apic1(config-leaf-if) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-if) # ip address 12.12.12.3/24
```

```
apic1(config-leaf-if) # exit
apic1(config-leaf) # exit
apic1(config) # leaf 102
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf) # router-id 22.22.22.203
apic1(config-leaf-vrf) # exit
apic1(config-leaf-vrf) # exit
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-if) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-if) # ip address 23.23.23.3/24
apic1(config-leaf) # exit
```

```
ステップ3 両方のリーフスイッチのルーティングプロトコルを設定します。
```

この例では、両方の境界リーフスイッチに対して、ASN 100 でプライマリルーティングプロ トコルとしてBGPを設定します。BGP ピア 15.15.15.2を持つノード 101 と BGP ピア 25.25.25.2 を持つノード102を設定します。

例:

```
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 15.15.15.2
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp) # exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config)# leaf 102
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 25.25.25.2
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp)# exit
apic1(config-leaf) # exit
```

```
ステップ4 接続ルーティングプロトコルを設定します。
```

この例では、定期的なエリア ID 0.0.0.0 で両方の L3Outs に対して通信プロトコルとして OSPF を設定します。

#### 例:

```
apicl(config) # leaf 101
apicl(config-leaf) # router ospf default
apicl(config-leaf-ospf) # vrf member tenant t1 vrf v1
apicl(config-leaf-ospf-vrf) # area 0.0.0.0 loopback 40.40.40.1
apicl(config-leaf-ospf-vrf) # exit
apicl(config-leaf-ospf) # exit
apicl(config-leaf) # exit
apicl(config-leaf) # exit
apicl(config-leaf) # router ospf default
apicl(config-leaf) # router ospf default
apicl(config-leaf-ospf) # vrf member tenant t1 vrf v1
apicl(config-leaf-ospf-vrf) # area 0.0.0.0 loopback 60.60.60.1
apicl(config-leaf-ospf) # exit
apicl(config-leaf-ospf) # exit
apicl(config-leaf-ospf) # exit
apicl(config-leaf-ospf) # exit
```

ステップ5 外部 EPG を設定します。

この例では、ネットワーク 192.168.1.0/24 をノード 101 上の外部ネットワーク extnw1 として、 ネットワーク 192.168.2.0/24 をノード 102 上の外部ネットワーク extnw2 として設定します。

#### 例:

```
apic1(config) # tenant t1
apic1(config-tenant) # external-13 epg extnw1
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # vrf member v1
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# match ip 192.168.1.0/24
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# exit
apic1(config-tenant)# external-13 epg extnw2
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# vrf member v1
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # match ip 192.168.2.0/24
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# exit
apic1(config-tenant) # exit
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf)# external-13 epg extnw1
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # exit
apic1(config) # leaf 102
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf) # external-13 epg extnw2
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # exit
```

#### **ステップ6** オプション。ルートマップを設定します。

この例では、インバウンドおよびアウトバウンド方向で各BGPピアのルートマップを設定します。

- 例:
- 例:

```
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # template route group match-rule1 tenant t1
apic1(config-route-group)# ip prefix permit 192.168.1.0/24
apic1(config-route-group) # exit
apic1(config-leaf) # template route group match-rule2 tenant t1
apic1(config-route-group) # ip prefix permit 192.168.2.0/24
apic1(config-route-group) # exit
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf)# route-map rp1
apic1 (config-leaf-vrf-route-map) # match route group match-rule1 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match) # exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit
apic1(config-leaf-vrf)# route-map rp2
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule2 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match) # exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 15.15.15.2
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# route-map rp1 in
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor) # route-map rp2 out
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp)# exit
apic1(config-leaf) # exit
apic1(config)# leaf 102
apic1(config-leaf) # template route group match-rule1 tenant t1
```

```
apic1(config-route-group) # ip prefix permit 192.168.1.0/24
apic1(config-route-group)# exit
apic1(config-leaf) # template route group match-rule2 tenant t1
apic1(config-route-group) # ip prefix permit 192.168.2.0/24
apic1(config-route-group)# exit
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf)# route-map rp1
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule2 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match) # exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit
apic1(config-leaf-vrf) # route-map rp2
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule1 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match) # exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit
apic1(config-leaf-vrf) # exit
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 25.25.25.2
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# route-map rp2 in
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor) # route-map rp1 out
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp)# exit
apic1(config-leaf) # exit
```

ステップ7 フィルタ(アクセスリスト)およびコントラクトを作成し、EPGが通信できるようにします。

例:

```
apic1(config) # tenant t1
apic1(config-tenant) # access-list http-filter
apic1(config-tenant-acl) # match ip
apic1(config-tenant-acl) # match tcp dest 80
apic1(config-tenant-acl) # exit
apic1(config-tenant) # contract httpCtrct
apic1(config-tenant-contract) # scope vrf
apic1(config-tenant-contract) # subject subj1
apic1(config-tenant-contract-subj) # access-group http-filter both
apic1(config-tenant-contract-subj) # exit
apic1(config-tenant-contract) # exit
apic1(config-tenant) # exit
```

ステップ8 契約を設定し、Epg に関連付けます。

```
apicl(config)# tenant t1
apicl(config-tenant)# external-13 epg extnwl
apicl(config-tenant-13ext-epg)# vrf member v1
apicl(config-tenant-13ext-epg)# contract provider httpCtrct
apicl(config-tenant-13ext-epg)# exit
apicl(config-tenant)# external-13 epg extnw2
apicl(config-tenant-13ext-epg)# vrf member v1
apicl(config-tenant-13ext-epg)# contract consumer httpCtrct
apicl(config-tenant-13ext-epg)# exit
apicl(config-tenant-13ext-epg)# exit
apicl(config-tenant)# exit
apicl(config-tenant)# exit
apicl(config-tenant)# exit
```

# 例:中継ルーティング

この例では、中継ルーティングのマージされた設定を提供します。設定は別々のルータに接続 されている2個の障壁リーフスイッチで、2つのL3Outsを持つ単一のテナントと VRF のため にあります。

```
apic1# configure
apic1(config)# tenant t1
apic1(config-tenant)# vrf context v1
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(config-tenant)# exit
```

```
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf)# router-id 11.11.11.103
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/3
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if) # no switchport
apic1(config-leaf-if) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-if) # ip address 12.12.12.3/24
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf)# router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf) # neighbor 15.15.15.2
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp)# exit
apic1(config-leaf) # router ospf default
apic1(config-leaf-ospf) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# area 0.0.0.0 loopback 40.40.40.1
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# exit
apic1(config-leaf-ospf)# exit
apic1(config-leaf)# exit
```

```
apic1(config) # leaf 102
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf) # router-id 22.22.22.203
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # interface ethernet 1/3
apic1(config-leaf-if) # vlan-domain member dom1
apic1(config-leaf-if)# no switchport
apic1(config-leaf-if)# vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-if)# ip address 23.23.23.3/24
apic1(config-leaf-if)# exit
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp)# vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 25.25.25.2/24
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp)# exit
apic1(config-leaf)# router ospf default
apic1(config-leaf-ospf) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# area 0.0.0.0 loopback 60.60.60.3
apic1(config-leaf-ospf-vrf)# exit
apic1(config-leaf-ospf) # exit
apic1(config-leaf) # exit
apic1(config) # tenant t1
apic1(config-tenant)# external-13 epg extnw1
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # vrf member v1
```

```
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# match ip 192.168.1.0/24
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# exit
```

```
apic1(config-tenant) # external-13 epg extnw2
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# vrf member v1
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# match ip 192.168.2.0/24
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# exit
apic1(config-tenant) # exit
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf)# external-13 epg extnw1
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # exit
apic1(config) # leaf 102
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf) # external-13 epg extnw2
apic1(config-leaf-vrf) # exit
apic1(config-leaf) # exit
apic1(config) # leaf 101
apic1(config-leaf) # template route group match-rule1 tenant t1
apic1(config-route-group) # ip prefix permit 192.168.1.0/24
apic1(config-route-group)# exit
apic1(config-leaf) # template route group match-rule2 tenant t1
apic1(config-route-group)# ip prefix permit 192.168.2.0/24
apic1(config-route-group)# exit
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf) # route-map rp1
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule1 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit
apic1(config-leaf-vrf)# route-map rp2
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule2 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map) # exit
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf) # router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 15.15.15.2
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# route-map rp1 in
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor) # route-map rp2 out
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp)# exit
apic1(config-leaf)# exit
apic1(config) # leaf 102
apic1(config-leaf)# template route group match-rule1 tenant t1
apic1(config-route-group)# ip prefix permit 192.168.1.0/24
apic1(config-route-group)# exit
apic1(config-leaf)# template route group match-rule2 tenant t1
apic1(config-route-group)# ip prefix permit 192.168.2.0/24
apic1(config-route-group) # exit
apic1(config-leaf) # vrf context tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-vrf)# route-map rp1
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule1 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match) # exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map) # exit
apic1(config-leaf-vrf)# route-map rp2
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match route group match-rule2 order 0
apic1(config-leaf-vrf-route-map-match) # exit
apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit
apic1(config-leaf-vrf)# exit
apic1(config-leaf)# router bgp 100
apic1(config-leaf-bgp) # vrf member tenant t1 vrf v1
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# neighbor 25.25.25.2
```

```
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# route-map rp2 in
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor) # route-map rp1 out
apic1(config-leaf-bgp-vrf-neighbor)# exit
apic1(config-leaf-bgp-vrf)# exit
apic1(config-leaf-bgp)# exit
apic1(config-leaf) # exit
apic1(config) # tenant t1
apic1(config-tenant)# access-list http-filter
apic1(config-tenant-acl)# match ip
apic1(config-tenant-acl) # match tcp dest 80
apic1(config-tenant-acl) # exit
apic1(config-tenant) # contract httpCtrct
apic1(config-tenant-contract) # scope vrf
apic1(config-tenant-contract) # subject http-subj
apic1(config-tenant-contract-subj)# access-group http-filter both
apic1(config-tenant-contract-subj)# exit
apic1(config-tenant-contract)# exit
apic1(config-tenant) # exit
apic1(config) # tenant t1
apic1(config-tenant)# external-13 epg extnw1
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # vrf member v1
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # contract provider httpCtrct
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # exit
apic1(config-tenant) # external-13 epg extnw2
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # vrf member v1
apic1(config-tenant-l3ext-epg) # contract consumer httpCtrct
apic1(config-tenant-l3ext-epg)# exit
apic1(config-tenant) # exit
apic1(config)#
```

# NX-OS Style CLI を使用した共有サービスの設定

手順

NX-OS スタイル CLI を使用して共有 レイヤ 3 VRF 内リークを設定する - 名前が付けられた例

	コマンドまたはアクション	目的	
ステップ1	コンフィギュレーション モードを開始 します。 例: apicl# configure		
ステップ2	プロバイダー レイヤ3を設定します。 例: apic1(config)# tenant t1_provider apic1(config-tenant)# external-13 epg 13extInstP-1 13out T0-o1-L3OUT-1 apic1(config-tenant-13ext-epg)# vrf member VRF1 apic1(config-tenant-13ext-epg)# match ip 192.168.2.0/24 shared		
	コマンドまたはアクション	目的	
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----	
	<pre>apic1 (config-tenant-l3ext-epg) # contract provider vzBrCP-1 apic1 (config-tenant-l3ext-epg) # exit apic1 (config-tenant) # exit apic1 (config) # leaf 101 apic1 (config-leaf) # vrf context tenant t1_provider vrf VRF1 l3out T0-o1-L3OUT-1 apic1 (config-leaf-vrf) # route-map T0-o1-L3OUT-1_shared prio1 (config-leaf erf) # for the prio1 (config-leaf) # for the prion (config-leaf) # for the pri</pre>		
	<pre>apic1(config-leaf-vrf-route-map)# ip prefix-list l3extInstP-1 permit 192.168.2.0/24 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match prefix-list l3extInstP-1 apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)#</pre>		
	<pre>exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit apic1(config-leaf-vrf)# exit apic1(config-leaf)# exit</pre>		
ステップ3	レイヤ 3 Out コンシューマを設定します。 例:		
	<pre>apic1(config)# tenant tl_consumer apic1(config-tenant)# external-13 epg 13extInstP-2 13out T0-o1-L3OUT-1 apic1(config-tenant-13ext-epg)# vrf member VRF2</pre>		
	<pre>apic1(config-tenant-lsext-epg)# matcn ip 199.16.2.0/24 shared apic1(config-tenant-l3ext-epg)# contract consumer vzBrCP-1 imported apic1(config-tenant-l3ext-epg)# exit apic1(config-tenant)# exit</pre>		
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# vrf context tenant t1_consumer vrf VRF2 13out T0-o1-L3OUT-1 apic1(config-leaf-vrf)# route-map</pre>		
	<pre>T0-ol-L3OUT-1_shared apic1(config-leaf-vrf-route-map)# ip prefix-list l3extInstP-2 permit 199.16.2.0/24 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match</pre>		
	<pre>prefix-list l3extInstP-2 apic1(config-leaf-vrf-route-map-match)# exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit apic1(config-leaf-vrf)# exit apic1(config-leaf)# exit apic1(config)#</pre>		

### NX-OS Style CLI を使用した共有レイヤ 3 VRF 間リークの設定:名前を付けた例

手順	

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	コンフィギュレーション モードを開始 します。	
	例:	
	apic1# configure	
ステップ2	プロバイダテナントおよび VRF の設定	
	例:	
	<pre>apic1(config)# tenant t1_provider apic1(config-tenant)# vrf context VRF1 apic1(config-tenant-vrf)# exit apic1(config-tenant)# exit</pre>	
ステップ <b>3</b>	コンシューマテナントおよび VRF の設 定	
	例:	
	<pre>apic1(config)# tenant t1_consumer apic1(config-tenant)# vrf context VRF2 apic1(config-tenant-vrf)# exit apic1(config-tenant)# exit</pre>	
ステップ4	コントラクトの設定	
	例:	
	<pre>apic1(config)# tenant t1_provider apic1(config-tenant)# contract vzBrCP-1 type permit</pre>	
	<pre>apic1(config-tenant-contract)# scope exportable</pre>	
	apic1(config-tenant-contract)# export	
	apicl(config-tenant-contract)# exit	
ステップ5	プロバイダ外部レイヤ3 EPGの設定	
	例:	
	<pre>apic1(config-tenant)# external-13 epg 13ovtInstP-1</pre>	
	apic1(config-tenant-l3ext-epg)# <b>vrf</b>	
	<pre>member VRF1 apic1(config-tenant-l3ext-epg)# match</pre>	
	<pre>ip 192.168.2.0/24 shared apic1(config-tenant-l3ext-epg)#</pre>	
	contract provider vzBrCP-1	
	apic1(config-tenant-13ext-epg)# exit apic1(config-tenant)# exit	
ステップ6	プロバイダ エクスポート マップの設定	

	コマンドまたはアクション	目的
	例:	
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# vrf context tenant t1_provider vrf VRF1 apic1(config-leaf-vrf)# route-map map1 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# ip prefix-list p1 permit 192.168.2.0/24 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match prefix-list p1 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit apic1(config-leaf-vrf)# export map map1 apic1(config-leaf-vrf)# exit apic1(config-leaf-vrf)# exit apic1(config-leaf-vrf)# exit</pre>	
ステップ1	コンシューマ外部レイヤ3 EPG の設定	
	例:	
	<pre>apic1(config)# tenant t1_consumer apic1(config-tenant)# external-13 epg 13extInstP-2 apic1(config-tenant-13ext-epg)# vrf member VRF2 apic1(config-tenant-13ext-epg)# match ip 199.16.2.0/24 shared apic1(config-tenant-13ext-epg)# contract consumer vzBrCP-1 imported apic1(config-tenant-13ext-epg)# exit apic1(config-tenant)# exit</pre>	
ステップ8	コンシューマ エクスポート マップの設 定	
	例:	
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# vrf context tenant t1_consumer vrf VRF2 apic1(config-leaf-vrf)# route-map map2 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# ip prefix-list p2 permit 199.16.2.0/24 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# match prefix-list p2 apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit apic1(config-leaf-vrf-route-map)# exit apic1(config-leaf-vrf)# export map map2 apic1(config-leaf-vrf)# exit apic1(config-leaf-vrf)# exit apic1(config-leaf)# exit apic1(config-leaf)# exit</pre>	

### NX-OS スタイルの CLI を使用した L3Out の QoS の設定

### CLI を使用した L30ut での QoS の直接設定

この章では L3Out で QoS ディレクトリを設定する方法について説明します。これは、リリース 4.0(1) 以降の L3Out QoS の推奨設定方法です。Cisco APIC

次のオブジェクトの内の1つでL3OutのQoSを設定できます。

- Switch Virtual Interface (SVI)
- サブインターフェイス
- 外部ルーテッド

#### 手順

ステップ1 L3Out SVI に QoS プライオリティを設定します。

#### 例:

```
interface vlan 19
    vrf member tenant DT vrf dt-vrf
    ip address 107.2.1.252/24
    description 'SVI19'
    service-policy type qos VrfQos006 // for custom QoS attachment
    set qos-class level6 // for set QoS priority
    exit
```

ステップ2 サブインターフェイスに QoS プライオリティを設定します。

#### 例:

```
interface ethernet 1/48.10
    vrf member tenant DT vrf inter-tentant-ctx2 l3out L4_E48_inter_tennant
    ip address 210.2.0.254/16
    service-policy type qos vrfQos002
    set qos-class level5
```

ステップ3 外部ルーテッドに QoS プライオリティを設定します。

#### 例:

```
interface ethernet 1/37
  no switchport
  vrf member tenant DT vrf dt-vrf 13out L2E37
  ip address 30.1.1.1/24
  service-policy type qos vrfQos002
  set qos-class level5
  exit
```

### CLI を使用した L3Out の QoS コントラクトの設定

この項では、コントラクトを使用して L3Out の QoS を設定する方法について説明します。



#### 手順

**ステップ1** L3Out で QoS 優先順位の適用をサポートするために、出力モードの VRF を設定し、ポリシー 適用を有効化します。

```
apic1# configure
apic1(config)# tenant t1
apic1(config-tenant)# vrf context v1
apic1(config-tenant-vrf)# contract enforce egress
apic1(config-tenant-vrf)# exit
apic1(congig-tenant)# exit
apic1(config)#
```

#### ステップ2 QoS を設定します。

フィルタ (access-list)を作成するとき、ターゲット DSCP レベルの match dscp コマンドを含みます。

コントラクトを設定するとき、L3Out でのトラフィック出力の QoS クラスを含めます。また は、ターゲット DSCP の値を定義することもできます。QoS ポリシーは、コントラクトまたは サブジェクトのいずれかでサポートされます。

L3out インターフェイスでの QoS またはカスタム QoS では VRF の適用は入力である必要があ ります。VRF の適用を出力にする必要があるのは、QOS 分類が EPG と L3out の間、または L3out から L3out へのトラフィックのコントラクトで実行される場合に限ります。

(注) QoS分類がコントラクトで設定され、VRFの適用が出力である場合、コントラクト
 QoS分類はL3out インターフェイス QoS またはカスタム QoS分類をオーバーライドします。

```
apicl(config)# tenant t1
apicl(config-tenant)# access-list http-filter
apicl(config-tenant-acl)# match ip
apicl(config-tenant-acl)# match tcp dest 80
apicl(config-tenant-acl)# match dscp EF
apicl(config-tenant-acl)# exit
apicl(config-tenant-acl)# exit
apicl(config-tenant-contract)# scope vrf
apicl(config-tenant-contract)# gos-class level1
apicl(config-tenant-contract)# subject http-subject
apicl(config-tenant-contract)# subject http-subject
apicl(config-tenant-contract-subj)# access-group http-filter both
apicl(config-tenant-contract-subj)# exit
apicl(config-tenant-contract)# exit
apicl(config-tenant-contract)# exit
apicl(config-tenant)# exit
apicl(config-tenant)# exit
```

### NX-OS Style CLI を使用した ACI IP SLA の設定

### NX-OS Style CLI を使用した IP SLA モニタリング ポリシーの設定

NX-OS スタイル CLI を使用して特定の SLA タイプのモニタリング プローブを送信するように Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) を設定するには、次の手順を実行しま す。

#### 始める前に

テナントが設定されていることを確認します。

#### 手順

ステップ1 コンフィギュレーション モードを開始します。

#### 例:

apic1# configure

**ステップ2** テナントを作成してテナント コンフィギュレーション モードを開始するか、既存のテナント のテナント コンフィギュレーション モードを開始します。

#### 例:

apic1(config)# tenant t1

**ステップ3** IP SLA モニタリング ポリシーを作成し、IP SLA ポリシー コンフィギュレーション モードを 開始します。

#### 例:

apic1(config-tenant)# ipsla-pol ipsla-policy-3

ステップ4 モニタリング頻度を秒単位で設定します。これはプローブの送信間隔です。

#### 例:

apic1(config-ipsla-pol)# sla-frequency 40

ステップ5 モニタリング プローブ タイプを設定します。

タイプに指定できる値は次のとおりです。

- icmp
- 12ping
- tcp sla-port number

スタティックルートの IP SLA には ICMP と TCP のみが有効です。

apic1(config-ipsla-pol)# sla-type tcp sla-port 90

#### 次のタスク

作成した IP SLA モニタリング ポリシーを表示するには、次のように入力します。

show running-config all tenant tenant-name ipsla-pol

```
次の出力が表示されます。
```

```
# Command: show running-config all tenant 99 ipsla-pol
# Time: Tue Mar 19 19:01:06 2019
tenant t1
    ipsla-pol ipsla-policy-3
        sla-detectmultiplier 3
        sla-frequency 40
        sla-frequency 40
        sla-port pol
        sla-port 90
        exit
        exit
        exit
        exit
```

### NX-OS Style CLI を使用した IP-SLA トラック メンバーの設定

NX-OS スタイルの CLI を使用して IP SLA トラック メンバーを設定するには、次の手順を実行 します。

#### 始める前に

テナントおよびテナントの下の IP SLA モニタリング ポリシーが設定されていることを確認し ます。

#### 手順

ステップ1 configure

コンフィギュレーション モードに入ります。

#### 例:

apic1# configure

#### ステップ2 tenant tenant-name

テナントを作成するか、テナント設定モードに入ります。

#### 例:

apic1(config) # tenant t1

#### ステップ3 name ipv4-or-ipv6-address name track-member dst-IpAddr l3-out

宛先 IP アドレスを持つトラックメンバーを作成し、トラックメンバー コンフィギュレーション モードを開始します。

apic1(config-tenant)#)# track-member tm-1 dst-IpAddr 10.10.10.1 l3-out ext-l3-1

#### ステップ4 ipsla-monpol name

トラックメンバーに IP SLA モニタリングポリシーを割り当てます。

#### 例:

apic1(config-track-member)# ipsla-monpol ipsla-policy-3

#### 例

次の例は、IP SLA トラック メンバーを設定するコマンドを示しています。

```
apic1# configure
    apic1(config)# tenant t1
    apic1(config-tenant)# )# track-member tm-1 dst-IpAddr 10.10.10.1 l3-out ext-l3-1
    apic1(config-track-member)# ipsla-monpol ipsla-policy-3
```

#### 次のタスク

作成したトラック メンバー設定を表示するには、次のように入力します。

show running-config all tenant tenant-name track-member name

次の出力が表示されます。

```
# Command: show running-config all tenant 99 track-member tm-1
# Time: Tue Mar 19 19:01:06 2019
tenant t1
track-member tm-1 10.10.10.1 l3-out ext-l3-1
ipsla-monpol slaICMPProbe
exit
exit
```

### NX-OS Style CLI を使用した IP-SLA トラック リストの設定

NX-OS スタイルの CLI を使用して IP SLA トラック リストを設定するには、次の手順を実行します。

#### 始める前に

テナント、IP SLA モニタリング ポリシー、およびテナント下の少なくとも1つのトラックメンバーが設定されていることを確認します。

#### 手順

#### ステップ1 configure

コンフィギュレーション モードに入ります。

#### 例:

apic1# configure

#### ステップ2 tenant tenant-name

テナントを作成するか、テナント設定モードに入ります。

#### 例:

apic1(config)# tenant t1

## ステップ3 track-list name { percentage [ percentage-down | percentage-up ] number | weight [ weight-down | weight-up number }

パーセンテージまたは重みしきい値の設定でトラックリストを作成し、トラック リスト コン フィギュレーション モードを開始します。

#### 例:

apic1(config-tenant)#)# track-list tl-1 percentage percentage-down 50 percentage-up 100

#### ステップ4 track-member name

既存のトラックメンバーをトラックリストに割り当てます。

#### 例:

apic1(config-track-list)# track-member tm-1

#### 例

次の例は、IP SLA トラック リストを設定するコマンドを示しています。

```
apic1# configure
    apic1(config)# tenant t1
    apic1(config-tenant)# )# track-list t1-1 percentage percentage-down 50 percentage-up
100
    apic1(config-track-list)# track-member tm1
```

#### 次のタスク

作成したトラック メンバー設定を表示するには、次のように入力します。

show running-config all tenant tenant-name track-member name

```
次の出力が表示されます。
```

```
# Command: show running-config all tenant 99 track-list tl-1
# Time: Tue Mar 19 19:01:06 2019
tenant t1
track-list tl-1 percentage percentage-down 50 percentage-up 100
track-member tm-1 weight 10
exit
exit
```

### NX-OS Style CLI を使用したスタティック ルートとトラック リストの関連付け

NX-OS スタイル CLI を使用して IP SLA トラック リストをスタティック ルートに関連付ける には、次の手順を実行します。

#### 始める前に

テナント、VRF およびテナントの下にあるトラック リストが設定されていることを確認して ください。

#### 手順

#### ステップ1 configure

コンフィギュレーション モードに入ります。

例:

apic1# configure

#### ステップ2 leaf id または leaf-name

リーフ スイッチを選択し、リーフ スイッチ コンフィギュレーション モードを開始します。

例:

apic1(config) # leaf 102

#### ステップ3 vrf context tenant name vrf name

VRF コンテキストを選択し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。

例:

apic1(config-leaf)# )# vrf context tenant 99 vrf default

#### ステップ4 ip route ip-address next-hop-ip-address route-prefix bfd ip-trackList name

既存のトラック リストをスタティック ルートに割り当てます。

#### 例:

apic1(config-leaf-vrf)# ip route 10.10.10.1/4 20.20.20.8 10 bfd ip-trackList tl-1

#### 例

次に、IP SLA トラック リストをスタティック ルートに関連付けるコマンドの例を示 します。

apic1# configure apic1(config)# leaf 102 apic1(config-leaf)# )# vrf context tenant 99 vrf default apic1(config-leaf-vrf)# ip route 10.10.10.1/4 20.20.20.8 10 bfd ip-trackList tl-1

### NX-OS Style CLI を使用したトラック リストとネクスト ホップ プロファイルの関連付け

NX-OS スタイルの CLI を使用して IP SLA トラック リストをネクスト ホップ プロファイルに 関連付けるには、次の手順を実行します。

#### 始める前に

テナント、VRF およびテナントの下にあるトラック リストが設定されていることを確認して ください。

手順

#### ステップ1 configure

コンフィギュレーション モードに入ります。

例:

apic1# configure

#### ステップ2 leaf id または leaf-name

リーフ スイッチを選択し、リーフ スイッチ コンフィギュレーション モードを開始します。

例:

apic1(config) # leaf 102

#### ステップ3 vrf context tenant name vrf name

VRF コンテキストを選択し、VRF コンフィギュレーション モードを開始します。

例:

apic1(config-leaf)# )# vrf context tenant 99 vrf default

#### ステップ4 ip route ip-address next-hop-ip-address route-prefix bfd nh-ip-trackList name

既存のトラックリストをネクストホップに割り当てます。

例:

apic1(config-leaf-vrf)# ip route 10.10.10.1/4 20.20.20.8 10 bfd nh-trackList tl-1

#### 例

次に、IP SLA トラック リストをネクスト ホップ プロファイルに関連付けるコマンド の例を示します。

```
apic1# configure
    apic1(config)# leaf 102
    apic1(config-leaf)# )# vrf context tenant 99 vrf default
    apic1(config-leaf-vrf)# ip route 10.10.10.1/4 20.20.20.8 10 bfd nh-ip-trackList
tl-1
```

### CLI を使用したトラック リストおよびトラック メンバー ステータスの表示

IP SLA トラック リストおよびトラック メンバー ステータスを表示できます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	show track brief	すべてのトラック リストおよびトラッ
	例:	クメンバーのステータスを表示します。
	switch# show track brief	

#### 手順

#### 例

switch# s	show trac}	k brief			
TrackId	Туре	Instance	Parameter	State	Last Change
97	IP SLA	2034	reachability	up	2019-03-20T14:08:34.127-07:00
98	IP SLA	2160	reachability	up	2019-03-20T14:08:34.252-07:00
99	List		percentage	up	2019-03-20T14:08:45.494-07:00
100	List		percentage	down	2019-03-20T14:08:45.039-07:00
101	List		percentage	down	2019-03-20T14:08:45.040-07:00
102	List		percentage	up	2019-03-20T14:08:45.495-07:00
103	IP SLA	2040	reachability	up	2019-03-20T14:08:45.493-07:00
104	IP SLA	2887	reachability	down	2019-03-20T14:08:45.104-07:00
105	IP SLA	2821	reachability	up	2019-03-20T14:08:45.494-07:00
1	List		percentage	up	2019-03-20T14:08:39.224-07:00
2	List		weight	down	2019-03-20T14:08:33.521-07:00
3	IP SLA	2412	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.983-07:00
26	IP SLA	2320	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.988-07:00
27	IP SLA	2567	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.987-07:00
28	IP SLA	2598	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.990-07:00
29	IP SLA	2940	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.986-07:00
30	IP SLA	2505	reachability	up	2019-03-20T14:08:38.915-07:00
31	IP SLA	2908	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.990-07:00
32	IP SLA	2722	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.992-07:00
33	IP SLA	2753	reachability	up	2019-03-20T14:08:38.941-07:00
34	IP SLA	2257	reachability	up	2019-03-20T14:08:33.993-07:00

### CLI を使用したトラック リストとトラック メンバーの詳細の表示

IP SLA トラック リストおよびトラック メンバーの詳細を表示できます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	show track [ <i>number</i> ]   more	すべてのトラック リストおよびトラッ
	例:	クメンバーの詳細を表示します。
	switch# show track   more	

#### 例

```
switch# show track | more
Track 4
    IP SLA 2758
    reachability is down
    1 changes, last change 2019-03-12T21:41:34.729+00:00
```

```
Tracked by:
        Track List 3
        Track List 5
Track 3
    List Threshold percentage
    Threshold percentage is down
    1 changes, last change 2019-03-12T21:41:34.700+00:00
    Threshold percentage up 1% down 0%
    Tracked List Members:
        Object 4 (50)% down
        Object 6 (50)% down
    Attached to:
        Route prefix 172.16.13.0/24
Track 5
    List Threshold percentage
    Threshold percentage is down
    1 changes, last change 2019-03-12T21:41:34.710+00:00
   Threshold percentage up 1% down 0%
   Tracked List Members:
        Object 4 (100)% down
    Attached to:
        Nexthop Addr 12.12.12.2/32
Track 6
    IP SLA 2788
    reachability is down
    1 changes, last change 2019-03-14T21:34:26.398+00:00
   Tracked bv:
        Track List 3
        Track List 7
Track 20
    List Threshold percentage
    Threshold percentage is up
    4 changes, last change 2019-02-21T14:04:21.920-08:00
   Threshold percentage up 100% down 32%
    Tracked List Members:
    Object 4 (20)% up
   Object 5 (20)% up
   Object 6 (20)% up
    Object 3 (20)% up
    Object 9 (20)% up
    Attached to:
    Route prefix 88.88.88.0/24
    Route prefix 5000:8:1:14::/64
    Route prefix 5000:8:1:2::/64
    Route prefix 5000:8:1:1::/64
```

この例では、Track4はIPSLAIDと[Tracked by:]フィールドのトラックリストによっ て識別されるトラックメンバーです。

Track 3 は、しきい値情報と [トラック リスト メンバー (Track List Members)] フィー ルドのトラック メンバーによって識別されるトラック リストです。

トラック 20 は、現在到達可能(アップ)で、関連付けられているスタティック ルートを示すトラック リストです。

### NX-OS Style CLI を使用した HSRP の設定

### NX-OS スタイル CLI での Cisco APIC を使用してインライン パラメータで HSRP の設定

リーフスイッチが設定されている場合、HSRP が有効になっています。

#### 始める前に

- ・テナントと VRF が設定されています。
- VLAN プールは、適切な VLAN 範囲が定義され、レイヤ3ドメインが作成されて VLAN プールに接続されている状態で設定される必要があります。
- エンティティプロファイルの接続も、レイヤ3ドメインに関連付けられている必要があります。
- リーフスイッチのインターフェイスプロファイルは必要に応じて設定する必要があります。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure	コンフィギュレーション モードに入り
	例:	ます。
	apicl# configure	
ステップ2	インライン パラメータを作成すること	
	により、HSRP を設定します。	
	例:	
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/17 apic1(config-leaf-if)# hsrp version 1 apic1(config-leaf-if)# hsrp use-bia apic1(config-leaf-if)# hsrp delay minimum 30 apic1(config-leaf-if)# hsrp delay reload 30 apic1(config-leaf-if)# hsrp 10 ipv4 apic1(config-if-hsrp)# ip 182.16.1.2 apic1(config-if-hsrp)# ip 182.16.1.3</pre>	
	apic1(config-if-hsrp)# ip 182.16.1.4	
	secondary	
	apic1(config-if-hsrp)# mac-address	
	5000.1000.1060	
	apic1(config-if-hsrp)# <b>timers 5 18</b>	
	apic1 (config-if-hsrp) # <b>preempt</b>	
	apic1(config-if-hsrp)# preempt delay	
	minimum 60	

コマンドまたはアクション	目的
apic1(config-if-hsrp)# preempt delay	
reload 60	
<pre>apic1(config-if-hsrp)# preempt delay</pre>	
sync 60	
apic1(config-if-hsrp)# authentication	
none	
apic1(config-if-hsrp)# authentication	
simple	
apic1(config-if-hsrp)# authentication	
md5	
apic1(config-if-hsrp)#	
authentication-key <mypassword></mypassword>	
apic1(config-if-hsrp)#	
authentication-key-timeout <timeout></timeout>	

### NX-OS スタイル CLI のテンプレートとポリシーを使用した Cisco APIC の HSRP の設定

リーフスイッチが設定されている場合、HSRP が有効になっています。

#### 始める前に

- ・テナントと VRF が設定されています。
- VLAN プールは、適切な VLAN 範囲が定義され、レイヤ3ドメインが作成されて VLAN プールに接続されている状態で設定される必要があります。
- エンティティプロファイルの接続も、レイヤ3ドメインに関連付けられている必要があります。
- リーフスイッチのインターフェイスプロファイルは必要に応じて設定する必要があります。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	configure	コンフィギュレーション モードに入り
	例:	ます。
	apicl# <b>configure</b>	
ステップ <b>2</b>	HSRPポリシーテンプレートを設定しま す。	
	例:	
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# template hsrp interface-policy hsrp-intfPol1 tenant t9 apic1(config-template-hsrp-if-pol)# hsrp use-bia apic1(config-template-hsrp-if-pol)#</pre>	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>hsrp delay minimum 30 apic1(config-template-hsrp-if-pol)# hsrp delay reload 30</pre>	
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# template hsrp group-policy hsrp-groupPol1 tenant t9 apic1(config-template-hsrp-group-pol)# timers 5 18 apic1(config-template-hsrp-group-pol)# priority 100 apic1(config-template-hsrp-group-pol)# preempt apic1(config-template-hsrp-group-pol)# preempt delay minimum 60 apic1(config-template-hsrp-group-pol)# preempt delay reload 60 apic1(config-template-hsrp-group-pol)# preempt delay sync 60</pre>	
ステップ3	設定されているポリシー テンプレート を使用します。 <b>例</b> :	
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/17 apic1(config-leaf-if)# hsrp version 1 apic1(config-leaf-if)# inherit hsrp interface-policy hsrp-intfPol1 apic1(config-leaf-if)# hsrp 10 ipv4 apic1(config-if-hsrp)# ip 182.16.1.2 apic1(config-if-hsrp)# ip 182.16.1.3 secondary apic1(config-if-hsrp)# ip 182.16.1.4 secondary apic1(config-if-hsrp)# ip 182.16.1.4 secondary apic1(config-if-hsrp)# mac-address 5000.1000.1060 apic1(config-if-hsrp)# inherit hsrp group-policy hsrp-groupPol1</pre>	

## NX-OS Style CLI を使用した Cisco ACI GOLF の設定

### NX-OS スタイル CLI を使用した推奨される共有 GOLF 設定

マルチサイトで管理されている複数の APIC サイト間で、DCI による GOLF 接続を共有する場合、ルートマップと BPG を設定し VRF 間のトラフィックの問題を避けるために次の手順を使用します。

#### 手順

**ステップ1** インバウンドルートマップ

#### 例:

Inbound peer policy to attach community:

route-map multi-site-in permit 10

set community 1:1 additive

**ステップ2** アウトバウンドピアポリシーを設定し、インバウンドピアポリシーのコミュニティに基づい てルートをフィルタします。

#### 例:

ip community-list standard test-com permit 1:1

route-map multi-site-out deny 10

match community test-com exact-match

route-map multi-site-out permit 11

**ステップ3** アウトバウンド ピア ポリシーを設定し、WAN へのコミュニティをフィルタします。

#### 例:

ip community-list standard test-com permit 1:1

route-map multi-site-wan-out permit 11

set comm-list test-com delete

#### ステップ4 BGP を設定します。

#### 例:

router bgp 1

```
address-family 12vpn evpn
neighbor 11.11.11.11 remote-as 1
update-source loopback0
address-family 12vpn evpn
send-community both
route-map multi-site-in in
neighbor 13.0.0.2 remote-as 2
address-family 12vpn evpn
send-community both
route-map multi-site-out out
```

### NX-OS スタイル CLI を使用した Cisco ACI GOLF 設定の例:

次の例を設定する CLI コマンドの show GOLF サービスで、OSPF over スパイン スイッチに接続されている WAN ルータの BGP EVPN プロトコルを使用します。

#### 設定、BGP EVPN のテナントインフラ

次の例を設定する方法を示しています、インフラ VLAN ドメイン、VRF、インターフェイスの IP アドレッシングを含む、BGP EVPN および OSPF のテナントします。

```
configure
  vlan-domain evpn-dom dynamic
  exit
  spine 111
       # Configure Tenant Infra VRF overlay-1 on the spine.
    vrf context tenant infra vrf overlay-1
        router-id 10.10.3.3
        exit
    interface ethernet 1/33
         vlan-domain member golf dom
         exit
    interface ethernet 1/33.4
         vrf member tenant infra vrf overlay-1
         mtu 1500
         ip address 5.0.0.1/24
         ip router ospf default area 0.0.0.150
         exit
    interface ethernet 1/34
        vlan-domain member golf dom
        exit
    interface ethernet 1/34.4
       vrf member tenant infra vrf overlay-1
        mtu 1500
        ip address 2.0.0.1/24
       ip router ospf default area 0.0.0.200
       exit
    router ospf default
       vrf member tenant infra vrf overlay-1
           area 0.0.0.150 loopback 10.10.5.3
           area 0.0.0.200 loopback 10.10.4.3
           exit
       exit
```

#### スパインノード上の BGP の設定

次の例では、BGP EVPN をサポートする BGP を設定する方法を示します。

```
Configure

spine 111

router bgp 100

vrf member tenant infra vrf overlay- 1

neighbor 10.10.4.1 evpn

label golf_aci

update-source loopback 10.10.4.3

remote-as 100

exit

neighbor 10.10.5.1 evpn
```

```
label golf_aci2
update-source loopback 10.10.5.3
remote-as 100
exit
```

exit

exit

#### BGP EVPN のテナントの設定

次の例では、BGP EVPN、BGP EVPN セッションで提供されるゲートウェイ サブネットを含む のテナントを設定する方法を示します。

```
configure
  tenant sky
   vrf context vrf_sky
      exit
   bridge-domain bd sky
     vrf member vrf sky
      exit
    interface bridge-domain bd sky
      ip address 59.10.1.1/24
      exit
   bridge-domain bd sky2
      vrf member vrf sky
      exit
   interface bridge-domain bd sky2
      ip address 59.11.1.1/24
      exit
    exit
```

#### BGP EVPN ルート ターゲット、ルート マップと、テナントのプレフィックス EPG の設定

次の例では、BGP EVPN を介してブリッジ ドメイン サブネットをアドバタイズするルート マップを設定する方法を示します。

```
configure
spine 111
   vrf context tenant sky vrf vrf sky
        address-family ipv4 unicast
           route-target export 100:1
           route-target import 100:1
             exit
        route-map rmap
           ip prefix-list p1 permit 11.10.10.0/24
           match bridge-domain bd sky
                exit
           match prefix-list p1
                exit
         evpn export map rmap label golf aci
          route-map rmap2
           match bridge-domain bd_sky
              exit
           match prefix-list p1
              exit
          exit
         evpn export map rmap label golf aci2
```

external-13 epg 13_sky vrf member vrf_sky match ip 80.10.1.0/24 exit

### NX-OS スタイル CLI を使用して DCIG への配布の BGP EVPN タイプ2のホスト ルートの有 効化

手順

-		
	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	BGP アドレス ファミリ configuration mode(設定モード、コンフィギュレー ション モード) で、次のコマンドを DCIG に配布 EVPN タイプ 2 のホスト ルートを設定します。 例:	このテンプレートは、テナント bgp_t1 は VRF の導入を持つすべてのノードで 利用可能になります。配布 EVPN タイ プ2のホストルートを無効にするには、 次のように入力します。、 no ホスト -rt-enable コマンド。
	<pre>apic1(config)# leaf 101 apic1(config-leaf)# template bgp address-family bgpAf1 tenant bgp_t1 apic1(config-bgp-af)# distance 250 240 230 apic1(config-bgp-af)# host-rt-enable apic1(config-bgp-af)# exit</pre>	



## REST API を使用したタスクを実行する

- Part I: レイヤ3の設定 (573ページ)
- •パートII:外部ルーティング(L3Out)の設定(600ページ)

## Partl: レイヤ3の設定

### REST API を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定

### REST API を使用した共通パーベイシブ ゲートウェイの設定

#### 始める前に

・テナント、VRF、およびブリッジドメインが作成されていること。

#### 手順

共通パーベイシブ ゲートウェイを設定します。

次の REST API XML の例では、太字のテキストは一般的なパーベイシブ ゲートウェイの設定 に関連しています。

```
</fvBD>

<fvAp name="test">

<fvAEPg name="web">

<fvRsBd tnFvBDName="test"/>

<fvRsPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/3]" encap="vlan-1002"/>

</fvAEPg>

</fvAp>

</fvTenant>

</polUni>
```

### REST API を使用した IP エージングの設定

### REST API を使用した IP エージングの設定

このセクションでは、REST APIを使用した IP エージング ポリシーを有効および無効にする方 法を説明します。

#### 手順

ステップ1 IP エージング ポリシーを有効にするには:

#### 例:

<epIpAgingP adminSt="enabled" descr="" dn="uni/infra/ipAgingP-default" name="default" ownerKey="" ownerTag=""/>

ステップ2 IP エージング ポリシーを無効にするには:

#### 例:

<epIpAgingP adminSt="disabled" descr="" dn="uni/infra/ipAgingP-default" name="default" ownerKey="" ownerTag=""/>

#### 次のタスク

エンドポイントの IP アドレスをトラッキングするために使用される間隔を指定するには、次の例のように XML で post を送信することによって、エンドポイント保持ポリシーを作成します。

```
<fvEpRetPol bounceAgeIntvl="630" bounceTrig="protocol"
holdIntvl="350" lcOwn="local" localEpAgeIntvl="900" moveFreq="256"
name="EndpointPol1" remoteEpAgeIntvl="350"/>
```

### REST API を使用したブリッジ ドメインのスタティック ルートの設定

### REST API を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートの設定

- スタティックルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。
- ・サブネットマスクが/32にする必要があります (128/for IPv6)1つの IP アドレスまたは1つのエンドポイントをポイントします。これは、パーベイシブ BD に関連付けられている EPG に含まれます。

#### 始める前に

テナント、VRF、BD、および EPG が作成されています。

#### 手順

普及ゲートウェイで使用される BD のスタティック ルートを設定するには、次の例など post を入力します。

#### 例:

```
<fvRsBd tnFvBDName="bd1"/>
<fvRsBd tnFvBDName="bd1"/>
<fvSubnet ip="2002:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7344/128"
ctrl="no-default-gateway" >
<fvEpReachability>
<ipNexthopEpP nhAddr="2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7343/128"
/>
</fvEpReachability>
</fvEpReachability>
</fvSubnet>
</fvSubnet>
</fvAEPg>
```

### REST API を使用した IPv6 ネイバー 探索の設定

REST API を使用したブリッジ ドメインの IPv6 ネイバー探索対応のテナント、VRF、およ びブリッジ ドメインの作成

#### 手順

ネイバー探索インターフェイス ポリシーとネイバー探索プレフィックス ポリシーが適用された、テナント、VRF、ブリッジドメインを作成します。

#### 例:

<fvTenant descr="" dn="uni/tn-ExampleCorp" name="ExampleCorp" ownerKey="" ownerTag=""> <ndIfPol name="NDPol001" ctrl="managed-cfg" descr="" hopLimit="64" mtu="1500"

```
nsIntvl="1000" nsRetries="3" ownerKey="" ownerTag="" raIntvl="600" raLifetime="1800"
reachableTime="0" retransTimer="0"/>
   <fvCtx descr="" knwMcastAct="permit" name="pvn1" ownerKey="" ownerTag=""
pcEnfPref="enforced">
   </fvCtx>
   <fvBD arpFlood="no" descr="" mac="00:22:BD:F8:19:FF" multiDstPktAct="bd-flood"
name="bdl" ownerKey="" ownerTag="" unicastRoute="yes" unkMacUcastAct="proxy"
unkMcastAct="flood">
       <fvRsBDToNdP tnNdIfPolName="NDPol001"/>
       <fvRsCtx tnFvCtxName="pvn1"/>
      <fvSubnet ctrl="nd" descr="" ip="34::1/64" name="" preferred="no" scope="private">
           <fvRsNdPfxPol tnNdPfxPolName="NDPfxPol001"/>
       </fvSubnet>
      <fvSubnet ctrl="nd" descr="" ip="33::1/64" name="" preferred="no" scope="private">
           <fvRsNdPfxPol tnNdPfxPolName="NDPfxPol002"/>
       </fvSubnet>
   </fvBD>
   <ndPfxPol ctrl="auto-cfq,on-link" descr="" lifetime="1000" name="NDPfxPol001"
ownerKey="" ownerTag="" prefLifetime="1000"/>
   <ndPfxPol ctrl="auto-cfq,on-link" descr="" lifetime="4294967295" name="NDPfxPol002"
 ownerKey="" ownerTag="" prefLifetime="4294967295"/>
</fvTenant>
 (注)
          外部ルーテッドを設定するときにパブリック サブネットがある場合は、ブリッジ
```

## ドメインを外部設定と関連付ける必要があります。

### RESTAPIを使用したレイヤ3インターフェイス上のRAによるIPv6ネイバー探索インター フェイス ポリシーの設定

#### 手順

IPv6 ネイバー検索インターフェイス ポリシーを設定し、レイヤ3インターフェイスに関連付けます。

次の例では、非 VPC セットアップの設定が表示されます。

(注) VPC ポートについては、ndPfxP が l3extRsNodeL3OutAtt ではなく l3extMember の子である必要があります。次のコードスニペットは、VPC のセットアップでの設定を示します。

```
<l3extLNodeP name="lnodeP001">
<l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="11.11.205.1" rtrIdLoopBack="yes"
tDn="topology/pod-2/node-2011"/>
<l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="12.12.205.1" rtrIdLoopBack="yes"
tDn="topology/pod-2/node-2012"/>
  <l3extLIfP name="lifP002">
   <l3extRsPathL3OutAtt addr="0.0.0.0" encap="vlan-205" ifInstT="ext-svi"
11Addr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit"
tDn="topology/pod-2/protpaths-2011-2012/pathep-[vpc7]" >
     <l3extMember addr="2001:20:25:1::1/64" descr="" llAddr="::" name=""
nameAlias="" side="A">
       <ndPfxP >
         <ndRsPfxPToNdPfxPol tnNdPfxPolName="NDPfxPol001"/>
        </ndPfxP>
     </l3extMember>
     <l3extMember addr="2001:20:25:1::2/64" descr="" llAddr="::" name=""
nameAlias="" side="B">
       <ndPfxP >
         <ndRsPfxPToNdPfxPol tnNdPfxPolName="NDPfxPol001"/>
        </ndPfxP>
     </l3extMember>

   <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName="NDPol001"/>
                                               </l3extLIfP>
   </l3extLNodeP>
```

### REST API を使用したネイバー探索重複アドレス検出の設定

手順

**ステップ1** サブネットの ipv6Dad エントリの値を disabled に変更することによって、サブネットのネイ バー探索重複アドレス検出プロセスを無効にします。

次の例は、2001:DB8:A::11/64 サブネットのネイバー探索重複アドレス検出エントリを disabled に設定する方法を示しています:

(注) 次の REST API の例では、読みやすくなるように、長い行を \ 文字で分割していま す。

例:

```
<l3extRsPathL3OutAtt addr="2001:DB8:A::2/64" autostate="enabled" \
childAction="" descr="" encap="vlan-1035" encapScope="local" \
ifInstT="ext-svi" ipv6Dad="enabled" llAddr=": :" \
mac="00:22:BD:F8:19:DD" mtu="inherit" \
rn="rspathL3OutAtt-[topology/pod-1/paths-105/pathep-[eth1/1]]" \
status="" tDn="topology/pod-1/paths-105/pathep-[eth1/1]]" \
status="" tDn="topology/pod-1/paths-105/pathep-[eth1/1]]" \
ipv6Dad="disabled" name="" nameAlias="" \
rn="addr-[2001:DB8:A::11/64]" status=""/>
</l3extRsPathL3OutAtt>
</l3extLIfP>
```

```
</l3extLNodeP>
```

**ステップ2** リーフスイッチで show ipv6 int コマンドを入力して、設定がリーフスイッチに正しくプッシュ されたか確認してください。例:

```
swtb23-leaf5# show ipv6 int vrf icmpv6:v1
IPv6 Interface Status for VRF "icmpv6:v1"(9)
vlan2, Interface status: protocol-up/link-up/admin-up, iod: 73
if_mode: ext
IPv6 address:
2001:DB8:A::2/64 [VALID] [PREFERRED]
2001:DB8:A::11/64 [VALID] [dad-disabled]
IPv6 subnet: 2001:DB8:A::/64
IPv6 link-local address: fe80::863d:c6ff:fe9f:eb8b/10 (Default) [VALID]
```

### REST API を使用した Microsoft NLB の設定

### REST API を使用したユニキャスト モードでの Microsoft NLB の設定

手順

Microsoft NLB をユニキャスト モードで設定するには、次の例のように XML で POST を送信 します。

### REST API を使用したマルチキャスト モードでの Microsoft NLB の設定

#### 手順

Microsoft NLB をマルチキャスト モードで設定するには、次の例のように XML で POST を送信します。

```
https://apic-ip-address/api/node/mo/uni/.xml
<polUni>
    <fvTenant name="tn2" >
        <fvCtx name="ctx1"/>
        <fvBD name="bd2">
            <fvRsCtx tnFvCtxName="ctx1" />
        </fvBD>
        <fvAp name = "ap1">
            <fvAEPg name = "ep1">
                <fvRsBd tnFvBDName = "bd2"/>
              <frvSubnet ip="2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7344/128" scope="public"
 ctrl="no-default-gateway">
                    <fvEpNlb mac="03:21:21:35" mode="mode-mcast--static"/>
                </fvSubnet>
                <fvRsPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/6]"
encap="vlan-911" >
                    <fvNlbStaticGroup mac = "03:21:21:35" />
                </fvRsPathAtt>
            </fvAEPg>
        </fvAp>
    </fvTenant>
</polUni>
```

#### REST API を使用した IGMP モードでの Microsoft NLB の設定

#### 手順

Microsoft NLB を IGMP モードで設定するには、次の例のように XML で POST を送信します。

例:

```
https://apic-ip-address/api/node/mo/uni/.xml
<polUni>
    <fvTenant name="tn2" >
        <fvCtx name="ctx1"/>
        <fvBD name="bd2">
            <fvRsCtx tnFvCtxName="ctx1" />
        </fvBD>
        <fvAp name = "ap1">
            <fvAEPg name = "ep1">
                <fvRsBd tnFvBDName = "bd2"/>
                <fvSubnet ip="10.0.1.3/32" scope="public" ctrl="no-default-gateway">
                    <fvEpNlb group ="224.132.18.17" mode="mode-mcast-igmp" />
                </fvSubnet>
            </fvAEPg>
        </fvAp>
    </fvTenant>
</polUni>
```

### REST API を使用した IGMP スヌーピングの設定

REST API を使用したブリッジドメインへの IGMP スヌーピング ポリシーの設定と割り当て

#### 手順

IGMP スヌーピングポリシーを設定してブリッジドメインに割り当てるには、次の例のように XML で POST を送信します。

```
https://apic-ip-address/api/node/mo/uni/.xml
<fvTenant name="mcast_tenant1">
<!-- Create an IGMP snooping template, and provide the options -->
<igmpSnoopPol name="igmp_snp_bd_21"
ver="v2"
adminSt="enabled"
lastMbrIntvl="1"
queryIntvl="125"
rspIntvl="10"
startQueryCnt="2"
startQueryIntvl="31"
/>
<fvCtx name="ip video"/>
```

```
<fvBD name="bd_21">
<fvRsCtx tnFvCtxName="ip_video"/>
<!-- Bind IGMP snooping to a BD -->
<fvRsIgmpsn tnIgmpSnoopPolName="igmp_snp_bd_21"/>
</fvBD></fvTenant>
```

この例では、次のプロパティで IGMP スヌーピング ポリシー、igmp_snp_bd_12 を作成および 設定し、IGNPポリシー、igmp_snp_bd_12 をブリッジ ドメイン bd_21 にバインドします。

- 管理状態が有効です。
- ・最後のメンバクエリ間隔は、デフォルトでは、1秒です。
- ・クエリ間隔は、デフォルトでは125です。
- クエリの応答間隔はデフォルトでは10秒です。
- クエリの開始カウントは、デフォルトでは2メッセージです。
- クエリの開始間隔は31秒です。
- クエリアバージョンをv2に設定する。

### REST API を使用した静的ポートでの IGMP スヌーピングとマルチキャストの有効化

EPG に静的に割り当てられているポートで、IGMP スヌーピングおよびマルチキャスト処理を 有効にできます。それらのポートで有効なIGMP スヌープおよびマルチキャストトラフィック へのアクセスを許可または拒否するアクセスユーザーのグループを作成および割り当てること ができます。

#### 手順

スタティックポートでアプリケーションEPGを設定するには、それらのポートをIGMPスヌー ピングおよびマルチキャストトラフィックを受信し処理するように有効にして、グループをア クセスに割り当てるかトラフィックへのアクセスを拒否するように割り当て、次の例のように XML で POST を送信します。

次の例では、IGMP スヌーピングが VLAN 202 上の 1eaf 102 インターフェイス 1/10 で有効に なっています。マルチキャスト IP アドレス 224.1.1.1 および 225.1.1.がこのポートに関連付 けられます。

</fvRsPathAtt> </fvAEPg> </fvAp> </fvTenant>

### IGMP スヌーピングを REST API を使用するマルチ キャスト グループのアクセスを有効化

IGMP を有効にした後にスヌーピングおよび、EPG に静的に割り当てられているポートでマル チキャストすることができますし、作成を許可またはIGMP スヌーピングへのアクセスを拒否 するユーザのアクセスのグループを割り当てるおよびマルチキャストトラフィックは、これら のポートで有効になっています。

#### 手順

アクセスグループを定義する F23broker 、送信 XML で post このような次の例のよ。

例は、設定アクセスグループ F23broker tenant_A、Rmap_A、application_A、リーフ 102、 1/10、インターフェイス VLAN 202 で、epg_A に関連付けられている。Rmap_A、アクセスグ ループとの関連付けによって F23broker マルチキャスト アドレス 226.1.1.1/24 で受信したマ ルチキャストトラフィックへのアクセスがあり、マルチキャストアドレス 227.1.1.1/24 で受信 したトラフィックへのアクセスは拒否されます。

#### 例:

<!-- api/node/mo/uni/.xml --> <fvTenant name="tenant_A"> <pimRouteMapPol name="Rmap_A">
<pimRouteMapEntry action="permit" grp="226.1.1.1/24" order="10"/> <pimRouteMapEntry action="deny"
grp="227.1.1.1/24" order="20"/> </pimRouteMapPol> <fvAp name="application_A"> <fvAEPg
name="epg_A"> <fvRsPathAtt encap="vlan-202" instrImedcy="immediate" mode="regular"
tDn="topology/pod-1/paths-102/pathep-[eth1/10]"> <!-- IGMP snooping access group case -->
<igmpSnoopAccessGroup name="F23broker"> <igmpRsSnoopAccessGroupFilterRMap
tnPimRouteMapPolName="Rmap_A"/> </igmpSnoopAccessGroup> </fvAEPg> </fvAp>
</fvAePg

### REST API を使用した MLD スヌーピングの設定

# REST API を使用した MLD スヌーピング ポリシーの設定とブリッジ ドメインへの割り当て

手順

MLD スヌーピングポリシーを設定してブリッジドメインに割り当てるには、次の例のように XML で POST を送信します。

#### 例:

この例では、MLD スヌーピング ポリシー [mldsn] を作成して次のプロパティを設定し、MLD ポリシー [mldsn-it-fabric-querier-policy] をブリッジ ドメイン [mldsn-bd3] にバインドします。

- 高速脱退処理が有効になっています
- クエリア処理が有効になっています
- ・クエリ間隔は125に設定されています
- ・最大クエリ レスポンス タイムは 10 に設定されています
- 送信する初期クエリの数は2に設定されます
- 初期クエリの送信時間は31に設定されます

### REST API を使用した IP マルチキャストの設定

#### REST API を使用したレイヤ3マルチキャストの設定

#### 手順

ステップ1 テナントと VRF を設定し、VRF のマルチキャストを有効にします。

#### 例:

```
<fvTenant dn="uni/tn-PIM_Tenant" name="PIM_Tenant">
  <fvCtx knwMcastAct="permit" name="ctx1">
        <pimCtxP mtu="1500">
        </pimCtxP>
        </fvCtx>
        </fvCtx>
```

ステップ2 L3 アウトを設定し、L3 アウト上のマルチキャスト (PIM、IGMP) を有効にします。

```
<l3extOut enforceRtctrl="export" name="l3out-pim_l3out1">
<l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx1"/>
<l3extLNodeP configIssues="" name="bLeaf-CTX1-101">
<l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="200.0.0.1" rtrIdLoopBack="yes"
tDn="topology/pod-1/node-101"/>
<l3extLIfP name="if-PIM_Tenant-CTX1" tag="yellow-green">
```

```
<igmpIfP/>
<pimIfP>
<pimRsIfPol tDn="uni/tn-PIM_Tenant/pimifpol-pim_poll"/>
</pimIfP>
<l3extRsPathL3OutAtt addr="131.1.1.1/24" ifInstT="13-port" mode="regular"
mtu="1500" tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/46]"/>
</l3extLIfP>
</l3extLIfP>
</l3extLIfP>
</l3extLNodeP>
<l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-l3outDom"/>
<l3extInstP name="l3out-PIM_Tenant-CTX1-ltopo" >
</l3extInstP>
</pimExtP enabledAf="ipv4-mcast" name="pim"/>
</l3extOut>
```

ステップ3 テナントで BD を設定して、BD のマルチキャストおよび IGMP を有効にします。

#### 例:

```
</fvTenant>
```

ステップ4 IGMP ポリシーを設定し、それを BD に割り当てます。

#### 例:

ステップ5 VRF のルート マップ、PIM、および RP ポリシーを設定します。

 (注) REST API を使用してファブリック RP を設定する場合、最初にスタティック RP を 設定します。

```
スタティック RP を設定しています:

<fvTenant dn="uni/tn-PIM_Tenant" name="PIM_Tenant">

<pimRouteMapPol name="rootMap">

<pimRouteMapPol name="rootMap">

<pimRouteMapPol name="rootMap">

<pimRouteMapPol name="rootMap">

<pimRouteMapPol name="rootMap">

<pimRouteMapPol name="rootMap">

<pimRouteMapPol>

</pimRouteMapPol>

<fvCtx knwMcastAct="permit" name="ctx1">

<pimCtxP ctrl="" mtu="1500">

<pimStaticRPPol>

<pimStaticRPPol rpIp="131.1.1.2">
```

```
<pimRPGrpRangePol>
                        <rtdmcRsFilterToRtMapPol tDn="uni/tn-PIM Tenant/rtmap-rootMap"/>
                       </pimRPGrpRangePol>
                     </pimStaticRPEntryPol>
                   </pimStaticRPPol>
                 </pimCtxP>
             </fvCtx>
          </fvTenant>
          ファブリック RP を設定しています:
          <fvTenant name="t0">
                     <pimRouteMapPol name="fabricrp-rtmap">
                        <pimRouteMapEntry grp="226.20.0.0/24" order="1" />
                     </pimRouteMapPol>
            <fvCtx name="ctx1">
                   <pimCtxP ctrl="">
                        <pimFabricRPPol status="">
                            <pimStaticRPEntryPol rpIp="6.6.6.6">
                                <pimRPGrpRangePol>
                                   <rtdmcRsFilterToRtMapPol tDn="uni/tn-t0/rtmap-fabricrp-rtmap"
           />
                                </pimRPGrpRangePol>
                            </pimStaticRPEntryPol>
                        </pimFabricRPPol>
                      </pimCtxP>
            </fvCtx>
          </fvTenant>
ステップ6 PIM インターフェイス ポリシーを設定し、それを L3 アウトに適用します。
          例:
```

```
<fvTenant dn="uni/tn-PIM Tenant" name="PIM Tenant">
 cpimIfPol authKey="" authT="none" ctrl="" drDelay="60" drPrio="1" helloItvl="30000"
itvl="60" name="pim_pol1"/>
 <l3extOut enforceRtctrl="export" name="l3out-pim_l3out1" targetDscp="unspecified">
       <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx1"/>
       <l3extLNodeP name="bLeaf-CTX1-101">
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="200.0.0.1" rtrIdLoopBack="yes"
tDn="topology/pod-1/node-101"/>
        <l3extLIfP name="if-SIRI VPC src recv-CTX1" tag="yellow-green">
          <pimIfP>
             <pimRsIfPol tDn="uni/tn-tn-PIM Tenant/pimifpol-pim pol1"/>
          </pimIfP>
         </l3extLIfP>
       </l3extLNodeP>
     </l3extOut>
</fvTenant>
```

#### ステップ7 Inter-VRF マルチキャストを設定します。

```
<fvTenant name="t0">
            <pimRouteMapPol name="intervrf" status="">
               <pimRouteMapEntry grp="225.0.0.0/24" order="1" status=""/>
               <pimRouteMapEntry grp="226.0.0.0/24" order="2" status=""/>
               <pimRouteMapEntry grp="228.0.0.0/24" order="3" status="deleted"/>
            </pimRouteMapPol>
        <fvCtx name="ctx1">
            <pimCtxP ctrl="">
               <pimInterVRFPol status="">
                   <pimInterVRFEntryPol srcVrfDn="uni/tn-t0/ctx-stig r ctx" >
```

### REST API を使用したレイヤ3 IPv6 マルチキャストの設定

#### 始める前に

- 目的のVRF、ブリッジドメイン、IPv6アドレスを持つレイヤ3Outインターフェイスは、 PIM6が有効になるように設定する必要があります。レイヤ3Outの場合、IPv6マルチキャ ストが機能するために、論理ノードプロファイルのノードにIPv6ループバックアドレス が設定されます。
- ・基本的なユニキャストネットワークを設定する必要があります。

#### 手順

ステップ1 VRF で PIM6 を有効にします。

#### 例:

```
<fvTenant name="t0">
<fvCtx name="ctx1" pcEnfPref="unenforced" >
<pimIPV6CtxP ctr1="" mtu="1500" />
</fvCtx>
</fvTenant>
```

ステップ2 レイヤ3 Out で PIM6 を有効にします。

#### 例:

```
<fvTenant dn="uni/tn-t0" name="t0">
<l3extOut enforceRtctrl="export" name="bl_l3out_1">
<pimExtP enabledAf="ipv6-mcast" name="pim"/>
</l3extOut>
</fvTenant>
```

ステップ3 BD で PIM6 を有効にします。

#### 例:

```
<fvTenant name="t0" >

<fvBD name="BD_VPC5" ipv6McastAllow="yes" >

<fvRsCtx tnFvCtxName="ctx1" />

<fvSubnet ip="124:1::ffff:ffff:ffff:0/64" scope="public"/>

</fvBD>

</fvTenant>
```

ステップ4 スタティック ランデブーポイントの設定

例:

```
<fvTenant name="t0">
  <pimRouteMapPol dn="uni/tn-t0/rtmap-static 101 ipv6" name="static 101 ipv6">
   <pimRouteMapEntry action="permit" grp="ff00::/8" order="1"</pre>
rp="2001:0:2001:2001:1:1:1:1/128" src="::"/>
  </pimRouteMapPol>
 <fvCtx name="ctx1" pcEnfPref="unenforced">
    <pimIPV6CtxP ctrl="" mtu="1500">
      <pimStaticRPPol>
        <pimStaticRPEntryPol rpIp="2001:0:2001:2001:1:1:1:1">
          <pimRPGrpRangePol>
            <rtdmcRsFilterToRtMapPol tDn="uni/tn-t0/rtmap-static 101 ipv6"/>
          </pimRPGrpRangePol>
        </pimStaticRPEntryPol>
     </pimStaticRPPol>
    </pimIPV6CtxP>
 </fvCtx>
</fvTenant>
```

**ステップ5** PIM6 インターフェイス ポリシーを設定し、レイヤ 3 Out に適用します。

例:

```
<fvTenant dn="uni/tn-t0" name="t0">
<l3extOut enforceRtctrl="export" name="bl_l3out_1">
<l3extLNodeP annotation="" configIssues="" descr="" name="common_npl" nameAlias=""
ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green" targetDscp="unspecified">
<l3extLIFP annotation="" descr="" name="common_intpl_v6" nameAlias="" ownerKey=""
ownerTag="" prio="unspecified" tag="yellow-green">
<pimIPV6IfP annotation="" descr="" name="common_intpl_v6" nameAlias="" ownerKey=""
ownerTag="" prio="unspecified" tag="yellow-green">
<pimIPV6IfP annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
<pimRsV6IfPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
<pimRsV6IfPol annotation="" tDn="uni/tn-common/pimifpol-pimv6_policy"/>
</pimIPV6IfP>
</l3extLIfP>
</l3extLINodeP>
</l3extOut>
```

PIM6を使用したレイヤ3IPv6マルチキャストが有効になります。

### REST API を使用したマルチキャスト フィルタリングの設定

ブリッジ ドメイン レベルでマルチキャスト フィルタリングを設定します。このトピックの手順を使用して、ブリッジ ドメイン レベルで送信元フィルタリングまたは受信者フィルタリン グ、あるいはその両方を設定します。

#### 始める前に

- マルチキャストフィルタリングを設定するブリッジドメインはすでに作成されています。
- ブリッジ ドメインは PIM 対応ブリッジ ドメインです。
- ・レイヤ3マルチキャストはVRFレベルで有効になります。

#### 手順

**ステップ1** ブリッジ ドメインでマルチキャスト ソース フィルタリングを有効にする場合は、次の例のように XML で POST を送信します。

#### 例:

```
<fvBD dn="uni/tn-filter/BD-BD1520" ipv6McastAllow="no" mcastAllow="yes">
<pimBDP annotation="" descr="" name="" ownerKey="" ownerTag="">
<pimBDFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
<pimBDSrcFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
</pimBDSrcFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
</pimBDSrcFilterPol>
</pimBDFilterPol>
</pimBDFilterPol>
</pimBDP>
</pimBDP>
```

**ステップ2** ブリッジ ドメインでマルチキャスト レシーバ フィルタリングを有効にする場合は、次の例の ように XML で POST を送信します。

#### 例:

```
<fvBD dn="uni/tn-filter/BD-BD1520" ipv6McastAllow="no" mcastAllow="yes">
<pimBDP annotation="" descr="" name="" ownerKey="" ownerTag="">
<pimBDFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
<pimBDDestFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
</pimBDDestFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
</pimBDDestFilterPol>
</pimBDPstFilterPol>
</pimBDPsilterPol>
</pimBDPsilterPol>
</pimBDP>
</pimBD
```

(注) また、次の例のように XML で POST を送信することで、同じフリッシドメインで 送信元と受信者の両方のフィルタリングを有効にすることもできます。

> <fvBD dn="uni/tn-filter/BD-BD1520" ipv6McastAllow="no" mcastAllow="yes"> <pimBDP annotation="" descr="" name="" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="">

```
<pimBDFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
    <pimBDSrcFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
        <rtdmcRsFilterToRtMapPol tDn="uni/tn-filter/rtmap-test_src_filter"/>
        </pimBDSrcFilterPol>
        <pimBDDestFilterPol annotation="" descr="" name="" nameAlias="">
        <rtdmcRsFilterPol>
        </pimBDDestFilterPol>
        </pimBDDestFilterPol>
        </pimBDDestFilterPol>
        </pimBDDestFilterPol>
        </pimBDFilterPol>
        </pimBDP>
    </pimBDP>
```
# REST API を使用したマルチポッドの設定

### REST API を使用したマルチポッド ファブリックのセットアップ

#### 手順

ステップ1 Cisco APIC へのログイン:

#### 例:

http://<apic-name/ip>:80/api/aaaLogin.xml

data: <aaaUser name="admin" pwd="ins3965!"/>

#### ステップ2 TEP プールの設定:

#### 例:

http://<apic-name/ip>:80/api/policymgr/mo/uni/controller.xml

```
<fabricSetupPol status=''>
<fabricSetupP podId="1" tepPool="10.0.0.0/16" />
<fabricSetupP podId="2" tepPool="10.1.0.0/16" status='' />
</fabricSetupPol>
```

#### **ステップ3** ノード ID ポリシーの設定:

#### 例:

http://<apic-name/ip>:80/api/node/mo/uni/controller.xml

```
<fabricNodeIdentPol>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1819RXP4" name="ifav4-leaf1" nodeId="101" podId="1"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1803L25H" name="ifav4-leaf2" nodeId="102" podId="1"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1934MNY0" name="ifav4-leaf3" nodeId="103" podId="1"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1934MNY3" name="ifav4-leaf4" nodeId="104" podId="1"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1934MNY3" name="ifav4-leaf4" nodeId="201" podId="1"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1934MNY3" name="ifav4-spine1" nodeId="201" podId="1"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1948B7A6" name="ifav4-spine3" nodeId="202" podId="1"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1938PHBB" name="ifav4-leaf5" nodeId="105" podId="2"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1942R857" name="ifav4-leaf6" nodeId="106" podId="2"/>
<fabricNodeIdentP serial="SAL1931LA3B" name="ifav4-spine2" nodeId="203" podId="2"/>
<fabricNodeIdentP serial="FGE173400A9" name="ifav4-spine4" nodeId="204" podId="2"/>
<fabricNodeIdentP serial="FGE173400A9" name="ifav4-spine4" nodeId="204" podId="2"/>
```

ステップ4 インフラ L3Out および外部接続プロファイルの設定:

#### 例:

http://<apic-name/ip>:80/api/node/mo/uni.xml

<polUni>

<fvTenant descr="" dn="uni/tn-infra" name="infra" ownerKey="" ownerTag="">

```
<l3extOut descr="" enforceRtctrl="export" name="multipod" ownerKey="" ownerTag=""
targetDscp="unspecified" status=''>
<ospfExtP areaId='0' areaType='regular' status=''/>
<l3extRsEctx tnFvCtxName="overlay-1"/>
<l3extProvLbl descr="" name="prov mp1" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green"/>
```

```
<l3extLNodeP name="bSpine">
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="201.201.201.201" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-201">
           <l3extInfraNodeP descr="" fabricExtCtrlPeering="yes" name=""/>
           <l3extLoopBackIfP addr="201::201/128" descr="" name=""/>
           <l3extLoopBackIfP addr="201.201.201.201/32" descr="" name=""/>
        </l3extRsNodeL3OutAtt>
        202.202.202" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-202">
           <l3extInfraNodeP descr="" fabricExtCtrlPeering="yes" name=""/>
           <l3extLoopBackIfP addr="202::202/128" descr="" name=""/>
           <l3extLoopBackIfP addr="202.202.202.202/32" descr="" name=""/>
        </l3extRsNodeL3OutAtt>
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="203.203.203.203" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-2/node-203">
           <l3extLoopBackIfP addr="203::203/128" descr="" name=""/>
           <l3extLoopBackIfP addr="203.203.203.203/32" descr="" name=""/>
        </l3extRsNodeL3OutAtt>
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="204.204.204.204" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-2/node-204">
           <l3extInfraNodeP descr="" fabricExtCtrlPeering="yes" name=""/>
           <l3extLoopBackIfP addr="204::204/128" descr="" name=""/>
           <l3extLoopBackIfP addr="204.204.204.204/32" descr="" name=""/>
        </l3extRsNodeL3OutAtt>
        <l3extLIfP name='portIf'>
         <l3extRsPathL3OutAtt descr='asr' tDn="topology/pod-1/paths-201/pathep-[eth1/1]"
encap='vlan-4' ifInstT='sub-interface' addr="201.1.1.1/30" />
         xtRsPathL3OutAtt descr='asr' tDn="topology/pod-1/paths-201/pathep-[eth1/2]"
encap='vlan-4' ifInstT='sub-interface' addr="201.2.1.1/30" />
         <l3extRsPathL3OutAtt descr='asr' tDn="topology/pod-1/paths-202/pathep-[eth1/2]"
encap='vlan-4' ifInstT='sub-interface' addr="202.1.1.1/30" />
         <l3extRsPathL3OutAtt descr='asr' tDn="topology/pod-2/paths-203/pathep-[eth1/1]"
encap='vlan-4' ifInstT='sub-interface' addr="203.1.1.1/30" />
         <l3extRsPathL3OutAtt descr='asr' tDn="topology/pod-2/paths-203/pathep-[eth1/2]"
encap='vlan-4' ifInstT='sub-interface' addr="203.2.1.1/30" />
          <l3extRsPathL3OutAtt descr='asr'
tDn="topology/pod-2/paths-204/pathep-[eth4/31]" encap='vlan-4' ifInstT='sub-interface'
addr="204.1.1.1/30" />
          <ospfIfP>
             <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName='ospfIfPol'/>
          </ospfIfP>
        </l3extLIfP>
     </l3extLNodeP>
     targetDscp="unspecified">
         <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
     </l3extInstP>
  </13extOut>
  <fvFabricExtConnP descr="" id="1" name="Fabric Ext Conn Pol1" rt="extended:as2-nn4:5:16"
status=''>
     <fvPodConnP descr="" id="1" name="">
        <fvIp addr="100.11.1.1/32"/>
     </fvPodConnP>
     <fvPodConnP descr="" id="2" name="">
```

```
<fvIp addr="200.11.1.1/32"/>
     </fvPodConnP>
     <fvPeeringP descr="" name="" ownerKey="" ownerTag=""
type="automatic with full mesh"/>
    <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="100.0.0/8" name=""
scope="import-security"/>
        <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="200.0.0/8" name=""
scope="import-security"/>
        <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="201.1.0.0/16" name=""
scope="import-security"/>
       <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="201.2.0.0/16" name=""
scope="import-security"/>
        <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="202.1.0.0/16" name=""
scope="import-security"/>
        <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="203.1.0.0/16" name=""
scope="import-security"/>
       <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="203.2.0.0/16" name=""
scope="import-security"/>
        <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="204.1.0.0/16" name=""
scope="import-security"/>
     </l3extFabricExtRoutingP>
  </fvFabricExtConnP>
</fvTenant>
</polUni>
```

## REST API を使用したリモート リーフ スイッチの設定

### REST API を使用したリモート リーフ スイッチの設定

Cisco APIC を有効にして IPN ルータとリモートリーフ スイッチを検出し接続するには、この トピックの手順を実行します。

この例では、マルチポッド トポロジで、ポッドにリモート リーフ スイッチが接続されている ことを前提としています。VRF オーバーレイ 1 とともに、インフラ テナントに設定されてい る 2 個の L3Outs が含まれます。

- •1 個は VLAN 4 に設定され、リモート リーフ スイッチとスパイン スイッチ両方が WAN ルータに接続されている必要があります。
- •1 個はマルチポッド内部 L3Out が VLAN5 で設定されており、一緒に展開する場合はマル チポッドとリモート リーフ機能に必要です。

#### 手順

ステップ1 ポッドに接続されるように2個のリモート リーフ スイッチに TEP プールを定義するには、次の例のように XML で POST を送信します。

```
<fabricSetupPol>
<fabricSetupP tepPool="10.0.0.0/16" podId="1" >
```

```
<fabricExtSetupP tepPool="30.0.128.0/20" extPoolId="1"/>
</fabricSetupP>
<fabricSetupP tepPool="10.1.0.0/16" podId="2" >
<fabricExtSetupP tepPool="30.1.128.0/20" extPoolId="1"/>
</fabricSetupP>
</fabricSetupP>
```

ステップ2 ノードのアイデンティティ ポリシーを定義するには、次の例のように XML で POST を送信します。

#### 例:

```
<fabricNodeIdentPol>

<fabricNodeIdentP serial="SAL17267Z7W" name="leaf1" nodeId="101" podId="1"

extPoolId="1" nodeType="remote-leaf-wan"/>

<fabricNodeIdentP serial="SAL17267Z7X" name="leaf2" nodeId="102" podId="1"

extPoolId="1" nodeType="remote-leaf-wan"/>

<fabricNodeIdentP serial="SAL17267Z7Y" name="leaf3" nodeId="201" podId="1"

extPoolId="1" nodeType="remote-leaf-wan"/>

<fabricNodeIdentP serial="SAL17267Z7Z" name="leaf4" nodeId="201" podId="1"

extPoolId="1" nodeType="remote-leaf-wan"/>

<fabricNodeIdentP serial="SAL17267Z7Z" name="leaf4" nodeId="201" podId="1"

extPoolId="1" nodeType="remote-leaf-wan"/>

<fabricNodeIdentP serial="SAL17267Z7Z" name="leaf4" nodeId="201" podId="1"

extPoolId="1" nodeType="remote-leaf-wan"/>

</fabricNodeIdentPol>
```

**ステップ3** ファブリック外部接続プロファイルを設定するには、次の例のように XML で POST を送信します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<imdata totalCount="1">
    <fvFabricExtConnP dn="uni/tn-infra/fabricExtConnP-1" id="1"
name="Fabric Ext Conn Pol1" rt="extended:as2-nn4:5:16" siteId="0">
          <l3extFabricExtRoutingP name="test">
              <l3extSubnet ip="150.1.0.0/16" scope="import-security"/>
          </l3extFabricExtRoutingP>
         <l3extFabricExtRoutingP name="ext routing prof 1">
              <l3extSubnet ip="204.1.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="207.1.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="200.0.0/8" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="201.2.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="210.2.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="209.1.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="203.2.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="208.1.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="207.2.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="100.0.0/8" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="201.1.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="210.1.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="203.1.0.0/16" scope="import-security"/>
              <l3extSubnet ip="208.2.0.0/16" scope="import-security"/>
         </l3extFabricExtRoutingP>
         <fvPodConnP id="1">
              <fvIp addr="100.11.1.1/32"/>
        </fvPodConnP>
        <fvPodConnP id="2">
              <fvIp addr="200.11.1.1/32"/>
        </fvPodConnP>
        <fvPeeringP type="automatic with full mesh"/>
    </fvFabricExtConnP>
</imdata>
```

ステップ4 VLAN4でL3Outを設定するには、リモートリーフスイッチとスパインスイッチ両方がWAN ルータに接続され、次の例のようにXMLを入力する必要があります。

#### 例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<polUni>
<fvTenant name="infra">
  <l3extOut name="rleaf-wan-test">
   <ospfExtP areaId="0.0.0.5"/>
   <bgpExtP/>
   <l3extRsEctx tnFvCtxName="overlay-1"/>
   <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/13dom-13extDom1"/>
   <l3extLNodeP name="rleaf-101">
     <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="202.202.202.202" tDn="topology/pod-1/node-101">
     </l3extRsNodeL3OutAtt>
     <l3extLIfP name="portIf">
       <l3extRsPathL3OutAtt ifInstT="sub-interface"
tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/49]" addr="202.1.1.2/30" mac="AA:11:22:33:44:66"
 encap='vlan-4'/>
       <ospfIfP>
         <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName='ospfIfPol'/>
       </ospfIfP>
     </l3extLIfP>
   </l3extLNodeP>
   <l3extLNodeP name="rlSpine-201">
     <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="201.201.201.201" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-201">
       <!--
       <l3extLoopBackIfP addr="201::201/128" descr="" name=""/>
       <l3extLoopBackIfP addr="201.201.201.201/32" descr="" name=""/>
       -->
       <l3extLoopBackIfP addr="::" />
     </l3extRsNodeL3OutAtt>
     <l3extLIfP name="portIf">
       <l3extRsPathL3OutAtt ifInstT="sub-interface"
tDn="topology/pod-1/paths-201/pathep-[eth8/36]" addr="201.1.1.1/30" mac="00:11:22:33:77:55"
encap='vlan-4'/>
       <ospfIfP>
         <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName='ospfIfPol'/>
       </ospfIfP>
     </l3extLTfP>
   </l3extLNodeP>
   targetDscp="unspecified">
     <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
   </l3extInstP>
 </l3extOut>
  <ospfIfPol name="ospfIfPol" nwT="bcast"/>
</fvTenant>
</polUni>
```

ステップ5 リリース 4.1(2) 以前で、VLAN-5 でマルチポッド L3Out を設定するには、マルチポッドとリ モート リーフ トポロジの両方と、次の例のように XML を送信する必要があります。 (注) リリース 4.1(2) 以降を実行している新しいリモート リーフ スイッチを導入し、それらのリモート リーフ スイッチで直接トラフィック転送をイネーブルにする場合は、この情報を入力しないでください。この場合、マルチポッドにVLAN-5を使用して OSPF インスタンスを設定する必要はありません。詳細については、「ダイレクトトラフィック フォワーディングについて (166 ページ)」を参照してください。

#### 例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<polUni>
  <fvTenant name="infra" >
    <l3extOut name="ipn-multipodInternal">
      <ospfExtP areaCtrl="inherit-ipsec,redistribute,summary" areaId="0.0.0.5"</pre>
multipodInternal="yes" />
      <l3extRsEctx tnFvCtxName="overlay-1" />
      <l3extLNodeP name="bLeaf">
       <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="202.202.202.202" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-2/node-202">
            <l3extLoopBackIfP addr="202.202.202.212"/>
       </13extRsNodeL3OutAtt>
       <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="102.102.102.102" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-102">
            <l3extLoopBackIfP addr="102.102.102.112"/>
       </l3extRsNodeL3OutAtt>
        <l3extLIfP name="portIf">
          <ospfIfP authKeyId="1" authType="none">
            <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol" />
          </ospfIfP>
          <l3extRsPathL3OutAtt addr="10.0.254.233/30" encap="vlan-5"
ifInstT="sub-interface" tDn="topology/pod-2/paths-202/pathep-[eth5/2]"/>
         <l3extRsPathL3OutAtt addr="10.0.255.229/30" encap="vlan-5"
ifInstT="sub-interface" tDn="topology/pod-1/paths-102/pathep-[eth5/2]"/>
       </l3extLIfP>
      </l3extLNodeP>
      <l3extInstP matchT="AtleastOne" name="ipnInstP" />
    </l3extOut>
 </fvTenant>
</polUni>
```

# REST API を使用した SR-MPLS ハンドオフの設定

### REST API を使用した SR-MPLS インフラ L30ut の設定

- SR-MPLS インフラ L3Out は、境界リーフスイッチで設定され、SR-MPLS ハンドオフに必要なアンダーレイ BGP-LU およびオーバーレイ MP-BGP EVPN セッションを設定するため に使用されます。
- SR-MPLS インフラ L3Out は、ポッドまたはリモート リーフスイッチ サイトにスコープさ れます。

- •1つの SR-MPLS インフラ L3Out 内の境界リーフ スイッチまたはリモート リーフ スイッチ は、1つ以上のルーティング ドメイン内の1つ以上のプロバイダー エッジ (PE) ルータ に接続できます。
- ・ポッドまたはリモート リーフスイッチ サイトには、1 つ以上の SR-MPLS インフラ L3Out を設定できます。
- 各SR-MPLSインフラL3Outには、一意のプロバイダーラベルと1つのプロバイダーラベルのみが必要です。各SR-MPLSインフラL3Outは、プロバイダーラベルによって識別されます。

SR-MPLS インフラ L3Out を設定する場合は、次の項目を設定します。

- ・ノード
  - リーフスイッチのみがSR-MPLSインフラL3Outのノードとして設定できます(境界 リーフスイッチおよびリモートリーフスイッチ)。
  - 各 SR-MPLS インフラ L3Out は、1 つのポッドからの境界リーフ スイッチまたは同じ サイトからのリモート リーフ スイッチを持つことができます。
  - 各境界リーフスイッチまたはリモートリーフスイッチは、複数のSR-MPLSドメインに接続する場合、複数のSR-MPLSインフラL3Outで設定できます。
  - また、ノードの下にループバックインターフェイスを設定し、ループバックインター フェイスの下にノード SID ポリシーを設定します。
- ・インターフェイス
  - サポートされるインターフェイスのタイプは次のとおりです。
    - ルーテッドインターフェイスまたはサブインターフェイス
    - ・ルーテッド ポートチャネルまたはポートチャネル サブインターフェイス

サブインターフェイスでは、任意の VLAN タグがサポートされます。

- また、SR-MPLS infra L3Out のインターフェイスエリアの下にアンダーレイ BGP ピア ポリシーを設定します。
- ・QoS ルール
  - MPLS 入力ルールと MPLS 出力ルールは、SR-MPLS インフラ L3Out の MPLS QoS ポ リシーを使用して設定できます。
  - MPLS QoS ポリシーを作成しない場合、入力 MPLS トラフィックにはデフォルトの QoS レベルが割り当てられます。

また、SR-MPLS インフラ L3Out を使用してアンダーレイとオーバーレイを設定します。

•アンダーレイ:インターフェイス設定の一部としてのBGPピアIP(BGPLUピア)設定。

 オーバーレイ:論理ノードプロファイル設定の一部としてのMP-BGP EVPN リモート IPv4 アドレス(MP-BGP EVPN ピア)設定。

#### 始める前に

- 注意事項と制約事項(197ページ)で提供されている SR-MPLS ガイドラインと制約事項 を確認します。特に、SR-MPLSインフラL3Outのガイドラインと制約事項(198ページ) で提供されているガイドラインと制約事項を確認してください。
- (任意)必要に応じて、の手順を使用して MPLS カスタム QoS ポリシーを設定します。
   REST API を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシー (598 ページ)

#### 手順

次のような情報が表示されます。

```
<polUni>
<fvTenant name="infra">
    <mplsIfPol name="default"/>
    <mplsLabelPol name="default" >
      <mplsSrgbLabelPol minSrgbLabel="16000" maxSrgbLabel="17000" localId="1" status=""/>
    </mplsLabelPol>
<l3extOut name="mplsOut" status="" descr="bl" mplsEnabled="yes">
    <l3extRsEctx tnFvCtxName="overlay-1"/>
    <l3extProvLbl name="mpls" />
    <mplsExtP status="" >
        <mplsRsLabelPol tDn="uni/tn-infra/mplslabelpol-default"/>
    </mplsExtP>
    <l3extLNodeP name="mplsLNP" status="">
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="100.1.1.1" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-101" status="">
            <l3extLoopBackIfP addr="10.10.10.11" status="">
                <mplsNodeSidP sidoffset="2" loopbackAddr="10.1.3.11" status=""/>
            </l3extLoopBackIfP>
        </l3extRsNodeL3OutAtt>
        <l3extLIfP name="mplsLIfP1" status="">
            <mplsIfP status="">
                <mplsRsIfPol tnMplsIfPolName="default" />
            </mplsIfP>
            <l3extRsPathL3OutAtt addr="34.1.2.3/30" ifInstT="13-port"
tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/8]">
                <bgpPeerP addr="9.9.9.7" addrTCtrl="af-ucast,af-label-ucast"</pre>
ctrl="send-ext-com" ttl="1" status="">
                    <bgpAsP asn="100"/>
                </bqpPeerP>
            </l3extRsPathL3OutAtt>
        </13extLTfP>
        <bgpInfraPeerP addr="20.1.1.1" ctrl="send-com,send-ext-com" peerT="sr-mpls"</pre>
ttl="3" status="" >
            <bgpAsP asn="100"/>
        </bqpInfraPeerP>
    </l3extLNodeP>
```

```
<l3extInstP name="mplsInstP">
<l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="11.11.11.0/24" name=""
scope="import-security"/>
</l3extInstP>
<bgpExtP/>
<l3extRsL3DomAtt tDn="uni/13dom-13extDom1" />
</l3extOut>
</fvTenant>
</polUni>
```

### REST API を使用した SR-MPLS VRF L3Out の設定

この項の手順を使用して、SR-MPLS VRF L3Out を設定します。これは、前の手順で設定した SR-MPLS インフラ L3Out からのトラフィックの転送に使用されます。

- ユーザテナント VRF は SR-MPLS インフラ L3Out にマッピングされ、テナント ブリッジ ドメイン サブネットを DC-PE ルータにアドバタイズし、DC-PE から受信した MPLS VPN ルートをインポートします。
- 各 VRF の SR-MPLS VRF L3Out でルーティング ポリシーとセキュリティ ポリシーを指定 する必要があります。これらのポリシーは、1 つ以上の SR-MPLS インフラ L3Out をポイ ントします。
- VRF ごとに 1 つの SR-MPLS VRF L3Out がサポートされます。
- 1つの SR-MPLS VRF L3Out で複数のコンシューマ ラベルを設定でき、各コンシューマ ラベルで1つの SR-MPLS インフラ L3Out を識別できます。コンシューマ ラベルは、特定の ポッドまたはリモート リーフ スイッチの特定の MPLS ドメインである1つの SR-MPLS VRF L3Out との間のトラフィックのエントリ ポイントと出口ポイントを識別します。

#### 始める前に

- 注意事項と制約事項(197ページ)で提供されている SR-MPLS ガイドラインと制約事項 を確認します。特に、SR-MPLS VRF L3Outのガイドラインと制約事項(198ページ)で 提供されているガイドラインと制約事項を確認してください。
- REST API を使用した SR-MPLS インフラ L3Out の設定 (594 ページ) の手順に従って、 SR-MPLS インフラ L3Out を設定します。

#### 手順

次のような情報が表示されます。

```
<bgpRtTargetP af="ipv4-ucast">
     <bgpRtTarget rt="route-target:as4-nn2:100:1259" type="import"/>
      <bgpRtTarget rt="route-target:as4-nn2:100:1259" type="export"/>
   </bgpRtTargetP>
 </fvCtx>
 <!-- MPLS L3out -->
 <l3extOut name="out1" mplsEnabled="ves">
   <l3extRsEctx tnFvCtxName="v1" />
   <!-- MPLS consumer label -->
   <l3extConsLbl name="mpls1">
     <!-- route profile association -->
     <l3extRsLblToProfile tDn="uni/tn-t1/prof-rp1" direction="export" />
     <!-- InstP association -->
      <l3extRsLblToInstP tDn="uni/tn-t1/out-out1/instP-epgMpls1" />
   </l3extConsLbl>
   <!-- External-EPG -->
   <l3extInstP name="epgMpls1">
     <fvRsProv tnVzBrCPName="cp1"/>
      <l3extSubnet ip="55.1.1.1/28"/>
   </l3extInstP>
   <bgpExtP/>
 </l3extOut>
 <!-- route control profile -->
 <rtctrlProfile descr="" name="rp1" type="global" status="">
   <rtctrlCtxP action="permit" descr="" name="ctx1" order="0">
     <rtctrlRsCtxPToSubjP status="" tnRtctrlSubjPName="subj1"/>
   </rtctrlCtxP>
 </rtctrlProfile>
 <rtctrlSubjP descr="" name="subj1" status="" >
   <rtctrlMatchRtDest ip="101.1.1.1/32"/>
   <rtctrlMatchRtDest ip="102.1.1.0/24" aggregate="yes"/>
 </rtctrlSubjP>
 <!-- Filter and Contract (global) -->
 <vzBrCP name="cp1" scope="global">
   <vzSubj name="allow-all">
     <vzRsSubjFiltAtt action="permit" tnVzFilterName="default" />
   </vzSubj>
 </vzBrCP>
</fvTenant>
</polUni>
```

### REST API を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシー

SR MPLS カスタム QoS ポリシーは、MPLS QoS 出力 ポリシーで定義された着信 MPLS EXP 値 に基づいて、SR-MPLS ネットワークから送信されるパケットのプライオリティを定義します。 これらのパケットは、ACI ファブリック内にあります。また、MPLS QoS 出力ポリシーで定義 された IPv4 DSCP 値に基づく MPLS インターフェイスを介して ACI ファブリックから離れる パケットの CoS 値および MPLS EXP 値をマーキングします。

カスタム出力ポリシーが定義されていない場合、デフォルトのQosレベル(Level3)がファブ リック内のパケットに割り当てられます。カスタム出力ポリシーが定義されていない場合、デ フォルトの EXP 値(0)がファブリックから離れるパケットにマーキングされます。

#### 手順

```
ステップ1 SR-MPLS QoS ポリシーの作成
```

次のPOSTで、

- ・customqos1を、作成する SR-MPLS QoS ポリシーの名前に置き換えます。
- qosMplsIngressRuleの場合:
  - from = "2" to = "3"を、ポリシーに一致させる EXP 範囲に置き換えます。
  - ・ prio = "level5"を ACI ファブリック内にあるパケットの ACI QoS レベルに置き換えます。
  - target = "CS5" は、パケットが一致したときに設定する DSCP 値に置き換えます。
  - targetCos = "4" を、パケットが一致したときにパケットに設定する CoS 値に置き換えます。
- qosMplsEgressRule の場合:
  - from = "CS2" to = "CS4" を、ポリシーを照合する DSCP 範囲に置き換えます。
  - targetExp = "5" を、パケットがファブリックを離れるときに設定する EXP 値に置き換えます。
  - targetCos = "3" を、パケットがファブリックを離れるときに設定する CoS 値に置き換えます。

```
<polUni>
```

#### ステップ2 SR-MPLS QoS ポリシーの作成

</fvTenant> </polUni>

次の POST で、customqos1 を前の手順で作成した SR-MPLS QoS ポリシーの名前に置き換えます。

```
<polUni>
  <fvTenant name="infra">
     <fvTenant name="mplsOut" status="" descr="bl">
     <l3extLNodeP name="mplsLNP" status="">
        <l3extLNodeP name="mplsLNP" status="">
        <l3extRsLNodePMplsCustQosPol tDn="uni/tn-infra/qosmplscustom-customqos1"/>
        </l3extLNodeP>
     </l3extLNodeP>
</l3extOut>
```

</fvTenant> </polUni>

# パートII:外部ルーティング(L30ut)の設定

外部ネットワークへのルーテッド接続

### REST API を使用した MP-BGP ルート リフレクタの設定

#### REST API を使用した MP-BGP ルート リフレクタの設定

手順

**ステップ1** スパイン スイッチをルート リフレクタとしてマークします。

#### 例:

POST https://apic-ip-address/api/policymgr/mo/uni/fabric.xml

```
<bgpInstPol name="default">
  <bgpAsP asn="1" />
  <bgpRRP>
        <bgpRRNodePEp id="<spine_id1>"/>
        <bgpRRNodePEp id="<spine_id2>"/>
        </bgpRRP>
</bgpInstPol>
```

ステップ2 次のポストを使用してポッドセレクタをセットアップします。

#### 例:

FuncP セットアップの場合:

POST https://apic-ip-address/api/policymgr/mo/uni.xml

```
<fabricFuncP>
<fabricPodPGrp name="bgpRRPodGrp">
<fabricRsPodPGrpBGPRRP tnBgpInstPolName="default" />
</fabricPodPGrp>
</fabricFuncP>
```

#### 例:

```
PodP セットアップの場合:
```

POST https://apic-ip-address/api/policymgr/mo/uni.xml

```
<fabricPodP name="default">
<fabricPodS name="default" type="ALL">
<fabricRsPodPGrp tDn="uni/fabric/funcprof/podpgrp-bgpRRPodGrp"/>
```

</fabricPodS> </fabricPodP>

REST API を使用したループ防止のための BGP ドメイン パス機能の設定

#### 始める前に

ループ防止のためのBGPドメインパス機能について(233ページ)に記載されている情報を使用して、BGPドメインパス機能に精通します。

#### 手順

ステップ1 ループ防止に BGP ドメイン パス機能を使用する場合は、グローバル DomainIdBase を設定します。

```
<polUni>
<fabricInst>
<bgpInstPol name="default">
<bgpDomainIdBase domainIdBase="12346" />
</bgpInstPol>
</fabricInst>
</polUni>
```

ステップ2 適切な L3Out で send-domain-path を有効にします。

```
<bgpPeerP addr="22.22.3.5" addrTCtrl="af-ucast" allowedSelfAsCnt="3" ttl="2"
ctrlExt="send-domain-path" ctrl="send-ext-com">
</bgpPeerP>
```

# L3Out のノードとインターフェイス

REST API を使用したレイヤ3ルーテッドポート チャネルとサブインターフェイス ポート チャネルの設定

REST API を使用したレイヤ3ルーテッドポート チャネルの設定

#### 始める前に

- ACIファブリックが設置され、APICコントローラがオンラインになっており、APICクラ スタが形成されて正常に動作していること。
- ・必要なファブリックインフラストラクチャ設定を作成できるAPICファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ・ ターゲット リーフ スイッチが ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。

ポートチャネルは、L3Outインターフェイスにポートチャネルが使用される場合に設定されます。

(注) 次の REST API 例では、長い1行のテキストは\で分けて読みやすくします。

#### 手順

REST API を使用して以前作成したポート チャネルにレイヤ 3 ルートを設定するには、次のように XML で post を送信します。

```
<polUni>
<fvTenant name=pep9>
  name="routAccounting" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" \
   targetDscp="unspecified">
     <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-Dom1"/>
     <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx9"/>
     ownerTag="" tag="yellow-green" targetDscp="unspecified">
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="10.1.0.101" rtrIdLoopBack="yes" \
         tDn="topology/pod-1/node-101">
           <l3extInfraNodeP descr="" fabricExtCtrlPeering="no" \
            fabricExtIntersiteCtrlPeering="no" name="" nameAlias="" spineRole=""/>
        </l3extRsNodeL3OutAtt>
        tag="yellow-green">
           <ospfIfP authKeyId="1" authType="none" descr="" name="" nameAlias="">
              <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName=""/>
           </ospfIfP>
           encap="unknown" encapScope="local" ifInstT="l3-port" llAddr="::" \
            mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit" \
            tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[po17 PolGrp]" \
            targetDscp="unspecified"/>
           <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
           <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
           <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
        </l3extLIfP>
     </l3extLNodeP>
     <l3extInstP descr="" floodOnEncap="disabled" matchT="AtleastOne" \
      name="accountingInst" nameAlias="" prefGrMemb="exclude" prio="unspecified" \
      targetDscp="unspecified">
        <fvRsProv matchT="AtleastOne" prio="unspecified" tnVzBrCPName="webCtrct"/>
        name="" nameAlias="" scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"/>
        name="" nameAlias="" scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"/>
        <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
     </l3extInstP>
     ownerTag="" tag="yellow-green"/>
  </l3extOut>
```

</fvTenant> </polUni>

#### REST API を使用して、レイヤ3サブインターフェイスポート チャネルの設定

#### 始める前に

- ACIファブリックが設置され、APICコントローラがオンラインになっており、APICクラ スタが形成されて正常に動作していること。
- 必要なファブリックインフラストラクチャ設定を作成できるAPICファブリック管理者アカウントが使用可能であること。
- ターゲット リーフ スイッチが ACI ファブリックに登録され、使用可能であること。
- ポートチャネルは、「REST API を使用したポートチャネルの設定」の手順を使用して設定されます。

```
(注)
```

次の REST API 例では、1 つ以上の行のテキストはで区分するが、\ 読みやすさを改善する文 字。

#### 手順

REST API を使用して、以前に作成したポートチャネルをレイヤ3サブインターフェイスルートを設定するには、次のようには、XML で post を送信します。

```
<polUni>
<fvTenant name=pep9>
   <l3extOut descr="" dn="uni/tn-pep9/out-routAccounting" enforceRtctrl="export" \
   name="routAccounting" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified">
       <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-Dom1"/>
       <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx9"/>
       ownerTag="" tag="yellow-green" targetDscp="unspecified">
           <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="10.1.0.101" rtrIdLoopBack="yes" \
            tDn="topology/pod-1/node-101">
              <l3extInfraNodeP descr="" fabricExtCtrlPeering="no" \
               fabricExtIntersiteCtrlPeering="no" name="" nameAlias="" spineRole=""/>
           </l3extRsNodeL3OutAtt>
           <l3extLIfP descr="" name="lifp27" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" \
            tag="yellow-green">
              <ospfIfP authKeyId="1" authType="none" descr="" name="" nameAlias="">
                  <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName=""/>
              </ospfIfP>
              xtRsPathL30utAtt addr="11.1.5.3/24" autostate="disabled" descr="" \
               encap="vlan-2001" encapScope="local" ifInstT="sub-interface" \
               llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit" \
               tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[po27_PolGrp]" \
```

```
targetDscp="unspecified"/>
             <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
             <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
             <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
          </l3extLIfP>
      </l3extLNodeP>
      <l3extInstP descr="" floodOnEncap="disabled" matchT="AtleastOne" \
       name="accountingInst" nameAlias="" prefGrMemb="exclude" prio="unspecified" \
       targetDscp="unspecified">
          <fvRsProv matchT="AtleastOne" prio="unspecified" tnVzBrCPName="webCtrct"/>
         name="" nameAlias="" scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"/>
          <l3extSubnet aggregate="export-rtctrl,import-rtctrl" descr="" ip="::/0" \
          name="" nameAlias="" scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"/>
          <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
      </l3extInstP>
      ownerTag="" tag="yellow-green"/>
   </l3extOut>
</fvTenant>
</polUni>
```

### REST API を使用したスイッチ仮想インターフェイスの設定

REST API を使用して、SVI インターフェイスのカプセル化スコープの設定

#### 始める前に

インターフェイスセレクタが設定されます。

#### 手順

SVIインターフェイスのカプセル化の範囲を設定します。

#### 例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- /api/node/mo/.xml -->
<polUni>
 <fvTenant name="coke">
 <l3extOut descr="" dn="uni/tn-coke/out-l3out1" enforceRtctrl="export" name="l3out1"
nameAlias="" ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified">
  <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-Dom1"/>
  <l3extRsEctx tnFvCtxName="vrf0"/>
  ownerTag="" tag="yellow-green" targetDscp="unspecified">
   <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="1.1.1.1" rtrIdLoopBack="no" tDn="topology/pod-1/node-101"/>
   <l3extLIfP descr="" name="int1 11" nameAlias="" ownerKey="" ownerTag=""
tag="yellow-green">
    xtRsPathL3OutAtt addr="1.2.3.4/24" descr="" encap="vlan-2001" encapScope="ctx"
ifInstT="ext-svi" llAddr="0.0.0.0" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit"
 tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/5]" targetDscp="unspecified"/>
    <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
```

<l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>

```
xtRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
xtLIfP>
xtInodeP>
xtInstP descr="" matchT="AtleastOne" name="epg1" nameAlias="" prefGrMemb="exclude"
prio="unspecified" targetDscp="unspecified">
xtSubnet aggregate="" descr="" ip="101.10.10.1/24" name="" nameAlias=""
scope="import-security"/>
<fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
xtSubnet aggregate="" descr="" ip="101.10.10.1/24" name="" nameAlias=""
scope="import-security"/>
<fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
xtSubnet aggregate="" descr="" ip="101.10.10.1/24" name="" nameAlias=""
```

#### REST API を使用した SVI 自動状態の設定

#### 始める前に

- ・テナントと VRF が設定されています。
- レイヤ3アウトが設定されており、レイヤ3アウトの論理ノードプロファイルと論理イン ターフェイスプロファイルが設定されています。

#### 手順

SVI の自動状態の値を有効にします。

#### 例:

```
<fvTenant name="t1" >
	<l3extOut name="out1">
	<l3extLNodeP name="_ui_node_101" >
	<l3extLIfP descr="" name="_ui_eth1_10_vlan_99_af_ipv4" >
	<l3extRsPathL3OutAtt addr="19.1.1.1/24" autostate="enabled" descr=""
encap="vlan-100" encapScope="local" ifInstT="ext-svi" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
mode="regular" mtu="inherit" tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/10]"
targetDscp="unspecified" />
	</l3extLIfP>
	</l3extLInodeP>
	</l3extLNodeP>
	</l3extOut>
```

自動状態を無効にするには、上記の例では無効に値を変更する必要があります。例: autostate="disabled".。

# REST API を使用したルーティング プロトコルの設定

### REST API を使用した BFD サポート付き BGP 外部ルーテッド ネットワークの設定

REST API を使用した BGP 外部ルーテッド ネットワークの設定

#### 始める前に

外部ルーテッドネットワークを設定するテナントがすでに作成されていること。 ここでは、REST APIを使用して BGP 外部ルーテッドネットワークを設定する方法を示しま す。

. .

例:

#### 手順

```
xtOut descr="" dn="uni/tn-t1/out-l3out-bgp" enforceRtctrl="export" name="l3out-bgp"
ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified">
 <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx3"/>
 <l3extLNodeP configIssues="" descr="" name="l3extLNodeP 1" ownerKey="" ownerTag=""
tag="yellow-green" targetDscp="unspecified">
 xtRsNodeL3OutAtt rtrId="1.1.1.1" rtrIdLoopBack="no" tDn="topology/pod-1/node-101"/>
 <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
  <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
  <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
  <l3extRsPathL3OutAtt addr="3001::31:0:1:2/120" descr="" encap="vlan-3001"
encapScope="local" ifInstT="sub-interface" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
mode="regular" mtu="inherit" tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/8]"
targetDscp="unspecified">
   <bqpPeerP addr="3001::31:0:1:0/120" allowedSelfAsCnt="3" ctrl="send-com,send-ext-com"</pre>
 descr="" name="" peerCtrl="bfd" privateASctrl="remove-all,remove-exclusive,replace-as"
 ttl="1" weight="1000">
    <bgpRsPeerPfxPol tnBgpPeerPfxPolName=""/>
    <bgpAsP asn="3001" descr="" name=""/>
   </boppeerP>
  </l3extRsPathL3OutAtt>
  </l3extLIfP>
 <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
  <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
  <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
  ifInstT="sub-interface" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit"
 tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/8]" targetDscp="unspecified">
   <bgpPeerP addr="31.0.1.0/24" allowedSelfAsCnt="3" ctrl="send-com,send-ext-com"</pre>
descr="" name="" peerCtrl="" privateASctrl="remove-all,remove-exclusive,replace-as"
ttl="1" weight="100">
    <bgpRsPeerPfxPol tnBgpPeerPfxPolName=""/>
    <bgpLocalAsnP asnPropagate="none" descr="" localAsn="200" name=""/>
    <bgpAsP asn="3001" descr="" name=""/>
   </bgpPeerP>
```

```
</l3extRsPathL3OutAtt>
 </13extLTfP>
</l3extLNodeP>
<l3extRsL3DomAtt tDn="uni/13dom-13-dom"/>
xtRsDampeningPol af="ipv6-ucast" tnRtctrlProfileName="damp rp"/>
xtRsDampeningPol af="ipv4-ucast" tnRtctrlProfileName="damp rp"/>
xtInstP descr="" matchT="AtleastOne" name="l3extInstP 1" prio="unspecified"
targetDscp="unspecified">
 <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="130.130.130.0/24" name=""
scope="import-rtctrl"></l3extSubnet>
 <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="120.120.120.120/32" name=""
scope="export-rtctrl,import-security"/>
 scope="import-rtctrl"/>
</l3extInstP>
<bgpExtP descr=""/>
</13extOut>
<rtctrlProfile descr="" dn="uni/tn-t1/prof-damp rp" name="damp rp" ownerKey="" ownerTag=""</pre>
type="combinable">
<rtctrlCtxP descr="" name="ipv4 rpc" order="0">
 <rtctrlScope descr="" name="">
  <rtctrlRsScopeToAttrP tnRtctrlAttrPName="act rule"/>
 </rtctrlScope>
</rtctrlCtxP>
</rtctrlProfile>
<rtctrlAttrP descr="" dn="uni/tn-t1/attr-act rule" name="act rule">
<rtctrlSetDamp descr="" halfLife="15" maxSuppressTime="60" name="" reuse="750"</pre>
suppress="2000" type="dampening-pol"/>
</rtctrlAttrP>
```

#### REST API を使用した BGP パスの設定

次のフィールドの許容値については、Cisco APIC ドキュメンテーション ページの 『Verified Scalability Guide for Cisco APIC』を参照してください。https://www.cisco.com/c/en/us/support/ cloud-systems-management/application-policy-infrastructure-controller-apic/ tsd-products-support-series-home.html

さらに多くのパスを設定できるようにする2つのプロパティは、bgpCtxAfPol オブジェクトの maxEcmp と maxEcmpIbgp です。これら2つのプロパティを設定した後、実装の残り部分に反 映されます。ECMP ポリシーは VRF レベルで適用されます。

次の例では、REST API を使用して BGP 最長パス機能を設定する方法の情報を提供します。

#### REST API を使用した AS パス プリペンドの設定

次の例では、REST API を使用した AS パス プリペンド機能を設定する方法の情報を提供します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<fvTenant name="coke">
   <rtctrlAttrP name="attrp1">
        <rtctrlSetASPath criteria="prepend">
            <rtctrlSetASPathASN asn="100" order="1"/>
           <rtctrlSetASPathASN asn="200" order="10"/>
           <rtctrlSetASPathASN asn="300" order="5"/>
        <rtctrlSetASPath/>
        <rtctrlSetASPath criteria="prepend-last-as" lastnum="9" />
    </rtctrlAttrP>
    <l3extOut name="out1">
        <rtctrlProfile name="rp1">
            <rtctrlCtxP name="ctxp1" order="1">
                <rtctrlScope>
                    <rtctrlRsScopeToAttrP tnRtctrlAttrPName="attrp1"/>
                </rtctrlScope>
            </rtctrlCtxP>
        </rtctrlProfile>
    </l3extOut>
</fvTenant>
```

REST API を使用した自律システム オーバーライド対応のネットワークのルーティング BGP 外部の設定

#### 手順

自律型オーバーライドを有効にして、BGP 外部ルーテッド ネットワークを設定します。

(注) 太字で表示されているコードの行に設定の BGP AS オーバーライド部分が表示され ます。この機能は Cisco APIC リリース 3.1(2m) で導入されました。

#### 例:

<fvTenant name="coke">

```
<fvCtx name="coke" status="">
   <bgpRtTargetP af="ipv4-ucast">
       <bgpRtTarget type="import" rt="route-target:as4-nn2:1234:1300" />
       <bgpRtTarget type="export" rt="route-target:as4-nn2:1234:1300" />
   </bgpRtTargetP>
   <bgpRtTargetP af="ipv6-ucast">
        <bgpRtTarget type="import" rt="route-target:as4-nn2:1234:1300" />
        <bgpRtTarget type="export" rt="route-target:as4-nn2:1234:1300" />
   </bgpRtTargetP>
</fvCtx>
<fvBD name="cokeBD">
   <!-- Association from Bridge Doamin to Private Network -->
   <fvRsCtx tnFvCtxName="coke" />
   <fvRsBDToOut tnL3extOutName="routAccounting" />
   <!-- Subnet behind the bridge domain-->
   <fvSubnet ip="20.1.1.1/16" scope="public"/>
   <fvSubnet ip="2000:1::1/64" scope="public"/>
</fvrBD>
<fvBD name="cokeBD2">
   <!-- Association from Bridge Doamin to Private Network -->
   <fvRsCtx tnFvCtxName="coke" />
```

```
<fvRsBDToOut tnL3extOutName="routAccounting" />
      <!-- Subnet behind the bridge domain-->
      <fvSubnet ip="30.1.1.1/16" scope="public"/>
  </fvBD>
  <vzBrCP name="webCtrct" scope="global">
      <vzSubj name="http">
         <vzRsSubjFiltAtt tnVzFilterName="default"/>
      </vzSubj>
 </vzBrCP>
 <!-- GOLF L3Out -->
  <l3extOut name="routAccounting">
    <l3extConsLbl name="golf transit" owner="infra" status=""/>
     <body>
     <l3extInstP name="accountingInst">
         <!--
         <l3extSubnet ip="192.2.2.0/24" scope="import-security,import-rtctrl" />
         <l3extSubnet ip="192.3.2.0/24" scope="export-rtctrl"/>
         <l3extSubnet ip="192.5.2.0/24" scope="export-rtctrl"/>
         <l3extSubnet ip="64:ff9b::c007:200/120" scope="export-rtctrl" />
         -->
         <l3extSubnet ip="0.0.0.0/0"
                               scope="export-rtctrl,import-security"
                               aggregate="export-rtctrl"
         />
         <fvRsProv tnVzBrCPName="webCtrct"/>
    </l3extInstP>
     <l3extRsEctx tnFvCtxName="coke"/>
 </l3extOut>
   <fvAp name="cokeAp">
     <fvAEPg name="cokeEPg" >
         <fvRsBd tnFvBDName="cokeBD" />
         <fvRsPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-103/pathep-[eth1/20]" encap="vlan-100"
instrImedcy="immediate" mode="regular"/>
          <fvRsCons tnVzBrCPName="webCtrct"/>
     </fvAEPg>
    <fvAEPg name="cokeEPg2" >
         <fvRsBd tnFvBDName="cokeBD2" />
         <fvRsPathAtt tDn="topology/pod-1/paths-103/pathep-[eth1/20]" encap="vlan-110"
instrImedcy="immediate" mode="regular"/>
           <fvRsCons tnVzBrCPName="webCtrct"/>
    </fvAEPg>
   </fvAp>
   <!-- Non GOLF L3Out-->
   <l3extOut name="NonGolfOut">
      <l3extLNodeP name="bLeaf">
         < ! - -
         <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="20.1.13.1"/>
          -->
         <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="20.1.13.1">
         <l3extLoopBackIfP addr="1.1.1.1"/>
         <ipRouteP ip="2.2.2.2/32" >
           <ipNexthopP nhAddr="20.1.12.3"/>
     </ipRouteP>
      </l3extRsNodeL3OutAtt>
```

```
<l3extLIfP name='portIfV4'>
             <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/17]"
encap='vlan-1010' ifInstT='sub-interface' addr="20.1.12.2/24">
             </l3extRsPathL3OutAtt>
          </l3extLIfP>
          <l3extLIfP name='portIfV6'>
             <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/17]"
encap='vlan-1010' ifInstT='sub-interface' addr="64:ff9b::1401:302/120">
                 <bgpPeerP addr="64:ff9b::1401:d03" ctrl="send-com,send-ext-com" />
             </l3extRsPathL3OutAtt>
          </l3extLIfP>
          <bgpPeerP addr="2.2.2.2" ctrl="as-override,disable-peer-as-check,</pre>
send-com,send-ext-com" status=""/>
      </l3extLNodeP>
      <!--
       <bgpPeerP addr="2.2.2.2" ctrl="send-com,send-ext-com" status=""/>
       -->
      <l3extInstP name="accountingInst">
          <l3extSubnet ip="192.10.0.0/16" scope="import-security,import-rtctrl" />
          <l3extSubnet ip="192.3.3.0/24" scope="import-security,import-rtctrl" />
          scope="import-security,import-rtctrl" />
         />
          <l3extSubnet ip="192.2.2.0/24" scope="export-rtctrl" />
          <l3extSubnet ip="0.0.0.0/0"
                             scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"
                             aggregate="export-rtctrl, import-rtctrl"
         />
      </l3extInstP>
     <l3extRsEctx tnFvCtxName="coke"/>
  </l3extOut>
</fvTenant>
```

REST API を使用した BGP ネイバー シャットダウンおよびソフト リセットの設定

REST API を使用した BGP ネイバー シャットダウンの設定

次の手順では、REST APIを使用して BGP ネイバーシャットダウン機能を使用する方法につい て説明します。

#### 手順

ステップ1 ノードおよびインターフェイスを設定します。

この例では、ノードプロファイル、nodep1、ルータ ID 11.11.11.103 を持つノード 103 (境界 リーフスイッチ)上で、VRF v1 を設定します。.また、IP アドレス 12.12.12.1/24 およびレイ ヤ3 ドメイン dom1 で、ルーテッドインターフェイス (レイヤ3 ポート)としてインターフェ イス eth1/3 を設定します。

```
xtOut name="l3outl">
xtRsEctx tnFvCtxName="v1"/>
xtRsNodeL3OutAtt rtrId="l1.l1.l1.l03" tDn="topology/pod-l/node-103"/>
xtRsNodeL3OutAtt addr="l2.l2.l2.3/24" ifInstT="l3-port"
xl3extRsPathL3OutAtt addr="l2.l2.l2.3/24" ifInstT="l3-port"
tDn="topology/pod-l/paths-103/pathep-[ethl/3]"/></l3extLIfP></l3extLIfP></l3extLIfP></l3extLNodeP></l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-dom1"/></l3extCut>
```

**ステップ2** BGP ルーティング プロトコルを設定し、BGP ネイバー シャットダウン機能を設定します。

この例では、IP アドレス、15.15.15.2、ASN 100 を持つ BGP ピアで、プライマリ ルーティン グ プロトコルとして BGP を設定します。

adminSt 変数は、次のいずれかに設定できます。

- enabled: BGP ネイバーシャットダウン機能をイネーブルにします。
- disabled: BGP ネイバーシャットダウン機能を無効にします。

次の例では、BGP ネイバー シャットダウン機能がイネーブルになっています。

#### 例:

REST API を使用した BGP ネイバー ソフト リセットの設定

次の手順では、REST API を使用して BGP ネイバー ソフト リセット機能を使用する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ1** ノードおよびインターフェイスを設定します。

この例では、ノードプロファイル、nodep1、ルータ ID 11.11.11.103 を持つノード 103 (境界 リーフスイッチ)上で、VRF v1 を設定します。.また、IP アドレス 12.12.12.1/24 およびレイ ヤ3 ドメイン dom1 で、ルーテッドインターフェイス (レイヤ3 ポート)としてインターフェ イス eth1/3 を設定します。

```
xtOut name="l3out1">
<l3extRsEctx tnFvCtxName="v1"/>
<l3extLNodeP name="nodep1">
<l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="l1.11.11.103" tDn="topology/pod-1/node-103"/>
```

```
<l3extLIfP name="ifp1"/>
<l3extRsPathL3OutAtt addr="12.12.12.3/24" ifInstT="l3-port"
tDn="topology/pod-1/paths-103/pathep-[eth1/3]"/>
</l3extLIfP>
</l3extLIfP>
<l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-dom1"/>
</l3extOut>
```

**ステップ2** BGP ルーティング プロトコルを設定し、BGP ネイバー ソフト リセット機能を設定します。

この例では、IP アドレス、15.15.15.2、ASN 100 を持つ BGP ピアで、プライマリ ルーティン グ プロトコルとして BGP を設定します。

dir 変数は、次のいずれかに設定できます。

- in: ソフト ダイナミック インバウンド リセットを有効にします。
- out: ソフト アウトバウンド リセットを有効にします。

次の例では、ソフト ダイナミック インバウンド リセットが有効になっています。

例:

```
<l3extOut name="l3out1">
    <l3extLNodeP name="nodep1">
        <bgpPeerP addr="15.15.15.2">
            <bgpAsP asn="100"/>
            <bppPeerEntryClearPeerLTask>
                <attributes>
                    <mode>soft</mode>
                    <dir>in</dir>
                    <adminSt>start</adminSt>
                </attributes>
                <children/>
            </bgpPeerEntryClearPeerLTask>
        </bqpPeerP>
    </l3extLNodeP>
    <bgpExtP/>
</l3extOut>
```

#### REST API を使用した VRF ごと、ノード BGP ごとのタイマーの設定

次の例では、ノード内の VRF ごと、ノード BGP ごとのタイマーの設定方法を示します。 bgpProtP (13extLNodeP の下)を設定します。bgpProtP の下で、目的とする関係 (bgpRsBgpNodeCtxPol)を設定します。これは、BGP コンテキスト ポリシー (bgpCtxPol) に対す るものです。

#### 手順

node1 でノード固有の BGP タイマー ポリシーを設定し、node2 を、ノード固有ではない BGP タイマー ポリシーで設定します。

```
POST https://apic-ip-address/mo.xml
```

この例では、node1 は BGP タイマー値をポリシー pol2 から取得し、node2 は BGP タイマー値 を pol1 から取得します。タイマー値は bgpDom に適用されますが、これは VRF tn1:ctx1 に対 応しています。これは、「VRF ごと、ノード BGP ごとのタイマーの値」のセクションで説明 したアルゴリズムに従って選択された、BGP タイマー ポリシーに基づきます。

#### 削除するノード BGP タイマーが REST API を使用してごとの VRF あたり

次の例では、ノード内で既存の VRF ごとの各ノード BGP タイマーを削除する方法を示します。

#### 手順

node1 で特定の BGP タイマー ポリシーのノードを削除します。

#### 例:

POST https://apic-ip-address/mo.xml

```
<fvTenant name="tn1" >
    <bgpCtxPol name="pol1" staleIntvl="25" />
    <bgpCtxPol name="pol2" staleIntvl="35" />
    <fvCtx name="ctx1" >
        <fvRsBgpCtxPol tnBgpCtxPolName="pol1"/>
        </fvCtx>
        <l3exttout name="out1" >
            <l3extRsEctx toFvCtxName="ctx1" />
            <l3extLNodeP name="node1" >
            <bgpRsdgpNodeCtxPol tnBgpCtxPolName="pol2" />
            <bgpRsdgpNodeCtxPol tnBgpCtxPolName="pol2" />
            <bgpRrotP name="node2" >
            </l3extLNodeP name="node2" >
            </l3extLNodeP</pre>
```

上の例のコードフレーズ <br/>bgpProtP name="protp1" status="deleted" > は、BGP タイマーポ リシーを削除します。削除後、node1 が node1 が関連付けられている VRF の BGP タイマーポ リシーのデフォルト設定になります。上の例では pol1 です。

#### REST API を使用したセカンダリ IP アドレスでの双方向フォワーディング検出の構成

次の例では、REST API を使用して、セカンダリ IP アドレスに Bidirectional Forwarding Detection (BFD)を構成します。

<l3extLIfP

```
dn="uni/tn-sec-ip-bfd/out-secip-bfd-l3out/lnodep-secip-bfd-l3out nodeProfile/
  lifp-secip-bfd-l3out interfaceProfile" name="secip-bfd-l3out interfaceProfile"
  prio="unspecified" tag="yellow-green" userdom=":all:">
    <l3extRsPathL3OutAtt addr="50.50.200/24" autostate="disabled"
     encap="vlan-2" encapScope="local" ifInstT="ext-svi" ipv6Dad="enabled"
     isMultiPodDirect="no" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular"
     mtu="inherit" tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/3]"
     targetDscp="unspecified" userdom=":all:">
        <l3extIp addr="9.9.9.1/24" ipv6Dad="enabled" userdom=":all:"/>
        <l3extIp addr="6.6.6.1/24" ipv6Dad="enabled" userdom=":all:"/>
    </l3extRsPathL3OutAtt>
    <l3extRsNdIfPol userdom="all"/>
    <l3extRsLIfPCustOosPol userdom="all"/>
    <l3extRsIngressQosDppPol userdom="all"/>
    <l3extRsEgressQosDppPol userdom="all"/>
    <l3extRsArpIfPol userdom="all"/>
</l3extLIfP>
<ipRouteP aggregate="no"
  dn="uni/tn-sec-ip-bfd/out-secip-bfd-l3out/lnodep-secip-bfd-l3out nodeProfile/
  rsnodeL3OutAtt-[topology/pod-1/node-101]/rt-[6.0.0.1/24]"
  fromPfxLen="0" ip="6.0.0.1/24" pref="1" rtCtrl="bfd" toPfxLen="0" userdom=":all:">
    <ipNexthopP nhAddr="6.6.6.2" pref="unspecified" type="prefix" userdom=":all:"/>
</ipRouteP>
```

#### グローバル REST API を使用して BFD の設定

#### 手順

次の REST API は、(BFD)を双方向フォワーディング検出のグローバル コンフィギュレーショ ンを示します。

REST API を使用した BFD インターフェイスのオーバーライドの設定

#### 手順

次の REST API は、(BFD) を双方向フォワーディング検出のインターフェイスのオーバーライ ド コンフィギュレーションを示します。

#### 例:

```
<fvTenant name="ExampleCorp">
  <bfdIfPol name="bfdIfPol" minTxIntvl="400" minRxIntvl="400" detectMult="5"</pre>
echoRxIntvl="400" echoAdminSt="disabled"/>
    <l3extOut name="l3-out">
        <l3extLNodeP name="leaf1">
            <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="2.2.2.2"/>
            <l3extLIfP name='portIpv4'>
                <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/11]"
ifInstT='l3-port' addr="10.0.0.1/24" mtu="1500"/>
                <bfdIfP type="sha1" key="password">
                    <bfdRsIfPol tnBfdIfPolName='bfdIfPol'/>
                </bfdIfP>
            </l3extLIfP>
        </l3extLNodeP>
    </l3extOut>
</fvTenant>
```

REST API を使用した BFD コンシューマ プロトコルの設定

#### 手順

ステップ1 次の例では、双方向の転送検出(BFD)のインターフェイス設定を示します。

例:

</l3extLNodeP>

```
</l3extOut> </fvTenant>
```

ステップ2 次の例では、OSPF および EIGRP で BFD を有効にするためのインターフェイス設定を示します。

例:

リーフ スイッチ上の BFD

#### 例:

スパイン スイッチ上の BFD

<l3extLNodeP name="bSpine">

</l3extLNodeP>

```
ステップ3 次の例では、BGP上のBFDを有効にするためのインターフェイス設定を示します。
```

#### 例:

</l3extLNodeP>

</l3extOut> </fvTenant>

**ステップ4**次の例では、スタティックルートで BFD を有効にするためのインターフェイス設定を示します。

例:

リーフ スイッチ上の BFD

```
</l3extLIfP>
```

</l3extLNodeP>

</l3extOut> </fvTenant>

例:

スパイン スイッチ上の BFD

<l3extLNodeP name="bSpine">

</l3extLNodeP>

**ステップ5** 次の例では、IS-IS で BFD を有効にするためのインターフェイス設定を示します。

```
</fabricLeafS>
           </fabricLeafP>
          <fabricSpineP name="SpNode" >
<fabricRsSpPortP tDn="uni/fabric/spportp-spine_profile" />
<fabricSpineS name="spsw" type="range">
    <fabricNodeBlk name="node103" to ="103" from ="103" />
</fabricSpineS>
         </fabricSpineP>
          <fabricLePortP name="leaf profile">
<fabricLFPortS name="leafIf" type="range">
<fabricPortBlk name="spBlk" fromCard="1" fromPort="49" toCard="1" toPort="49" />
       <fabricRsLePortPGrp tDn="uni/fabric/funcprof/leportgrp-LeTestPGrp" />
</fabricLFPortS>
       </fabricLePortP>
      <fabricSpPortP name="spine profile">
<fabricSFPortS name="spineIf" type="range">
      <fabricPortBlk name="spBlk" fromCard="5" fromPort="1" toCard="5" toPort="2" />
      <fabricRsSpPortPGrp tDn="uni/fabric/funcprof/spportgrp-SpTestPGrp" />
</fabricSFPortS>
     </fabricSpPortP>
<fabricFuncP>
                <fabricLePortPGrp name = "LeTestPGrp">
<fabricRsL3IfPol tnL3IfPolName="testL3IfPol"/>
              </fabricLePortPGrp>
           <fabricSpPortPGrp name = "SpTestPGrp">
<fabricRsL3IfPol tnL3IfPolName="testL3IfPol"/>
          </fabricSpPortPGrp>
</fabricFuncP>
</fabricInst>
```

### REST API を使用した OSPF 外部ルーテッド ネットワークの設定

#### REST API を使用した管理テナントの OSPF 外部ルーテッド ネットワークの作成

- ルータ ID と論理インターフェイスプロファイルの IP アドレスが異なっていて重複していないことを確認します。
- 次の手順は、管理テナントのOSPF外部ルーテッドネットワークを作成するためのものです。テナントのOSPF外部ルーテッドネットワークを作成するには、テナントを選択し、 テナント用のVRFを作成する必要があります。
- 詳細については、『Cisco APIC and Transit Routing』を参照してください。

#### 手順

管理テナントの OSPF 外部ルーテッド ネットワークを作成します。

```
POST: https://apic-ip-address/api/mo/uni/tn-mgmt.xml
<fvTenant name="mgmt">
  <fvBD name="bd1">
     <fvRsBDToOut tnL3extOutName="RtdOut" />
      <fvSubnet ip="1.1.1.1/16" />
      <fvSubnet ip="1.2.1.1/16" />
     <fvSubnet ip="40.1.1.1/24" scope="public" />
     <fvRsCtx tnFvCtxName="inb" />
   </fvBD>
   <fvCtx name="inb" />
   <l3extOut name="RtdOut">
      <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/13dom-extdom"/>
      <l3extInstP name="extMgmt">
      </l3extInstP>
      <l3extLNodeP name="borderLeaf">
         xtRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="10.10.10.10"/>
         <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-102" rtrId="10.10.10.11"/>
         <l3extLIfP name='portProfile'>
          <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/40]"
ifInstT='13-port' addr="192.168.62.1/24"/>
           <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-102/pathep-[eth1/40]"
ifInstT='13-port' addr="192.168.62.5/24"/>
           <ospfIfP/>
                                </l3extLIfP>
      </l3extLNodeP>
      <l3extRsEctx tnFvCtxName="inb"/>
      <ospfExtP areaId="57" />
   </l3extOut>
</fvTenant>
```

### REST API を使用した EIGRP 外部ルーテッド ネットワークの設定

REST API を使用した EIGRP の設定

手順

ステップ1 EIGRP コンテキスト ポリシーを設定します。

例:

ステップ2 EIGRP インターフェイス ポリシーを設定します。

```
<polUni>
<fvTenant name="cisco_6">
<eigrpIfPol bw="10" ctrl="nh-self,split-horizon" delay="10"
delayUnit="tens-of-micro" descr="" dn="uni/tn-cisco_6/eigrpIfPol-eigrp_if_default"
helloIntvl="5" holdIntvl="15" name="eigrp_if_default" ownerKey="" ownerTag=""/>
```

```
</fvTenant>
</polUni>
```

#### ステップ3 EIGRP VRF.を設定します。

#### 例:

IPv4 :

```
<polUni>
    <fvTenant name="cisco_6">
        <fvCtx name="dev">
            <fvRsCtxToEigrpCtxAfPol tnEigrpCtxAfPolName="eigrp_ctx_pol_v4" af="1"/>
            </fvCtx>
        </fvCtx>
        </fvTenant>
</polUni>
```

#### IPv6

```
<polUni>
<fvTenant name="cisco_6">
<fvCtx name="dev">
<fvRsCtxToEigrpCtxAfPol tnEigrpCtxAfPolName="eigrp_ctx_pol_v6" af="ipv6-ucast"/>
</fvCtx>
</fvCtx>
</fvCtx>
</fvCtx>
```

```
ステップ4 外部の EIGRP Layer3 を設定します。
```

#### 例:

#### IPv4

```
<polUni>
    <fvTenant name="cisco 6">
        <l3extOut name="ext">
            <eigrpExtP asn="4001"/>
            <l3extLNodeP name="node1">
                <l3extLIfP name="intf v4">
                    <l3extRsPathL3OutAtt addr="201.1.1.1/24" ifInstT="13-port"
                      tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/4]"/>
                    <eigrpIfP name="eigrp ifp v4">
                        <eigrpRsIfPol tnEigrpIfPolName="eigrp_if_pol_v4"/>
                    </eigrpIfP>
                </l3extLIfP>
            </l3extLNodeP>
        </l3extOut>
    </fvTenant>
</polUni>
IPv6
<polUni>
    <fvTenant name="cisco 6">
        <l3extOut name="ext">
            <eigrpExtP asn="4001"/>
```

<l3extRsPathL3OutAtt addr="2001::1/64" ifInstT="13-port"

<l3extLNodeP name="node1">

<l3extLIfP name="intf v6">

```
tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/4]"/>
                    <eigrpIfP name="eigrp_ifp_v6">
                        <eigrpRsIfPol tnEigrpIfPolName="eigrp if pol v6"/>
                    </eigrpIfP>
                </l3extLIfP>
            </l3extLNodeP>
        </l3extOut>
    </fvTenant>
</polUni>
IPv4 および IPv6
<polUni>
    <fvTenant name="cisco 6">
        <l3extOut name="ext">
            <eigrpExtP asn="4001"/>
            <l3extLNodeP name="node1">
                <l3extLIfP name="intf v4">
                    <l3extRsPathL3OutAtt addr="201.1.1.1/24" ifInstT="13-port"
                      tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/4]"/>
                    <eigrpIfP name="eigrp ifp v4">
                        <eigrpRsIfPol tnEigrpIfPolName="eigrp if pol v4"/>
                    </eigrpIfP>
                </l3extLIfP>
                <l3extLIfP name="intf v6">
                    <l3extRsPathL3OutAtt addr="2001::1/64" ifInstT="13-port"
                      tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/4]"/>
                    <eigrpIfP name="eigrp ifp v6">
                        <eigrpRsIfPol tnEigrpIfPolName="eigrp if pol v6"/>
                    </eigrpIfP>
                </l3extLIfP>
            </l3extLNodeP>
        </l3extOut>
    </fvTenant>
</polUni>
```

```
ステップ5 (任意) インターフェイス ポリシー ノブを設定します。
```

#### 例:

```
<polUni>
<fvTenant name="cisco_6">
<eigrpIfPol bw="1000000" ctrl="nh-self,split-horizon" delay="10"
delayUnit="tens-of-micro" helloIntvl="5" holdIntvl="15" name="default"/>
</fvTenant>
</polUni>
```

Bandwidth (bw) 属性は (bw) 属性は kbps で定義されています。DelayUnit 属性は、「1 万マイ クロ」または「ピコ」です。

# **REST API** を使用したルート集約の設定

### BGP、OSPF、および REST API を使用して EIGRP のルート集約の設定

#### 手順

ステップ1 次のように、REST API を使用して BGP ルート集約を設定します。

#### 例:

```
<fvTenant name="common">
          <fvCtx name="vrf1"/>
   <bgpRtSummPol name="bgp rt summ" cntrl='as-set'/>
   <l3extOut name="l3_ext_pol" >
             <l3extLNodeP name="bLeaf">
                <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="20.10.1.1"/>
              <l3extLIfP name='portIf'>
              <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/31]"
ifInstT='13-port' addr="10.20.1.3/24/>
              </l3extLIfP>
           </l3extLNodeP>
         <bgpExtP />
           <l3extInstP name="InstP" >
         <l3extSubnet ip="10.0.0.0/8" scope="export-rtctrl">
           <l3extRsSubnetToRtSumm tDn="uni/tn-common/bgprtsum-bgp rt summ"/>
           <l3extRsSubnetToProfile tnRtctrlProfileName="rtprof"/>
         </l3extSubnet>
       </l3extInstP>
       <l3extRsEctx tnFvCtxName="vrf1"/>
   </13extOut>
</fvTenant>
```

ステップ2 次の REST API を使用して、OSPF のエリア間および外部の集約を設定します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<fvTenant name="t20">
  <!--Ospf Inter External route summarization Policy-->
 <ospfRtSummPol cost="unspecified" interAreaEnabled="no" name="ospfext"/>
 <!--Ospf Inter Area route summarization Policy-->
 <ospfRtSummPol cost="16777215" interAreaEnabled="yes" name="interArea"/>
 <fvCtx name="ctx0" pcEnfDir="ingress" pcEnfPref="enforced"/>
  <!-- L3OUT backbone Area-->
 <l3extOut enforceRtctrl="export" name="13 1" ownerKey="" ownerTag=""
targetDscp="unspecified">
    <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx0"/>
    <l3extLNodeP name="node-101">
      <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="20.1.3.2" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-101"/>
     <l3extLIfP name="intf-1">
       <l3extRsPathL3OutAtt addr="20.1.5.2/24" encap="vlan-1001" ifInstT="sub-interface"</li>
 tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/33]"/>
      </l3extLIfP>
    </l3extLNodeP>
    <l3extInstP name="l3InstP1">
      <fvRsProv tnVzBrCPName="default"/>
```

```
<!--Ospf External Area route summarization-->
     xtSubnet aggregate="" ip="193.0.0.0/8" name="" scope="export-rtctrl">
       <l3extRsSubnetToRtSumm tDn="uni/tn-t20/ospfrtsumm-ospfext"/>
     </l3extSubnet>
   </l3extInstP>
   <ospfExtP areaCost="1" areaCtrl="redistribute,summary" areaId="backbone"</pre>
areaType="regular"/>
  </l3extOut>
 <!-- L3OUT Regular Area-->
 <l3extOut enforceRtctrl="export" name="13 2">
   <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx0"/>
   <l3extLNodeP name="node-101">
     <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="20.1.3.2" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-101"/>
     <l3extLIfP name="intf-2">
      <l3extRsPathL3OutAtt addr="20.1.2.2/24" encap="vlan-1014" ifInstT="sub-interface"
 tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/11]"/>
     </l3extLIfP>
   </l3extLNodeP>
   <l3extInstP matchT="AtleastOne" name="l3InstP2">
     <fvRsCons tnVzBrCPName="default"/>
     <!--Ospf Inter Area route summarization-->
     <l3extRsSubnetToRtSumm tDn="uni/tn-t20/ospfrtsumm-interArea"/>
     </l3extSubnet>
   </l3extInstP>
   <ospfExtP areaCost="1" areaCtrl="redistribute,summary" areaId="0.0.0.57"</pre>
areaType="regular"/>
  </l3extOut>
</fvTenant>
```

#### ステップ3 次の REST API を使用して EIGRP の集約を設定します。

例:

```
<fvTenant name="exampleCorp">
<l3extOut name="out1">
<l3extInstP name="eigrpSummInstp" >
<l3extInstP name="eigrpSummInstp" >
<l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="197.0.0.0/8" name="" scope="export-rtctrl">
<l3extSubnetToRtSumm/>
</l3extSubnetToRtSumm/>
</l3extInstP>
</l3extInstP>
</l3extOut>
```

(注) EIGRP を設定するルート集約ポリシーはありません。EIGRP の集約を有効にする ために必要なだけの設定では、サマリー サブネット、InstP でです。

# REST API を使用したルート マップおよびルート プロファイルによる ルート制御の設定

### REST API を使用した BGP ピアごとのルート制御の設定

次の手順では、REST APIを使用して BGP ピア単位のルート制御を設定する方法について説明 します。

#### 手順

BGP ピアごとのルート制御機能を設定します。

ここで、

- direction="import"は、ルートインポートポリシー(ファブリックに許可されるルート)です。
- direction="export"は、ルートエクスポートポリシー(外部ネットワークからアドバタイ ズされるルート)です。

```
<polUni>
  <fvTenant name="t1">
      <fvCtx name="v1"/>
      <l3extOut name="l3out1">
          <l3extRsEctx tnFvCtxName="v1"/>
          <l3extLNodeP name="nodep1">
             <l3extLIfP name="ifp1">
                 <l3extRsPathL3OutAtt addr="12.12.12.3/24" ifInstT="13-port"
tDn="topology/pod-1/paths-103/pathep-[eth1/3]"/>
              </l3extLIfP>
              <bgpPeerP addr="15.15.15.2">
                 <bgpAsP asn="100"/>
                 <bqpRsPeerToProfile direction="export" tnRtctrlProfileName="rp1"/>
              </bgpPeerP>
           </l3extLNodeP>
           <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-dom1"/>
           <ospfExtP areaId="0.0.0.0" areaType="regular"/>
           <l3extInstP name="extnw1" >
              <l3extSubnet ip="20.20.20.0/24" scope="import-security"/>
           </l3extInstP>
       </l3extOut>
       <rtctrlProfile name="rp1">
           <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
               <rtctrlScope>
                  <rtctrlRsScopeToAttrP tnRtctrlAttrPName="attrp1"/>
               </rtctrlScope>
               <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule1"/>
           </rtctrlCtxP>
       </rtctrlProfile>
       <rtctrlSubjP name="match-rule1">
```
```
<rtctrlMatchRtDest ip="200.3.2.0/24"/>
</rtctrlSubjP>
<rtctrlAttrP name="attrp1">
<rtctrlSetASPath criteria="prepend">
<rtctrlSetASPathASN asn="100" order="2"/>
<rtctrlSetASPathASN asn="200" order="1"/>
</rtctrlSetASPath>
</fvTenant>
</polUni>
```

REST API を使用して、明示的なプレフィックス リストでルート マップ/プロファイルの 設定

#### 始める前に

テナントと VRF を設定する必要があります。

#### 手順

明示的なプレフィックス リストを使用してルート マップ/プロファイルを設定します。

(注) 以下の太字のエントリは、APIC リリース 4.2(3) 以降で使用可能な一致プレフィッ クスの拡張機能です。これらのフィールドの詳細については、一致プレフィックス の機能拡張 (371 ページ)を参照してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<fvTenant name="PM" status="">
   <rtctrlAttrP name="set dest">
      <rtctrlSetComm community="regular:as2-nn2:5:24" />
   </rtctrlAttrP>
   <rtctrlSubjP name="allow dest">
     <rtctrlMatchRtDest ip="192.169.0.0/24" aggregate="yes" fromPfxLen="26" toPfxLen="30"</pre>
 />
      <rtctrlMatchCommTerm name="term1">
         <rtctrlMatchCommFactor community="regular:as2-nn2:5:24" status="" />
         <rtctrlMatchCommFactor community="regular:as2-nn2:5:25" status="" />
      </rtctrlMatchCommTerm>
      <rtctrlMatchCommRegexTerm commType="regular" regex="200:*" status="" />
   </rtctrlSubjP>
   <rtctrlSubjP name="deny dest">
      <rtctrlMatchRtDest ip="192.168.0.0/24" />
   </rtctrlSubjP>
   <fvCtx name="ctx" />
   <l3extOut name="L3Out 1" enforceRtctrl="import,export" status="">
      <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx" />
      <l3extLNodeP name="bLeaf">
         <l3extRsNodeL3OutAtt tDn="topology/pod-1/node-101" rtrId="1.2.3.4" />
         <l3extLIfP name="portIf">
            <l3extRsPathL3OutAtt tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/25]"
ifInstT="sub-interface" encap="vlan-1503" addr="10.11.12.11/24" />
            <ospfIfP />
```

```
</l3extLIfP>
         <bgpPeerP addr="5.16.57.18/32" ctrl="send-com" />
         <bgpPeerP addr="6.16.57.18/32" ctrl="send-com" />
      </l3extLNodeP>
     <bgpExtP />
      <ospfExtP areaId="0.0.0.59" areaType="nssa" status="" />
      <l3extInstP name="l3extInstP 1" status="">
        <l3extSubnet ip="17.11.1.11/24" scope="import-security" />
     </l3extInstP>
      <rtctrlProfile name="default-export" type="global" status="">
         <rtctrlCtxP name="ctx deny" action="deny" order="1">
            <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="deny dest" status="" />
        </rtctrlCtxP>
         <rtctrlCtxP name="ctx allow" order="2">
            <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="allow dest" status="" />
        </rtctrlCtxP>
        <rtctrlScope name="scope" status="">
           <rtctrlRsScopeToAttrP tnRtctrlAttrPName="set dest" status="" />
        </rtctrlScope>
      </rtctrlProfile>
   </13ext0ut>
   <fvBD name="testBD">
      <fvRsBDToOut tnL3extOutName="L3Out 1" />
     <fvRsCtx tnFvCtxName="ctx" />
     <fvSubnet ip="40.1.1.12/24" scope="public" />
     <fvSubnet ip="40.1.1.2/24" scope="private" />
     <fvSubnet ip="2003::4/64" scope="public" />
   </fvBD>
</fvTenant>
```

REST API を使用した、インポート制御とエクスポート制御によるルーティング制御プロ トコルの設定

この例では、ネットワーク接続 BGP を使用して外部レイヤ3 が設定されていることを前提としています。OSPF を使用してネットワークを次のタスクを実行することもできます。

#### 始める前に

- テナント、プライベートネットワーク、およびブリッジドメインが作成されていること。
- ・レイヤ3 Outside テナントネットワークが設定されていること。

#### 手順

インポート制御とエクスポート制御を使用するルート制御プロトコルを設定します。

```
<l3extOut descr="" dn="uni/tn-Ten_ND/out-L3Out1" enforceRtctrl="export" name="L3Out1"
ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified">
<l3extLNodeP descr="" name="LNodeP1" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green"
targetDscp="unspecified">
<l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="1.2.3.4" rtrIdLoopBack="yes"
tDn="topology/pod-1/node-101">
```

<l3extLoopBackIfP addr="2000::3" descr="" name=""/> <ospfIfP authKeyId="1" authType="none" descr="" name=""> <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName=""/> </ospfIfP> <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/> <l3extRsPathL3OutAtt addr="10.11.12.10/24" descr="" encap="unknown" ifInstT="13-port" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mtu="1500" tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/17]" targetDscp="unspecified"/> </l3extLIfP> </l3extLNodeP> <l3extRsEctx tnFvCtxName="PVN1"/> <l3extInstP descr="" matchT="AtleastOne" name="InstP1" prio="unspecified" targetDscp="unspecified"> <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/> xtSubnet aggregate="" descr="" ip="192.168.1.0/24" name="" scope=""/> </l3extInstP> <ospfExtP areaCost="1" areaCtrl="redistribute,summary" areaId="0.0.0.1"</pre> areaType="nssa" descr=""/> <rtctrlProfile descr="" name="default-export" ownerKey="" ownerTag=""> <rtctrlCtxP descr="" name="routecontrolpvtnw" order="3"> <rtctrlScope descr="" name=""> <rtctrlRsScopeToAttrP tnRtctrlAttrPName="actionruleprofile2"/> </rtctrlScope> </rtctrlCtxP> </rtctrlProfile> </l3extOut>

### REST API を使用したインターリーク再配布の設定

次の手順では、REST API を使用してインターリーク再配布を設定する方法について説明します。

#### 始める前に

テナント、VRF、および L3Out を作成します。

#### 手順

ステップ1 インターリーク再配布のルートマップを設定します。

#### 例:

次の例では、2つのコンテキスト(ROUTES_A および ROUTES_ALL)を使用してルートマッ プ INTERLEAK_RP を設定します。最初のコンテキスト ROUTES_A は、IP プレフィックスリ スト 10.0.0.0/24 le 32 と一致し、set rule COM_A を介してコミュニティ属性を設定します。2番 目のコンテキストは、すべてのルートと一致します。

```
<rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="PFX 10-0-0-0 24"/>
            <rtctrlScope>
                <rtctrlRsScopeToAttrP tnRtctrlAttrPName="COM A"/>
            </rtctrlScope>
        </rtctrlCtxP>
        <rtctrlCtxP name="ROUTES ALL" order="9" action="permit">
            <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="ALL PREFIX"/>
       </rtctrlCtxP>
   </rtctrlProfile>
   <!-- match rule with an IP prefix-list -->
   <rtctrlSubjP name="ALL PREFIX">
       <rtctrlMatchRtDest ip="0.0.0.0/0" aggregate="yes"/>
   </rtctrlSubjP>
   <!-- match rule with an IP prefix-list -->
   <rtctrlSubjP name="PFX 10-0-0-0 24">
       <rtctrlMatchRtDest ip="10.0.0/24" aggregate="yes"/>
   </rtctrlSubjP>
   <!-- setu rule for community attribute -->
   <rtctrlAttrP name="COM A">
       <rtctrlSetComm type="community" setCriteria="append"
community="regular:as2-nn2:100:200"/>
   </rtctrlAttrP>
</fvTenant>
```

ステップ2 設定されたルートマップをL3Out に適用します。

次の例では、ステップ1のルートマップをL3Out13out1に適用して、特定のL3Outからのルー トのインターリーク再配布をカスタマイズします。

L3extRsInterleakPolは、特定のL3Outによって使用されるダイナミックルーティングプロトコル (OSPF/EIGRP) ルートに適用されます。L3extRsRedistributePolは、src属性(static) で指定されたスタティックルートに適用されます。

例:

# REST API を使用したトランジット ルーティングの設定

## REST API を使用したトランジット ルーティングの設定

次の手順では、テナントのトランジットルーティングを設定する方法を説明します。この例では、別のルータにそれぞれ接続された2つの境界リーフスイッチで、1つのVRF内に2つのL3Outを展開します。

#### 始める前に

- ・ノード、ポート、AEP、機能プロファイル、レイヤ3ドメインを設定します。
- ・外部ルーテッドドメインを作成し、L3Outのインターフェイスに関連付けます。
- ファブリック内でルートを伝播させるために、BGP ルート リフレクタ ポリシーを設定します。

#### 手順

ステップ1 テナントおよび VRF を設定します。

この例ではテナント t1 および VRF v1 を設定します。VRF はまだ展開されていません。

```
例:
```

```
<fvTenant name="t1">
<fvCtx name="v1"/>
</fvTenant>
```

**ステップ2** ノードおよびインターフェイスを設定します。

この例では、2 つの境界リーフスイッチで、テナント tl と VRF vl に 2 つの L3Outs を設定します。VRF は、レイヤ 3 ドメイン dom1 です。

- ・最初のL3Outはノード101上にあり、nodep1という名前です。ノード101はルータID 11.11.11.103で設定されます。ルーテッドインターフェイスifp1がeth1/3にあり、IPア ドレス12.12.3/24です。
- •2番目のL3Outがノード102上にあり、nodep2という名前です。ノード102はルータ ID 22.22.22.203に設定されています。IPアドレス、23.23.23.1/24を持つ eth1/3 でルーテッ ドインターフェイス ifp2 があります。

```
<l3extOut name="l3out1">
    <l3extRsEctx tnFvCtxName="v1"/>
    <l3extLNodeP name="nodep1">
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="11.11.11.103" tDn="topology/pod-1/node-101"/>
        <l3extLIfP name="ifp1"/>
       <l3extRsPathL3OutAtt addr="12.12.12.3/24" ifInstT="13-port"
tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/3]"/>
        </l3extLIfP>
    </l3extLNodeP>
    <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-dom1"/>
</l3extOut>
<l3extOut name="l3out2">
    <l3extRsEctx tnFvCtxName="v1"/>
    <l3extLNodeP name="nodep2">
        <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="22.22.22.203" tDn="topology/pod-1/node-102"/>
        <l3extLIfP name="ifp2"/>
        <l3extRsPathL3OutAtt addr="23.23.23.3/24" ifInstT="13-port"
tDn="topology/pod-1/paths-102/pathep-[eth1/3]"/>
        </l3extLIfP>
    </l3extLNodeP>
```

ステップ3 両方の境界リーフスイッチのルーティングプロトコルを設定します。

この例では、両方の境界リーフスイッチに対して、ASN 100 でプライマリルーティングプロ トコルとしてBGPを設定します。BGP ピア 15.15.15.2を持つノード 101 と BGP ピア 25.25.25.2 を持つノード102を設定します。

#### 例:

```
<l3extOut name="l3out1">
<l3extLNodeP name="nodep1">
<bgpPeerP addr="l5.15.15.2/24"
<bgpAsP asn="l00"/>
</bgpPeerP>
</l3extLNodeP>
</l3extOut>
<l3extOut name="l3out2">
<l3extLNodeP name="nodep2">
<bgpPeerP addr="25.25.25.2/24"
<bgpAsP asn="l00"/>
</l3extLNodeP>
</l3extLNodeP>
</l3extLNodeP>
</l3extLNodeP>
```

ステップ4 接続ルーティングプロトコルを設定します。

この例では、定期的なエリア ID 0.0.0.0 で両方の L3Outs に対して通信プロトコルとして OSPF を設定します。

#### 例:

```
<l3extOut name="l3out1">
    <ospfExtP areaId="0.0.0.0" areaType="regular"/>
    <l3extLNodeP name="nodep1">
        <l3extLIfP name="ifp1">
           <ospfIfP/>
        <l3extIfP>
    <l3extLNodeP>
</l3extOut>
<l3extOut name="l3out2">
    <ospfExtP areaId="0.0.0.0" areaType="regular"/>
    <l3extLNodeP name="nodep2">
        <l3extLIfP name="ifp2">
            <ospfIfP/>
        <l3extIfP>
    <l3extLNodeP>
</13extOut>
```

### ステップ5 外部 EPG を設定します。

この例では、ノード101上の外部ネットワーク extnw1 としてネットワーク 192.168.1.0/24 と、 ノード 102 上の外部ネットワーク extnw2 として 192.168.2.0/24 を設定します。また、ルート 制御プロファイル rp1 および rp2.と外部 EPG を関連付けます。

```
xtOut name="l3outl">
<l3extInstP name="extnwl">
<l3extSubnet ip="l92.168.1.0/24" scope="import-security"/>
<l3extRsInstPToProfile direction="export" tnRtctrlProfileName="rp1"/>
```

```
</lisextInstP></lisextOut></lisextOut name="lisout2">
<lisextInstP name="extnw2">
<lisextInstP name="extnw2">
<lisextSubnet ip="lisout2">
</lisextSubnet ip="lisout2"</lisextSubnet ip="lisout2">
</lisextSubnet ip="lisout2"</li>
```

ステップ6 オプション。ルートマップを設定します。

この例では、インバウンドおよびアウトバウンド方向で各 BGP ピアのルートマップを設定します。L3out1 では、ルートマップ rp1 が 192.168.1.0/24 のインポート宛先に一致するルート に適用され、ルートマップ rp2 が 192.168.2.0/24 のエクスポート宛先に一致するルートに適用されます。L3out2 では、ルートマップの方向を反転します。

#### 例:

```
<fvTenant name="t1">
   <rtctrlSubjP name="match-rule1">
       <rtctrlMatchRtDest ip="192.168.1.0/24" />
   </rtctrlSubjP>
   <rtctrlSubjP name="match-rule2">
       <rtctrlMatchRtDest ip="192.168.2.0/24" />
   </rtctrlSubjP>
   <l3extOut name="l3out1">
       <rtctrlProfile name="rp1">
           <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
               <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule1" />
           </rtctrlCtxP>
       </rtctrlProfile>
       <rtctrlProfile name="rp2">
           <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
               <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule2" />
           </rtctrlCtxP>
       </rtctrlProfile>
       <l3extInstP name="extnw1">
           <l3extRsInstPToProfile direction="import" tnRtctrlProfileName="rp1" />
           xtRsInstPToProfile direction="export" tnRtctrlProfileName="rp2" />
       </l3extInstP>
   </l3extOut>
   <l3extOut name="l3out2">
       <rtctrlProfile name="rp1">
           <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
               <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule1" />
           </rtctrlCtxP>
       </rtctrlProfile>
       <rtctrlProfile name="rp2">
           <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
               <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule2" />
           </rtctrlCtxP>
       </rtctrlProfile>
       <l3extInstP name="extnw2">
           xtRsInstPToProfile direction="import" tnRtctrlProfileName="rp2" />
           </l3extInstP>
   </l3extOut>
</fvTenant>
```

ステップ1 フィルタおよびコントラクトを作成し、EPG が通信できるようにします。

この例では、フィルタ http-filter とコントラクト httpctrct を設定します。外部 EPG および アプリケーション EPG は、それぞれプロバイダおよびコンシューマとして、すでにコントラ クト httpctrct と関連付けられています。

例:

```
<vzFilter name="http-filter">
	<vzEntry name="http-e" etherT="ip" prot="tcp"/>
	</vzFilter>
	<vzBrCP name="httpCtrct" scope="context">
		<vzSubj name="subj1">
			<vzSubj name="subj1">
				<vzRsSubjFiltAtt tnVzFilterName="http-filter"/>
				</vzSubj>
			</vzBrCP>
```

ステップ8 コントラクトと外部 EPG を関連付けます。

この例では、外部 EPG extnw1 をプロバイダとして、外部 EPG extnw2 をコントラクト httpCtrct のコンシューマとして関連付けます。

```
<l3extOut name="l3out1">
<l3extInstP name="extnw1">
<fvRsProv tnVzBrCPName="httpCtrct"/>
</l3extInstP>
</l3extOut>
<l3extOut name="l3out2">
<l3extInstP name="extnw2">
<fvRsCons tnVzBrCPName="httpCtrct"/>
</l3extInstP>
</l3extInstP>
</l3extOut>
```

### REST API の例: 中継ルーティング

```
次の例では、REST APIを使用して、2つの境界リーフスイッチで2つのL3Outsを設定しま
す。
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- api/policymgr/mo/.xml -->
<polUni>
    <fvTenant name="t1">
       <fvCtx name="v1"/>
       <l3extOut name="l3out1">
           <l3extRsEctx tnFvCtxName="v1"/>
           <l3extLNodeP name="nodep1">
               <bgpPeerP addr="15.15.15.2/24">
                   <bgpAsP asn="100"/>
               </bgpPeerP>
             xtRsNodeL3OutAtt rtrId="11.11.11.103" tDn="topology/pod-1/node-101"/>
               <l3extLIfP name="ifp1">
                   <l3extRsPathL3OutAtt addr="12.12.12.3/24" ifInstT="13-port"
tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/3]" />
                   <ospfIfP/>
               </l3extLIfP>
           </l3extLNodeP>
           <l3extInstP name="extnw1">
               <l3extSubnet ip="192.168.1.0/24" scope="import-security"/>
               xtRsInstPToProfile direction="import" tnRtctrlProfileName="rp1"/>
               <l3extRsInstPToProfile direction="export" tnRtctrlProfileName="rp2"/>
```

```
<fvRsProv tnVzBrCPName="httpCtrct"/>
            </l3extInstP>
            <bgpExtP/>
            <ospfExtP areaId="0.0.0.0" areaType="regular"/>
            <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-dom1"/>
            <rtctrlProfile name="rp1">
                <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
                    <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule1"/>
                </rtctrlCtxP>
            </rtctrlProfile>
            <rtctrlProfile name="rp2">
                <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
                    <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule2"/>
                </rtctrlCtxP>
            </rtctrlProfile>
        </l3extOut>
        <l3extOut name="l3out2">
            <l3extRsEctx tnFvCtxName="v1"/>
            <l3extLNodeP name="nodep2">
                <bgpPeerP addr="25.25.25.2/24">
                    <bgpAsP asn="100"/>
                </bqpPeerP>
                <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="22.22.22.203" tDn="topology/pod-1/node-102"
 />
                <l3extLIfP name="ifp2">
                    <l3extRsPathL3OutAtt addr="23.23.23.3/24" ifInstT="13-port"
tDn="topology/pod-1/paths-102/pathep-[eth1/3]" />
                    <ospfIfP/>
                </13extLTfP>
            </l3extLNodeP>
            <l3extInstP name="extnw2">
                <l3extSubnet ip="192.168.2.0/24" scope="import-security"/>
                xtRsInstPToProfile direction="import" tnRtctrlProfileName="rp2"/>
                <l3extRsInstPToProfile direction="export" tnRtctrlProfileName="rp1"/>
                <fvRsCons tnVzBrCPName="httpCtrct"/>
            </l3extInstP>
            <bgpExtP/>
            <ospfExtP areaId="0.0.0.0" areaType="regular"/>
            <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-dom1"/>
            <rtctrlProfile name="rp1">
                <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
                    <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule1"/>
                </rtctrlCtxP>
            </rtctrlProfile>
            <rtctrlProfile name="rp2">
                <rtctrlCtxP name="ctxp1" action="permit" order="0">
                    <rtctrlRsCtxPToSubjP tnRtctrlSubjPName="match-rule2"/>
                </rtctrlCtxP>
            </rtctrlProfile>
        </l3extOut>
        <rtctrlSubjP name="match-rule1">
            <rtctrlMatchRtDest ip="192.168.1.0/24"/>
        </rtctrlSubjP>
        <rtctrlSubjP name="match-rule2">
            <rtctrlMatchRtDest ip="192.168.2.0/24"/>
        </rtctrlSubjP>
        <vzFilter name="http-filter">
            <vzEntry name="http-e" etherT="ip" prot="tcp"/>
        </vzFilter>
        <vzBrCP name="httpCtrct" scope="context">
            <vzSubj name="subj1">
                <vzRsSubjFiltAtt tnVzFilterName="http-filter"/>
            </vzSubj>
        </vzBrCP>
```

</fvTenant> </polUni>

# 共有 L30ut

### REST API を使用した共有サービスの設定

### 共有設定の2つのレイヤ REST API を使用して2つの Vrf に3が記録されます。

2つの方法が表示されますが、2つのVrfにレイヤ3が記録されるを共有する次のREST APIの 設定例は次の通信します。

#### 手順

ステップ1 プロバイダーレイヤ3を設定します。

#### 例:

ステップ2 レイヤ3 Out コンシューマを設定します。

# REST API を使用した L30ut の QoS の設定

### **REST API**を使用した L30ut での QoS ディレクトリの設定

この章では L3Out で QoS ディレクトリを設定する方法について説明します。これは、リリース 4.0(1) 以降の L3Out QoS の推奨設定方法です。Cisco APIC

次のオブジェクトの内の1つでL3OutのQoSを設定できます。

- Switch Virtual Interface (SVI)
- サブインターフェイス
- 外部ルーテッド

#### 手順

ステップ1 L3Out SVI に QoS プライオリティを設定します。

#### 例:

```
xtLIfP descr=""
dn="uni/tn-DT/out-L3_4_2_24_SVI17/lnodep-L3_4_E2_24/lifp-L3_4_E2_24_SVI_19"
name="L3_4_E2_24_SVI_19" prio="level6" tag="yellow-green">
<l3extRsPathL3OutAtt addr="0.0.0.0" autostate="disabled" descr="SVI19" encap="vlan-19"</li>
```

encapScope="local" ifInstT="ext-svi" ipv6Dad="enabled" llAddr="::"

ステップ2 サブインターフェイスに QoS プライオリティを設定します。

#### 例:

ステップ3 外部ルーテッドに QoS プライオリティを設定します。

### **REST API** を使用した L30ut の QoS コントラクトの設定

この項では、コントラクトを使用して L3Out の QoS を設定する方法について説明します。



) リリース 4.0(1) 以降では、L3Out QoS 用にカスタム QoS ポリシーを使用することを推奨しています。REST API を使用した L3Out での QoS ディレクトリの設定(635ページ)で説明しています。

#### 手順

ステップ1 テナント、VRF、ブリッジ ドメインを設定する場合、ポリシー適用が有効になっている状態 で、出力モードに VRF を設定します(pcEnfDir="egress)。次の例のように XML で post を送 信します。

#### 例:

```
<fvTenant name="t1">

<fvTenant name="v1" pcEnfPref="enforced" pcEnfDir="egress"/>

<fvBD name="bd1">

<fvRsCtx tnFvCtxName="v1"/>

<fvSubnet ip="44.44.44.1/24" scope="public"/>

<fvRsBDToOut tnL3extOutName="l3out1"/>

</fvBD>"/>

</fvTenant>
```

**ステップ2** 通信のため L3Out に参加して EPG を有効にする契約を作成するときは、優先順位の QoS を設定します。

この例のコントラクトには、L3Out で出力されるトラフィックの level1 の QoS 優先順位を含 みますまたは、ターゲットの DSCP 値を定義する可能性があります。QoS ポリシーは、契約ま たはサブジェクトのいずれかでサポートされます。

フィルタにmatchDscp = 「Ef」条件があるため、このタグを持つトラフィックがコントラクト件 名で指定されたキューを通して L3out プロセスにより受信できます。

L3out インターフェイスでの QOS またはカスタム QOS では VRF の適用は入力とします。VRF の適用を出力にする必要があるのは、QOS 分類が EPG と L3out の間、または L3out から L3out へのトラフィックの契約で実行される場合に限ります。

(注) QOS分類が契約で設定され、VRFの適用が出力である場合、契約QOS分類はL3out インターフェイスQOSまたはカスタムQOS分類をオーバーライドするため、これ か新しいもののいずれかを設定する必要があります。

#### 例:

# REST API を使用した SR-MPLS カスタム QoS ポリシー

SR MPLS カスタム QoS ポリシーは、MPLS QoS 出力 ポリシーで定義された着信 MPLS EXP 値 に基づいて、SR-MPLS ネットワークから送信されるパケットのプライオリティを定義します。 これらのパケットは、ACI ファブリック内にあります。また、MPLS QoS 出力ポリシーで定義 された IPv4 DSCP 値に基づく MPLS インターフェイスを介して ACI ファブリックから離れる パケットの CoS 値および MPLS EXP 値をマーキングします。

カスタム出力ポリシーが定義されていない場合、デフォルトのQosレベル(Level3)がファブ リック内のパケットに割り当てられます。カスタム出力ポリシーが定義されていない場合、デ フォルトの EXP 値(0)がファブリックから離れるパケットにマーキングされます。

#### 手順

ステップ1 SR-MPLS QoS ポリシーの作成

#### 次のPOSTで、

- customqos1を、作成する SR-MPLS QoS ポリシーの名前に置き換えます。
- qosMplsIngressRuleの場合:
  - from = "2" to = "3"を、ポリシーに一致させる EXP 範囲に置き換えます。
  - prio = "level5"を ACI ファブリック内にあるパケットの ACI QoS レベルに置き換えます。
  - target = "CS5" は、パケットが一致したときに設定する DSCP 値に置き換えます。
  - targetCos = "4" を、パケットが一致したときにパケットに設定する CoS 値に置き換えます。
- qosMplsEgressRule の場合:
  - from = "CS2" to = "CS4" を、ポリシーを照合する DSCP 範囲に置き換えます。

- targetExp = "5" を、パケットがファブリックを離れるときに設定する EXP 値に置き換えます。
- targetCos = "3" を、パケットがファブリックを離れるときに設定する CoS 値に置き換えます。

```
<polUni>
  <fvTenant name="infra">
    <qosMplsCustomPol descr="" dn="uni/tn-infra/qosmplscustom-customqos1" name="customqos1"
    status="" >
        <qosMplsIngressRule from="2" to="3" prio="level5" target="CS5" targetCos="4"
    status="" />
        <qosMplsEgressRule from="CS2" to="CS4" targetExp="5" targetCos="3" status=""/>
        </qosMplsEustomPol>
    </fvTenant>
  </polUni>
```

#### ステップ2 SR-MPLS QoS ポリシーの作成

次の POST で、customqos1 を前の手順で作成した SR-MPLS QoS ポリシーの名前に置き換えます。

# REST API を使用した ACI IP SLA の設定

# REST API を使用した IP SLA モニタリング ポリシーの設定

REST API を使用して特定の SLA タイプのモニタリング プローブを送信できるようにするには、次の手順を実行します。Cisco APIC

#### 手順

IP SLA モニタリング ポリシーの設定

slaPort="0" slaType="icmp"/>

</imdata>

# REST API を使用した IP-SLA トラック メンバーの設定

REST API を使用して IP SLA トラック メンバーを設定するには、次の手順を実行します。

手順

IP SLA トラック メンバーを設定します。

#### 例:

# REST API を使用した IP-SLA トラック リストの設定

REST API を使用して IP SLA トラック リストを設定するには、次の手順を実行します。

手順

IP SLA トラック リストを設定します。

### REST API を使用したスタティック ルートとトラック リストの関連付け

REST API を使用して IP SLA トラック リストをスタティック ルートに関連付けるには、次の 手順を実行します。

#### 手順

IP SLA トラック リストをスタティック ルートに関連付けます。

#### 例:

# REST API を使用して ネクスト ホップ プロファイルのトラック リストに関連付けをする

REST API を使用して IP SLA トラック リストをネクスト ホップ プロファイルに関連付けるに は、次の手順を実行します。

#### 手順

IP SLA トラック リストをネクスト ホップ プロファイルに関連付けます。

#### 例:

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<imdata totalCount="1">
<ipRouteP aggregate="no" annotation="" descr=""
```

dn="uni/tn-t8/out-t8 13/lnodep-t8 13 vpc1/rsnodeL3OutAtt-[topology/pod-2/node-109]/rt-[86.86.86.2/24]"

</ipRouteP>

</imdata>

# REST API を使用した HSRP の設定

# REST API を使用した APIC 内の HSRP の設定

リーフスイッチが設定されている場合、HSRP が有効になっています。

#### 始める前に

- テナントおよび VRF を設定する必要があります。
- VLAN プールは、適切な VLAN 範囲が定義され、レイヤ3ドメインが作成されて VLAN プールに接続されている状態で設定される必要があります。
- エンティティプロファイルの接続も、レイヤ3ドメインに関連付けられている必要があります。
- リーフスイッチのインターフェイスプロファイルは必要に応じて設定する必要があります。

#### 手順

ステップ1 ポートセレクタを作成します。

```
<polUni>
  <infraInfra dn="uni/infra">
   <infraNodeP name="TenantNode 101">
      <infraLeafS name="leafselector" type="range">
        <infraNodeBlk name="nodeblk" from ="101" to ="101">
            </infraNodeBlk>
     </infraLeafS>
     <infraRsAccPortP tDn="uni/infra/accportprof-TenantPorts 101"/>
   </infraNodeP>
   <infraAccPortP name="TenantPorts 101">
      <infraHPortS name="portselector" type="range">
        <infraPortBlk name="portblk" fromCard="1" toCard="1" fromPort="41" toPort="41">
            </infraPortBlk>
       <infraRsAccBaseGrp tDn="uni/infra/funcprof/accportgrp-TenantPortGrp 101"/>
     </infraHPortS>
   </infraAccPortP>
   <infraFuncP>
      <infraAccPortGrp name="TenantPortGrp_101">
       <infraRsAttEntP tDn="uni/infra/attentp-AttEntityProfTenant"/>
        <infraRsHIfPol tnFabricHIfPolName="default"/>
     </infraAccPortGrp>
   </infraFuncP>
  </infraInfra>
</polUni>
```

```
ステップ2 テナントポリシーを作成します。
```

#### 例:

```
<polUni>
 <fvTenant name="t9" dn="uni/tn-t9" descr="">
   <fvCtx name="t9 ctx1" pcEnfPref="unenforced">
   </fvCtx>
   <fvBD name="t9 bd1" unkMacUcastAct="flood" arpFlood="yes">
     <fvRsCtx tnFvCtxName="t9 ctx1"/>
     <fvSubnet ip="101.9.1.1/24" scope="shared"/>
   </fvBD>
   <l3extLNodeP name="Node101">
       <l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="210.210.121.121" rtrIdLoopBack="no"
tDn="topology/pod-1/node-101"/>
     </l3extLNodeP>
     <l3extRsEctx tnFvCtxName="t9 ctx1"/>
     <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/l3dom-dom1"/>
     <l3extInstP matchT="AtleastOne" name="extEpg" prio="unspecified"
targetDscp="unspecified">
       <l3extSubnet aggregate="" descr="" ip="176.21.21.21/21" name=""
scope="import-security"/>
     </l3extInstP>
   </l3extOut>
 </fvTenant>
</polUni>
```

ステップ3 LLDP インターフェイス ポリシーを作成します。.

#### 例:

```
<polUni>
<fvTenant name="t9" dn="uni/tn-t9" descr="">
<hsrpIfPol name="hsrpIfPol" ctrl="bfd" delay="4" reloadDelay="11"/>
</fvTenant>
</polUni>
```

ステップ4 HSRP グループ ポリシーを作成します。.

#### 例:

```
<polUni>
<fvTenant name="t9" dn="uni/tn-t9" descr="">
<hsrpIfPol name="hsrpIfPol" ctrl="bfd" delay="4" reloadDelay="11"/>
</fvTenant>
</polUni>
```

ステップ5 HSRP インターフェイス プロファイルおよび HSRP グループ プロファイルを作成します。

```
<polUni>
<fvTenant name="t9" dn="uni/tn-t9" descr="">
<l3extOut dn="uni/tn-t9/out-l3extOut1" enforceRtctrl="export" name="l3extOut1">
<l3extLNodeP name="Nodel01">
<l3extLIfP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
<lsextLIfP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLIfP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLIfP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLNoteP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLNoteP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLIfP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLIfP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLNoteP name="eth1-41-v6" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
</lsextLIfP name="eth
```

<l3extRsPathL3OutAtt addr="2002::100/64" descr="" encap="unknown" encapScope="local" ifInstT="l3-port" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit" tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/41]" targetDscp="unspecified"> <l3extIp addr="2004::100/64"/> </l3extRsPathL3OutAtt> </l3extLIfP> <l3extLIfP name="eth1-41-v4" ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green"> <hsrpIfP name="eth1-41-v4" version="v1"> <hsrpRsIfPol tnHsrpIfPolName="hsrpIfPol"/> <hsrpGroupP descr="" name="HSRPV4-2" groupId="51" groupAf="ipv4"</pre> ip="177.21.21.21" mac="00:00:0C:18:AC:01" ipObtainMode="admin"> <hsrpRsGroupPol tnHsrpGroupPolName="G1"/> </hsrpGroupP> </hsrpIfP> <l3extRsPathL3OutAtt addr="177.21.21.11/24" descr="" encap="unknown" encapScope="local" ifInstT="l3-port" llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF" mode="regular" mtu="inherit" tDn="topology/pod-1/paths-101/pathep-[eth1/41]" targetDscp="unspecified"> <l3extIp addr="177.21.23.11/24"/> </l3extRsPathL3OutAtt> </l3extLIfP> </l3extLNodeP> </l3extOut> </fvTenant> </polUni>

# **REST API** を使用した Cisco ACI GOLF の設定

### REST API を使用した GOLF の設定

手順

ステップ1 次の例では、REST APIを使用して GOLF のノードおよびスパイン スイッチインターフェイス を展開する方法を示しています。

#### 例:

```
POST https://192.0.20.123/api/mo/uni/golf.xml
```

**ステップ2** 次の XML で、スパイン スイッチ インターフェイスと GOLF サービスのインフラ テナント プロバイダを設定します。次の XML 構造を POST メッセージの本文に含めます。

```
tDn="topology/pod-1/node-111">
    <l3extInfraNodeP descr="" fabricExtCtrlPeering="yes" name=""/>
    <l3extLoopBackIfP addr="10.10.3.3" descr="" name=""/>
</l3extRsNodeL3OutAtt>
<l3extRsNodeL3OutAtt rtrId="10.10.3.4" rtrIdLoopBack="no"
    tDn="topology/pod-1/node-112">
<l3extInfraNodeP descr="" fabricExtCtrlPeering="yes" name=""/>
<l3extLoopBackIfP addr="10.10.3.4" descr="" name=""/>
</l3extRsNodeL3OutAtt>
ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
    <ospfIfP authKeyId="1" authType="none" descr="" name="">
      <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
    </ospfIfP>
    <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
    <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
    <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
    <l3extRsPathL3OutAtt addr="7.2.1.1/24" descr=""
       encap="vlan-4"
       encapScope="local"
       ifInstT="sub-interface"
       llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
      mode="regular"
      mtu="1500"
       tDn="topology/pod-1/paths-111/pathep-[eth1/12]"
       targetDscp="unspecified"/>
 </l3extLIfP>
 <l3extLIfP descr="" name="portIf-spine2-1"
     ownerKey=""
     ownerTag=""
     tag="yellow-green">
     <ospfIfP authKeyId="1"
          authType="none"
          descr=""
         name="">
          <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
     </ospfIfP>
     <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
     <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
     <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
     <l3extRsPathL3OutAtt addr="7.1.0.1/24" descr=""
          encap="vlan-4"
          encapScope="local"
          ifInstT="sub-interface"
          llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
          mode="regular"
         mtu="9000"
          tDn="topology/pod-1/paths-112/pathep-[eth1/11]"
          targetDscp="unspecified"/>
  </l3extLIfP>
  <l3extLIfP descr="" name="portif-spine2-2"
    ownerKey=""
    ownerTag=""
     tag="yellow-green">
     <ospfIfP authKeyId="1"</pre>
          authType="none" descr=""
          name="">
          <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
    </ospfIfP>
    <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
    <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
    <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
    <l3extRsPathL3OutAtt addr="7.2.2.1/24" descr=""
```

```
encap="vlan-4"
```

```
encapScope="local"
      ifInstT="sub-interface"
             llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
             mode="regular"
            mtu="1500"
             tDn="topology/pod-1/paths-112/pathep-[eth1/12]"
             targetDscp="unspecified"/>
</l3extLIfP>
<l3extLIfP descr="" name="portIf-spine1-2"
     ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
     <ospfIfP authKeyId="1" authType="none" descr="" name="">
          <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
     </ospfIfP>
     <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
     <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
     <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
     <l3extRsPathL3OutAtt addr="9.0.0.1/24" descr=""
      encap="vlan-4"
      encapScope="local"
      ifInstT="sub-interface"
           llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
           mode="regular"
           mtu="9000"
           tDn="topology/pod-1/paths-111/pathep-[eth1/11]"
           targetDscp="unspecified"/>
</l3extLIfP>
<l3extLIfP descr="" name="portIf-spine1-1"
      ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green">
      <ospfIfP authKeyId="1" authType="none" descr="" name="">
           <ospfRsIfPol tnOspfIfPolName="ospfIfPol"/>
      </ospfIfP>
      <l3extRsNdIfPol tnNdIfPolName=""/>
      <l3extRsIngressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
      <l3extRsEgressQosDppPol tnQosDppPolName=""/>
      <l3extRsPathL3OutAtt addr="7.0.0.1/24" descr=""
       encap="vlan-4"
       encapScope="local"
        ifInstT="sub-interface"
       llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
       mode="regular"
       mtu="1500"
        tDn="topology/pod-1/paths-111/pathep-[eth1/10]"
             targetDscp="unspecified"/>
</l3extLTfP>
<bgpInfraPeerP addr="10.10.3.2"
  allowedSelfAsCnt="3"
  ctrl="send-com, send-ext-com"
  descr="" name="" peerCtrl=""
  peerT="wan"
   privateASctrl="" ttl="2" weight="0">
   <bgpRsPeerPfxPol tnBgpPeerPfxPolName=""/>
   <bgpAsP asn="150" descr="" name="aspn"/>
</bopInfraPeerP>
<bgpInfraPeerP addr="10.10.4.1"
  allowedSelfAsCnt="3"
  ctrl="send-com, send-ext-com" descr="" name="" peerCtrl=""
   peerT="wan"
   privateASctrl="" ttl="1" weight="0">
   <bgpRsPeerPfxPol tnBgpPeerPfxPolName=""/>
   <bgpAsP asn="100" descr="" name=""/>
 </bgpInfraPeerP>
<bgpInfraPeerP addr="10.10.3.1"
   allowedSelfAsCnt="3"
   ctrl="send-com, send-ext-com" descr="" name="" peerCtrl=""
```

```
peerT="wan"
                privateASctrl="" ttl="1" weight="0">
                <br/><bgpRsPeerPfxPol tnBgpPeerPfxPolName=""/>
                <bgpAsP asn="100" descr="" name=""/>
             </bgpInfraPeerP>
       </l3extLNodeP>
      <bgpRtTargetInstrP descr="" name="" ownerKey="" ownerTag="" rtTargetT="explicit"/>
       <l3extRsL3DomAtt tDn="uni/13dom-13dom"/>
       <l3extInstP descr="" matchT="AtleastOne" name="golfInstP"
                 prio="unspecified"
                 targetDscp="unspecified">
                 <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
        </l3extInstP>
        <bgpExtP descr=""/>
        <ospfExtP areaCost="1"</pre>
               areaCtrl="redistribute, summary"
               areaId="0.0.0.1"
               areaType="regular" descr=""/>
</l3extOut>
```

- ステップ3 次の XML で、GOLF サービスのインフラ部分のテナント コンシューマを設定します。次の XML 構造を POST メッセージの本文に含めます。

```
<fvTenant descr="" dn="uni/tn-pep6" name="pep6" ownerKey="" ownerTag="">
     <vzBrCP descr="" name="webCtrct"
         ownerKey="" ownerTag="" prio="unspecified"
          scope="global" targetDscp="unspecified">
          <vzSubj consMatchT="AtleastOne" descr=""
               name="http" prio="unspecified" provMatchT="AtleastOne"
               revFltPorts="yes" targetDscp="unspecified">
               <vzRsSubjFiltAtt directives="" tnVzFilterName="default"/>
          </vzSubj>
      </vzBrCP>
      <vzBrCP descr="" name="webCtrct-pod2"
           ownerKey="" ownerTag="" prio="unspecified"
           scope="global" targetDscp="unspecified">
           <vzSubj consMatchT="AtleastOne" descr=""
                name="http" prio="unspecified"
                provMatchT="AtleastOne" revFltPorts="yes"
                targetDscp="unspecified">
                <vzRsSubjFiltAtt directives=""
                      tnVzFilterName="default"/>
           </vzSubj>
       </vzBrCP>
       <fvCtx descr="" knwMcastAct="permit"
            name="ctx6" ownerKey="" ownerTag=""
            pcEnfDir="ingress" pcEnfPref="enforced">
            <bgpRtTargetP af="ipv6-ucast"
                 descr="" name="" ownerKey="" ownerTag="">
                 <bgpRtTarget descr="" name="" ownerKey="" ownerTag=""</pre>
                 rt="route-target:as4-nn2:100:1256"
                 type="export"/>
                 <bgpRtTarget descr="" name="" ownerKey="" ownerTag=""
                      rt="route-target:as4-nn2:100:1256"
                      type="import"/>
            </bgpRtTargetP>
            <bgpRtTargetP af="ipv4-ucast"
                 descr="" name="" ownerKey="" ownerTag="">
                 <bgpRtTarget descr="" name="" ownerKey="" ownerTag=""</pre>
                      rt="route-target:as4-nn2:100:1256"
```

```
type="export"/>
          <bgpRtTarget descr="" name="" ownerKey="" ownerTag=""
              rt="route-target:as4-nn2:100:1256"
              type="import"/>
    </bgpRtTargetP>
     <fvRsCtxToExtRouteTagPol tnL3extRouteTagPolName=""/>
    <fvRsBgpCtxPol tnBgpCtxPolName=""/>
    <vzAny descr="" matchT="AtleastOne" name=""/>
    <fvRsOspfCtxPol tnOspfCtxPolName=""/>
    <fvRsCtxToEpRet tnFvEpRetPolName=""/>
    <l3extGlobalCtxName descr="" name="dci-pep6"/>
</fvCtx>
<fvBD arpFlood="no" descr="" epMoveDetectMode=""
    ipLearning="yes"
    limitIpLearnToSubnets="no"
    llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
    mcastAllow="no"
    multiDstPktAct="bd-flood"
    name="bd107" ownerKey="" ownerTag="" type="regular"
    unicastRoute="yes"
    unkMacUcastAct="proxy"
    unkMcastAct="flood"
    vmac="not-applicable">
    <fvRsBDToNdP tnNdIfPolName=""/>
    <fvRsBDToOut tnL3extOutName="routAccounting-pod2"/>
    <fvRsCtx tnFvCtxName="ctx6"/>
    <fvRsIgmpsn tnIgmpSnoopPolName=""/>
    <fvSubnet ctrl="" descr="" ip="27.6.1.1/24"
         name="" preferred="no"
         scope="public"
         virtual="no"/>
          <fvSubnet ctrl="nd" descr="" ip="2001:27:6:1::1/64"
              name="" preferred="no"
               scope="public"
              virtual="no">
               <fvRsNdPfxPol tnNdPfxPolName=""/>
          </fvSubnet>
          <fvRsBdToEpRet resolveAct="resolve" tnFvEpRetPolName=""/>
</fvBD>
<fvBD arpFlood="no" descr="" epMoveDetectMode=""
    ipLearning="yes"
    limitIpLearnToSubnets="no"
    llAddr="::" mac="00:22:BD:F8:19:FF"
    mcastAllow="no"
    multiDstPktAct="bd-flood"
    name="bd103" ownerKey="" ownerTag="" type="regular"
    unicastRoute="yes"
    unkMacUcastAct="proxy"
    unkMcastAct="flood"
    vmac="not-applicable">
    <fvRsBDToNdP tnNdIfPolName=""/>
    <fvRsBDToOut tnL3extOutName="routAccounting"/>
    <fvRsCtx tnFvCtxName="ctx6"/>
    <fvRsIgmpsn tnIgmpSnoopPolName=""/>
    <fvSubnet ctrl="" descr="" ip="23.6.1.1/24"
          name="" preferred="no"
         scope="public"
         virtual="no"/>
     <fvSubnet ctrl="nd" descr="" ip="2001:23:6:1::1/64"
         name="" preferred="no"
          scope="public" virtual="no">
          <fvRsNdPfxPol tnNdPfxPolName=""/>
     </fvSubnet>
     <fvRsBdToEpRet resolveAct="resolve" tnFvEpRetPolName=""/>
```

```
</fvBD>
<vnsSvcCont/>
<fvRsTenantMonPol tnMonEPGPolName=""/>
<fvAp descr="" name="AP1"
    ownerKey="" ownerTag="" prio="unspecified">
     <fvAEPg descr=""
          isAttrBasedEPg="no"
          matchT="AtleastOne"
          name="epg107"
          pcEnfPref="unenforced" prio="unspecified">
          <fvRsCons prio="unspecified"
               tnVzBrCPName="webCtrct-pod2"/>
          <fvRsPathAtt descr=""
               encap="vlan-1256"
               instrImedcy="immediate"
               mode="regular" primaryEncap="unknown"
               tDn="topology/pod-2/paths-107/pathep-[eth1/48]"/>
          <fvRsDomAtt classPref="encap" delimiter=""
               encap="unknown"
               instrImedcy="immediate"
               primaryEncap="unknown"
               resImedcy="lazy" tDn="uni/phys-phys"/>
          <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
          <fvRsBd tnFvBDName="bd107"/>
          <fvRsProv matchT="AtleastOne"
               prio="unspecified"
               tnVzBrCPName="default"/>
     </fvAEPg>
     <fvAEPg descr=""
          isAttrBasedEPg="no"
          matchT="AtleastOne"
         name="epg103"
          pcEnfPref="unenforced" prio="unspecified">
          <fvRsCons prio="unspecified" tnVzBrCPName="default"/>
          <fvRsCons prio="unspecified" tnVzBrCPName="webCtrct"/>
          <fvRsPathAtt descr="" encap="vlan-1256"
               instrImedcy="immediate"
               mode="regular" primaryEncap="unknown"
               tDn="topology/pod-1/paths-103/pathep-[eth1/48]"/>
               <fvRsDomAtt classPref="encap" delimiter=""
                    encap="unknown"
                    instrImedcy="immediate"
                    primaryEncap="unknown"
                    resImedcy="lazy" tDn="uni/phys-phys"/>
               <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
               <fvRsBd tnFvBDName="bd103"/>
     </fvAEPq>
</fvAp>
<l3extOut descr=""
    enforceRtctrl="export"
    name="routAccounting-pod2"
    ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified">
     <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx6"/>
     <l3extInstP descr=""
          matchT="AtleastOne"
          name="accountingInst-pod2"
          prio="unspecified" targetDscp="unspecified">
     <l3extSubnet aggregate="export-rtctrl,import-rtctrl"
          descr="" ip="::/0" name=""
          scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"/>
     <l3extSubnet aggregate="export-rtctrl,import-rtctrl"
          descr=""
          ip="0.0.0.0/0" name=""
          scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"/>
```

```
<fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
            <fvRsProv matchT="AtleastOne"
                prio="unspecified" tnVzBrCPName="webCtrct-pod2"/>
            </l3extInstP>
            <l3extConsLbl descr=""
                name="golf2"
                 owner="infra"
                 ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green"/>
       </l3extOut>
       <l3extOut descr=""
            enforceRtctrl="export"
            name="routAccounting"
            ownerKey="" ownerTag="" targetDscp="unspecified">
            <l3extRsEctx tnFvCtxName="ctx6"/>
            <l3extInstP descr=""
                matchT="AtleastOne"
                 name="accountingInst"
                 prio="unspecified" targetDscp="unspecified">
            <l3extSubnet aggregate="export-rtctrl, import-rtctrl" descr=""
                ip="0.0.0/0" name=""
                 scope="export-rtctrl,import-rtctrl,import-security"/>
            <fvRsCustQosPol tnQosCustomPolName=""/>
            <fvRsProv matchT="AtleastOne" prio="unspecified" tnVzBrCPName="webCtrct"/>
            </l3extInstP>
            <l3extConsLbl descr=""
                name="golf"
                 owner="infra"
                 ownerKey="" ownerTag="" tag="yellow-green"/>
       </l3extOut>
</fvTenant>
```

### **REST API** を使用した DCIG への BGP EVPN タイプ2ホスト ルート配信の有効化

次のように REST API を使用して、BGP EVPN タイプ2ホストルートの配信を有効にします。

#### 始める前に

EVPN サービスを設定する必要があります。

#### 手順

ステップ1 次の例のように、XML が含まれている POST で、ホスト ルート リーク ポリシーを設定します。

#### 例:

<bgpCtxAfPol descr="" ctrl="host-rt-leak" name="bgpCtxPol 0 status=""/>

**ステップ2**次の例のように、XML が含まれている POST を使用してアドレス ファミリの一方または両方の VRF BGP アドレス ファミリ コンテキスト ポリシーに、ポリシーを適用します。

```
<fvCtx name="vni-10001">
<fvRsCtxToBgpCtxAfPol af="ipv4-ucast" tnBgpCtxAfPolName="bgpCtxPol 0"/>
```

<fvRsCtxToBgpCtxAfPol af="ipv6-ucast" tnBgpCtxAfPolName="bgpCtxPol_0"/> </fvCtx>

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。

リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変 更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては 、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている 場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容につい ては米国サイトのドキュメントを参照ください。